紙のプロレス RADICAL

1999 20

ヒクソン、ホイス、山本宜久——
人間UFO、吠えまくる！
小川直也

ド衝撃の独占公開インタビュー！
前田日明

『PRIDE.7』で激突！
見えるか新宇宙!!
髙田延彦 VS アレクサンダー大塚

格闘聖地・シアトル独占取材
山本宜久
成瀬昌由
小路晃&宇野薫

祝！UFC完勝独占告白
髙阪剛

みちプロ&バトラーツ
究極のリポート対決！

紙プロ流・WWF講座

語ろう！ 藤波辰爾

第2弾！ ドン荒川

佐山聡とは何か？

『紙プロ』VS『激本』リアル・リポート!!

バス・ルッテン

山川竜司&本間朋晃

20号記念特大号!!
20世紀で一番ブ厚いプロレス雑誌出現!!

「モノ」から「ヒト」の時代へ——
英雄、出てこ〜ひ!!

紙のプロレス RADICAL no.20
のどっちを取るんだ！

発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

いよいよグランドフィナーレ!! この過激さではあと3回ある講座が1回でおわってしまう

紙のプロレスプロデュース

青空プロレス道場

9/8 wed

超毒舌!! 女子プロレスを10倍楽しく見る方法

強いからこそ言いたい放題!!

全女分裂、松永家、他団体のことまであらゆることを語り尽くす!!

この2人の全開毒舌トークで女子プロレスの見方が変わる!!

講師

W井上

井上貴子（フリー）

井上京子（ネオレディース）

PHOTO:北岡一浩

超豪華ゲスト&本誌編集部のスタッフがプロレスのツボを教えます

世間と、そしてプロレス業界とプロレスし続ける、孤高のドンキホーテ雑誌『紙プロRADICAL』が送る、門外不出のガチンコトーク・バトルが帰ってきた!! アッと驚く超一流のプロレスラーor格闘家（たまには超一流じゃない人も来ますが）を講師に招いて、プロレスの表と裏を語り尽くします!!

さて、次回9月8日（水）は講師に、過去数々のトラブルを起こしてきた危険なコンビ・W井上（井上京子&井上貴子）がやってくる! 見事に復活したNO.1タッグチームが、女子プロレスをブッた斬る! 他では絶対聞けない危険なトークまで飛び出すので、心臓の弱い方はお気をつけください!! この2人の歯に衣着せぬカッコいいトークを間近で聞けば、女子プロレスに偏見をお持ちのアナタでも惚れてしまうはず! いますぐ申し込め! そして惚れろ!

［青空プロレスの道場申込み方法］

池袋コミュニティ・カレッジ8F総合受付にて受け付けます。申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきますので、申込みはお早めに! 受付時間は10:00〜18:20（日曜日は18:00まで。祝祭日は休館）

■日時　第2、第4水曜日18:30〜20:30

■受講料　1回券　3500円（消費税別）

※8月25日（水）の講座が延期になりました。振替日は下記までお問い合わせください

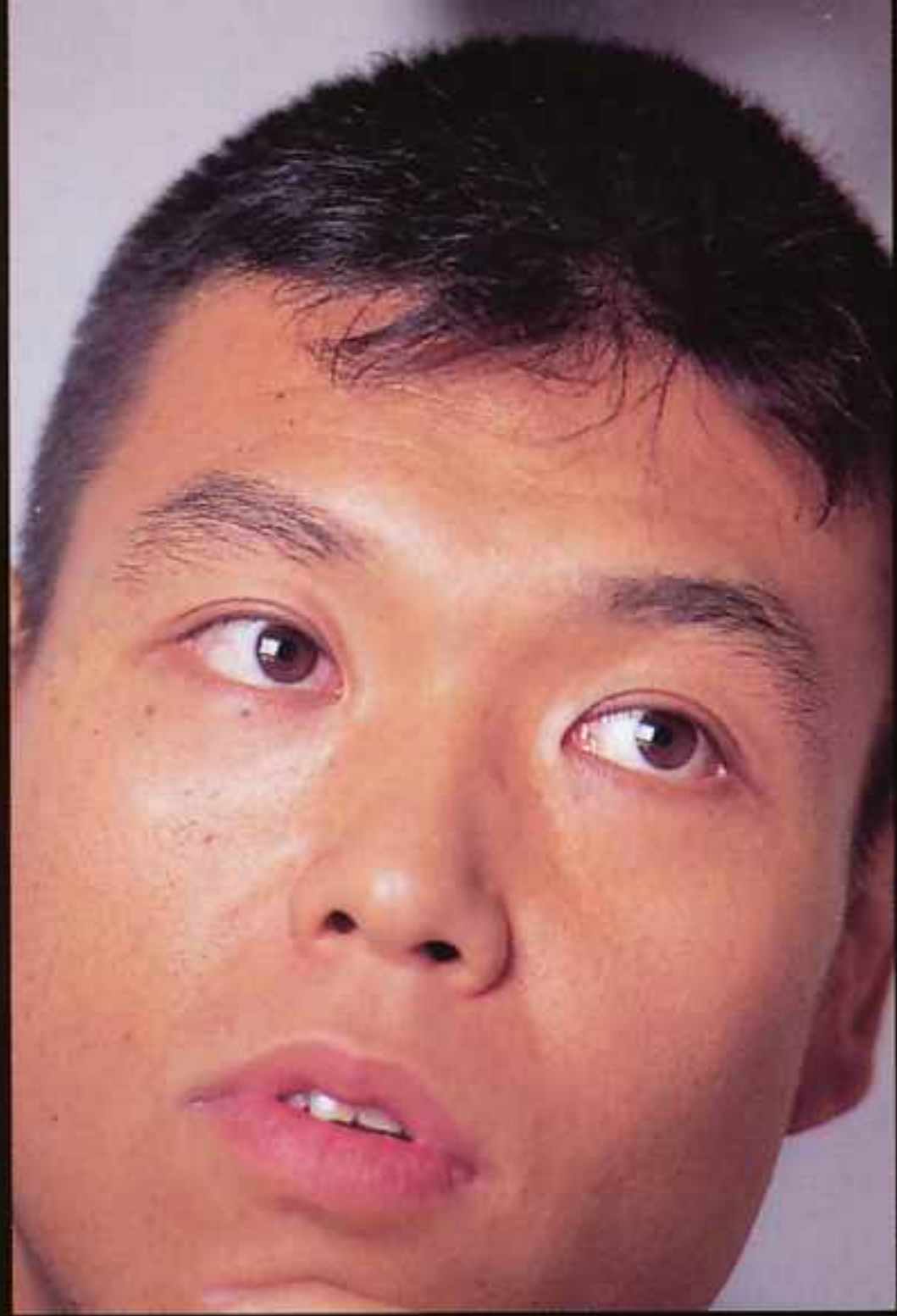
9月22日（水）の青空プロレス道場にはあの超大物がやってくる!

いまは言えないが、こんな贅沢な空間があっていいのか? というぐらいゴージャスなあの方がいらっしゃいます! 決まり次第、首都圏の会場前でビラを撒くので、お楽しみに〜。なお、問い合わせは下記までお願いします

【すべてのお問い合せ先】池袋コミュニティ・カレッジ　TEL.03-3988-9281
（受付時間10:00〜18:20　日曜日は18:00まで。祝祭日は休館）

オーちゃん、吠えまくる!!

「会長（猪木）は『小川は天狗だ』って言ってました」

「『小川はヒクソンにビビってる』ぐらいに思われとかないとね（笑）」

〈前田日明の「チキン」発言について〉
「だから何言っても結構なんだけど、それを選手が言えよと！引退して絶対にやらない人間が言ったたって価値を落とすだけ。だったら『やるのかよ！』って話でしょ？」

「ホイス？吠える奴は吠えろと！だから、吠えてきたら"ありがとう"と思わないと」

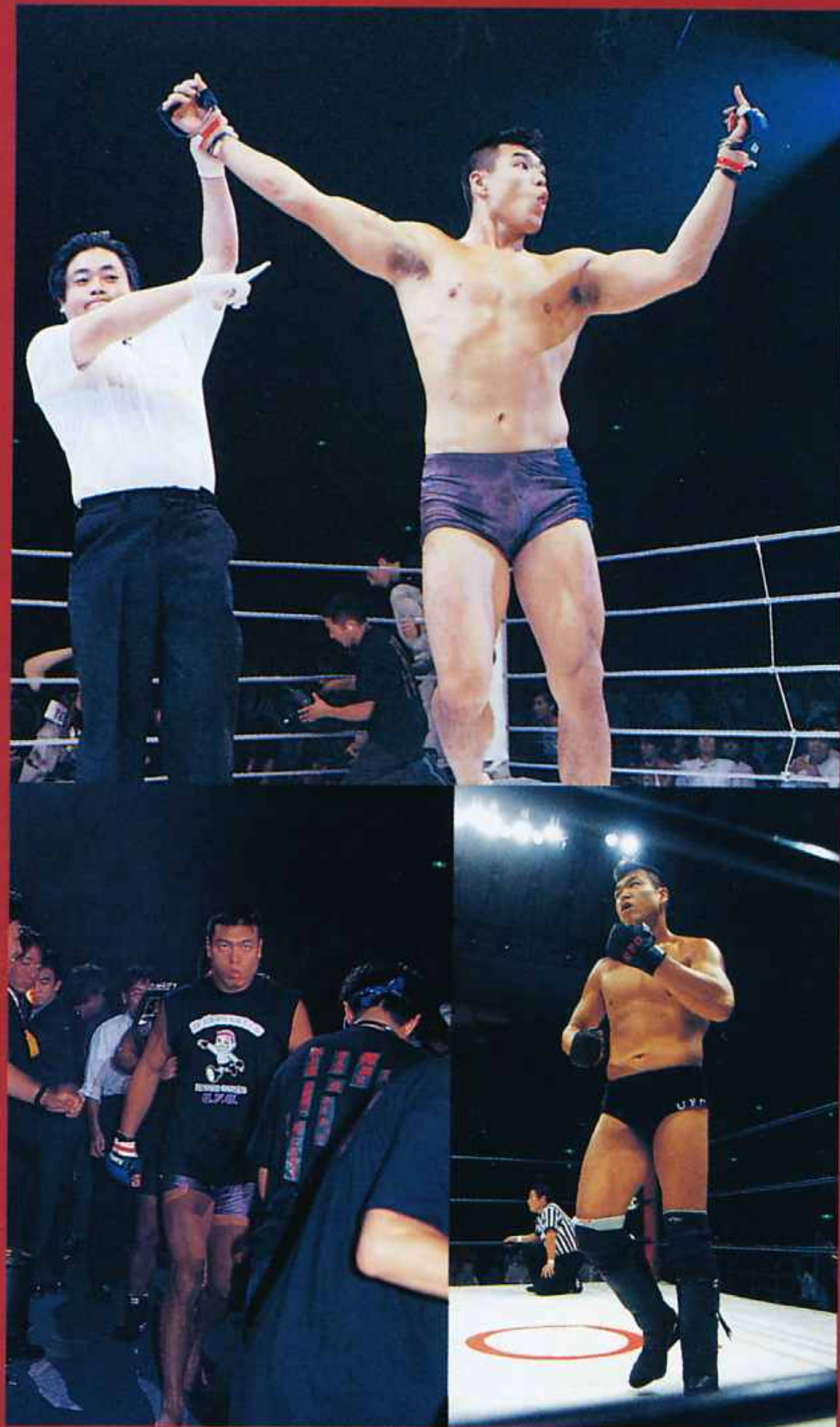
小川直也

独占超ロング・インタビュー！

オーちゃん、吠えまくる！　7・4『PRIDE．6』での劇的勝利、山本宜久戦の延期、モンゴルへの発進、北朝鮮へのUFOテポドン発射、噂される新日本or『PRIDE』への再襲撃——!!　「英雄不在の時代」のいま〝英雄〟という名の星の下に生まれてきた男・小川直也の周辺には、幸か不幸か常に物騒な話題が巻き起こる！　次にオーちゃんの〝人間力〟と〝底力〟&〝飛びっぷり〟が爆発するリング出てこ〜ひ!?

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

試合写真／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

——ズバリ聞きます！　小川さん、引退するんですか？

小川　オイオイオイオイ、ちょっと待ってくださ〜い。

——ビックリしましたよ、「小川引退危機」（『週刊ファイト8／19号』）って書いてあるんで（笑）。

小川　『ファイト』もなかなか、いいネタ提供してくれるよね。すごい思いきったネタだよね（笑）。

——飛ばしすぎにも程がある？

小川　いや、飛ばしすぎも何も、素晴らしいですよ、『ファイト』さんは!!（笑）。

——ガハハ！「ビバ！『ファイト』!!」（笑）。

小川　でも記事は読まないようにしてる。こういう記事読むと萎えちゃうんで。

——萎えないでくださいよ、この程度のことで（笑）。

小川　まあ萎えるっていうか、「あ〜、めんどくせえ」って感じだけどね（笑）。

——この号は他にも「UFO空中分解か」「法人登記ももはや幽霊会社」「社員はもはや一人」とか凄いじゃないですか（笑）。マジで心配してるファンもいますよ。

小川　よっぽど書くことなかったんじゃないの？　というか、『ファイト』も『ゴング』系に行っちゃったのかなぁ。あ、こういうこと言っちゃいけねぇか（笑）。

——ガハハハハ！「ビバ！　ゴング!!」。

小川　でも面白いですよ。よくこんな記事引っ張り出してきたなと。

——そこで「面白い」って言えちゃうところが面白いですね（笑）。

小川　だって引退も何もさぁ、身体が丈夫であれば、ほら、無事是名馬ってね。どんな名馬でも足を折ったら終わりじゃないですか。だから駄馬でもいいから、たくましく走ればいいと。

——でも、そういう小川選手も拳を痛めちゃいましたよね。

小川　あ〜、これ、なかなか治んないから頭にきてんですよ！　まだ腫れてるよ!!

——その左拳負傷によって山本宜久戦が流れたわけだけど、その話をする前に、まず7・4の『PRIDE．6』、ゲーリー・グッドリッジ戦の話をしましょう。

小川　例えば、『インディージョーンズ』みたいな映画でさ、立ってるところは崖っぷちに見えるんだけど、本当はその先に透明の道があってね。「押さないでくれ〜」って思いながらも、みんなに後押ししてもらって、勇気を出してひと足踏み出したら、そこに〝道〟

Who's Real Hero?

リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!

「〝悪者〟を選ぶか
〝いい子〟になるか。
そうなると
悪者を選んだ方が
ラクですよ!」

Naoya Ogawa

があったっていう感じかな。

——小川直也にとっての『PRIDE.6』は『インディージョーンズ』でしたか！　左肩……首でしたっけ？　怪我してたんですよね（6・29UFO大阪大会のゲーリー・スティール戦で負傷）。当日はまだ痺れはあったんですか？

小川　痺れはなかったんだけど、なんとかできるって感じでしたね。

——なんとかできる状態での勝利から約1ヶ月半経ちましたけど、グッドリッジ戦をいま振り返ってみるとどうですか？

小川　試合前日にビデオを見たんですよ、（グッドリッジの）試合の。ほら、ああいう映像っていいとこばっかじゃない。村上（一成）選手とか、みんな見ててシーンとしてましたよ。あの（オレッグ・）タクタロフがグターッとなった瞬間（97・10・11『PRIDE.1』）、「えっ、コイツが相手？」みたいなね。俺も〝明日のタクタロフは俺かもしれない〟な〜んて思ってね（笑）。

——とかなんとか言いながらも、不敵な笑みを浮かべてたんじゃないでしょうね（笑）。でもファンの中にも、〝もしも小川がタクタロフみたいになったらどうしよう〟っていう思いが隅っこにあって、あの地から湧き出るような声援に繋がったと思うんですよ。序盤は正直言ってヒヤヒヤしたし。

小川　いま思うと、〝やばかったかなあ〟ってね。最初に一発、目に入れられて頭ホァンホァンしながら闘ってたから（笑）。ゲーリーのパンチはボクシングのパンチじゃないからね。上からブンブン飛んでくるっていうか、振り回すから、突然目の前に来る。だから「来た！」って思ったら、もう目の前に来てるんですよ。あれには戸惑ったね。

——闘ってる最中に恐怖感はあった？

小川　まあ、試合前は恐怖感は誰にでもあるでしょう。同じ人間なんだから。でも、試合になればね。だけど、ゲーリーはホントいいキャラですよ！　プロレスの世界になくてはならないものだよ、ああいう存在は。おまけに（6・29UFOの）大阪まで来てくれちゃうし（笑）。

——いま、どっかの誰かさんと違ってとか思いませんでした？

小川　思いました〜（笑）。どっちがプロレスラーなんだ？って思うよ、ホントに。ねえ？　でも嬉しかったッスよ。UFOの大阪も話題的に厳しいものがあったから、ゲーリーが来てくれて助かりましたよ。

——しかもUFOの大阪大会は『PRIDE.6』の5日前。そういう意味では、ゲーリーはプロフェッショナルですよね。

小川　そう！　彼こそプロレスラーですよ！　俺はああいう『PRIDE』という場でも「プロレス」をやりたかったんだから!!　でも、〝来てくれてありがとう〟とは思ったものの、なんかゲーリーが英語でまくしたててたことを、あとで通訳で聞いたら、俺のことを「ネンネ」って言ってやがったから、「コノヤロー」って思ってね。握手するときに手をパーンッてはじかれた時にも「今度、殺してやるぜ！」とか言ってたらしくて（笑）。でも、こういうのは面白いよ！

——グッドリッジ戦後の「バーリトゥード、バーリトゥードって騒ぐけど、俺の中では全部プロレス」っていう小川さんの言葉は、実にファンの溜飲を下げましたよね。

小川　だって、やってることはプロレスと変わりないはずだから！

——小川さんの中で、ゲーリー戦までの流れを「面白いもの」だとすると、一連の山本戦問題の流れは「面白くなかった」わけですか？

小川　やっぱプロなんだから、ただ「やります」って言って試合やるだけじゃね。ボクシングだって、例えば辰吉（丈一郎）と薬師寺（保栄）だって試合前に言い合ったりしてるし、ああいうのはプロの格闘家には必要でしょ。やること（試合）は変わんないんだからさぁ。やるんだったら、もっとスパイスを入れたりとかすりゃあいいじゃねえかって話ですよ。例えばソバを食べるのでも、それだけだと味気ないから薬味を入れようとか、七味を入れようとかあるでしょ。たまには玉子とか、かき揚げまで入れちゃうとか、そういうことですよ。

——入れすぎてソバが見えなくなっちゃったりして（笑）。

小川　いや、むしろ見えなくなるぐらい盛り上げたい！　で〝一体ソバはどこにあるんだろう、ソバにたどり着けねえゾ〟とか。そういうのも面白いでしょ（笑）。

——ガハハハハ！　それもある種の猪木イズムかもしれないなぁ。でも「プロ」という点で言うなら、山本選手からは「高校球児

「小川引退危機」——戦慄的見出しの『週刊ファイト8／19号』を持った「いやぁ困ったバージョン」のオーちゃん（写真右）翌週には「引退危機回避？」とニュアンスが変わった。●「UFO事務所はもぬけの殻」という一文に村上一成も怒りの表情を露にした。飛ばせファイト！　VIVA、ファイト!!（写真左）

『PRIDE.6』での決戦5日前。6・29のUFO大阪大会に乗り込んだグッドリッジは、小川を挑発三昧！　ここからオーちゃんの〝盛夏〟が始まった（撮影／モーリー）

言うだけ言って「お前行け！」じゃ選手がかわいそう。鉄砲玉じゃないんだから

みたいにベストコンディションでやりたいなんてフザけるな！　プロはなんらかのケガがあって当たり前」というような、痛烈な投げかけがありましたね。

小川　でも山本選手も、いま頃になってから吠えたってしょうがねーっつーの、ホントに。で、俺が反論した後は、またシーンってなっちゃってるからさ。リング上じゃないし、殺したり殺されるわけじゃないんだから、もっと言ってくれよ！ってね。

――もっと言ってくれ！（笑）。そういえば以前、猪木さんも政治家時代にデカいスキャンダルに巻き込まれたとき、「叩くんなら、もっと叩け‼」って言ってましたね（笑）。でもリングスは、従来のプロレスとは違うというところを出発点にしてるから、そういう舌戦やら盛り上げ方に追従するのはゴメンだというところがあるんでしょうね。

小川　でも、向こうの社長は、もうボロボロに言ってきますよね！

――はい。実にボロボロに（笑）。

小川　どっちが選手だかわかりゃしない。社長がしゃべるより選手にしゃべらせろって！　あ、選手がしゃべると、その選手が社長に怒られるのかな、デーンッて（笑）。

――どうでしょう（笑）。山本選手の投げかけに対して、東スポで「人間なんだから、痛いのを素直に痛いと言って何が悪い」とも言ってましたね（笑）。

小川　痛いもんは痛いんだから。記者に「書いてもいいんですか？」って言われたけど、「痛ェもんは痛ェんだからしょうがない。書け‼」って言っといたんですけどね。

――「書きやがれ‼」（笑）。いやぁ、小川さんって、実は人間だったんですね（笑）。

小川　実は人間です（笑）。ちゃんと人間として病院に診察受けに行ってますから。

――その人間と人間が闘って、そこにどんなリアリティーが立ち昇るかなんですよね。

小川　リング上では、許される殺し合いみたいなもんだからね。だから、そういうリングに上がる前くらいは、直接殺す殺さないじゃないんだから、もっと言ってくれよ！っていうこと（笑）。

――例えリアル・ファイトでもリアリティーが見えない試合もある。でも、もし小川さんと山本選手の闘いが実現してれば、「人としてのリアリティ」のせめぎ合いが見れただろうから、非常に残念ですね。

小川　だから8月に関しては、俺が悪かったなぁと思いますけど、山本選手とはこれからも言い争っていきたいと思いますよ（笑）。

――は？　言い争っていきたい？（笑）。

小川　ここのところ「山本戦頑張ってください」って言われることが多かったんで、あらためて、こんなに注目されてるんだなぁと思ってね。お客さんのニーズを考えたら無視できないな、と。

――前田日明社長とも交渉のテーブルに着いてますけど、前田さんの印象は？

小川　まだ選手でやった方がいいんじゃないかなぁ（苦笑）。

――ガハハハ！　選手以上のド迫力！　その前田さんが、あるイベントで小川さんの飛行機ポーズを「鷹の真似をしてるのかと思ったけど、違います。あれはチキンです！」と痛烈にかましてましたけど。

小川　だから何言っても結構なんだけど、それを選手が言えよと！　引退して絶対にやらない人間が言ったって価値が下がるだけでしょう。もうそこまでいったら選手だか経営者だかわかんないじゃないですか。だったらやるのかよ！って話でしょ？　ウチの会長（猪木）だったらやるかもしれないけどね（笑）。いまでも身体鍛えてるからさぁ。言うだけ言って、選手に「お前行け！」じゃかわいそうだよ。鉄砲玉じゃないんだから。

――で、山本戦はリングスの発表によると12月に延期ということなんですが。

小川　「リングスでリングスで」って言うんだけど、それって、なんかつまんないぞ、と。

――どういうことですか？

小川　だって12月っていうのは、あくまでリングス側の都合でしょ。でも俺からしたら、いちプロレスラー、いち格闘家として、リングスのリングじゃなくても全然いいはずじゃないかと思う。リングス（のリング）じゃなきゃいけないっていうのは、なんかご都合主義みたいでつまんないじゃない！　だから、どうせやるなら巌流島で暖かいうちにね。俺はいいけど、12月に巌流島だと寒いからかわいそうじゃないですか。

――なんでそこで相手の心配する（笑）。

小川　いやねぇ、〝あんな寒い所に引っぱり出しやがって〟って思われるのイヤじゃない。あと考えられるのは、場所は巌流島で、時と場所は相手に決めてもらうとかね。

――それで山本さんのセコンドには前田さんが付き、小川さんのセコンドには猪木さんが付くなんてことになったら、まさに血沸き肉踊りますよ。

小川　セコンドじゃなくて立会人だね。ノーレフェリーで！

――ゲ！　ノーレフェリー⁉

小川　もちろん‼

――凄い（笑）。

小川　目突きと金的と噛みつきなしでいいんじゃない。あとは、お互いのプライドがル

Naoya Ogawa

小川戦だけのために行ったわけではないものの、米・シアトルで山本宜久は鮮烈なる猛特訓に励んだ（写真右）●そして「延期」が発表された後、8・1に横浜で行われたCD発売記念イベントでは、前田日明リングス総帥の口から、衝撃の「小川はチキン発言」が飛び出すことになる！（写真左）

ール！
――小川さんとしては、マット界全体が活気づくことをやっていくのが一番だと。
小川　だってそうしないと面白くない！　なんのためにやってんのかって。リングスのためだけにやってんのかって。だからリングスの試合としてじゃなく、山本選手個人とやった方が面白いし、マット界も活性化するじゃない。
――マット界といえば、ウチで各団体の会場でファン約400人にアンケートを取ったんですよ（P42〜参照）。7月までの上半期MVPは、ダントツで小川さんでしたね。
小川　ホントに？　でも最終的にその年のMVPとか決めるのは記者でしょ？　だから結局はダメでしょう（笑）。
――ガハハハ！　いまからプロレス大賞はあきらめてると。ということは、小川さんは記者陣に嫌われてるんですか？（笑）。
小川　いや、嫌われてないんですよ！　少なくとも東スポのH記者には。でも、実は嫌われてないと思ってんのは俺だけで、ホントは嫌ってるのかもね。陰では（笑）。『紙プロ』さんもようやく来てくれてね。『PRIDE』が終わってから、これまで無視されてきたから。
――いやいや、それは、ウチの若い衆の見事な無能ぶりによって、7月末発売予定のものが飛んだだけです（笑）。
小川　ダーハッハッハ。飛ばしちゃいけないよね（笑）。
――でもホント、ダントツの1位ですよ。これはファンが選んだものだから、小川さんのよく言うニーズは、小川直也に向いてるということですよ。
小川　なんか応援してもらえるよね。言葉じゃ表現できないんだけど、みんなが押してくれてるっていうのは感じますよ。
――ベストバウトは1・4の橋本真也戦とグッドリッジ戦に票が分かれちゃったのか、1位は他の試合でしたけどね。
小川　1・4っていうのは上半期に入るの？
――下半期じゃないことは確かです（笑）。
小川　だったら初っぱなから飛ばしすぎた。いきなしビーンと行っちゃったから（笑）。
――ゼロヨンじゃないんだから（笑）。でもグッドリッジ戦のような刻みこまれる試合があると、また1・4が生き返って、光を放ち続けていくことにもなりますからね。
小川　やっぱ面白くしたいからね！『PRIDE』のリングに立ててたのはいい経験！
――ぶっちゃけた話、小川さん自身は『PRIDE』に、また上がるんですか？
小川　結局、勝った負けただけの世界だったらアマチュアで十分なんだから！　なんで『PRIDE』のリングに上がったかっていうと、もともと高田（延彦）選手がちょこっと俺の名前を出したのをきっかけに、ドカーンと行こうとしたのが続いてるわけでしょ。そもそも俺は「高田選手かヒクソン（・グレイシー）とやらせろ」って言ったのに、『PRIDE』側が煮え切らなくて、「フザけんじゃない。まずはひかり号に乗って（名古屋まで）来い」って言われたところから始まってますからね（笑）。
――あ、『PRIDE．5』（4・29）のとき。小川さんより後に東京を発った記者陣は、「のぞみ」だったって話ですね（笑）。席が空いてるのに、なぜ、俺はのぞみじゃないんだと。それ相当、根に持ってますね（笑）。

（山本戦があるなら）目、金的、噛みつきなし あとはお互いのプライドがルール!!

7・4小川vsグッドリッジ、ショートショートレビュー！

7・4横浜。オーちゃんがいよいよ『PRIDE』のリングに立った！　キリリとした表情で出撃したオーちゃんは、立ち上がり、グッドリッジのブンブン振り回すパンチに戸惑いを見せた。何度かヒヤッとさせたものの、体勢を立て直すと、なんとスタンドのパンチで逆襲、ハートの強さも見せつけた！

殴り倒せ！オーちゃん!!

小川　だから僕の『PRIDE』は、まず、ひかり号に乗ることから始まったから。まあ、鈍行とか夜行じゃなくて良かったけどね（笑）。

――ガハハハ！　UFOがひかり号に乗って〝襲撃〟しにいったわけですね。

小川　でもやっぱり、『5』で襲撃出来た効果が『6』にも繋がったかなと。『5』で普通に顔見せだけして「ハイ終わり」だったら、ここまで盛り上がらなかっただろうなと思うしね。

――リスキーながらも、小川さんの七味の入れ方が上手かったってことですね（笑）。

小川　間違って梅干し入れちゃってたりしてね。酸味が強すぎたりして（笑）。

――ソバは、何も入れずに麺とつゆだけで味わうもんだと通ぶってる人たちの中には、「なんでそんなにたくさん七味やら薬味を入れるんだ。そんなのは邪道だ」っていう、こだわりを持ってる人もいますけどね。

小川　まぁ、とにかくそれも「食ってみろ！」ってことですよ！（笑）。

――「とにかく食ってみろ、うまいから！」（笑）。それで、高田 vs ホイス（・グレイシー）戦が来年1月に実現する可能性が出てきて、実現となったら、その勝者と小川さんという気運も出てくるんじゃないですか。

小川　あー、それは面白いですね。ただ高田選手には頑張ってほしい。俺にとって、高田選手には感謝すべき部分もあるんですよ。だって、ある意味で高田選手がヒクソンに勝ってたら、こういう状況にならなかったと思う。それによって危機感が出てきたし。ただ、プロレスの崩壊というか、実際そういう面もあったけどね。

――プロレス最強神話の土台が崩れたという部分はありますよね。

小川　でも、崩壊したらしたで、また作っていけばいいっていうのがあるから、やっぱり高田選手には感謝していいのかな（笑）。結局なるようにしかならなかったのもしれないし。

――小川さんは、守るより作りあげていく方が好きなタイプですよね？

小川　だって守るのはきついからね。作る以上に（笑）。

――守るのはきつい。往年のNWA王者チックな発言ですね（笑）。でも何かを作り上げたら守る側に回っちゃいませんか。

小川　そうしたら、また壊す！　そしてまた作る！

――ガハハハハ！　実に猪木イズムだ。素敵です！

小川　だから、勝負には負けたくないんですけど、負けるのを恐れてもね。負けたらまた作ればいいわけだし。ただ今回（グッドリッジ戦）は絶対勝たなきゃいけないっていうのはありましたね。名古屋で乱入して盛り上げて、コケたらシャレにならない。

――それにしても、7・4の小川コールの〝熱〟は凄かった。K―1を代表とする他の格闘技会場にはない〝熱〟でしたね。あれはプロレス・ファンにしか出せない質の〝熱〟でしたよ。

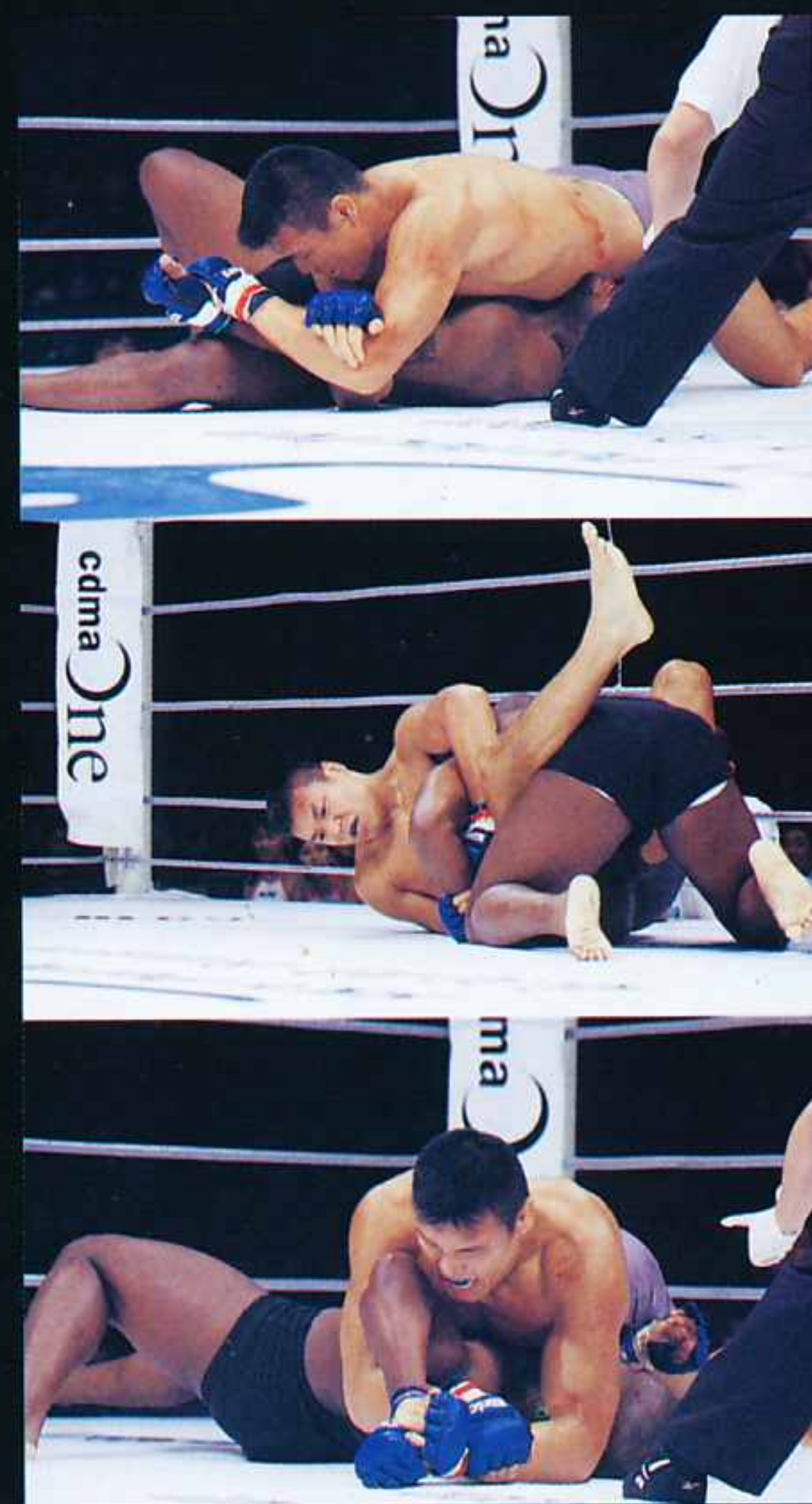
小川　プロレス会場の雰囲気と、いい意味で融合された熱気だったんじゃない？　俺自身も入場する時からファンに支えてもらってるっていうか、〝波動〟というか〝気〟みたいなものを感じましたから。アマチュアによくあるんですけど、「地元の声援」みたいなね。僕は柔道時代にもあんまなかったけどね。僕はいつも見てる人の敵に回ってましたから（笑）。

――ガハハハハ！　いつも敵！

小川　海外での試合が多かったから。その国の人にとっては、僕はヒールでしょ。それに国内でもヒール役買ってたから（笑）。だから会場のほぼ全員なのかな？　ああいう波動のような応援はホント初めてだったから、その意味では凄い感謝してますね。ファンに対しても、『PRIDE』に対しても、もちろんこの世界に連れてきてくれた会長にも。でもファンは最初、名古屋を襲撃したときはボロクソだったけどね。「お前の来るところじゃねえ！」とか「帰れ、バカ野郎！」とか（笑）。

――言われてましたねぇ（笑）。

小川　俺はわざわざ新幹線ひかり号で来てるんだよ。後から専門誌の記者に「のぞみ」でビュンビュン抜かれてさぁ。

飛びますかーッ!!

倒してしまえばオーちゃんタイム！　グラウンドでの打撃を挟み、腕がらみ、逆十字を狙っていく。が、これをグッドリッジは仰天のバカ力で返し、オーちゃんが下になることも。たとえ下になってもオーちゃんタイムには違いないのだが、グッドリッジのパワーが恐怖感を増大させる。しかし2R序盤、遂にアームロックでグッドリッジを捕獲！　オーちゃんの勝利にアリーナ中の細胞が叩き起こされた。ちなみにグッドリッジは8・22にはK―1に出陣。そこでも佐竹雅昭に敗れたものの、専門外である立ち技最高峰のリングに向かっていく無鉄砲パワーは、「プロ」として大いに賞賛されていい！

グレイシーもなんのかんのいって
ヒクソンを倒さないと意味がない

photographs by Takahiro "jiro" Mori

――「のぞみ」にこだわりますねぇ（笑）。
小川　のぞみに乗るのが僕の望み。なーんつってね。ダーハッハッハ。
――ダハハ。そういえば、ホイスが小川選手には絶対負けないと吠えてるらしいですね。
小川　まあ、吠える奴は吠えろと！　だから吠えてきたら〝ありがとう〟と思わないと。相手にしてくれる分には感謝しないとね（ニヤリ）。
――『PRIDE』のリングに上がるとなると、変わらず標的はヒクソン、高田、ちょっと置いてホイスということになりますか？
小川　だから、グッドリッジより下とやってもね。
――グッドリッジみたいなタイプとヒクソンみたいな柔術家だったら、どっちがやりづらいですか？
小川　それはもちろんセオリーを知ってる方がラクですよ。
――ヒクソンとの闘いの方がラク。実に頼もしい限りです。
小川　でもグッドリッジみたいな方が見てて面白いじゃないですか、お客さんにしても。
――いや、もしヒクソンとやったら、プロレスの歴史と未来がすべて小川さんの肩にかかるわけだから、それはもう見てる方は宇宙規模で興奮しますよ。
小川　まあ、やれたら面白いかな。
――また実に淡泊ですね（笑）。
小川　いや、あんまり言うと、また出来なくなっちゃうかもしれないから。控えめに言っとかないと。「小川はヒクソンにビビってる」ぐらいに思われとかないとね（笑）。でも、グレイシーもなんのかんのいって、ヒクソンを倒さないと何の意味もないんですよ！　グレイシーの長を潰さないと！
いや、勝たないと。
――その通りです！　ところでこの前、高田選手に勝ったマーク・ケアーなんかは視界に入らない？
小川　う～ん、なんかピンと来ないんですよ。仮にマーク・ケアーとやって、勝っても負けても何になるんだよって感じなんだよね。いくら〝霊長類最強〟とか言っても、大多数のファンはヒクソン戦、高田戦の方が見たいでしょう。環状線の内側のコアなファンは別として。
――猪木さんの「環状線理論」ですね。
小川　うん。その環状線理論で言うと、新日本とかはやっぱり、環状線の外側に届かせる力も持ってる。格闘技界を発展させるには環状線の外で暴れないと。
――環状線の中と外。両輪を転がせればベストですけどね。
小川　ある時はマニアック、ある時はメジャーでね。俺は本当にこだわりはないんですよ。裏を返せば、「こだわりがないってことにこだわってる」ことになっちゃうかもしれないけど（笑）。
――でもUFOは、ホントいろんなところに飛び立ちますからねぇ。そういえば猪木さんは北朝鮮に飛び立つとか言ってますね。
小川　北朝鮮には飛んでみたいですよ。
――前回、猪木さんがやった北朝鮮でのイベント（95年5月）はビデオかなんかで見ました？
小川　いや、見てないんですよ。ゼヒ見たいですけど。
――僕も行ったけど、あれは凄かった。この世のモノとは思えなかったです（笑）。
小川　あれって何十万人もいましたけど、会場に入るのにどのくらい時間がかかるんですかねぇ？
――は？　妙なとこに関心がいきますね（笑）。街から何キロか離れた会場まで北朝鮮の人々は並んで歩いて行くんだけど、街

Naoya Ogawa

から会場まで人の列が途切れないんですよ。ところが、意外とスムーズに入れちゃうんですよ。さすが統率力の北朝鮮っていう感じで（笑）。会場も東京ドームの約3倍位あるし、とにかく凄い光景でしたね。
小川　う～ん。それが2日間でしょう。
――でも、2日で35万人の大観衆とか、世界の中でも特殊の場であるっていうこともちろん含まれるんだけど、それよりもリック・フレアー戦から、猪木さんの「人としてのリアリティー」が、北朝鮮の人たちとか僕らに、見事なくらいに突き刺さってきたことが驚きでしたね。長年プロレス見てても、まだこんなデカいスケールの驚きがあるのかっていうくらい凄かったです。
小川　そういうとこでもやってみたい。暴れたいです！　UFOはグローバルですから。どこであれ飛びまくりたいですよ！
――ズバリ言ってUFOの国内の活動はどうなりますか？
小川　ズバリ言って選手は実際二人だから（笑）。だからUFOの自主興行も大事なんだけど、いろんなところに出向いていった方がいいんじゃないかな。
――そういえば以前、小川さんにEメールでインタビューした時（No17）、「小川さんのプライドはなんですか？」って質問に、「ひと言では言えないから、また今度の取材でね～」って答えが帰ってきたんですよね（笑）。でも、前回の取材で聞くのを忘れてました（笑）。
小川　誰かに突っ込まれたんですか？
――そういうことです（笑）。というわけで、大会名じゃない、小川さん自身の「プライド」とはなんですか？
小川　うーん、急に言われても……また次にしましょう（笑）。
――ズコッ（笑）。
小川　でも、まあやっぱり、プライドは、自分の許容範囲内での〝意地〟ってことでしょう。
――じゃあ小川さんの「マット界全体を面白くする」っていうのは、その意地から来てるわけですか？
小川　小川、もう意地だらけですよ！　大ボラ吹いて、負けたらシャレにならないし!!
――そこらへんはモハメド・アリチックですからね。
小川　だって1吹くのも、2吹くのも一緒じゃない。勝っても負けても大ボラ吹いた方が面白い。言ったら言っただけやんなきゃって思うからいいんですよ！
――そう思えるところが凄いですよ。言ったことに責任取らなきゃならないからって、臆病になる人もいるでしょう。
小川　俺としては、もちろん言った分だけはやるんだけど、〝しょうがねぇじゃねぇか言っちゃったんだから〟っていう感じですよ。ダーッハッハ。
――自分を追い込みながら結果を出していくっていうのは、一種の自家中毒、つまり猪木イズムですね（笑）。そこらへんでやっぱり小川さんにはスーパースターの資質があると思うなぁ。スーパースターって孤独ですけどね。
小川　孤独っていうか、キ●ガイ扱いされますよ。
――ガハハハ！　またそんなズバリと。
小川　いやホントですよ、それ！
――だから力道山にしても猪木さんにしても、最近では前田日明にしても、長年トップにいる人はそういう修羅の部分と背中合わせですよね。
小川　まあ、俺の場合もいろいろ言われますけど、気にしてると心臓なくなっちゃうんで（笑）。
――でも最近のマット界には真の意味でスーパースターって出てないですよね。そうい

う時代なのかもしれないけど。

小川　みんなカラクリがわかってる時代ですからね。全部明確にしていかないといけないから。

——だから、これからその座を目指す人はかなりシンドイですよね。

小川　そういう役目を得た人がやらざるを得ないんじゃないですか。

——猪木さんが小川さんのことを「あいつはそういう星の下に生まれてきたんだ」って言いますよね。

小川　「ガナれるだけガナれ！」ってケツ叩かれてますよ。「ガナリ方が足りねえ！」って怒られたりとか。いつも「あ〜あ」ですよ（笑）。だから"悪者"を選ぶか"いい子"になるか。そうなると悪者を選んだ方がラクですよ。

——悪者を選んだ方がラクって言えるとこがいいですね（笑）。

小川　いや、"いい子"になったら後悔すると思う。だって、"いい子"になって何になるんだって話でしょ。

——ガハハハハ！　PTAに怒られますよ。

小川　悪がなきゃ善は存在しないんですよ。

——プロレス界のPTAから考えると、猪木さんのプロレスって悪じゃないですか（笑）。

小川　ダーハッハッハ。そうなのかな？

——1・4にしたって、新日本の中のPTAみたいな人に言わせたら絶対、悪だって言いますよね（笑）。

小川　だから、いまあるプロレスを守るって言うけど、守りきれんのかって言いたいよ。

——猪木さんの場合、『デビルマン』のラストじゃないけど悪魔の正体は神だったみたいな、そういう部分がありますよね。

小川　やっぱ、悪があるから、いい人が光るわけでしょ。大体、俺は"いい子"ってあんまり好きじゃないから。

——もともとそうなんですか？

小川　"いい子"は昔から嫌いだったね。大体そういう奴は裏でいろいろあるし。さっきの『PRIDE』の話みたいに「僕はそんなの出来ない」とかどうしても許せないんですよ。なんでそんなことくらい出来ないんだよって。

——なんか誰か特定の人を想定して言ってませんか（笑）。

小川　いやいや、この間（ビート）たけしさんのラジオ（FM東京『ビートニクラジオ』）に出た時にもそういう話になってね。たけしさんも昔は、あんなの漫才じゃないとか言われてたけど、「漫才か漫才じゃないかなんて関係ない。面白いならいいじゃねえか」って思ってたらしいんですよ。なるほどなぁと思いますよ。

——たけしさんは、「お笑い」というカテゴリーを突き抜けてしまうエネルギーがありますよね。そのエネルギーこそが重要という考えは、猪木さんに通じるところありますね。

小川　話を聞いてると本当にその通りなんですよ。会長（猪木）の話と通じるようなことを言うんですよね。守っててどうなるんだって（笑）。守って業界が発展するんなら守った方がいいけど、壊して発展するなら壊した方がいいと。

——ズバリと言ってくれますね。

小川　だってごまかし利かないですから。格闘技界じゃなくても他の業界だって、いま一番悩んでる時期でしょ。結局どこでも壊して新しいもの、要するにニーズにあったものをやったところが勝つじゃないですか。

——そこでかっこつける必要はねえってことですか。

小川　そう。それまで花札をずっと作ってた任天堂が、ファミコン作ったらドカーンといったとか、どこの業界でも一緒ですよ。

——たけしさんは「振り子の理論」って言いますよね。

小川　ああ、それも言ってました。

——例えマイナスの方向でも振り子の玉を思いきり引き寄せてから振った方が、ゼロから、つまり真ん中から振るよりは振り幅が大きい。プラスの方面に振り子の玉を振るにはマイナスの方に引き寄せなきゃっていう話ですよね。

小川　ベネチアで「コマネチ！」やるとかね（笑）。それで俺、約束したんですよ、浅草キッドと。『PRIDE』で（浅草）キッドの「浅草お兄さん会」のチャンピオンベルト持ってきて「コマネチ！」やるっていう（笑）。

——ガハハハハ！　そうらしいですね。しかし、とことん仕事と遊びが地続きですね！

小川　やろうと思ったんですけど、当日、ウチの事務所のS君がそのベルトを忘れてきちゃった（笑）。それってキッドが5万円かけて新調したベルトなんですけど、それもらった後に会長と飯食いに行って、ベルトをビニール袋に入れてたんですけど、その袋を会長が踏んずけちゃって、バリッと（笑）。

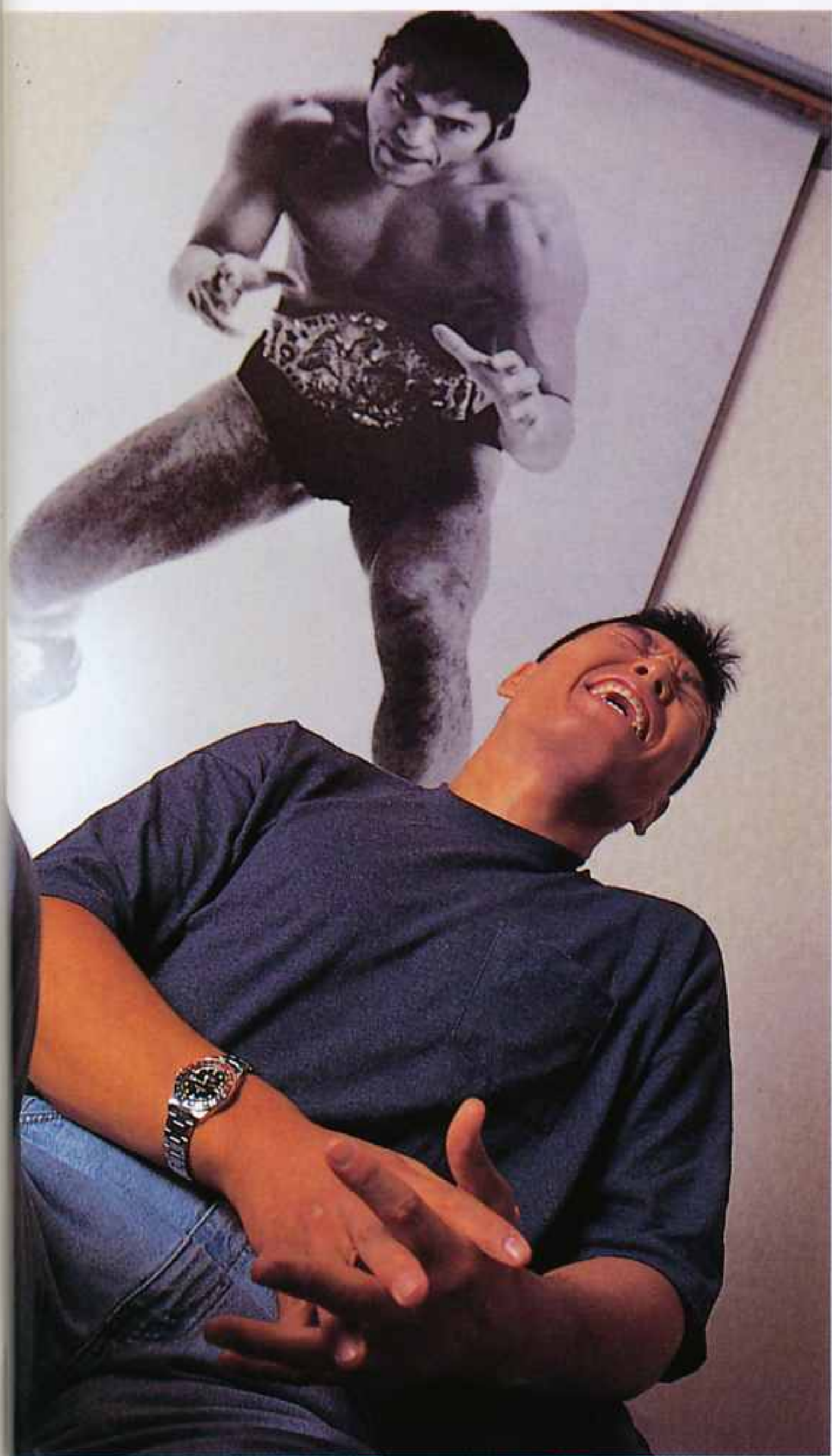
——ガハハ、踏みましたか！（笑）。

小川　新しいベルトにヒビが入っちゃって（笑）。会長が「何か踏んだけど、大丈夫か？」とか言ってたんですけど、何のベルトか説明するわけにもいかず（笑）。

——それはいかないでしょうとも（笑）。

小川　ホントはヤバイのに「いいです、いいです」とか言っちゃって（笑）。後で水道橋博士にメール出して「会長が踏んで勲章がつきました」って書いたら、逆に喜んでくれましたから良かったけどね。「これは凄い。ありがとう」だって（笑）。

——そのヒビ割れたベルトはゼヒ見たいですね（笑）。

小川　だから会長の「環状線理論」もそう

7・12東京FMの『ビートニクラジオ』（日曜深夜25：00〜）にゲスト出演し、ファンだったビートたけしと遂に対面（もちろん浅草キッドも一緒）。猪木イズムのみならず、たけしイズムまで細胞に刷り込んだオーちゃんは「そういう星の下に生まれてきた男」（byアントン）であることは間違いない。1、2、3、ユーホー!!

取り込まれるんだったら1・4でバッコリ行ってないでしょ!

だけど、思いきりメジャーの方に針を振ったり、思いきりマニアックなものに針を振ったりね。

――小川さんもこれだけ期待されてるわけですから、プロレス界のために、思いきり振り子の玉をプラスに振ってほしいですね。

小川　じゃあもう1回、マイナスに振り子を振らないといけないかなぁ。辛いなぁ（笑）。

――孤独なんです、スーパースターは（笑）。ところで新日本のリングに上がるという話も取り沙汰されてますね。

小川　まあ、決めるのは藤波（辰爾）社長ですから。新日本に行くことによって面白くなっていくとは思いますけどね。新日本が「ダメ」って言ったらしょうがないけど（笑）。

――小川さんはどこに上がっても面白い存在ですからね。

小川　そう言ってもらえると嬉しいですね。まあ、ドームやって神宮でやれるのは、やっぱり業界の最先端なのかな。その新日本に上がるのは一番注目が集まりますから。テレビにしても、集客にしても凄いですからね。やっぱり注目されると出てくるアドレナリンも違ってきますから。

――ただ、小川さんが新日本に上がっても、せっかく飛びっぷりのいいUFOが、巨大な新日本の渦に飲み込まれはしないかと心配するコアなファンの意見もあるんですよ。

小川　別に取り込まれる心配はないですよ。UFOは自由に動く団体だから。

――それを言ってくれれば十分です（笑）。

小川　取り込まれないようにはしなきゃいけないけど、勝負の世界ですから。取り込まれるんだったら1・4でバッコリいってないでしょ！　もうやっちゃったんだから、いまさら取り込まれるとかの次元じゃないですよ。もう、行くとこなくなって『PRIDE』に回っちゃったんだから（笑）。

――とにもかくにも小川さんの動きに注目して、ファンは東スポを毎日読むしかないですね（笑）。

小川　東スポもねぇ、何もないときに「なんかないですか？」って聞いてくるから、そろそろ面白いことやんないとねぇ（笑）。たぶん、もうそろそろ出撃できると思います。

――大きな動きは秋口ですか？

小川　そうですね。

――そういえば、猪木さんは『PRIDE.6』の後は何か言ってました？

小川　東スポで「あいつは天狗だ」って言ってました（笑）。別にそんな気持ちはないんだけどね。

――ガハハハハ！　チキンになったり天狗になったり大変ですね、小川さんも（笑）。でもそれだけ小川さんが期待されている裏返しですよ。とりあえず、秋口に期待してます。

小川　これからも『週プロ』さんには押してもらわないと。

――は？　申し訳ないけど、ウチは『紙プロ』です（笑）。

小川　あ、いけねえいけねえ（笑）。そういえば、いま、ある一般誌で企画練ってるんですよ。各専門誌の人たちを呼んで語り合おうじゃねえかっていうやつ。僕が司会！

――ガハハハハ。それは面白い。小川さんの司会ぶりは見たいなあ。

小川　だからいつもと逆に俺が聞く側でさ、「小川直也についてどう思いますか？」とかね。でも、「面白いけど、参加するのは山口さんと『SRS・DX』の（サダハルンバ）谷川さんだけだろう」って言われました（笑）。

――んあ～（笑）。

【8月10日、東京・白金台／空中分解した（©ファイト）UFO事務所にて収録】

※インタビューから約2週間後、オーちゃんからメールが届いた。そこには『「ビートたけし氏の母上・北野さきさんのご冥福をお祈りします」とどこかに入れてください』と打ってあった。VIVAオーちゃん!!　当編集部からも、「偉大なるビートたけしを生んだ偉大なる母・北野さきさんのご冥福を心よりお祈り申し上げます」と言わせていただきます。合掌。

Naoya Ogawa

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ～ヒッ!!

闘魂師弟&S氏、8月27日モンゴルへと飛び立つ!!

8月20日にロスから帰国し、成田空港で会見したアントニオ猪木UFO総師は、佐山聡の掣圏道ルートを通じ、ロシアの強豪が続々とオーちゃんとの対戦に名乗りを挙げていると話した。さらに、前田日明が引退試合で敗れたアレキサンダー・カレリン、小川がバルセロナ五輪で苦杯を舐めたダビド・ハハレイシビリなどの超ビッグネームもオーちゃんと対戦する可能性が出てきたことも示唆し、UFOの未確認飛行が本格的にグローバル化していくことを匂わせた。

また、アントン総師は、3月のUFO横浜大会にも一時参戦が噂された、あのヴァリッジ・イズマイウのマネージメントを任されたとも発言。驚くことに、これからブラジリアン柔術のUFO参戦の可能性も出てきたわけだ。

このあと、UFO一行は8月27日から、モンゴルの山奥に隠れた大巨人などの人材発掘を兼ねて、モンゴル遠征の視察へと飛んだ。

オーちゃんはこれが終わると、9月18日から、再びアメリカに渡りNWA世界王座の防衛戦サーキットを行う。

ニューヨークを始め全3戦が予定されているが、前回のサーキットではNWAの謀略により日程等、数々のワクワク・トラブルがあった米サーキットだけに、かなりのドキドキ飛行になる可能性もある。毎日の動向は東スポを要チェック!

さらに北朝鮮、ロスでのビッグ・イベント開催の行方も気になり、ますます"いつ何時、何が起こるかわからない"UFOの飛びっぷりから目を離せない!

8・20、帰国したアントン総師を、UFOのS氏と共に迎えに行ったオーちゃん。が、アントン総師が予定時刻より1時間早く到着してしまったため、闘魂師弟はスレ違い。別々に記者陣にコメント。またもやUFOの"未確認"ぶりをまざまざと見せつけることになった

前田日明

公開インタビューin「青空プロレス道場」

本誌プロデュースの「青空プロレス道場」に日明兄さんがやってきた、ヤアヤアヤア！と浮かれている場合ではなく、青天の霹靂だったろう8・19の小川直也vs山本宜久戦の「延期」が決定した直後だけに、教室内には得体の知れないピリピリムードが漂っていた。はたして前田日明の波動砲は放たれるのか？「英雄とは何か？」というテーマを設定したものの、史上初の公開インタビューは決してそれだけでは済まなかった。でしょ？

A

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ～ヒッ!!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

〈小川直也の「じゃあ、出てくるのかよ」発言に対して〉

「まぁ、引退したんで、
リング上でなければいつでもどうぞ。
真面目にプロレスルールで
やってあげますよ」

「マクマホンJr.は天才やね。
でも俺が考えたら、
もっとちゃんとやるよ」

「これが〝延期〟でなく
〝中止〟だったら
UFO相手どって
裁判起こします!!」

〈ニタ出現の場面を見て〉

「悪い頭で一所懸命
考えたんだろうね。
大変だな、コイツ」

A K I R

山口（以下KP） みんな、もうちょっとリラックスしようよ～（笑）。
豪 妙な緊張感が漂ってますねぇ、いつもと違って。
KP こっちはこっちで緊張してるんだから、頼むよ、ホント（笑）。
豪 ボクなんか、ここに座っていたくないですから。前田さんは、ボクらでも止められませんからね。僕は今日は一切しゃべりませんよ（笑）。
KP さすが汚いね、金髪鬼は（笑）。キミは今日は真っ先に殴られそうな格好してるし。えー、それではみなさん拍手で迎えてください、前田日明社長の入場です!!
〈♪響き渡るキャプチュードにのって前田日明入場〉
前田 どうも。
KP それで前田さん、今日は「なんでいまの時代に英雄が出てきにくいのか」、というところまで話を転がして行きたいんですよ。ここ最近、前田さんは、英雄待望論を唱えてましたよね。
前田 ああ、そやね。
KP そこまで、いろんな話を転がしながらたどり着きたいなと思ってます。
前田 はい、わかりました。（目の前に座っている女性を見るなりいきなり）ネエちゃん、股閉じないと見えてるよ!!
〈会場内、大爆笑&大拍手〉
KP ガハハハハハ!! 前田さんがいま指摘した彼女は……まあ、後で教えます（笑）。
前田 え、なんやねん!?
KP いま言っちゃっていいか?
兄さん曰くネエちゃん ダメ、ダメですぅ。
KP じゃあ、後でコッソリと。ちょっと、いわくつきの女性なんですよ（笑）。
〈社長業のついての雑談を本能ちょっと（©前田日明）〉
KP で、前田さんはいまリングス社長とCEO（チーフ・エグゼティブ・オフィサー）っていう肩書きがありますけど、あのCEOって、もうやめた方がいいんじゃないかって思うんですよ（笑）。
前田 なんで?
KP いまWWFで超人気のスティーブ・オースチンっていうレスラーがギミックで使ってるんですよ。CEO役で。だから、WWFのパクリだと思われますよ（笑）。
前田 へぇ～（笑）。でもWWFは面白いよね! 俺、アメリカに行ったとき毎日のように観てたけど、笑っちゃったよ、もう。あれ観ちゃったら、もう、プロレスがどうのこうのいうのがね……。
KP もう、そういう次元は超えちゃってますよね。
前田 超えてるね。だから、ビンス・マクマホン（・jr）は天才やね!
●しばらく日明兄さんがアメリカで見たWWFの印象に残った場面の話になる。
KP ところで前田さん、ちなみに聞いてみたいんですけど、グレート・ニタって知ってますか?
〈会場内、大爆笑〉
前田 知らない!
KP 実は前田さんにぜひ観てほしい映像があるんです。大阪の南港にグレート・ニタってのが現れたんですよ（笑）。
前田 ニタ!? それは大仁田なの?
KP 大仁田厚がグレート・ニタを呼び出すんですよ（笑）。
〈場内大爆笑〉
KP コォれは笑えますよ（笑）。ある意味、WWFっていうか、つくりこみがその路線なんですよ。
前田 だから大仁田とかは、なんとかそっちの路線に引っ張っていきたいんだろうね。で、蝶野（正洋）もあれをやってることで、昔の新日本流との狭間でどう引っ張ったらいいかっていう迷いが見えるよね。
KP じゃあ、さっそくニタのビデオ観てみますか、話の流れで（笑）。前田さんも、ゼヒまじめに観てください（笑）。
●ここで場内が暗くなり、8月7日深夜『ワールドプロレスリング』で放映された「グレート・ニタ復活!!」の特撮ビデオが上映され始める。以後、画面とザッピングしながらお届けします。
KP （画面の大仁田厚を指して）最近はいつもタバコくわえて出てくるんですよ（笑）。
大仁田 よく来たな～、眞鍋。
前田 （大仁田と絡む眞鍋アナを指して）誰これ? 友達?
〈場内、笑い声MAX〉
KP テレ朝のアナウンサーですよ（笑）。
大仁田 オマエは、オマエは、グレート・ニタを見たいかぁぁッ!?
眞鍋アナ ニタは本当に存在するんですか?
大仁田 馬鹿ヤロー!!（ビシッ! と眞鍋アナを平手打ち!!）
…………
大仁田 ニタはなぁ………ニタはなぁ…………生きている! オマエの目の前で、俺はオマエの目の前でェ、呼んでやるッ!!（絶叫）。
前田 ヘ～ンシン! って感じやね。
〈場内笑〉
前田 テレビなの、これ!?
KP テレビですよ。先週の『ワールドプロレスリング』ですよ（笑）。
前田 あの～、夜やってるやつ?
KP そうです。かつては前田日明も登場していた『ワールドプロレスリング』が、いまはこうなっちゃったんですよ（笑）。
●画面の大仁田厚は両手を握りしめ目を閉じ、大阪南港の海に向かって念を送り始める。
前田 悪い頭で、一所懸命考えたんだろうねぇ。大変だよ、コイツ。
〈場内大爆笑〉
●画面ではマグネシウムが大爆発!! 場内「オオッ!!」の声。そして大阪南港の海底からグレート・ニタが姿を現した!!
前田 （忍者衣装のニタを見て）これ、武藤だよな? 武藤やんけ、これ!
KP いや、武藤じゃないですよ（笑）。

AKIRA MAEDA

(忍者衣装のニタを見て)これ、武藤だよな?
武藤やんけ、これ! エ?

●画面は赤い毒霧とともに顔を見せたニタ。その毒霧を眞鍋アナの顔になすりつけるニタ。さすがに引く眞鍋アナ。ニタの顔がアップで映し出される。

ニタ　ヒッヒッヒッヒ。ヒャーッハッハッハッハッハッハッハッハッハ!!　ヒャーッハッハッハッハッハッハッ!!(狂ったように笑い続ける)

●和風にアレンジされた「ワイルドシング」のテーマのなか、ニタが奇声をあげながら歩き去る。画面には「グレート・ニタ復活!!」のテロップが出て、終了!

前田　復活ってことは、死んだことあるの、コイツ?

KP　死んだことあるんですよ、ボクも詳しくは知りませんが(笑)。これはどうですか、WWFと比べて。

前田　いや、俺が考えたらもっとちゃんとやるよ!!

〈場内爆笑&拍手喝釆〉

KP　ガハハハハハ、負けず嫌いですねえ、どんな相手にでも(笑)。でも、WWFに近づいてないですか?

前田　いや〜、そうだなぁ。なんていうか……ちょっとまだ、弱いね!!

KP　よ、弱い!?

前田　だから、まだシチュエーションとかそういったものに頼りすぎ。それとやってる本人に存在感が弱すぎる!!

KP　ああ〜、やってる本人の存在感に目をつけましたか(笑)。

前田　ダメですね。カットですよ、カット!「も1回やれ!!」。

KP　でも、ここまでいくと、誰も試合内容云々に期待しないですよね(笑)。

前田　葛藤するね!

KP　は? 出ましたね(笑)。え〜、カットと葛藤をかけたんです、みなさん(笑)。

〈場内、ようやく気づいて笑う〉

KP　で、これから、大仁田路線というかWWF路線と、総合格闘技路線は、完全に二極分化しそうですね。

前田　いや、でも、そういう要素っていうのは、いまから20年以上前、俺が新日本に入った頃からそういう兆しはあったね。当時のレスラーにも、試合を組み立ててるにも、その場その場に対応したアドリブを効かせて組み立てる選手と、もう決められたことをキッチリやってウケを狙う選手っていたからね。対応していくっていうスタイルの最果てに総合格闘技みたいな連中が立ち、ルールのなかで決められたことだけやっていく連中のなかには、こういう路線を目指すっていうのもあったし。

KP　じゃあ、対応力のあった人は総合格闘技に走り、そうでない人が……。

前田　いや、頭のよかった人が、やね。

KP　ああ、頭のよかった人が総合格闘技に移っていったと(笑)。で、頭の悪い……こんなこと言っていいかわかんないけど、そういう人たちがエンターテインメント路線に行ったと(笑)。

●ここで日明兄さんはボトルを取り出す。

KP　ちょっと、何やってるんですか?(笑)。

前田　いや、コレは……(と、琥珀色の液体をグラスに注ぐ)。

KP　ウイスキーですか?

前田　いや、自分で作ったの(どうやら自分でブレンドした酒らしい)。

KP　グハハハ、そんな酒にまで過剰な対応力をみせなくてもいいですよ(笑)。

●ここでターザン山本が最近書いた『暴露〜UW

F15年目の真実〜」のことをきっかけにターザン山本についての話題になる。ダンディズムのかけらもないターザンから連想したのか、話は「ダンディズム」へいつの間にか移った。

前田　ダンディズムっていうのは、人にショックを与えることですよ!!

KP　ダンディズムとは、人にショックを与えること！　いい言葉ですね。で、いま大仁田厚の映像を見てショックを受けてる人もいると思うんですけど（笑）、この会場のリアクションを見てもわかるんですが、みんな大笑いしてるんですよね。もう笑うしかないっていう。むしろ笑わなきゃおかしいっていうか。こういう現状を見て、前田さんは、もう関係ない世界の話って感じですか？

前田　ただ、WWFはまぁ全員でうまくキッチリ作ろうとしてるんですよね。

KP　ああ、ひとつのものを作り上げようというね。

前田　そういう意識がありありと感じられるんですよ。だから、そういった点であいつらって真剣にやってると思うんですよね。画面から伝わってくるでしょ。だから一見クサそうな演技でも、よく見たら合ってるんですよ。今後、日本人は（モデルケースを）さらに高めるっていうのが上手じゃない。この調子でいって、大仁田が始めるのか誰が始めるのかわからないけど、転がりようによっては面白くなるんじゃない？

●ここから昔の新日本の話に。「ジョージ高野がWWF路線に行ったら面白い。誰もジョージを止められない」という話には場内も大爆笑。

KP　いま、このWWF系のまったく逆方面の総合格闘技系で話題になってるのが『PRIDE』なんですけど、前田さんは組織面の問題とかそういうのは抜きにして、ああいう〝場〟っていうのはあった方がいいと思いますか？

〝半殺しにしてやろうかな、コイツ〟と思った。

前田　いいんじゃないですか？　どんなもんでも、存在してそれに意味がなかったってことはないですよ。それはそれでショックを与えてるんですよ。

KP　う〜ん、深いですねぇ（笑）。でも、そろそろリングスに『PRIDE』にショックを与え返すだけじゃなく、マット界にも大きな刺激を与えてほしいと思ってるファンもいっぱいいると思うんですが……しかしよく飲みますねぇ（笑）。

前田　（クィッと一杯やりながら）うまいんだよ、これ（笑）。

KP　ところで小川直也vs山本宜久が延期になりましたよね。これは小川選手の左拳負傷という以外に、何か原因はあったんでしょうか？

前田　負傷っていうんだけど、負傷しているように見えないんですよ！

KP　あららららら（笑）。

前田　なんていうかねぇ、（UFOの）川村社長と猪木さんにはOKもらっていて「発表してもいいよ」っていうのはあったんですけど、rAwチームの件があったんで、サインをもらうまではって、待って待って待って待ってたんですよ。で、念には念を入れて小川と川村社長と自分でやりましょうと。そしたら間違いないですから。

「前田怒爆」というショッキングな見出しが踊った東スポ（7／21付）。前田が巨人の松井に怒爆したのか？　松井が前田に怒爆したのか？　ことの真相はトークを参照に。でしょ？

Who's Real Hero?

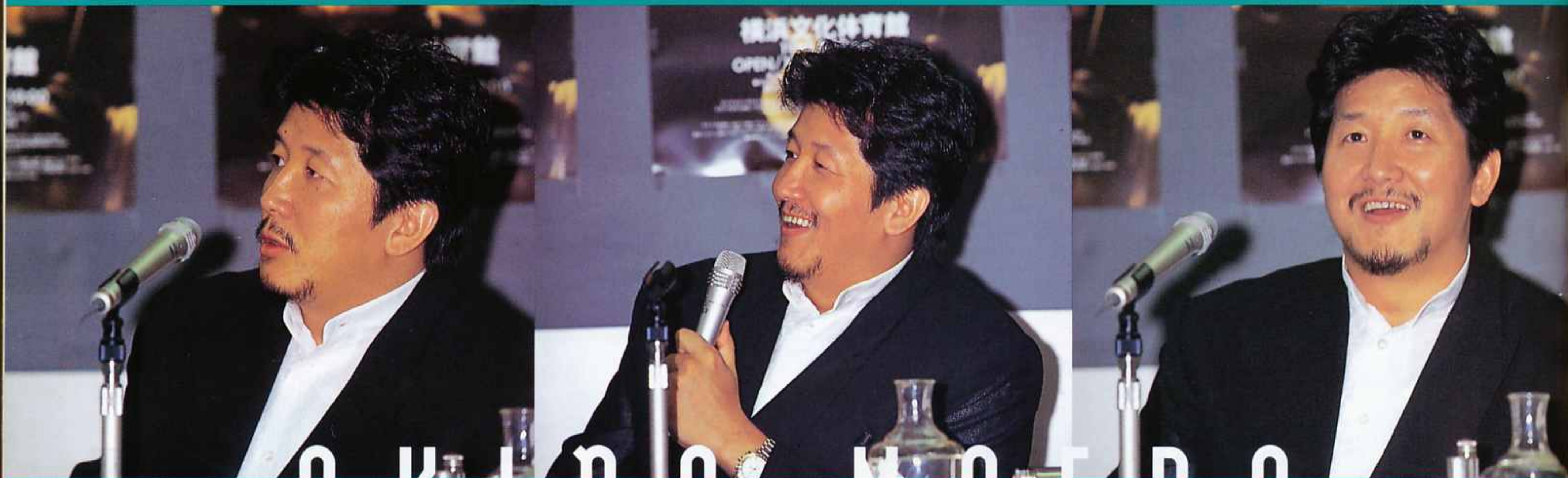
リアルなヒーロー、デテコ～ヒッ!!

なのに小川がNWA（の防衛戦）でアメリカに行きます。いついつ帰ってくる。で、帰ってきたら今度は猪木さんが行っちゃう。そうやってダラダラダラダラ延びていくんですよ。

KP　猪木さんが日本にいるときは、小川選手が日本にいない（笑）。

前田　そうしたらドリーム・エンターテイメントですか?（『PRIDE6』のこと）そこに出て、なんかケガしたかもわかんないって言うから、「大丈夫ですか?」って聞いたら「大丈夫だ、やるから」。いろんなマスコミの記事見ても「やる」って書いてあるからね。なのにズルズル延ばしていってね。でも最後に土壇場になって川村さんと三者でって話をしたら、なんかねぇ、小川自身は「話を聞いてないよぉ」みたいなことを言うんですよね。そしたら「オマエ、聞いてないじゃないだろう!」ってなるでしょ。

KP　え!?　小川選手が山本選手とやるということを聞いてないって言うんですか?

前田　小川はね、そういうようなことを言うんですよ。だから、「オマエ、そんなことないだろう」と。猪木さんや社長に話をしたときにも、ルールをどうするのか?って話のときにも、小川の意向でああしてくれこうしてくれっていうのを全部飲んでね。実際に山本戦に関しては2試合やろうと。で、リングスのマット上で1試合、リマッチで1試合。で、やろうと。それと村上（一成）絡みの試合で、村上と坂田（亘）をやらせてくれって言うんで、「わかった」と。それも飲もうと。で、WOWOWとかいろんなところ動かしてOKもらって、「他に言い分があるんだったら出してください」って言っても出てこないんですよ。

AKIRA MAEDA

KP　まあ、UFOの場合は明文化しないですからね。お互いのプライドがルールですから（笑）。

前田　お互いの信頼がルールじゃないですか?　って言うんですけどね、じゃあ何やってもいいのかよって!　そんなのマンガじゃあるまいし、できないじゃないですか!　巌流島でやろうとかね。なんかねぇ、眠いんじゃないのか?　と思ってね。

KP　いや、正直言ってね……。

前田　（さえぎって）で、ニッチもサッチもいかないから、じゃあ、とりあえずリングスルールでどうですかと。UFCルールでもなんでもいいですよと。ルールブックを送ってくれっていうから、「じゃあ参考にしてください」と送った。それでもあかんのやから、しょーがない。

KP　とりあえずリングスルールでOKしたわけですか?

前田　全部向こうからOKもらってるわけですよ。じゃあ「これでやろう」と。あとはサインしたのを送り返すからって言うから、待ってたんですよ。ジーッと。そしたら突然、小川がケガしてやりたくないと言っていると。いつも小川が何々言ってるかっていうのに合わせて対応してきたんですよ、こちらとしては。そんで本人に会ったら、「何も聞いてない」って言うでしょ。「オマエ何言ってるんだ!?」と。「怖いんじゃないのか!?」と。

KP　そりゃあ、前田さんを前にしたら誰でも怖いと思いますけど（笑）。

前田　ハッキリいって、手も腫れもないし内出血もないんですよ。それで診断書があるのか?って言ったら、「1回医者に行ったときに神経を見なきゃいけないって言われて怖くなって行ってないから、ない」と。こんなバカな話ないでしょ!?　アタマにきちゃってね。"半殺しにしてやろうかな、コイツ"とか思って。でも人の会社の中のことだから、やめとこうと思って。

KP　いやぁ、よくこらえましたね、前田さん（笑）。そうか、そういう事情があったのか……っていっても、よく事情はわかんないんですけど（笑）。

前田　さっぱりわかんないね、さっぱり!

KP　昨日、僕は小川選手にインタビューしたんですよ。

前田　ああ。

KP　こういうこと言ってました。前田さんが先週かな?　リングスのCD発売イベント（8・1）で小川選手について聞かれたときに、「飛行機ポーズは鷹だと思ったけど、違います。小川はチキンです」って言ってるんですよね（笑）。

前田　いや、鷹だと思ったらニワトリだったね（笑）。

KP　そういう非常にトンチのきいたことを言ったんですよね。それをオーちゃんに伝えたら……。

前田　アイツは「こんチキンしょう!」って言ったんじゃない!?　へっへっへっへ。

〈場内笑〉

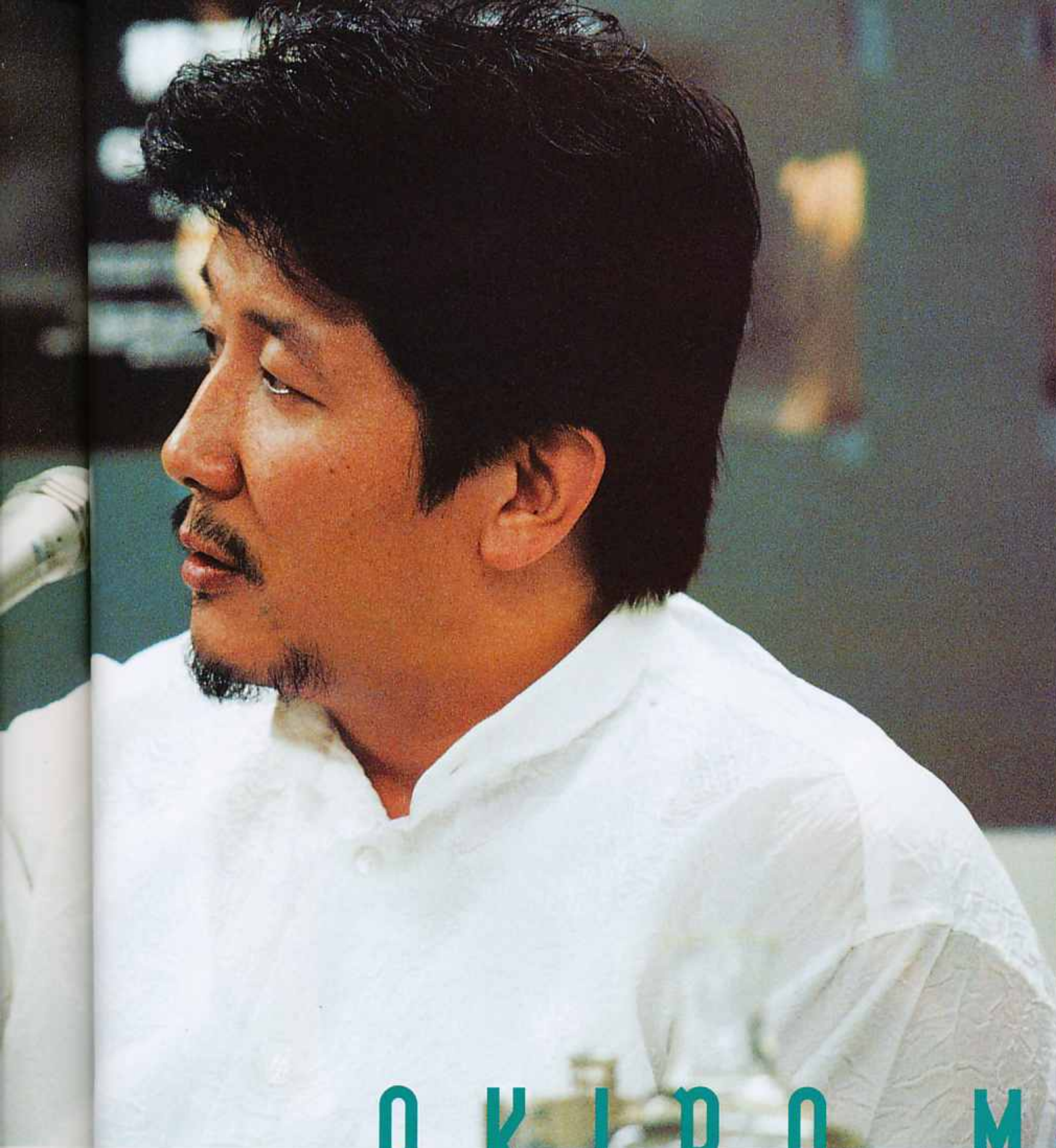
KP　いや、お言葉ですが、それは言ってません（笑）。「何言ってもいいけど、そこまで言うんだったら、自分が出てくるのかよっていう話になるでしょ」って言ってましたね。

前田　あ?

KP　それについては、どうですか?

前田　まあ、引退したんで、リング上でなければいつでもやってやるぞと。

〈場内大拍手&大喜び〉

前田　あの～、いつでもいいですよ、プロレスルールでも!　真面目にプロレスルールやってあげますよ!　真剣にプロレスルールを!!

AKIRA MAEDA

KP それこそ"何でもあり"(笑)。怖いなぁ、もう。あと、「なぜリングスでやることにこだわるのか」とも言ってましたね。

前田 だからこれは何度も言うように、リングスが団体として小川という選手に出場要請をしただけの話なんですよ。で、それを向こうはOKをした。それだけの話なんですよ。だから、リングスのリングでやるとか、UFOのリングでやるとか、そういう問題じゃないんですよ。小川という選手に、一個人の選手に、プロモーターとして出ませんか? と。山本という選手を相手にしてやりませんか? と。出場要請しただけなんですよ。

KP それに対して向こうは一度はOKしたと。

前田 「なんでリングスのリングでやる必要があるんだ!?」とか言われるとね、「オマエ眠いんか!? 睡眠不足なんじゃないか!? なんか悩み事があるんか!? 奥さんとはうまくいってるか!? ちゃんとセックスしてるかい!?」って心配になるよ。

KP 長い(笑)。

前田 いろいろ心配になってね(笑)。

KP あと、「6・29のUFOの大阪大会に来て、山本選手が盛り上げてくれることくらいのことはしてほしかった。(ゲーリー・)グッドリッジだって来たんだから」とも言ってました。

前田 だから!! そういうんだったら、やれよ、オマエ!!(怒)。

KP な、なにをですか?

前田 だから、そう言うんだったらやれよ!って話ですよ。「やらせるやらせる」って言ってて、やらせない銀座のお姉ちゃんじゃないんだから!!

〈場内戦慄のあとに大爆笑〉

KP 「お店に来てくれたらヤラせてあげるわよ」っていう、そういうのに引っかかりたくなかったと(笑)。

前田 そうそうそうそう(笑)。それと同じじゃないかと。

KP 確かに構造としては一緒ですね(笑)。まあ、銀座の場合、お店にいってもヤラせてくれないでしょうけど(笑)。じゃあ、ここらで小川vs山本戦問題について質問のある人、誰かいませんか? 批判と侮辱は違いますからね。そこらへん考えてお願いします(笑)。

●インターネットで「前田日明に疑問を直接ぶつけてくる」と書き込んだ若者が質問するが、匿名のネットとは違ってフェイス・トゥ・フェイスではなかなかうまく切り出せない。「小川vs山本戦問題」どころか何を言ってるのかもさっぱりわからない。最終的には人生相談のようになってしまう。P.S.ネットの匿名性について日明兄さんは「ケンカするときに名を名乗るのは基本ですよ」という見解を出した。でしょ? そして日明兄さんの顔はほんのり赤くなっている。

KP 結局、どうなるんですか、この小川問題は。

前田 12月には引っ張り出しますよ! ここまでコケにされると、ちょっと「何を考えてるんだ」ってなりますからね。プロになった瞬間に、「誰々とやれ」って言われたら、「わかりました」って答えるのがプロですよ! だから今回の小川に関して言えば、しぶしぶ診断書見せてきたんですけど、なんか2週間、なんとかの痛みがなんたらかんたらって書いてあって、傷病名がついてないんですよ! 傷病名がついてないっていうのは、あの、よくあるのは当たり屋とかね。

KP はぁ〜、オーちゃんは当たり屋だったのか(笑)。

前田 当たり屋とか、事故にあってイチャモンつけてくるときね。ムチウチ、めまいがする、吐き気がする……。

アイツ（小川）は「こんチキンしょう」って言ったんじゃない。へっへっへっへ

KP それ、ヤクザ屋さんのよく使う手口ですね（笑）。

前田 それはハッキリ言って同じですよ。で、傷病名のない診断書で2週間。これ、どこの団体に行っても休めないと思いますよ。

KP 通用しないということですか？

前田 通用しないです、診断書として。それで休めるんだったら、どこの団体も、団体運営なんてできないです！（吐き捨てるように）。

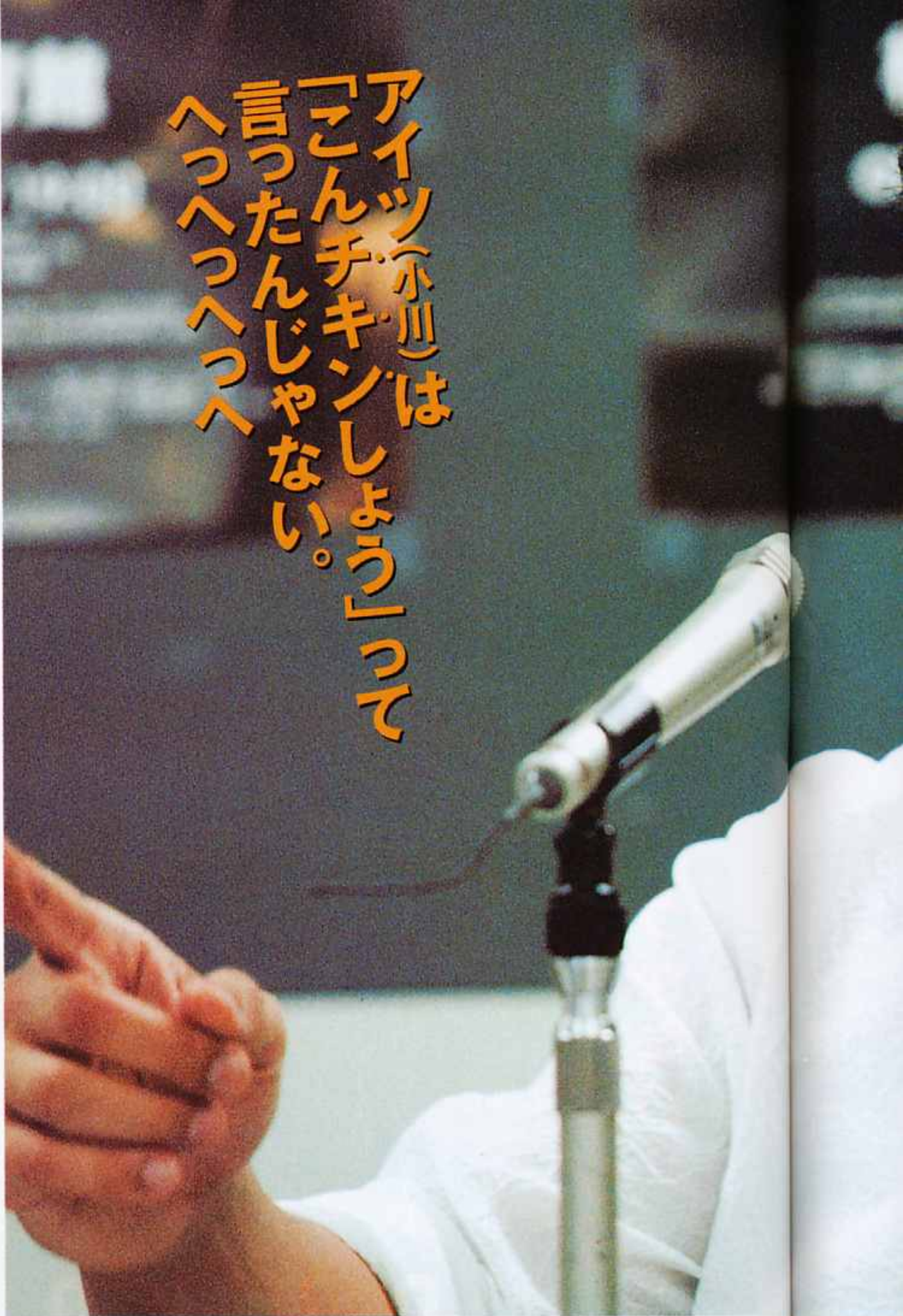
KP じゃあ、前田さんは診断書見て、「これだったら出れるだろう」とは言わなかったんですか？

前田 本人が出ないって言うんじゃ、しゃあないですよ！ だから、やるのがイヤなんでしょ！

KP 東スポ紙上では、山本さんの「高校球児じゃあるまいし、グッド・コンディションでやりたいなんてフザけるな」という発言を受けた小川選手が「横浜の中止が決まってから吼えるな！ 俺はあくまで挑戦されたんだから。キミのようなワケのわからないヤツに言われたくない」って吼え返してましたね。

前田 だからね!!（怒）。アイツ、頭悪いみたいだから何度でも言ってあげるけど、アホなこと言うなよ、と。ウチがプロモーターとして、あんたんとこの社長と、アントニオ猪木に、いち選手として出場要請をしました！ アントニオ猪木と社長さんからOKをもらいました！ そうでしょ？ それだけの話ですよ！ でも山本は、あいつ真面目なヤツだから、小川の柔道時代の経歴に敬意を表して、「挑戦させてください」って言葉を使いましたよ！ でもそれは、アイツの精一杯の盛り上げなんですよ。そうでしょ!?

〈場内、兄さんの迫力にシーンと静まり返る〉

KP そ、それで、その記事が載った同じ日の東スポには、「?・」マークはついているにせよ、「田村潔司リングス離脱か!?」と出ていて、リングスファンにとってはやきもきする記事が出てるじゃないですか。東スポだからねぇっていう部分はあるにせよ。

前田 それはあれですよ、この間、俺が東スポの記者を怒鳴ったからでしょ（キッパリ）。

KP 怒鳴ったんですか？

前田 ウチの親父がいま調子悪くてね。で、こっち（東京）と大阪としょっちゅう往復してるんだけど、バゲッジから降りてきたらね……。

KP あ〜、あの一面に載ってたやつですね！

前田 そう、写真撮ってるんですよ。パッてみたら知らないヤツだし、「そういうときは、『どこどこ新聞の誰々です。写真を撮らせてください』って言うんだよ」ってね。

KP まず名を名乗れと（笑）。

前田 で、黙ってバチバチバチって撮ってる。「はい止まって！」とか言うしね。「なんで止まらなあかんねん！」と怒鳴ったんですよ。そしたら一面になった記事見たら、隣にジャイアンツの松井（秀喜）がいたんですね。

KP ああ〜、松井を撮ってたんだ（笑）。そこで怒鳴られた恨みを晴らそうと、こういうあることないこと書かれちゃったというわけですね（笑）。

前田 「失礼なことしたら、ブチ殺すぞ、このガキ!!」って言ってしまいましたから。へっへっへ。

KP どうしてそういうこと言うんですか、前田さんは？ ちょっとこの際だから聞いておきますけど（笑）。

〈場内、笑〉

前田 いやぁ、だから何かねぇ。

KP 機嫌が悪かったんですか？

前田 その時ですか？ その時は別に機嫌が悪いとかなかったんですけど。

KP じゃあ何で怒鳴るんですか！（笑）。

前田 発散ですね！ 生命の息吹ですよ！

〈場内大爆笑〉

前田 生きるっていう体系は何かっていうと、情報の記憶によるんですよね。

KP は？ 何ですか？

前田 情報の記憶！ 人間が生きている場面場面でどういう気持ちになったか。それが人生観とかを作り上げる重要な要素になるんですよ。そういうことに素直に反応する。感情を押し殺すのは人生を素直に生きていない！

KP それは十分わかります。でも前田さんの場合は出しすぎですよ（笑）。

前田 どうじようもない

KP あ、動じようもない、と（笑）。

〈場内、ダジャレにようやく気づいて笑う〉

●この後、「選手の要望があるなら話を聞くし、要望にもなるべく応えるようにする」という話から、新選組の話、日明兄さんの感覚が「50年古い」という話、坂井三郎さんの話、そしてホントにひと言もしゃべらない金髪鬼・吉田豪から坂井三郎著『大空のサムライ』の初版本（タイトルは当時の

本誌鬼畜編集長・山口日昇のノー台本な司会ぶりに、見事な対応力を発揮してファンのハートを掴んだ日明兄さん。その人間力は圧倒的だ。前田日明を超える英雄、出てこ〜ひ！

人にショックを与えられないようなヤツはチャンピオンになってもしょうがない!!

もの）を受け取って喜ぶ兄さんの笑顔を挟み、特攻隊の感覚が激する話、その特攻隊の英霊に対して陳謝するために介錯を拒み、自ら腹を切り約7時間悶絶して死んでいった大西中尉という人の話へと転がっていった。

さらに成瀬昌由が提唱した中量級トーナメントの話、高田延彦の新日本出場の話、前田日明の壮大なプランは「まだ言えない」が年内には具体化するかもしれないという話、『UFC―J』の話。そして掣圏道を立ち上げた佐山聡が『週刊プロレス』誌上で「アレキサンダー・カレリンを最終的にプロレスラーにしま〜す！」という爆弾発言を行った話へと飛んだ。

佐山のカレリン招聘に関しては、「五千万歩くらい譲ってカレリンがやってもいいと思っても、カレリンのいまのポジションではできないでしょう」「（佐山聡に）アドバイスするとすれば、スタッフとか関わってくれた人間の数からしてもとにかく、大変でしたね！　あのロシアのネットワークがあってあれやから……どうなんでしょうね」と続けた。日明兄さんの顔はさらに赤くなり、舌好調に。では、この続きからどうぞ！

KP　まあ佐山さんはいとも簡単にできるようなことを言ってますけど（笑）。

前田　あの、昔の宇野鴻一郎の小説の……。

KP　な、なんで宇野鴻一郎の話になるんですか（笑）。

前田　「わたし、イッちゃったんです」って、そういうノリなんじゃないですかね（笑）。ハッハッハッ。

KP　ガハハハハハハ!!

〈場内大爆笑〉

●というわけで、紙数の都合上、ザクザクと話をはしょりまくるが、ここで質問コーナーとなった。やはりフェイス・トゥ・フェイスなので質問し終わってから「スイマセン」と謝る奴、もっと聞きたいけども「わかりました」と妥協する奴などが続出した。この模様は、次号で掲載する予定だ（あくまでも予定）。ここの質問コーナーで注目の発言は「もしこれが延期でなく中止だったらUFO相手に裁判起こしますよ！」という怒言だった。

KP　えー、そういうわけで、小川vs山本戦が延期になったうんぬんは別にしてね、前田さんは小川選手は「よくも悪くも非常に元気があって、面白い存在だ」って言ってたときもありましたよね。だからマット界の中では一番ヒーローというか、英雄の座に近い存在だとは思うんですけど、どうですか？

前田　あれは、何かねぇ……よくわかんないね。

KP　じゃあ、今後どうやったら英雄が出てくると思いますか？

前田　英雄ですか？　英雄を受け入れる立場の方にも、問題があるんじゃないですか!?　いま、なんかねぇ、自分の感覚っていうのを自分で信じられないんですよ、ファンの人が。教育とか大人が悪いというのもあると思うんですけど、みっともないですよね！　そういう周りに惑わされる人は、自分の人生じゃないですよ！　他人に影響される人生です！

KP　インターネットやってる一部の人たちがある意味ではそうですね。ある書き込みがワーっと増えると、先入観でそう思い込んでしまうっていうね。

前田　なんか、ヒステリーですよね。

KP　前田さんが怒るのは、ヒステリーじゃないんですか？（笑）。

前田　僕は理由があるんですよ！　理由がないのにキレるのはキチ●イっていうんですよ（笑）。

●ここで常勝チャンピオンの話（P42〜参照）に。

前田　常勝チャンピオンがどうだかとか関係なくね、人にショックを与えられないようなヤツはチャンピオンになってもしょうがないんですよ!!

KP　ダンディズムの基本は、人にショックを与えること、ですか。

前田　輪島功一を見てみなさいよ！　まあ、みんな知らないかもしれないけど、ボクシングの世界ジュニアミドル級のチャンピオンで、勝ったり負けたりしながらね。

KP　カエル跳びの。

前田　そう。最初はそういう変則的なキワモノボクサーと呼ばれていたのが世界王者になって、3回返り咲いたんだよね。俺なんか高校生のときは輪島功一はカリスマでしたよ！　ある意味で沢村忠もそうでしたよね。それで輪島さんは、引退したあとどうすんだろうと思っていたら、ダンゴ屋のオヤジ！　えらいカッコイイじゃないですか！（笑）。

KP　ガハハハハ！　3度も返り咲いたあとにダンゴ（笑）。

前田　そういう人なんですよ。すっごいなぁと思ってね、真似できないなぁって。俺なんて、すぐ人に自慢しちゃいますからね！

〈場内大爆笑〉

前田　今日、エスプレッソのアイスコーヒー飲んだんだけど、「オマエ、俺のはふつうのアイスコーヒーとちゃうんやぞ！　エスプレッソのやぞ」ってなりますからね（笑）。

KP　エスプレッソなだけで（笑）。

前田　濃いぜ！（笑）。カフェインあるぜ！（笑）。そんなんだけで自慢しますからね。だからそういうの聞くとね、その人の功績とか全体の生き方を見て、初めて意味がわかるんですよね。

KP　断片やら現象だけ捉えても、面白くないですからね。“人”が見えなければ格闘技は面白くないですよ。

前田　断片だけ捉えてね、しょうもないヒステリックな揚げ足とって、その人の本質を見ようとしない人が多すぎるんですよ！　一個の発言にしても、なぜそういう発言をするのか、意味が、理由があるんですよ。

●そして小林秀雄、浄瑠璃の話に突入し、「相手の感性の上に自分の感性をのっけて考えること」が英雄やカリスマを生むという話になったときにアッという間にタイムアップ。会場ももう出なければならない。しかし、そのとき奇跡は起きた！

前田　これで、なぜ英雄が出ないか!?ってことにつながるの？

KP　いや、途中で終わっちゃいました（笑）。

前田　ここ、もう出ないとダメなの？

KP　9時までなんですよ、いつも。

前田　な〜んだ、つまんないね（ほんのり）。

KP　そうですよぉ、これからなのに（笑）。

前田　やっと、なんかね（笑）。

KP　やっとエンジンがかかってきたのに。

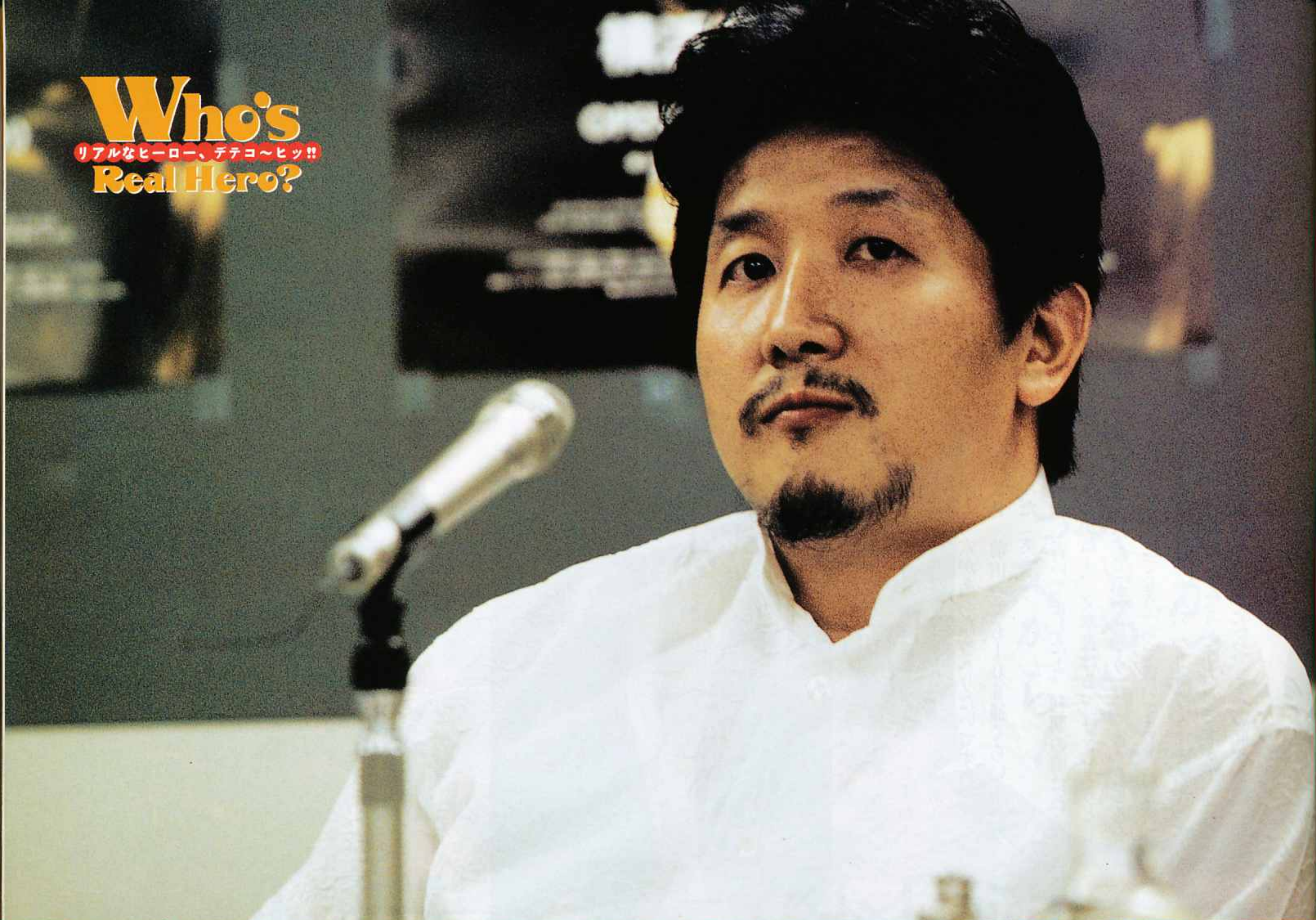
前田　やっと脱ごうかなってとこまできたのに（笑）。

KP　え!?　会場的にはOK!?

前田　じゃあ、ええやん!!

〈主催の池袋コミュニティカレッジ側が異例の延

AKIRA MAEDA

ホントにひと言もしゃべらなかった本誌・吉田豪は、そわそわと兄さんにプレゼントを手渡す（本文参照）。「あ！　初版本じゃん、これ!!　昭和27年の!!」。喜ぶ兄さん。無口でも金髪鬼の掴みはOK

長ＯＫのサイン。さすが、兄さん！〉

KP いやぁ、ここで延長なんて生まれて初めてですよ。キャバクラではよく延長するんですけど（笑）。

前田 いや、だからねぇ……。

KP もう話に入ってますね（笑）。

前田 人間っていうのはなんでもそうでね、人の熱が人を動かしてね。ファンが選手を動かしたりとか、選手がファンを動かしたりだとか、互いに影響しあってるんですよ。そのバランスとかリズムが崩れちゃうと、そのムーブメントっていうか、業界全部が衰退しちゃうんですよ。

●このあと、「最近の選手はカッコつけすぎ」という話。新日本プロレス時代にロープを飛び越えて（「ジョージが横飛びなら俺は中抜けだ！」と張り切って）リングインしようとしたら、足を引っかけて顔面から落ちたマヌケな姿が生中継でＯＡされた話をきっかけに、新日本の合宿所話へと転がりまくり、三度目の質問コーナーでは、趣味の読書についての質問、パンクラスに関する質問（兄さんの迫力に圧倒されたのか、聞きたいことがもっとあっただろうに、「あ、ありがとうございました」と中途半端で終わってしまった）が飛んだ。

KP そういえば、前田さんはターザン山本に謝罪文を書けって言ったんですよね。もしターザンが謝罪文を書いたら、前田さんは許すんですか？

前田 許しますよ!!

KP 許しきる!!　書かせたいですねぇ、謝罪文（笑）。

前田 でもねぇ、態度がダメですね。

〈場内、笑〉

KP 態度からなにから、すべてを改めて謝罪文にしたためて来いと。そしたら許す！　ということですね（笑）。

前田 そうですね。へっへっへ。

KP じゃあ、前田さんが許してくれることを願って、ボクも最後にいいことを教えてあげましょう！

前田 え？

KP 最初に前田さんが、「股を閉じなきゃ見えちゃうよ」って言ったお姉ちゃん。彼女はターザン山本が１０６通のラブレターを送った相手なんですよ！

前田 （いままでで一番デカい声で）１０６通!!

〈場内明るい喝采の拍手＆驚嘆の声！〉

KP どう思いますか？

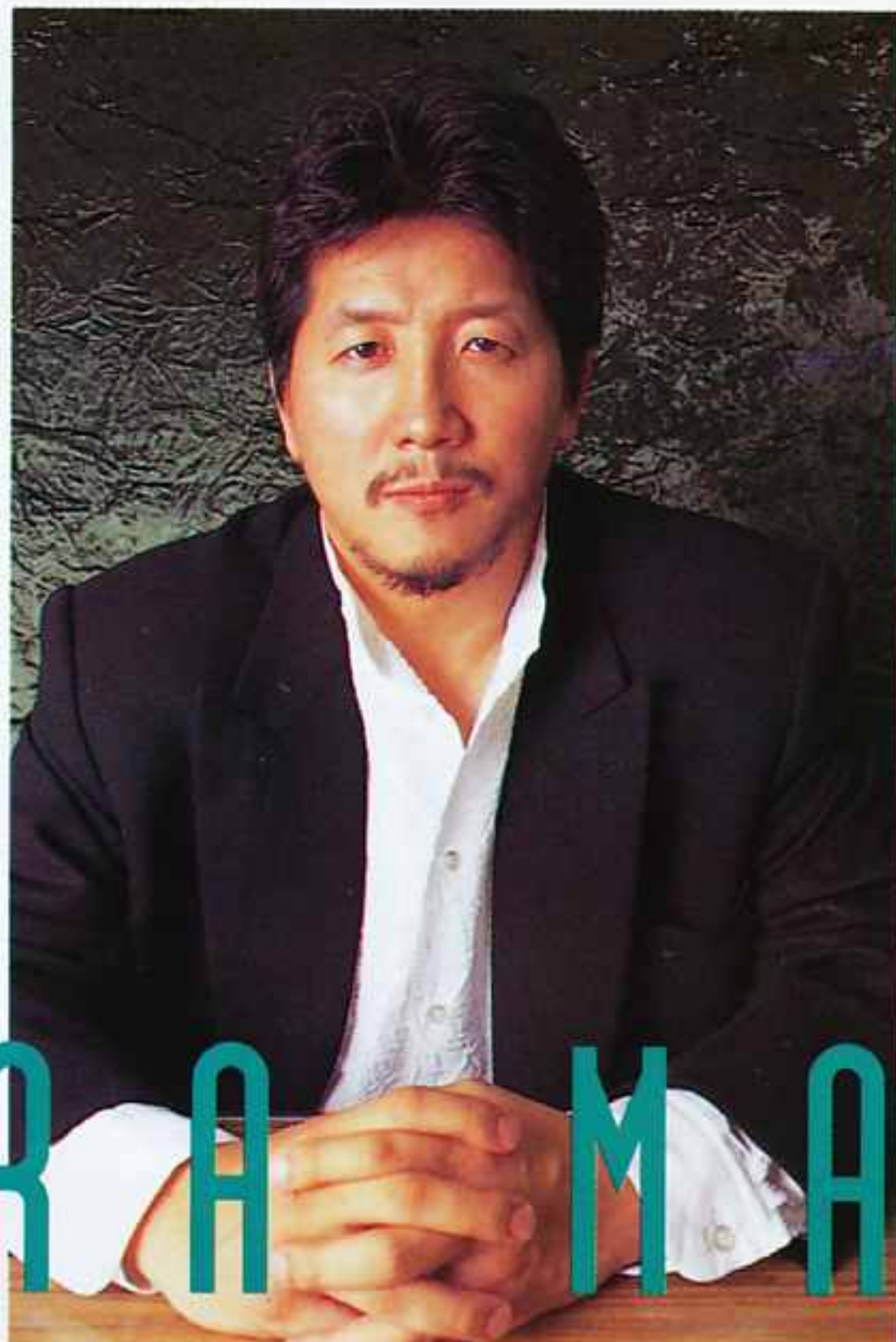
前田 いやぁ、俺も昔ねぇ、酒飲んで酔っ払ってね、ラブレター書いたこといっぱいあるんですよ（笑）。

KP ガハハハハハ！　書きましたか。

前田 もう、全部取り返したいですね！（笑）。それだったら１０６通くらいありますよ。穴があったら入りたいですね。

KP 前田さんも１０６通くらいあったんだ（笑）。

前田 書いてましたよ。初期の頃はねぇ、なんかねぇ、文章書けるっぽくしようとして、「なんとかでしょう」って書くところを「なになにでせう」って書いてましたね（笑）。

KP ガハハハハ!!　なんでそうやって〝中抜け〟しようとするんですか！（笑）。

前田 後で考えたら、えらい恥ずかしいですね（笑）。あと、よく高田の代筆やってましたよ。それはうまくいきました。

KP ゲ!?　それは向井亜紀さんですか!?

前田 向井亜紀の前やね。

KP うわぁ、それ前田さんが考えて書いてるんですか？

前田 そうですね。代書屋アキラ！　そんなマンガ描きたいですね（笑）。

KP おっともう９時35分過ぎちゃいました。最後に前田さん、集まってくれたみなさんに、ぜひひとことお願いします！

AKIRA MAEDA

8・11は「青空プロレス道場」の道場生にとって記憶すべき日となった。最後に日明兄さんを囲んで記念撮影。

前田 いや、ひとこともなにもないですよ。自分の見たこと感じたことに、素直にね。自分を省みる。それが自分の生きた証ですよ。で、自分が生きている場所にある、すべての風景に、ちゃんと向き合わないとダメだよね。インターフェイスですよ。全部首を突っ込んで、手で触って。セクシーアイドルでも、胸触らないとわかんない。でしょ？

KP 桜庭あつ子のことですか？（笑）。

前田 ホントに（笑）。俺のまわりの芸能マネージャーたちに、紹介しないでいい!!って言いましたよ。

〈場内同感の大爆笑〉

前田 絶対ヤダ！　俺にも美学はある！　ただのオッパイフェチじゃないぞと（笑）。

KP あれは凄かった（笑）。

前田 だから、なんかね、自分の抱いた印象とか、感覚とか、「なんでそう思ったんだろう？」っていうことを考えるべきですね。そうすると、そういう対象に対して、情とか愛おしさが湧いてくるんですよ。そうすると自分に不都合なことがあっても、理解できるし、わかるんですよ。そういうのがだんだん、人間の感性を熱くしてくるんだよね。だから、生きていて一番ダメなのが、無視するってこと。無視するんだったら、死んどけ！

KP 無視するんなら、死んどけ！（笑）。

前田 ヒステリーっていうのはね……。

KP いや、前田さん、もう時間がないですよ（笑）。ヒステリーの講釈はまた今度。

前田 でも、だから、みんな大いに役だってほしいね、大いに。

KP わかりました。え〜、今日は異例の延長でしたが、「英雄とは何か？」というテーマには半分も辿りつけませんでしたが、２時間30分。前田さんが来る前を入れると３時間という長い時間、ありがとうございました。前田さん、ゼヒ機会があったらまたやりましょう。

前田 何やってるのコレは？　毎日やってるの？

KP 毎日はやってないですよ（笑）。

前田 へェ〜。あ、そ。

KP 興味ないんなら聞かないでくださいよ！（笑）。ありがとうございました！

※そして吉田豪はホントにひと言もしゃべらなかった。

【８月11日／池袋コミュニティカレッジにて収録】

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!

YASUHITO NAMEKAWA

リングに上がったら誰にも負ける気がしないっスから!

Rings Japan
滑川康仁

大リングスコールが会場を渦巻いた6・24リングス後楽園大会。その原動力となったのは、高田道場の豊永稔に完勝した滑川康仁の豪快な吠えっぷりだった。デビュー戦以来の対戦となる豊永相手に、滑川は周りの声など気にせず、フロントネックロックで一気に勝利を奪い取った。試合後もその勢いは止まらず「彼のレベルで競ってられない」「もっと上の選手と闘いたい」など景気のいい言葉がポンポン出てきた。これからの滑川は一押しだ! と思った矢先の8・19横浜大会での上山龍紀戦は膠着の続くおとなしい試合となった。どうした滑川! どんと行け!!

聞き手/チョロ interview by Choro　撮影/黒田史夫 photographs by Fumio Kuroda

8・19横浜文化体育館『RISE 5th』
○上山龍紀 (ポイント判定 1−0) 滑川康仁●
気持ちのいい強気な発言を連発していた"リングスの超新星"滑川康仁だったが、8・19横浜大会では上山龍紀に敗退。どーする滑川!? 突っ走れ滑川!!

――もうだいぶ経ってしまったんですけど、豊永（稔）戦（6・24後楽園）は素晴らしい試合でしたね。結果も出せませたし。

滑川　あ、ありがとうございます（照）。

――試合後も「年齢的に時間がないっていう危機感や焦りがある」とか「彼のレベルで一緒に競ってられない」とか強気な発言も連発してて、これからのリングスは滑川康仁の時代かな、と思って話を聞きに来ました（笑）。

滑川　そ、そうなんですかぁ（笑）。でもこの間の豊永戦に関しては、（強い口調で）絶ッ対に負けられないって気持ちがあったから、試合中に文句言われるだろうなとかも最初から思ってたんですよ。（申し訳なさそうに）ただ、試合後に「一緒のレベルで競ってられない」とか言ったのは凄い反省してます（苦笑）。ボクは憎しみとかは全くないですから。

――焦りとか、そういうことの方が強かったわけですか？

滑川　焦りもありますけど、若いのが羨ましいのもあって（笑）。

――ヒャハハハ。若さが羨ましい（笑）。

滑川　でもやっぱ、ライバルに対してのエールですよね。だから今度は向こうが言う番じゃないですか。でも、ボクは言わせないために、また負けないように練習をして、そうしたらお互いに向上できるんですよ。

――エール交換がしたかっただけだと。デビュー戦の相手でもありますからね。

滑川　デビュー戦の時は、事務所の人から「デビューが決まったよ」って言われたんだけど、全然実感湧かなくって、いろいろ考えてたら、（前頭部を指差し）この辺がハゲてきちゃったんですよ（笑）。

――それは考え過ぎですよ（笑）。

滑川　だから、その時の写真見ると辛いッスね（笑）。それでボクは、スタミナがスッゴイ自信あったんですけど、試合やってみたら全ッ然動けないんですよ！

――試合後も「納得できない。こんな悔しい思いはしたくない」って言ってましたね。

滑川　ホントにエキスパンダーとか付けて殴ってるような感覚だったんですよ。それにグラウンドになると水の中でやってるような感じで、全ッ然動けなかったんです！　それがすっごく悔しくて。

――エキスパンダー付けてる割にはかなり動けてましたよ（笑）。

滑川　先輩よりもスタミナあると思ってたんですけど、先輩の方が悠々と動いてるんですよ。「なんでボクは動けないんだ！」ってズ～ッと考えてて。ボクは緊張もしなかったし、とにかく早くやらしてくれって思ってたんで。誰とやっても勝てると思ってましたから。負ける気は全ッ然しなかったです！

――その気持ちはデビュー戦から今でも変わることはないんですか？

滑川　今でもそうですね。（小声で）でも正直言って（ヴァレンタイン・）オーフレイムとかはちょっと怖いかなとか思うんですけど（苦笑）。だけど今度の試合（8・19横浜）は上山（龍紀）さんとじゃないですか。上山さんとやるぐらいだったら（ビターゼ・）タリエルとやらせてくれって、そんな感じですよ！

――「もっと上の方の選手とやらせて欲しい」って言ってましたからね。

滑川　実力差がそんなにない中で、片方が堅く守りに入ったら極めようがないんですよ！　だから（ハンス）ナイマンとかタリエルとかとやって豪快にブッ飛ばされた方が気持ちいいんですけど。

――ヒャハハハ。何もブッ飛ばされることはないじゃないですか（笑）。

滑川　ただ、ボクがリングスファンだったら滑川vs上山のカード見たら「疲れるカードだな」って見ると思うんですよ（笑）。でも今度の試合は勝ち負け関係なくやりますから！　恨みも残ってるんですよ。

――恨みですか！　また物騒ですねぇ（笑）。

滑川　前田さんの引退試合での1試合目がボクと上山さんだったんですけど。第1試合って凄く大切じゃないですか？　そういう気持ちがお互いになきゃダメなのに、なんか向こうは「勝つ気あんのか？」って感じで、見てる人は絶対つまんなかったと思うんですよ。

――滑川さんは、試合展開に苛立って飛び蹴りとか出してましたよね。

滑川　はい。それに試合後に上山さんは自分の立場をわかってないようなコメントを出してて。「スタミナなくなるのを待ってた」とか。上山さんは全部カメになって逃げるからやりようがないんですよ。確かにそれを崩せないボクも悪いんですけど。だから今回は最初っからキレてやりますよ！

――それは俄然楽しみになってきました（笑）。注目の滑川vs上山戦ですね。

滑川　目に指入れるとかは絶ッ対しないッスけど、そんぐらいの勢いを持ってやりますよ！　ボコボコにしてやるって思ってますから！（小声になり）でもリングを降りると、たまたま昨日も一緒にチャンコ作ったんですけど、同じ若手同志なんで普段は仲がいいんですよ（笑）。でもリング上の上山龍紀は許せないですね。ボクは全然負ける気はしないッスから！

――他の日本人で意識してる選手っていうのは誰かいますか？

滑川　別にいないッスね。ボクは海外で2試合してるんですけど、リングスのブランドっていうか、みんなロゴマークは同じで、その土地土地で盛り上がってるんですよ。そんな団体なんてウチだけじゃないですか。だからそこの若手同士ガンガン当てて欲しいです。

【6・24後楽園ホール／vs豊永稔】勝利を収めた滑川は、珍しくコーナーに駆け登りガッツポーズ。「最初に一発ガンってもらって、損したなって感じですね。普通ならボクが最初にやるんで」「試合中に客席から、『滑川、ヘタクソ』って聞こえたんですけど、『言ってろ！』って感じでしたね」など、試合後、滑川はイキのいい発言を連発した。

ボクは力道山さんの生き方が好きなんですよォ！

上の選手とも当てて欲しいけど、若い奴等ともガンガンやりたいです！ 以上です。

—以上ですか（笑）。滑川さんって高校時代はラグビーをやってたんですよね。

滑川 そうッスね。ボクは普段はおとなしいんですけど、リングスでもそうですけど、試合になると違う人格が出てくるんですよ。もの凄く熱くなるんですよ！

—二重人格ですか（笑）。そもそもラグビーは何でやろうと思ったんですか？

滑川 ボクのお父さんが地元の高校の体育教師なんですよ。花園に何回も行ってる高校で、そこに遊びに行く度に「お前はラグビーやれ！」って言われてたんですよ。でもボクは絶ッ対やりたくなかったんですよ（キッパリ）。

—反抗期だったんですか？

滑川 いや、タックルマシーンにガンガンタックルするじゃないですか！ あんな痛そうなの絶ッ対やりたくないって思ってたんですよ。話は変わりますけど、ボクは小学校3年生ぐらいからプロレスが大好きで（笑）。

—じゃあ、ファン歴は相当長いですね。

滑川 だいぶ前からです。ボクは『キン肉マン』の影響なんですけど（笑）。大好きだったんですよ！ それでプロレスの本とかも買うようになって、プロレスの練習は厳しいっていうことは子供なりに理解できたんですよ。だからボクは、プロレスとラグビーだけは絶ッ対にやりたくないと思ってました。そしたら二つともやっちゃってて（照笑）。

—ヒャハハハ。その頃はやっぱり前田さんのファンだったんですか？

滑川 ボクは気が強い人とか凄い好きなんですよ。でも今はボクの師匠なんで、思い出すと……（体をブルブルさせ）こ〜う震えますね。写真とかでも、前田さん、長州さん、猪木さん、あと力道山さんとかを見ると怖くなりますね。も〜う、凄い厳しい方じゃないですか！ 自分の甘さが恥ずかしくなって、もっと練習しなきゃと思いますね。

—力道山にも影響されてたんですか！ それはまた意外でしたねぇ。

滑川 もうボク大好きなんですよォ！ 力道山ビデオも持ってますから。あんまり人には言ったことないけど（照笑）、ボクは力道山さんの生き方が好きなんですよ。ボクもあんな生き方をしたいッス。

—その辺は、師匠でもある前田さんにも通じるところがあるんでしょうね。

滑川 通じるかは、ちょっとわかんないですけど。それで、高校に入ってラグビーやってる連中がみんなプロレス好きで、よくリングスのビデオを回して見てたんですよ。

—その頃から、「高校卒業したらリングスに入ろう」って思ってたんですか？

滑川 全くないですね（キッパリ）。ボク、19歳の春まで、1回もプロレスラーなりたいと思ったことないですよ！

—19歳の春に何かがあったと（笑）。

滑川 （恥ずかしそうに）はい。親父が学校の先生だったせいか、ちっちゃい頃から「大学にいかなアカン！」みたいなとこがあって。でもボクは字読むのが大ッ嫌いなんですよ！

YASUHITO NAMEKAWA

滑川康仁【なめかわ・やすひと】1974年10月27日、茨城県北茨城市出身。本名・滑川恭史。平成10年6月20日、後楽園ホールでのvs豊永稔戦でデビュー。判定はドローとなったが、滑川自身は勝利と捉えている。デビュー9ヵ月でメインイベント（しかもイギリスマット）を務めたリングスの超新星。滑川は自称モデルと言うだけあってリングスのパンフではキャラクターグッズのモデルを務めている。181cm、90kg

—ヒャハハハ。そうなんですか（笑）。

滑川 それなのに大学なんか行けるはずないじゃないですか（笑）。でも一応、予備校に通ってたんですけど、ホンット何にもやんなかったんですよ！

—ヒャハハハ。何もやらない（笑）。

滑川 当然受験は失敗しました。もう親とかもあきれちゃって。ボクもやる気ないのに何でこんなのやらされるんだろうって思って。全然やる気ないんですよ！ それで二浪目が始まって、19の春が来たんです。……恥ずかしくて言いたくないんですけど、言った方がいいんですかね？

—この際だから言っちゃいましょうよ。

滑川 いや、やっぱり恥ずかしいんで言いません（笑）。でもボクは、19歳の春に「プロレスをやってやろう」と思ったんですよ。（小声で）でも、それから12月まで何もしなかったんです（照）。

—またもや何もせず（笑）。でも12月からは何かを始めたわけですね。

滑川 12月に浅草に行ったんですよ。

—プロレスラー志望で浅草っていうと、当然（アニマル）浜口さんのとこですよね。

滑川 そうです。やっぱり有名だし名門じゃないですか。でもここに入ればなれるっていう甘い考えはなかったですけど。

—いきなりどこかの団体テストを受けるっていう気持ちはなかったんですか？

滑川 それは絶対無理だと思いました。ボクは「レスラーになろう」って思って練習始めたんですけど、スクワット50回でダウンしてたんですよ（笑）。

—どう考えても無理ですね（笑）。

滑川 一人じゃ全然できないから、みんなで盛り上がってる環境に入りたいと思って浜口ジムに行ったんですよ。ボクは体力は全ッ然なかったんですけどスパーリングだけは自信があって。今プロレスラーとしてやってる同期も結構いたんですけど、ソイツらに極められた記憶はたぶんないですから（笑）。

—たぶんないですか（笑）。当時の浜口ジムにはどんな人がいたんですか？

滑川 田中（現・マッハ純二）さんに教えてもらっていて、あと本間（朋晃）とか、SUWAとか、瀬野（優）と、新日本の井上（亘）さん、岡本（魂）さん、大日本にいた笛田（越後雪之丞）、山下（義也）とか。他は忘れちゃいましたけど（笑）、結構いるんですよ。

—今になってみると豪華ですねぇ。浜口ジムにはどれくらいの期間行ってたんですか？

滑川 1年と8か9ヵ月ぐらいですね。入ってから11ヵ月後に第一回のアマチュアリングスに出たんですけど、ボク1回戦で足首の靭帯切っちゃったんですよ（笑）。

—えっ！ 靭帯切っちゃったんですか？ それじゃ、しばらく練習できないですよね。

滑川 でも、靭帯切って、田舎に戻って治してきてから、ボクは猛練習し始めたんですよ！

—やっと猛練習を始めたんですね（笑）。

滑川 ホント、靭帯切ってからスッゴイ練習して、も〜う休みもほとんど取んないで、朝練習して、仕事行って、夜もかなり練習して。スクワット1日1500回とかやってたんですよ。ホント怪我してからは自分で言えるぐらい練習しましたね。それでボクは勝手に8月にリングス受けるって決めてたんですよ！

—募集もしてないのに勝手に決めちゃったんですか（笑）。

滑川 はい。それでボクは、入門テストの6日前に交通事故に遭ったんですよ！

—アラッ！ ツイてないですねぇ（笑）。

滑川 ツイてないんです（苦笑）。おかんと車乗ってたら追突されて。それでボク、ムチウチになっちゃって、そのままテスト受けたん

ですよ。でも、そういうの人に喋ると同情されちゃうじゃないですか？　ボクは甘えん坊だから、（浜口）会長にも黙ってたんですよ。

――それは甘えん坊じゃないですよ（笑）。でも、ムチウチは入門テストに耐えられるぐらいのケガだったんですか？

滑川　いや、結構重傷でした（笑）。入門してからも一歩歩く度に響いてましたから（笑）。それで、あとから聞いたんですけど、ムチウチって最初の治療が大切らしいんですよ。

――じゃあ一番大切な時に……。

滑川　ブリッジしてました（笑）。それでボクは入門テストの時ブチ切れたんですよ。

――何でまた入門テストでブチ切れる（笑）。

滑川　何だかわからないけど、ブッ飛んだんです。一緒に受けた他の4人に対して怒鳴り散らしたんですよ。ボクは1回ラインを越えると、周りが見えなくなって恥ずかしさとか何もなくなっちゃって。ラグビーやってても、夢中になると周りが見えないから、パスしないんですよ（笑）。

――団体競技には向いてないですね。それにタッグマッチも無理だ（笑）。

滑川　そうなんですよ（笑）。入門してからも「お前元気ないな」ってよく言われてて。「入門テストの時の元気はどうした?!」って注意されるぐらい凄いブチ切れちゃって。そうしないと首の痛みが耐えられないと思ったんですよ！　でも一応合格したんで良かったです。

――滑川さんがリングスのテストを受けようって思ったのは、前田さんがいたからっていうのが大きいんですか？

滑川　ていうか、リングスでは世界中のヤツとやれるし、一番強くなれるのはここじゃないかと思って。他のU系団体を悪く言うわけじゃないですけど、他は自分達でレスリングスタイルを作り上げてる時期に見えたんで。ボクは、リングスの外に目を向けて強いヤツを取り込んで、一番強いヤツを決めるっていうのが魅力的だったんで。でもU系のシビアなスタイルはみんな大好きでしたね。

――浜口ジムでのスパーリングは自信があったみたいですけど、リングスで通用する自信はあったんですか？

滑川　あったんですけど、全然通用しなかったです。それはわかってるつもりで入ったんですけど、ここまで差があるのかと思い知らされました。浜口ジムにもボクより強いヤツがいたんですけど、ソイツはプロレスラーになってないから、今いる同期には一応負けた記憶はないってなってるんですけど（笑）。

――負けた記憶はないんですね（笑）。

滑川　いや、記憶がないだけで負けたこともあると思います（微笑）。ただ、ボクは格闘技経験がなかったんで、スパーリングは勘でやってたんですけど、勘でやってもスパッスパッと極ってたんですよ。

――ヒャハハハ。勘だけでは対応できないくらい前田道場はキツかったわけですね。

滑川　入門して2時間ぐらいで逃げようかと思いましたから（苦笑）。もう寮の猫の毛が凄いんですよ！　坂田（亘）さんが飼ってた猫なんですけど。

――ヒャハハハ！　猫が原因か（笑）。

滑川　それでボク、喉に毛が詰まっちゃって、あと目がかゆくなって、鼻水も止まらなかったんですよ。もう苦しくてしょうがなくて（苦笑）。3日間ぐらいロクに眠れなかったんですよ。それで「もうダメだ！」とか思って。

――どうやって解決したんですか？

滑川　掃除したら何とかなりました（笑）。

――ズコッ！　またアッサリ解決しましたね（笑）。でも滑川さんは逃げ出すことなく、よくデビューまでこぎ着けましたね（笑）。

【98・10・23愛知県体育館／vs成瀬昌由】当初、山本健一（現・喧一）とのカードが組まれていた滑川だったが、ケガのため急遽、成瀬との対戦となった。ゴングとともに「ブッ潰す！」モードに突入した滑川は、アキレス腱固めでエスケープを奪うなど健闘したものの、最後はアームロックで成瀬が勝利を収めた。山喧との対戦も見たい。

滑川　ボクは基本的に弱いんですよ。逃げる勇気がなかったんです。何回やめようと思ったかわかんないッスよ。ボクはなんでこの世界に入って、何を求めてるかっていうのがホントに忘れたっていうか、わかんなくなったんですよ！　思い出せなくなったんです!!

――今も思い出せないんですか（笑）。

滑川　今はさすがにわかりますけど（笑）。何でここにいるのかがわかんなくて。

――ヒャハハハ。それは打たれ過ぎたとかじゃないんですか？

滑川　いや打たれたんじゃなくて（笑）。「ここにいてボクはどうなるんだろう？」とか「いる価値があるのか」と、目標を失って、前が見えなくなって…。それで毎日毎日シゴキみたいのを耐え抜いて、この先に何があるんだろうって。喜びとかあんのかなとか思って。

――いろいろと葛藤があったんですね。

滑川　あの時は辛かったです。でも、親とかも凄い期待してるから、ボクが逃げちゃったら悲しむだろうなと思って。それで残ったんですけど（苦笑）。

――いろんな試練を乗り越えて今日に至ったわけですね。やっぱり精神面も含め強くなったっていう実感はありますか？

滑川　ボクは試合やる前って、誰と組まれても負ける気はしないんですよ。勝つって気持ちばっかり先行して、プロとしての在り方を忘れてる時期もありましたけど、今は勝ち負けなんてあまり考えないって感じで、やりたいように動けたらいいと思ってますから。

――最近はスパーリングは主に誰とやってるんですか？

滑川　この間は、田村（潔司）さんともやりましたし、ボクは全員とやってますね。

――それって、他の選手や団体ではなかなかないですよね。上の方の選手になればなるほど、スパーリングする相手を選ぶようなところがあるじゃないですか？

滑川　ボクは、泣き言いいますけど…。

――泣き言でも何でも言って下さい（笑）。

滑川　ボクは一番下だから自分の反復練習ができないんですよ。やられるだけなんで。キックのコーチのエッディーさんを実験台にするくらいですよ。そういう意味で下の人間が欲しいんです。今のままじゃ極めの技術が上がらないんで。（しばらく考え込み）あの～今日はいろいろ面白い話を考えて来たんですけど、一個も出せないですね（笑）。

――面白い話聞かせて下さいよ（笑）。

滑川　それが忘れちゃったんですよ（笑）。

――ヒャハハハ！　何でも忘れちゃいますね（笑）。話は飛びますけど、滑川さんはバーリ・トゥードとかは興味ありますか？

滑川　いやボクはリングスが好きなんで、バーリ・トゥードはあんまり興味ないです。

――グローブとかつけての練習はしてるんですか？

滑川　やってるっていうか、やられてますけど（笑）。

――ヒャハハハ。やられ役専門（笑）。

滑川　どっちかっていうとボクは、バーリ・トゥードとか外に目を向けるより、田村さんみたいな考え方なんで。リングス内で充実した試合をしていきたいですね。

――ということは最終的に目指すのはリングス無差別級チャンピオンになるわけですね。

滑川　そう……かなぁ（笑）。ボクは取りあえず強くなりたいです。（小声で）それより、もう3年になるんで、今は早く雑用を卒業したいですね。ニンジン切りながら「ニンジン切ったって、強くなんねぇよな」と思っちゃうんですよ（笑）。

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!

強い人にとにかく勝ちたいんですよ！ やりたいんじゃなくて勝ちたい!!

──ニンジンを切りまくって強くなったっていう話は聞かないですからね（笑）。

滑川　外に出ても道場の冷蔵庫の中身とか考えちゃうんで、そういう気の使い方も嫌ですよね（苦笑）。でも下が入ったら入ったで、下にも上にも気を使わなきゃいけないから、病気になるんじゃないかと思いますけどね（笑）。

──ヒャハハハ。滑川さんは、性格的に変に気を使いすぎるところがあるんでしょうね。

滑川　あ〜、あるんですよ。

──でも、リングに上がれば豹変しますからね。この間の豊永戦でもコーナーに登ってガッツポーズしてましたし（笑）。

滑川　ボクは絶ッ対コーナーポストに上るようなヤツじゃないと思ってたんですけど（照）。ボクの本能が目立てて嬉しいって思ったんでしょうね。

──また二重人格か（笑）。滑川さんは出稽古とか行ったりしてないんですか？

滑川　行ってないですけど、ボクはボクシングがやりたいッスね。あとはアマレスを教えてもらいたいですね。

──タックルとかは主に誰に習ってるんですか？

滑川　山本（宜久）さんとか金原（弘光）さんとかですね。でもリングスに金原さんと和田（良覚）さんが入ってからだいぶ変わりましたね。今まで教わった先輩にはもちろん感謝してるんですけど。あのお二人には凄い感謝してますね。

──金原さんのことは、他団体の人も評価している人が多いですからね。

滑川　ホントに金原さんの技術は凄いですから。あとボクは、桜庭（和志）さんともスパーリングさせてもらったんですけど、やっぱり凄いですね。桜庭さんは、面白くて巧くて強いんでプロとして最高じゃないですか。道場での練習みてても凄く面白いんですよ。一回、高阪さんとスパーリングやった時があって、和田さんと「ビデオ撮ったら売れるかなぁ？」って話してたんですけど（笑）。

──それはゼヒ見たいですねぇ。それじゃ最後に、今後のリングスでの滑川さんの目標を聞かせて下さい。

滑川　先輩に勝つってことですね。

──自信も相当ありそうですからね（笑）。

滑川　今はないッスけど（笑）、直前になったらそのつもりでやります！（小声で）でも、誰とやっても押さえ込まれちゃうような感じもするんですけど（笑）。

──それじゃダメじゃないですか（笑）。

滑川　成瀬（昌由）さんとやった時も、正直言ってビビッてたんですよ。でも、リングで向かい合った時には「ブッ潰す！」っていう気持ちがメラメラと燃えてきて、飛びかかっていったんですよ！

──さすが二重人格（笑）。そういえば、その成瀬さんが「滑川は先輩の前だとあまりも話さないけど、俺らがいないとこだと饒舌らしい」って言ってましたよ。

滑川　そうなんスかねぇ？　でも実際今そうですもんね（笑）。今日もここに来る前に成瀬さんから「お前ちゃんと喋れるのか？」って言われて、「アフロでも被ってごまかします」って言ってきたんですけど。でも、やっぱり話そうと思ってたこととか全然話せないですね。

──遠慮せずに話して下さいよ！

滑川　（しばらく考え）あの〜、ボクは猫背なんですけど、実はボクの猫背は誇りなんですよ。何故かって言うと、ボクは物心ついた頃に、川崎病に似た病気になって、医者には「外の風にもあてさせてはいけない」って言われるほど体が弱かったんですよ。

──それって重病じゃないですか？

滑川　重病です。それで喘息にもなって毎晩毎晩死ぬ思いをして眠れなかったんですよ。それを親の看病とかがあって、人並に育ってきて、こうして今はプロになれたじゃないですか。だからカッコいいこと言えば、喘息で苦しんでるガキンチョ達の励みになればいいなと思ってるんですよ。その時の苦しみがボクの背中にあるんです。

──いろんなものを背負って、猫背になったんですね。それはいい話ですね。

滑川　あとボクは、強いって言われる人に勝ってないから、強い人に勝ちたいッスね。年齢とかよりも、そっちの焦りが強いです。強い人にとにかく勝ちたいんですよ！　やりたいんじゃなくて勝ちたい!!　以上です（笑）。

【7・29、下北沢『シャノアール』にて収録】

YASUHITO NAMEKAWA

■取材協力『Blue Heaven Pools』今回アフロ姿の滑川選手が着ている服はこの店のもので、他にもオリエンタルな衣類、アクセサリーなど抱負に揃っている。このお店の店長の福建慈氏は滑川選手の良き兄貴分でもある。タイミングが合えば滑川選手に会えるかも。東京都世田谷区北沢2−33−12仙台屋大廈二楼　TEL03・3468・2777

8・19リングス横浜大会 上山龍紀戦後の滑川のコメント

「『紙プロ』さんに、でかいことばっかり言ってたんですけど、そんなこと言えないですね。ボクも前田さんにピータースとやりたいとか、いろんな奴とやりたいとか、アホなこと言ってるんですけど、そんな資格ないかも知れないですね。でも、絶対これをマイナスにしないでプラスにしたいですね。今まで勝ちの方が多かったから、ちょっと自分で過信してたところがあったんで、いい薬になりましたね。ルールは把握してたつもりなんですけど、やってる最中ポイント数えちゃって、甘い考え起こして、1ポイントずつで同点だと思って、もう最後は極めることだけ考えてたんですけど、お客の声だかセコンドの声だかで、「負けてるぞ！」って言われて、凄い焦りましたね。今はもう誰とも顔合わせたくないです。反省してます。上山さんは正直凄い強かったです。自分が弱かったです。以上です！」

●

集まったマスコミ陣の前でいきなり発売前の『紙プロ』インタビューに対してコメントする滑川（まだ誰も見てないって）。確かに、リング上での上山に対して辛辣な発言をしていた滑川だったが、この日の試合では結果を出すことができず。坂田も試合後「滑川もいろいろとケガもあって大変だと思うけど、今日のあいつの試合からは若さが感じられないし、あれじゃバーリ・トゥードです。ウチらのスタイルはドンドン動いていく気がなかったらダメ。ポジションは確かに出来てるかも知れないけど、あれじゃ全然ダメ。下が入ってきたら教えなきゃいけないのに立場なのに、あんなんじゃダメですよ！」とキツイ言葉を残した。滑川自身も全試合終了後、「ダメな試合をしてしまったのでドンドン叩いて下さい」と大いに反省の模様。今回はダメだったが、次回こそは強い選手をブッ飛ばしてくれるはず！　頼んだぞ！〝リングスの超新星〟滑川康仁。リングスの未来はお前にかかっている!!

エンセン井上の入場テーマ曲がCDになった

本誌独占のエンセン井上ネタ満載!!

大和魂情報局

『PRIDE．5』で初めて使用して大いに話題を呼んだ、衝撃の名曲『CHANT OF THE ISLAND』が、このたびvapからＣＤ化されることになった。ちなみに、『PRIDE．5』での入場テーマ曲は女性ボーカル（本誌NO.18で独占読者プレゼントをした）だったが、今回はメインボーカルに「PUREBRED　グアム」ジムの弟子・ユライヤ君（20歳）らを起用した男性ボーカルになっている。さらに今回のＣＤにはコーラスとして超豪華面々が参加している。ざっと挙げてみるとエンセン井上、佐藤ルミナ、桜井マッハ速人、朝日昇、大槻ケンヂ、サダハルンバ谷川etc.修斗のトップ選手とエンセンを応援する著名人が大集結した力強いものになっている。以前は、「入場テーマのＣＤが出ても歌いたくない」と言っていたエンセンだったが、スタッフが懸命に曲作りを行う過程を間近で見て心が動いたようだ。「伊豆で曲を作ってる３日間で、みんなの真剣さで心動いた。でも、オレは歌手じゃない！　ワタシの仕事はリングの中だから」さすがエンセン、本業のアピールも忘れていない。

というわけで、入場テーマ曲の他にもエンセン作詞のラブ・ソングや修斗君の声やエンセンからファンに対してのメッセージなども入っており、伊豆で撮影した特製ブックレットまで付いて、エンセン、エンセン、エンセン三昧!!な内容になっている。さあ、これを聞いて、キミも大和魂を注入しよう！

レコーディングは修斗のトップ選手が集まって行われた。歌手じゃないエンセンはかなりテレていたようだが、やっぱりノリノリだった。

『大和魂（ヤマトダマシイ）』音楽／E-FORCE　vapより９月22日発売！（ＶＰＣＣ-８１３１３　¥1800）

エンセンの思い出がたっぷり詰まった『合宿所』売ります!!

拳のケガも順調に回復中のエンセン。『PRIDE．7』での対戦相手も正式に決まり、練習もキツくなっているらしい。ホームグラウンドのPUREBRED大宮、キックボクシングの渡辺ジム、レスリングの青山学院大学、ウェイトトレーニング・ジム『サンプレイ』といったトレーニング場を次から次へと移動しながら、復帰へ向けてコンディションを高めている。

そんなエンセンの充実した日々の生活の足となり、ときには〝家〟となり〝合宿所〟となっていたのがこのワゴンだ。この車には、総合格闘技のトップ選手への階段を登り詰める間エンセンが流した血と汗と涙と修斗クンのニオイが染み着いている。試合前になるとエンセンは家に帰る時間やトレーニングの合間の時間を惜しんでこの車で暮らしていた、というのはあまりに有名なエピソードだろう。激しい練習の後、公園の水道でシャワーを浴びて、修斗クンを抱いてこの車で眠る――エンセンはここで大和魂を培ったのだ。

そんなワゴンをエンセンはこの度、手放すことにした!!

車と共に自分もランクアップを目指すエンセンは、この車をいま『紙プロ』を読んでいる、そしてエンセンのことを応援してくれているアナタに買って欲しいとのこと。エンセンのことを全然知らない人に譲るよりも、エンセンのファンで、なおかつ大切に扱ってくれる人に譲りたいのだという。ファンを大切にするエンセンならではの大サービス!!　いまのエンセンの大活躍ぶりと知名度を考えれば、将来プレミアが付くこと間違いなしの超目玉物件!!　どこにいても目立つカッコいいボディーはエンセンが自分でステッカーを張りまくったもの。世界に２つとない、超貴重な車である。この機会に夢のワゴンを手に入れてみたい人、エンセンの大ファンで是非とも欲しいという人は下記の電話番号まで気軽に連絡を入れてみよう。

エンセンと修斗クンが暮らした合宿所を手放すのだから、ファンにはまたとないチャンス!!　気軽に問い合わせてみよう!!

●エンセン井上からのメッセージ

「たいへんな練習の間、この車で過ごしたネ。少しセンチメンタルだけど、出来れば大切にしてもらえるファンの人に使ってもらえればと思います」

『PRIDE．7』出場決定

シューティング　**エンセン井上**（日本）vs 柔術＆ボクシング　**トゥリー・クリハーパイ**（トンガ王国）

エンセンの相手は未知のトンガ人ファイターで１８８センチ１１３キロの巨漢!!　柔術、ボクシングの経験があり、特にボクシングではプロ17戦16勝だという。尚、ルールは８月28日現在未定である。

【車種】トヨタ　ハイエース（ステーション・ワゴン）平成６年型
【排気量】３０００【燃料】軽油【走行距離】１４００００km

前　後
左　右

【価格等のお問い合せ先】イーフォース・ジャパン（TEL・047-378-6400）酒井まで

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!

撮影／斉藤ユーリ（高田延彦）
photographs by Yuri Saito
聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo
ヘルプ／トイレの大西さん（仮）
help by Toile no Onishisan

「バーリ・トゥードというルールだからこそ〝なんでも〟できると思う（不敵な笑み）」

アレクサンダー大塚
大一番直前INTERVIEW

この一戦の意味を読みこめ

9.12『PRIDE.7』高田延彦戦実現!!

アレクは7月にプエルトリコ&メキシコ短期武者修行から帰国した。それ以来、ある種物騒な話題を含め、アレクの周辺にはサザ波が立ち続けている。

そんな折り、8月22日のバト札幌大会のリング上。『ヤング・ジェネレーション・バトル99』の公式戦で石川雄規と当たったアレクは、何かをフッ切るように、再び『PRIDE』出撃の衝撃発表をした。

しかも相手は"新日本神宮大会ドタキャン疑惑"の真っ直中にいる高田延彦!（『PRIDE』側は8月24日の記者会見で正式発表）

札幌では地鳴りのような大歓声で迎えられたこの衝撃発表だったが、正直言って、その後、一部のファンの間に戸惑いが見えたのは否めない。

『PRIDE』のリングは、これまで「プロレスvs格闘技」「プロレスvsグレイシー」「プロレスラーvs柔術家」「日本vsブラジル」など対立概念がハッキリしていたため、応援するにしても、ファンにとってはどちらかに感情移入しやすかった。それがあったから『PRIDE』のリングは熱を帯びたともいえる。

その流れからすると、今度はどっちを応援していいかわからないという戸惑いがファンの側に見え隠れしているわけだ。

確かに、高田延彦は昨年のヒクソン・グレイシー戦を前にして、マルコ・ファスの元で修行を積んだ。そのマルコの首を獲ったアレクへのリベンジという対立概念も成り立つことは成り立つ。しかし、高田・アレクには特別な因縁があるわけでもない。高田道場vsバトラーツの抗争というイメージも描きにくい。

しかし、この一戦を、「同じジャイアンツというチーム同士の紅白試合」的なイメージのみで捉えるのは、プロレス者としてはいただけない。

この一戦は、「純プロレスラー同士のバーリ・トゥードとは何か?」「バーリ・トゥードの中のプロレスとは何か?」という実に難解だが興味深いテーマを含んでいるのである。

「純粋な勝負論」と「観客論」。

「勝負師」と「プロフェッショナル」。

相反する両輪が転がるのか否か――?

どちらが勝ち、どちらが負け、その闘い模様からは何が伝わってくるのか――?

そこで、アレクが札幌で発表する前に、高田・アレク戦実現の情報を掴んでいた本誌は、札幌大会2日前にアレクをキャッチすることに成功!"会社批判"の話題も含め、緊急インタビューを敢行した。

そこでアレクは「高田戦を見に来なかった人を後悔させるような試合をする」と言い切った。

9・12、横浜アリーナ。試合後に"AO CORNER"は響きわたるか――。

んむはぁ。

――ズバリ言って、「高田延彦とやりたい」と思い始めたのはいつ頃から?

Alexander Othuka

アレク 日本に帰って来てからですね。『PRIDE』に出ないか、というオファーが来てからです。最初は「できれば外人選手で、対戦してみたい選手を言ってくれ」って言われて。ボク的な立場だと、人によっては「天狗だ」と思ってる人もいるだろうけど、でも、ボクがプロレスラーとして今後成長していくための道順として、外人選手とやる必要はないなと思って。バーリ・トゥード（以下、VT）の試合自体、前に言った通り、マルコ戦をやれば、勝っても負けても、もうやらないと思ってたんですよ。もし、もう1回だけやるんだったら、ヒクソン・グレイシーっていうのしかなかったんで。

――それは海外遠征の出発前日にも言ってましたよね。じゃあ、ズバリ聞いちゃうと、高田延彦と闘いたいという真意はなんなんですか?

アレク ボクのプロレスラーとしての評価をもっと上げていくためには、高田選手っていうのはいい素材なんじゃないかなって。

――高田延彦というレスラーは、どういうイメージ?

アレク イメージ……。

――まさかデカビタ?（笑）。

アレク んむはぁ（笑）。でも、やっぱりトップスターですよね！　自分の団体ではもちろんのこと、他団体でも東京ドームクラスの大きい会場でメインを張るぐらいのスターとしての能力を持ってる。プロレスラーとしての技術的なものも備えてるし。

――でも、昔から憧れの存在というわけではなかったでしょ?

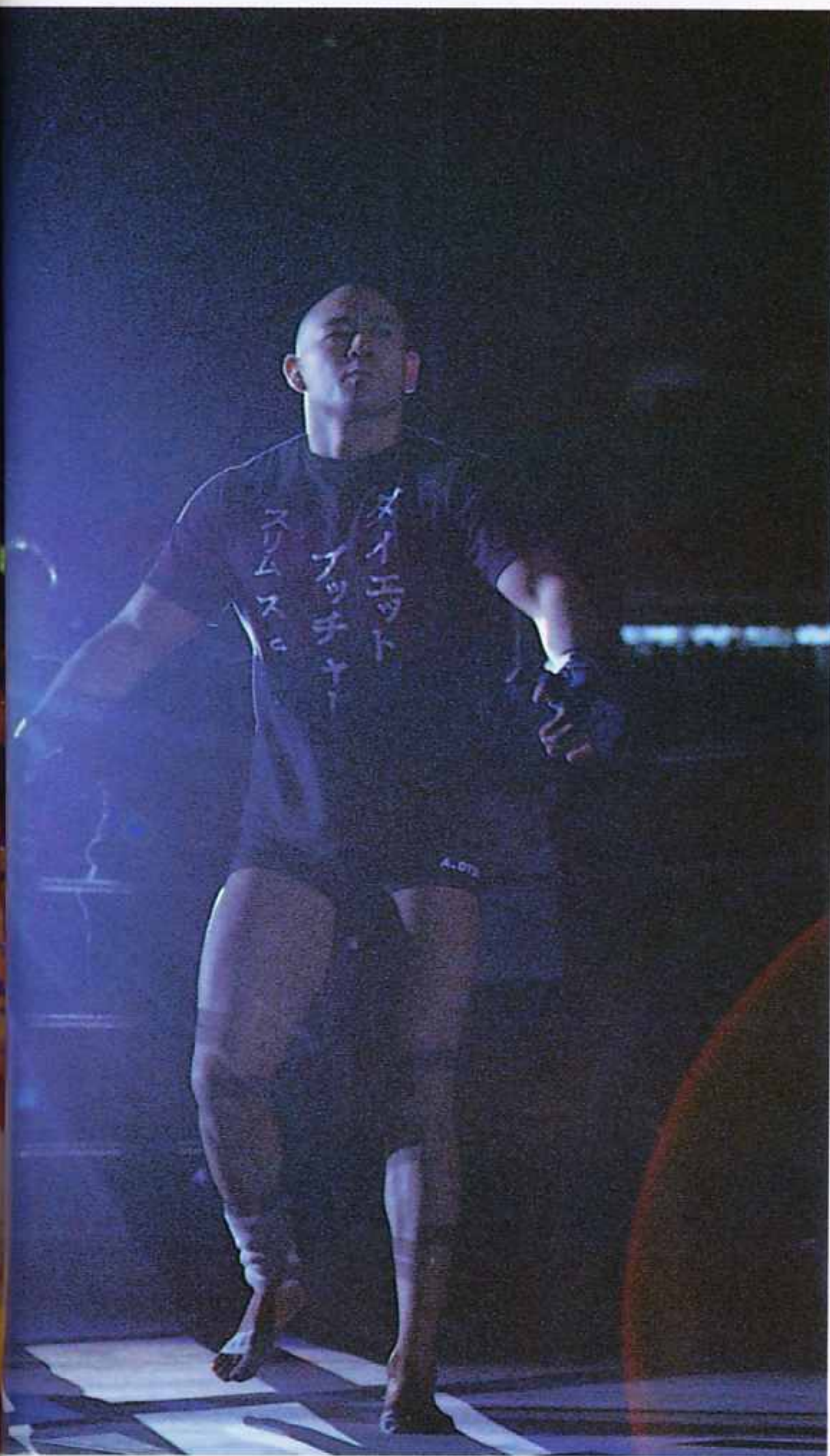
アレク なかったですね。でも、あのマーク・ケアー戦が高田さん本人の希望で決まったっていうのを聞いたときに、人間として凄く興味持ったし、「カッコいいなぁ」って思いましたね。

――高田延彦のひと足の踏みだし方がカッコよく見えたと。

アレク もちろん、プロレス界でネームバリューがある中で、いろんなものを背負って、ああいう世界の「最強」と言われてるヒクソンにチャレンジした。そこまで自分の力で切り開いたっていう時点でも、凄く尊敬の念もあるし、カッコいいなぁと思ってましたけど。

――高田さんの最初のヒクソン戦は、とてつもないリスクで、マルコ戦に向かって行ったアレクよりも……。

アレク 全〜然、大変ですよ。

――でも、アレクの場合は結果を出せたけ

8・22のバト札幌大会で高田戦が決まったことをリング上から発表したアレク。これはその2日前のアレク近影です〈撮影／トイレの大西さん（仮）〉

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ～ヒッ!!

ど、高田選手の場合はヒクソン戦しかり、ケアー戦しかり、結果が出てないですよね。

アレク　ハッキリ言って、どんなスポーツでも、向き不向きってあると思うんですよ。

——ゲ！　ズバリ言って高田選手はＶＴには向いてないということ？

アレク　いや、向いてなかったのかもしれないということです。それはわからないですけど。

——本人もＶＴ自体は「肌に合わない」って言ってますからね。正直、ＶＴという枠で区切れば、高田選手の本来の光は出てないですよね。

アレク　残念ながら、そうですね。

——その高田延彦が本来持ってる光を『ＰＲＩＤＥ』のリングで浴びてみたい気はある？　ＶＴという〝競技〟の枠に収まるんじゃなくグッと広げてみたいというか。

アレク　そこなんですよ！　ＶＴというルールの中だからこそ、逆に〝なんでもできる〟と思うんですよ。高田さんはマーク・ケアー戦が決まったぐらいから「プロレスをもう一度」っていう感じの部分があったじゃないですか。そういうのも雑誌で読んでたんで、今回ボクが対戦をお願いしたというのもあるんですよね。プロレスラーとして、ボクはまだまだネームバリューも低いですけど、一応ＶＴという闘いの中では　ボクは結果出せてるし、高田選手にしても、ボクのことを認めてくれたからこそ、こうなったと思う。そういう部分で、ＶＴルールではあるけれども、また高田選手のプロレスラー魂に火をつけられることができれば、ボクとしては凄くいい仕事ができたことになるし、自分のためになると思う。

——ＶＴというルールではあるけれども、大きな意味での「プロレス」を立ち昇らせたいということですか。

アレク　ボクが求めてるというか、ボクが今回描いてるのはそうですね。

——一部のマスコミや関係者が区分けしてるような次元の「プロレス」と「格闘技」じゃなくて、小川選手が言うところの「バーリ・トゥードの試合もプロレス」っていう意味ですよね？

アレク　あ～、はい、そうですね。

——大きな舞台で、純プロレスラー同士が闘うＶＴっていうのは初めてなわけですよ、おそらく。

アレク　そうなんですかね？　しかも日本人同士っていうのは……ああ、そうかもしれないですよね。

ボクはいろいろ大ボラ吹いてますからね 今回はプレッシャーあるかもしれない

photographs by Fumio Kuroda

——だから初めての試みだし、実験としても面白い。その中で当然、高田選手の闘い方にも注目が集まるけど、今回はアレクがどういう闘いを仕掛けるかの方に興味がいきますね。

アレク　ああ、いま言ったみたいに「アレクの闘い方に興味がある」っていうのは凄く嬉しいんですよ。ボクもそういうのを求めてくれたほうがもっともっと頑張れると思うし。さらにその先を言えば、じゃあ、ボクの闘い方に対して高田選手はどういう反応するのか？っていうのを想像してくれたら、もっとワクワクすると思うんですよね。ボクが質問なり、問題提起なりを技の中で出していって、ボクが求めてる答えを闘い模様から出させたいなぁと。

——高田選手と試合の中で、技の攻防の中で会話がしたいということだ。

アレク　そうですそうです。んむはぁ。

——さっきの向き不向きっていう話の部分でいえば、高田選手が突如牙を剥いてきて「俺のほうが向いてるぜ、アレク!!」っていう場面が出ちゃう可能性もあるわけですよね。

アレク　そうなんですよね。ＶＴという競技の性格上、〝なに勝手にしゃべってるんだ〟って感じで一気に高田選手が潰しにくる可能性もあるし。

——そのへんに対しての怖さはない？

アレク　向き不向きじゃ計れない部分がありますからね、闘いというのは。そういう部分では怖さはありますね。例えば、普段おとなしい人が突然キレて、何をしでかすかわからないとか、そういう怖さとか、そういう感じは確かにないことはないです。

——高田選手は、ヒクソンに２回負けて、マーク・ケアーにも３分弱で負けてしまったけど……。

アレク　逆に言えば、もう怖いものがないと思いますね。

——「失うものはなにもない」って本人も言ってましたね。

アレク　逆にボクなんか、うちの会社のことでも格闘技関係にしても大ボラ吹いてますからね。今回はかなりプレッシャーあるかもしれない。ボクとしては、闘ってる中で高田選手と会話をして、ボクの思ってる答えを返させるように闘うつもりですけど、それがどこまでできるかは、わかんないです。

——自ら追い込んでるんですか？

アレク　ん～、そういうつもりはないんですけどね。ただ、前も言った通り、グニャグニャ道を進んでるだけです。

——ガハハハ！　高田選手との対戦は、同じ「プロレス」というチーム内での紅白試合、爽やかなだけの試合をするつもりではないですよね。

アレク　はい。敵は敵ですから！　お互いがプロとしての情念を出せるような、それでいてつまらない試合にならないように。ボクはボクで高田選手を食うつもりでいきます！

——ＶＴのルールの中でいかにプロレスラーの心を見せられるか、お互い勝負になってきますね。

アレク　そうじゃなくても勝負ですからね。本当に駆け引きが難しいですよね。10分2ラウンドっていう時間の中で、勝負プラス何を見せられるか。高田選手には高田選手の考えがあるだろうし。

——でも、この一戦自体が、ある意味ファンに対する謎かけでもあるし、面白いですね。

アレク　それこそ、前に石川社長が言ってた「見に来なかったヤツらに後悔させてやる」っていう気持ちです。

——勝負には自信あり？

アレク　う〜ん、闘いですから、わかんないですね。ボク、打撃ヘタクソですし。マーク・コールマンのようにバシバシ、ローで蹴られて、それが当たっちゃったらどうなるかわかんない。

——さっき格闘技関係にも大ボラ吹いてるって言ったけど、「ヒクソンとやりたい云々」っていう話題をアレクが言ったときに、俗に言う"格闘技側"の人たちから批判の声がチラホラとあったりするじゃないですか。具体的に言うと「ＶＴに専念するわけでもないのに、最高峰であるヒクソンの名前を出すのはおこがましい」とか「マルコに1回勝ったくらいで偉そうにするな」的な意見とか。

アレク　でも、ＶＴに専念してない状態でマルコに勝ったんだから。「マルコぐらいに」って言うんだったら、「じゃあ、自分がやってみろ」って感じですね。終わってみてから「（マルコの）膝の調子が悪いから勝てた」だなんだって、ボクにしたってケガは少なからずある。試合前にリング作りをしたことにしても、もしかしたら格闘技を茶化したように見えたかもしれないけど……昔のプロレスラーって武勇伝とかあるじゃないですか？

——朝まで店を潰すくらい飲んで、そのまま寝ないで試合したとかね。それが1週間続いたとか（笑）。

アレク　そういう感覚でリング作りをしたんです。そういう部分が強みになってくると思うんですよね。

——マルコ戦の勝ちに熱狂した人々は、普段からリング作りをしてるのを知ってて、ＶＴにその普段通りで臨んだということに熱狂したわけだからね。

アレク　ホントにリング作りは大きかったですね。

——その幻想の中での武勇伝というか、幻想としてのプロレスラー像っていうのがアレクの中にあって、それに追いつこうとしてる。それはシンドイ作業ですよね。それを楽しみながらやれるところがアレクの強みというか、バトラーツの強みだね。

アレク　いや、全然。最近、バトラーツにはそういう意味での強みが全然なくなってますね。

——ゲ！　出た！　またまた過激発言ですか（笑）。

〈※アレクはヤンジェネ開幕日の7月20日に帰国以来、「いまのバトラーツにはやりたいことがなにもない」と言ったり、「反感買うかもしれないけど、いまのバトラーツを見に来てるファンはバカです」と西村修ばりの意見を吐いたりと、"会社批判"とも取れる発言を繰り返していた〉

——『紙プロ』にはバトファンが多いし、旗揚げ前から追ってる雑誌としては、その点もぜヒ聞いとかなきゃいけない（笑）。

アレク　バトラーツのホームページの掲示板に、ボクのそういうコメントに対する意見が入ってて、それはそれで、ボクのコメントでなんか感じてる人がいるんだと思ったら嬉しかったですね。

——なんて書き込んであったの？

アレク　ボクに対しての反論です。「シリーズ中なのにそういうことを言って、プロとしての自覚が足りない」って。

——それはバトラーツ全体を心配してくれてるファンだね。

アレク　そうですね。でも、ボクはバトラーツ全体を心配してるからこそ言ってるんですよね。現にシリーズ始まる日にボクは帰って来てるから、それを「我慢しろ」って言われても我慢できないわけだし、バトラーツというボクの大事な家に火がついて大変なわけですよ。ボクから言えば、みんながガソリン撒いて、いまにもマッチを放り投げそうな勢いに見える。だからこそ、自分の家を守るために言ってるんですよ。

——でも、家に火がついてるっていうのは、アレクにしか見えてないのかもかもしれないし、実際そんなことはないのかもしれないでしょ。

アレク　最近来てるバトラーツのファンって、客層が変わってきてるんですよ。ここ1年半ぐらいで。そのお客さんは、それぐらいから見てファンになったからいいのかもしれないけど、じゃあ、なんで昔のファンは最近来なくなったのかって。

——単に飽きただけかもしれない（笑）。

アレク　でも、一番最初にバトラーツが言ってたことって、「初めて見た人を納得させて、次回もまた来させよう」っていうファイトを常にやってたわけじゃないですか。

——やってましたね。

アレク　なのに、旗揚げして2年くらいま

約１年前の98年10月11日。当時、「ヒクソンがもっとも恐れる男」と言われたブラジルはルタ・リーブリの強豪マルコ・ファスを撃破したアレク。東京ドームに集まった約３万６千人の大観衆の細胞を叩き起こした！　当日は普段通りリング設営までした上、試合でも、プロレスで培った底力と精神力で対峙。格闘技関係者は誰一人としてアレクが勝つとは思ってなかったが、本誌はアレクの勝利を信じていた（いや、これホント！）

Who's
リアルなヒーロー、デテコ～ヒッ!!
Real Hero?

Alexander Othuka

ボクはバトラーツ全体を心配してるからこそ、いろいろ言ってるんですよね

で見てくれてたファンが、なぜいまになって見に来なくなったか、っていうことを考えてみてほしい。それを考える時期に来てるんじゃないかっていうのをボクは言いたかった。

——決して会社批判をしてるわけじゃない？

アレク　まぁ、取りようによっては会社批判と思われても仕方ないかもしれないですけど。だから会社というか、各選手ですよ。石川社長が「会社の体制とか関係なく、己が個人個人でいいと思うものをやってるんだから、会社の体制なんて最初っからないんだ」って言ってるのと同じように、各選手の意識ですよ。

——石川社長はアレクに対して、「なにか言いたいんだったら、レスラーっていうのは闘い自体が雄弁でなければいけないんだ。グチャグチャ言ってねえで、すべてを叩きつければいいんですよ!!」って、実に石川雄規らしいことを言ってますね。

アレク　ハッキリ言って、社長には打てば響くと思うけど、他の選手は響かないっていうんじゃなくて、響かせようがないと言い切れる。みんなバトラーツのことを思ってるのかもしれないけど、「ちょっとズレてんじゃない？」っていう感じです。

——それは前のインタビューで言ってた「外に行っていい服着たはいいけど、着こなせてないような感じがする」ってこと？

アレク　自分の服に作り替えてないんですよ。ブカブカだったりピチピチだったりして。もしくは家を飾りつけすぎてネオンギラギラで。だから、いざ自分が闘っても光れないんですよね。芯の部分が光ってないから。

——「バトラーツってもの自体がデコレーションされちゃってる」ってそういうことだったんですか。

アレク　そうなんですよ。

——要するに、いま〝人〟よりも〝モノ〟の時代なんですよ。たとえばプロレスでもTシャツやらフィギュアから入る人も多い。それが悪いってわけじゃなくて、プロレスの本質とか、〝人〟の生き方を見ようとしない。だから、〝団体という外側のパッケージ〟を売っていく団体は多いわけですよね。団体名のコールが起こったりしますからね。

アレク　そういえば、つい最近もリングスコールと全日コールが起こってましたよね。

——バトラーツの魅力っていうのは本来、いろんな人間が集まって、いろんな〝人〟の考え方が見えるから面白いんだけど、いま、〝バトラーツというパッケージ〟で売りすぎてるという懸念は確かにあるね。

アレク　結局、いち個人でレスラーやってるのに、小さい箱の中に落ち着いちゃったら、その箱自体が大きくなったり、カッコよく見えたりしないと、自分が成長しないわけじゃないですか。それって全然ダメですよね。そうすると「みんなで会社を大きくしましょう」っていうふうにしか頑張れない。そういう頑張り方って、プロレスっていう夢を与える仕事には必要ないんじゃないかなっていう思いもあるんですよ。

——必要ないってことはないけど、それだけじゃダメだよね。

アレク　そうですね。ボクも会社を大きくすることに反対ってわけじゃないですから。

——だから、新日本は確かにドームを埋めてるかもしれないけど、誰か個人を見に行く〝熱〟って、いまはあんまりないでしょう。漠然とした雰囲気とか、パッケージで見に行ってるから。

アレク　誰かを見に行くとなると、ヨソの団体の人なんですよねぇ。

——大仁田厚であったりね（笑）。

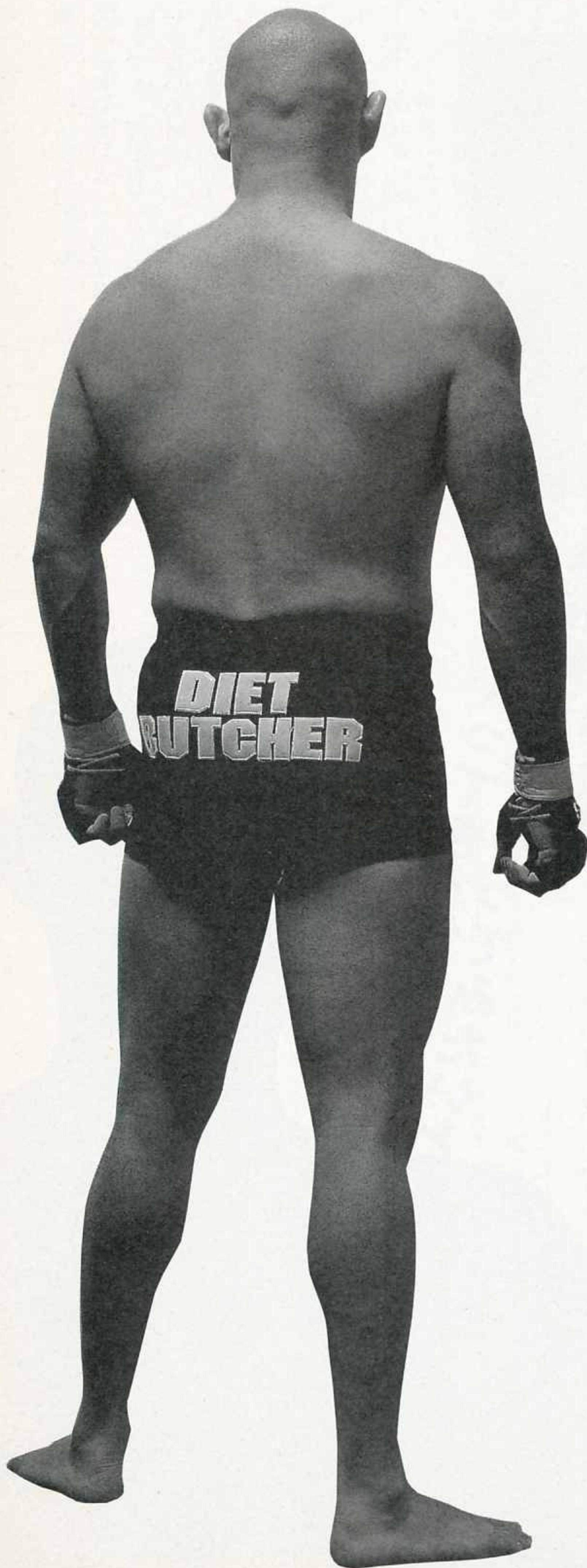
アレク　そういう部分で、いちブランドとして売り出してたとしても、新日本でさえヨソの、しかも個人を借りてきて、それで動員してるわけじゃないですか。

——確かに大仁田厚の場合、賛否両論あるにしても、大仁田厚を見に行ってる、熱のあるファンは多いですからね。

アレク　だから、逆に考えれば、個人としての輝きっていうのは大事なんだなぁって思いますけどね。

——僕が『PRIDE』に注目してるのは、『PRIDE』コールって絶対起こりようがないでしょ、いまのところ（笑）。

アレク　ああ、そう言われるとそうかもしれないですねぇ。

——『PRIDE』の場合、小川直也を見に行く、高田延彦を見に行く、ヒクソンを見に行く、あるいはマルコとやるアレクを見に行く。人と人とが闘うっていう点において、その〝人〟を見に行くっていう部分では原点回帰してる。〝人〟が見えないと面白くないですからね。

アレク　もしボクが高田さんに勝って、ボクがトチ狂って「オレが『ＰＲＩＤＥ』だー！」みたいなことを突然言い出して、客もその気になったら、『ＰＲＩＤＥ』コールが起こるかもしれない。んむはぁ（笑）。

——は？　おっしゃってる意味がよくわかりません（笑）。だからいま、マット界は、魅力的な選手は中にたくさんいるんだけど、ビジネス的には修斗やＫ—１なんかも含めて、どこも「箱自体をデコレーションする」方向ですよね。

アレク　ああ、あんまり個人の色は見えにくいですよね。

——だから、バトの場合、各個人の色やら情念が見えやすかったのに、このまま行くと、あまり他の団体と大差なくなってくるんじゃないかという心配は確かにありますよ。

アレク　石川社長は打って響くものがあるんですよ。それと、社長には「石川雄規を見に行こう」っていうファンもいると思う。ちょっとニュアンスが違って、もちろん「モハメド・ヨネを見に行こう」「池田大輔を見に行こう」っていう人も当然いるでしょうけど。

——みちのくなんかも、グレート・サスケっていう、〝人〟が見えやすい人が中心にいるからパッケージとしても面白いんだと思う。サスケって人がいれば何があっても大丈夫だろうって思うからね（笑）。どうせなら、その人の一生を見ていたいと思わせる光り方をしないと。

アレク　んむはぁ。だから、これからは、みんながホントの意味での個性を出して光っていかないといけないですよね、うん。

——でも、だからといって、いまバトラーツやみちのくの他の選手が一生懸命やってないって言ってるわけじゃないですよ（笑）。

アレク　あ、いや、だから！　本当に一生懸命やってるのはボクもわかる！　だから、それは置いといての話なんですよ。

——でも、何事もズッと同じってわけにはいかないわけだし、変化っていう意味では、いま現在のバトも変化してる最中かもしれないよね。

アレク　あ、変化っていう部分では、ボク自身も変化してるし、変化していかないと見てても面白くない。吉本新喜劇みたいに変化しなくても面白いものもありますけど。ボクが言いたいのは、旗揚げ当初の芯の部分を思い出してくださいということです。だから、芯を忘れない上で変化していこうよということですね。でも、ボクがああだこうだ偉そうに言っても、「じゃあその軸ってなんなんだ？」って言われたら、ボクも言葉にできない。だけど、イメージとして、ボクのハートの中で「こういうものだ」っていうのはあるんです。

——そこらあたりに今回、「『ＰＲＩＤＥ』のリングで高田延彦とやりたい」っていう〝素〟があるのかなと勝手に想像してみたんだけど（笑）。

アレク　あ〜、バカなんで、そこまで深くは考えてなかったですね。んむはぁ（笑）。

——俺もバカだから適当に言ってるだけです（笑）。

アレク　んむはぁ。たまたま話がつながったわけですね（笑）。

——そう、たまたま回線がつながっただけです（笑）。

アレク　そういう話って、キチンと筋が通ってれば繋がるもんですよねぇ。んむはぁ。

——『ＰＲＩＤＥ』のリングでは、高田、ヒクソン以外で闘いたい選手はいないんですか？

アレク　特にいないんですけど、ちょっと入ってきた情報の中で「桜庭選手とやってみたいなぁ」とは思いました。

Alexander Othuka

ちょっと入ってきた情報の中では桜庭選手とやってみたいと思いました（んむはぁ）

——え、情報ってなに？

アレク　桜庭さんが「ＶＴじゃなくてもいい」って言ってたんで。桜庭さんがプロレスに対してどう思ってるのかっていうのをチラッと聞いて、それならやりたいなと。桜庭さんにしても自分でいろんな方向に行きたいだろうけど、高田道場というブランドの中で方向性をある程度決められてしまって、いまの状態になっちゃってたんだろうなぁって勝手に思ってたら、高田さんと一緒でプロレスのリングに上がってもいいみたいだし。だから、もしボクみたいな者でも相手をしてもらえるんだったら、引き金役になれればいいなと。そこでボクも結果が出せれば、ボクが格闘技という部分においてもプロレスラーとしても評価が上がると思うんですよ。試合内容でもそうだし、結果が出たら出たで、さらに大きく飛躍できると思うんですよね。『ＰＲＩＤＥ』もしくはプロレスのリングでやってみたい。例えばリングスさんだとか、パンクラスさんだとか、そこのルールしかダメっていう枠の中だったらやりたくないです。

——以前、アレクは「桜庭さんは純プロレスの世界での実績がないからプロレスラーとは思わない」って言ってましたよね。

アレク　ああ。でも実際、桜庭さんが純プロレスの闘いをやっても、できそうな気がするんですよ。「実績がない」って言っても、Ｕインターのときに新日本と対抗戦も

Who's Real Hero?

リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!

やってますしね。やっぱり桜庭さんの闘いぶりとハートはプロレスラーですよね。桜庭さんの試合と（ゲーリー・）グッドリッジの試合を見てれば、プロフェッショナルとは何かっていうのがわかりますよね。

――桜庭選手は、いまや固まりつつあるVTのセオリーを、実に気持ちよく崩していきますからね。

アレク　ボクも、VTというスタイルの中で、もっと技術があったら、ああいう闘いがしたかったですよ。でも、ボクはああいう闘いにおいてド素人だし、基本しか知らないし、バックボーンとしてレスリングがあるっていうぐらいしかなかった。だから、マルコ戦っていうのは、ホントにVTというルールを最大限に活かした闘いをして勝ったまでじゃないかと思ってます。そういう部分ではプロレスラーの底力っていうのを見せられたかなって。でも、ボクは桜庭さんみたいな闘い方なんて絶対できない。

――でも『PRIDE』自体も今度の高田vsアレク戦によって大きな分岐点を迎えそうですね。

アレク　「格闘技ファンの皆さん、目を覚ましてください！」。んむはぁ（笑）。

――『PRIDE』自体も、VTを競技化していく方向に行くのか、団体化していくのか、いろんなジャンルからいろんな人が集まる"場"として機能していくのか、いまは分岐点じゃないですか。アレクはそういう分岐点には必ず立ち会うようになってきましたね。

アレク　そういう意味ではUFOに交わってよかったですね。んむはぁ。

――小川直也選手がグッドリッジ戦が終わったあと、「バーリ・トゥードだなんだって言うけど、俺にとっては全部プロレスだから」って言ってたけど、そういう小川選手の考え方には共鳴できる？

アレク　そうですね。プロレスラーとしてもそうだけど、ああいうスタイルも練習すればできることだし、最初に言った向き不向きもあるだろうけど、そういう部分では同じ枠の中に入ると思います。

――『PRIDE』っていう場に魅力を感じてるのはどういう部分？

8・8多古町大会ではヤンジェネ公式戦として、ジュニア戦線で飛ぶ鳥を落とす勢いの田中稔と対戦。稔をジャイアント・スイングでブン回し、結果的にも勝利をものにしたが、この日もアレクの心は晴れなかった様子だ

アレク　自由な空間ですよね。小川（直也）さんが乱入して批判されたけど（4・29『PRIDE5』）、批判されながらも「面白い」って言ってる人も多いじゃないですか。そういうのを思えば、あそこは自由な空間だなぁと。

――そういえば、「『UFC―J』で船木（誠勝）選手と闘いたい」という発言もありましたね？

アレク　あ、あれは闘う場が、パンクラスさんのリングでパンクラスルールっていうのがイヤだから『UFC―J』っていう名をたまたま出しただけですぅ。『UFC―J』のオクタゴンの中で、ノールールという設定だったら、ボクが思ってることができると思って。船木さんはそっちの世界の人に見られがちですけど、船木さん、鈴木（みのる）さんっていうのは、プロレスファンから見たら、新日出身のプロレスラーの部分も見てると思うんですよ。プロレスラーとして評価される部分を凄く持ってる選手だからこそ、ボクは船木さんとノールールでやりたい。

――はっはー。じゃあ、アレクにとってのVTは、言ってみれば「お互いのプライドがルール」っていう部分での闘いができる選手とじゃないとやりたくないってこと？

アレク　そう言っちゃったら、そうなのかもしれない。でも、できればやりたくない。んむはぁ（笑）。

――ズコッ（笑）。

アレク　いろんなことができたほうがいいですよね。またミックスド・マッチもやりたいし。今年はまだやってないんで（笑）。

――これからアレクは、バトでどんな闘いをしていこうと思ってるの？

アレク　武者修行に出て、世界を見て思ったんだけど、例えばバトラーツっていう植木鉢があって、その中に木が11本立ってて、エラい太い木になろうと思っても、みんな根っこを生やしてるから大きくなるには限度があるじゃないですか。決まった植木鉢の広さの中じゃ大きくなる限界はあるなぁと。だから別の大きな植木鉢、もしくは大きな大地にひとりでボンッと生えるのもいいかな～なんてことは思いますよね（笑）。

――だから、『PRIDE』やらUFOにも出ていくと（笑）。それはバトラーツを飛び出したいというのと同義語ではないわけでしょ？

アレク　ええ。だから、いま植木鉢に例えたけど、バトラーツハウスですよ。バトラーツハウスをデコレーションするばかりじゃなくて、増築していこうよと。みんな自分の部屋を大きく作ろうと。そうしたらバトラーツという植木鉢も大きくならざるをえないんだし。いまの植木鉢の中で大きくなるには限界があるし、バトラーツハウスを大きくすることばかり優先して考えててもダメだと思うし。その両方を同時にやっていくのが、さっき言った芯を忘れないってことなのかなぁ、と思いますね。

――いいこと言いますね！　その点、UFOイズムっていうのは凄いよね。アレクの言う植木鉢が宇宙なんだから（笑）。あ、UFOイズムっていうのはそういうことか（笑）。自分で言って気がついた。

アレク　自分ひとりのスペースコロニーですよ。んむはぁ。

――でも、例えばアレクが今後、「ここの植木鉢は狭いから、他の植木鉢に移るよ」って言っても、アレクという木が大きくなれば、また同じ問題が起きるわけですよね。アレクが大きくなればなるほど、どこの植木鉢も狭くなっちゃうわけで、これは永久につきまとう問題ですよ（笑）。

アレク　んむはぁ。そうですよね。

――だとしたら、UFOイズムのように「オレの植木鉢は宇宙だ！」って思っちゃった方が気が楽だよね（笑）。もしかしたらオーちゃんが言ってる「VTもプロレスです」っていうのは、そういうことかもしれない（笑）。「プロレス」という概念は宇宙と同じくらいに広いというね。

アレク　ボクもそう思います。ボクもそういう考えですから。あ！　メキシコで思ったのが、ボク、新しいTシャツを作るとし

この短い期間で東三四郎と闘うことができたら、すぐ引退しないといけない(笑)

たら、「等身大の無限大パワー、ブラックホール」っていう、そういうのをつけたいなぁ。

――は？　なにを言ってるんだかサッパリわかりません（笑）。

アレク　『紙プロ』で一番最初にインタビューしてもらったとき、ボクのこと「等身大の無限大」って書いてくれたじゃないですか（NO4）。無限のパワーを持ちたいんですよ。それはブラックホールでも収まりきらないぞと。んむはぁ（笑）。

――んむはぁ（笑）。

アレク　あ、こないだメチャクチャいいことあったんですよ。CMLLジャパン見に行ったら、13日の金曜日だったにも関わらず、ガソリンスタンドでお釣り1500円ぐらいだったはずが、5500円も来て、「ラッキー！」って思って。んむはぁ（笑）。

――ガハハハ！　どんな無限大だ！

アレク　さらに会場に行ったら、ミル・マスカラスと写真が撮れた。んむはぁ。しかもオコノミマンのマスクもいただいて。さらに帰り際に、小林まこと先生に食事に誘っていただいて。

――いや、それホント！　で、憧れの『1・2の三四郎』の作者と会った感触は？

アレク　面白かったです。んむはぁ。小林先生にも言ったんですけど『三四郎3』は、ボクがまだまだ未熟なんで、そんな状態で出たくないんで、『柔道部物語・2』を先に書いてもらいたいなぁと（笑）。

――『3』が誕生した暁にはアレクが出てくると。

アレク　出てきて、東三四郎と対戦する。んむはぁ（笑）。

――東三四郎と闘うまでには、まだまだ試練がありそうですね。

アレク　そうですね、こんな短い期間で三四郎と闘うことができたら、ボク、すぐ引退しないといけないですからね（笑）。

――その試練のひとつとなる高田延彦選手へのメッセージをお願いします。

アレク　この試合が終わったら、「ノブ兄さん」と呼ばせてください。んむはぁ。

――なぜだ（笑）。

【8月20日、高速の千住大橋のけっこう近くのアレクに案内してもらったファミレスにて収録】

Alexander Othuka

東三四郎と闘うまで走り続けるアレク。モヤモヤも8・22札幌の石川社長とのバチバチ＆ネチネチ原点対決で振り切ったようだ。高田延彦戦は誰も想像できない一戦になるかもしれない

このインタビューの2日後の8・22。高田戦が決まったことをリング上から報告したアレクは、この日、石川雄規と対戦した。そこでまさにバチバチ＆ネチネチな熱闘を繰り広げ、敗れはしたものの、バト魂（バトこん）を思う存分リング上に叩きつけることになった。この一戦によってアレクのモヤモヤも吹っ切れたかのようだ。

その後もアレクの周辺のザワめきは続く。締め切りギリギリもギリギリの9月3日には、10・17みちのく＆バト合同興行のカードがファン投票によって選出された。「サスケ＆石川vs新崎人生＆アレク」!!　アレクは人生と初のタッグを結成し、狂乱の社長タッグとぶつかる。これにはアレクも大張り切りである。

そして、9・12『PRIDE6』。アレクは、バーリ・トゥードという〝なんでもあり〟の場で、人が人を超える瞬間、つまり「底力」と「人間力」を高田延彦と競うことになる。

勝負のアヤの他に、心理的なアヤをも紐解きながら見ていけるこの試合は、もしかしたらマット界の歴史に残る一戦になるかもしれない。

アレクは8・24の記者会見でこう言い放った。

「佐々木健介選手と高田選手がもし仮にやっていたとしても、それ以上の試合をボクは見せるつもりです」

――アレクが高田の壁を突破するか、高田が阻むか、そしてまたアレクは当日リング設営をするのか？

『PRIDE』のリングに、「新世紀プロレス」「プロレスの未来像」は立ち昇るのか――要注目である。

んむはぁ。

特別付録!

驚ガクの出会いinUSA（んむはぁ）

アレクUFCショッキング!

7・16、アイオワ州シーダーズラピッツで開催された『UFCXXI』には、田舎町にも関わらず数多くのファイターたちが集結。メヒコで謎のマスクマン、シュー・キムとして暴れていたアレクも観戦にやってきた!（TKの試合のサブセコンドにも付いた）もちろんマルコさんを破ったアレクはベリー・フェイマス。ファイターたちから次々に声をかけられてたぞ。ファンとはスキンヘッド時代のエンセンと間違えられたまま記念撮影してたけどね。んむはぁ。

9・24のＵＦＣではティト・オーティズと注目の一戦を行い、さらには桜庭との対戦もありそうなフランク・シャムロックと会場内で。フランクは気さくぅ（アレク調）

「OH! オーツカァ!」byのりのりフランク

「もう一度やろう、オーツカ!」byマルコ

ケン・シャムロックと衝撃の4Shot!

ＵＦＣが開催された街から、小路晃＆宇野薫ご一行がシアトルに向かうローカル空港にて衝撃の４ショット実現！アレク＆ケン・シャムロック＆小路＆宇野ちゃん!!

9・24、『ＵＦＣ22』でフランク・シャムロックと対決するティト。両者はオクタゴンに挨拶で上がったが、いまや飛ぶ鳥を落とす勢いのティト人気は凄かった

「俺様がティトだ!」「ボク、アレクぅ…」

アレクとマルコ（・ファス）が感動の再会。「あのときは身体の調子が悪かった。もう１回やったら絶対負けないと言ってました。マルコも情念の人ですね。んむはぁ」

NEWゴールデン・カップス誕生!?

10・2の『ＵＦＣ—Ｊ』に出場するため、本場ＵＦＣを視察に来た安生さんと、「俺たち、NEWゴールデン、カーーーップス！」。が、まったく呼吸は合わず。んむはぁ

「俺様がモーリスさ」「ボク、アレクぅ…」

シアトルをベースに世界で活躍するモーリス（・スミス）。この日はメインでマルコを下し『PRIDE.7』ではＢ・シカティックと対戦。この人の振り幅も恐ろしい

マルコ戦の前には、ＴＫシザースを伝授されたこともあるアレク。ＴＫもアレクの素質には感心してました。この夢のタッグを試合で見てみたい。んむはぁ

世界を股にかけるTK&AOエクスプレス!!

立ち昇るか?『PRIDE』の対抗馬の全貌

10.2UFC-J遂に開催!!

「'99ULTIMATE FIGHTING CHAMPIONSHIP IN JAPAN（UFC-J）」

10・2（土）東京ベイN.K.ホール（JR京葉線舞浜駅下車）試合開始／午後5時　主催:UFC-J事務所

【UFC-J日本チャンピオン決定トーナメント（3試合）】
出場予定選手:高瀬大樹、矢野倍達、他2名

【スーパーファイト（3試合）】
出場予定選手:安生洋二、山宮恵一郎、他4名

入場料:20.000円～5.000円

97年12月に開催されたUFC—Jでは、桜庭和志が日本人初のヘビー級トーナメント制覇という快挙を成し遂げ、プロレスファンのVTコンプレックスを払拭するきっかけをつくったが、今回は本戦とは別枠の日本人中心の大会となる。6月の勝利に続く8・22のK—1出陣では敗れた安生洋二が、ホームグランドの総合のリングに帰ってくるのも注目されるが、何といっても要注目はパンクラス勢の参戦。パンクラチオンマッチを導入したパンクラスだが、オクタゴンに入るのは今回が初。現段階では山宮恵一郎の参戦が予定されている。他にも山本喧一がリングスを退団して以来、プロのリングに帰ってくるという噂もあり、オクタゴンから一体何が立ち昇るのか、俄然興味が湧いてくるというものだ。この模様は次号で詳報、麻原詳報っつーことで。ダーッハッハッハ!　行きますかーッ!!

チケットぴあ（03・5237・9999）ローソンチケット（03・5802・9999）他でチケット絶賛発売中!

【問い合わせ先】UFC-J事務局　03・3343・2444

■ボクらは『紙プロ』を出すのを忘れちゃいましたが

News News Revolution

7月〜8月の忘れちゃいけない事件FILE

すっかりごぶさたの『紙プロRADICAL』、2ヶ月ぶりの発売です。何やってたんだって？ ノブの体重が増えたのと、トイレの大西さん（仮）が入ったことと…それぐらいか？ ダメだ、コリャ。というわけで、2ヶ月分も情報をためちゃったので大事なこともいっぱいお伝えしないといけません。
とにかく、今後のマット界の動向に繋がってくる重要な事件だけを厳選してお届けします！ いますぐノート取れ！ コピーしとけ！

7/22 『ニタ』大阪南港より大仁田の手で生き返る！

大仁田 遺体引き揚げ

グレートニタ復活！ そのショッキングな事件は、大仁田が真鍋アナ（言わずとしれたテレ朝大仁田殴られ担当）と大阪南港に訪れ、「ニタが見たいか！」と言う言葉と変に力を込めた祈りでニタが港から這いあがり、そしてこれまた奇妙な『ヒャーハハハ』という高らかな笑いで登場。さかのぼれば、今から4年前、(大仁田引退の頃)、自殺を考えていた少年にニタの魔力で「心に石を持って生きます」と生きる勇気を与えて、邪忍伝説を終焉したニタだったが、この復活大ニタ劇場（真鍋アナという主役級の名脇役とで上演されたテレビ）は、ホント必見！ 見れなかった人達はどんな手をつかってでも見ることをおすすめする。ザ・グレート・ムタと戦う為に復活したニタはどうやってまた死んでいくのだろうか？ 今度はそっちが気になるところだ。大仁田プロデュースは文句無く面白い。きっとまたそのときは、真鍋アナ、あなたの出番ですよ。

(東京スポーツより)

7/4 『PRIDE.6』で観客の熱狂を巻き起こしたプロレスラー達

2ヶ月たった現在でも『PRIDE.6』の評価はえらく高い。小川が初のバーリトゥード戦を完勝し、桜庭はブラガを一蹴、高田はケアーに敗北し、と興行前から興行後まで話題のつきない大会であった。じつにいいことだ。それに当日は観客も熱かった。ネットなどで、一時期はメチャクチャにバッシングされていた高田だが、入場時にはもっともデカい歓声で迎えられたことには驚いた。なんだかんだ言ってもやっぱり凄いじゃねぇかと納得させられてしまった。小川のマイクの脱力ぶりも最高。『PRIDE.1』『PRIDE.4』の時もそうだったが、一つの試合、選手の背中に思いきりのめり込めるものがある。
こぼれ話をひとつ。この日の休憩時間、観戦に来ていたビル・ロビンソンがバックステージをウロウロしながら「カール・マレンコに会わせてくれ、ヒー・イズ・グッド！」と興奮気味に語っていた。結局、会えたのだろうか？

7/23 小川直也vs山本宜久戦が12月の大阪大会に延期か!?

熱望されていたリングスの山本宜久とUFOの小川直也との一戦が延期されることになった。これによって8・19横浜大会をヤマヨシは欠場。延期発表記者会見はリングス前田社長とUFO川村社長が出席して行われた。非常に残念。理由は小川の左手打撲によるもの。だが、試合はあくまで延期で決して中止ではないとのことだ。リングス側は今後も交渉を続けていき、12月のリングス大阪大会での実現を目指す模様。本誌の青空プロレス道場や8・19横浜文化体育館大会でも怒爆（Ⓒ『東スポ』）した前田総師の破壊力は健在だ！ 詳しくは今号の前田日明公開インタビューでどうぞ。
さらに後日発表されたものには、中量級トーナメント開催を提唱していた成瀬昌由が8月の大会より長期欠場に入るというショッキングなニュースも。さあ、今年後半のリングスはどうする？ どうなる？

7/14 「オレのテポドンは女性にしか向いていない!!」byアントン

『第2回平和の祭典』のため訪朝していたアントニオ猪木が帰国した。東スポの取材を受けて北朝鮮情勢を語りまくった。朝鮮労働党書記の金容淳氏とざっくばらんに話し合ったという猪木はノドンやテポドンといった、日本政府でさえ、うかつに出せない話題までふり「オレのテポドンは、いつも女性にしか向いていないというか、ダーッハッハッ!!」とゴキゲンでアントンジョークを披露。高官たちの気持ちを鷲掴みにしてしまったのだから凄すぎる。『第2回平和の祭典』は今年の10月もしくは来春を予定している模様。さらに年内にロサンゼルスや内蒙古（モンゴル）興行も計画中だという。地球を股にかけて飛び回るUFOの精力的な活動から、ますます目が離せない。キミもテポドンからガマン汁でも出しながら待て！
さらに、「最近の小川は天狗になっている」「橋本よ、目を覚ませ、バカヤローがっ！と言いたい」とプロレス界には闘魂テポドンを発射した。それではみなさん、発射しますかーッ!! 1・2・3マンセーッ!!

7/25 藤波辰爾新日本プロレス社長＆そのご一行がWCWを視察

ゴング 新日本 極秘情報をキャッチ

プロレス 新社長 奔る！

7月25日、藤波社長、長州力監督、マサ斎藤渉外担当、永島取締役ら10名の一行がアメリカマット界の視察に赴いた。WCWの観戦や代表エリック・ビショフ氏との会談などが行われたのだが、ビショフ氏との会談は一筋縄ではいかなった様子。週刊「ゴング」(No778）によると藤波社長が「あの会社とは仕事ができない」と発言すると、長州監督はなだめるように「面白くなるよ」と語る。だが、それ以上の内容については口を閉ざすあたり、スムーズな滑り出しではなかった感じだ。その後、坂口会長とアントニオ猪木氏も一行に合流。UFO大阪大会に出場したショーン・マッコリー主宰の『LAボクシングジム』と新日が業務提携した。さらにロス在住のボクサー西島洋介山、アラン・ゴエスらと会ったりと今後の新日本プロレス格闘技部門が活性化しそうなマグマ活動が始まっているぞ!! 見逃すな!!

7/16 髙阪圧勝、高瀬惨敗の『UFC21』

7月16日、『UFC21』に髙阪剛が出場。入場しただけで大きな歓声が上がりTKはすっかりUFCの顔になっている。結果はティム・レイシックという選手を戦意喪失に追い込んでTKO勝ち。また、この日は、慧舟會の高瀬大樹も出場し、ジャーミー・ホーンと対戦。ボコボコに殴られてTKOされてしまった。体重が13キロも下の高瀬は自分の闘いをする前に敗退。「ヒジで目尻をカットされてペデネィラスと一緒に病院に運ばれた高瀬は8・1パンクラスのネオブラッドトーナメント出場を危ぶまれたものの強行出場。一回戦で美濃輪とあたり、破れはしたがお客さんの満足度は高し。よくやったと思ったところにUFC―J出陣が決定。これじゃあ体調がよくなる暇などありゃしないが、次はイケる!」と慧舟會番のチョロは語ってました。修行とは出直しの連続なり!! ゆけ、高瀬!!

8/15 G1の生中継が見れてホンッッットにうれしいッス!!

G1生中継の視聴率は8・2％

☆…テレビ朝日で7年ぶりに生中継された『G1クライマックス』の視聴率が16日、発表された。録画放映の14日（土＝16時～17時半）は、平均視聴率が7・7％。時間帯占拠率が14・2％。瞬間最高視聴率は蝶野VS橋本戦の9・6％。また、生中継の15日（日＝15時半～17時半）は平均が6％。時間帯占拠率が14・5％。瞬間最高視聴率は決勝戦で中西が武藤をアルゼンチン式背骨折りで担ぎ上げた時、8・2％を記録した。

「（タッグ・）チャンピオンが出ないなんて、G1じゃねえよ！　G3、G4だ！」と後藤に噛みつかれていたが、そんなのはおかまいなしに今年のG1は例年以上に燃え上がった。最終日の決勝戦は7年ぶりに生中継で放送されたのだ。そのカードは武藤と中西という意外な顔合わせとなった。この日、3戦目の武藤に対して、体力を温存した中西はアルゼンチン・バックブリーカーで勝利！　永田も優勝戦進出者決定戦までコマを進め、新世代が台頭した。

それにしても気になるのは、解説の蝶野の大人しい態度、そして辻アナの異様なまでのご陽気っぷりである。特に辻アナの「生で出来て、ホンッットにうれしいッス!!」という締めのセリフにはホンッットにびっくりッス!!　大仁田（orニタ）の乱入を期待したファンはホンッットにがっかりッス!!　視聴率は8.2％（『東スポ』）とか6.0％（『ファイト』）とかホンッットあいまいッス!!

7/31 なに!? 新築マンションに新弟子が住むだとォ～!

7月31日、山本喧一主宰のグラップリング道場『パワー・オブ・ドリーム』で第3回グラップリング大会が開催された。女子では『紙プロ』ファンの諸星和奈ちゃんが出場するも一回戦負け。残念。

さらに『パワー・オブ・ドリーム』の寮が完成した。新築マンションの3Fぶち抜きで、12畳ほどのベッドルームと10畳ほどの食堂という快適なスペースを現在5人の若者が共同で使用中。若干狭い感じはあるが、リング下で生活していたアレクとかを考えれば天国。しかもクーラー付き。代官山駅から徒歩1分というロケーションの良さも魅力。なによりヤマケンが毎日3時間みっちりグラップリングを教えてくれるという、これ以上望むべくもない環境こそが最高なのだ。「これまで新弟子は雑用とかやらされて強くなれる環境ではなかった。うちでは最短距離で強くなるようにやらせてます」とのヤマケンの言葉。新弟子はまだ募集中。問い合わせは　TEL.03（5734）5354

8/15 北斗復帰! SSU分裂! どうなるGAEA本隊?

GAEA本隊とSSUの対決が盛り上がってるにもかかわらず、7月18日の後楽園大会のメイン終了後、尾崎魔弓が「もうSSU飽きちゃったんだよね」とマイクアピール、アジャ・コングも賛同し、SSU分裂、となったところで「スペシャルゲストを紹介する」と尾崎。そこへ北斗晶が登場、今後はOZアカデミーと行動を共にする（飽きるまで）とのこと。

北斗は昨年3月、尾崎との初タッグ結成直前、妊娠発覚により休業、そのまま引退かと思われたが長男を無事出産、「尾崎見て面白れえなと思ったし、以前組めなかったのが心残りだった」ことから復帰を決意した。これでGAEAは正規軍、下田美馬・三田英津子・ライオネス飛鳥のSSU、北斗・アジャ・尾崎・シュガー佐藤・永島千佳世・中山香里のOZと三派に分かれた。その後北斗は8月15日の後楽園大会で復帰、続く8月22日のアールンホール大会では、尾崎とのチーム名を『ノストラダムス』にすると発表した。

8/1 ネオ・ブラッド・トーナメントで美濃輪がオール一本勝ちで優勝!

バス・ルッテンの弟子、須藤元気や慧舟會の高瀬大樹、高田道場の豊永稔といった他団体勢が多数参加して異常な盛り上がりを見せた今回のネオ・ブラッド・トーナメント。

特に須藤は天狗の面やサイレン付きヘルメットなどを被って入場し、対戦相手を挑発。これがまた観客を熱くさせて、いいヒールぶりを披露した。また、これまで消極的な闘いが多かった豊永だが、この日は必要以上のガッツポーズや絶叫などのハデなパフォーマンスとアグレッシブな闘いぶりで株を上げた。だが、一番光ったのはパンクラスの看板を背負ってぶっちぎりのオール一本勝ちで優勝した美濃輪だろう。パンクラスの名誉を守った彼に乾杯！

さらにこの日は豊永のセコンドとして、桜庭が来場。珍しく笑顔を見せた船木と、珍しく笑顔が消えた桜庭が、非常に珍しい2ショット写真に収まっている。果たして、この2人の夢の対決は実現するのかどうか？船木は自信たっぷりに『やりましょう』と言うが…。

8/20 元前頭力士・力桜が全日本プロレスに入団

力桜全日電撃入門

若・貴と同期　97年秋に肝機能障害で休場→引退

きょう発表

という超巨漢!!　相撲界引退から全日本入りするまで2年間というブランクがあるものの、このリング映えしそうなこの巨体は文句なしに魅力。期待大だ。三沢社長も「オレの持つ記録（5ヶ月）を抜くぐらい早くデビューしてくれるといいですね」と期待を寄せている。

大相撲出身のレスラーといえば天龍、小鹿、安田、太刀光、ミング、テンタ、田上、泉田、スモウ・ダンディ・フジなどそうそうたるメンツである。そもそも日本プロレス界のゴッドファーザー・力道山も、その出身は大相撲だ。そんなツワモノたちの仲間入りを果たしたのが元鳴戸部屋の力桜。最高位・西前頭4枚目までいった実力者で、191センチ&140キロの

新人が充実する一方で、23日に川田利明が「両目ブローアウト骨折による眼球運動障害」という聞いたこともない大ケガに見舞われた。眼球手術すれば、年内復帰は絶望的。というからタダごとではない。なんでも91年に負った左目陥没骨折を8年間放置したところに、顔面へのダメージが加わって大ケガになったという。8年間放置…凄い!!

8/8 クレイジーMAX本拠地神戸にて改名!

ダンディ。この言葉&イメージに最も似合わない男。旧姓スモウ・フジ。そのコスチュームは、プリントされたまわしに『さがり』という名のビラビラを付け浴衣着用で登場。プライベートでは（突然背が高くなる）謎の厚底シューズを履いている。これが君のダンディズムなのか！　スモウ・ダンディ・フジ。あとの2人は、『SHIIMA』これ普通。.そして注目の『SUWA』イメチェン始めました。三つ編みドレット&白いオーバーオールですよ。師匠ウルティモ会長が『闘龍門イチのオシャレさん』と言うあたり何かあるとは思っていたが、この髪型に値するのかどうかは不明。この改名劇があった日本校設立記念ライブマッチVOL・1（神戸チキンジョージ）はリングの広さが通常6m50cmのところ、5mのプチサイズ（伸縮自由自在）。そこにクレイジーMAX5人衆（TARU&チョコボを加え）が暴れ回るとリングがさらにミニサイズに見えるぐらいの勢いなのだ。

8/某日 『Uスネーク』の看板がJR代々木駅に出現。謳い文句は"最強"

8/2 大和魂CD発売記者会見。飽きて紙コップを爆食いするマッハ恐るべし。

8/10 キングダムの入江が号泣&絶叫！　「成瀬さんのトーナメントに出たい！」

8/19 カブキ鬼コーチのもとで特訓を受け大ハッスルのIWA浅野紀州社長。

8/20 FMWの後楽園大会。墓場荒らしマッチや怪談etc.凝った演出が凄すぎる！

8/24 木村健悟がチェーン店「赤坂ラーメン」のファンクラブ会長就任が発覚!!

惚れました。

赤坂ラーメンファンクラブ会長　木村健悟

8/9 中野区の皆さん、DDT中継が始まりますよ!

ここ最近のDDTは、WWF直系のエンターテイメント路線にますます拍車がかかり、支持者も順調に増加中。インディー界でのエンターテイメント振りは他を一歩リードした感がある。DDTマットのビンス・マクマホンことネオDDTの篠社長も、興行ごとにそのやらしい社長っぷりに磨きをかけているし、高木三四郎も、今やストーンコールドよろしく「ガシャーン！」といえば客席からは「ファイヤー！」の大合唱状態なのだ。さらにはビデオプロジェクターの使用、音響設備のグレードアップ、可愛い女の子まで有効活用して独自の空間を作り上げている。

7・26北沢大会では、スーパー・ライダーが掣圏道ジャケット道衣で試合に出場。「押忍（敬礼）」「ニーブレス」等の大歓声が上がった。そんなDDTでは、8月9日にシティテレビ中野で会見を行い、DDT初のテレビ放送が決定したことを発表。毎週金曜日の深夜12時から1時間枠の番組として放映される。問い合わせはTEL0120・889・344まで

■P112の原稿で「ジョージ髙野がバトラーツ参戦を直訴」した件をバトラーツに確認したところ、「イタズラ電話だと思ったんじゃないのかな。同じようにドン荒川さんの電話も切っちゃったことあるから」とのこと。ジョージのラブコールは通じるのか？

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デチコ～ヒッ!!

紙のプロレス RADICAL

1999 No.20 CONTENTS

No.20 Main-Event

No.20 Semi-Final

interview about Seattle

NO.20 Semi-final

Scandal & Scoop

Radical fight

Special Novels

Columns

Another

RADICAL特製ピンナップ
夢のご対面記念
AKIRA meets MISFITS

RADICAL予告編ホートレート
次号登場決定記念! それまでのお楽しみ♥
リカルド・フィエート&ギルバート・アイブル

Art Director
出田さん●San Ideta
Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
村松さん●San Muramatsu
セッキー&グッチー●Sekky & Gutty
Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae
Cover Illustration
[オーちゃん&アントンUFOイラスト]
井上きびだんご●Kibidango Inoue
(ラ・ポエム東京餃子樓オフィス)
[背景]
いでっち●Idecchi

※「RADICALとは何か?」よし、教えたる!
「根源的」、「根本的」って意味やで、わかったか?
兄さん大阪から見守っとるで～。

●ヒャッホー!! ナマでできてホントに嬉しいッス!……(byジャイ子)

※ピンポンパンポーン。『激本』の 爆笑王様、爆笑王様。巨技(ジャイテク)はハンパじゃないです。キミごときに使うまでもないけどね。ピンポンパンポーン。

読者の要望多数につき、帰ってきた編集部座談会

英雄とは何か？

★特別付録★

9月なのに　ファン400人が選ぶ
上半期MVP&ベストバウト・ランキング！

アンケート収集地：7・4『PRIDE.6』（横浜アリーナ）60票／7・4キャプチャー（大田区民プラザ）14票／7・4EWF（クラブチッタ川崎）32票／7・6パンクラス（後楽園ホール）42票／7・14プロレス道場（コミュニティカレッジ）23票／7・16修斗（後楽園ホール）49票／7・16闘龍門（横浜文化体育館）39票／7・18全女（後楽園ホール）19票／7・18ガイア（後楽園ホール）14票／7・20バトラーツ（TFM）23票／7・23全日本プロレス（日本武道館）45票／7・26 DDT（北沢タウンホール）9票／8・10キングダム（北沢タウンホール）24票／8・13新日本プロレス（両国国技館）22票／8・14新日本プロレス（両国国技館）34票

総数449票

『常勝チャンピオン』、
デテコ～ヒッ!!

英雄不在———!?
それとも、英雄はすでにボクらの前にいるのか!?

かつて、無敗伝説といえばプロレスラーのものだった。力道山、アントニオ猪木、ジャイアント馬場といったスーパースターは勝ち続けることによって、あるいは負けないことで自らの存在価値を高めていった。が、プロレス界から、そんな「常勝チャンピオン」が消えて、かれこれ10年近く経とうとしている。

どっちが勝つか、どっちが負けるか、そんな「果てしなきフィフティー・フィフティー」の闘いを繰り広げているうちにプロレス界はどんどん先細りしてきている。

だからこそ、本誌は本気で提唱します！

「常勝チャンピオン、デテコ～ヒッ!!」

（『PRIDE.5』の小川直也選手のマイクアピールのようなファルセット・ボイスで）

ほぼ月刊誌なりのプチ速報

●8・28　新日本・神宮大花火大会

注目のムタvsニタは、ニタが敗れ棺桶入り。大花火大会というふれ込みだったが花火が小さく、一部の怒った客がペットボトルや紙コップを打ち上げた。た～まや～!!

●8・29　バトラーツ・ヤンジェネ決勝

大方の予想を覆し、池田大輔が石川社長を破り見事優勝。この秋は大ちゃん旋風が吹き荒れるのか！　次期シリーズにＵＦＯ・村上一成がバトラーツに緊急着陸！

Who's Real Hero?

リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!

この世紀末になってマット界になぜかアニマル浜口の時代が来た（笑）（山口）

ノブ　え〜、今日のテーマは「英雄とは何か？」なんですが、その前に『PRIDE．6』を振り返りたいと思います。だいぶ前の話ですけど。

山口　えらい前だぞ、お前！

ノブ　（話を聞かずに）『PRIDE．6』はおもしろかったですよね。

山口　まあ、確かに面白かったよな。

ノブ　なにが面白かったですか？

山口　そういう聞きかたされると答える気なくすなぁ（笑）。そんなの一言で言えないよ。

吉田　もっと面白い引き出しかたしろよ、ボケ！　たとえば、『SRS・DX』（第3号）で『PRIDE．6』に関する座談会をやってましたけど、あれは会長的にどうでした？

山口　全っっ然記憶にない（笑）。

吉田　ターザンが「格闘技がプロレスの前座になった」って発言してましたけどね。

山口　それって、以前ウチの雑誌（NO．18）の座談会で話したことでしょ？　ターザンがパクったんだ（笑）。

吉田　まあ、それはいつものことなんですけどね（笑）。

山口　ホント、パクリ多売だね（笑）。

一同　ガハハハハ！

山口　でもさ、『SRS・DX』ってウチが2ヶ月も休んでる間に5冊も出てるんだよ。サダハルンバ（谷川）は死ぬほど働いてるよなぁ（しみじみ）。

吉田　ウチの雑誌が、頑張らなさ過ぎなんですよ（笑）。

(右）結成以来、怒涛の勢いで快進撃を続けてきたノーフィアー（右）と犬軍団（左）。どちらも、TVの前の視聴者をクギ付けにするだけの強烈なインパクトの持ち主。どちらもタッグ・チャンピオンである

山口　（ノブに）お前だよ、頑張ってないのは！　何してたんだよ!?

ノブ　いや、企画の下地を……。

山口　もうコイツ、嫌だ（笑）。お前、さては、さぞかしプロレスを見ていろいろ考えたんだろ？

一同　ガハハハハ！

山口　2ヶ月もありゃなんか面白いことあったろ。7月は激動だったもんな。いろいろキーポイントになることあったよ。ノブには何があった？

ノブ　全日本の武道館（7月23日）に取材に行ったんですけど……。

吉田　それだけかよ！　まあ、ターザンは「四天王の時代は終わった」って書いてましたよね。

ノブ　いや、ボクはまだ四天王の時代だと思います……っていうか、それも崩れつつあるというか……。

吉田　どっちなんだよ、ボケ（笑）。

ノブ　過渡期なんです。ノーフィアー（大森隆男＆高山善廣）が台頭してきたのもそうだし……。

山口　さらに面白くなりそうな予感があるわけね？

チョロ　（大声で）ノーフィアー!!　は面白いですよ。

山口　まあ、全日にマイクという手法を持ち込んだ云々は、オレ的にはどうでもいいことなんだよ。なんか、ノーフィアーは小島（聡）＆天山（広吉）組に通じるような自己主張の仕方をしてると思うんだ。よく考えてみると、大森も小島も同じアニマル浜口ジム出身でしょ。この世紀末になって、マット界になぜかアニマル浜口の時代が来てるんだよ（笑）。あのジムの出身者っていまは大勢いるよな？

座談会出席者

山口日昇■犬も殺せる本誌鬼畜編集長。最近はキャバクラ通いが妻に発覚！　しかし懲りずに、身近な人のモノマネをキャバクラでやり続けスベりまくっている

吉田豪■金髪の本誌スーパーバイザー。ジャイ子の保護観察人（からかってるだけ？）。次号から『吉田豪のジャイジャイ日記』を新連載（予定）

坂井ノブ■本誌デブ。ここ2年間で体重が20キロ増。意外にも相撲が強いことが発覚。WWFにハマるが、他人に勧めてヒンシュクを買う

松澤チョロ■通称・ぴのこ。姑息な手段で読者の女子をたらし込むインチキ野郎。皮膚病の犬に似ている（©マシジュン）。最近、「トゥナイト2」に出演し調子にのってるオナニスト。

中村カタブツ君（36歳）■通称ブチ。最近は空手本の制作で忙しく動きまわるフリーライター。『SRS・DX』でも絶賛執筆中。エロジジイ。

ジャイ子■通称・ジャイジャイ。今号でクビが掛かっているので、少しションボリさん。キティちゃんとアイスが大好きな夢見る大きな女の子。

井上きびだんご■通称・きび。通りすがりの高田ファン兼『SRS・DX』のモノマネ四天王のうちの1人。口癖は「ふぃふてぃー・ふぃふてぃー」

各団体の会場でファン400人に聞く **上半期**

MVP

- 1位　小川直也……78票
- 2位　桜庭和志……44票
- 3位　武藤敬司……29票
- 4位　三沢光晴……16票
- 5位　宇野薫……14票
- 6位　大仁田厚……11票
- 　　　ジャイアント馬場……11票
- 8位　ケンドー・カシン……10票
- 9位　桜井速人……8票
- 　　　サバイバル飛田……8票
- 　　　マグナムTOKYO……8票
- 次点　前田日明……7票
- 　　　【ノーフィアー】大森隆男＆高山善廣……7票
- 　　　【犬軍団】後藤達俊＆小原道由……7票

MVP検証

1.4ドームで目を覚ましてもらったプロレスファンの圧倒的支持を受けて、オーちゃんがブッチギリの受賞。無差別襲撃三昧の次なる標的は、ヤマヨシか、高田か、はたまた新日か？　今後の予定は「考えさせてくださ〜い」らしいが、下半期もオーちゃんから目を離すな！　2位はニコニコしながらブラジル幻想を粉々に砕いてしまった男、サク！　ビクトー戦、ブラガ戦では、これまでの呑気なキャラクターに加えキラーぶりまで発揮し始め、また一歩スーパーサイヤ人に近付いた感じである。3位武藤はG1会場での支持抜群で入賞。ところで「触ってはいけないモノ」ってなに？　やっぱり……。宇野、マッハと修斗勢の躍進も目立つが、エンセンはケアー戦中止が響き圏外。しかしエンセンのテーマ曲はMVPモノとの声アリ。"リアルファイト"と言えば、"人間と猿人のリアルファイト"を制した飛田もベスト10入りの快挙。これからも人間の限界に挑戦してほしいものだ。全日勢はベスト10に2人登場。お亡くなりになった馬場さんには、本誌から勝手に人生のMVPを差し上げたいと思います。次点には日明兄さんと共に、メジャー両団体のタッグ王者、ノーフィアーと犬コンビが顔を出した。全日・新日の常識を覆した両チーム。やはり、常識と処●膜は破るためにある（by石川雄規）んだろうか？　なお、見事MVPを受賞した小川選手には、プロレスグランプリ実行委員長、野末陳平氏よりトロフィーが贈られます（ウソ）。（堀江かるがも）

日明兄さん風MVP検証

うん？　なにコレ？　MVP？　あっそ。これをオレに解説して欲しいんか。よろしい特別にレクチャーしてあげよう。なんや1位は小川やんけ、まあMVP言うんやったらな、ゴチャゴチャ言わんと山本とやりなさい。それだけやんけ、でしょ？　桜庭と宇野君はよく頑張ってるみたいやけどね、今度会ったら言っといてよ、オレが女やったら一発やらせてあげちゃう、うっふん｜ってね。で、なんや大仁田がおるやん。あの何？　ニタって？　あれ武藤でしょ？　違うの？　あっそ。大仁田も武藤も二人してチンドン屋見習いみたいなカッコしてさ、ま、武藤は酔っぱらってフリチンで殴り合った仲やからね。あの頃から将来トップとるんかなとは思ってたけど。あれ？　マッハ隼人さんがおるやん。違うの？　あっそ。それにしてもケンドーとかマグナムとかサバイバルとか、お前ら誰やねん！　オレがホンマのサバイバル教えたろか！　オレは新日本入る前はホント、サバイバル生活やったからね。毎日チキンラーメン食ってさ、その日暮らしみたいやったからね。それにねサバイバルって言ったら戦時中の兵士はね、それこそホンマのサバイバルで食糧もなしにね、ジャングルを……（戦争の話が長いため割愛）ま、寝言は寝て言いなさい。で、オレは次点？　それよりオレと同票のノーフィアーと犬コンビって何なん？　なんで犬がおんねん。犬は犬らしくバターでも舐めてなさい！　まあ、そういうこっちゃね。（チャズ本人）

チョロ　リングスの滑川（康仁）と坂田（亘）、新日の小原（道由）、大谷（晋二郎）と吉江（豊）、大日本の本間（朋晃）、バトラーツのマッハ純二、岡本魂、日高（郁人）、ショーン（船木勝一）もそうですね。あと女子だと高橋奈苗。

ジャイ子　（大声で）中野知陽呂！

山口　何アイス食いながら絶叫してるんだよ、このキチ●イ大女!!

ジャイ子　……（睨む）。

山口　睨むなよ、気持ち悪い。座談会なんだから言葉にしろっつってんだよ、この白痴のレズ!!

吉田　それはヤバイですよ、会長。正確には「自律神経失調症」です！　失礼な！

ジャイ子　（口をとがらせて）もうすぐアイス食べ終わりますぅぅぅ。

山口　いいよ、一生食ってて（笑）。でな、オレは発見したんだよ!!

チョロ　何ですか!?

山口　アニマル浜口っていったら〝偉大なるバイ・プレイヤー〟だよね。大森や小島にしても、「彼らがいまのマット界の主流だ」とは言い切れないでしょう。まあ、勢いはあるんだけど。

吉田　つまり、主流になってはいけないものなんですよね。

山口　そうそう。でも、いまの時代にはベーシックなものに勢いがないから、彼らの元気の良さばかりが目立っちゃうんだよ。ほら、浜さんもアニマル浜口ジム出身者もみんな元気でしょ。ノーフィアーや小島選手とかは、主流に爆発的な元気がないスキ間を縫って浮上してるよね。いまはとにかく声高に叫ぶ人たちが目立ってる。大仁田厚なんか、いい例だよ。

吉田　この前の『ワールド・プロレスリング』（8月7日OA）は最高でしたね。ニタが復活するシーンは爆笑しました（笑）。

山口　あれはノブに見せられたWWFのビデオよりも面白かった（笑）。でもさ、大仁田をはじめとして、声高に叫ぶ人がそれだけ目立っちゃうのはいいことなの？

吉田　いまは、わかりやすいものが望まれてますからね。声高に叫ばないと世間に届かないんですよ、多分。

山口　（ノブに向かって）声高に叫ばなきゃダメなんだよ、わかった？

ノブ　（小声で）わかりま……す。

吉田　ちっちゃい声で言うなよ（笑）。

山口　そういえばさ、今週の『週プロ』（NO．930）に小島選手のインタビューが載ってたでしょ。そこで「俺にはスーパースターの血は流れてない」って言ってるんだけど、やっぱり本人にもバイプレイヤーとしての自覚があるんだよ。それを自覚しつつ、声高に叫んでいく姿勢はプロとしていいことだと思うんだよね。好き嫌いは別として（笑）。

ノブ　ボクは最近、WWFのビデオ借りてガンガン見てるんですよ。

山口　それはいいけど、仕事するか太るかしろよ（笑）。それで？

とにかく、リング上から元気を発散してきたアニマル浜口。現在は、浅草で「アニマル浜口ジム」を経営しながらマット界に元気な人材を輩出中。いまや、「プロレスラーになるならアニマル浜口ジム」というのが常識である

ノブ　あっちは、配役がキッチリ決まってて、スーパースターはスーパースターとしてガンと存在してるんですよ。それで、脇役は脇役の時間があって、全体のバランスがいいから見ててすごく快適なんですよ。

山口　お前にブッ切りの映像を見せられても、なにがどう面白いのか全然わからなかったぞ。まあ、でも、いまの日本マット界をバイプレイヤーの時代だとすると、アメリカのマット界は、ちゃんとスーパースターの脇を脇役がガッチリ固めるスタイルが出来上がってるよね。

吉田　なんでスーパースターがいる世界が面白いかっていうと、単純に負けないからだと思うんだよね。負けるにしても、乱入されたとか反則されたりとか説得力のある負け方をする。ゴールドバーグも200連勝ぐらいしてたんでしょ？　WWFのストーンコールドもそうでしょ？

山口　もともとプロレスの魅力の一端には、「常勝チャンピオン」という部分もあるからね。「強い」チャンピオンが大きなものを背負って、なおかつ勝ち続けるっていう。

吉田　それこそ力道山の時代から、いつも「常勝チャンピオン」がいたんですよ。ルー・テーズには負けるけど、3本勝負のうちの1本は取るとか。

山口　一時期の（ジャイアント）馬場さんも猪木さんも「常勝チャンピオン」でしょ。猪木さんが常勝チャンピオンだったから、藤波（辰爾）にドラゴンスープレックスでフォールを取られて物悲しい顔した後にニコッと笑うシーンとか、舌出して失神しちゃうシーンが印象に残るわけだよね。

吉田　でも、あの頃が常勝チャンピオンの時代の終わりだったんですよ。

山口　そうだね、UWFが出てきて常勝チャンピオンがいなくなったから。

吉田　Uが出る以前にも、（ハルク・）ホーガンに負けたあたりから崩れはじめてますよ。それと新日でクーデターがあったのも、「常勝チャンピオン」が出にくくなる環境を産んだんじゃないですか、きっと。

山口　猪木さんがIWGPの決勝戦でホーガンに負けたときに、ビッグ・サカ（＝坂口征二）が「人間不信」って机の上に書き残して失踪したことがあったよね（笑）。長州以下も、完全に磁

各団体の会場でファン400人に聞く　上半期

ベストバウト

1位　三沢光晴vs小橋健太
（6／11日本武道館）41票

2位　宇野薫vs佐藤ルミナ
（5／29横浜文化体育館）34票

3位　田村潔司vs山本宜久
（6／24後楽園ホール）33票

4位　桜庭和志vs
エベンゼール・フォンテス・ブラガ
（7／4横浜アリーナ）24票

5位　小川直也vs
ゲーリー・グッドリッジ
（7／4横浜アリーナ）22票

6位　小川直也vs橋本真也
（1／4東京ドーム）20票

7位　武藤敬司vsドン・フライ
（4／10東京ドーム）18票

8位　桜庭和志vs
ビクトー・ベウフォート
（4／29名古屋レインボーホール）12票

前田日明vs
アレキサンダー・カレリン
（2／21横浜アリーナ）12票

10位　蝶野正洋vs大仁田厚
（1／4東京ドーム）11票

武藤敬司vs天龍源一郎
（5／3福岡国際センター）11票

次点　山川竜司vsシャドウWX
（5／30新川崎）9票

近藤有己vs國奥麒樹真
（3／9後楽園ホール）9票

ベストバウト検証

全日本の会場のみならず、幅広いファン層に支持された“究極の三冠戦”三沢対小橋がトップ。落武者には「四天王プロレスは終わった」等と散々言われているが、どう考えても終わっているのは落武者自身であることは、これを見れば明確である。2位はなんと修斗での宇野対ルミナ。この結果には天国の宇野のお父さんも喜んでることでしょう。3位は“リングスコール”大爆発の田村対山本。リングス会場ではアンケートを取ってないのにこの票数は驚異的。是非、この二人が争うタイトルマッチが見たいモノだ。オーちゃんとサクは共に小川戦とグッドリッジ戦、ビクトー戦とブラガ戦に票が割れてしまい、ベスト3入りならず。しかし、いずれも歴史に残る一戦であることは言うまでもない。歴史に残るという点ではブッチギリの前田対カレリンは8位。新日ファンから圧倒的支持を受ける武藤も、フライ戦、天龍戦、健介戦に票が割れ7位止まり。大仁田劇場でファンをテレビに釘付けにした大仁田は、新日初の電流爆破が10位。大仁田は何故か真鍋戦、永島企画部長戦と実際の試合以外と票が割れた。次点には山川対シャドウWXの、とっくの昔に一線を越えてるデスマッチが入った。

日明兄さん風ベストバウト検証

あのね、ベストバウトっていうのはね、どれだけ後々まで人々の記憶に残るかでしょ？　そういう意味で言うとね、カレリンは間違いなく時間に劣化されない相手、くすまない相手、歴史に残る相手。ホンマこんな選手は二度と出てこないだろうね、で、なんで8位やねん！　まあ、オレとカレリンの名前をよく脳味噌のシワに刻んでおくこっちゃね。10年後、20年後君たちにも分かるときが来るやろ。ま、今回オレとカレリン入れてくれた人はね、何十年かたった後に「オレは理解してたもんね～」って自慢すればエエし。オレだってね、将来孫が出来たら「おじいちゃんはカレリンからファーストエスケープ奪ったんやで」とか「アンドレしばいてんねんぞ」って言って自慢するやろうしね。ま、一日千秋。その日まで気長に待つことやね。

常勝チャンピオンがいなくなってプロレス人気にも陰りが出てきた（吉田）

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、テテコ〜ヒッ!!

場が狂った。チャンピオンは絶対勝たなきゃいけなかったのに、猪木さんの巨大な謎掛けで新日全体というかプロレス界全体が狂ったね。

吉田　あのへんからプロレス人気にも陰りが見えてきてＵＷＦが生まれる土壌ができるわけですよ。

山口　そのＵＷＦは、従来のプロレスから脱却するためには「真剣勝負」っていうイメージを打ち出さなければならなかったでしょ。

吉田　まあ原点回帰というか「常勝チャンピオンなんてありえない」っていうのを打ち出しましたね。

山口　前田日明は実際「常勝チャンピオンなんてありえないんや」って叫んでたし。

吉田　ありえないのかもしれないけど、実際見てて気持ちいいのは常勝チャンピオンなんですよね（笑）。

山口　いまは懐しいね（笑）。前田日明は格闘技としてのリアリティを追求していく姿勢を表す言葉として言ったんだよね。その「常勝チャンピオンなんかありえないんや」っていう前田日明の言葉は、当時はリアリティを持ったんだよ。それは、「オレが常勝チャンピオンになるんや」っていう熱意の裏返しかもしれないけどね。

吉田　ところが格闘技にも常勝チャンピオンがありえるということが……。

山口　図らずも、発覚してしまいましたねえ（笑）。ヒクソン・グレイシー、マーク・ケアーという世界の強豪たちによってね。

チョロ　ここ最近の桜庭（和志）選手や（アレキサンダー・）カレリンも常勝ですね。

山口　プロレス界でしか存在しえないギミックだと思われてた常勝チャンピオンが格闘技に持ってかれちゃったんだよね。それはプロレスに裏切られたっていう被害妄想を持った、いわゆる『Ｋ通』文化を作り上げた人たちがプロレスのいちばんいい部分を格闘技に移植していったのも大きいよ。

吉田　（佐藤）ルミナ選手にしても、負けた相手に必ずリベンジしてきたから、見ててホントに気持ちよかったっていうプロレス的側面はありますね。

山口　だから、「格闘技」だ「プロレス」だっていうのは抜きにしても、「常勝」とか「チャンピオン」って本質的に気持ちいいものだから。

吉田　でもルミナ選手が試合で６秒で勝ったとか、マッハ（桜井速人）選手が34秒で秒殺したことにとやかく言うブチみたいな人もいるけど（笑）。

ブチ　とやかくは言ってないですよ。気持ち的には「ちょっとなぁ」って感じながらも、あれはアリですよ。アリだけど相手が強いか、弱いか、よくわかんないんですよ〜。

吉田　昔のキックにしろ空手にしろ、相手の質はともかくとしても、常勝チャンピオンがいたから盛り上がったわけでしょ？

山口　そうじゃないと観てる方は乗れないもん、ホントに。そういう点ではミスター・ヒクソンはうまくその波をつくったよね。プロレスが失った「常勝チャンピオン」というのを移植して、「400戦無敗」みたいな肩書きをつけて、格闘技という土壌でイメージをつくったわけだから。

吉田　勝てる相手としかやらないって批判されてるけど、それは絶対に正しい行為なんだよ。いけすかないけど（笑）。そう思うのは、ボクらがヒクソンに乗ってないからですよね。乗ればメチャクチャ気持ちいいはずですよ。

山口　だから、格闘技に乗ってる人は、プロレスを見てるのと同じなんだよね。格闘技ファンはもともとプロレスファンだった人が多いから。格闘技こそシーソーゲームだと言われてたのに、逆に、いまの新日のジュニアとか全日ってシーソーゲームでしょ。勝ったり負けたり。

吉田　それって長州力が台頭した以降に生まれた複数スター制ですよね。

山口　その前から、猪木さんも「これからは複数スター制の時代だ」って予言してたけどね。

吉田　それと猪木さんの引退後に後を継げる人がいなかったのも原因でしょうね。ドラゴンではダメだったんですよ、きっと（笑）。

山口　なんで常勝チャンピオンにリアリティがなくなっていったんだろう？

吉田　単純に、団体内で常勝できるだけの押しの強さを持った人がいなくなっちゃったんですよ。例えば、いま三沢（光晴）選手がそれをやったらかなり団体内でヒンシュク買うよ。

山口　常勝チャンピオンが生まれにくい土壌は「勝ったり負けたりするのが格闘技の世界では当たり前」という前提。それこそが真実っていう、ある種の幻想がはびこってたからでし

アメリカンプロレスの世界は興行収益よりも、ＰＰＶ収益やグッズの売上の方が遥かに大きい、完全にキャラクター・ビジネス化した"モノ"の時代になっている。

各団体の会場でファン400人に聞く

上半期 ベスト興行

順位	日付	興行	票数
1位	7／4	PRIDE.6 横浜アリーナ	31票
2位	1／4	新日本プロレス 東京ドーム	25票
3位	5／29	修斗 横浜文化体育館	24票
4位	6／24	リングス 後楽園ホール	20票
5位	4／29	PRIDE.5 名古屋レインボーホール	18票
6位	4／10	新日本プロレス 東京ドーム	17票
7位	5／2	全日本プロレス 東京ドーム	16票
8位	6／11	全日本プロレス 日本武道館	14票
9位	2／21	リングス 横浜アリーナ	10票
10位	1／31	闘龍門 後楽園ホール	9票
次点	6／5	世界のプロレス 中間市体育文化センター	8票

ベスト興行検証

オーちゃん人気爆発、サク"船木をボコボコにした男"ブラガに一本勝ち、高田「ロッキー４」のテーマ復活、小路のバンドメンバー紹介風マイクなど、見どころありすぎの『PRIDE.６』が１位。これからも『PRIDE』には、エンセン対ケアー、サク対フランク、高田対ホイス、神取対キム夫人など、失禁寸前の超ド級カードを実現させて欲しいモノだ。２位は「１・４小川事変」とまで呼ばれた新日ドーム大会。小川・橋本戦に興奮した昭和ファンのみならず、武藤・フライ戦に感動した平成ファンの支持もあつめた。３位は全日。5.2ドームを押さえ、三沢対小橋の武道館。やっぱり全日は武道館で見るのが一番ということでしょう。Ｔシャツを買いたい客で札止めになった、とまで言われた修斗横浜文体は４位。坂本プロデューサーの作戦大成功。会場でアンケートを取っていないリングスは、田村対山本の後楽園と前田対カレリンの横アリがベスト10入り。この２試合がいかに幅広いファンの関心を呼んだかが分かる。注目は10位の闘龍門。会場中が踊ったマグナムTOKYOの入場シーンは、ある種プロレスの革命である。次点にはなぜか世界のプロレス中間大会が登場。中間ってどこだよ！　本誌・松澤チョロ前特派員の話によると、九州なのに30人以上の東京近郊のプロレスマニアが駆けつけたとのこと。マニア恐るべし。マニアの純真！

日明兄さん風ベスト興行検証

あのね、みんな興行って簡単に言うけどね、このマット界が地盤沈下した中で、良くも悪くもお客を入れてるって意味でね、新日本、全日本っていうのは偉いと思いますよ。でも、これからがキツイやろね。シアトルのケビンさんの所に行ったとき、WWFをテレビで見たんやけど、あれはおもしろいね。オレ腹抱えて笑ったからね。マクマホンはホンマ天才やと思うわ。日本でも蝶野とか大仁田がない頭で一生懸命考えて、なんか色々やってるようやけど、全然違うよ。エンターテインメントっていう意味やったら、あそこまで行くしかないんやないかな。１位の『PRIDE』やけど、あんな金使って、いつまでもつんかな？ってのが正直な感想やね。それに結局高田がおらんかったら厳しいんちゃうかな。まあ、選手は頑張ってるみたいやし、そういう意味では評価してますよ。ま、ウチに関してはね、色々言われてるようやけど、石上三年！　さざれ石を巌にするまでやるつもりやからね。また、自分の言葉に酔って遠くを見てしまった。まあ、貧乏ヒマなし！　えっちらおっちらやっていきますよ。

よ。

吉田　マス大山も「生涯で1回だけ負けたことがある」と言ってるけど、あれは闘いで負けたんじゃなくて陳老人に負けただけだし（笑）。

ブチ　闘わずして負けを認めたっていうヤツですね。

吉田　そこにファンタジーを感じて乗れたっていうのがありますよね。芦原英幸は負けたことあんの？

ブチ　もちろんないですよ！　試合をしてないってものあるんだけど……。

吉田　でしょ？　だけどいまは実戦の格闘技に常勝チャンピオンが出てきたんだから、そっちに人が流れるのは当たり前だよね。それには、いまのプロレスにスーパースターがいないせいもあると思うし。

ブチ　常勝チャンピオンがいた時代のプロレスは、試合自体にリアリティはあったんですか？

山口　あったから乗れたんだよ。その当時のビデオをいま見て「リアリティがない」っていうのは簡単だよ。だけど、以前も言ったように、リアリティっていうのは、時代によって変わるもんだから。

ブチ　オレはその頃、完ぺきに空手側だったから、プロレスにはリアリティを感じなかったんだよなぁ。

吉田　そういう言い方する？　じゃあ、その当時の空手の試合にリアリティがあったかっていうと……。

ブチ　う～ん……ノーコメント！

吉田　まあウィリー（・ウイリアムス）vs熊にリアリティがあったかっていうと、ないわけだよね（笑）。だから重要なのは、"ヒト"の見せ方なんですよ。当時だったら梶原（一騎）なり新間（寿）なりっていう見せ方がうまい人がいて、常勝チャンピオンに説得力をしっかり持たせてたんだよ。

山口　猪木さん自身だって、常勝チャンピオンでいるときにはやっぱり説得力を放出してたよね。マス大山だって、武勇伝はマンガの中の出来事が多いとはいえ、本人自体に巨大な人間力からかもし出る迫力があるわけだし。だから、当時はマンガとかまわりの状況に負けないような説得力を本人たちが持とうとしてたでしょ。自分で課したハードルを超えようとしてた。その気持ちは大事だよね。

吉田　ただ常勝でいることって、人としてムチャクチャつらいんですよ。だから、みんななりたがらないっていうのもあるはずですよ。

山口　そりゃそうだよ。だからスーパースターになれるんだから。いまの若い選手は、猪木さんとか前田日明みたいなスーパースターにはなりたがらないでしょ。それは、彼らが、スーパースターはスーパースターなりに背負うものが増えたり、ちょっと失敗すると叩かれたりするのを見てるから、「あんなものまで背負いたくねえよ」っていう気持ちになるのもわかるんだ。

吉田　たしか、タイガーマスクも無敗だったよね。

チョロ　しんどい常勝の上にマスクまでかぶってたら、そりゃ脱ぎたくもなりますよね（笑）。

山口　だから当時の佐山聡も、相当しんどいものを背負ってたんだよね。なんせ日本語しゃっべちゃいけなかったわけだから（笑）。

吉田　だからいまの佐山聡はあんなに口数が多いんですよ（笑）。

山口　そうか！　いま佐山聡にタチの悪い発言が多いのは、そのときのトラウマか？（笑）。人として常勝チャンピオンはすごく辛いよね。

吉田　だから何年も続けられるものじゃないんですよ。それで会社としてはスーパースターを引き継いでいくことの面倒くささもあるでしょ。ファンが人についてる場合、引退とか離脱で客が離れちゃうし。だから会社は、そういう事態を防止するために複数スター制は都合がいいんだよね。

吉田　最後のスーパースターって大仁田厚だったのかな？

山口　そうだね。Uの対立概念として出てきた大仁田厚っていうのは、常勝を否定するものへのアンチでもあったんだよ。やっぱりUというのは大きいキーワードだね。

吉田　ようするに悪いのは佐山聡と前田日明ですね（笑）。

一度は新日に取り込まれた高田だが、8月の神宮大会は直前でキャンセルとなった。高田の天敵・大仁田はその神宮でメインを張った。どこまでも行き違う2人だが、どこに行ってもスターの風格は失わない。

各団体の会場でファン400人に聞く

衝撃的出来事

1位　ジャイアント馬場さん死去…64票
2位　大仁田、新日参戦…………11票
3位　長谷川悟史選手死去………10票
4位　藤波新社長誕生……………8票
5位　オーエン・ハート選手死去…7票
6位　門恵美子選手死去…………6票
7位　掣圏道のジャケット型道衣……5票
7位　犬軍団IWGPタッグ奪取….5票
9位　小川vs橋本戦………………4票
9位　大仁田厚高校入学…………4票

◎新日の後藤と小原がベルトとったこと＆小橋が鼻折ってるのにがんばってること【西尾美香・17歳・女・学生】
◎シャーク土屋にヒゲが生えたこと【八木たかお・26歳・男・タレント】
◎大仁田劇場での大仁田と真鍋の対決【大森重生・18歳・男・学生】
◎蝶野とフライが手を組んだ＆大仁田が高校合格（思いもしなかった）【若林由彰・24歳・男・学生】
◎北斗の復帰（ビックリぎょうてん有頂天）【佐藤隆・36歳・男・会社員】
◎藤波の社長就任（三沢が全日本の社長になり2大メジャーの大改革だと思う）【ゆみ・27歳・女・会社員】
◎ケンドー・カシンのベストオブスーパーJr初優勝！（好きだからそれだけです。ビックリと同時にうれしかった）【小堀達也・20・男・学生】
◎ＤＤＴの宇宙パワーブチ切れ【中島博行・25・男・国家公務員】
◎二瓶組長逮捕（よくありそうなことなのに本当にタイホされちゃう人がいたのでおどろきました）【北川たみ子・25歳・女・介護】
◎オーエン・ハートの死亡事故（カルガリーが好きだから）【石毛力丸・25歳・男・会社員】
◎ヴァーゴン出現【こもいけあつし・30歳・男・会社員】
◎井上貴子のスタンガン（なしでしょ、あれは）【千葉誠・23歳・男・フリーター】
◎リック・ルード逝去【神田光信・27歳・男】
◎パンクラスの長谷川悟史選手が亡くなったこと（これからという時にとても残念でなりません）【井上牧子・27歳・女・フリーター】
◎山川さん、携帯じゃなくてＰＨＳだという事。かわいい！【大久保利栄・34歳・女・清掃業】
◎カレリンを肉眼で見れたこと【浅倉良徳・29歳・男・勤務医】
◎谷津電流爆破【上野佳子・28歳・女・イベント博士】
◎掣圏道の道衣（まさにエキサイティング・ドレッシー。凄く着てみたいです）【真下純子・29歳・女・暫定主婦】
◎藤波またしてもサミット開催を提唱（まだあきらめてないから）【吉原孝太郎・30歳・男・物書き】
◎戸井マサル、小野浩志同日復帰（全く予想外のＸだった）【白井康雄・25歳・男・公務員】
◎みちプロ分裂【中村愚乱・25歳・男・マスクマン】
◎マグナムがセクシーだったこと（今風だもん）【林ヘックションー枝・25歳・女】
◎二瓶組長ネタをカシンがネタにしたこと。新日ってそれＯＫなの？【藤田一郎・27歳・男・無職】
◎健介（だしちゃえ！だしちゃえ！）【石橋大輔・24歳・男・旅人】
◎高橋義生vsジョン・ローバー（秘密の花園に足を踏み入れたよう）【杉森厚子・２８歳・女・美容師】
◎「紙プロ」ほぼ月刊化【小倉雅人・29歳・団体職員】
◎犬コンビ、ベルト奪取とエンセンのテーマ曲【MISUZU・21歳・女・学生】
◎破壊王18キロ減量（やけにふけて見えた）【鈴木誠一・24歳・男・会社員】
◎元川FMW入り（西堀を置いていくなんて、ゆるさん！）【岩渕浩孝・27歳・男・会社員】
◎SPWF電流爆破、歴史的大コケ（大コケすぎて逆に満足してしまったから）【高柳隆一・24歳・プロボーラー】
◎天龍のフランケンシュタイナー（かっこよかった）【宮下幸之助・15歳・男・中学生】
◎ターザン破局（僕のせい）【吉野力・29歳・男・壁紙屋】

〝子供の中に入って笑顔を見せるだけで違和感がなく光を出している〟のが英雄!!

山口　彼らが動けば何かが変わるってことですよ。

【ここで『SRS・DX』の井上きびだんご氏（岡山県出身）が来社】

きび　ちわ〜。アレクの写真貸してくださ……あれっ、何やってんスか？　これが噂の編集部座談会ですか？

山口　ちょうどいいところに来た！　きびの思うスーパースターって誰？

きび　高田（延彦）選手ですね。フィフティー・フィフティー！

山口　ああ、そうか。「最強・高田」の時代があったね！

吉田　それは東京ドーム（95年10月9日）で武藤（敬司）選手が勝ったことで終わったんですよ。あの当時の長州力の「Uを終わらせる」発言は、「お前らもシーソーゲームのワクのなかに入れる」っていう意味だったのかもしれないというかね。だから90年代前半のスーパースターである大仁田厚と高田延彦を新日のリングに上げたことで、彼らをスーパースターとしては潰しちゃった、と。新日がすべてを平均化したんですよ。

山口　いいこと言うねえ！　金髪鬼！（笑）。いまのマット界は、ある意味で新日本が均一化させた世界だね。そこで蝶野（正洋）選手のイラは、さっきボクらが「常勝チャンピオンの時代は、それはそれで正しかった」って言ってた話と接点を持ってくると思うんだよ。蝶野選手が一時期ヒールとしてホントに光ってた時期があったけど、そのときはピラミッド型の権力構造をひっくり返して、「オレたちが世界を支える」って主張してたんだね。それは「俺がトップに立つ」っていうものの発展型というか、未来型なんだよね、蝶野選手の中では。でもさ、時代そのものが常勝チャンピオンってものに頼れなくなっちゃたのはなんでなんだろう。

吉田　高田選手が武藤選手に負けた後に、Uインターの団体経営が厳しくなったのを見ると、常勝チャンピオンに頼りきった団体経営が難しいことなんだって、みんな思っちゃったんじゃないですか？

山口　それで新日ジュニアや全日の三冠戦に代表されるスタイル、どっちが負けても勝ってもシーソーゲームとして成り立つ試合っていうのは一時期すごいリアリティあったじゃない。新日のG1クライマックスとかK-1もそうでしょ。常勝チャンピオンがいなくなった90年代前半から中盤はそういうリアリティが求められてたんだけど、いまはどういうリアリティが求められてるのかっていうことだよね。

吉田　シーソーゲームって面白いと思ったんだけど、意外に観客にとっては辛い部分もあるでしょ。常勝チャンピオンの試合はスッキリしますけど。

山口　そんな合間をついて出てきたのが『PRIDE』ですよ。バランス・プロレスの時代に『PRIDE』だけは異質だよね。むしろ、オレたちが望んでたプロレスの世界っていうのが、『PRIDE』に立ち昇っちゃったわけだよ。だから、ミスター・ヒクソンも格闘家として見ると面白味をあまり感じないけど、プロレスラーとして見たらけっこう高級だよね。実績も残してるし、自分の見せ方っていう部分においても力入れてるしね。

チョロ　マーク・ケアーもそうなりつつありますよね。

山口　ケアーといえばさ、『私、プロレスの味方』なボクの大好きな作家は、マーク・ケアーが好きらしいよ。

ノブ　えっ、そうなんですか!?

山口　その人が言うにはケアーが〝英雄〟に見えるらしいんだ。昔、（スタン・）ハンセンがパルコの広告で、子どもたちに囲まれてたのを覚えてる？　ああいう感じで「子供の中に入って笑顔を見せるだけで違和感なく光を出している」こと、はしょって言えば、それが似合う人。それがその人の言う〝英雄〟の定義なんだって。直接聞いてないから細かいニュアンスはわからないけど。力道山にもそういう要素があったし、猪木さんもそう。猪木さんがコソボ難民の子どもたちに囲まれて、真ん中で太陽のような笑顔をみせてるだけで、「ああ、この人は〝英雄〟の光があるな」って思うでしょ（笑）。

吉田　そのとき頭のなかで別のこと考えてるかもしれないけど（笑）。「強い難民いねえかなあ」とか。

山口　「ここで試合するにはどうしたらいいんだい！」とかね（笑）。でもそれは凄くスッキリくる。で、その作家が言うには、簡単に言えば「マーク・ケアーも、子どもたちの真ん中に入っても似合う」ということらしい。確かに、そう考えると、ホントにいまの時代って、そういう光を放つ〝英雄〟が少なくなったよね。

吉田　小島選手も子どもの真ん中で、いい笑顔しそうじゃないですか（笑）。

山口　でも、それはバイプレイヤーとしての笑いだよね。それは子どもの脇役っていう意味じゃないよ（笑）。

吉田　かといって、小川選手のそういう図も想像できないですよ。

山口　いまの前田日明が来たら子どもは怖がりそうだし（笑）。（ザ・グレート・）サスケは似合うんじゃない？

吉田　いや、子供と同じ土俵に立っちゃうんじゃないですか（笑）。それにサスケ社長は汚れた英雄だし（笑）。

山口　ガハハハハ！　そういう意味じゃホントに英雄がいない。

ノブ　ということは、ファンは何を見てるんですかね？

山口　団体という実体のない〝モノ〟に付いてるんでしょ。6月のリングス後楽園大会で、山本vs田村戦が1年に1回見れるかどうかっていう名試合だったこともあるんだけど、起こったのは「リングス」コールだったよね。あれでハッキリした。リングスも前田

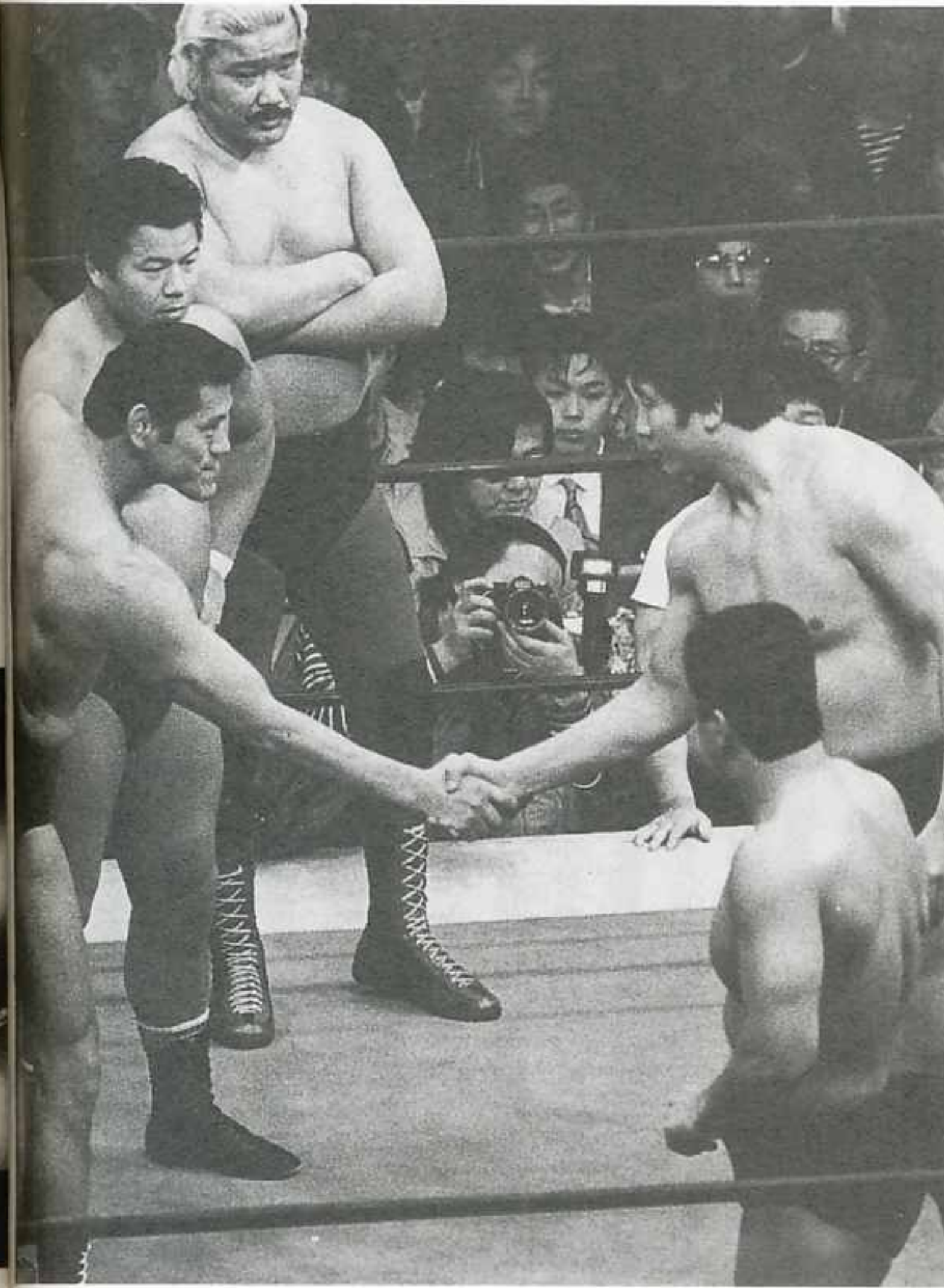
Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!

「Uはドームで潰す」という長州の発言通り、Uインターは崩壊した。A・猪木の下で壮絶な運営を体験してきた長州らの運営方針で複数スター性が誕生した。

という常勝チャンピオンの時代が終わりを告げて、いまの全日本、新日本、パンクラスのように団体に客がつく時代がきたということだよ。
吉田　「常勝チャンピオンなんかありえない」と言った前田日明がスーパースターになったのはなぜですかね。
山口　それは、前田日明に常勝チャンピオンより常勝チャンピオンらしいイメージがあったからでしょう。負けることもあるけど、ここ一番というときに強かったしね。
吉田　前田の名言チックに言えば、猪木なら、つまり常勝チャンピオンだったら何をやっても許されるってことなんですよね。
山口　そう、ちゃんと団体を引っ張っていければね。ところが、新日本に長州が戻ってきた頃から、団体そのものをスーパースターにしようとする動きが出てきたよね。変な言い方だけど（笑）。団体そのものに人格を持たせようとしたというか。
吉田　昔は「新日ファン＝猪木ファン」だったのが複数のスターに拡散されちゃったんですよ。
山口　そこに気がついたのが、長州力であり馳浩じゃなかったのかな。
吉田　その結果、ひとりひとりの好みが少し違うけど、統一された新日ファンが誕生したというか。
山口　団体に人格を持たせちゃえば、誰かひとり抜けても大丈夫だからね。
ノブ　UWFは本来そういう方向に行こうとしてたんですよね。
山口　要するに前田の磁場が強すぎたから、バランスが崩れてUWFは崩壊した。やっぱり前田はバランスの世界には組み入れられない人だったんだよ。組み入れられない人にこそ、スーパースターの資質があるわけでしょ。

「スーパースターの血が流れてない」っていう小島選手の発言は、そのバランスシステムを崩すことができないって自分で言ってるようなもんだよ。
吉田　みちプロでサスケがガーンといきそうになったときにも団体内で弊害が出ましたね。
山口　個人が飛び抜けるのを周囲も認めないからね。さらに団体に人格を持たせること以外にも、Tシャツやフィギュアといったグッズにすら人格を持たせようとする時代が来たわけでしょ。いまの時代は、〝ヒト〟自身に力が足りないからTシャツとかグッズが売れるんだよ。いわば〝ヒト〟より〝モノ〟の時代だね。nWo以降、Tシャツがバカ売れしたよね。大ゲサに言や、そういう〝モノ〟に人格を持たせようとする時代なんじゃないかな。
ノブ　でも、WWFだと、スーパースターも確立してますけど、グッズも異常に充実してますよ。で、試合でレスラーが巨大なゴミ箱に放り投げられたりするんですけど、ゴミ箱までブリスター・パックに入ったフィギュアになってるんですよ。その点WWFは凄いですね。
吉田　ゴミ箱はフィギュアって言わねえんだよ（笑）。
一同　ガハハハハ！
山口　ウチもTシャツ出したり、Tシャツのイラストを表紙にしたりで時代に便乗してるんだけどね（笑）。
チョロ　それだったら、みちのく行ったらまだデルフィンのお面とか売ってるし（笑）。『みちのくスタンプラリー』で50回スタンプを押したら、「デルフィンとディズニーランドに行ける」らしいですよ（笑）。
一同　ガハハハハ！
チョロ　さすがに今は、その上にバッテンがついてますけど（笑）。でも、みちのくは試合が終わった後にサスケがリングの周りをグルグル回って、「みちのくは永遠に不滅です！」って言ったら人がちゃんと集まるんですよね。

「A・猪木なら何をやっても許されるのか？」「常勝チャンピオンなんかありえないんや」「ゴチャゴチャ言わんと誰がいちばん強いか決めればええんや」この当時の前田の発言は、猪木の存在を消しかねないリアリティと熱さがあった。

こっちの方がオレにとってはWWFよりも全然面白いですね。
吉田　そういう部分がいまいちばん必要とされてるんですよ。
山口　そうだね。あれは、むしろ健康的だよ、いい意味で。
吉田　それを考えると、ウチがスターの実像を出すのは、果たしていいことなのか？って考えちゃいますね。
山口　それはオレも『紙プロ』創刊以来ずっと考えてることなんだよ。
（笑）
吉田　例えば、高田選手の実像を出したのはいいことだったんですかねえ？
山口　それについては、鎧を着けたままの高田延彦の方がよかったという声もチラホラある。ただ、自分で自分をフォローすると、Uインター時代の高田選手は完全に〝モノ〟だったんだよ。〝ヒト〟には見えなかったじゃない？　宮戸優光が遠隔操作してさ（笑）。辛うじて人格を与えられたロボットみたいな感じだった。それがヒクソン戦のときは、自分から足を踏み入れたんだよね。そうしたらやっぱり自分の実像や持ってるものをさらけ出さないと、〝ヒト〟としてのリアリティは滲み出てこないでしょ。負けることによって得たはずのリアリティを伝えていこうと思っただけだから。
吉田　でも、それによって高田選手はいま辛くなってるのかなって。
山口　それで崩れちゃうんだったらそれまでの人なんだよ。
吉田　それまでの人に光を当てちゃったんですか（笑）。
山口　だから、まだこれからが面白いって言ってんの（笑）。あれだけの重い鎧を着れたんだから、それくらいは耐えてくれるだろうって思ってるから。だって、そういう鎧を取ってもリアリティが崩れなかったのが、力道山であり、猪木さんだったでしょ。単純な話、猪木さんがいくら下ネタ言ったって、全然OKじゃん。むしろ「待ってました」っていうくらいのもんで、全然イメージは崩れない（笑）。
吉田　マス大山もそうだと思うんですけど、作り上げた後だったわけですよね。最初に実像を出しすぎるとダメなんじゃないですか？
山口　うん。イメージが固定してないときに実像を出すのはどうかと思うけど、高田延彦は「最強」の時代に土台をつくっていたから、いま結果を出せばまだ全然いけるでしょう。ただ、いまのプロレスラーは土台を作る

速報1

8／22　K-1　JAPAN
K-1で安生&長井がまたもや敗北！

K-1　JAPANにレギュラー参戦中の安生洋二＆長井満也が優勝賞金1000万円のトーナメント大会に参加した。しかし、K-1はスケールがデカい！　そんなトーナメントはプロレスでもVTでもできやしない。
そこに賞金稼ぎとして、またプロレスキラーとして、その名を馳せる村上竜司が参戦、長井と対戦した。長井は左眼窩底骨折というバッド・コンディションの村上を攻めきれず、僅差の判定負け！　またしても初勝利とはならず！
一方、安生は伏兵・中井一成にKO負けを喫した。「緊張してしまった」と語る安生はコンディション最悪だったもよう。今後はしばらくUFC-Jに専念する様子だ。

©SRS・DX

速報2

『PRIDE.』の歴史は桜庭和志の歴史!!
桜庭ビデオ発売!!

『PRIDE.』シリーズで無敗の快進撃を続ける桜庭和志。常にレベルの高い試合をする桜庭の試合映像（『PRIDE.』シリーズ中心）をまとめて見れるうえに、桜庭自ら分析するビデオが9月17日に発売される！
『**桜庭和志～強さの秘密を徹底検証～　PRIDE.の軌跡**』というタイトル（仮）どおり、これを見て桜庭の強さを思い知れ！
●VHSカラー　60min（予定）
●¥6600（税別）／メディアファクトリー
●お問い合せ　TEL.03・5469・4728

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ～ヒッ!!

前に実像を出しちゃうから。

吉田　専門誌も最近はだいぶ作らなくなってきてますよね。修斗はホントに頑張ってそれぞれのキャラクターを作ってますよね。マスコミによって一部の選手を取材させないっていうことも含めて、作り込み方がすごいからブレイクしたんでしょう。

チョロ　ただ、今度は選手がその作り込みに耐えられないとね。修斗だと、マッハ選手はさらけ出しても全然OKなタイプですけど。

山口　オレはルミナ選手が耐えられるのか興味があるね。というか、ルミナ選手がさらけ出されたときに見えるリアリティを見てみたいね。

ジャイ子　（唐突に）女子って常勝チャンピオンとは全然関係ないの？

山口　は？　巨人、いたの？

ジャイ子　だってジャガー（横田）とデビル（雅美）っていう負けない人がいて、クラッシュ（ギャルズ）は負けるけどお客さん呼んでたでしょ。負けない人はいたんだけど、その人たちがスターってわけじゃなかったもん。

吉田　クラッシュは女子のUWFだったんだよ。

山口　いまは女子プロレスもバランスの時代だよね。

吉田　北斗（晶）が光ってた時代は違いましたよね。

山口　北斗は貪欲だったんだよ。貪欲な人を見てるのは面白いからね。

吉田　当然、周囲の風当たりも強いだろうしね。

山口　団体内で孤独なんだろうなぁとか、裏でいろいろ悪口言われてるんだろうなあとかね（笑）。まあ陳腐な言い方だけど、プロとしての覚悟を見せてくれれば気持ちいいんだよね。プロとしてっていうか、"ヒト"としてっていうか。そういうものを見せてくれる人がいまは少ないんだよね。

吉田　マッハ（文朱）にしても「勝ったまま辞めたかった」って言ったりとか、そういう底意地の悪さとか、欲深さもスーパースターならではですよ。

山口　いまはプロレスラーで常勝してるのは小川直也と桜庭和志だけだよね。それで、『PRIDE.6』には"ヒト"が見えやすかったんだよね。小川選手も桜庭選手も、"ヒト"が見えたし。『PRIDE』だけがヒトを中心として見れる唯一の場なわけだよ。ただ、これから『PRIDE』が団体化していったら、結局バランスを取ることに奔走しちゃうのかな。そうなりそうな一抹の不安はあるよなぁ。

吉田　ただ、場を継続させていくには団体化していくしかないのかなって思いますけどね。せめて小川選手が出続ければ安定していくんだろうけど。

力道山、馬場と猪木、鶴藤長天、時代と共に細分化をしていったスーパースターだが、時代は再び突出した"ヒト"を見たがっている！　今年は何と言っても大仁田が飛び抜けている。次の英雄よ、デテコ～ヒッ!!

山口　『PRIDE.』ってUFOなの？（笑）。でも小川直也の位置付けって、ファンの中ではどうなんだろう？

吉田　英雄のレベルには近付きつつあるとは思うんですけどね。

チョロ　でも、ファンの声を聞くと、そんなにビンビン来てないですよ。もっと来てもいいと思うんですけど。

ブチ　ボクもいまひとつなんですよ。「ニーズがあればなんでもやる」っていうだけじゃ、やっぱり乗りにくいですよ。新日を潰すなら潰すで、ハッキリとした方向性がほしい気がする。

吉田　オーちゃんって、中身はけっこう鶴田的で、それに猪木イズムが注入されたようなタイプだからね。

チョロ　いま、ファンの期待では『PRIDE』に上がって欲しいっていう意見がいちばん多いですけど。

吉田　理想は新日に上がりつつ、『PRIDE』にも上がることですよね。

山口　小川が『PRIDE』に上がる意味って、ヒクソンを倒すことでしょ。それをやらなきゃまったく意味がない。

吉田　ヒクソンを倒した次の日にビッグ・サカと柔道ジャケットマッチやるとかね（笑）。そのぐらいの振り幅はほしいですよ。

山口　その後にモハメド・ヨネとNWA世界タイトル戦をやるとか（笑）。

ブチ　その振り幅に対する期待はホントに大きいですよ。

吉田　サクがどんなに連勝しても、プロレスファンがそれほど乗りきれないのはプロレスの実績がないっていうのも大きいからで、やっぱりプロレスと格闘技の両輪を転がしていかないと。猪木さんがプロレスの試合をやると同時に異種格闘技戦をやってたみたいな感じでね。アレクも両輪転がした頃がいちばん光ってたじゃないですか。

山口　それが貪欲ってことだよね。でも、貪欲になると、孤独になるんですよ。エネルギー使うし、人としてはメチャクチャしんどいよ（笑）。

吉田　アレクが最近、団体内でもプロレスファンの中でも逆風ぎみじゃないですか。それはなんでかっていうと、ウォリアーズに負けたからだと思うん

Who's Real Hero?

リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!

ですよ。あの当時はプロレスを救った負けだったんでしょうけどね。

山口　それはオレも『紙プロ』で「あれはマルコ・ファス戦の勝ちに相当する負けだった」って書いたんだけど。でも、いま考えると負けちゃいけなかった。ウォリアーズくらいはなぎ倒してほしかったね。

吉田　あのときは、謎かけとして面白かったけど、あそこで勝ってれば、いまごろスーパースターでしょ？

山口　いまのバトラーツはアレクを突出させろ構造じゃないね。バトは面白いけど、いまの流れは団体自体に人格を持たせる方向性でしょ。それだと他団体と差がなくなってくるからなぁ。

吉田　プロレスを守ったがゆえに、アレク自身はドーンと落ちた、と。

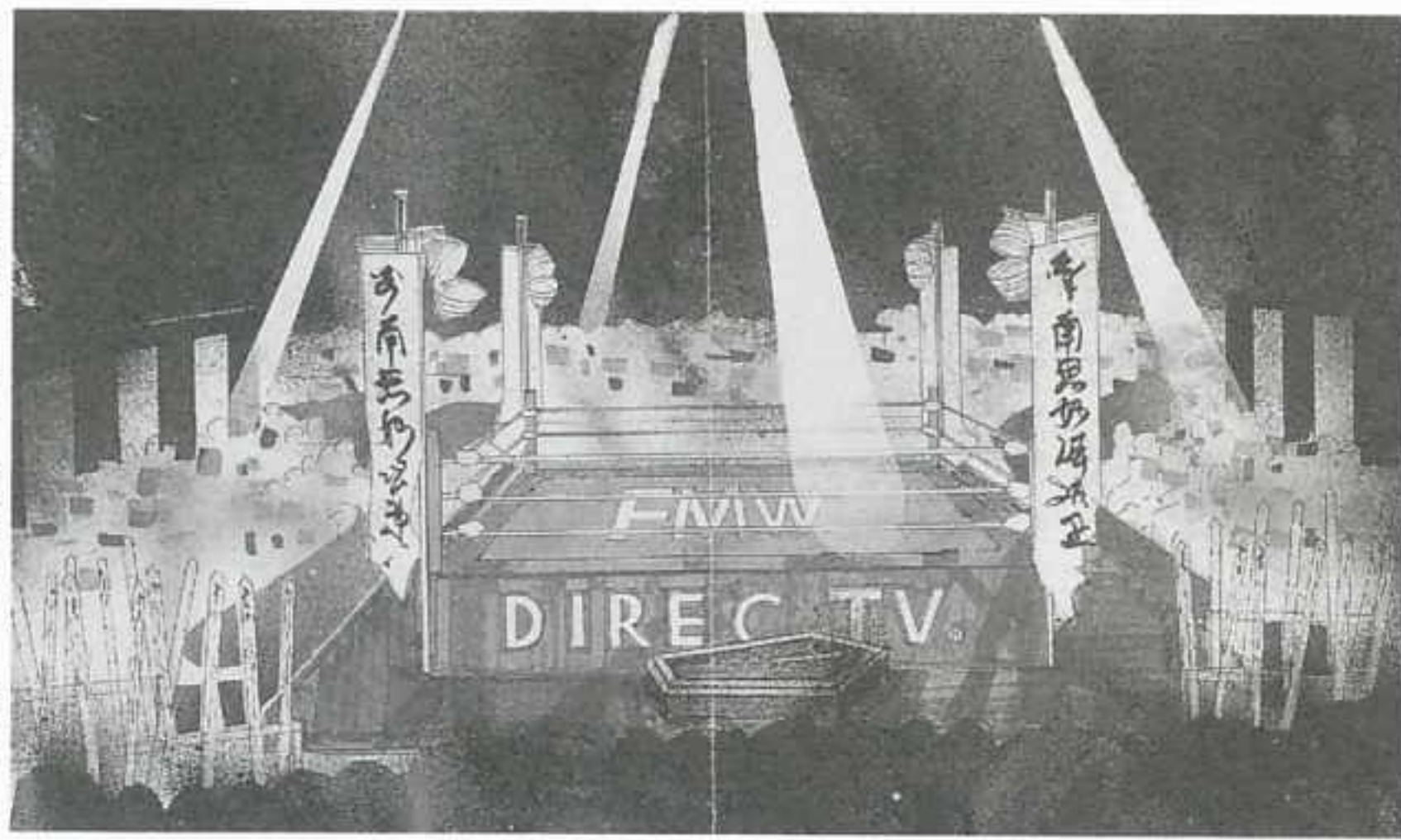
山口　いまのプロレスは、守ることに必死なんだよ。守らなくていいのにさ。ホント、こんな時代だからバクチ打って「常勝チャンピオン出てコ〜ヒッ」だね、オーチャン流に言うと（笑）。スーパースターを作れっての。

吉田　たとえザコ相手でもいいから重要なのは勝ち続けることですよ。

ブチ　やっぱり見る側からしたら、色々なものがその人の背中に張り付いてるほうが楽しいですからねぇ。

山口　もちろんそうだよ。人は人の不幸を見るのがいちばん楽しいんだから（笑）。やっぱりスーパースターって不幸と背中合わせだよ。猪木さんは何回離婚した？　力道山なんか刺されて死んだんだぞ!?　馬場さんも一時期スターから一歩退いたのは、背負いきれなくなったからでしょ。

吉田　全日ではＮＷＡという権威がスターでしたよね。

山口　そうだね。つまり"モノ"に人格を持たせるわけでしょ。一時期の全日は、人の心の暗部やら奥底のドロドロした部分は絶対見せないっていう馬場さんの美学が貫かれた団体だったよね。天龍革命とか、長州参戦で変わっていったけど。オレはやっぱり、プロレスとか格闘技には関係なく"ヒト"としてのリアリティが見たいよ。小川選手にはそれが見えつつあるね、非常に貪欲だし。こんな時代に"ヒト"が見えるだけでも凄いことだよ。いろんなものを背負った「常勝チャンピオン」が、いまのプロレスから出てきたら心の底から乗れるよね。ま、団体もファンもそんなことより神宮で花火大会見てた方がいいんだろうけどさ（笑）。

"ヒト"の時代か？　"モノ"の時代か？　エンターテイメント路線、格闘技路線という2つの潮流が混在する現在のマット界において、会場に客を呼ぶほど難しいものはない。

チョロ　誰なら常勝チャンピオンになれそうですかね？

山口　個人的には小川選手、桜庭選手、山本宜久選手とかだね。この人たちは負けてほしくないなぁ。ノブはどう？

ノブ　ボクはＷＷＦみたいにトコトン作り込んでくれれば"ヒト"が見えなくても全然ＯＫですね。

吉田　お前はそれだけか!?　まあ、力道山とか猪木さんに"ヒト"が見えるっていっても、それは結局後から出てきたものですからね。実際、スーパースターのときはモノ的でしたよ。

山口　まあ、偶像だよね。でも、それが時々ほころんじゃうでしょ（笑）。力道山がタクシーの運転手を殴って捕まったり、猪木さんが突拍子もないことしたりさ。そういうほころびが見えても大丈夫な人がいいなあ（笑）。そのほころびを縫った上で、さらに頑丈なものを作りあげていく精神を見たいわけだから。それを考えると、やっぱり前田日明が引退したのは痛いよ。マット界の停滞は、前田日明の引退もけっこう大きいと思うね、オレは。

吉田　結局、新日がうまくいってるからダメなんだと思うんですよ。

山口　また、ズバリと言うね（笑）。

吉田　いやいや、やっぱり猪木さんがアントン・ハイセルとかでメチャクチャやってた頃は選手の不満が爆発して、新日内でもいろんなことが起こったじゃないですか。やっぱり、新日は北朝鮮で試合をやることですよ！　そうすれば大金が飛んでいくし、絶対なにかが動きますから。

山口　それは団体として人格を持っている新日を壊すってこと？（笑）。それもひとつの手だよね。確かにうまくいかないときのグチャグチャ状態って、どんなジャンルでも、一番面白かったりするから。

吉田　上の人がいっぱいギャラもらっちゃって、下の選手にあんまりいかないぐらいのほうがいいんじゃないですか？　そうすれば下の選手も貪欲になって、ドンドン前に出てくる可能性が出てきますから。

山口　そうだよな！　だから本来ならオレはお前らに給料払わなくてもいいんだよ、ドン欲にさせるために（笑）。

吉田　それは「オレ様がスーパースターだから」ってことですね、会長（笑）。

山口　そんなこと言ってないだろ、この金髪のナルシスト！

吉田　いやいや、会長はスーパースターですよ（笑）。常勝してください。

山口　どういう持ち上げかただよ（笑）。あのね、ボクは負けるのも面白い派だから（笑）。

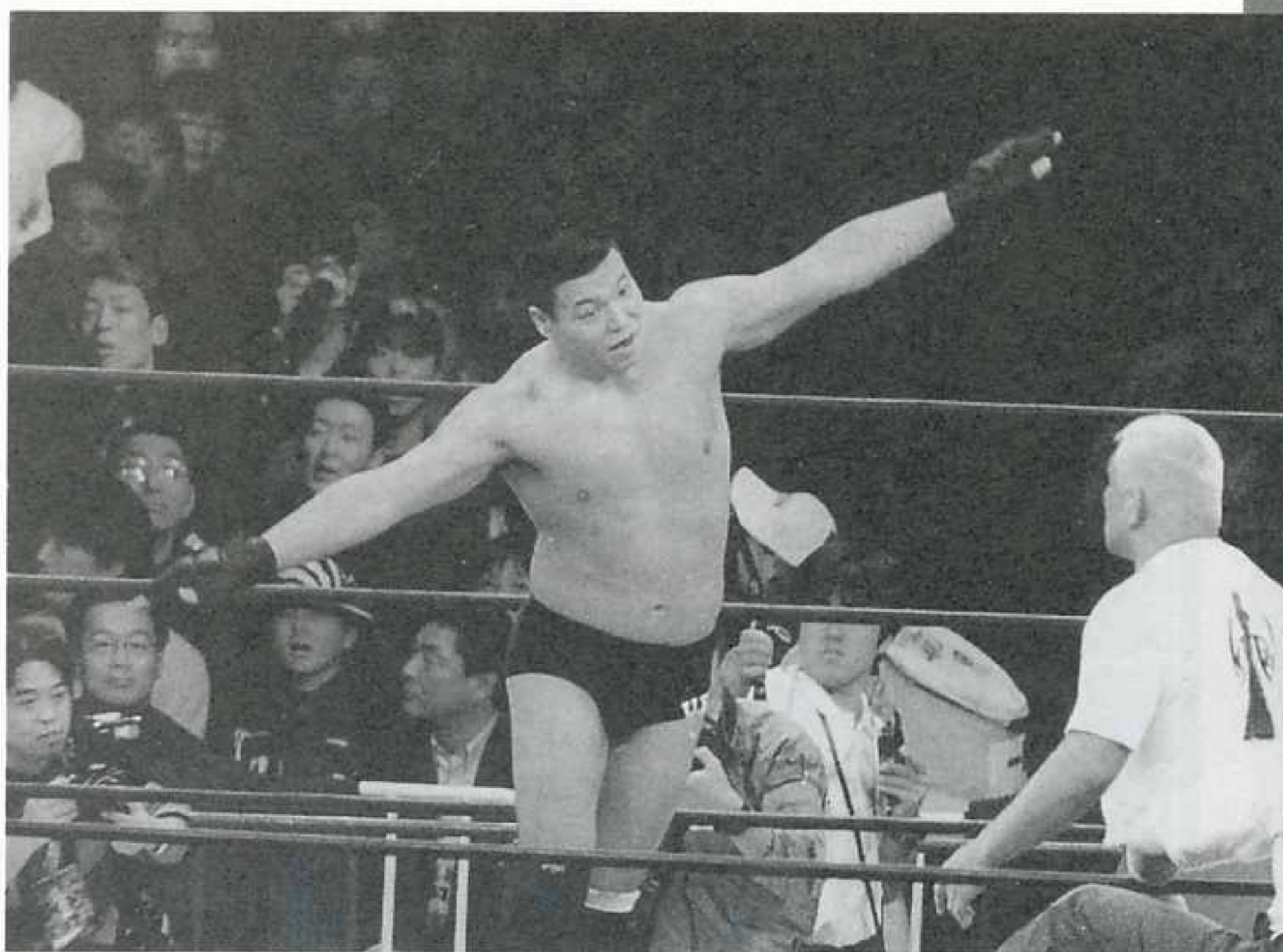
吉田　確かに、よく考えたら受験制度とキャバクラでは負けてますね（笑）。

山口　ワァ〜オ！　でもズバリ言って、そのふたつには負けたくないね（笑）。とにかく、君たちが仕事をするようになるには無給の方がいい!!

吉田　それでクーデター起こしてトロイカ体制を作れ！　以上。

ノブ　トロとイカかぁ、食いたいですねぇ。でも給料出なかったら、明日から何を食えばいいんですか!?

山口　メシだけ食わしてやる。お前はメシだけ食ってブクブク太って、それで相撲取りにでもなれ（笑）。

【99年8月9日東京・ダブルクロスにて収録】

飛べ、オーちゃん!!　マット界を勇ましく飛ぶ鷹のように雄大にマット界を羽ばたいてもらいたいものだ。リング上を我が物顔で闊歩する男にこそ、英雄の威光を感じる。チキン？　ＵＦＯ？　何だっていいや！　マット界をかき回せ！

'99夏　山口日昇大安売りセール中!!

たまに呼ぶならこんな人？本誌鬼畜編集長、怒涛の勢いでいろんなメディアを席巻中！

プロレス会場に行ってもファンに声をかけられることがほとんどない本誌鬼畜編集長・山口日昇。会場にはほとんど行かないので当然なのだが、本人はそれがお気に召さない様子。なぜか女子人気が集中する吉田豪に対して嫉妬の炎を秘かに燃やしていた。そんな山口にチャンス到来！　音楽専門CS局「スペースシャワーTV」の『マタハリ』からなぜかオファーがあり、ほぼ月イチでマット界ナビゲーターとして出演することになった。

第1回放送（6月29日）にはサスケ社長を伴い、軽快なトークでファン獲得かと思われたが、生放送のペースが掴めず、OAされないのにCM中にギャグをかますなど歯車が狂いっぱなし。ただし、今後はリベンジを狙っているので要注目だ。読者の方も、是非見てみてください。

その後も順調に「かつしかFM」の『お笑いプロレス道場』、「札幌リングパレス」でのトークショーに出演するなど、『紙プロ』のために（あるいは女子人気獲得のため？）活動中。かつしかFMでは生放送中に「キ●ガイ」と発言するなど大暴れである。チェキ!!

7月27日、「お笑いプロレス道場」出演後、かつしかFM（プレハブ）の前で。（撮影・島田裕二レフェリー）

7月31日、札幌リングパレス。最前列の女子グループは、いったい誰が目当てで来たんでしょうか？

「マタハリ」の収録現場におもいっきし潜入!!!

SPACE SHOWER HUNTER

VJコンビ スペシャルインタビュー

タワーレコード渋谷店 "STAGE ONE" 「マタハリ」の裏側を突撃潜入レポート！

「マタハリ」とは？

この日のゲストは…

TALK FLIP FLAP　LIVE クラムボン

「マタハリ」は毎週火曜日19時～、スペースシャワーTVで絶賛放映中。司会はピエール瀧（左）&HIROMIX。（右）

「mc シスター」9月号では山口出演当日の『マタハリ』が紹介されたが……「この日のゲストはFLIPFLAPとクラムボン」と、山口はおろか、サスケ社長の名前まで抹殺。敵が多いのは重々承知の『紙プロ』だが、こんな形でそれを確認するとは（泣）。ティーン誌登場に失敗した山口はアロハシャツを大量に購入。すでに臨戦態勢だ（何の？）。

誰も得をしない！　世の中の何の役にも立たない！
プロレス・マスコミ同士の決着戦が遂に実現！　だが……

7・1『紙プロ』vs『激本』リポート
衝撃の内部リポート

〝狂乱の落武者〟ターザン山本が
突如シュートで大暴走！

『紙プロ』vs『激本』——世界一不毛なこの闘いを見ようと、ロフト・プラスワンには約100人のオーディエンスが集まった！　しかも、非常に男率が高い！　注目の対決だが、大方の予想通り『紙プロ』の圧倒的優勢だった。ところが！　途中で、このイベントがひっくり返すような大ドンデン返しが起こった！　一体、このイベントで何が起こったのか？『激本』最新号は煽るだけ煽ったくせして4ページしかレポートしていない（っていうか使える部分はないだろう。化けの皮が剥がれる前だった前号は23ページも使ってたけど）ので、本誌が、この狂乱の一夜の模様を詳報します！

構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai

“自称・平成の爆笑王”松本氏（童貞）が「客前でしゃべれない」と敵前逃亡！

はじめに

　賢明なる『紙プロ』読者の皆様ならとっくにご存知のように、昨年8月の『激本』創刊以来、本誌は一貫して叩き続けてきたわけだが、ようやく本格的に叩き潰せる日がやってきた！

　「人に優しく」がモットーの『紙プロ』は、初めて本誌を読んだ方々でもわかるように、「なぜこの抗争が始まったのか？」を説明しておこう。

　本誌は、「プロレスに身もフタもない突っ込みを入れる」というコンセプトで、皆目見当違いの突っ込みを入れ続ける『激本』を徹底的にバッシングしてきた。（特に本誌NO．12の『書評の星座』は必読）

　すると『激本』第4号（99年4月発売）の次号予告に、なぜかいきなり「『紙のプロレス』より本誌に挑戦状！」と打ってあるではないか？　出した覚えのないのになあ、と思っていると、じつはターザンが『激本』編集部を焚付けたものであることが判明。

　それに乗った『激本』は第5号で「しょうがないから相手にしてあげましょう」とえらく高飛車な態度で23ページに渡り、『紙プロ』批判を繰り広げた。そこには山口&吉田に対して、須田&黒須田両氏との対談のお誘いもあったのだが、そこで本誌はあえてカタブツ君&ジャイ子というテポドン（不発弾）を発射。その誌面は、見事につまらなく編集されていた。

　そうこうしているうちに、別の出版社から『紙プロ』vs『激本』の直接対決をウチのイベントでやりませんか？」というオファーが入った。断る理由など何もない！　死ぬ気があるならかかって来いっ!!

　そして迎えた7・1ロフト・プラスワン決戦――。

　このイベントの正式タイトルは「ターザン山本よ、お前はすでに死んでいる」。セッティングしたのは、『ターザン山本の天国と地獄』の版元である芸文社だ。本来はその本の販促イベントであり、『紙プロ』vs『激本』はその中の1コーナーとして行われるはずだった。が、芸文社の担当者Y氏が1週間前に網膜剥離で緊急入院するという前代未聞の緊急事態！　いきなりイベントのすべてを本誌編集部が任されてしまったのだ。

　結局、暗中模索で仕込み作業を進め、当日はイベント開始30分前まで、なぜか本誌編集長みずから進行表を作成するなど、わけのわからない慌ただしさのまま、イベントに突入した！

『激本』の“自称・平成の爆笑王”が「客前じゃ話せない」と敵前逃亡！

　イベント開始直前に、ロフトの店員さんから、ターザンがいまだに葛飾の自宅にいることが告げられると、待ちくたびれた観客席からは大ブーイングが飛んだ。この時点でイベント開始から30分以上押していたのだ。なぜか？『激本』の松本氏が「客前ではしゃべれない」とダダをこねだしたのだ。「やるまえから負けることを考えるバカがいるかよ！」と、ビンタを一発入れなきゃ分からないのだろうか？　子供じゃあるまいし。

　というわけで、イベントはスタート。スターウォーズのテーマに乗って、司会のタコヤキ君が登場すると場内の『紙プロ』ファンからは拍手と歓声が巻き起こった。この時点で、ほぼ客席は満杯状態でゆうに100人以上はいただろうか。圧倒的に男が多く、とにかく充満した空気の濃さは尋常じゃない。

　“前説の帝王”タコヤキ君の絶妙なトークで『紙プロ』vs『激本』の過去の因縁」を10分以上にわたりわかりやすく説明し、対決ムードはいやがおうにも盛り上がる。この日は、控室も別々でお互いに顔を合わせての打ち合わせもなかった。いかつい顔をして腕組みをしながら出番を待つ『激本』側とは対照的に、『紙プロ』側ではすでに酒盛りが始まっていた。が、みんなそれぞれ手はピストルの形になっていたというから、「やる」気であることは間違いない。

　ただでは済みそうにない不穏な空気が流れる中、第1試合の幕が開いた。当初、本誌がマッチメークしたのは、『激本』第5号のリマッチ「カタブツ&ジャイ子vs黒須田氏&“自称・平成の爆笑王”松本氏」であった。

　しかし、ブッチャーのテーマに乗って壇上に上がったのは、編集長・黒須田氏と誌面では見たことのないグラサン男であった。やはり松本氏は逃げたのだ！

　登場するなり黒須田氏は、『激本』の基本スタンスを語り出す。さすが編集長、出会い頭でガツンとカマしてくれたぜ！　曰く**『激本』は、吉田さんの書評に書いてあったような『プロレスを八百長とおとしめる』という本ではないので。今日は、そのへんのことを前向きに話し合いたいと思います**」と、建設的なイベントにしたいということをアピール。よく言えばオトナな、悪く言えばつまんない挨拶に観客の皆様も目からウロコが落ちまくっていたらしく、押し黙っていた。つまらなかっただけ？

　その隣に座った爆笑王の代打のグラサン男は、双葉社で携帯着メロ本をメガ・ヒットさせた“できる男”郡氏。「**爆笑王はシャイな子なんで、しゃべれないから**」と代役を買って出たというからじつに男らしい。

　一方の本誌サイドは、カタブツ君&ジャイ子という『紙プロ』犬軍団。アンドレ・ザ・ジャイアントのテーマに乗って登場するなりカタブツは『激本』側にメンチを切った!!　しかも、その直後に自分の席に座った途端、スクリーンに頭をぶつける大サービス。生カタブツを見れた観客は大喜び。これで「つかみ」はOK！　すると調子に乗ってジャイ子までもが「出てきなさいよ、爆笑王！」と生意気にも吠え出すから手に負えない。

司会タコ　『激本』のどこがダメだったんですか？

ブチ　だって、あれ（『激本』第5号）編集になってないんだもん（嘲笑）。お話しにならない。

黒須田　どういうことですか？

ブチ　だ〜って、面白くないもん（笑）。

黒須田　それは読んだ人の判断でしょ？

ブチ　一番入れて欲しい話が入ってなかったんだもん。ジャイ子が高2で処女を失った話を現場ではしてるんですよ（場内爆笑）。そしたらそれが載ってない。あの後、ジャイ子は何て言ったんだっけ？

ジャイ　「爆笑王は（童貞を失ったのは）いつよ？」って（場内爆笑）。そしたら、あの男、黙っちゃってるの、オホホホ〜!!　何で黙ってるの？　まだだから？

郡　そう、ホントにまだ童貞だからね（笑）。

司会タコ　あんたもそんなこと言いなはんな！（笑）。ますます、爆笑王が出て来れなくなるじゃないですか。

ブチ　それが載ってれば文句は言わなかったのに。

黒須田　ボクはマジメな人だから、そういう話は載せられないんですよ。まあ、それも含めて対決といえば対決なんだけど。

郡　じゃあ、負けてるじゃん（笑）。

登場するなりメンチを切る中村カタブツ君（36歳）。双葉社のデキる男・郡氏をもたじろがせた後、スクリーンに頭をゴツン。

死んだ魚のような目をした”平成の童貞の爆笑王“。見事な7：3分けも爆笑なら、舞台に上がれない理由も爆笑もの。『激本』最新号に全裸写真（乳首が陥没気味なのも笑ってあげよう）が掲載されています。

バトラーツの石川雄規社長&島田裕二レフェリーが急遽登場して、会場のお客さんは大喜びだった！　社長&島田さん、ありがと―ッ!!

自分で自分のことを「マジメ」と思ってる人間に、マジメなヤツはいないという世の中の定説は結構当たっていると思う。いや、黒須田氏がどうのこうのというわけではなくて。『激本』が世間からどう評価されているか知らないが、赤字も出さずに、キッチリと出している素晴らしい編集長なのだ。マジメでなければ務まるはずがない。その調子で行け、である。とにかく、ジャイ子の発言は「黒須田氏がマジメだから」という理由で、載せられないそうです。つまんねえの！

さらに「『紙プロ』のチェックが入りませんでした」という一文は、入れようとしたが時間的に入らなかったらしい。そこはオトナな『激本』サイド、認めるべき非はキッチリと認めて謝罪した潔さは素晴らしい。そうこうしているうちに、第1試合はフィニッシュ。主張をぶつけ合うというよりも、手当たり次第噛みつきまくるコドモ（＝『紙プロ』）と、素直に非を認めて謝罪するマジメなオトナ（＝『激本』）という、見てる観客にはいちばん面白くない展開となってしまったのは残念。

今日は珍しいお客さんが来ています！
石川雄規＆島田レフェリー緊急参戦！

第1試合の沈んだ雰囲気を一気に巻き返してくれたのが、なぜか、突然現れた（というか、本誌バカ軍団が会場入りしたら、呼んでもいないのになぜかいた）石川雄規社長＆島田裕二レフェリーのバトラーツの情念二人三脚コンビだった。

なんでも同じビルの上のフロアの『タッチミー』なるキャバクラに行こうとしたら満席だったので、フラッと立ち寄ったのだとか。さすがに石川社長は「男が多いなぁ」と最初は不満顔だったが、のってくるとエロと下ネタ話を嬉々として話し始めた。

ファンの質問コーナーでは、「**オレを殺したかったら、世界中の兵隊を連れてこい！**」「**いまの新日には猪木イズムがない！**」と情念のトークを爆発させ、場内は拍手喝采！

最後には「**歌舞伎町に行けばどうなるものか　危ぶむなかれ　危ぶめば道はなし　踏み出せば　その一足が道となる　迷わず行けよ　行けばわかるさ　アリガトーッ!!**」と言い残して、夜の歌舞伎町に消えていった。

遂に激突！『紙プロ』vs『激本』！
悪質極まりない本誌が圧倒！

さあ、いよいよ観客が待ちかねた、両軍本隊同士の激突だ。前代未聞のマイナープロレス雑誌のトップ同士のトークバトルが幕を開けた。

山口　オレは最初にひとつだけ言っておきたいよ。この試合に体重制限はないのか？　70キロ契約にしろよ。

吉田　フェアじゃないですよ！

山口　オレたちはミドル級なんだよ。そっちは試合前にケーキ食ってんじゃねえのか？　冗談じゃねえぞ！

須田　お陰様で我々もデブキャラが浸透しまして……（マイクから離れているので声を拾えず）。

山口　もっと近づいてしゃべった方がいいですよ（笑）。

冒頭で完全に出鼻を挫いてしまった。これで主導権は『紙プロ』側に大きく傾いた。

須田　今日は『紙プロ』と『激本』のキャラクターの違いをハッキリさせたいと思うんですよ。

吉田　一緒にされたくないですよ（笑）。

山口　だから、最初に体重制限をつけろって言ったんだよ（場内爆笑）。

吉田　だってウチの雑誌は裏表紙に自分のイラストを書かないですもん。

須田　裏表紙にボクらの顔を出すのが悪いというのは、全面的に認めます。あと、我々がブサイクデブであることと、松本君が童貞であることは、全面的に認めます（「いいぞ〜!!」と野次が飛ぶ）。

といった具合で、須田氏が1回しゃべるたびに、『紙プロ』コンビが3回は揚げ足を取るから、なかなか議論が前に進まない。というか、ほとんど議論にはならなかったと言った方がいいだろう。建設的な議論をしに来た黒須田氏には、本当に気の毒な話だが、『紙プロ』の2人にはマジメに議論をする気などサラサラなかったようである。

そもそも、イベント前日に作戦を練っている段階では「オレが相手の技を受けるから、豪ちゃんが徹底的に潰してくれ」などと作戦を立てていた山口だったが、待ち時間の間にビールを飲み過ぎて、すっかり作戦を忘れてしまったらしい。それでも、どんなに話の腰を折られようと、自分の主張を続ける須田氏のファイティング・スピリッツは最初から最後まで消えることがなかった。

一方の黒須田氏はなぜか俯いたままダンマリを決め込み、石のように固まっていた。しゃべれば突っ込まれるし、しゃべりたくない気持ちもわからないでもないが、ああいう場ではしゃべらなければ負けである。古舘伊知郎もそんなようなタイトルの本を書いていたと記憶している。たとえば、こんな局面があった。

山口　黒須田さん！　オレに「（反論は）若干あるけど、ま、いいです」って書いてたじゃん。何？

黒須田　もう忘れました（キッパリ）。

『激本』チームは、ほとんど須田氏しかしゃべらない。が、いくら山口＆吉田豪に揚げ足を取ろうとも決してへこまないファイティング・スピリットは凄い。この日の敢闘賞を差し上げたい。

山口　オレはそういうのがいちばんムカつくんだよ（怒）。**「行間を読め」とかさ。言いたいことがあるならハッキリ言いなさい!!**

黒須田　……山口さんはどこかの本で「もうプロレスは身もフタもない突っ込みを入れる存在じゃないんだよね」って語ってましたよね？　プロレスは格闘技に押されちゃって、もはやツッコミを入れる存在じゃないって。ボクが考えさせられたのはそこなんですよ。プロレスは、ホントにボクらが身もフタもないツッコミを入れる存在じゃないのかどうかって。ボクには「格闘技に押されてる」とか、そういう発想がないんですよ。

山口　ないの？

黒須田　ないですよ!!　ボクらはそんなことより、プロレス全体が下がってると思うから。

山口　それはバーリ・トゥードとかが盛んになってきてるのも一因だよね。

黒須田　一因ではあるけどね。（『激本』は）それ以外のところにツッコミを入れていこうということですよ。ボクらから見たら、突っ込みどころはいっぱいあるから。

山口　それが「超モーホレスラー」なの？　それが「パンクラスの入場テーマ曲がしょぼい」とかそういうことなの？　それは誰かのストライク・ゾーンに入ってるの？（場内爆笑）

せっかく口を開いた黒須田氏だったが、アッという間に完全KO状態に追い込まれてしまった。プロレス界のツッコミどころをマジメに探してしまったばっかりに、自分たちの雑誌のツッコミどころを顧みることを忘れてしまったのか？　それもこれも、すべて黒須田氏のマジメさゆえのことと思う。合掌。

そんなトップ2人よりも、積極的に闘いを挑んできた1人の女の子がいた。『激本』の新人・佐藤亜紀子ちゃんである。この子はかわいい！　かわいいくせに、トイレに立った吉田豪を子供パンチで襲撃するファイティング・スピリットの持ち主なのだ！「**こいつムカつくぅぅぅ！　あの人たちは、いい人なんだからイジメちゃダメでしょ！**」と半泣きでストレートに感情をぶつけてくる。さすがの吉田豪も一瞬面食らったほど。ネガティブ・ファイトを続ける黒須田氏も少しは佐藤ちゃんの突貫ファイトを見習ってみてはどうか？　まあ、余計なお世話か。

話を戻そう。執筆チーフである須田氏はプロレス『激本』を最終的に「**何のひねりもない一般層にウケる本にしたいという狙いがある**」と語る。「**『紙プロ』はここにいるような人たちみたいなマニア層には受けるかもしれないが、世間には受けない**」とも語ってくれた。じゃあ、世間に受けようとする雑誌が、「『紙プロ』に宣戦布告」で23ページも取るの？　おかしくない？　そこを山口に突っ込まれると須田氏は「**それはオレも怒ったんだよ！**」と黒須田氏に突っ込み始める始末。おいおい、仲間割れは控室でお願いしたいものだ。誰が実権を握ってるのかわかりゃしない。どうしても、須田氏が主で、黒須田氏が従にしか見えないのだが、須田氏は「いち執筆チーフ」だという。「執筆チーフ」って何？　CEOみたいなもの？　偉いの？

このバトルの途中、ボクはターザンの携帯に電話を掛けた。すると、イベントを始めてから1時間30分以上経っているというのに「**今日はキャンセルしたい**」と言いだした。しかもかなり不機嫌。ヤバイ！　ターザンが仕掛けたことなんだから、ターザンがいなきゃ収拾がつかないじゃねえか！　そこで「**山本さんがいないと盛り上がりません！**」とおだてたところ、「**いまからそっちに行ったら終電がないよ。タクシー代は出るのかい？**」とターザン。セコい！　予算はないが、とっさに「**出ます！**」と元気よく答えたら「**いまから行きま〜す!!　はい〜**」とのこと。"現金なヤツ"とは、まさにこの日のターザンのための言葉である。

ターザン、登場と同時に集中砲火!!
そして逆ギレ！炎上！大噴火！

約1時間後、ノコノコとターザンが登場すると、場内は一斉に大ブーイング！　一部では「帰れ！」コールまで起こるほどヒートを買いまくっていた。さすがのナチュラル・ヒールぶりである。

そんな雰囲気が気に入らないのか、ターザンはいきなり炎上しはじめた！

「**結局、オレが来なかったのは、イベントのタイトルを見たら『ターザン山本よ、お前は**

この試合に体重制限はないのか？ 70キロ契約にしろよ（山口）

すでに死んでいる』ってなってるからだよ。お前ら、死んでる者を見たいのか!?　死んでるんだったら、来る必要ないじゃないか!?　オレが死んでるんじゃないんだよ!!　マット界が死んでるんだよ!!（急に立ち上がり、丸めた新聞紙でドンドン机を叩きながら）お前ら、何やってんだ!!　死んでるものを見に来たのか!?　アホか!?　お前ら、童貞だぁぁぁぁ!!　どうせ恋人なんかいないんだろぉぉぉ!?」

完全に支離滅裂!!　理解不能!!　これが窮地に追い込まれたターザンの常套手段である。が、このキチ●イのようなキレっぷりは、この男にしか出来ない一代芸でもあるのだ。ここで須田氏が口を開く。

須田　山口さん、『紙プロ』はこういうターザンを拾うでしょ？　『激本』はこういうところを捨ててから考えようとしてるんです。

山口　だからダメなんだよ！

ターザン　違うんだよ！　表紙を見ろ！

吉田　何のですか!?（笑）。

ターザン　今週の『週プロ』の表紙は藤波と長州！　『ゴング』が前田！　『紙プロ』は高田！　みんな終わってるヤツらじゃないか！

吉田　山本さんも死んでますよ（笑）。

ターザン（無視して）しかし、前田ならまだ許せるよ。腐っても鯛だからな。『紙プロ』が使ってる高田なんか腐ったサンマじゃないか！（※本誌編集部にはプロレスラーを「使う」という発想は一切ございません。ターザンが勝手に炎上して失礼なことを言っていますが本誌編集部は一切関係ございませんのであしからず）『紙プロ』は腐りきってるよ！　『紙プロ』は死んでいるレスラーを取り上げて生きているように見せてる。そこがダメなんだよ！　なんで宇野薫を表紙にしないんだよ！　『激本』は『紙プロ』に勝ってるよ!!

須田　ウチはこういうターザンが欲しいわけじゃないんです。ターザンがいらないってわけじゃないけど……。

ターザン　『紙プロ』と『激本』の対立なんて、しょせん少数民族の対決みたいなもんなんだよ。『紙プロ』は死んでるものを生きてるように見せてるわけだろ？

吉田　それがターザン山本ですね。

ターザン　そう!!（初めて吉田の底意地の悪い突っ込みを受けたターザン。場内爆笑）『激本』のいいところは死んでるのをわかってて、落ち穂拾いをしていることだよ！

吉田　落ち穂拾いの雑誌が『激本』ですか？

ターザン　そういうことだよ!!　落ちてるものを拾ってれば、取材拒否はないからな！

取材拒否はないはずなのに順調に取材できる団体が減っているのは、これいかに？　よっぽどターザンが嫌われてるってことか？

吉田　拾うといえば、山本さん！　最近、コソ泥やって捕まったらしいですね!?（場内大爆笑）。

山口　そのコソ泥は葛飾区のヤマモトタカシって名前らしいですからね。

ターザン　は？　東京都のヤマモトタカシっていう名前の人間を調べると、電話帳20ページ分いるんだぞ！

吉田　しかも50歳過ぎ（笑）。『噂の真相』から確認の電話が来たから、「たぶんそうです」って言っておきました（笑）。

ターザン　たしかに近所の庭のビワの実は取ったことあるけどな。

さすが、腐っても平成の定義王である。『激本』は「落ち穂拾いの雑誌」で、本誌は「死んでるものを生きてるように見せている雑誌」だそうである。あと、「ターザン山本は死んでいる」と。この鋭すぎる3つの定義、反論は若干あるけど、ま、いいです（黒須田調）。あとで、キッチリとそれは覆されるので、ここでは結論を急ぎません。

そして話題がいかに最近のターザンが狂っているかという話になったところで一回休憩を入れた。

その間はターザンの狂気を思う存分堪能して頂こうということで、本誌が用意したビデオを流した。浅草キッド主催の「浅草ぉ兄さん会」に出演して水道橋博士と殴り合うシーンと、新宿伊勢丹前でのキッド襲撃事件の映像である。もちろん、これはバカ受け！

それに続けて、「**山本さんが『豪ちゃんの用意するビデオは毎回、最高だなぁ。今回も用意しといてくれよ』と言うから、スペシャルなビデオをボクが用意しときましたよ！**」と吉田豪が自信満々に宣言!!　こういうときは、だいたい悪意しかこもっていないものだが、やはり今回もそうだった。それは、なんとターザンの〝冬の恋人〟からのメッセージ・ビデオだったのである!!

〝冬の恋人〟と急に言われても、わからない読者もいると思うので、「人に優しく」がモットーの本誌が軽く説明しよう。98年6月に本誌主催の『青空プロレス道場』のゲスト講師として登場したターザンが、打ち上げの席でナンパに成功！　見事、彼女をゲットした。しかし、彼女はターザンのあまりの狂いっぷりに愛想を尽かして、あえなく破局。ところが、納得のいかないターザンは別れ際に絶縁状を彼女の自宅や職場などに何枚も送りつけたのだ。そんな狂乱の恋物語が昨年9月～今年1月まで繰り広げられたのであった。そして、その元・彼女が通称〝冬の恋人〟なのである。

その彼女がカメラに向かってターザンへのメッセージを出している。その瞬間、ターザンの顔色がサッと変わった！　その内容を軽く紹介しよう。……と思ったが後で何をされるかわかったもんじゃないので、あえて紙面では内容を紹介しない。イベントに来た人だけのお楽しみにしようと思う。

衝撃の恋の内容が次々と明らかになっていくにつれて、次第にターザンの顔色が変わり始める。

事件はここで起こった!!

「**キエェェェ～**」と言葉にならない奇声を上げると、ターザンはグラスを掴んで吉田豪に飛びかかった！　その目には完全に狂気が宿っている!!

薄くなった髪の毛を振り乱しながらグラスを何度も吉田豪の金髪にたたきつける！　あわてて押さえようとする原タコヤキ君を振り払い、今度は彼女の映像が映し出されたスクリーンに皿やグラスを手当たり次第投げつける！「ガシャーン！」と皿やグラスが割れて破片が飛び散る！　あまりの暴れっぷりに場内からは悲鳴と怒号と「シュートだ！　シュートだ！」という叫び声が上がる。まさに地獄絵図だ！　さっきまでのブーイングがウソのように「ターザン」コールまでもが沸き起こる!!

逃げる吉田豪を狂ったようなスピードで追いかけるターザン！　捕まえると、今度はイスを掴んで振り回す！　慌てて本誌スタッフ陣が2人を分けると、頭に血が上ったターザンは、そのまま出口に向かった。

興奮のあまり、裏返った声で「帰るっ!!」とだけ言い残して、ターザンは出ていこうと

本誌はこんなターザンが見たかった!!　インターネットで「シュートorワーク」論争が起こったらしい。それほどのインパクトがあった！　ハッキリ言って、この人は狂人です。

する。するとそこに最近はターザンの調教師としても活躍中の浅草キッドの2人が現れた!! この日、プライベートで来ていた2人は、ずっとターザンの様子を控室で観察していたのだ。「**山本さん、ここで帰ったら男がすたるよ**」と玉ちゃん。「**帰るよりも、ここでキッチリ復讐しなきゃダメだよ!**」と博士。地獄に仏とはまさにこのことだった。このときのキッドのカッコ良さったら、なかったね! ターザンをなだめ、そして奮い立たせてしまった!!

割れたグラスやこぼれた酒の片づけが一通り済んだところで、トーク再開。

だが、興奮さめやらぬターザンはいきなりブチかました。

「**もしオレがあいつ(〝冬の恋人〟)を殺したら、お前(吉田豪)の責任だからな!! もしオレが彼女のことをバラしたら、どうなるかわかってんのか!!**」言葉の意味はわからんが、とにかく凄い狂気だ! まったく筋は通っていないが。

「**いま、『紙プロ』が欲しいターザンと、『激本』の欲しいターザンの違いがハッキリしましたね**」と真横にいるキチ●イ・オヤジとはうってかわって、須田氏は相変わらずのローテンションで機械的な解説を加える。「**ボクもこんなターザン、いらないですよ!**」とギャグ交じりに切り返す吉田に対して、またもターザンが「**いらないじゃねえんだよ**」と突っかかる!! これはセコンド陣の迅速な対処で、未遂に終わった。こんな調子では話にならない。一体どんな話をすりゃいいんだ? ターザンは大乱闘の際に割れたグラスの破片が足と腹に突き刺さったらしく、「**ケガをしたぞ!**」とわめき散らしている。場内も騒然とし始め、場が完全に、膠着状態に陥ってしまった。

その瞬間、舞台に駆け上がる人影が!!

浅草キッド・水道橋博士乱入!!
会場のボルテージが大爆発!!

水道橋博士だ!! 予期せぬ乱入に、場内から沸き起こる「ハカセ」コールを制しながら、博士はまくし立てた! そのアジテーションは説得力100%! 破壊力200%! プロレス者の心の底からの叫びである! こざかしい説明はいらないと思うので思う存分、堪能してください!! 『激本』はスペースが足りないのか大部分はカットしていたので是非ともこっちを読んでほしい。

「**あのね、『このターザンが見たくない』というあなたたち(もちろん須田氏&黒須田氏)は間違ってる!! プロレスを何も見てない! 人間の喜怒哀楽が見たくてプロレスを見てんだよ。それで編集者が喜怒哀楽を表しながら、相手に殴りかかる。やる方も『殴られる』って分かっててもそれをやるんだよ! そういう瞬間が見たくて、ファンはプロレスを見たり、プロレスに関する活字を読んだりするわけ。この人(ターザン)がプロレスを体現してるわけよ。そういう瞬間が見たくて、みんな来てるんだから。あんたら(もちろん須田氏&黒須田氏)のね、くだらない、ものすごく小さいプロレスの中の喜怒哀楽なんて誰も見たくもないわけよ!**」(ここで須田氏が「プロレスラーがそれをやるのは見たいけど」と反論)「**そりゃそうだけど、あなたたちの言葉はレスラーに届いてないって。そしたらプロレスファンの象徴であるターザンが、あれだけの暴れっぷり、気狂いぶりを見せてくれるのが、プロレスを見てる人の喜びなのよ!! もっとやれってことですよ!**」(須田氏がまたも「なんで、それをターザンが代行しなきゃいけないの?」と反発!)「**それなら、あなたがやっているプロレス論なんて同人誌でやればいいんだよ! 商業誌でやる必要はないよ! だから、ターザンは気狂いで扱うべきでしょ? 50歳超えて、こんな人は面白いよ! オレはターザンが恋をする話、100通以上のラブレターを書いた話、あのへんは全部おもしろいね! そんな話出来る? いいオトナがだよ?**」(「それはボクらも面白いんですよ! ただ、ボクらが拾うところは別だから」と黒須田氏が珍しく反論。が、そんなものはお構いなしに博士のトークは怒涛の勢いで続く!)「**あなたたちが評価しているターザンは死んでるよ。こういう喜怒哀楽を表すターザンが、『何を思い、何を書くんだろう?』っていう部分はまだ生きてる。その生きてるところを再生させようとしてるのが『浅草お兄さん会』だよ。(中略)あなたたちは人間感情を相手にしちゃダメ! 馬を相手にしてなさい!!**」

拍手喝采! 場内大爆笑! 涙の洪水! 爆笑の嵐! もはやグーの音も出ない、熱くて的確な博士のアジテーションに会場の観客全員が胸のすく思いとなったことだろう。場内のボルテージは上がりまくり、最後の最後で感動的なカタルシスを味わったのだった。

『紙プロ』vs『激本』は謎の引き分け決着!! なぜだ!?

博士が舞台から降りた後、時間がないというのになぜかターザンが質疑応答のコーナーを「**やろう**」と言い出す。相変わらず、状況の読めないターザンだが、やろうと言うのだから仕方がない。あんな大立ち回りを見せられた後だけに、初めは雰囲気も固まっていたが、次第に緊張もほぐれてくる(ターザンは相変わらず仏頂面)。

ここで『激本』に対して、吉田豪よろしくハードに突っ込みまくる潰しモードの客がいた。それがターザンに火をつけてしまった。自分から「やろう」と言ったくせに、遂に炎上! 質問してくる客に対して片っ端からキレまくってみせた。

「**黙れ、コラ! お前、調子に乗ってるだろ!? ふざけんな! 質問取れ!**」

「**グチャグチャ言うな! 見苦しい!**」

「**お前の頭が悪いんだよ!!**」

「**こっち来い、コラ!! 殴ってやる!**」

と、どっちが見苦しいんだか、わかりゃしない。そして、ほとんど質問に答えないまま、質疑応答のコーナーは終了。

そして、『紙プロ』vs『激本』の決着を付ける最後の審判の時間がやってきた。この日の観客にどちらが勝っていたかを挙手で判定してもらうということになった。当然、ここまでの流れを考えれば『紙プロ』圧勝! となるはずなのだが、ここで敗者に対する罰ゲームの内容が決められた。

●『紙プロ』が勝ったら、『激本』の〝プリティ・ケンカ番長〟こと佐藤ちゃんとジャイ子をトレード!

●『激本』が勝ったら、〝自称・平成の爆笑王〟松本氏の筆おろしを〝巨技(ジャイテク)〟ジャイ子が務める!

これがマズかった。「どっちの雑誌が面白いか」という判定よりも、「どっちの罰ゲームが面白いか」の判定になってしまったのだ。素直に「勝った」と思う方に手を挙げればいいものを、この条件で『激本』票が大幅アップ! 別に見れるわけじゃないんだから、爆笑王と大巨人を交尾させてもしょうがないのに。

結果、引き分け。ほぼ99%以上押しまくっていたのに昭和チックな不透明決着となった。試合に勝って、勝負に引き分けという、じつにプロレス的な決着である。この勝利の条件は、どちらも実現させるということで、話はまとまった(のか?)。

●

『激本』さんに言っておきたいのは繰り返しになるが、他人と「プロレスに身もフタもない突っ込みを入れる」その前に、自分の襟をピシッと正しておいていただきたいということだ。「他人に突っ込みを入れる前に、自分が突っ込まれないようにしろ!」というか。そういうお前がダメじゃねえかって? はい、その通りです。ボクはホントにダメです。

「引き分け」とはいえ、見事に潰された『激本』側が、これに4ページしか使わなかったのは、妥当であるが、このイベントで大してしゃべらなかったのに「マニア受けでしかない対決」って、黒須田氏は書いてましたね。ハナっからあそこに集まった観客をナメていたのだろうか? だとしたら黒須田氏、問題ありますよ!!

●

「『激本』が勝ったと思う人、手を挙げて」、笑顔がかわいい佐藤ちゃんと、ジャイ子への嫌がらせとして手を挙げる中村カタブツ君(36歳)。

(金の?)亡霊落武者・ターザン山本、
イベント後にも大暴走!

そもそも、このイベントの裏テーマはターザン山本潰しであった。

吉田豪が「山本さん、『激本』つまらないですよ」と言うと、「あれはオレがつくったんじゃないんだよ! 全部、須田と黒須田が悪いんですよ」と開き直り、『激本』側には「吉田豪が単なるプロレスファンであることがこれでハッキリしたよ!」と煽っていた、そんな二枚舌が今回の抗争の引き金になっているのだから。本人はこれを「人を楽しませるエンターテイメントです!!」と言い張っていたが……。まあ、そういう意味で、イベントは成功だった。

さて、狂気の大乱闘事件を起こした翌日、さっそく吉田豪あてにターザンが電話をかけてきた。

自分で割ったグラスの破片が足や腹に突き刺さり、破傷風寸前だという。「足が動かないゾ! どうしてくれるんだ!? 慰謝料払え!」と脅迫まがいの電話をかけてきたのだが、「殴られたのはボクですよ!?」と言い返すと、「そうだなあ」と納得したらしい。これもターザン言うところの「エンターテイメント」なのか?

しかも、芸文社にも同じ手口で電話して、混乱に陥れたらしい。狂ってる!

PRESIDENT THE DRAGON

祝!! 新社長就任記念・妄想爆破座談会

語ろう藤波辰爾

藤波を愛し、藤波本を読みまくり、藤波を語り尽くした6人のドラゴンチルドレンたち

椎名基樹
本誌で『ザ・検証』を大好評連載中。近年珍しい“ドラゴンの語り部”。

せきしろ
本誌で『ザ・検証』を絶賛連載中。自称“平成の越中番”。

笠井修
バンド「マディ・フランケンシュタイン」のベース。新日とDDT大好き！ 某ビデオメーカー勤務。諸事情により掲載できない話ばかりなのが残念。

イナズマ★K
レコード店ZEST勤務兼フリーライター。W☆INGフリーク。

初代マスクド店長・岩渕
元バンバンビガロ店長＆現在はビデオメーカー（株）アタッカーズ勤務。イチ押しは『淫獣学園』なるレイプもの。見てね！

吉田豪
本誌スーパーバイザー兼オシャレ有名人兼美女選別家協会＃007。ドラゴン本のオススメは『藤波戦争』。

今年6月、激動の'99年を象徴するようなビッグ・バンが新日に起こった。藤波辰爾――社長就任!! 新日旗揚げ以来のオリジナル・メンバーであり、象徴的な存在である藤波の社長就任に、様々な期待を寄せずにはいられない。というわけで、本誌編集部周辺の藤波好きを集めて今回の「語ろう」シリーズは行われた。だが、語ろうと思って過去の藤波の行動を振り返ってみるのだが、長州のようにギラギラしたハートが表に出てるわけでもなく、天龍のような生き様も見えてこない。ジャンボ鶴田のようにドラスティックに生きているわけでもない、ジャンボ鶴田のようにドラスティックに生きているわけでもない、つ掴みどころのないドラゴンのことを語り始めているうちに、それぞれが勝手に妄想を膨らませはじめ、それをぶつけ合うというとんでもない座談会になってしまった。というわけで、今回の座談会は、シリーズ中で最も物騒でヤバ過ぎるものとなってしまった。前半はまだまだ現状におけるドラゴンを語り合っていたからよかったものの、後半はドラゴン妄想を暴走させた椎名基樹さんの独壇場！ これがメチャクチャ面白かったのだが、そのまま載せると『紙プロ』ならびに出席者の全員の命が危ないので泣く泣くカット。出演者の皆さんには申し訳ないが、なんとか掲載可能な部分だけで構成してみた。これで果たして、どこまで面白さが伝わるか。プロレスマスコミの極限に挑む、究極の妄想座談会を読み切ってみろ！

構成／坂井ノブ

――今日は、ドラゴンの新社長就任をお祝いしようと、お集りいただきました。いやあ、いきなり社長になったときはホントにビックリしましたね。

豪 ドラゴンの『俺が天下を取る』って名著があるんだけど、あれは妄想だと思って笑っていたら現実だったことが証明されちゃったからね（笑）。

笠井 本人が社長就任を知ったのは発表の1～2日前だったみたいですね。

豪 本人は何も知らないで「お前、今日から社長だぞ」って、とんでもないことだよ。嫌がらせじゃないんだから（笑）。

――そういえば社長就任の記者会見のとき、長州さんが「笑いが止まらないんだよな、これは変な意味じゃないよ」って言ってたんですよ。

一同 ダハハハハハ!!

岩渕 それじゃまるで長州さんの冗談みたいじゃないですか（笑）。

――まあ、変な意味じゃないんでしょうからね（笑）。ちなみにドラゴンは「オレと長州の闘いはまだ続いている」ってシビレること言ってましたけど。

豪 鶴田引退のときも、「まだチャンスはある！」って言ってたからなあ（笑）。

岩渕 はあ……。このままだと、ドラゴンは裸の王様になりかねないな。

豪 むしろ裸の殿様かな。徳川家康マニアだし、葵の紋も大好きだし（笑）。

――結局、悲願の鶴田戦も夢で終わっちゃいましたからね。

豪 ボクがインタビューしたときも、鶴田さんはドラゴンがマスコミを使って対戦アピールしてきたのを本気で嫌がってましたからね。「結局、彼は社長になりたいんでしょ」って批判してたら、その数ヶ月後にはホントに社長になっちゃったんだけど（笑）。

イナズマ それ読んだ長州さんが「そりゃいいアイディアだ！」って、社長にしちゃったんじゃないの（笑）。

豪 いや、いいアイディアだと思うよ、実際。『ゴング』（NO．778）に載ってた、7月のアメリカ視察の話も最高だったでしょ。長州さんはWCWを絶賛してるのに、ドラゴンは反応悪くて、最後は「あの会社とは仕事ができない」とか言い出すっていう（笑）。

――それを「そんなことない。面白くなるよ」と長州さんがなだめてました。

豪 本当に面白くなりそうだなあ。

――社長就任以来、ドラゴンがいきなり「猪木イズム」って言い始めましたしね。

豪 でも、ちょっと唐突すぎるんだよね。普段から言ってればいいんだけど。

イナズマ 猪木には散々「後継者と思ったことはない」って言われてるのに。それでドラゴンも猪木批判してたし。

豪 まあ、坂口体制と違うことをやろうとするには、猪木を引っぱり出すのが一番効果的だろうからね。

――ドラゴンが会社の舵を取ったらどうなるんだっていう興味はありますよね。過去、ドラゴンが舵を取った組織を何度か見てきているだけに、ちょっと気になるところですけど。

椎名 ドラゴン・ボンバーズって、きちんと何かやったの？

イナズマ Tシャツは作ったね（笑）。

豪 パイオニア戦志との対抗戦があったぐらいなのかな。そういえば、さっき『ドラゴン炎のカムバック』読んでて気付いたんだけど、ボンバーズに越中を入れた理由っていうのが、ドラゴン曰く「越中はサムライ・シローとして俺とコンビを組め

「ザ ドラゴン・ボンバーズ」発表記者会見

「部屋別制度」をＳＷＳとほぼ同時期に打ち出したドラゴン。90年9月25日には藤波部屋「ドラゴンボンバーズ」の設立が発表された。が、何をするわけでもなく、越中が藤波に反旗を翻してあっけなく解体。ちなみに元・力士の南海龍が参加したが、デビューすることなくハワイへ送り返された。

ドラゴンが新社長に就任して本当に面白くなりそうだなぁ（吉田）

鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス

語ろう 波爾藤辰

る」っていうことだったらしいんだけど（笑）。

イナズマ　殿様だから、侍なんだ（笑）。

――最近出た『無我』という著書の中では、ドラゴン・ボンバーズの失敗は「自分の行動力のなさが原因だ」ってハッキリ書いてましたね。

豪　じゃあ、新日もドラゴンの行動力のなさでダメになるのか？（笑）。

椎名　要するに、ドラゴンの社長就任は長州さんのギャグってことでオシマイなの!?（笑）。松永（光弘）が（ミスター・）ポーゴを「面白いから副社長にしちゃった」みたいな感じで。

イナズマ　まるでW☆INGだな（笑）。

――でも、社長就任を機にプロレスサミットも実現に向けて動き出しそうですからね。またひとつ両メジャーの壁が壊れそうな雰囲気じゃないですか。

豪　どうかなあ。ドラゴンがプロレスサミットを提唱し始めた頃、当時のマスコミは『SFプロレス小説・プロレスサミットが実現したら』とかいう企画をやってたぐらいだから、誰も本気で実現するなんて思ってなかったんだろうね（笑）。当時のマスコミにとっても、プロレスサミットはSFでしかありえないことだったんですよ。

椎名　それ、ちっともサイエンスじゃないんだけど（笑）。みんな、ドラゴンがおかしいぞっていつ気付いた？　オレは結構最近なんだよね。

豪　ボクもここ数年ですよ。『オレが天下を取る』って本を読んで、これはちょっとおかしいんじゃないかと思いましたね。

岩渕　あれは本当に名著ですよね。相当おかしい（笑）。

椎名　あと、『マッチョドラゴン』のプロモーションビデオを観た時ね、あれは、もうパーフェクトでしょ。

豪「プロレスラーはプロレスしかできない」という偏見を変えたくて出したのが『マッチョ・ドラゴン』だったらしいけど、明らかにベクトルがズレてるんですよ（笑）。歌だけでも充分に凄いのに、衣装も凄いしメイクも凄いし、振りもバックの黒人の女の子とは微妙にズレてたりして、大変な奇跡が起こってる（笑）。完璧ですよ！

イナズマ　オレは昔、TV『いきなりフライデーナイト』で、ピンクの服を着て靴下までピンクで決めてきて、それを「妻のコーディネイトです」って笑顔で言い放ってたときかな（笑）。

岩渕　ドラゴン夫婦は素敵ですよね。ボクは調布の家まで押しかけてサインもらいに行ったことがあるんですけどすごい優しかったですよ。

豪　ボクも、かおり夫人にはドラゴンとのツーショット撮ってもらったりして、親切にしてもらいましたからね。

椎名　かおり夫人の〝プロレスの守り方〟っていうのも凄いと思うんだよね。この前、TVに出て泣いてたもん。

豪　あっ、その番組見ましたよ！　芸能人の奥さんいっぱい出る番組で、「ウチの亭主が腰を怪我してる時に、『貴方、ドラゴンの奥さんね。プロレスは八百長なんでしょ？』って言われて、腰まで怪我してるのに、悔しくて」って、スタジオでも泣き出しちゃったやつ。大仁田ばりの守り方でしたね。

椎名　あと、「夜寝てるとき、ドラゴンが怖い」って言うんだ。犬と一緒に腕枕してもらいながら寝てて、ドラゴンが寝返りうったら犬を反対の壁にドーンと投げっちゃったんだって（笑）。

笠井　スッゲー!!　カッコいい（笑）。

岩渕　子供がいない頃、マルチーズを凄い可愛がってましたよね。

笠井　今も昔も近所の犬を預かってて、それが結構な数らしいですからね。

椎名　オレは犬を集めたりするのは、相当の鬱憤を溜めてるからだと勝手に妄想してるんだけど（笑）。いろんな意味でかわいがってるんじゃないかな（笑）。

豪　たくさんの犬に囲まれると、偉い気分にはなれそうですよね（笑）。鳩に餌をやるとなんだか偉くなったような気がするのと同じで（笑）。

岩渕　それじゃ、同級生と遊んでもらえなくて、近所の下級生と遊んでるいじめられっ子と一緒じゃないですか。

イナズマ　その犬に囲まれて偉い気分になるのと、家康好きっていうのは関係ありそうですよね。

岩渕　城が好きなのは試合の合間に城を見に行ったのがきっかけだったらしいですね。

椎名　だけど、この間NHKの『自分の趣味』って番組観てたら、ドラゴンが出てきて、小田原城の前で

ドラゴンといえば、かおり夫人の存在を抜きに語るのは不可能というモノ。キッチン・ナビゲーターという肩書きを持つかおり夫人は『ちょっとごはん食べにこない？』という、フランクでアットホームなタイトルの料理本まで執筆。ドラゴンもTVの収録現場などに妻や子供を連れてきたりする、非常にオープンな姿勢である。

「いやぁ、初めてだなあ、こんなにしっかり城を見るのは」って言ってたんだよ（笑）。それ見てビックリしたんだけど（笑）。

豪　城好きのはずなのに（笑）。確かにドラゴン本でも、趣味は「城の写真を集めること」って書いてあったんですよ。

イナズマ　あくまで、ヴァーチャルなんだ（笑）。

豪　でも、昔住んでた調布の家には、家の中のいたるところに葵の家紋があって、カッコ良かったんだけどなあ。

椎名　でも、今の家は葵の御紋全然なくなっちゃって、かおり夫人の趣味でメルヘン御殿になっちゃったみたいだね。

豪　昔はかおり夫人の反対も聞かずに、「家じゃなくて城を建てる」って言ってたのに（笑）。夢は破れたんだ。

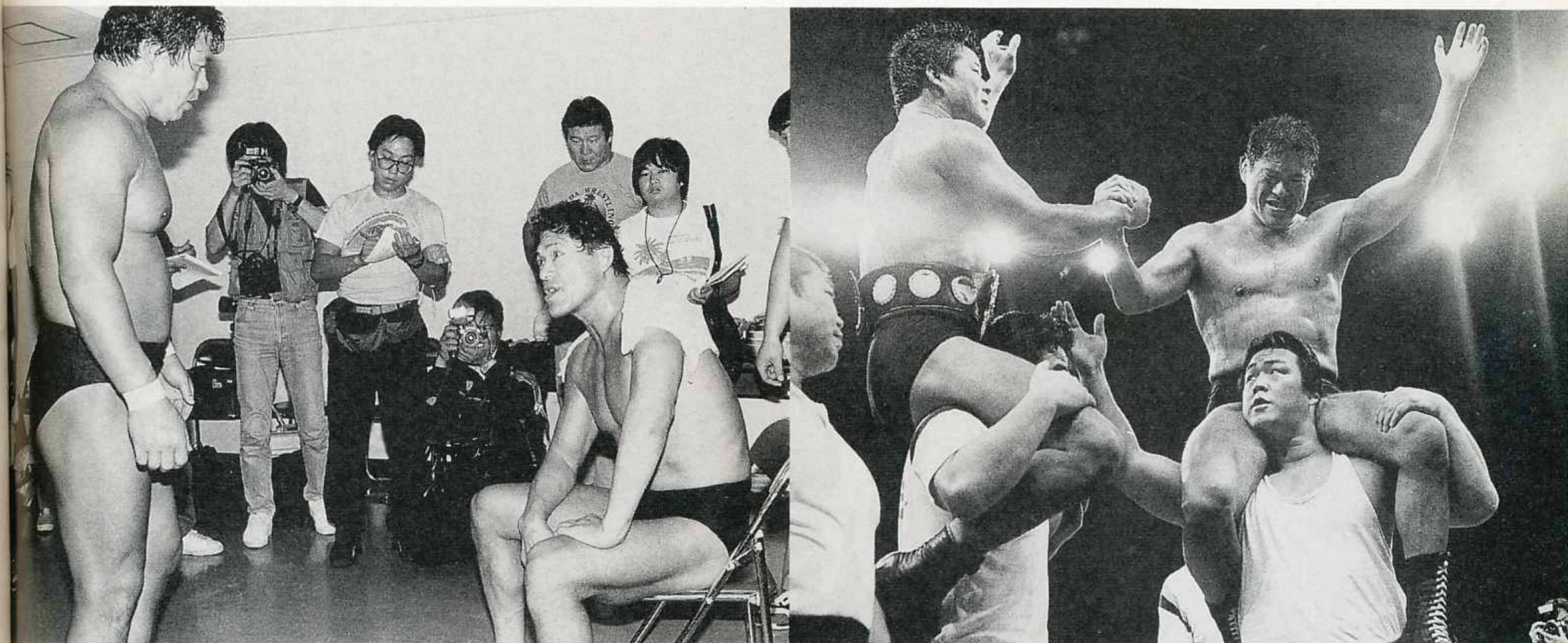
――日本刀は持ってるんですかね。

岩渕　そこまで、前田日明さんみたく攻撃的な趣味にはいかないと思いますよ。

豪　やっぱり殿様は武装しないから。そういうのはサムライの役目だよね（笑）。

椎名　だけどドラゴンって歴史マニアとは違うよね。

豪　すべてにおいてマニアじゃあないんですよ。城が好きなのも、単に家康が好きなだからだし。たぶん徳川15代将軍とかも全員言えないんじゃないかなと、勝手に思ってるんだけど（笑）。

椎名　妄想ついでに言っておくと、

こちらは10年以上経っても色褪せることのない、現代プロレス界屈指の名シーンである。88年4月22日、沖縄・奥武山体育館で世代交代を要求した藤波は、「やってやるよ」と言いながらハサミで自らの前髪を切り落とした。世に言う“飛龍革命”の始まりである。

藤波の最高の名勝負という声が多い88年8月8日、横浜文化体育館で行われたvsA・猪木戦。60分フルタイムを戦い抜いてドロー。この一戦を境に猪木はリング上の第一線からは退いていく。長州が猪木を、越中が藤波をそれぞれ肩車したこのシーンは多くの人の心に刻まれていることだろう。

もしかしたらドラゴンの腰痛は仮病じゃないかなあ（笑）。

豪　え～～～～っ!?　さすがにそれはないでしょう。

椎名　あったかいとこ行けば、ちょっと良くなるって聞いて、グアム行ったら「少し楽になった」とかさ。ホントかよって思ってたんだけど（笑）。

笠井　原因は単にストレスだったんじゃないの（笑）。

豪　だけど、あの時期に休む理由もないし、実際あれで完全に主導権争いに出遅れたし、さすがに仮病じゃないでしょう?

椎名　いや～っ、長州さんが帰ってきてスネたっていうことはあるんじゃないかなあ（笑）。

笠井　登校拒否児みたいに?

椎名　「お腹痛い」が、「腰痛い」に変わったんじゃないのかなと、これは完全にオレの妄想なんだけど。逆にドラゴンだから、相当痛いっていうのも考えられるし（笑）。

豪　痛かったのは事実だと思いますよ。ただ、それにかこつけて、「会社は辛いし、かおりと一緒にいたい」っていうのは考えられますけどね（笑）。

イナズマ　その時に治療に行ったのがきっかけで、温泉好きになったんですよね。TVでやってましたよ。

椎名　あっ、それ見た！　ドラゴンの腰を揉んで治したっていうババアが出てきて、「私は、ハンドパワーと気功をミックスさせたのを使うんです」って言ってたんだけど（笑）。

豪　それに温泉治療までミックスさせりゃ、治りますよね（笑）。そういう、オカルトっぽいの好きなところには猪木イズムを感じられるんですけどね。

椎名　そういえば、せきしろの中では「ドラゴン＝タチの悪い先輩」説っていうのがあるんでしょ?

せきしろ　（唐突に）ドラゴンは小学生と遊ぶ中学生の先輩っていうイメージ。中学に上がって、小学生はそんなヤツとは遊びたくないんだけど、やさしいから、挨拶だけはしたりするっていう、そんな感じじゃないかな。

椎名　また越中の話ね（笑）。あの当時、ドラゴンがドラゴンボンバーズを作ったっていうのは猪木に対する反発だったんだろうね。

豪　それと長州さんにも反発はあったとは思いますね。ドラゴンは自分で「爆弾軍団だ」って豪語してたら、結局不発弾になっちゃったんだけど（笑）。

岩渕　きっと腰痛治療中にいろいろ考えたんでしょう。当時はオレも素で観てたから、凄い期待してたんですけど。でも、マジでカッコ良かったのは、'88年の飛龍革命の頃ですよ。

豪　前髪切った時ですよね!!　あのシーンは何度観ても素晴らしいですよ。でも、必死なのはわかるけど、なんで前髪を切るのかが、よくわからない（笑）。

椎名　その頃は長州さんはいるの?

岩渕　います。あれは前田さんがいなくなった後ですから。あの1年間のドラゴンはボクの中のベストですよ!!

豪　前田さんなき後、誰が新日の中

鳴かぬなら
鳴くまで待とう
ホトトギス

語ろう 藤波辰爾

で家康になるのかって頃ですね（笑）。
イナズマ　殿様になるためには、前髪はいらなかったんじゃないかな（笑）。
椎名　しかしドラゴンが前髪を切った瞬間の猪木は素になってたなあ（笑）。自分を取り戻してからビンタしてたもん。ああなるまでにきっとドラゴンは相当、鬱積がたまってたんだろうけど。
豪　その鬱憤が爆発しちゃったのが、札幌中島体育センターで「こんな会社やめてやる」発言をしたときですね。
椎名　ドラゴンってそういう陰みたいな部分があるよね。元々、日本プロレス入るときだって1年間も居座ってようやく入門したんだよね。北沢（幹之・引退）さんが同郷だからってことで面倒を見てもらってたみたい。
豪　そこで北沢さんを選んだのは正解ですよ。ホントに良い人ですから。
椎名　それで親が全然探さなかったらしいから、オレの妄想では多分間引きだったと思うんだよね（笑）。15歳の息子がいなくなって探さないって、それは絶対におかしいもん。
岩渕　い、いや～……、今日は椎名さんの妄想が暴走してますねえ（苦笑）。

椎名　ドラゴンは鬱積したパワーが凄いから侮れないよ。爆発したらどうなるか。前号（本誌19号）でも書いたけど、ドラゴンの犬好きは絶対、恨みを飛ばすための呪術と関係があると思うんだよね。
豪　ここで変なこと発言したら、僕らにも何か来そうですからね（笑）。
椎名　そういえば、せきしろは最近、左足に激痛が走ったんだよね（笑）。謎の奇病にかかっちゃって（笑）。
イナズマ　ドラゴンの怨念？（笑）
せきしろ　まあ、面白いからそういうことにしてるんですけど。
椎名　他に何も思い当たるとこないって（笑）。『バカサイ』であんまりドラゴンのことを書くのやめようと思ったもん（笑）。でも、前髪切ったりする行為は相当恨みがましいよね。女っぽいというか。あのとき、ドラゴンが怒った原因って何だったの？
岩渕　「いつまで猪木さんの時代なんですか」って涙目で言ってましたけど……たしかに唐突でしたよね。
豪　早く世代交代しろっていうことですけど、そこに至るドラゴンの心境って妄想が広がりますよね。バックで誰か焚き付けてないのかな？　ドン荒川さんとか（笑）。あくまでも仮説ですけど（笑）。
岩渕　う～ん……、たしかにドラゴンには釈然としないことが多いなあ。
椎名　そう、ドラゴンのことを考えると釈然としないんだよね。仮説しか立たないんだよ。リング外では結果残してないから。
岩渕　ようやく出た結果が社長になったってことなんですよ。リング内ではすごい結果を出してるんですけどねえ。
イナズマ　何も結果がないから、妄想を広げるしかないのかもね。
豪　社長になっても実権がないのかなっていうムードが、WCW視察のときの『ゴング』を読んでるだけで読者に嫌というほど伝わってくるんですよ。
椎名　う～ん、今回のWCWとの件にしても、長州さんがビッグだっていうのはわかるんだよね。あれだけバーリ・トゥードとかU系を嫌ってたのに、ファンのニーズが多ければvsUFOをよしとする発言までしてるし。この間、犬軍団目的で武道館（99・6・8）に行ったとき、思ったより人気なかったからねえ、ドラゴン（笑）。
岩渕　また、犬の話ですか（笑）。犬軍団との絡みは興味深くなりますね。
笠井　初めてキラーなドラゴンが見られるかも（笑）。
――この間の札幌大会（99・7・21）で大仁田の入場を止めようとするドラゴンバリケードは、面白かったですねえ。

TVで「こんなにしっかり城を見るのは初めて」と言っててビックリした（椎名）

（写真上）92年7月8日、長期欠場から復活した藤波は韓国空手のリチャード・バーンなる選手と異種格闘技戦で対戦した。試合の途中から相手の要求によって、グローブを着用するがボクシング特訓（コーチ：ガッツ石松）が功を奏した。ちなみに復活の模様はＴＶのドキュメントで放送されており、そこで藤波は地下プロレスで試合をするという衝撃場面がある。じつは初期ECWに上がっていたのだった。（写真下）96年4月29日のvs天龍戦では、ハイリスク・ローリターン（©ターザン山本）な藤波の不思議な魅力が満載の裏ベスト・バウト。ドラゴン・ロケットの際にドラゴンは鼻骨を骨折する凄惨な試合となった。

鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス

語ろう 藤波辰爾

椎名　あの行為にも、オレは一筋縄で行かないものを感じたよ。タダじゃ終わんないぞっていうドラゴンの思いを（笑）。妄想かもしれないけど（笑）。

豪　確かに藤子不二雄A系ですよね。ホント、そこまで恨みがましくなったドラゴンの生い立ちにも興味ありますよ。椎名さんも前号の原稿で書いてましたけど、「牛に変わって耕運機を引いていた」って話も興味深いですよね。

椎名　相当すごい環境だよね。やっぱりドラゴンは間引きされたんじゃないかと思うんだよ（笑）。これ妄想？

岩渕　また暴走してますねえ（苦笑）。確かに昔の『ナンバー』で、ドラゴンが家族と一緒に載ってましたけど。

豪　あの記事は凄かったね！　ドラゴン一家が全員でインタビューに答えてるんだけど。それまで和気アイアイとした雰囲気だったのがクーデターの話になった瞬間、急に険悪になって「あいつらはゴキブリ以下だ！」とか家族全員で怒りだすんですよ（笑）。

椎名　怖いなあ。なんか横溝正史系の怖さを感じない？

豪　犬神家の一族ですか（笑）。

イナズマ　また犬だ（笑）。

豪　……ちょっと話がムチャクチャ怖くなってきたんで、話題を変えて試合の話でもしましょうか（笑）。

椎名　最近、『Fighting TV SAMURAI!!』でジュニアのときのドラゴン見たけど、あれはカッコ良いね。ビックリした。パンクラス入れるよ。ホントに均整のとれたもの凄いハイブリット・ボディーだもん。

――カッコいいんですよ！　ドラゴンって名勝負も凄く多いですからね。

岩渕　ルー・テーズがレフェリーをやったvs猪木戦（85・9・19）は良かったなあ。あとは、復帰戦のvsリチャード・バーン戦（92・7・8）もメチャメチャ面白かったですけどね。

椎名　あのときのTVで解説をやってた長州さんはメチャクチャ喜んでたよね（笑）。vsトム・マギー戦で異種格闘技戦の苦しさは自分も味わってるし、スゲエ面白かったんだろうね（笑）。

岩渕　あれも長州さんのギャグだったのかな（笑）。ガッツ石松に習ってボクシング特訓やってましたけどね。

イナズマ　オレはvs前田戦（86・6・12）かな。

笠井　アレは凄いね！　だけど、ドラゴンの名勝負っていうと違うかもしれない。前田の名勝負ではあるんだけど。

椎名　酷いんだよ、前田日明が。「ドラゴンだから大丈夫やろ」って感じで、思いっきし蹴ってんの。思わずドラゴン応援だよ（笑）。ドラゴンはいきなりのジャーマンとか、思わぬところで意外な技を出すカッコ良さはあるね。

ドラゴンはいまだに思春期だと思う（せきしろ）
やっぱりドラゴンは凄いですよね（岩渕）

イナズマ　あの試合でのドラゴンの流血は凄かったですよね。

椎名　あの試合は両者KOだけど、オレにとってはドラゴンの勝ちだよ。

ファンの妄想を膨らませてくれるのは、藤波の世界が思いっきり展開されている著書のおかげ。いまからでも遅くないので、すべて読破しよう。今後の新日本の方向性を占ううえでのヒントが隠されているかも？

岩渕　前田さんはあの試合でドラゴン・スープレックスやっちゃうし。

豪　まさに掟破り（笑）。

椎名　でも、一番最初の掟破りはドラゴンなんだよ。それまでは他人のフェイバリット・ホールドは使っちゃダメだったのに、vs長州戦でサソリ固めを使っちゃってから、皆が皆、他人の得意技をやるようになったっていう。

岩渕　vs天龍戦（96・4・29）では3回もトペやって鼻折れちゃったこともありましたね。

豪　ドラゴンの中で、「ビッグマッチ＝オレが飛ばなきゃ」っていう強迫観念でもあるんじゃないかなあ。

椎名　あと、ドラゴン独特のムーヴってあるよね（笑）。あの雪崩式リングインとか、レフェリーに、「3っつ入った？」って確認するとか（笑）。

岩渕　ドラゴン式呼吸法とかね（笑）。

せきしろ　（唐突に）ドラゴンっていまだに思春期なんだと思うんですよ。

岩渕　しっ、思春期ですか!?

せきしろ　子供の頃は、耕運機引いて働いていて、遊ぶ時間もなかったんですよ。ブレイクした頃はジュニアで、体は大きくなったけど、心はついていってないんですよ。で、オカルトに走ったり、歴史にも興味が出てくる。あと、カール・ゴッチにこだわるのも、みんなもゴッチと遊んだから、「オレも遊んだよ」って言ってみたいんじゃないかな？　それで「ゴッチイズム」と言い張ってるという。暴走族みたいなもんでしょ。

椎名　あくまでも妄想だけど（笑）。

イナズマ　子役上がりの俳優みたいな感じだ（笑）。

椎名　ドラゴンは15歳からプロレスに入門してるから、たしかにプロレスの社会しか知らないんだろうし。だから、オトナになってから青春を取り戻そうとして……ようするに社会人デビューなんだよ（笑）。

豪　きっと気持ちのどこかに中学生の魂は持ち続けてますよね。しかも、同じ中卒だったはずの大仁田が高校入学しちゃったから、そのうち「オレも行く」って言い出しそうだし（笑）。ましてや、ライバルのはずの鶴田は大学院行ってアメリカでマスターやってるんだもん。ドラゴンにしてみたら想像を絶する世界でしょ（笑）。あれは絶対、悔しいはずだよ！

岩渕　……今日はドラゴン好きの集まりなんですよね？　それにしても、よくここまで話が広がるな。やっぱりドラゴンは凄いですよね。

椎名　でも、ここでしゃべってることは全部オレらの妄想だから（笑）。もう、ドラゴンのことはいちど考え始めると止まらないんだよ（笑）。オレは寝れないときは、ドラゴンと佐山聡のことばっかり考えてるもん（笑）。

豪　同感です！　まあ、実際問題として、いまの混沌とした新日の社長にドラゴンが就任したのはムチャクチャいいチョイスですよ。さすが長州監督！

――そういえば長州さんも今年の初めにインタビューで「マスコミも驚くようなことをする」って宣言してましたもんね。

豪　そりゃあ誰でも驚くって（笑）。

【99年8月14日、東京・「九龍」原宿店】

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

※「紙のプロレスRADICAL」創刊号からNo.4、さらにNo.6は完売しました。

サルでもわかるプロレス雑誌!!?

ウキッ ウキッ

モデル／関東近郊で捕獲された日本初のレスリング・モンキーことシティー・モンキー選手（大日本プロレス）

No.19

★いま一度高田延彦を注視せよ！
マーク・ケアー戦直前
高田延彦ロングインタビュー

リングス、パンクラスにも咆吼三昧!! **小川直也**
マット界の今後を**前田日明**CEOが激白！
『紙のプロレス』スーパースター列伝 **ドン荒川**
押忍（敬礼）掣圏道、急速発進!! **佐山聡**
エンセン井上／成瀬昌由／TARUwith AYAKA
宇野薫／アレクサンダー大塚
『怪物通信』4連発！
M・ケアー&G・グッドリッジ&E・F・ブラガ&G・メッツアー
上田馬之助／井上貴子／川口健次／世界のプロレス

No.5 ★打倒ヒクソン！「最後の刺客」

高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
伏せ字だらけの超過激対談パート2
ドン荒川vs藤原喜明
前田日明の『人生は語らず』
世界格闘技連盟を語りたおす！
佐山聡（タイガーキング）
★長井満也／柳澤龍志／ディック東郷／愚乱・浪花／ザ・グレート・サスケ／長与千種／ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー／パンクラス旧合宿所誌上大公開！

No.7 ★特集「反骨の剣」田村潔司ロングインタビュー

読者もシビレまくり！
黒いパンツの心意気・激白**木村健悟**
酒、煙草、男、三禁なんてクソ食らえな
大型不良新人！**中原奈々**（現在失踪中）
「凶器しか使わないプロレスをしたい！」
みちプロ経営危機の真実を
ザ・グレート・サスケが独占告白！
……ああ、好評すぎて怖い。
寸止めなしの殺戮連載！
前田日明の「人生は語らず」
冨宅飛駈／垣原賢人／モハメド・ヨネ／冬木弘道／MEN 'Sテイオー／タンク・アボット

No.8 ★特集「格闘技世界大戦前夜!!」

戦闘スマイル全開**桜庭和志**ロングインタビュー
アントニオ猪木「元気」と「気づき」の
ロングインタビュー
ヒクソンとの再戦が決定！
高田延彦の意気込みを聞け！
「プロレスラーはホントは強いんです記念」
「格闘家から見たプロレス！」
エンセン井上／村浜武洋ロングインタビュー
波動砲！**前田日明**の人生相談
『人生は語らず』
必読！黒いパンツの心意気PART 2
木村健悟が猪木、坂口から八百長論まで大いに語る！
業界内外で話題騒然**吉田豪**の書評の星座PART 2

No.9 ★アントニオ猪木・闘魂連鎖！ 無礼講大特集!!

前田日明／ザ・グレート・サスケ／高田文夫／春一番／ターザン山本／石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前ロングインタビュー&
炸裂人生相談
日プロOB**吉村道明&ユセフトルコ&**
遠藤幸吉&駿河海
大反響!!『格闘家から見たプロレス！』
朝日昇
★谷津嘉章／佐野友飛／ラスカチョ

No.10 ★特集「灼熱の地殻変動'98」

大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談！
とにかく元気！**高田延彦**ロングインタビュー
またもや大爆発！
谷津嘉章インタビュー第2弾！
社長&会長対談
ザ・グレート・サスケvs松永高司
『紙のプレイボーイ』発進!!
ダイアナ&宮内美穂
大噴火!! **ターザン山本**の
プロレスマスコミ表紙批評!!
『紙のプロレス』スーパースター列伝 **北沢幹之**
冬木弘道（金村ゆきひろ&伊藤豪）
ロングインタビュー

No.11 ★特集「格闘Viagra'98」

高田延彦vsエンセン井上エネルギー
エクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後
初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評！
「格闘か？芸術か？それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）**／福田雅一**
★ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本
★バト両国進出記念
石川雄規／トンパチ・マシンガンズ
とうとう語られるSWSの真実
「S多重アリバイ」**アポロ菅原**

No.12 ★特集「格闘TEPODON!!'98」

ヒクソン戦直前！ **高田延彦**ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ！祭り囃子を鳴らせ!!」
浅草キッド登場
人気大炸裂！
「S多重アリバイ」第2弾 **アポロ菅原**
★桜庭和志／アレクサンダー大塚／山本健一／神取&北尾／八木淳子／ダンプ松本
猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ**前田日明**人生相談
「人生は語らず」!!
話題騒然!! What is プロ格闘家？
菊田早苗&郷野聡寛

No.13 ★特集「四角いジャングルRADICAL」

実写版『1・2の三四郎』降臨！
アレクサンダー大塚ロングインタビュー
『10・11 PRIDE.4』とは何か？
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中を
リアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
『高田vsヒクソン戦』!!
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
『10・11 PRIDE.4』
大反響！『S多重アリバイ』第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド／松永光弘／リッキー・フジ／堀辺正史

No.14 ★特集「格闘DREAM CAST」

前田日明独占ロングインタビュー
これが**カレリン**の発した言葉だ!!
池田美憂・山本聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中！ **金原弘光**
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目えつぶって30秒!!
『高田道場 1999！』
高田延彦／桜庭和志／佐野友飛
松井駿介／豊永稔
『S多重トンパチ』第4弾 **折原昌夫**
★『虎の尾を踏む男たち'99』
小路晃／4代目タイガーマスク
村上一成／宇野薫

No.15 ★特集1「格闘MARS ATTACKS!」

橋本戦の核心を語る
小川直也with.S.Sインタビュー
佐山聡／4代目タイガーマスク
UFO襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明USA特訓を直撃！
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド／アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場！**SASUKE**
『語ろう**マサ・サイトー**！』
大好評！『S多重アリバイ』2連発！
佐野友飛&Mr.W

No.16 ★特集1「格闘ノストラダムス'99」

修斗ヘビー級王者
エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／村上一成／マーク・コールマン／石川雄規／ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち'99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占ロングインタビュー！
大好評！「語ろう」シリーズ第2弾！
『語ろう**ジャンボ鶴田**』
大反響！SWSを再検証せよ！
『S多重アリバイ』第7弾**石川孝志**

No.17 ★特集1「格闘MAKE JUNGLE」

UFO襲撃三昧**小川直也**インタビュー
桜庭和志／高田延彦／アントニオ猪木／豊永稔／マグナムTOKYO／池田大輔／宮戸優光
★特集2「新生リングス Bone&Blood」
前田日明／山本宜久／成瀬昌由
R・クートゥアー
★タイガー・戸口／矢口壹琅／『怪物通信』
「ターザン山本さん、
目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18 ★特集「格闘STAR WARS」

カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー
高田延彦／エンセン井上
イーゲン井上／小路晃&宇野薫
格闘STAR WARS座談会
『S多重アリバイ』第8弾
将軍KYワカマツ
「外人さん、いらっしゃ〜い」
F・シャムロック／G・グッドリッジ
R・グレイシー
『怪物通信』**G・アイブル**
『闘魂猪木塾とは何か?』

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります
（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）

●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、
〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702
（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。

●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130−3−769154（株）ダブルクロスまで。
代金はNO.5〜NO.10=680円 NO.11〜NO.19=780円
送料1冊=310円 2冊=340円 3冊〜4冊=450円
5冊=520円 6冊以上=700円

●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ヘラクレス和歌山駅前店・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）

紙のプロレス RADICAL PRESENTS

青空プロレス道場 REPORT

構成／チョロ
text by Choro

池袋名物『性感ヌケ袋』もとい『青空プロレス道場』。今回は全六回のショートサーキットということで、選りすぐりの講師陣を揃えてみました。今号では、冬木弘道先生、杉作J太郎先生を迎えた『ザッツ・エンターテイメント』。さらに、安生洋二先生、山本喧一先生による『U系の過去現在未来』の模様をお届けいたします。

第1回　7月14日……………

『ザッツ・エンターテイメント!!』

ゲスト
冬木弘道先生（FMW）＆
杉作J太郎先生

久しぶりの『青空プロレス道場』、ということでビッグプレゼントとして『紙プロ』vs『プロレス激本』の対決（P52参照）の裏ビデオを特別先行上映。このイベントの映像は編集部にも「販売してくれ！」と多数声が寄せられていたもので、ターザン山本狂乱の吉田豪襲撃事件の模様が映し出されると道場生は大興奮。『プロレス道場』ではこのような秘蔵ビデオもガンガン流しているんで、残り3回、騙されたと思って来てみたらどうだい？

「『紙プロ』はこれからエンターテイメント路線！」という山口日昇の力強い宣言とともに、冬木弘道先生と杉作J太郎先生の入場。道場には、最近めっきりリングに上がる機会も増えた〝夏色のナンシー〟こと荒井社長の姿も見られた。

まずはFMWが掲げる「エンターテイメントレスリング」とは何なのか、冬木弘道コミッショナーに説明してもらった。

「単純にプロレスを見て、『面白かった』『つまんなかった』って思うでしょ？　そこまででいいの。それより深いことは考えなくていい。それがエンターテイメント。別に考えてもいいけど、考えたらエンターテイメントはつまんなくなると思うよ。プロレスっていうのは考えれば考えるほどつじつまが合わないことが出てくるんだから」。なるほど、そりゃそうだ。

すかさず吉田豪が「でも考えることがプロレスファンの喜びみたいなムードもありますよ？」とツッコミを入れると、冬木先生は「俺はそういうのは嫌いなんだよ。俺から言わせればそういうファンを作ってきたのはUWFなんだよ」という非常に興味深いお言葉が返ってきた。

「UWFっていうのは、あらかじめ考えてそれなりの知識を頭に叩き込んで見なきゃわからないんだよ。結局UWFっていうのは現状のプロレスで限界だと思って始めたものなんだよ。俺たちがやろうとしているのは息詰まった上で、さらにもう一つないかってことで見つけたのがエンターテイメントレスリングなんだよ。エンターテイメントっていうのはUWFと違って何にも考えなくていいわけよ。考えることはこっちで全部やるからってことだよ。極端に言えば俺が全部考えるから、お客さんは何も考えず楽しんで帰ってくれればいいの」と冬木流エンターテイメント論を優しくレクチャー。

冬木さんが入った頃と比べてFMWのレベルは上がっているのだろうか？

「最初にFMWに上がった時は弱いなぁって思ったわけよ。こんな奴等とどうやって試合をもたそうかなって。本気でやったら2、3分で終わっちまうからね。それでもずっとやっていくとそれに馴染んじゃうわけよ。だからレベルが高い方と低い方が闘えば、高い方が低い方に合わせちゃうわけよ。そういうもんだよ、プロレスっていうのは」

この発言を聞いた山口は、「それは非常によくわかりますね。ウチの雑誌も全く一緒（笑）。低いレベルに合わせないとやれねえですから」と同意した模様。頑張れデブリン、ジャイジャイ、そして俺。

U系団体のファンは、FMWには興味が持てないといった風潮があるが、冬木先生はそういったファン層をも取り込もうという気はあるのだろうか？

「文句を言うのは結構だけど、一回は見てくれなきゃ困るんだよ！　噂だけでつまんないから見に行かないじゃ困るんだよ。一回見て初めてつまんない、くだらないって文句言う権利があるんだよ」ということらしい。とにかく一度FMWを見ろ！　文句があるヤツはそのあとだ。

そうこうしているうちに恒例の質疑応答の時間となり、「若菜瀬奈に続くAVギャルの投入は考えてないんですか？」というナイスな質問が飛んだ。冬木先生は「AVでもお笑いでもそこのジャンルのトップが来てはじめてお客さんも文句を言わないわけよ。若菜瀬奈以上にインパクトがあるAV嬢がいるかどうかってなってくるんだよ！」とのことだったが、ノー問題！　個人的には山口ナオミを出して欲しいッス。冬木先生、インパクトあるんでゼヒお願いします。押忍、押忍、押忍！

最後に荒井社長から一言挨拶が（甲高い荒井社長口調で）「自分は冬木コミッショナーに全て預けてますから。これからFMWは面白くなりますんで一回来ていただければと思います」。それを受けて杉作さんが「9月の後楽園大会はホントに面白いですよぉ。絶ッ対面白いですよ！」といい加減に言い放つと、「例えば？」と吉田豪のツッコミが…。困惑の杉作さんは、「いやっ、よ、よくわからないですけど。アハハハハ（汗）」だって。

杉作さんも最高級のエンターテイナーである。ジェイジェイ。

UWFは現状のプロレスで限界だと思って始めたもんだよ（冬木）

今日のお言葉
11月23日の横浜アリーナ大会まで見てから文句を言ってくれ！（by冬木）

FMW中継『ブレーンバスター』の解説者でもあり、『トゥナイト2』でもお馴染みの杉作J太郎先生と冬木コミッショナーが講師ということで、会場には生粋のFMWファン、杉Jファンと思われる道場生の姿が多数見受けられた。

「VT系の選手も使いたいんだよ」と冬木が言うと「高田！」との声が。「何回かやってるけど印象に残ってないんだよ」とそっけない返答。見たいぞ、高田のブリブラダンス（もうやってないか？）

ノーフィアー!!

第2回　7月28日……………………

『U系団体の過去・現在・未来』

ゲスト
安生洋二先生（フリー）&
山本喧一先生（POWER OF DREAM）

ノーフィアーは俺が考えたんだから（安生）

この日のゲストは、ある時はK－1ファイター、またある時はTVタレント、そして近々UFC－Jにも出陣予定の安生洋二先生と、リングスを離脱以来、自身が主宰するパワー・オブ・ドリームで内弟子を育てつつ、来るべき夢舞台に向け、猛練習中の山本喧一先生である。

元ゴールデンカップスとして一世を風靡した安生&山喧先生だが、もう一人のカップス高山善廣選手は、現在は全日本プロレスでノーフィアーとして驀進中である。安生&山喧先生から見たノーフィアーとは、山喧のリングス離脱後の問題発言の真意、両者と前田日明CEOとの関係、遂に動き出したUFC－Jについて等々、恐れることは何もない、真っ正面から突っ込んでみた。ノーフィアー！

いきなり話題はU系団体のルール問題から始まった。安生は「ロープエスケープはムカつきますね。10代ならいいッスけど、30過ぎてせっかく上に乗って攻めているところをロープ際だからってブレイクされると、『オイちょっと待ってくれよぉ～』ってキレますよ。ロープエスケープはイカンですよ！」と机をドンドンと叩きながらターザンばりに炎上（顔は半笑）。続いて山喧がロープエスケープ不要論を熱く語り始めると、安生先生は興味なさそうに耳をかっぽじりながら『東スポ』を熱心に読み始めた。「自分が一番！」そんな安生先生の一挙手一投足に道場生はすっかり釘付けに。

「修斗さんとか、プロレス界でいったらバトラーツさんとか、現実にお客さんが入ってる会場とかには顔を出して勉強させてもらってます。他のU系の団体がなぜ潤ってないかというと、どっちにもグレーなんですよ。白にもなれない、黒にもなれない。ず～っとグレーなんですよ。ボクは白か黒のものをやりたいんで自分が上がりたいリングが見つかるまで放浪の旅をすると。それがなければ自分で作る！」と山喧先生が力強く宣言すると、「山本はこれから作っていく人間ですけど、ボクはそういうのにちょこちょこ乗ってく人間ですからねぇ。（顔を作って）『おっ、いいねぇ』『ヨッ、いいアイディアだねぇ』ってね」と合いの手。

安生先生のデタラメパワー炸裂である。山喧先生に『PRIDE.6』評を聞いてみると『面白いのは桜庭さんの試合だけで、後は勉強になりませんでしたね。あと松井が90点。松井は今まで一番良かった。前座松井、メイン桜庭でいいんですよ。8試合、10試合は多いですよ。格闘技をやるならプロレスとは全く逆の方向でいいものを作っていかないといけないと思うんです。蝶野さんがいろいろとやってることは素晴らしいことです。U系は、アルティメットみたいなガチンコ路線で行くのか、プロレスみたいにしっかり受けの美学を見せていくのか。ハッキリさせないとダメなんです。中途半端なことをしてるからお客さんも付いてこないんですよ（以下大幅に略）』との山喧節に場内も圧倒されっ放しだった。

道場生から質問を受け付けると、ゲストがゲストだけに、安の生、誌面では載せられないような質問が続出。ここから一歩踏み込んだオフレコ話が聞きたい人は、「パワーオブドリーム」に入会するか、「青空プロレス道場」に顔を出すしかないだろう。あい～や。よろしく。

「東京プロレスの3億円ベルトは、いまだにボクと佐山さんがタッグチャンピオンなんですよ。このチームでリングスに上がったら凄いですよねぇ～。（顔を作り）皆さんは見たくないでしょうか？」と安生流リップサービスに、場内も「見たいぞ～」と後押し。セコンドに、山喧、高山、渡部優一に4代目タイガー。本部席には前田CEO。そんな緊張感溢れる空間はメッタに味わえるものじゃない。ゼヒ実現して欲しいところだが、さすがに200％無理か。

「ボクもオーちゃんと一緒で全部プロレスですから。K－1もアルティメットもプロレスもボクの中では大した差はないんで」と、オーちゃんを反則勝ちながら下した男の頼もしい全身プロレスラー宣言が飛び出すと、「夜の街ではK－1ファイターじゃないですか（笑）」と山喧先生から素早いツッコミが。あい～や。

さすがにバラエティー慣れしているだけあって、安生先生はいつ何時どんな時でも必要以上に顔を作りながらの脱力トークで会場を盛り上げると、一方の山喧先生は何事もガチンコ志望だけに、真剣な語り口で己のビジョンを熱く語り倒した。やっぱりこの二人を体感するにはナマが一番。安生先生の面白人間ぶりは、活字より映像向きというのは本人も理解していることだろう。K－1やバラエティー番組に進出したのは至極当たり前のことなのだ。それは山喧先生も一緒。語りだしたら止まらない山喧トークの迫力はナマで見てこそのものだから。

現在、安生は『パワーオブドリーム』名誉顧問（?）として山喧と共に練習しているという。噂される山喧のUFC―J出場はあるのか?【写真上】山喧が熱く語り始めると『東スポ』を熱心に読みふける安生。街頭淫タビュー？【写真下】

講座終了後の二次会にも顔を出してくれた、安生、山喧両選手。『紙プロ』Tシャツ（イエロー）を着てウロウロしてくれた安生選手を、『紙プロ』イメージファイターに認定しました。

オマエらは『青空プロレス道場』が見たいか？　見たいかって聞いてるんじゃあ!!

8月25日の『青空プロレス道場』は延び、『紙プロ』の発売は延びに延び、「オマエらいったい何やっているんだ！」とお怒りの皆さん、申し訳ありません。「うっかりしてましたぁ～。グフフフ」とジャイ子風に謝ってみても逆効果だと思うので、断言します！　残り3回、超弩級のビッグゲストをお呼びします。

9月8日（水）は**W井上**こと
井上京子（ネオレディース）&**井上貴子**（フリー）
をゲストに迎え
『超毒舌!!　女子プロレスを10倍楽しく見る方法』

9月22日（水）のゲストは、たった今（8／27午後3時）
桜庭和志（髙田道場）選手
からOKの返事を頂きました。
ニコニコしながら当日まで待て！

そして、9月下旬から10月上旬にもう一発講座を開催します。日時は未定ですのでマメに問い合わせて下さい。もちろんラストにふさわしいテポドン級のビッグゲストが『青空プロレス道場』を襲撃！　見逃すと一生後悔するぜよ！

【お問い合せ】池袋コミュニティ・カレッジ　TEL.03・3988・9281（受付時間10：00～18：20　日曜日は18：00まで。祝祭日は休館）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

**書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——**（ネール元インド首相の娘への手紙）

一部で評判の健介自叙伝は、『紙プロ』読者なら全員必携と断言できる奇跡の名著である。あまりにも素晴らしいので次号でじっくり紹介することに急遽決定!　そういうわけで読者アンケートでは安定した人気を誇りながらも、富山在住の和泉弘昌君（44歳）にだけは「生理的に合わない」「不要だ!!」「好きくないパターンの内容」「切り口が好きではない」などと、なぜか毎号ズバ抜けて評判が悪い書評コーナー。

ケロの燃えろ!闘強導夢

三一書房

田中秀和

ケロの燃えろ!　闘強導夢

（田中秀和／三一書房）

読んでたもれ（ケロちゃん語）!

もはやアートとでも言うしかない破壊的なジャケだけでもマニアなら十分に満足できるケロちゃんの新刊は、いつもの調子のオモシロ旅日記ではなく書き下ろしエッセイ。それも「闘強導夢」という強引な当て字開発で社長賞に輝いたケロちゃんらしく、導夢での裏話がたっぷり詰まった一冊である。

というか、**「某団体さんが東京ドームで試合をやった時は、ほとんど演出がなくて『シンプルで某団体らしさが出ててよかった』なんてマスコミに書かれてましたけど、俺は絶対にそうは思わない」**だの、新日ドーム大会に全日が参戦したことについて**「マスコミは馬場さんばっかりほめてんですよ。しかし、このドーム大会を何とかしようと、話をしにいった坂口さんの、ある意味での勇気、そして話をまとめてきたことは凄いと思うし、もっと坂口社長に対する記事があってもよかったんじゃないか」**だのと、ドームに関する某団体&マスコミ批判が満載で、本当にたまらない熱さなのだ。

さすがはケロちゃん。伊達に「闘強導夢」のみならず「猪木の1、2、3、ダァーッ!」を考案したり、ベニー・ユキーデの招聘や猪木対ウイリー・ウイリアムスの再戦という『四角いジャングル』世代にはたまらないことを実現させてきたわけではないのである。いや、マジで。

個人的には、我々の永源遥幻想を一気に高める**「E選手」**エピソードの数々がいちいちツボに入ったので、ざっと引用してみるとしよう。

ケロちゃんはE選手と相部屋になるのが嫌だったと本気でアピールしているのだが、その理由はまず**「トイレのドア開けたままウンコするんですよ。人が部屋にいようといまいと」**という無駄にオープンで開放的な姿勢と、そして**「E選手って部屋に入ったらすっぽんぽんなんですよ。その上、『ケロ、薬塗ってくれ』と渡されたのが、なんとインキンの薬。断れませんからねぇ。あたしゃ、塗りましたよ、この指で」**という独自のスキンシップゆえだったそうである。

さすがは大相撲立浪部屋出身者。相撲レスラーなら全裸なんて恥ずかしいわけもないし、新弟子にケツぐらい拭かせるのだって当たり前の話（想像）。相撲に関しては無知なのでよくわからないが、おそらく熊本のホテルでケロちゃんがE選手に続いて風呂に入ったら出来たてのウンコが呑気にブカブカ浮いていたというのも相撲界では日常的な出来事でしかないのだろう、きっと。

かつて長州は全日の試合スタイルを「ぬるま湯の中のオナラ」と表現したものである。つまり風呂の中で屁をしたつもりが実までブチかまし、素知らぬ顔をして逃げ出すイーゲン、もといE源選手が新日のベテランながら全日へと移籍していったのも、ある意味では必然だったのかもしれない。

それにしてもウンコでセミ穫りをする高橋名人のように、ツバだけではなくウンコまで攻撃に使うE源選手のような傑物が新日からいなくなってしまったのは本当にもったいなかったと心から痛感する次第なのである。まあ、他人事だから言えることでしかないんだが。

たかがプロレス的人間、されどプロレス的人生

（『プロレスファン』編集部・編／エスエル出版会）

絶賛休刊中の『プロレスファン』編集部が久々にリリースした本作『たかされ』は、帯に**「単なるプロレス本ではない」**と大書しておきながら『プロレスファン』収録の佐山インタビュー（聞き手・夢枕獏）や杉作さんの連載再録に、板坂剛vs鈴木邦男&ターザン山本vs鈴木邦男vsエスエル社長・松岡利康の対談と大仁田物語（高山文彦・作）を加えた、単なるプロレス本であった。

かつてはあれだけバッシングしていたターザンをとうとう自分の土俵に引っ張り出したというのに、**「平素は口下手の私も、どうしても聞きたいこと、言いたいことがあったので、これは絶対にドンといこうぜ!」**という松岡社長の過剰な思い込みが空回りするばかりで、ターザンを叩くわけでもなく調子に乗らせるわけでもなく、なぜか共感してしまうのだから本当にいただけない。

取材拒否問題が聞きたいのかターザンの生い立ちが聞きたいのか理解不能で、テーマ不在なままま各地に飛びまくるまとまりのない会話。それをそのまま提示するのはプロの仕事ではないだろう。

こんなのは編集者が現場で上手く司会したり原稿の前後を上手く入れ替えたりすべきであり、本来ならボクなんかが言うまでもない問題なのだ。

思わず読み飛ばしがちだが冷静に考えるとよくわからない、**「シューティングというのはカッコいいわけでしょ。あれが格闘技と言えますか?　佐藤ルミナだとかマッハは髪を染めているんだよ」**だの**「撃舟會というのは、たとえて言うと、道路の中央を歩けない人たちだよね」**だのといったターザン（ちなみに、もうすぐ茶髪にするらしい。それは文句なし!）の発言に突っ込むことなく、**「当たっていますね」**と呑気に答えてしまう松岡社長。

ボクシングはメイン以外、全部前座だとターザンが吠えれば、**「そうですか。今思えば、長州というのはどんな人なんですかね」**と唐突に話を変えたりと、話の腰を折ること山の如し。

「『紙のプロレス』は、僕が出ると（団体が）みんな取材拒否するんだよ。『紙のプロレス』が僕のことを載せられないの。本当は、僕を大々的に使いたいわけですよ。（他の雑誌も）普通だったら、僕を使いますよ」

ここまで勝手なことを言い出すターザンに対しても、松岡社長は**「『紙のプロレス』も山本さんはずいぶんかわいがったんでしょ」**と言い出し、ターザンも**「親戚みたいなものですよ」**とズバリ断言。よくわからないが我々はたっぷりかわいがられた親戚であり、ファミリー軍団だったようなのだ。

「僕なんかは今、パッとこうやって女の人を見たら頭がおかしいぐらいに全部好きになっていくね。全部好きになっていくから、去年の八月に好きになった女の人とバーッと行って、バーッと相手が逃げたもの（笑）」

こんなに突っ込み甲斐のある発言をみすみす見逃してしまうのは貴重な資源（ターザン）の無駄遣いでしかないと心からボクは思う。

ボクらが親戚なのかどうかはともかく、少なくともこんな発言を53歳にしてブチかますターザンの異常な素晴らしさだけは本物であり、キャバクラ専門誌『クラブアフター』で暴走を続ける連載ポエムも必見なのだから。

闘い続ける人の心は
ターザン山本　対談 板坂剛vs鈴木邦男
高山文彦
杉作J太郎
大西純
たかがプロレス的人間、されどプロレス的人生
『プロレスファン』編集部・編
対談 夢枕獏vs佐山聡
どうしてあんなに燃えるのだろうか?
これは単なるプロレス本ではない!!
厳しい世情にあって、つらい想いをしている《あなた》に贈るバイブルだ!!

修斗創世記　虎の奥義を目指して

（横山哲雄／福昌堂）

これは第1回シューティングトーナメント優勝者の手による初期修斗の内幕本……なのかと思えば、いきなり作者の喧嘩自慢から物語はスタートし、**「目つきが悪い」「こつい顔」**などと言われため**「美容整形」**したことまで赤裸々にカミングアウトする、横山哲雄なる男の単なる自伝なのであった。

ジュースが出ないだけで佐山がブチ切れて自動販売機を破壊する呑気で佐山らしいエピソードや、修斗オフィシャルブックでも毒舌全開だった田中健一（格闘結社田中塾）が**「教団の武装化を企てていたオウム真理教から武闘派への勧誘」**を受けて**「オウム食ではなく普通食を一日三食。給与も支払うという好待遇に加え、女も自由自在との条件」**で引き抜かれそうになったことなど、気になる男二人の幻想がさらに高まるいい話もあるにはあるが、とにかく書かれているのは横山哲雄という見知らぬ男の生き様ばかりなのである。

つまり、こと試合では敵なしだの、俺は天才だの、スナック（NOT菓子）が大好きだの、AV女優のヌード撮影会に参加したら雑誌に載せられただの、上野のサウナでパンチパーマの中年に股間をまさぐられただの、大塚のスナックで働く女子とスッポンを喰いに行き、腕の関節を極めてホテルに連行しただの、ベッドに押し倒しただのといちいちカミングアウトしていくわけなのだが、この凄まじいまでの勢いもなぜか途中で急停車。

試合では坂本プロデューサーに連敗し、佐山に電話したら選手には告げ口だと思われてバッシングされ、職場（国鉄）でもパソコン仕事への配置転換のためいつしか出社拒否となり、すっかりノイローゼと化すのであった。

頭痛。呼吸困難。心拍数アップ。手の痺れ。不安感。そんな奇病が次々と襲いかかり、**「このまま駅にいったら、ホームで誰かに突き落とされる」**との勝手な妄想まで抱く立派なアルコール依存症になると、いつしかその勢いに乗ったためか精神安定剤&睡眠薬にも依存開始。

こうして職場で何度も不安発作を起こしたり睡眠薬使用過多でどこでも眠りに就いたりするような、どう考えても会社的には厄介極まりない自律神経失調症患者と成り果てるのであった。

さらに、同僚は次々と飛び降りや首吊りで自殺し、同じくパソコン業務のストレスで鬱病となった同僚は、睡眠薬を使っての熟睡中にシーツが足に絡まって血が止まり片足切断……。

こうして不幸のどん底に落ちた彼は**「先輩と友人の死、つらい過去を忘れて新しい世界に挑戦し、病気を克服する」**べく、なぜかホッパーキング（現スーパー・ライダー）に誘われてプロレス入りを図るのだ!

社会人プロレスの（SPWF）マットに衝撃走る!……のかと思えば、

修斗創世記
虎の奥義を目指して
横山哲雄
SHOOTING
福昌堂
本体1,500円+税

なぜか個人練習だけですぐ断念。すっかり夢を失った彼は、**「このまま気が狂っちゃうんじゃないか」**とノイローゼにも拍車がかかり、**「もう、たくさんだ。何度も何度も襲ってくる死の恐怖。そのたびに救急車で運ばれて・・・・・・死のうか」**と入水自殺まで決意するのであった。

最終的には食事療法で治ったからいいだろうが、修斗の過去が知りたくてこの本を読んだ読者には確実に想像を絶する展開ばかりなのである。

まあ、国鉄内部の気に入らない上司たちを次々と実名で告発したり、練習の描写で**「スタッ」**という単語を1ページに100連発させたり、**「バシン!」**を80連発させたり132連発させたりする偏執的な文体もノイローゼ出身者と思えば非常にうなずけるし、それを踏まえた上で読むなら非常に楽しめる一冊だろう。ある意味では必見だ!

プロレス新世紀論　胎動

(三沢光晴×蝶野正洋/アミューズブックス)

さすがにちょっと手軽に作りすぎという気もしないでもない、『週刊プレイボーイ』掲載対談の**「完全ロングバージョン」**を中心としたムック。

いつものように蝶野は**「現実問題としてテレ朝の連中はどうしようもない」**と深夜枠問題や大仁田中心の番組作りを批判したり、**「俺は新日本プロレスという会社自体を信用してないですから」**と会社を批判したり、**「(全日勢が)新日本、というか俺のグループ(笑)に参加したいと言ってくれたらうれしい。そうなれば、今後の新日本の主導権争いも俺に有利になるわけだしね(笑)」**と裏側の部分まで出してみたりするのだが、対する三沢社長もまたいつも以上に自然体。

いきなり**「蝶野選手が俺から吸収したいのは、俺の下ネタの切れ味かな?　抜群に面白いよ、俺の下ネタ話は(笑)」**と口にするなり、いかなる話でもオチだけはほとんど田上ネタか下ネタに持っていくのだから、さすがは三沢だろう。話術でもやっぱり三冠王なのである。

そんな三沢の**「試合を見ればそいつの夜の生活までわかってしまうからね(笑)」**なる猪木のプロレス=SEX論チックな発言に乗せられてか、なんと蝶野までもがここで下ネタ解禁。

「確かにプロレスは夜の生活にたとえられる部分もあったりする(笑)。例えば今日はこっちがガアーッとバックからガンガン攻めても(笑)、次の日はこっちの体調がよくなくて、相手の口だけでイカされちゃうこともある(笑)。プロレスというのは相手を先にイカせながら自分もイカなきゃいけない。また、その反対もある。それができない、自分でマスだけかいてるような奴の試合は救いようがないよ」

これは別にマルティナ夫人との性生活を生々しく語っているわけではないのだろうが、それにしても蝶野。やりすぎなのである。

こうして蝶野すら惑わせた三沢は、**「あと言っておきたいんだけど、サスケは(全日から)『頼まれたから出た』みたいな発言をしてたけど、あれは新崎選手が俺に頼んできたんだよ、『サスケが出たいって言ってるから出してやってくれませんか』って(笑)」**とメジャー団体を股にかけたサスケ発言の真相も、勢いに乗って暴露。

1・4の橋本対小川戦についても、**「正直なところはね、もっと橋本選手が突っかかればいいのにな、とは思ったけどね。俺なら突っかかってた(笑)」**と誰もがうなずけることを男らしく言い切ってみせるから、たまらないのだ。

恐るべし、三沢。おそらくプロレスの枠内で限界までクオリティを高めた試合を続けている三沢も、かつての猪木や前田同様、「何を言っても許される」域に達しつつあるのだと思われる。

「プロレスって一番頭を使って闘う格闘技だと思うんだ。だから俺は、ある意味、ノールールの試合もおもしろいなあ、と思ってたまに見てるけど。おもしろいの意味合いが違うんだけどね。そういう試合を見てて思うんだ。こいつら、闘うのがラクでいいなあ、とね(笑)。ただ相手を倒して本能のままに顔面を殴ってりゃいいんだもんな」

この発言も格闘技好きにはおそらく評判悪いことだろうが、三沢が言うならしょうがない。

プロレスの枠からは出なくても枠内の限界に挑むことで**「プロレスは格闘技の頂点に立たなければならないもんだと思う」**というモットーを証明しようとする三沢の姿勢は、ボクも全面支持する次第なのだから。

新日本プロレス事件簿

(竹内宏介/日本スポーツ出版社)

「俺の名は竹内宏介。スポーツ雑誌〝ゴング〟の記者だ。ことわっておくが実物はもっとハンサムである」(竹内さん協力による『少年画報』連載の30年前のプロレス漫画『けだもの』より)

そんなハンサムガイがまとめた本書には、ボクみたいに無知でボンクラな若造には知る由もない新日波乱の歴史がたっぷりと詰まっている。

たとえば、かつて坂口一派が新日に加わる前に**「猪木が新日プロを発展解消させた上で坂口以下、13人の日プロの選手たちは独立し、双方がドッキングした形で〝新・日本プロレス〟なる新団体を発足させる計画」**なんてものが水面下で進行していたことを、キミは知っているだろうか?

さらに、新日との吸収合併計画に反対して御破算にした張本人・大木金太郎との試合で、**「〝あの時、俺の計画に反対したのに日プロが潰れて行き場がなくなったら知らぬ顔して来るのか〟みたいな気持ち」**から、坂口が**「勝ち負けなんか度外視してガンガンいったよね。イスで殴るにしても思い切り殴った」**ということはどうだろう?

その大木と闘う際、猪木も**「レフェリー・チェックの折りに大木のカリフラワー状の右耳あたりを狙ってパンチを叩き込んだ。そこに痛烈な一撃を加えることで猪木は『こっちもセメントでいくぞ!』を大木に対してアピールした」**というセメント暴走未遂事件は?

世の中まだ知らないことばかり。やっぱりプロレスも新日も奥が深すぎるし、十代でプロレス雑誌の編集長を務めたハンサムガイ・竹内さんの見る目もつくづく鋭すぎるのである。

さらに、いわゆる「UWFは猪木が作った」説の真相らしきものまで、竹内さんは遂に公開。

「(猪木は新日の)クーデター未遂事件によって、すっかり人間不信に陥り、新日プロという会社にも愛想を尽かせていた。そんな時に長年、自分の右腕として仕えてきた新間氏が新団体設立のプランを持ち込んできたのだから、心が動かないわけがなかった。だが、41歳という年齢を考えると、それだけの冒険を犯してまで、もう一勝負するだけの自信もなかった。そうした猪木自身の迷いが……結果的にUWF参加疑惑として残ったのである」

どうやら当時は立場上ゆえか「迷わず行けよ!」というわけにはいかなかったらしい猪木。それも確かにショックだが、個人的には暴露本の鬼・門茂男先生の死亡がここで発覚したのが一番のショックなのであった。

暴露　UWF15年目の予言

(ターザン山本/世界文化社)

かつては長州に「Uはお前だ!」と言われ(ちなみに「U=YOU」という駄洒落説もあり。っていうか、ボクが勝手に提唱しているだけなんだが)、いまは「はっきり言って、前田よりオレの方が強い!」「いまのボクには恐いものがない!　だからボクこそがノー・フィアーなんですよォォ!」などと勝手に吠えまくるミスターUWFことターザンが短期間で一気に書き上げたUWF本。

旧UWF黎明期に選手引き抜きのアドバイスを関係者から求められた際、迷わず「藤原!」と即答したほどUWFの何たるかを理解していたターザンが、誕生から15年の時を経たいまUWFを一体どう結論づけるのか?

そんなボクの期待をあっさり裏切るかのように、ターザンは**「シューティングとK・1は共に非プロレス型UWF」「プロレス型UWFのリングスやパンクラス」「力道山は全身UWF」**などと、かなり強引なレトリックでUWFを語ってしまうのだった。Uは力道山なんだよ!　とばかりに。

そして**「プロレス型UWF」**をやっているUWFの選手たちは**「向上心のなさと志のなさがプロレスラーだとしたら、彼らはプロレスラーそのものだ」**とキッパリ断罪。

これだけでも十分に物騒なのに、懲りることなく明らかに前田が読んだら怒りそうな説ばかりを連発していくわけなのである。

「前田は大仁田厚のことが大嫌いである。しかし、誰が見ても大仁田は立派なレスラー。大仁田をレスラーとして認めなかったらプロレスそのものを否定することとなる」

「前田がプロレスをけなせばけなすほど、プロレスへの愛情から出た言葉と、ファンはそう思い込んだのだ。これほど美しい誤解はない」

「前田、船木、鈴木は佐山になるしかないのに、誰も佐山になろうとしなかった」

これをボクが勝手にまとめてみると、大仁田は立派だが前田はプロレスをわかっちゃいないし、ファンも彼をただ誤解しているだけ。だから前田は佐山になれ、お前は虎になれ(作詞/糸井重里)ということになるのだろう。まったく失礼な話である。

そのくせ本誌18号でターザンが怒っていた、前田を取材しようとしたら「謝罪文を書け」と言われたことについても、**「謝罪さえすれば対談はできたわけである。そのことで前田がいかに人が好いかもわかった。このへんのことは大変に憎めない印象を与える」**と余裕の姿勢までアピール開始。

さらに、前田ファンとして知られる徳島フクタレコード店主の発言により、マザーの偉い人に**「社長だったらどんな形にしろいい車に乗っていなければだめだ」**と言われた神社長が安いボロボロのベンツを買ったら前田に**「お前、ベンツとは何事じゃ?」**と言われたという、まるでサスケ社長のリムジン問題と似たようなことがUWF内部でも勃発していたことや、酔っ払った前田が**「UWFはオレが作ったんや。UWFはオレなんや!」**と絶叫して鈴木みのるをブン殴っていたという力道山チックな過去も次々と発覚するのだ。

結局、前田とターザンの確執は「オレがUWF」という思いのぶつかり合いでもあるのだろう。

まあ、ターザンは前田より強いらしいから、ゴチャゴチャ言わんとどっちが強いかハッキリさせたらええんや!　でしょ?

なにしろ最終章でも、また前田の神経を逆撫でするように『ケーフェイ』制作秘話を収録し、**「私は自分で自分をほめたい衝動にかられる」**と自画自賛した挙げ句に、ターザンは臆面もなくこう断言してみせるわけなのだから。

「『ケーフェイ』にびびっていたらレスラーもファンもどうしようもない。ああいうことを言われたり書かれたりするのがプロレスの宿命である。それが避けて通れないのだから、そうであるならみずからの力と存在感で、それらをねじ伏せてみろ。私の狙いはそこにあった。しかし残念ながら私は佐山同様にずっと誤解され続けている」

要するに前田もファンに誤解されているが、ターザンも誤解されていたというわけなのだろう。

ちなみに本書の女性編集者にターザンは「山本さんみたいになんでも他人のせいにする人、初めてです」とあっさり見抜かれたそうなのだが、そんなことは気にすることもなく**「できることなら今後、私は女性編集者と仕事をしていきたい」**と後書きでスケベ心をアピールするターザン。無茶苦茶だが、そこだけはボクも非常に同感である。

そんな前田的には問題の一冊なのだが、この本について何かを聞かれたところで、きっとターザンはいつものようにこう言い切ることだろう。

「作ってしまって、できてしまったら、これはもうオレの本じゃない!」

ここまで何でも他人のせいにする53歳を、ボクは今後も冷たく見守っていこうと思う。

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　月～土 AM11:00～PM7:00　日祝祭 AM10:00～PM6:00
年中無休

噂のアルシオン トーナメントSKY&タマフカvsラスカチョ 緊急ビデオ化!

'98みちのくプロレスはいかがでしょうか3

サスケの新たな旅立ち 歴史編&インパクト編

各90分 ¥6,930

'98年の激動の歴史編とインパクト編の2本に分けて登場!歴史編では'98年1月仙台のテイオーvs船木のSウェルター戦に始まり、なんと!'99年3月徳島の人生vsアレク戦まで入ってます。全45試合収録。インパクト編では面白レスラー総登場!ザ・マジックマン、トイレの花子さん、リレー少年、SMレボリューション、等々。もちろん、みちプロレスラーオールスターズ、サスケ、人生、浪花、タイガー、ヨネ、SASUKEと名場面がギッシリ!モチロン、各巻にヒール人気大爆発のクレイジーMAXも入ってます。シーマの名調子が聞けますよ!特にインパクト編には他団体の参加選手がたくさん入ってます。ハヤブサ、ライガー、田尻、田中みのる、藤田、望月 等々見てのお楽しみ!!

インパクト編収録内容　タイガー・マスク、愚乱・浪花、G浜田、人生名場面集　覆面ワールドリーグ戦選考会 負けた選手　団体外の参加選手　変な覆面レスラー大集合　ザ・グレート・サスケ(SASUKE)名迷珍場面集　などなど

新日本札幌中島伝説

8/25発売　10,200円

北の聖地、札幌中島体育センターが26年間の歴史に幕を閉じる!新日本プロレスでも札幌中島を舞台に幾多の名勝負、忘れられない名シーンが生まれた!そして、`99年7月20日、21日の2連戦が新日本の最終興行となった。そこで、7/20、21の最新の試合映像を中心に、かって札幌中島で繰り広げられた新日本の激闘とドラマを厳選収録。ビデオ未収録の試合やアノ懐かしのレスラーが甦ってきます。必見&永久保存版です。

収録試合

`99.7/20IWGPヘビー級選手権武藤vs小島、7/21IWGPタッグ選手権後藤&小原vs木村&越中、蝶野&大仁田&AKIRAvs武藤&天山&ヒロ、`78.2/3NWF世界ヘビー級選手権猪木vsシン、`79.2/2NWA北米タッグ選手権坂口&小林vsループ&ヘス、11/1NWF世界ヘビー級選手権猪木vsローデス、`80.2/1WWF&NWA Jr選手権藤波vsスティーブカーン、83.2/3猪木&藤波vsマサ&長州、84.2/3藤波vs長州(藤原テロリスト乱入)、猪木&前田vsホーガン&シャープ、`85.10/4WWF Jr選手権コブラvsフィッシュマン、WWFインタータッグ選手権藤波&木村vsケビン&ケリー、猪木vsブロディ、`86.6/6IWGPリーグ戦前田vs上田

PRIDE6

90分9,970円

`99年7/4横浜アリーナ。高田vsヒクソンを中心に行われてきたプライドシリーズだがこのプライド6からは大きく変わっていく。主役はHOW TOビデオ「凄技」(5,000円)でも話題の桜庭和志!対戦相手は対戦相手中もっとも攻撃的なブラガ。船木を苦しめた打撃が桜庭にブンブン襲いかかる。その攻撃を裁いて何と未だかってギブアップしたことがないブラガを腕ひしぎ逆十字固めでタップさせるというフィニッシュは感動です。もう一人の主役何をするかわからない小川は初のバーリトゥードでグラウンドコントロールの素晴らしさを披露!その強さを証明する。そして、メインでは霊長類最強と言われるマークケアーに高田延彦が挑む。そのアグレッシブなファイトを見てくれ!他にもプロレスファンにお馴染みの前パンクラス王者ガイメッツァー、バトラーツのカールマレンコ、高田道場の松井大二郎がノールールのリングの上がる!勿論、桜庭vsブラガ、小川vsグッドリッチ、高田vsケアーはノーカットです。

収録試合

カールvsイーゲン、松井vsニュートン、ボブチャンチンvsバヘット、黒澤vs角田、小路vsメッツァー、小川vsグッドリッジ、桜庭vsブラガ、高田vsケアー

高阪剛のバーリトゥード必勝法

8/25発売　100分7,140円

収録内容　1.トレーニング～足蹴り、足回転、エビ&逆エビ、腰きり、スピードレスリング、スピードタックル、2.テイクダウン～タックル(両足タックル、片足タックル、打撃へのカウンタータックル、他)、差した状態からの投げ(支え釣り込み足、小内刈り、払い腰、他)、差された状態からの投げ(払い腰、巻き込み)3.グラウンド～TKガード(TKガードでの防御とポジションチェンジ{基本形、パスガードの防ぎ方、他}、TKガードからの攻撃{フロントチョーク、アームロック、腕ひしぎ逆十字固め、前三角絞め、他}、ハーフTKガードからの攻撃{アキレス腱固め、ヒールホールド、他}、マウントポジション(マウントからの攻撃{肩固め、腕ひしぎ逆十字固め、前三角絞め、他}、マウントを奪われた時のポジションチェンジ{TKガードへのチェンジ、TKリバース、他)、サイドポジション(サイドからの攻撃{アームロック、腕ひしぎ逆十字固め、横三角絞め、他}、サイドを奪われた時のポジションチェンジ{TKシザース、防御からのTKガード、逆エビを使ったチェンジ})、インサイドガード(打撃、パスガード)

猪木vsブロディ 激突4.18両国決戦

53分6,200円

`85年4/18両国国技館。全日本の外人トップだったブルーザーブロディが衝撃の新日本電撃移籍!当時のプロレスファンには信じられない出来事だった。猪木vsブロディは全6戦行われたがこの試合は第1戦!初めて激突する緊張感がたまらない。他、ブロディのアメリカの自宅トレーニング風景やこの第1戦の試合前の猪木控室へのブロディ乱入シーン、そして第2戦～第6戦の名場面と結果も収録。あの歴史的一戦をしかと見よ!

WAR7周年記念大会

拳骨七年!天龍源一郎vs大仁田厚

120分6,930円

`99年6/20後楽園ホール。お待たせしました!久々の登場WAR天龍ビデオ!それも、今回はWAR7周年大会という記念すべき大会。WAR出身や縁の選手たちが駆けつけ、大盛り上がりとなった。主役の天龍は何と!1日2試合とタップリ見れちゃいます。その試合メンバーも豪華!1試合目はあのMrバイアグラ、マグナムTOKYOと組んでスモウフジ&荒谷と対戦。勿論マグナムの腰振りダンスも見れますがノリノリ天龍も腰をフリフリ!対戦相手の荒谷の重量空中爆撃やスモウフジの恐れを知らぬド根性にも注目!天龍&マグナムは超オモシロタッグです!2試合目では、天龍は荒谷&中牧と組み、因縁の邪道大仁田と対戦。(パートナーは浅子&奥村)6人入り乱れてのファイトは凄い!天龍の恐さ、大仁田のハチャメチャ、浅子&中牧のやられっぷりと見所多し!天龍の大仁田顔負けのマイクも勿論収録。そして、もう一人忘れてならないのがこの日で引退する安良岡。ライバル、望月と組んで大阪プロレス、デルフィン&星川戦プラス望月との正真正銘ラストマッチの一部始終を収録。最後のインタビューは泣かせます。全試合収録&お馴染み全試合インタビュー有り。どうぞ!天龍節&大仮田節をお楽しみ下さい!最後に天龍からファンへのメッセージもあります。PS. 折原vs石井のトンパチ合戦にも注目!

収録試合

天龍&荒谷&中牧vs大仁田&奥村&浅子、安良岡vs望月、安良岡&望月vsデルフィン&星川、天龍&マグナムvs荒谷&スモウフジ、嵐&大刀光vs大黒坊&矢口、剛vsサンダーウォリアー、北原vsニーハオ、折原vs石井

ガイアジャパン旗揚げ4周年記念大会

長与千種vsライオネス飛鳥

160分8,000円

ついに発売!TV、雑誌でも話題になったクラッシュ対決、長与vs飛鳥が登場!「GAEAマットで飛鳥、アジャ、OZアカデミー、ラスカチョが結託!女子プロ史上最大最強の勢力を誇るフリー同盟SSUがGAEAに対して全面戦争を布告。団体存亡の危機に長与は飛鳥とのシングル決着戦を決意するが飛鳥はこの戦いにGAEAの全権を賭けることを要求!10年振りのクラッシュ対決は団体の命運を賭けた前代未聞の全権闘争へ発展した!」とビデオにもあるように今回のクラッシュ対決は以前のものとは全く違った戦い、正義vs悪、GAEAvsSSUとなってメッチャ面白くなってます。試合以外にもSSUの宴会のようなインタビューも楽しめます。勿論!4/4長与vs飛鳥、里村が初めてアジャからフォールを奪った里村&加藤vs飛鳥&アジャはノーカット。注意!長与vs飛鳥の試合&試合後が終わって真っ黒になってもスイッチを切らないで下さい!何とTV放送禁止になった広田vs飛鳥が入っています!それもノーカット!広田ワールドの恐ろしさを味わって下さい!　PS.中山もイキイキしてます!

CHONO in BLACK 黒の伝説

136分10,200円

またまた出ました超人気蝶野正洋ビデオ。前回がトーク中心で「蝶野イズム」を描いたのに対して、今回は試合を中心に編集!ザロードウォーリアーズ、スティーブオースチン、リックフレアーと今ではなかなか見れないカードも入ってます!

収録試合

蝶野、橋本vs猪木、坂口(90.2.10東京ドーム)　蝶野、武藤vsザ・ロード・ウォリアーズ(90.7.22月寒)　蝶野vs藤波IWGP戦(91.3.31大阪城)　蝶野vs武藤GI優勝戦(91.8.11両国)　蝶野vsリック・ルードG1優勝戦(92.8.12両国)　蝶野vsスティーブ・オースチンNWA戦(92.9.23横浜)　蝶野vsムタIWGP&NWA戦(93.1.4東京ドーム)　蝶野vsパワー・ウォリアーG1優勝戦(94.8.7両国)　蝶野vs馳(94.9.19石川)　蝶野vsムタ(94.9.23横浜)　蝶野、天山vs橋本、平田IWGPタッグ(95.6.12大阪府立)　蝶野vsリック・フレアーG1戦(95.8.11両国)　蝶野vs長州G1優勝戦(96.8.6両国)　蝶野、ナッシュ、ホールvs武藤、スタイナー・ブラザーズ(97.5.3大阪)　蝶野、武藤vs藤波、天龍IWGPタッグ(97.11.2福岡)　蝶野vs越中(98.1.4東京ドーム)　蝶野vs藤波IWGP戦(98.8.8大阪)　蝶野vs武藤・ヒロ斉藤(99.2.5札幌)　蝶野vs大仁田(99.4.10東京ドーム)

全日本`99スーパーパワーシリーズ三冠

三沢vs小橋

160分5,040円

`99年6/11日本武道館。毎回行われる毎に内容がグレードアップする三沢vs小橋の三冠戦。いつも、年間ベストマッチになるから凄い!小橋のオレンジクラッシュ、場外ハーフネルソンスープレックス、三沢のタイガーD`91、タイガーS`85、そして幻のエメラルドフロウジョンと持てる技の全てを出す激戦。他、ハヤブサ&人生vs大森&高山のアジアタッグ、世界タッグの小橋&秋山vsエース&ガン、世界Jrの小川vs志賀、他収録。

猪木vsパワーズ 決着NWF世界戦

45分6,200円

`73年12/10東京都体育館。新日本プロレス時代、猪木の青年期の名勝負と言えばNWF世界ヘビー級選手権試合。その中でも必殺技8の字ロックの死神ジョニーパワーズ戦は忘れられない。この試合は今では見られない60分3本勝負。若々しい猪木の動きや表情を楽しんで下さい。特におすすめは1本目を奪取した時の表情!猪木ファンとっては持っていたい一本です。

アルシオントーナメントSKY

120分6,930円

6/30&7/25後楽園ホール大会。アノ超話題、超満員になったアルシオン7/25後楽園大会が何とこんなに早くビデオで登場!メインは勿論トーナメントSKY!ツインスターオブアルシオン王者、秋野&浜田、ビジュアルクィーン藤田、必殺の目つきが冴え渡るガミメタル、久々の登場女虎戦士タイガードリーム、天才ルチャドーラマリーアパッチェ、天空旋風チャパリータASARI、未知のルチャドーラリンダスターと豪華8人が揃った!勿論、秋野&浜田の華麗な空中殺法も凄いが今回はアルシオン初登場のASARIが藤田、秋野、マリーといったアルシオン精鋭とどんなファイトを見せるかがポイント!他にも業師ガミメタルと秋野との攻防やマリーアパッチェ大爆発にも注目!他にもこの日行われたクィーンオブアルシオン前哨戦吉田&矢樹vsアジャ&大向の激闘も収録。6/30後楽園大会からはアジャコングREPRODUCE7アジャvs府川とクィーンオブアルシオンタイトルマッチ、王者玉田&矢樹vs秋野&浜田を収録。秋野&浜田の喜びの初栄冠をとくとご覧じろ!勿論その後の秋野の一言から始まったまさかの猛武闘賊の電撃参戦の模様もしっかり入ってます。リング上&控室での怒りの府川の表情は鬼気迫るものがあります。そして、7/25第0試合タマフカvsラスカチョの試合もノーカット収録。ビデオでタマフカvsラスカチョの試合が何であったのか確認してください!大向節も必見!

収録試合

アジャvs府川、玉田&矢樹vs秋野&浜田、玉田&府川vs下田&三田、2000vsプリンセサ、タイガーvs浜田、ガミvs秋野、マリーvsリンダ、ASARIvs藤田、浜田vsマリー、秋野vsASARI、吉田&矢樹vsアジャ&大向、ASARIvsマリー

アルシオンARS`99トーナメント

120分¥6,930

'99年5/4後楽園ホール。続々登場!超人気ビデオシリーズ。今回はアルシオン最強トーナメント、アルス`99を完全ノーカットで登場!出場メンバーは前年度優勝者キャンディー奥津、アルシオン王者吉田、AAAW王者アジャコング、アルシオンタッグ王者玉田&矢樹、二上、大向、府川の8人。今回は玉田、大向、府川の3人がアルシオンでの1年間の成長を見せ、勝ち上がれるかが見所。特に大向はトーナメント前からアジャから檄を飛ばされ、試合からも意地と自信が感じられる。一回戦バチバチの打撃戦となった二上戦、準決勝長谷川咲恵伝授の裏投げからのローリングソバットで秒殺した奥津戦、そして難敵関節技の矢樹に新必殺技3Bボムで勝利した決勝とどれも劇的な試合。そして、試合後の表彰式もコーチの長谷川咲恵広報と喜びを分かち合うシーンは涙を誘います。しかし、この日のベストバウトとなったのが一回戦の府川vs吉田。今までもハイレベルな攻防で高い評価をえていた二人だが今回の試合は二人のベストバウトで有り、アルシオンのベストバウトとなった。試合後の涙のインタビューも収録。ARS`99がアルシオン史上ベストのトーナメントです。

収録試合

大向vs矢樹、大向vs奥津、矢樹vs吉田、大向vs二上、アジャvs奥津、玉田vs矢樹、吉田vs府川、浜田&秋野&藤田vsマリー&ファビー&2000

STARLET`99 新世紀の舞姫登場!

120分 ¥6,930

`99年3/16&4/14後楽園ホール。お待たせしました!女子プロレスビデオ人気NO1、アルシオンビデオシリーズ1999年第三弾の登場です。今回はSTARLET`99のシリーズの目玉、三月の福岡アルシオン登場&四月のビジュアルクィーン藤田愛のデビューと二上のクィーンオブアルシオン挑戦と盛り沢山に収録。福岡の試合は二上と組んでのアジャ&奥津の試合の後に何と同期の二上とのシングル戦が急遽実現!二上の1001目の必殺技二上ムーンサルトが炸裂!その後も番外戦で福岡がアジャに必殺ムーンサルトフットスタンプを爆発させたり、グルグルパンチが何と引退した元ライバル長谷川咲恵に炸裂したり、逆に長谷川がチョップや裏投げを披露するなど超感動です。福岡自身も一番楽しかった試合と言った程のいい試合です。他にもカウント2.99999まで王者吉田を追い込んだ大向やメチャクチャルチャの秋野&浜田vsアパッチェ姉妹と見所満点!4月もスーパービジュアルルーキー藤田愛の驚愕のデビュー戦は必見!面白くて楽しくて華麗で可愛い試合です。他にもアルシオンベストオブベストと言われた関節vs関節の府川vs矢樹と吉田vs二上のクィーンオブアルシオンタイトルマッチ。特に吉田vs二上はプロレスの面白さの凝縮したこれこそベストマッチ!女子プロの思い出と未来が入ったビデオです。

収録試合

レジーvs2000　矢樹vs門　浜田&秋野vsマリー&ファビー　玉田vs府川　吉田vs大向　アジャ&奥津vs福岡&二上　福岡vs二上　マリー&ファビーvsアジャ&2000　府川vs矢樹　大向vsアジャ　玉田vsアジャ　奥津&藤田vs浜田&秋野　吉田vs二上

ダイヤモンドダラスペイジ

60分5,040円

未だ見ぬ強豪WCWの名物男ダイヤモンドダラスペイジ!リング屋から成り上がり、アメリカンドリームを体現した男、庶民の英雄DDP!元祖ダイヤモンドカッターを引っ提げ、新風を巻き起こす。今回の対戦相手も豪華!ギンバリー、サベージ戦、ヘニングとのUSタイトル戦、vsレイヴェンvsベノワ、因縁の金網デスマッチレイヴェン戦、DDP&マーロンvsホーガン&ロッドマンnWo代表と全面対決DDP&ジェイレノvsホーガン&ビショップ。

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき¥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

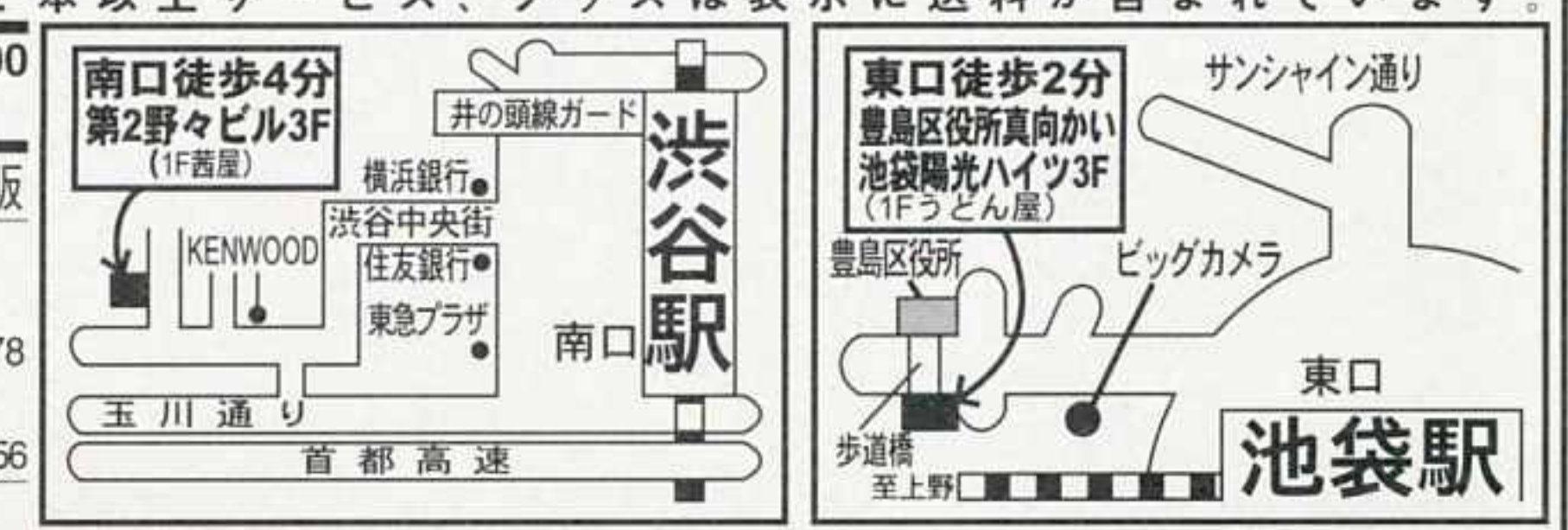
●郵便振込口座番号　00180-8-65236　レッスル通販
通販部　TEL 03-3464-1780
レッスル渋谷店
〒150-0043東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル TEL 03-3464-0078
レッスル池袋店
〒170-0013東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306 TEL 03-3989-0056

南口徒歩4分
第2野々ビル3F
(1F茜屋)
井の頭線ガード
横浜銀行
渋谷中央街
住友銀行
KENWOOD
東急プラザ
渋谷駅
南口
玉川通り
首都高速

東口徒歩2分
豊島区役所真向かい
池袋陽光ハイツ3F
(1Fうどん屋)
サンシャイン通り
豊島区役所
ビッグカメラ
東口
歩道橋
至上野
池袋駅

★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手をお送りください。

●ハミダシ情報……　噂のアルシオン"CAZAI"CD「COLRE ONE」税・送料込¥2,000 発売中!!

多重アリバイ

現在、世界で唯一人のSWS所属レスラー激白!!
「メガネはプロレス界に打って出ます!!」

STRAIGHT AND STRONG
SWS

multiple ALIBI-"S"

第10回 ドン荒川 PART.2

前号の昭和・新日テイスト溢れるインタビューが、読者人気投票で爆発的に大人気！ 勢い、パワー、破壊力、どれを取っても現代マット界屈指の爆弾トークを炸裂させてくれたドン荒川インタビューの後編をお届けします。現在でもただ1人、メガネスーパー・ワールド・スポーツ（SWSの正式名称）所属のドン荒川。田中八郎氏およびその息子さんの素顔まで語れるプロレスラーはこの男を除いて他にはいない!! しかも、今号ではメガネに関するとてつもない衝撃発言まで飛び出した！
マット界に激震が走ることは間違いなし！
SWS再評価&あわよくば復活を提唱する本誌だけでしか有り得ない、超独占スクープインタビューをいますぐ読め！ そして感じろ！

聞き手／吉田豪
Interview by Go Yoshida
撮影／坂井ノブ
Photographs by Nobu Sakai

ケンカしてるレスラーは強いんですよ!! してないヤツは弱い!!

STRAIGHT AND STRONG
SWS

——荒川さんは「前座の力道山」と呼ばれたわけですけど、上の方で試合をやりたいという思いはなかったんですか？

荒川 身長が180センチあったら意地でも上でやったと思うけど……。上の責任ってのはすごいでしょう。お客さんも集めなきゃならないし、入りが少なかったら「俺の力が足りないからだ」となっちゃうわけですよ。だけど前座にはそんなの全く関係ないんだからマイペースでやってりゃいい（笑）。だから私はファンよりスポンサーを大事にしようと考えた（笑）。実際その通りになっちゃって、今日こうして私はあるわけですよ。ワハハハハ!!

——その流れがメガネスーパーにもつながるわけですね。タニマチを掴む方面では誰もかなわないと（笑）。

荒川 私は新日は辞めても、プロレスを辞めるつもりはなかったから。

——そもそも荒川さんがSWSという団体と接点を持つことになるきっかけというのは何だったんですか？

荒川 新横浜に仮道場ができたときにジョージに誘われて遊びに行ったんです。そこでスパーリングやってみたら勝っちゃった（笑）。

——勝っちゃいましたか！

荒川 そしたら、しばらくして誘いがきたんだよ。ホント、みんなによくしてもらったね。天龍（源一郎）さんにも、（ザ・グレート）カブキさんにも、石川（敬士）さんにも……。私が年くってたからかもしんないけど（笑）。でもさ、みんな田中（八郎）社長をもっと大事にしなけりゃいけなかったんですよ。例えばメガネスーパーで催しがあったら選手全員が行って、メガネの1本でも2本でも売らなきゃならなかったんです。普段は暇なんだから。

——確かに荒川さんはメチャクチャ売りそうですもんね（笑）。それで荒川さんはSに入団したのは比較的遅かったわけですけど。

荒川 ええ。私は最後に入団した選手だったんですよ。入ったときにはもう「ああ……」と思ったですよ。

——思いましたか!!

荒川 全日本、新日本、国際からバラバラやってきて練習もバラバラでしょ、まとまるわけがないですよ！ 合同練習すればいいのに。どこの団体だって、練習はやるんだからさ。でも道場行っても、そこでの合同練習すらしないんだから。プロっちゅうのはやっぱり準備体操から一緒にやらなくちゃいけないよ。

——まったく他の道場の人とは練習してなかったんですか？

荒川 全然やってくれないですよ。1回だけ折原（昌夫）選手とだけは練習したかな？

——ああ、そういえば折原選手も言ってましたよ。「荒川さんは、ホントにスパーリングが強い」って。

荒川 いやあ、たまたま折原選手がケガしてたんじゃないですか？ そんな私が強いなんてことはないですよ。

——そうですか？ じゃあ荒川さんから見て、「この人は強かった」っていうレスラーはいますか？

荒川 ケンカしてるレスラーはみんな強いですよ（笑）。名前は言わないけど、ケンカしてないレスラーは弱い！

——どういう基準ですか（笑）。スパーリングといえば、道場で酔っ払ったジョージ高野さんを荒川さんが極めまくったことがあるそうですね。

荒川 向こうも酔っぱらってたからね。どんなに強い人でも酔ってりゃ弱くなってるんだから、そんなの自慢になりゃしないですよ（笑）。

——SWSの道場では、そういった楽しい出来事がしょっちゅうあったんですか？

荒川 新日本でも全日本でもどこでもあるんじゃないですか？ 私なんかも酔っぱらってあんまりにヒドイことしてたから、坂口さんに風呂にブン投げられたことがあるしね。巡業のバスの中でゲロ吐いたりもしてたしね（笑）。

——ダハハハハ！

荒川 「荒川さん、ほどほどにしてくださいよ」って何十回言われたかわかんないよ、ワハハハハ！

——Sではあんまりそういうことはしなかったんですか？

荒川 普段はなかったですけど、忘年会ではすごかったね！ コップがビューッと松坂（大輔・西武ライオンズ）のストレート並みのスピードで飛び交ってね！ ビュ～ン、ビュ～ン、ガチャン!!ってね。ワハハハハ!!

——噂によるとジョージさんがコップを投げてたらしいですね（笑）。それもカブキさんに向けて投げてたっていう。

荒川 そうですね。まあ、あれは楽しいケンカですからね（キッパリ）。

——ダハハハハ、楽しいケンカ!!

荒川 ホントにケンカやったら殺してますよ！ ケンカって言うのは、お通夜になるまでやらないとね。でも、それはヤ●ザのケンカだから。

——SWS時代のジョージさんは「あの頃の俺は酒癖が悪かった」って自分で振り返ってましたよ。

荒川 ジョージに限らず、レスラーはみんな酒癖が悪いですよ、ガハハハ！ まあ、そのコップを投げたときなんか、ジョージなんか暴れてあんまりひどいから、紐で私と弟（高野拳磁）が縛り付けて押し入れに押し込めたのに、紐ブッちぎってまた暴れてさ（笑）。大変なもんですよ。田中社長はあれで懲りたんじゃないの（笑）。

——昔は新日でもそういうことはあ

SWSでも元気一杯だったドン。内部のゴタゴタを目の当たりにしながらも明るさだけは失わない

ったらしいですね。旅館一軒まるごと破壊したっていう事件が（笑）。

荒川　ありましたですね！　それがたまたま私の知り合いで良くしてもらってたところだったんですよ。

――ダハハハハ！　スポンサーだけじゃなく旅館でも顔が利くんですね（笑）。

荒川　当たり前ですよ！　私の地元だもん（笑）。だから、私の地元では誰も泊めてくれないですよ（笑）。旅館に着いたときは、みんな勢揃いで迎えてくれて「今日はいっぱい旅館のある中でウチの旅館を選んでいただいて、本当にありがとうございました」って言われたんですけどねえ。帰るときには誰も見送りに来なくて「どうしてウチの旅館を選んだんですか？」って泣かれちゃって（笑）。「すいません」って謝りましたけど、ワハハハハ！

――謝って済むんですか（笑）。

荒川　旅館を全部ブチ壊しちゃいましたからねえ（笑）。トイレは壊す、布団は全部ダメになるし。蝶野（正洋）なんか飾ってある高価な皿をバ～ンて割っちゃってる。後藤（達俊）は「寛水流ぅぅぅ～、アチョォォォォ」って暴れてたし（笑）。私の酔いもいっぺんにさめましたよ。私が一番最初に酔っぱらって気持ちよかったんだけどさぁ。

multiple ALIBI "5"
STRAIGHT AND STRONG
SWS

――荒川さんの酔いがさめるってのは、すごいことなんでしょうね（笑）。

荒川　そこでまた、前田（日明）と武藤（敬司）が素っ裸で殴り合いを始めちゃうし。それを見てた藤原（喜明）と坂口（征二）さんが「食らわせろ！」って始まっちゃって、もう大変だったんですよ。素っ裸のまま前田と武藤は表の道路で殴り合ってて、そこに運悪くタクシーが通り掛かったの！　それを2人してガチャーンって壊しちゃったんだけど、壊されたタクシーが逃げちゃったよ。

――ダハハハハ！　タクシーを壊しちゃったんですか（笑）！　あのときは猪木さんも泥酔してたらしいですね。「こんな旅館なんて、買っちまえばいいんだ！」とか言っちゃって（笑）。

荒川　最後は藤波（辰爾）選手が被害総額をチェックしてましたねえ（しみじみ）。

――ダハハハハ！　いつでもそういう役割なんですね、藤波さんは。

荒川　あの時は、私が一番冷静だったね。すごかったですよ。あっちに一升ビンがゴロン。こっちにゴロン。九州だから、焼酎の差し入れがすごく多くてねえ……迷惑かけましたね、反省してますよ、アレは（笑）。ヘッヘッへ！

――そういう物騒なムードがリング上でも感じられた試合がＳＷＳでもありましたよね。たとえば北尾（光司）さんの「八百長野郎！」発言で知られる（ジョン・）テンタさんとの試合（91・4・1）では、裏で荒川さんが「やっちゃえ！」って言ってたらしいですね。

荒川　いやぁ、「アンタは横綱、あっちは幕下」って言っただけだよ。そんだけ。そうでしょ？

――ダハハハハハ！　それは確かにその通りですね（笑）。

荒川　私は何もしてませんから。そう言っただけ。ワハハハハ!!

――試合の直前に言ったんですか？

荒川　いや、試合前は控室が違うから話してない。この試合が組まれてから、私はずっと「アンタは横綱で、幕下とは格が全然違うんだから！　それを忘れちゃいけないよ。黙ってりゃ、あんたが一番強いんだから」って言ってたんだよ。

――ダハハハハ、その結果があの不思議な試合に結び付いたんですね。

荒川　私は何もしてませんよ！　止めたんだから！　北尾が控室で暴れた試合後が、もうすごかったんだよ！　試合終わった後なのに長イスがボールみたいに空中をヒューッ！って松坂の速球みたいなスピードで飛んでくるんだから（笑）。

――また松坂ですか（笑）。聞いた話だと、隣にいた船木（誠勝）選手たちの控室まで長椅子が飛んできたらしいですね。

荒川　いやぁ、しかし今考えるともったいねぇよなぁ。

――北尾さんがですか？

荒川　いや、ＳＷＳのすべてがさ。本当にもったいない！　ただ、今でも脈はあるんですよ。でも、もうメガネスーパーは表面には出ないだろうね。

――えっ!?　それは表面に出ないで何かやるってことですか？

荒川　プロレス界が困ったときに裏から応援するでしょう。会長はそういう男気の人だから。

――男気ありそうですもんね（笑）。

荒川　2、3年したら、もしかしたら何かやるんじゃないの？

――そうなんですか!?　それは楽しみですね！

荒川　ええ!!　会長はいまでもプロレス業界が発展することを祈ってますから！

――メガネスーパーのプロレス事業部はまだあるんですか？

荒川　「メガネスーパー・ワールド・スポーツ」はありますよ。陸上部がまだある。所属選手は1人。私だけ。ワハハハハ!!

――荒川さん、陸上部なんですか!?

荒川　マラソンしてんだからね、私は（笑）。バレーの話とかサッカーの話とか、いろんなチームがスポンサー契約の話を持って来たけど、私が「会長、全部断りなさい」って言った（笑）。プロレスの団体でも、やっぱそういうスポンサーになれという話を持ってきますけどね。私一人だけなら絶対もめないですから（笑）。

――確かにそうですね。ではまた試合の話に戻りますが……。

荒川　はいはい。どうぞ、どうぞ。

――アポロ菅原vs鈴木みのる戦っていうのは観ていてどうでした？

荒川　「どうなんのかなぁ」と思って観てましたね。こりゃキレるなってのはわかったから。前に投げたつもりのボールが後ろに飛んでっちゃうようなもんですよ。わかります？

――はあ？　試合にならないってことですか？

荒川　そう。いくら名手でも取れないよ。あの試合で菅原選手は罰金だったんですよ。

――らいしですね。でも、いま観るとあの試合は非常に面白いですよ。

荒川　グレイシー柔術みたいなことやってるからね。ワハハハハ!!　Ｓってのは何でもあったんだよな、今思えば。ひょうきんから柔術からプロレスから全部あった（笑）。すごい団体だよ、これは！

――そりゃすごいですよ（笑）。

荒川　それに「潰れた」んじゃなくて「解散」だからよかったんだよね。俺はＳに参加してる時、新日本から出入り禁止食らってたからさぁ。ワハハハ！　でも橋本（真也）なんかとは酒は飲んでたから、具体的な話なんかなかったけど「オマエがこっちに来るとしたら札束が出るよ！」なんて話をしてたよ。アイツ何かを勘違いしてさ、「5億も出るんですか!?」なんて言うから、「バカ！　そんなに出るならオレも欲しいよ！」なんつってさ。ワハハハハ!!

――破壊王も最高ですねぇ（笑）。荒川さんは誰か選手をＳに呼ぼうなんてことは考えなかったんですか？

荒川　いや、まったくなかったですよ。新日本を辞めて間もない頃ですから……（じつは何かあったようなそぶり）まぁ、それは。ワハハハハ！

――そのへんは言えないことなんで

思いっきり変形した荒川の耳。新日道場の凄味を感じさせてくれる

「マット界をよくするために協力したい」と田中(八郎)社長も言っています

STRAIGHT AND STRONG
SWS

すか？　教えてくださいよ。

荒川　いやいや、ワハハハハ！

——では、Sの問題点というのは何だったと思われますか？

荒川　やっぱり嫉妬!!（キッパリ）たとえ100年たとうと、ヤキモチと嫉妬は直んない！　素晴らしい選手はいたんだもん。天龍（源一郎）、谷津（嘉章）、高野兄弟……俊二（現・拳磁）なんて身長2メートルでドロップキックかますんだから。そんなのいませんよ！　1対1ならみんなすごく仲いいんだから。でも3人集まるとダメなんだ。高崎山のサルだって3匹いたら派閥になるんだから。それ以外に問題はないでしょう。男のヤキモチほどやっかいなものはないよ。後になって後悔したってもう遅い！

——色々な団体から選手が来た以上、しょうがなかったんでしょうかねぇ。

荒川　そうだね。当時はわかんなかったけどね……。もったいないよなぁ。待遇だってみんなよかったんですよ。他団体が羨ましがってたんですから。みんな辞めたくはなかったでしょう。

——ちなみに先日、（将軍ＫＹ）ワカマツさんにインタビューしたら、解散の理由はバブル崩壊だと断言してましたけど。

荒川　バブル崩壊ねぇ……それは関係ないなぁ。あれからメガネはゴルフ場も作ってるんだしさぁ（笑）、そのゴルフ場だって流行ってるし。私に言わせりゃ、ヤキモチ！　嫉妬！　それしかないよ。これは書いてもいいから！

——じゃあ、どうすればうまくいっていたんでしょうか？

荒川　それがわかれば続いてますって（笑）。

——そりゃそうですね（笑）。わかってたらこんなことにはなってなかったでしょうからね。

荒川　ホントに教えてもらいたいよ！　解散の原因のもう一つはねぇ、やっぱりスポンサーを大事にするのを忘れたこと。1に嫉妬、2にスポンサー、バブルは関係ありませんッ!!（キッパリ）

——Sはレーザー光線の演出とか、リング上のことに関しても、とにかくゴージャスでしたよね。

荒川　金かかってましたからね！　ケタ違いの金額がかかりますからね。10年先のことをすべてやっちゃってたんだから！　旗揚げ戦の横浜アリーナ大会の会場にどーんと作った城なんか、田園調布に家が建つ位のカネがかかってるんですからね！　そりゃもう大変な金額ですよ。

——ちなみにSの初期には「真剣試合」というコンセプトがありましたよね。

荒川　いつも真剣ですよ（笑）。

——「プロレスはいつも真剣」と。それを大々的にアピールしたのが、真剣試合だったわけですかね？

荒川　どれが真剣もなにも、常に選手は真剣ですよ！

——ええ。だけど当時ＵＷＦが人気だったから、そういうコンセプトを打ち出したと思うんですよ。

荒川　そうかもしれないですねぇ……。いや、それにしても一体どうなっていくんでしょうねぇ、このマット界は？

——ＵＷＦもバラバラになって、今は元気もないし。Sがうまく行っていればこうはなってなかったんでしょうねぇ。

荒川　そう思いますね（しばし考え込み）まぁでも、これからメガネが選手を引き抜いて団体作るってことはないでしょうね。今の選手は看板背負ってナンボのものでしょうから、橋本、蝶野、武藤が新日から独立して団体作ったって、こりゃ潰れますよ。新日本っていう看板があるから初めて生きるんですから。三沢（光晴）が全日から独立したって同じ。ようするにヤクザと同じ（笑）。代紋なけりゃただの人以下。頑張っても1週間で終りますよ。客が入らなくて金欠病になってくれば、頑張ろうって気もなくなっちゃうんだから、これは。

——Sが分裂したことで、インディー団体が増殖することになったわけですよね？

荒川　だからSはちょっと早かったんですね。今頃出来てればちょうどよかったんだけどね。

——いま頃、マット界を統一してたかもしれませんよね（笑）。

荒川　それもこれも、結局はスポンサーを大事にしなかったからでしょ。

——荒川さんは当時から田中社長と仲が良かったんですか？

荒川　私はゴマも何も擦りませんからね。こういう、いつもの調子でし

やべってるだけですから。

――荒川さんと田中社長の付き合いを批判してた選手もいましたね。

荒川　そりゃいるでしょうね。私は社長にもこんな調子の物言いなんだから。私は社長が奥さんと来たときに、「腕組んで歩きなさいよ！　夫婦なんだから！」って言ったんですよ（笑）。そしたら他の奴に「そんなこと言っちゃダメですよ！」って言われた。社長はニコニコしてたけどね（笑）。私はそういうの平気だからさ。宴会になりゃ下ネタも言うしさ。でも、1ヶ月でクビかなとも思って好きなことやってたんだけど…　…もう10年も田中さんには面倒見られてる（笑）。ワハハハハ!!

――不思議なもんですね（笑）。これはマット界一田中会長を知っている荒川さんにお聞きしますが、最近の田中会長はプロレスに対してはどんな感じなんですか？

荒川　私より詳しいよ！　隅から隅まで知ってます（笑）。どこに団体ができてどこが潰れたとか、全部チェックしてる。極端な話、専門誌の4コママンガまで読んでますから！

――じゃあ、S再評価＆断固支持のこの連載も見てますかね。

荒川　ちゃんと見てるよ！（笑）。もう見てるよ！

multiple ALIBI "S"
STRAIGHT AND STRONG
SWS

――嬉しいですねぇ（笑）。それで田中社長はどういう反応をするんですか？

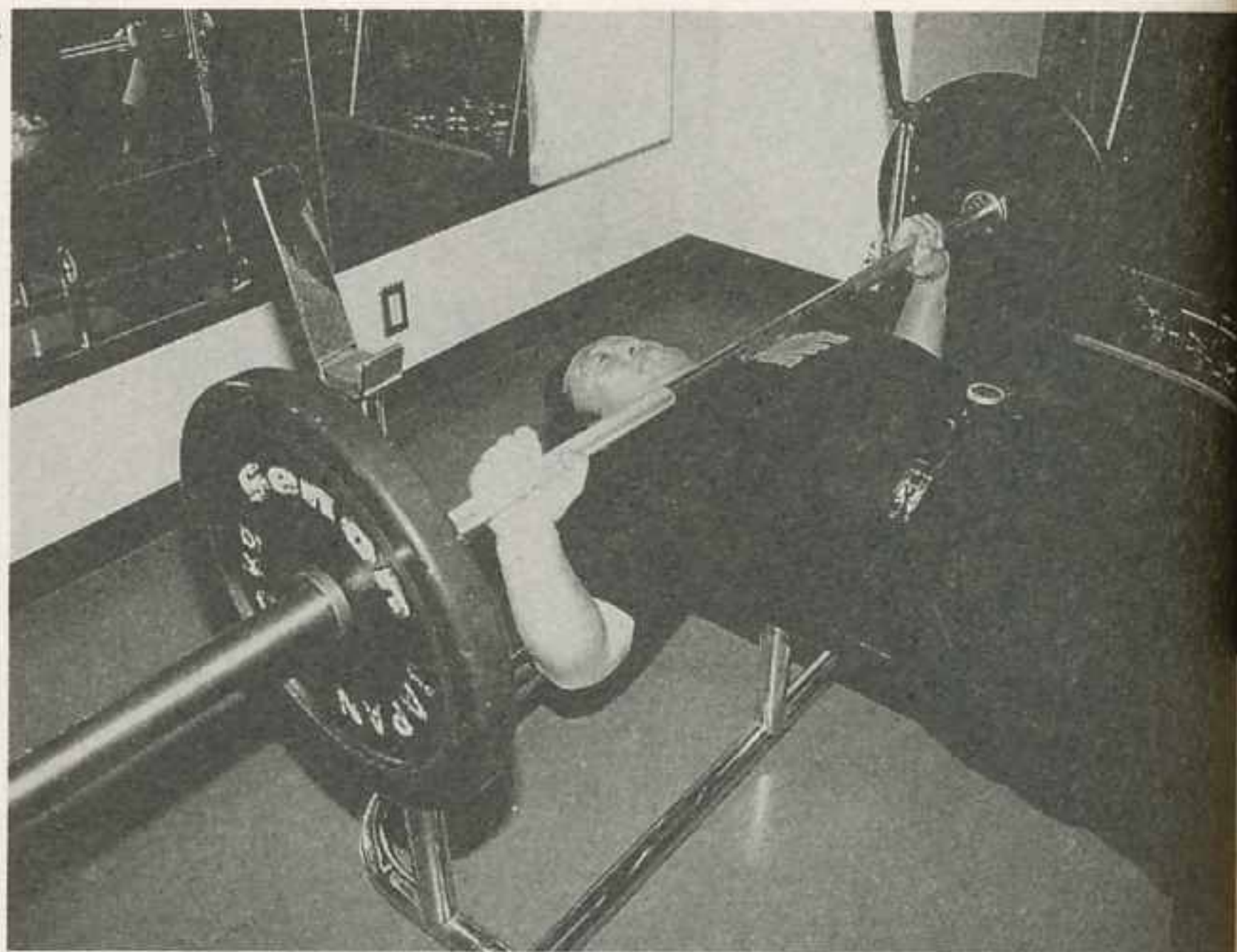
荒川　見てても見たとは絶対言わない人なんだよ（笑）。人のいないところで見てるんでしょうね。プロレスに限らず、政治でもスポーツでもぜ～んぶ知ってる。とにかく詳しいよ。

――人間的にはどういった方なんですか？

荒川　ものすごく面白いね！　ダジャレなんてもんじゃない（笑）。私と2人でいたらダジャレ合戦やってますから（笑）。

――ダジャレ合戦！　それはお金を払ってでも見たいですね！

荒川　みんなをゲラゲラ笑わせてますよ。ああいう人はメガネスーパーの会長っていうより政治家に向いてるな！　ものすごくいいと思うよ。

「力とはカネ」と荒川は言い切ったが、マット界一の力持ちだったSWSは自滅してしまった。難しいものだ

前に私が勧めたら「そんなにアホじゃないよ！」って言われちゃったけどさ（笑）。

――『週プロ』のバッシングのせいで、すっかり悪いイメージの人になっちゃってますよね。

荒川　会ってみたらわかりますよ。みんな引きつけられますから。レスラーは引き抜きましたけど、ワハハハハ！

――そこで韻を踏みますか（笑）。

荒川　だけどワカマツさんに聞いたってそう言うと思いますよ！　一時期ケンカもしたかもしれないけど、ワカマツさんだって仲直りしたいんじゃないかな。とにかく人を引きつける力を持ってます。会社の店長会議なんかでもね、すごいカミナリを落としたりするんだけど、みんなついてきて誰も辞めないんですから。

――Sのことは、いまも何か言ったりするんですか？

荒川　「もうメガネスーパーの看板を出してやることはしない」とハッキリ言ってますね。引き抜きとか団体作るとかそういうことではなしに、マット界を良くするために協力はしたいって言ってます。

――田中会長の息子さんもプロレス好きなんですよね。

荒川　もう大好き！　専務（＝会長の息子さん）は会長よりさらに詳しい（笑）。そっと会場に足を運んでちゃんとチェックしてるんだから。

――海外で蝶野さんたちと会ったっていう噂もありましたよね？

荒川　全日本や新日本の会場にそーっと足を運んでますよ。

――それで去年、業界の噂では「第2次SWSができるのでは？」というのがあったんですよね。

荒川　それはもしやるとしても、全日本、新日本に相談しながらになるでしょう。足を引っ張るということはないと思います。もめごとは大嫌いだから。両団体のタイアップ興行のスポンサーになるとか、そういうことはあるかもしれない。テレビ局との関係を調整するとか。

――そういう意味では、荒川さんは全日本とも新日本とも話ができる人ですよね。

荒川　いやぁ、出来ないですよ。私には残念ながら力がありませんから。力とはカネですから！

――ベンチプレスやる力はあっても、お金はないですか（笑）。

荒川　ただスポンサーをちょこちょこっと引っ張ってくることはできるかもしれないですけどね。もし「東京スポーツ創刊100周年記念興行」みたいなのがあってオールスター戦とかがあったら、まぁ俺は生きてないかもしれないけど（笑）、そのときは田中会長は打って出るんじゃないのかな。バブルも関係ないよ（笑）。メガネスーパーはSをやめてから50店舗増やしてんだから。グングン延びてんだから。蓄えはできてんじゃないの？

――プロレスの赤字がなくなって、そのぶん規模を拡大したわけですね。

荒川　そのときは専務がポイントになるでしょうね。

――その右腕に荒川さんがなるかもしれないと。

荒川　いやいや。右も左もないの、私は真ん中（笑）。

――そうなると、やっぱり荒川さんがキーポイントになってくると思うんですよね。昔から東スポの「プロレス大賞」なんかでも、全日の方に顔出ししてきたわけじゃないですか。

荒川　昔ですね、吉原（功・国際プロレス社長）さんもいた頃ですけど、全日本、新日本がものすごく仲が悪い時期があったんですよ。ケンカになんのかと思うくらい。そのときプロレス大賞で、最後の万歳三唱の音頭とったのは私なんです。写真もありますよ。デカい証拠写真が。猪木さん、馬場さん、吉原さんといて、私が真ん中に立って「イヨ～、ポポン、ポポポン……」ってやってましたね。ホントですよ、これ。私にとって団体の壁はないんです！　馬場さんとも東急ホテルのラウンジでしょっちゅうお茶飲んでたもん。スパイじゃないのかって思われてたみたいですけど、スパイでもなんでもないんだ、私は（笑）。

――顔は広いですからね。

荒川　顔が広いんじゃないの、要するにバカなの！　ホントですよ。ポンッと行くの。例えば企業の社長に「来なさい」って言われるでしょう。1ヶ月たってから行ったって向こうは忘れてるよ。サイクルが早いんだから。今日誘われたら明日行かなきゃ。昨日言ったことを忘れてるってことはないんだから。1ヶ月たてば忘れられちゃいますよ。3日だって危ない。すぐ行動、それが秘訣です

今のプロレスラーは懸垂もできないような、ただのデカいヤツだけ!! プロレスは基礎体力が大事ですよ!

STRAIGHT AND STRONG SWS

よ。そろそろ本筋に戻りましょうか、アナタに言われる前に。ワハハハハ!!

――じゃあ、戻りましょうか。荒川さんも何かＳＷＳとしてプロレス界で大きなことを仕掛けましょうよ!

荒川　仕掛けるとしたら会長と専務ですね。

――ぜひ、専務にもいずれお話は伺ってみたいんですけどね。

荒川　時期をみてご紹介しましょう。こないだもこの本（『紙プロ』）が会社に置いてあったからね。

――うわっ!　よろしくお願いします!

荒川　これから21世紀に向けてプロレスってのはさ、新しい基準を作らなくちゃいけないよね!　柔道やアマレスのチャンピオンは無条件に入れるとか、ベンチプレスで１３０キロ、スクワットで２００キロ（バーベルを）上げられたら入れるとかしてさ、身長基準なんかナシにして本当に強い奴はどんどん入れて。昔の『姿三四郎』なんかはさ、小さいのが大きいのを投げ飛ばすから面白いでしょう?　あの～、なんだっけ、松坂が言っているベンツだかなんだか……。

――リベンジですか（笑）?

荒川　ワハハハハ!!　そう、そういうのができるような感じにしていかなきゃ!　歴史は繰り返すんだから。いまのプロレスラーの若いのは、懸垂もできないようなただデカい奴だけだよ!　風吹いたら倒れるようなのばっかりなんだから（笑）。プロレスは基礎体力が大事ですよ!

――基礎体力がズバ抜けていた荒川さんが言うと重みが違いますねぇ。

荒川　ただ、あくまでも基準が違いますから。ちょっと強いヤツだとプロレスラーは勝てないんじゃないですか?　いまのプロレスラーはおぼっちゃまだから!　プロレスはナメられてますよね。鍛えてきてないからみんなピーチクパーチクなのになっちゃった（笑）。

――昔は極真会館と新日の揉め事なんかにしても、「ナメられちゃいけない」っていう思いがすごく強かったと思うんですよね。

荒川　みんなバカばっかりだから「よし、俺が行く!」「俺が行く!」ってやってたもんだよ。私らはいっつも新聞で小さくしか載せてもらえないから、「クヤシイ、クヤシイッ!」って思ってたからね（笑）。でもどうせ載っても三面記事になっちゃうんだろうなぁとは思ったけどさ（笑）。「１回ならクビになっても戻れるな」「刺さなきゃダメかな」とかあの時は本気で話し合ってたね。ワハハハハ!!

――覚悟が違いますねぇ（笑）。

荒川　結局、格闘家はやっぱ刃物使うんじゃなくて、筋肉見せて勝負しなきゃダメだろうってことにはなったんだけど。やっぱプロレスは体見せてナンボだからね!　ランニング着たり、半そでのシャツ着て、筋肉を見せないと。そんなヒザにボルト埋めてるようなプロレスラーが勝てるわけないでしょ?　蹴られたらおしまいだよ!!　で……何の話だったっけ?

――ダハハハハ!　ムチャクチャな特攻隊みたいな人が今はいなくなっちゃったわけですね。

荒川　それで今度、私はパトラーツ……だったっけ?

――バトラーツですよ（笑）。

荒川　あそこに私は練習しに行ってて、石川（雄規）選手ともそういうこと色々話すんだよ。

――そうなんですか!?　荒川さんは絶対バトラーツに合いますよ!

荒川　いや、私はどこでも合うんだよ。ワハハハハ!!　全日に出たときも、普通はよそから来た選手は「よそ行きの試合をしてる」って言われるのに、私はいつも通りでしたしね。これしかないんだからしょうがないよ。これしかないんだから（笑）。馬場さんも永源（遥）さんも笑っちゃって。私はこんな顔して（と苦しい顔）頑張ってるのにさ。代わってくんないの。２年前に全日でやった６人タッグでさ、試合時間の10分中、私８分も出てたんだよ!（ラッシャー）木村さんにカンチョーしたりしてな。

――すいません、話を戻させてください（笑）。で、荒川さんも道場破りを相手にしたことはあると思うんですけど、そういう輩を相手に刑務所行きかねないようなことをやってたりしたわけですよね。

荒川　巡業中に来る奴にはね。前田なんかは「折っちゃったらいいじゃないですか!」って言ってたけど、17、８の奴にそんなことはできないよ（笑）。

――前田さんも最高ですねぇ（笑）。

荒川　そいつら（プロレス志願者）に「どうして採ってくれないんですか?　荒川さんだって小さいじゃないですか!」とか言われたら「ちょっと力が強かったんだ」って答えてた。「試してくださいよ!」ときたら、大外刈りで一本取ってからガーッと締める（笑）。それでも意思の強い子は必死で耐えてるんだよね。で、「その根性で社会で頑張ったら立派に通じるよ。プロレスラーの中では俺が一番弱いんだから」って言ってやるの（笑）。そしたらみんなショック受けてたよ。ジョージが入門してきた時もなぁ、相撲辞めてきたんだとは知らなかったから、「お前ま

初期藤原組もSWSの傘下に入っていた時期がある。Uの崩壊、インディー乱立など、ここ10年のマット界の動きはすべてSWSが遠因になっていると思って間違いない

〝真剣勝負〟というコンセプトを打ち出していたＵＷＦに対抗するかのごとく、〝真剣試合〟と打ち出したＳＷＳ。今なら何というのだろう?

だ若いんだから、絶対相撲に行った方がいいよ」とか言ったんだよ（笑）。

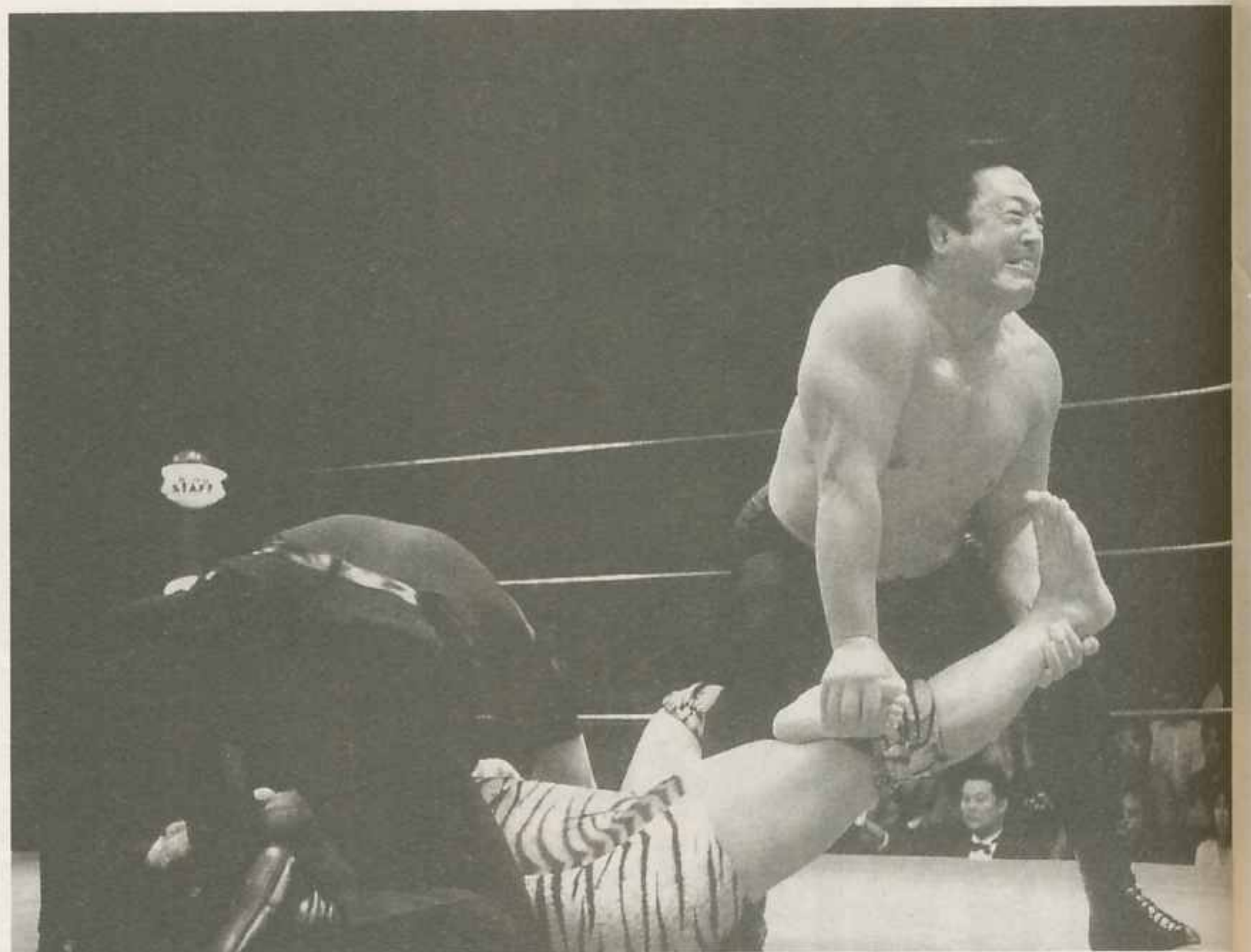
――その頃のジョージさんと相撲取ったりしませんでしたか？

荒川 全然問題なかったよ！

――ダハハハ！ 凄いなぁ（笑）。

荒川 その時ジョージと相撲やってみて、3番取って、3番勝ったよ！ 私がブン投げて勝ったんだよね（笑）。全然問題なかったよね。幕下3枚目だったヤツにも勝ったよ。その後、私がベンチプレスを150キロぐらいのヤツをカシャーン、カシャーンって軽々挙げてるでしょ。ホントにショック受けたみたいで、大変だったよ。そしたら「猪木さんってどれくらい強いんですか」なんて言うからさ、「バカヤロー！ お前なんか触る前にふっ飛んじゃうよ！」って真剣に言ってやった（笑）。そうそう、ジョージなんか最初は60キロのベンチプレスも上げられなかったんだから。

――新日は、まさに「キング・オブ・スポーツ」だったんですね！

荒川 そうだよ！ 教育も良かったもん。「レスラーは絶対にケンカで負けるな」って。藤原と私で渋谷行ったら、胸張って歩いてたもんね。（グラン）浜田なんか、小さいからケンカ売られたみたいだけど、そんなときに身体見せただけで相手はビビッちゃったらしいからね。その後、飲みに行っても裸になったりして（笑）。まあそれは冗談だけど、ワハハハハハ！ あの頃はとにかく面白かったもんねぇ。

――なにしろブームの絶頂期だった極真とも揉めたんですもんね。

荒川 ケンカするほど仲がいいってね。そんなのもっと揉めりゃいいんですよ。橋本と小川にしてもそう！

――そういうことです！ 話は変わるんですけど、高田（延彦）さんがヒクソン（・グレイシー）に2回負けたことについても感想を聞かせてほしいんですが。

荒川 あぁ、あれも勝つまでやりゃあいいんですよ！ 向こうは横綱、高田はまだ幕内なんだから（笑）。でも、立派ですよ。やり続けてればいつかは勝てるんだからさ。

――また対戦ができるように、自分を上げていけばいいわけですね？

荒川 そう。でも、一生懸命頑張ってる高田に水を差すわけじゃないけど、3回目はやってもきっと負けるだろうね。だけど、4回目は勝てるかも知れないよ。

――問題なのは4回目まで相手が受けてくれるかどうかなんですけどね。

荒川 差を縮めるのはなかなか難しいんだ。高田はキックで勝負したってダメだよ。やっぱグラウンドで勝負できないと。高田はタックルを覚えるといいね。私はキックよりタックルの方がいいと思う。アマレスの選手みたいにね。あれを持ったら首から落とせるんだから、な？ 谷津（嘉章）なんかすごいんだよね。首から落とせる。高田は毎日1000本タックルやればいいんだ。猪木さんと（モハメド・）アリがやったとき、猪木さんはタックルできなかったでしょう？ もし猪木さんがタックル上手かったら、あれは簡単に決まったよ。ボクシングなんか怖くないよ！ ピューッと入っちゃえばボクサーは何も出来ませんよ。

――そういえば荒川さんはアマレスもやってらしたんですよね。

荒川 私は中途半端！ 身長体重も中途半端！（笑）口は超シングル、腕は超三流（笑）。娘が「お父さん、こんな本に出てたよ」って持ってきたんですよ。『B級レスラーってこんなヤツ大全集』（by大沼孝次）っていうのを。

――うわ～っ！ あんなクズ本のことまでチェックしてたんですか（笑）。

荒川 「そうか、C級、D級じゃないのか？」って喜んじゃいましたね（笑）。自分ではC級だと思ってましたから、ワハハハハ！

――ところで、もし猪木さんに「やれ！」って言われたら、ヒクソン相手でも異種格闘技戦はやってましたか？

荒川 口でこういうこと言っちゃってたら、もう取り返しがつかないからやるよ！ キンタマ食いちぎるよ（笑）。下に潜ったらもう何するか（掴むアクション）わからんよ。グフフフフ（笑）

――ダハハハハ!! 怖いですねえ。でも道場ではそんなヤバい闘いもやってたんですよね。

荒川 たまにね、ウヘヘヘ。だけどスポーツってのは楽しさが基本なんだよ。本気だったら私も殺っちゃうよ！ でも、そんなことやってたら誰も見に来なくなるよ。

――リング上ではプロとして楽しい試合をやる、ということですね。けど最近のプロレスは裏にそういうものもなく、楽しいだけになっちゃってますよね。裏の説得力がないですよね。

荒川 最近、見てないんですよ（笑）。でも、急所打ちがなくなったな。

――へ？ どういうことですか？

荒川 橋本だって、小川の急所を蹴ってやりゃ良かったんだよ。サッカーボール・キックをいれるところを間違えてんだよ！

――蹴るならしっかり玉を蹴れ、と（笑）。ところで、佐山さんが今度新しい武道を初めたんですが、ご存知ですか？

荒川 はぁ、そうなんですか？ ブドウ？ あのおいしい食べるやつ？

――違いますよ、荒川さん！ ジャンボ鶴田じゃないんですから（笑）。

荒川 違うの？ 山梨とかにあるあれかと思ったよ（笑）。何でもどんどんやればいいんですよ！ 彼はそういうの好きなんだから。飽きたらまた次のやつをってね、徹底的に満足するまでね。彼はそういう性格なんだから。もう一生直らないんだから、とことんやった方がいいんだって。それはどこでやんの？

――北海道ですね。

荒川 遠いなぁ。ワハハハ！ てっ

multiple ALIBI "S"
STRAIGHT AND STRONG
SWS

今年6月のミスター空中追悼興行で、ひさびさに試合をしたドン荒川。教え子でもあるツボ原人を相手に懐かしの市役所固めで勝利!! 見事なまでに元気な荒川さんであった

（SWSの新プロジェクトには）日本を動かすような人物が動いてくれてますから!!

きり山梨でやるのかと思ってた（笑）。

——最初はワカマツさんと組んでやるって噂だったんですけど、ワカマツさんも市議会議員になっちゃって忙しいから出来なくなっちゃったみたいですね。

荒川　面白い組み合わせだねぇ。佐山さんは猪木さんの（ＵＦＯ）は完全に辞めたわけ？

——ですね、一応、たまに連絡はしてるみたいですが。

荒川　あっそう、どっか繋がってるね！　じゃあまた揉めるな（笑）。

——最近は、小川vs山本宜久戦が浮上してきて、猪木さんと前田さんも繋がったみたいですね。

荒川　この世界はね、信じられないことが起こるから私はもう驚かないね。私は新間さんと猪木さんだってまた繋がるんじゃないかと思ってるよ、極端なこと言えば（笑）。

——不思議な関係ですよね！

荒川　プロレスラーはみんな仲いいもん、ワハハハハ!!

——どこでも2人で会うなら何とかなると（笑）。新間さんとはお会いしてるんですか？

荒川　全然会ってないですね。新日のときが最後かな？　あの人とはいろんな思い出がありますよ。あの人は、マスコミにしゃべっちゃいけないことまでしゃべってるからね。

——でも、ホントに何でも繋がりそうな気はしますよね。

荒川　そうだよ！　猪木さんと坂口さんだってそうさ。レスラーってのは心が太いなァ！　大きいよ！　みんなレスラーなら戦争なんて起きないよ！　起きてもすぐ仲直りだ！（笑）。猪木さんと倍賞（美津子）さんが離婚したのは、いまでも信じられないけどね。まあ、倍賞さんはレスラーじゃないか、ワハハハハ！

——北沢（幹之）さんも、「ショックで3日ぐらい食事がノドを通らなかった」っておっしゃってましたからね。

荒川　そうでしょ？　いまでも猪木さんは倍賞さんのことが好きなんじゃないのかな？

——ボクもそう思います。ホントにいい夫婦でしたもんね。

荒川　私は、（娘の）寛子ちゃんが倍賞さんのお腹にいるときに、猪木さんと3人で海に泳ぎに行ったことがあるんですよ。あの夫婦は裏も表もなくて、良かったですよ。だから離婚した理由がわからないなあ。今度、猪木さんに聞いてみようかな。また、一緒になるんじゃないかと思ってるんですよ。猪木さんに言ったら「お前もそう思うだろ？」とか言われちゃったりしてね、ワハハハハ！

どん・あらかわ■本名・荒川真。昭和20年3月6日、鹿児島県出水市出身。昭和47年9月19日、新潟市体育館でvsリトル（現・グラン）浜田戦でデビュー。ケンカの強さと怒涛のようなしゃべりは天下一品。ガチガチのストロング・スタイルで昭和・新日の前座戦線に君臨。藤原喜明がカール・ゴッチの教えを記したノートを盗み見したりしながら心と体を鍛え上げた。黒のロングタイツ姿から“前座の力道山”の異名を取る。新日を円満退社して、ＳＷＳに移籍。Ｓ崩壊後もただ1人、メガネスーパー（陸上部）に残り、田中社長とメガネをかけた人、お世話になる人には感謝の気持ちを忘れない。巨人軍の長嶋監督や各界の社長とも仲良しで、マット界NO.1の顔が広い男。170センチ、97キロ。

STRAIGHT AND STRONG
SWS

——借金が増えていくにつれてギクシャクしていったみたいですけどね。

荒川　そうでしょうね。取り立てが毎日来たら……スケールの大きい督促状みたいなもんだね。ワハハハ！

——そういう人たちの相手も荒川さんがなさってたんですか？

荒川　そういうのはしないですよ。全然知らないです。

——でも、会場まで取り立てに来ちゃうんですよね？

荒川　猪木さんもしゃべらないでしょ（笑）。

——アントン・ハイセルの頃は新日本でクーデターが起こったりしましたよね。そのときの荒川さんは、どんな心境だったんですか？

荒川　嫌だなと思いましたね。だけど、親分が困ってるときは、嫌でも無条件で力になるのが子分の務めってもんですよ。知らん顔はできないでしょ？

——そういう思いがあったから、揉めたときには新日本に残り、落ち着いてから新日本を出たわけですね？

荒川　そうそうそう。だから私は引退試合じゃなくて退社試合ということだったよね。藤原が泣いてましたからね。でも、私はその頃から「力を付けなきゃいけないな」と思ってるんですよ。お世話になった方に対して、感謝の気持ちでいっぱいなんです。こうして恵まれた環境にいられるのも、いろんな方々のお陰ですから。いますぐには難しいから、あと2、3年したら少しずつですけど動きだそうと思ってるんですよ。いくら努力してもダメなときはダメ！そんなに努力をしなくても、いいときはいいからね。でも、絶えず努力はしなきゃいけない。

——ダハハハ!!　物騒な世の中ですけどね。荒川さんは今後どういったことをされていきたいんですか？

荒川　とにかくお世話になった方達に恩返しをしたいなってずっと思ってるんですよ。やっとそれの芽が出てきたんですよね。今、田中会長含め、人脈がやっとまとまりつつあるんですよ。それが楽しくてしょうがない。口だけじゃなく、結果をだしていかないといけないですね。口だけで言ってるのが一番楽しいんだけどね（笑）。ハッタリ言う奴はいっぱいいるから、やっぱ実現してかなきゃいけないですよ。日本を動かすような人物も動いてくれてるんだから（笑）。私はその中をちょこちょこと動いてね（笑）。

——楽しみですねー。期待してますよ！　Sの二の舞だけにはならないでください。

荒川　それは一番ダメでしょ（笑）。私にはもう結果が解ってるんだから！私の同級生とかが、九州で町長になったり、町会議員になったりしてますからねえ。いろんなものが一気に動き出しますよ！

——いや〜、今日はいい話がいろろ聞けて良かったですよ。ありがとうございました。

荒川　どうもどうも、こちらこそ。そうだ、今日しゃべったことを坂口さんにも電話しなきゃな。（モノマネで）「変なことしゃべんなかっただろうなぁ〜？」って言われるだろうな。ワハハハハ！

【99年6月3日　東京・厚生年金スポーツセンターにて収録】

9・12『PRIDE・7』でアレクと激突する髙田が、新日本ドタキャン騒動に反撃!!

ヒール・髙田延彦 爆炎記者会見!!

高田が動けば何かが動く！

ほぼ完全実況！

「格闘技専門雑誌と謳っている人、出ていってもらえますか！」

「とてもメジャー団体の窓口になる人がやることじゃない」

東京スポーツ
健介戦ドタキャン
独占 直撃 高田

健介戦キャンセルではない交渉決裂だ

高田逆ギレ
新日が裏切った

虎のガウン着るはずだった…

「キャンセルではなく交渉決裂だ」と語った高田は、健介戦のために用意したトラの描かれたガウンを手に見つめる

選手交流など当初と内容違い…

7月4日、横浜アリーナで高田延彦は霊長類最強の男マーク・ケアーに完敗を喫した。この一戦の後、高田周辺では、バーリ・トゥード（以下VT）路線に一区切りをつけてプロレスのリングに登場するのではないか？　という噂がまことしやかに流れていた。

そして、一度は消えたかと思われていた高田の神宮参戦発表された。相手は、佐々木健介である。だが、その2週間後。

「高田はこの業界で生きていけない！」

あの温厚で知られる、藤波辰爾新社長が怒りをこめて吐き捨てた。

8月19日、9日後に迫った神宮大会での高田vs健介の一戦が突然、白紙になってしまった。

新日本は23日に記者会見を開いて、高田vs健介戦の中止を発表すると同時に、高田を徹底的に批判した。特に高田との交渉役だった永島勝司取締役が「これは営業妨害に値する。法的な問題にもなりかねない」と言い出すなど、とにかく物騒な展開となった。

『東スポ』までもが〝理由なきドタキャン〟の高田をヒール扱いしていた。しかも、プロレスネタとしは最近珍しく1面を割いて、この問題を大々的にとりあげているのだ。

果たして新日と高田に何があったのか？

それにしても、新日本という日本マット界最大の組織を蹴ってしまえるのは高田ぐらいのものである。

新日本の会見の翌日に行われた『PRIDE．7』のカード発表記者会見の席上ではまず高田vsアレクサンダー大塚戦が発表された。

プロレスラー同士による初のVTである。また、新たなる闘いに挑もうとする高田の柔軟な姿勢には驚かされるばかりである。

しかし、話題が新日本参戦問題へと移っていくと、今度は強硬な高田延彦が姿を現した!!

まずは、いままで高田に関しては理不尽な記事ばかり作ってきた某格闘技マスコミを追い出すと、返す刀で永島勝司取締役を徹底的にコキおろした！

とにかく、ここに来て急に高田の意志と意地がムキだしになってきた！　UWFインターの頃、観客に向かって「うるさいな、オマエら！」と叫んだ、あのヒールな高田延彦が帰ってきたようだ！　そんな高田が見たくないか？　もちろん、本誌は見たい！

そしてこの日、高田は衝撃的に面白い記者会見をやらかしてくれた。その模様を余すところなくほぼ完全再現する！

キミはそれでも高田に乗れんのかーッ!?

それとも降りんのかーッ!?

●

エーッ、今回アレク選手と対戦することが決まった経緯は別にして、今後VTをやっていく上でマーク・ケアー選手との試合の後に、もう力試しはいいと。VTを極めて、VTで上を目指す気持ちはサラサラない。

エー、あくまでも、グレイシーのトップ2人とのチャンスをもらえるならば、VTをやる意味を見い出せると思い、切り替えるというよりも当初の基本姿勢に戻したという中で、おそらく今回と、もしかして次の『PRIDE』にも出るつもりはなかったですけれど、エー、いくつかオファーもらいまして、その中には（ブランコ・）シカティック選手や（イゴール・）ボブチャンチン選手、あるいはアレク選手の名前がラインナップされておりました。

自分の中では、さっぱりシカティック選手やボブチャンチン選手とやる意味が見い出せなくて、今回も見えない目標に向かってアメリカにでも行って琢磨しようかという思いでいたんですけれども、いろいろアレク選手との闘いをチョイスした場合、テーマとか意味合い、意義付けを考えた時に、ひらめきですけども〝面白いんじゃないかな〟という発想がピーンと自分の中に思い描きまして。エー、やはり自分の頭の中に、常にバトラーツという小さな団体ですけれども、非常に元気が良くて、前向きなパワーもある団体ということがイメージとしてあって。その中でアレク選手が、まぁ僕が直前までコーチしてもらった、「ヒクソン（・グレイシー）も逃げるんではないか」と言われていたマルコ・ファスを破ったり、この前もカール（・マレンコ）選手がイーゲン（井上）選手に勝利を収めたり。非常にプロレスを愛し、そして冒険心も持っているというイメージがあります。

エー、なにか感覚的なものなんですけど、万が一、自分がアレクに一本取られても、この男だったらおそらくプロレスのこと、あるいは『PRIDE』のことに関しても、綺麗に流れを引いてくれるんではないかと。リスクある闘いではあるけれども、そういう意味での気持ちの中での整理というか、ひらめきというのが感じられたので、バックボーンの中では、自分がやりたいなとか、面白そうだなっていうのが大きく出てきたので、今回は気持ちよく9月の試合、アレク戦に出場を決意しました。

やる以上は、もちろん勝ちにいきます！　まぁ当日まで、1人でも多くのファンの人が期待感を持つような、自分作りを、エー、状況作りをしていきたいなと思います。

〈※この後、アレクの高田戦に関する短いコメントがあり＝P29参照、記者陣からの質疑応答に移る〉

——えっと、『紙のプロレス』の中村と申します。高田さんにお聞きしたいんですけれども、先ほどですね、アレクさんとの闘いで「引き継いでもいいんではないか」みたいな発言をされましたよね。えっと、それはもしアレクさんに負けた場合、引退とかそういうものまで考えてるということは……。

高田　（すかさず）そういう問題ではないです！（キッパリ）。やはり日本人の選手であるのと、外人の選手とやるのと次元が違うんだよ、と。そういう意味での僕の感覚です。だから負けたら引退するというのでは、まったく100％ないです。その気持ちを継承という意味で（言っただけ）。

——ただですね、もし負けた場合ですね、ホイスさんとの闘いが見えにくくなってきますよね。

高田　それでもやらしてくれるんだったら、僕のテーマなんでね。興行にならなかったらやらしてくれないだろうし。エー、（あくまでも個人的な）僕のテーマです。見える見えないは客観的な部分であって、あとはドリーム（・ステージ・エンターテイメント）さんの判断です。そのカードに集客する価値がないかということは、興行の方の判断ですから。あとはおまかせします！

——（突如〝『紙プロ』の中村さん〟は方向を変える）アレクさん！　フィニッシュホールドは考えておられますか？

アレク　フィニッシュホールドまでは考えてはいないんですけども、いままでプロレスラーとしてやってきたこと、しかも対戦相手は高田選手ですから。そういう部分では自分の得意技をフィニッシュホールドにして勝ちたいですけれども、ん〜、まぁ、しいて1つだけでも成功させたいものは……首投げです。（会見場は意味不明のアレクの言葉にシーンと静まり返る）。

〈ここで話題は、高田延彦の新日参戦問題に移る。高田も前日に行われた新日本プロレスの記者会見の模様は把握しており、反論もバッチリするつもりだったのだろう。冒頭でも書いていたとおり、永島取締役の「営業妨害」発言や、藤波の「もう高田はこの業界では生きていけない」発言に対しては高田も腹にすえかねているようだ〉

高田　格闘技専門雑誌と謳ってる人、出ていってもらえますか！　ここはプロレスの世界なんで。お願いします。ただちに出ていってください！　話すことないです。

〈勘違いして『G格闘技』の前編集長が出ていってしまう。高田本人は後日、「『G格闘技』のことはなんとも思ってなかったのに。申し訳ないことしたね」と語っていた〉

高田　（しばらくして）まだ出ていってないんじゃないですか？　全部。話すことないんで。プロレスが好きな人だけ、愛して

この日の高田は終始晴れやかな表情で口も滑らか、笑顔も多く飛び出した

高田も認めたアレクの大活躍。初のプロレスラー同士のVT対決となる

いる人はいてください。

〈『K通』のA記者がブスッとした表情で出ていく〉

高田　もういませんか？　いませんね。（デイリースポーツの）宮本さんは好きですね、ハイ（笑）。

エー、自分は、最初このお話（新日参戦）をvs橋本戦で頂きました。それは、〝某駅売りの週刊新聞〟にスッパ抜かれまして、私自身トーンが下がってしまいまして、「今回この件に関しては白紙にして下さい」という形で綺麗に白紙になりました。それからまた7月の終わり位に話が来まして、今度は「健介とやってもらえないか？」と。

自分自身、高田延彦というのは個人では、動けません。通常スポーツ選手は誰でもそうだと思うんですけど、僕は年に3回1年契約で『PRIDE.』のリングに出ることを選手として契約をしております。

他団体のリングに上がる場合はドリームさんの許可が必要です。自分1人の意向では動けません。にも関わらず今回は気持ちよくドリームさんの方からも『いい話じゃないか』と交渉の窓口も私と20年以上の付き合いのある永島さんとの間で始まった話なので任せてくれました。ただし、その裏側には自分がのこのこ出ていく以上はこちらにもプロレス界をあるいは、格闘技界を活性化する意味で、「是非新日本さんの選手も『PRIDE.』に」と、念頭においてテーブルにつきました。そこから先は、書面にも書くことなく、契約も交わすことなく、口頭でのキャッチボールで先週の木曜日近辺までは、ずーっと時は流れてました。その中にはどんな社会にもいくつかの約束ごとがありますよね。その約束事が、自分と永島さんの長年の付き合いで、なぁなぁというかある意味、信頼関係があったからこそ、ここまで話ができあがったということです。紙を使わずに書面を使わずに口頭で信頼関係の元にやってきたんですけれどもそれがやはり、自分の中で我慢が出来ない。話がコロコロ変わる。わかりやすく言えば、我慢の限界。このままズルズルいくと（大変なことになる）。

新日本という国があるとします。高田道場と言う国があるとします。その間に国境線があります。通常お互いに国境線をまたがないように、犯さないように、どっちにも引っ張りこまれないように、あるいは引っ張りすぎないように、交渉するのが、大人の社会の話し合いです。ふと気が付くと私は、国境を越えてしまって、新日本王国の中に引きずりこまれて話が進んでいました。それはアカンと俺は、（ここで記者の携帯が鳴る）携帯鳴ってるよ。ここ大事なところ！　俺は個人じゃないんだ。

ドリームの森下社長を信頼関係のもとに、「よし、高田さんまかせた。面白くなりそうだし、いい話だし」という形で頂いたものがドリームさんに対して顔向けができない話の変化がいくつか（あった）。それは個人で生きてるならば自分の中で押しつぶしてその部分を殺して自分で我慢すれば済むことです。ですけれど高田道場があり、仲間がいて会員がいて、ドリームの『PRIDE』にまた帰らなければいけない。そして出る以上は、フィフティフィフティでやらなければいけない。それは、中断せざるをえないなと。交渉決裂だなと。こういうふうに判断しました。

僕の中では決してキャンセルだなんて、まったく思ってないです。いまからでもテーブルに着く準備はあります。あくまでも交渉決裂と交渉中断ということです。

当初、今回の神宮と10月の東京ドーム2試合を向こうからオファーされてました。神宮に出るということはドームにも出るということになります。その中で、紙の無い信頼関係を綱渡りで渡っていきながら流されたまんま、僕にも僕なりにファンがいるし支持してくれる人がいます。そういう人をしょいながら、『PRIDE.』もしょいながら、ポッと納得しない状態でリングに上がって我慢をしょったままリングに上がって果たして10月の東京ドームまでの約束がちゃんと守ってもらえるのか。という不安が大きく疑問を襲いました。

どんな世界でもやはり信頼関係が全てだと思います。その上で業界のリーダーである、僕はこの前あえて『プロレス界の唯一のメジャー団体』と表現いたしました。にも関わらずこのような対応を、フィフティフィフティどころか10対90位ぐらいの対応を押しつけてきてですね。プラスアルファ契約を交わしてないのにも関わらずカードを発表して。それは、何故かというと信頼関係があったからだ、というところに戻ります。色んな意味でこの対応に関して、私のことをとやかく言うのであればもう少し業界をリードするメジャー団体としてのやり方？　正当な方法？　そういうものをキチンと整理して交渉を進めてもらいたいなと思います。

やはり、永島さんにしてみても会社にする報告としては、なんにも（かなり力強い）理由が分からないと、いきなりドタキャンしてきやがった。という報告しかできないなと僕は推測します。ポジション上だから、それを藤波さんが会社の人の意見ですからとまっすぐに受けとめられてお怒りになったことだと、思いますが自分としても、もしもう1回テーブルにつくお気持ちが双方にあるならば是非、今回の交渉では藤波さんに1回もお会いしてませんが、藤波さんとまた1からお話し合いできることであればいつでも私は、テーブルにつく準備をしておりますのでその気持ちは、変わらず今後も持ち続けようという思いでいます。

とにかく自分としてはですね、非常に佐々木健介との試合を楽しみにしてました。やっぱり、またプロレスの試合を久々にやるということにおいて絶好の相手だし力いっぱいぶつかりあえる最高の相手だと思っていたし、ガウンも新調して今日できあがってきたんですけど、ホントに色んな意味で自分が橋渡しになってですね。ドリームのリングに新日本プロレスの選手があがるとかあるいは、高田道場の選手あるいは、ドリームに出てる選手が新日本のリングにあがるとか。色んな意味でその先、先を見てですね。交渉してきたつもりでしたがこういう結果になったことは残念です。ただ一言、今日の言っておきたいことは、このカードを期待してチケットを買って下さったファンの人達。今日も高田道場にたくさんの確認の電話が来ました。頭を下げて申し上げありませんでした。という気持ちは持ち続けたい。今日謝れば済むという問題ではないので持ち続けたいと言う風に思っています。ちなみに余談ですけれども月曜日の昨日の記者会見のことについて遺憾な部分が1つあります。それは、うちのスーパーバイザーである坂口が最終的に出ないという交渉をした時に、「わかった。月曜日に記者会見をするからそれまでは出ないことを伏せといてくれ」ということをいわれまして分かりましたと。これは、先方も紳士的にある意味痛み分けじゃないですけど処理を会見で発言して下さるのかと信じておりましたところ、先手必勝じゃないですけれども寝首をかかれたような感じで非常に遺憾です。そういうふうに関しては、これもまた大きな団体がすることではないな、遺憾に思っています。ファンのことをホントに考えているならば事態が起きたことの処理として一刻も早くリリースでもいいですし、このカードが無くなりました。と言う通告、お知らせをするのが筋だろうと思っています。ただこの件に関して1番のダメージを受けたのはファンだと思っています。ファンの皆様には本当に心から申し訳ないと思います。このパワーは必ずプライド7でアレキ？　アレク？　アレクサンダー大塚にですね、ぶつけてですね、さっき『紙プロ』の中村さんが言ってましたように気持ちよく！　ホイスと試合が出来るように頑張って行きたいと思います。なんか今日1日で一気にヒールになった気持ちですけど。「ただ朝起きて虫の居所が悪いから辞めた」なんてようなことは決してありません。僕もこの世界で20年間生きてます。このことがどれだけ大変なことかは自分も勇気がいりました。こういうことが2度とないようにですね良い学習をしたと思って、この気持ちを次の試合でぶつけたいと思います。そして並びに佐々木健介選手には、選手レベルでは非常に残念です。これに関わらずになんとか近い将来シングルで試合が出来ることをお互いに夢見て望みを持ってこれからまた琢磨していこうという気持ちでいっぱいです。自分からは、まだまだ言い足りないとこがあるかもしれないです。けれどそれはまた折々厳しい質問がくると思うのでそれにお答えしたいと思います。とりあえずこれでしめさせて頂きたいと思います。

――8月9日の段階で新日本が正式に健介戦を発表したのですが、その時の高田さんのコメントも前向きに捉えていたのですが、その時の合意の内容というのはまだ境界線を踏み越えていなかったということですね。

高田　踏み越えつつあった。ちなみにいくつかあるお願いはされたことはありますけれど、こちらからお願いしたことは1つもありません。そして、自分達の希望が叶ったことは1項目もありません。断言できます。やっぱりフィフティフィフティというところ

まさに竹中直人の「笑いながら怒る人」のような表情をしていたこの日の高田。おなじみの虎のガウンも新調していたのに……。

爆炎記者会見!!

から相当ズレてたし。

――8月9日の段階ですでにズレはあったんですか?

高田　ズレはあった。だけどそのズレは致命的では無い。その後にいくつかズレがでてきた。

〈ここで高田道場のスーパーバイザー・坂口氏が入ってくる〉

坂口　僕も交渉に立ち会ってきた本人なんですけれど、そのズレでは具体的に言うと「ギャラの問題でダウンを迫られてた」が「高田は構わない」というところまできてたんです。それは8月8日の晩です。

高田　そういう細かいことは、あまり言っても。ね？　ファン不在になるんで前向きに（いきましょう）。

――先程、お話された「いくつかの約束ごとがコロコロ変わった」という、その具体的な中身を話せる範囲で教えてください。

高田　企業内的なことなのであんまり言葉にするべきではないと思うんですけれど、あえて1つたとえて言えば、試合の扱いもそうですし、その他もろもろ本当にこの決断をしたということで推測して頂きたいと思います。あと僕が一番ビックリしたのは永島さんの「（キャンセルした理由が）見当もつかない」という言葉は、俺も竹中直人さんじゃ無いですけど、怒り笑いの状態で「あのタヌキおやじ」じゃないけれどどれだけ話したか。どれだけ説明したか。それに対して藤波さんが怒るわけがないんでね。どういう報告をしているのかは想像では難しくないですね。「営業妨害」という発言にしてもそうですし、そういう言葉の使い方もそうです。ファンに対してもそうです。

僕は、健介と戦うことは本当に楽しみにしてました。だからその試合を信頼関係という一番大切な部分で落とし穴に落とされた、と言う気持ちから流れたことに対して、逆に自分の方が強く裏切られたということです。大きな団体に自分のようなポジションの人間が上がっていくことが、どれだけナーバスになることか。もちろん向こうもナーバスでしょう。とてもメジャー団体の窓口になる人がやることじゃないですよね、と思います。僕は、今回が新日本プロレスさんがどうのこうのというよりも永島さんに対して、非常に怠惰な部分に、信頼をまったくなくなってしまったと（いうことです）。「もう1回イチからテーブルにつく準備はいつでもあります」と言いましたけどそのときは藤波さんが直接でてきて交渉していただくということ以外に可能性はない、と思っています。

――この世界で生きる人間として高田さんの起こした行動がどういう波紋を起こすかはどう思ってますか?

高田　どのような波紋を起こすかどうかは、自分なりには考えてはいますけど果たしてどんな波紋がくるのかは見えません。ただ自分にとって散々譲ってきました。ここから先は何があっても譲れないよと（いうギリギリのところまできた）。じゃないと男じゃないし、人間じゃないんです。どんだけの覚悟をして今回の試合を交渉決裂にしたか……。自分が決めたことです。どんな波紋を呼ぶかは未来のことです。それをくつがえすためにこれから自分がリングの上で、一生懸命試合をして結果を出して行くしかないのです。プラスアルファ、最後に大きい声で言いたいんですけど『正しい者は勝つ!』というふうに僕は、魂込めて言います。『正しい者は勝つ!』これにつきます。あっ、間違いました！　『正義は勝つ』です。『正義は勝つ』です。訂正してください。『正義は勝つ』です。

――4年前にUWFインターの代表としてそのころの新日本と接触があったんですけれど、その当時からそういう新日本の体制は見え隠れしていたんですか?

高田　うん。それは、ありましたけど大人の世界ですから。プロレスに関わらずどんな人達だってありますからね。それをいちいち気にしてたら前に進みませんから。今でも大きな爪跡がいくつかあります。

――当時は試合発表されてからキャンセルということは無かったんですけれど、今回は我慢の限界を越えたということですか?

高田　キャンセルじゃないんだよ！　あくまでも交渉決裂！　これ以上前へ進むと自分が自分じゃなくなり、自分の存在価値がなくなるというところまできたから、こういうで決断を下しました。

――新日本プロレス側からはほとんど絶縁みたいなことを宣言されてますけど、高田さんとしては、もう一度藤波さんとは話し合いをする気持ちはあるんですか?

高田　もちろん！　俺は藤波さんは事情を全然知らないと思ってるから推測でも何でもなくて自信があります。何度も言いましたけど、永島さんのポジションにくれば、ミスがありましたとは言えないんですよ。相手を悪くいうしかないんです。

――近いうち藤波さんに会いますか?

高田　お会いしていただけるならお会いして、双方誤解があるならば、でも永島さんがそんなことはさせないでしょうけど。やばいからね（笑）。

――以前に『PRIDE.』のリングに出ながら、いろんなプロレスのリングにも出たいとおっしゃっていましたが、今回新日本と交渉決裂したということで、かなりプロレスのリングに上がるというのが限られると思うのですが。

高田　限られるもなにも、日本のプロレス団体のリングに上がるとしたら新日本しかないでしょう。それがダメならアメリカに目を向けるしかないでしょう、WWFに。僕はアンダーテイカーと試合がしたいんで。日本の道は、今の段階ではないようなんでアメリカの方に目を向けて希望を持って頑張りたいと思います。アンダーテイカー戦を目標に。あっ、ストーンゴールドでもいいですよ。ストーンゴールド戦もふまえて、マクマホン一家に入ってもいいです。（場内大爆笑）できればWWFの方がWCWよりいいです。上場しましたし。

自分が今回神宮に出て東京ドームに出て1つのパッケージの出場だけだったらまちがいなくテーブルに着いてません。いろんな可能性には枝を広げていきたい。そういう意味での起爆剤になればというのが1番の目的なんで、自分が「神宮に出ました。健介とやりました。そしてドーム行きました。誰かとやりました。それで一応終わりです」というちっぽけな、先がまったくない、その場限りの刹那的な試合に最初から出ていく。それだけが前提の話だったらテーブルにはのってません。

坂口　高田の方が日比野克彦さんの奥さんのかずえさんにいつも虎をあしらったコスチュームを作って頂いており、高田が神宮にのぼりたいということで、今日出来上がりました。高田も今初めて見ます。（といって虎のガウンをお披露目する）

マット界を股にかけた巨大なヒール、高田延彦が誕生しそうだ。

●

強烈な引力を持つ〝新日本〟という名のブラックホールから高田は自分の意志で這い出てきた。なりふり構わず、何が何でも自分の意志を貫き通すガムシャラさを取り戻したのだ！　結局、高田の〝わがままなヒザ小僧〟が新日本に炸裂しただけで、『東スポ』の一面は取るわ、新日が記者会見を開くわ……さすがは大物である。高田が動けば、時代が動くのだ！

新日が正しいのか、高田延彦が正しいのか、本誌にはまったく見当もつかない。ただひとつ、声を大にして言いたいのは、この記者会見での高田は抜群に面白かった！ということである。リスクも顧みず、自分の欲望の赴くままに闘い始めた高田がおもしろくないわけがない！

VTからWWFまで股にかけて闘う（予定）の高田。その振り幅の広さが、またマット界に新しい渦をおこすはずだ!!

マット界の番場蛮

TK 髙阪剛

Who's Real Hero?

リアルなヒーロー、デ[illegible]ビッ！

SPECIAL

LONG INTERVIEW in USA

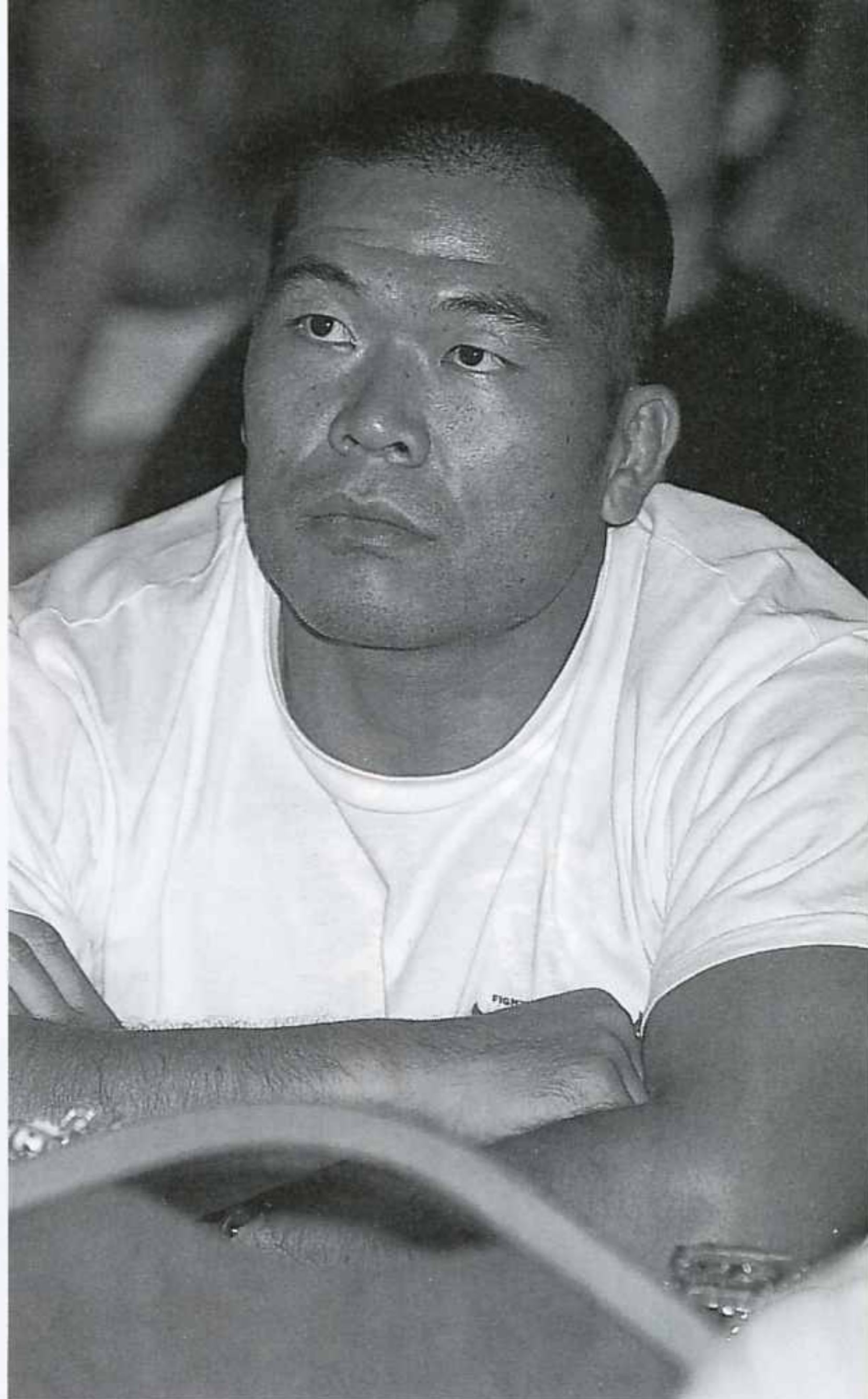
LONG INTERVIEW in USA

祝 UFC完勝
道 ヘビー級王座
忘 8.19の悪夢

聞き手／山口日昇
interview Noboru Yamaguchi

撮影／ビックバン・モーリー
photograraphs by Morry

7・16アイオワで開催された『UFC21』。無名だが強いティム・レイシック相手に快勝したTKだが、8・19リングス横浜大会のG・アイブル戦で負傷。全治1ヶ月！　年末のUFC王座へのチャレンジ劇はどうなる？　TKの周辺は風雲急を告げることになった。

シアトルは滋賀県と似てるんですよ
湖デッカイし、緑も多いし、起伏もあって

さて、いきなり話の腰骨を叩き折るようで申し訳ないが、ここで専門誌が伝えるべき役割は、本来なら8・19ギルバート・アイブル戦でTKが負傷した右手首靭帯損傷の回復具合を含め、風雲急を告げるTKの周辺をスキャンダラスに伝えることだろう。

しかし、ここでは敢えてシアトルで収録したインタビューを掲載したいと思う。アメリカに骨を埋める覚悟でシアトルに自らの立脚点を定めるTKの"生"の声を、ゼヒ聞いてもらいたいからである。ここでTKが言葉にしていることは、きっと総合格闘技と呼ばれるものの未来への示唆が、なんらかの形でたくさん含まれているはずだからだ。

というわけで、7・16『UFC21』で快勝した翌々日、18日の夜。TK、モーリス・ジムに通うシアトル在住のキヨ君、慧舟會の宇野薫&小路晃らとメシを食いに行ったときのこと。ついつい話に花が咲いてしまって（&メシを食いすぎてしまって）、フと気がつくと、もうインタビューができるような店が開いてない時間になってしまっていた。

そういう事情から（どんな事情だ）、インタビューは、山口日昇&カメラマンのモーリーの泊まる「ダブルツリーホテル」までTKが、わざわざ足を運んでくれて行うことになった。「祝UFC完勝記念大雑談会」は、ときどきジムの仲間と開くバーベキュー大会の話から始まったのだった。イッツ、オッケー!!（ケビンさん風）。

——バーベキュー大会っていうのは、どのくらいの割合でやってるんですか？

TK　そういうわけじゃなくって、こっちってホームパーティーっていうんですか？　そういうの多いんですよ。春とか夏の天気のいい日はバーベキューになるし、冬になったら暖炉のある家でロブスター焼いて食べたり。だから儀式ってわけじゃなくて、誰かがやるから「みんな呼ぼう」って感じですね。

——実にアットホームですね。日本にTKがいたら、「ケッ、こんなことやってられるか。なにがホームパーティーだ」ってタイプじゃないの？（笑）。

TK　まあね（笑）。日本だとめんどくさいだろうなぁ。

——なんでこっちだと、それが自然にできるんでしょうね？

TK　う～ん、たぶんね、ほかにやることがないから！

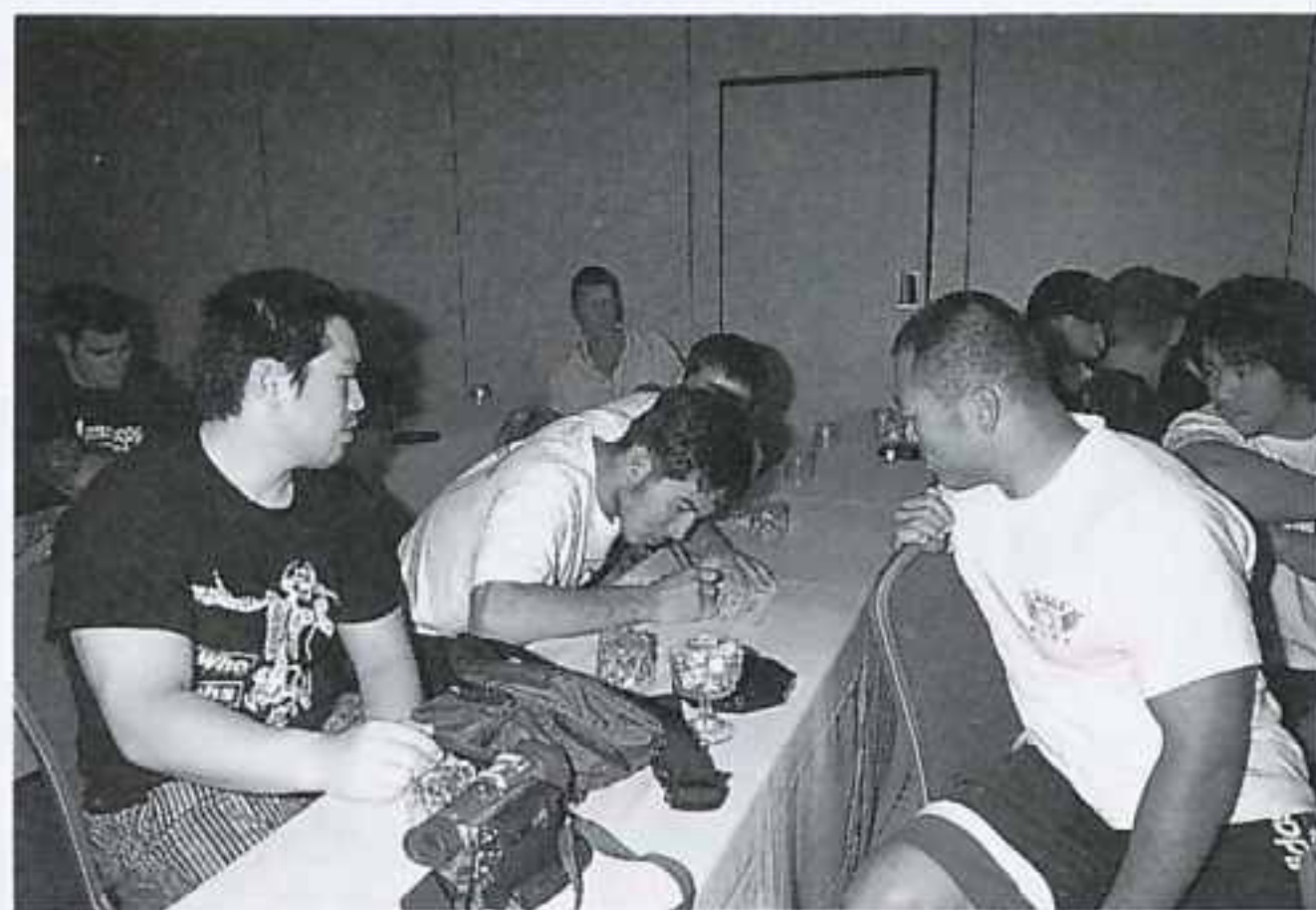
——ガハハハ！　第一条件はヒマ！

TK　アメリカ人って、会話を楽しむじゃないですか。ああいうのってその一環でしょう。日本の場合は家じゃなくって飲みに行って話しますからね。こっちは自然にみんなで集まるんですよね。

——そういう文化には、すぐ慣れたんですか？

TK　うちのお袋（通称・オカン）が

試合前日の計量。見てみィ、この落ち着き払った顔！　まるでUFCの重鎮だ。この前日の落ち着きぶりだけで試合の勝利は約束されたようなものだったが、今回の相手は強敵だった

UFC復帰をほのめかすWWFのケン・シャムロックとTKの豪華対面シーンが実現。タグをつけたままのキャップを被りトンパチinUSAぶりを発揮するモーリスと成瀬らもいるゾ

試合前日のルール・ミーティング。UFC初出場となる、慧舟會の高瀬大樹（残念ながらジャーミー・ホーンに敗退）に書類の書き方をレクチャーするTK。頼れるぜ、TK！

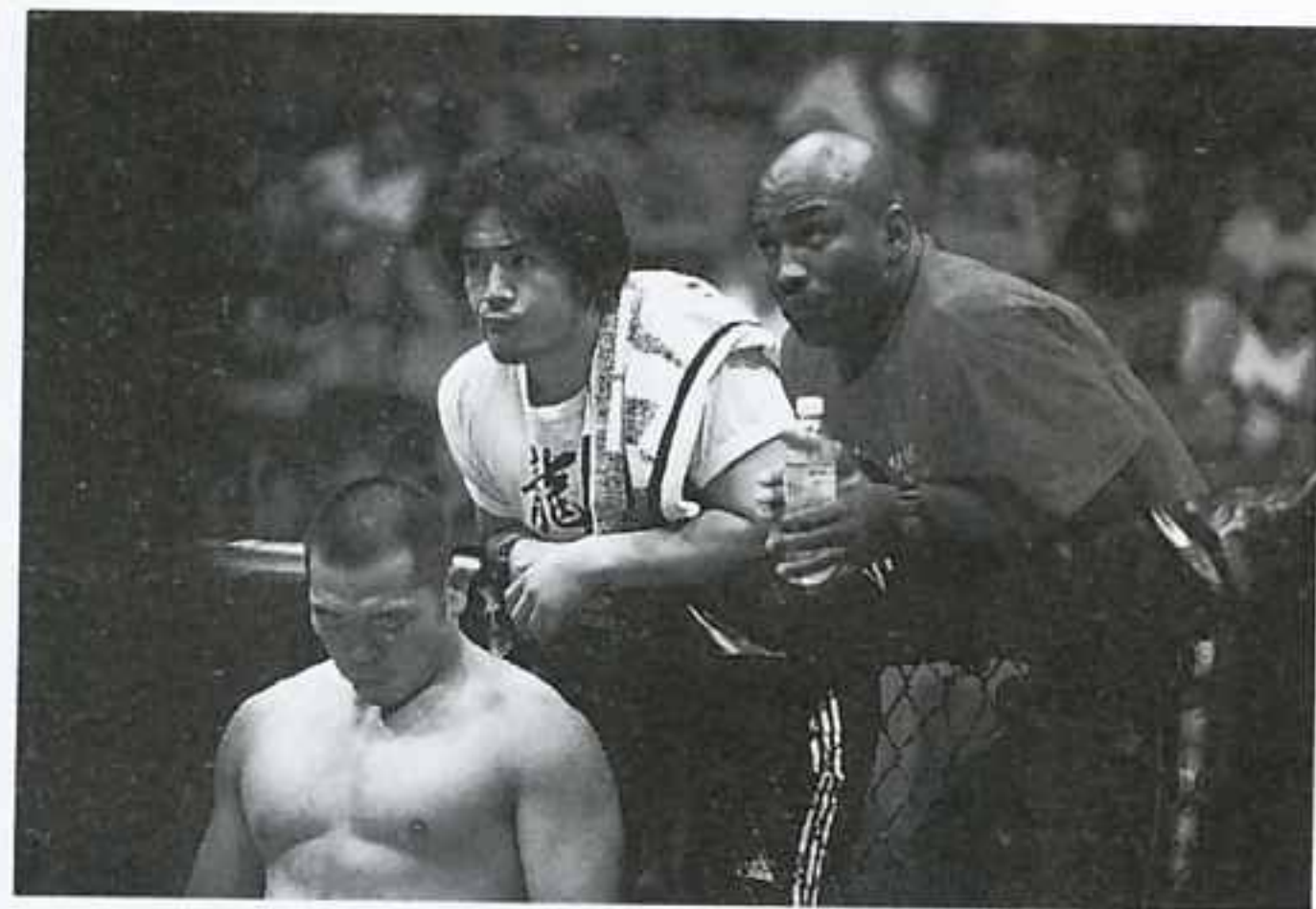
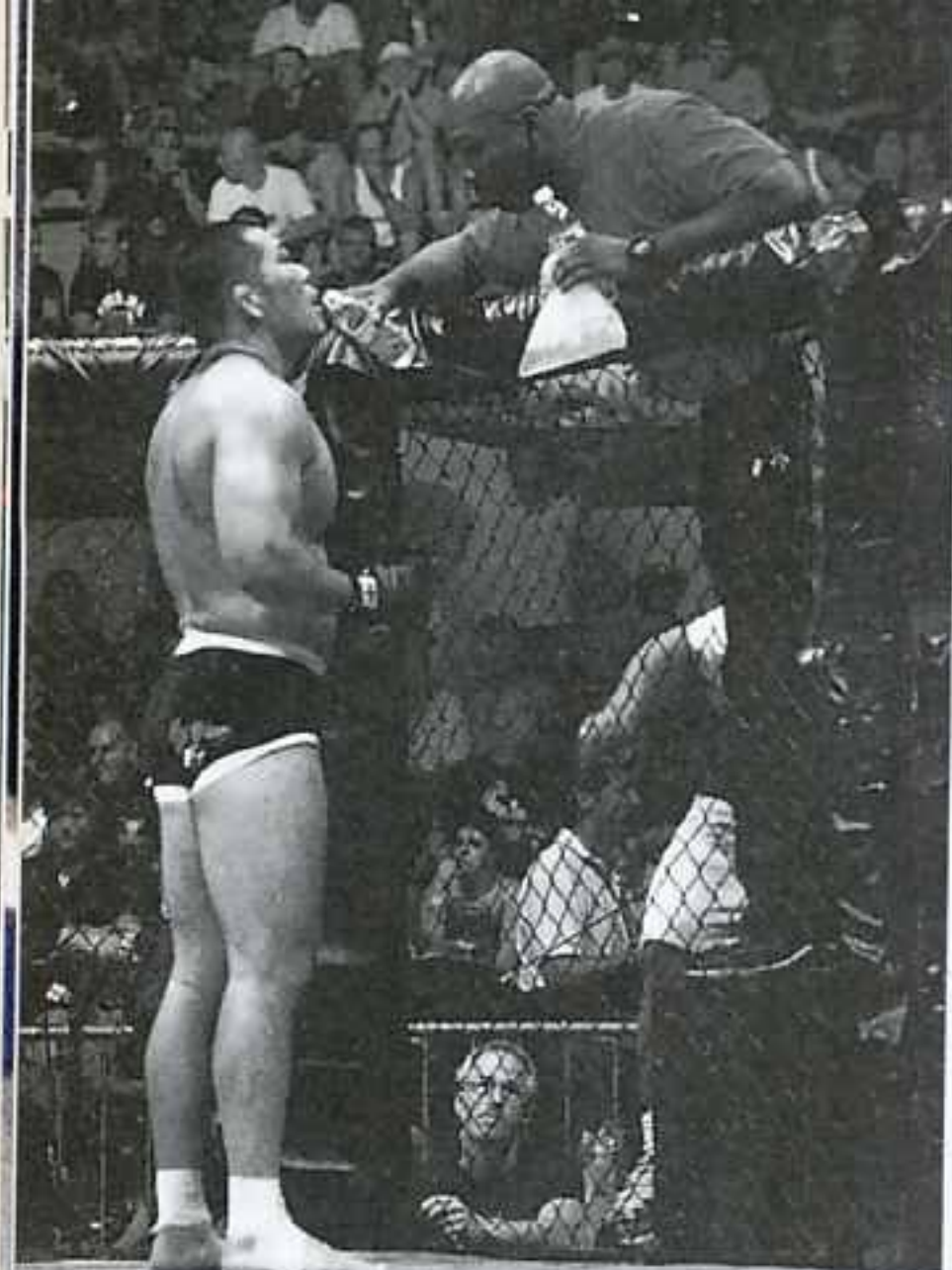
ね、こういうの好きなんですよね（笑）。

—ガハハハ！　その延長線上！　なるほど、オカンを媒介に持ってくるとわかりやすいですね（笑）。

TK　ウチのお袋はそういう感じだったんですよね。土曜日になったらみんな家に呼んで宴会やって。だって、小学校のとき、家に8トラのカラオケありましたよ。

—スゲー！　豪華が一番！（笑）。

TK　みんなでウチでカラオケやるんですよ。

—で、オカンが一番歌っちゃったりなんかして（笑）。

7・16のUFCには、モーリス、ケビンさん、カークさんらジムの仲間と山本宜久、成瀬昌由、なぜかアレクサンダー大塚までがTKのセコンドについた。イッツ、オッケー！

TK　そう（笑）。それがあんまりうるさいもんだから、ウチのオヤジが家を改築するときに、全部防音壁にして。

—ガハハハ！　金のかかる趣味だ。

TK　あと、兄貴がドラムとかやり始めてたから、弟たちもやり出すだろうって読んでましたね。案の定、みんなバンドやり出したし。そういうの好きでしたね、ウチは。だから、こっちに来ても、なんか（故郷の）滋賀県と似てるんですよ。湖デッカイし、緑も多いし、起伏があって。

—シアトルで話をしてて、「滋賀県」の話題が出てくるとは思わなかったですね（笑）。

TK　だからね、子どものときに帰ったみたいな感じですよ。で、子どものときにやってたようなことを、いまやってますからね（笑）。中学のときとあんまり変わってないですね。

—環境的には、湖が近くて、格闘技やって、変わんないと。

TK　ホント、中学校のときの柔道部時代に戻った感じですね。

—モーリス・ジムに興味があるんで聞きたいんだけど、ジムの仲間っていうのは、外国人だとよく「ブラザー」とか「ファミリー」とか言うじゃないですか。そういう感覚ってやっぱあるの？

TK　あります。特にね、モーリス自身がみんなに対して平等なんですよ。好き嫌いもないし、年上、年下も関係ないし。だから、みんな家族って感じしますよね。ほら、実の親父に敬語使ったりしないでしょ。それと同じ感覚ですよ。

—なるほど。日本人から見ると「アイツ、なんでジムのオーナーに向かって呼び捨てにしてるんだ？」とかなるもんね。

TK　家族だから。敬語なんか使わなくたって、ちゃんと立場的にバランスが取れるんですよね。

—それぞれの役割みたいのが自然にできてる感じですか？

TK　ジムでクミコさんって女性がいるんだけど、彼女は教えてるんだけど、ジムから彼女にお金払ってるわけじゃないんですよ。

—へ？　雇われてるわけじゃないいんだ。じゃあ、なんで教えてるの？

TK　やりたいから！（笑）。

—ガハハハ！　実にシンプルですね。

TK　教えるのが自分の役割だと思ってるんですよ。「ミット持ってくれ」って言うと、「それはオレがやるよ」って言うヤツもちゃんといるし。お金とか、そんなの関係ないんですよね。

—聞いたとこによると、クミコさんって受付とかもやってるんでしょ？

TK　受付は、いまはジェナっていう中学生の女の子。いま学校休みだから。

—あぁ、15歳の子。

TK　インストラクターってわけじゃないんだけど、初めて入ってきた子とかに教えるんですよ。試合も2試合してるんですよ、14歳のときに。

—その子もお金もらってないの？

TK　もらってないです。彼女の役割なんですよね。

—みんな「サークルのプロ」って感じだよね。

TK　完全に気持ちの中のギブ&テイクが成り立つとこですよね。

—日本でそういう形式って成り立つと思います？

TK　難しいでしょ（笑）。山口さんがジムにやってきて練習を始めて、「基礎は彼女が教えます」って言われて、中学生の女の子に「ワンツーは、脇を絞って」とか言われたら、やらないでしょ？（笑）。

—ガハハハ！「ケ！　やってられるか」って思いますね（笑）。

TK　自分は、そういうのがもともと好きでしたからね。

—今日も練習見てたら、宇野（薫）選手のスパーリングの最初の相手は、昨日シアトルに引っ越して来たばっかりのヤツで、今日いきなり「練習させてくれ」って言いに来たヤツだって言ってましたね。しかも、修斗ウェルター級チャンピオンに「強い！」って言わせるんだからね（笑）。

TK　ハハハハ。でも、そんなヤツ、いくらでもいるんですよ。そいつの場合は実際に実力があるから許されるんだけど、たまに道場破りみたいにフラッと

TK

『UFC21』が開催されたアイオワ州シーダーラピッズのファイブ・シーズンズ・センター。空港を降りたら周りは畑だらけの田舎町だったが、試合場はホテルに隣接した豪華な会場だった

「オマエ、強いんだって？　スパーリングやろう」って言ってきて、ケチョンケチョンにやられて帰っていく奴もいますよ。そういう奴らが面白いのは、「いままでオレは、こんなに強いヤツを見たことがない！」ってちゃんと認めるんですよね。

――負けたら、勝った相手をリスペクトするんですね。

TK　でも「オマエが弱すぎるって話もあるぞ。いままでどこでどういうことをやってきたんだ？」って聞いたら、「柔道六段で空手四段の先生に教わってたんだ」って（笑）。

――ガハハハ！　よくいるインチキ先生だ！

TK　簡単に言うとバカなんだけど、それじゃあ括りきれない。単純に日本人と比べて考えても、普通は「ちょっとおかしいな？」って気づくもんでしょ。そんなとこ行かなくても雑誌とかビデオとかいくらでもあるし、情報を得ることもできるんだから。でも、そいつにしてみれば、行って、やって「オッ、これは凄い！」って心の底から思ってるから。理論的に間違ってることでも、それを信じて習ってるから、そいつにしてみれば正解なんですよね。

――よく言えば素直、悪く言えばバカ（笑）。

TK　でも、その「バカじゃ括れない怖さ」があるんですよ。

――その「バカじゃ括れない怖さ」みたいなものがなきゃ、絶対強くなれないですよね。それがいい方向に転がれば強くなれる、悪い方向に転がると単なる「バカ」に転落ってことですよね（笑）。

TK　そういう連中は、どんなヤツに巡り会うかで強いヤツと弱いヤツって分かれると思うんですよね。そいつが間違ったヤツばっかりにくっついて行っちゃうと、いつまでたっても強くなれない。どうやっていい人間に巡り会うかっていうのはこの国で成功するキーですよ。

――その運はどうやって呼び込むんですかね？

TK　自分の足で稼ぐことでしょうね。それしかないです！　こっちに住んでて、よくよく思ったのが、日本だと「どこどこの会社の社長と話がしたい」と思っても、そこに行くまでに4つか5つアポを取らなきゃいけない。こっちはそれをスキップできる部分があるんですよ。いきなりダイレクトにアクセスすることもできるし。今日みたいに「モーリス・スミスはいるか？」「あ、オレだけど」って、間をスキップしちゃってるんですよ。

――ガハハハハ！「あ、オレだけど」！

TK　「オレはアイツと練習したいんだけど」「わかった、やれよ」って（笑）。それでやったら強い。「オマエは使えるから、今度試合やったら？」って話になっていくんですよ。たぶん、そういうのができる人が成功してるんじゃないかなと思うんですよね。

――アメリカンドリームを掴んでるわけですか。

TK　間にある面倒くさいのをスキップして「ボンッ」って行っちゃう。

――そういう国を体験しちゃったら日本に戻れないんじゃない？（笑）。

TK　戻れないですねぇ（笑）。

――ガハハハ！　いいのか、TK！

TK　ハハハハ。もともと自分はこっちに永住するつもりだから。戻れないというかね、まだ1年しかいないから、わかんない部分もたくさんあるけど、想像以上のものがある国だったんでね。もちろん、いいところもあるけど、イヤなところもいくらでもあるんですよ。そういうのも含めて、なんかやろうとするんだったら、この国のほうが面倒くさい過程をブッ飛ばして、いきなりなにかを掴むことができるんじゃないかと思いますね。

――TKのリングスUSA勧誘計画&シアトル在住のすすめでした（笑）。外から日本っていう国を見てみると、面倒くさいことばっかりだなって気はします？

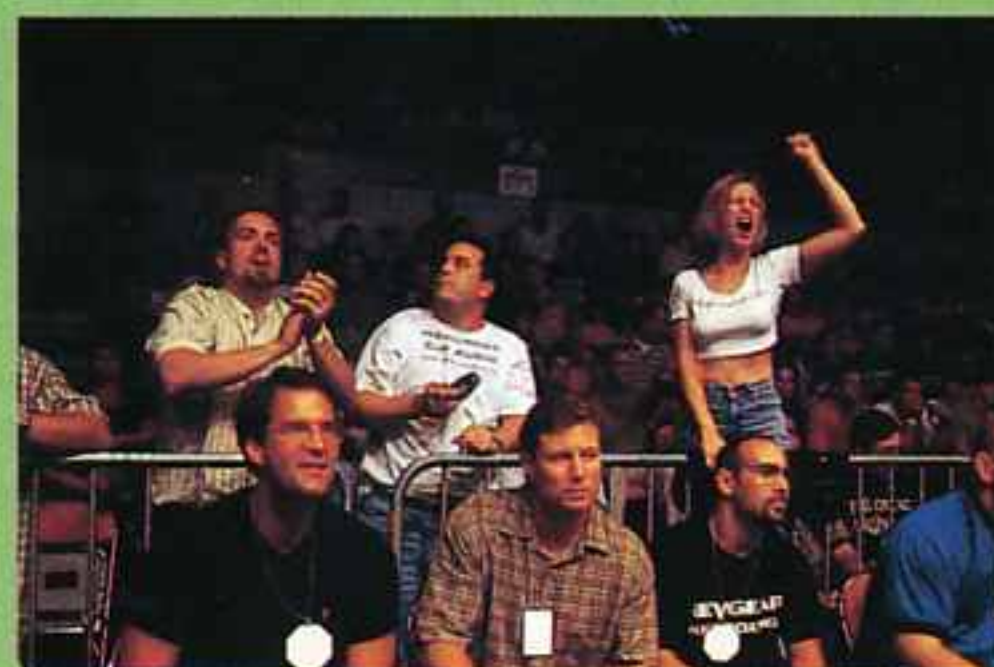
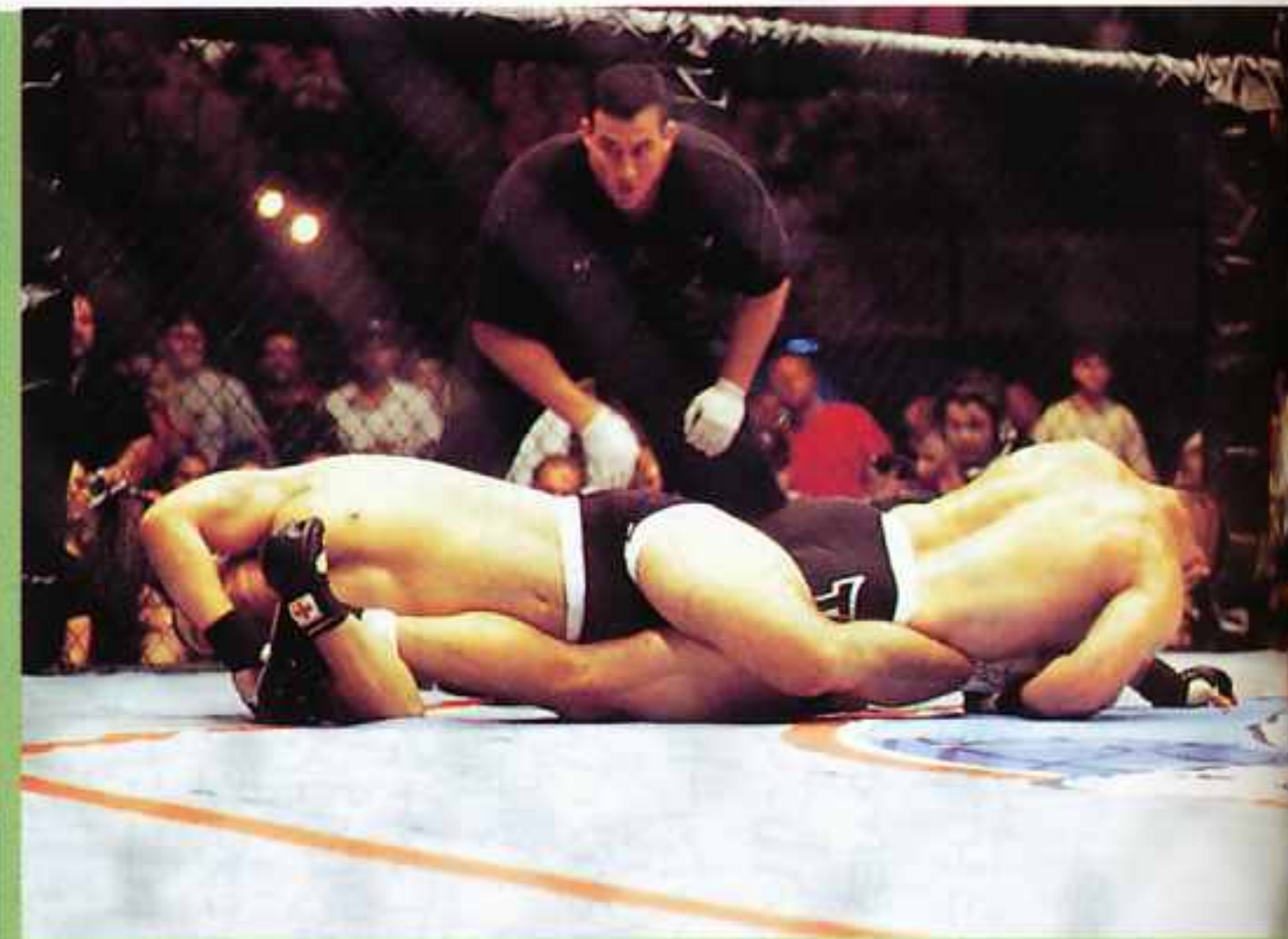
TK　しますします（笑）。

――格闘技界も一緒ですよね、いろんな

7.16 TK BOUT Short REVIEW

7・16アメリカアイオワ州シーダーラピッズで開催された『UFC21』。TKは2試合目（実質的にはセミ）に大歓声を受けて登場。未知の強豪ティム・レイシックと対戦した。レイシックはレスリング、ボクシング、NHBの経験がある岩のようなガタイを誇る選手。さすがUFCヘビー級王座へのテストマッチに用意されたUFCの刺客だけあり、TKもラクには勝たせてもらえなかった。が、TKは落ち着いて捌いて3R戦意喪失に追い込んだ

「アメリカに行こう」って思う前に〝自分をどうしなきゃいけないのか〟って考えた

意味で。
TK　面倒くさいこともあるし、選手はみんな考えてることは一緒だと思うんですよね。強くなりたいし、試合に勝ちたいし、成功したいし、みんな同じこと考えてると思うんだけども、それをやるために踏まなきゃいけない部分がいっぱいありすぎる。それは面倒くさいですよね。こんな仕事、何年できるかっていったら、自分はプロでやって5年目だけど……。
——ゲ、まだ5年だっけ？　驚きますねぇ。
TK　94年にデビューですからね。
——そうか。ここ1～2年で、5～6年のキャリア積んでるように見えますよ（笑）。
TK　それは自分がスキップしようと思ったから。その過程を全部やってたら20年はかかると思った。そう考えると、自分の身体と相談したら無理なんですよ。そんなに待てないし。
——特にバーリ・トゥードだと。
TK　あんなのサイクルもメチャメチャ早いですからね。
——身体だって持たない。
TK　それで、気がついたら「オレも若い頃は無茶したよなァ」なんてタバコ吸ってるオッサンになるんじゃ、お粗末だし（笑）。
——じゃあ、あらためて聞くのもなんだけど、いまは充実してるんだ。
TK　してますね。してるけど、逆に決められたことがないだけに、手探りの状態であることは確かですね。やることがハッキリ決まってないから、なんとなく見えてるつもりなんだけど、正直言ってなにをしていいかわからないときもありますね。
——それは〝考えてる〟ってことだから、前向きな意味で、ですよね。
TK　そうそう。止まってるわけじゃないから。
——クリエイティブじゃないですか（笑）。羨ましい状態ですよ。
TK　ただ、アメリカ人は、スキップするのにも最低限必要なことってあるじゃないですか？　そこをわかってないヤツのほうが多いですね。「自分はここまでやってきたからスキップできるんだよ」っていう部分を勘違いされると困るんですよね。
——勘違いしやすいヤツが多い？
TK　例えば、立ち技でタックルもなにもできないヤツが「テイクダウン取ったあとのグラウンドを教えてくれ」って（笑）。「それだったらテイクダウンやったほうがいいよ」って言っても、「オレはグラウンドが好きなんだ、サブミッションで極めるんだ」って（笑）。それで実際に試合をしちゃうのもおかしいんだけど、試合してみたら、全然上になれなくて、下からの攻め方もまったくわかんない。やられちゃってから、「やっぱりテイクダウンの技術を教えてくれ」だって（笑）。「だから言うたやん」って（笑）。
——ガハハハ！　ホントに素直なんだかバカなんだかわかんないですねぇ。
TK　こっちは身体で感じないとそういうのはわかんないんでしょうね。そういう連中は逆戻りしてるんですよ。スキップできてない。でも逆戻りして、突然「ボンッ」って来ちゃうこともあるんだけど、最低限のことだけはやっておかないとムダ足になるよっていう部分をわかってないヤツは多いですね。いまなんて技術の情報は蔓延してるけど、基礎もできてないのにやろうとしたって、試合では絶対できない。そういうのを「試合じゃ使えなかった、アイツが言ってるのは嘘だ！」とか言うのは間違ってますよね。
——さっき「運」の話が出たけど、どういう人間と巡り会うかっていう部分でいうと、TKはメチャメチャ運があるよね。モーリスとも巡り会ってるし、ケビン（・ヤマザキ）さんとも巡り会ってるし。
TK　自分は運がいい。っていうのは、

1R、相手がボクシングもレスリングも得意ということもあり、スタンドになりやすいTKガードにはいかずに、ハーフガードの体勢を取り、下から攻める作戦に出たTK。「ヒールを取ったら足が固い、固い」とTKも言っていたが、レイシックの頑丈さとパワーは並ではなかった。2Rの終盤でサイド・ポジションを取ったTKは、ヒジをガンガン脇腹に入れていった。レイシックはグラウンドで顔面を殴られるのに慣れてないようで、がっちり顔面をガード。“顔は無理だ”と判断したTKの機転が功を奏し、3Rが始まる前にレイシックは戦意喪失。TKが見事にTKO勝ちを収めた。TKは試合後、英語でTVインタビューにも応え、またまた名を挙げることに成功した。VIVA、TK！

自分は「逃げる」って言葉大嫌いなんです
オレはアメリカに攻めたんですよ

自分で言うのもなんだけど「運も実力のうち」って言うじゃないですか。あれは前向きにものを考えてたら、そういうふうに勝手に道が絞られて行くっていうことだと思うんですよ。自分も「アメリカに行こう」って思う前に、〝自分をどうしなきゃいけないか〟っていうのをズッと考えてたし。

――リングスから逃げれたことも運ですよね（笑）。

TK　ワハハハハハ！　自分は逃げてない！　何を言いだすんや、いきなり（笑）。自分は「逃げる」って言葉大嫌いなんですよ。オレはアメリカに攻めたんですよ。バンバンがね……。

――『侍ジャイアンツ』の番場蛮？

TK　そう。クジラと闘うときにクジラの中に入って、中から腹を切り裂いて出てきたでしょ、それですよ、それ。

――なるほどね、よくわかんないけど（笑）。

TK　アメリカの中に入って、中からアメリカを切り裂いて出てくる！

――で、どこ行くんですか？

TK　そして胃液で溶けて死んじゃうんですよ（笑）。っていうことは、アメリカに勝って出てきたら、思いっきりアメリカ人になって、日本語しゃべれなくなってる（笑）。

――ガハハハ！　前田（日明）さんと会っても、「OK！　アキラ」とか言って殴られたりして（笑）。でもTKのやり方は完全にオリジナルですもんね。

TK　ひとつだけ自信持って言えるのは、ことのきっかけっていうのを全部自分で切り開いたんですよね。ことの始まりはモーリスと試合したことなんだけど（96年1月）、あれも自分がやりたいって言って。

――まっ先に手を挙げたんですよね。

TK　それでモーリスとやるためにはどうしたらいいかって考えて、そういう練習し始めて、試合したら勝って、そこからモーリスと交流が始まった。

――デビューして1年ちょっとのときですよね。まだ一番下だったとき。

TK　そうです。そのときもどうやったら早く上がれるかっていうのをズッと考えてたから、そのためにはスキップするのが一番手っ取り早いって思ったんですよ。それには自分から攻撃の姿勢を崩しちゃダメだと思って。モーリスとの試合が終わって〝自分に足りないものはなにか〟って考えたときに、〝モーリスが持っててオレが持ってないもの〟ってきっとあるだろうと思った。立場的にも勝ったから言いやすかったから（笑）。それで練習に行ってるときに、カーク（モーリス・ジムのトレーナー）のところにジョン・ペレッティーから「コンテンターズっていう大会をやるから、誰かいい選手を知らないか？」っていうオファーが来てて、内容聞いたらグラウンドのサブミッションだけだったから「出たい！」って言って。そしたらジョン・ペレッティーが「コーサカっていうのは何者なんだ？」って（笑）。

――とりあえず日本人だ（笑）。ゴリラではない（笑）。

TK　だから、その日のうちに自分でビデオ作って。『トーナメント・オブ・J』とかリングスの試合とか、極めつけはモーリスとの試合を入れて編集して送ったら、「出してみよう」ってことになって。要は対戦したトム・エリクソンの相手をみんな嫌がってたんですよ。「あんなバケモノと試合したくない」ってみんな言ってたらしくって。自分はグラウンドだったら勝てると思ってたから。

――頼もしい。エリクソン相手に勝てる！

今回目撃した7・16のUFCは地元・アイオワ出身者が8試合中6試合に出場するという「ホームグランドの論理」と、全世界に映像が中継される「PPVの論理」の2つが見事に働いていた。そこは日本でいうところの「プロレス」「格闘技」の差はなく、すべてがエンターテインメントとして機能していた空間だった。それにしても観客の熱狂度＆オクタゴン・ガールズは凄かった。VIVA！　オクタゴン・ガールズ！

TK　「全然大丈夫だ」って言ったら、即OKになって出た。負けたけどもジョン・ペレッティーには目をつけられて、で、UFCのマッチメイカーにジョン・ペレッティーが就任して、「最初に使いたい日本人がいるんだ」って言ってくれて、そっからUFCのオファーが来たんですよね。

——は～、「運は実力のうち」じゃなくって、実力が運を掴むんですね。

TK　自分でやっていくと、道がだんだん細くなっていって、行くべきところにたどり着くんですよ。それで試合して勝って、そのときに考えてたことと、アメリカに行くってことが一致したんで「ここに住むことにしよう」と思って来たら、ケビンさんに出会った（笑）。

——ガハハ！　イッツ、オッケー！（笑）。

TK　初めて会って挨拶したときは日本語しゃべれないと思ったんですよ。「Nice too meet you」って言ったら、ケビンさんも思いっきり英語でしゃべってるし。日本人に見えるけど、外人なんだなぁって思ってたら、モーリスが「日本語話せる」って言うんですよ。で、「日本語しゃべれるんですか?」って言ったら「ええ、まぁ」って（笑）。

——ガハハハ！「ええ、まぁ」じゃないよねぇ。最初からしゃべりやがれ（笑）。

TK　モーリスと話すときは訳してもらってたんで、自分も日本語しゃべってたんですよ。なのに英語でしかしゃべってくれなかった（笑）。

——意地悪いですねぇ、ミスター・ケビン（笑）。

TK　で、「日本語しゃべれるんですね?」って言って、そこから日本語で話すようになって（笑）。「今日からこっちで暮らすようになったんです」って言ったら、「ボク、あなたのことよく知らないし、なぜそういうことをボクに言われるのかよくわからないんだけどぉ」って（笑）。そのときからビンビンに飛ばしてたんですよ（笑）。

——ガハハハ！　ミスター・ケビン、飛ばしまくり！

TK　「これは挨拶ということで」って言ったら、「わかりました。そういうつもりでワタシも受けとめたいですね」だって（笑）。

——そこからどう転がったかケビン流科学トレーニングの実験台になった（笑）。そこから急速にケビン熱が広がり始めましたよね（笑）。

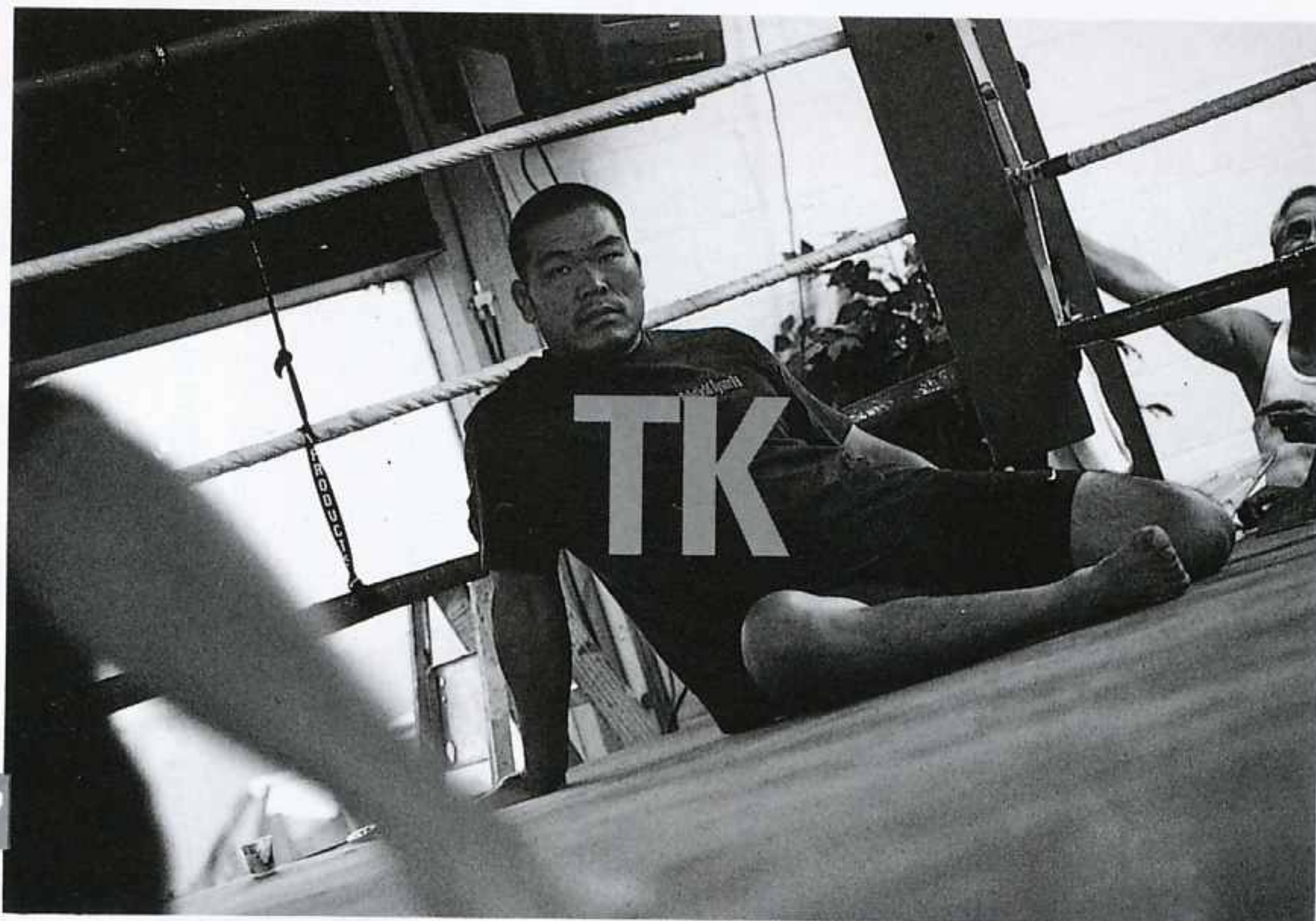
TK　自分にモーリスが「オマエはVOが凄い」とか言ってたんですよ。それで、いざケビンさんと練習をするってときに、ケビンさんが「もともとVOの上がったヤツをさらに上げるのがオレたちの仕事だ。そういうサンプルが欲しい」みたいなことを言ってたらしくて。そしたらモーリスが「コイツはオレよりVOあるから、コイツを使えばいいよ」って言って、モーリスと自分が一緒にやるようになった。

——モーリスが勧めてくれたんですか?

TK　そう。で、モーリスのとこに行ったらフランシスコ・フィリオがグラウベ（・フェイトーザ）と一緒に練習に来て、それで一緒に練習するようになって。同じ練習してると急速に仲間意識が出てくるから、いまは完全に仲間ですね。

——そういえば、ケビンさん繋がりの佐竹（雅昭）さんとTKって立場的に似てるとこあるじゃないですか。

TK　そうですね、話とかしてても、自然ですよね。

——こないだ雑誌で佐竹さんのインタビュー読んだら「いまはチョンマゲを切る時代ですからね」って言ってた。それには、な～んかビビッと来るもんがありましたねぇ。

TK　いま、黒人が西部劇やってる時代だから（笑）。そういうのはどんどんやっていかないといけないんですよ。

——そういうのを体現してるのがTKであり、桜庭和志であり……。

TK　桜庭さんはナチュラルでできるからいいなぁ。

——もともとチョンマゲは似合わない（笑）。

TK　ツルッツルですよね（笑）。桜庭さんは一番に洋服を着たタイプ。みんなが袴とか履いてる時代に。

——最初はみんなに「なんであんなのがカッコいいんだ」とかバカにされて（笑）。桜庭さんも、喧嘩に強くて豪快でっていう昔の格闘家のイメージ……ボクもそういうのは大好きだけど、そういうイメージしか認めない人には見えにくい存在だったですからね。

TK　でも、それが主流になっていくと「アイツは正しかった」ってなる。

——TKとかもそうですよ。

TK　自分はまわりのことより、自分がこうやりたいからやってるだけなんですけどね（笑）。

——わがまま（笑）。結局UFCにしても、モーリスジムにしても、TKが主催してるんじゃないにせよ、日本人ファイターが集まる磁場みたいになってるじゃないですか。

TK　格闘技界のヘソ！

——なんでシアトルなんだって話だけど（笑）。

TK　アメリカなんか広いのにね。

——そこになんか「偶然」を感じさせますよね。

TK　日本から一番近いアメリカ本土っていうのも偶然ですよね。結構そこは盲点ですよね（笑）。

——なんの盲点だかよくわかりませんけど（笑）。

TK　みんな気がつかなくてロスとか行っちゃうんですよ（笑）。

——「スキップする視点が違うぞ」って（笑）。

TK　「おいしいところはそこにある」。リブの肉が旨いのと一緒で、「それを捨てたらもったいないよ」と。

——シアトルはリブだったのか（笑）。さて肝心のUFCのティム・レイシック戦の話に移りましょう。相手は無名だったけど、遠目から見てると結構攻められてる場面もあった。だけど、キッチリ勝ちましたね。しかも、もう怪我治ってるし（笑）。

TK　回復に向かってるどころか、完治に近くなってる（笑）。

——恐ろしいッスよね、ホント。

TK　寝てる間にシュルシュルって触手が出て、悪いところを触って治してるんですよ。『風の谷のナウシカ』のオウムみたいに（笑）。

——しかも、試合前から全然オクタゴンに入るとか、アルティメットだとか、そういうんじゃないもんね、見てると（笑）。当然、本人の中では多少はあるんだろうけど。

TK　いやぁ、ほとんどない（笑）。でも、モーリスなんて自分のセコンドにガンガンついて、あんなに喜んでたけど、「オマエも試合するんだよ」って（笑）。

——しかもメインで（7・16のメインはモーリス vs マルコ・ファス＝モーリスのTKO勝ち）。

TK　3試合後にアイツ試合してるんですよね。自分はアイツほど平常心にはなれないなぁ。

——モーリスなんか、ホントいい意味で負けることは怖くないっていうかね。

TK　飯食う、ウンコする、練習する、試合するって全部生活の一部ですよね（笑）。

——ガハハハハ。生活4原則！　さっきTKが言ってたように、基本をスッ飛ばして「負けることが怖くない」って言っちゃったらダメだけど、あれくらいのレベルになるとホントに負けることは怖くないんでしょうね。

TK　そういうことすら考えたことないでしょうね（笑）。

——試合を振り返ってみてどうですか？

TK　まず相手の選手はね、強いです。強い！　自分、気がつかなかったんだけど、タックルで1回倒してるんですよね。倒したらそこから起きあがって気がついたら自分のうしろに回ってたから、反応早いですよね。

——正体不明でしたけど、強かったですね。

TK　あれは、レスリングの全米チャンピオンを2回獲って、そのあとにアマチュアボクシング始めて9勝1敗って言ってたかな？　それでカリフォルニア州のゴールデングローブ賞を何回か獲ってるんですよ。それで無名。一番厄介ですよ。

——プロレスのリングにも上がってたっていう噂があったんですよね。

TK　NHBの試合を2回やったことがあるっていうのは聞いたことあるんですよ。試合前にジョン・ペレッティーに呼ばれて、「今回は、オマエの強さをわかってるから、敢えてタフなヤツを当てた。今回どういう試合をするかっていうのは非常にオレも楽しみだ。オマエの先がかかってる大事な試合だ」って言われて。言わんとしてることはなんとなくわかったんだけど、ハッキリ言わないから漠然としてた。試合終わってから「アイツはタイトルマッチをやらせてもいい存在だから」ってモーリスに言ってくれてたのがわかって、そう考えると、凄い意味のある試合だったんですよ。

——マッチメイク見ると、予備戦入れて全8試合だったけど、6試合が地元・アイオワ出身者の試合。アイオワ出身者が絡んでない試合って、TKの試合とモーリスの試合だけでしょ。だから試合は2つ目だったけど、実質的、レベル的には、TKの試合がセミですよね。

TK　最初はセミって言われてましたからね。

——相手は顔も怖かったですね（笑）。

TK　強いしね、固い！　関節が曲がんないもん。ビックリした、ホント。

——「コレはヤバイぜ」っていう場面はありました？

TK　1ラウンド終わった時点で動きが若干鈍くなってきてるのもわかったけど、インターバルで復活されたらヤバイなって思いましたね。

——試合は自分のペースでできた？

TK　そうですね、全部見えてましたから。

——TKは下になってても安心感ありますよね。ただ、向こうがデカイから、遠目で見てると「ウワァ〜」とか思っちゃうんですよ。

TK　確かにガードしきれなくって、顔に5〜6発ガンガンもらっちゃったんですよね。

——で、もう全然大丈夫？

TK　大丈夫です。

——ビール飲んでるし（笑）。

TK　ま、いいじゃないですか（笑）。

——あれだけの試合して、次の日ケロッとしてるんだから凄いよねぇ。

TK　慣れですよ、慣れ。

——普通、慣れないですよ（笑）。

TK　たぶん、イヤな試合が続くと冷静に判断できなくなったりとかするんだろ

モーリスのことになるとTKは嬉しそうな顔で話す。「アイツ、日曜日でもヘーキでジムに来て設備とかケアしてる。あのジムの中でアイツが一番偉いのに、いろいろ先頭になってやるから、みんな気がついたら一緒になってやってる。さすがに真似はできないですよね。自分だったら、面倒くさいなって絶対ちょっとは思いますもん（笑）」

「アイツはタイトルマッチをやらせてもいい存在だから」と言ってくれたみたいで

野球とソフトボールの違いで、UFCとリングスは「一緒」にはならないですね

うけど、自分の場合、負けても納得できる試合をやってきたから、試合に対して悪いイメージが全然湧かないんですよね。出店にモノを買いに行くような感覚なんですよ。

――ガハハハ！　TKにとってアルティメットは出店。

TK　「ここにはなにがあるかな？」って（笑）。

――ウキウキしちゃう（笑）。その出店に行くと人気ありますね、TK。驚きましたよ、あのTK人気には。

TK　今回嬉しかったのは、1月のバス（・ルッテン）の試合のときはそうでもなかったんだけど、あの試合終わって、話題になったんでしょうね。3月のモーリスの試合のときにミシシッピに行ったときも、試合もないのに会場で声かけられたりして。今回は相手がアメリカ人なのに自分のほうが声援大きかった。それは嬉しかったですよね。「アメリカに勝った」っていうか（笑）。

――「アメリカに勝った」って思える時点で、人生まっとうしてるようなもんじゃないですか（笑）。

TK　相手は白人で、レスリングやってて、純粋なアメリカ人で、カリフォルニアに住んでてって、条件揃ってるじゃないですか。こっちは日本だかアジアだかわかんないようなね。

――アメリカ人に略されてるようなヤツですからね（笑）。

TK　TKって、イニシャルで呼ばれてるだけですもんね。ニックネームでもなんでもない！　そんなヤツの声援のほうが大きかったっていうのは凄い嬉しかった。あのときはちょっと緊張しましたね。

――「これで負けたらカッコ悪いな」ってことですか？

TK　そういうんじゃなくて、予想外の展開だったんでビックリしちゃったんですよ。脱がしたら思いのほか乳が小さかったときとか、緊張するじゃないですか（笑）。

――ガハハハ！　そうきますか（笑）。

TK　アイオワなんて知らない土地に行って、応援してくれるヤツがあんなにいるっていうのが嬉しかったですね。

――だから、実力で人気って出るもんなんですよね。そういう可能性がある時代なんですよね。

TK　そういうのも全部自分で掴んできたものなんで、なおかつ充実感はありましたね。

――もし、年末のヘビー級王座挑戦が実現したら凄いことですよ。ぜひタイトル取ってほしいですね。

TK　あのベルトは単純にカッコいいですからね。

――TKの今後の究極の目標っていうのはどう変わってきたんですか？

TK　最終段階の目標っていうのは基本的に変わってないです。こっちにジムっていうか、自分のベースをこっちに作って、そこで将来的には選手を育てていく。世界チャンピオンを作るとかね。要は自分がいままで日本でやってきたことを消さないで、残していく作業をやっていきたいっていうのは変わってないですね。

――こっちはバーリ・トゥードってものが浸透してる。その反面「NHB（ノー・ホールズ・バード）」って名前を使えなくなったりとかあるみたいですね。

TK　アメリカっていうのはもともと建て前と本音の国だから、そういうのはずっと続くでしょうね。

――いまや「フリーファイト」って言ってもダメ？

TK　殺されますよ（笑）。

――PTAとかがダメなの？

TK　うるさいでしょうね。

――で、いまはなんでしたっけ？

TK　いまはミックスド・マーシャルアーツ。MMAって呼ばれてますよね。

――わかりづらいですねぇ。この先バー

格闘界のヘソ！　シアトル磁場!!

日本から一番近いアメリカ本土ということもあり、いまや格闘技界のヘソ、格闘磁場となった感のあるシアトル。

ここ近年、K―1のフランシスコ・フィリョ、グラウベ・フェイトーザ、佐竹雅昭、そして前田日明、高田延彦ら大物格闘家が続々やってきたことはあまりにも有名だ。

この磁場のキーを握るのは、世界中の格闘技キ●ガイ（いい意味で）が集まってくるモーリス・スミス・ジムと怪物トレーナー、ケビン・ヤマザキさんだ。先に挙げた大物格闘家たちもモーリス・ジム&ケビンさんによって肉体改造ないしメンテナンスorケアを行っている。

本誌が取材に行った7月中旬には、7・16UFC観戦帰りの宇野薫&小路晃がモーリス・ジムでスパーリングに励み、2人がTKに「TKシザース」を伝授される刺激的な光景が繰り広げられていた。

予定されていた小川直也戦を照準に入れた山本宜久は、ケビンさんに受けた「スポーツ・スペシフィック・トーレニング」の効用をウェイト&チューブ・トレ&スパーリングで試し、猛特訓に没入。そのヤマヨシをサポートする形でシアトル入りした成瀬昌由も、ケガと闘いながら調整に励んでいた。

ここには、日本にある団体間の壁はない。ケビンさんは「イッツ、オッケー！」とジェスチャーで、モーリスは鼻歌を歌いながら、これからも続々格闘家たちを迎え入れていくだろう。

リ・トゥードっていうのはどうなるんでしょう？

TK　しばらくこのままいくんじゃないですかね。完成されてない部分が凄い多いじゃないですか。その分淘汰されていく余裕はありますよね。そのくせに完成されてない状態で満足しちゃってる連中も多いから、そいつらが足引っ張ってなかなか伸びなかったりね。だから、スピードもありつつ、足止め喰らうとこもありつつって感じですかね。

――こないだシアトルに来たときにTKは「最終的にはリングススタイル、サブミッションスタイルが残る」って言ってましたけど、いまでもそう思う？

TK　そう思いますよ。残るっていうよりも、最後に伝えていくもので、残せるものっていうのはサブミッションスタイルだと思うんですよね。

――前田日明はやってきたものの「骨と血」を残したいという言い方してましたけどね。

TK　ああ、そうッスか。でも残したいですよ。関節の攻防とか、技術的なもんっていうのは、叩けばどんどん伸びていくし、残せるもんですからね。こっちでも最近やっと関節に対する認知度が徐々に高くなってきてるし。グラウンドでパンチとか、ポジショニングだけで倒すっていうのは難しくなってきてるから。

――その日本では、6月の後楽園大会は、メインのあとに「リングスコール」が起こってました。

TK　いいじゃないですか。もし同情だったとしても、ファンの意識にちょっとしたものがくすぶり出してるとしたら、それはそれでいいことだと思いますね。新陳代謝をよくしないと。

――一時期、年寄りくさかったですからね（笑）。

TK　イメージがね。そういうのもどうやったら変えられるかっていうのを考えなきゃいけない時期だし。

――リングスは、この前シアトルに来たとき（1月）とだいぶ状況が変わってますね。会場も小さめになったり。

TK　いいことだと思いますよ。このあたりで1回、ファンにもリングスっていう組織自体にも刺激を与えないと、伸びることもできないし、変えることもできないと思うし。2ヶ月に1回の興行、会場も小さくして、そのかわり1回の興行でできるだけいい試合をっていいことだと思いますよ。

――いま、リングスには、考えてみたら全盛期の人たちが集まってるわけですからね。

TK　しかも、みんな考えてること、やってることがバラバラ（笑）。

――役割が全然違う（笑）。そのバラバラさ加減がいい意味で作用すれば面白いですね。ところでUFCスタイルとリングスがリンクする可能性についてはどう思います？

TK　やってて思うのは、野球とソフトボールの違いですね。ハードかソフトかの問題じゃなくて、パッと見はよく似てるけど、よく見ていくと全然違う競技なんですよ。違うんだけど、リンクする部分はいっぱいある。でも違う競技。野球とソフトボールは一緒にならないのと同じように、一緒にはならないですよね。

――なおさら両方確立していかなきゃいけないわけですね。考えてみると、TKはもの凄い役割背負ってるんだなぁ。両方確立させなきゃいけないですからね。

TK　大変だなぁ。どうしよう？

――ビール飲んで寝っ転がってる場合じゃないですよ（笑）。でもTKの役割がおぼろげながら見えてきましたね。

TK　自分はそれをやろうとすると、たぶん失敗するから、自分のやりたいことの二次的効果として現れるんじゃないかなと思うんですよね。全部やり尽くしたあとで「オレがやったことは正解だったな」と思えるようになったらいいですよね。

――シアトルはいいとこだし（笑）。

TK　山本（宜久）さんも成瀬（昌由）さんもこっちに来たら生き生きしてますしね。自分も日本にいるときよりも、たぶんニコニコしてる。だって面白いんだもん（笑）。

――ガハハハ！　こっちにいるとアッという間に1日終わりますもんね。

TK　ジムに行って、練習してっていうのがやらなきゃいけないこととしてある状態でやってると、なんか面白いことがあるんですよ。

――その「なんか面白い」っていうのは重要ですね（笑）。

TK　それが長く続けるコツですよ。

――TKにはゼヒいろんなものを背負って長く続けてもらいましょう（笑）。

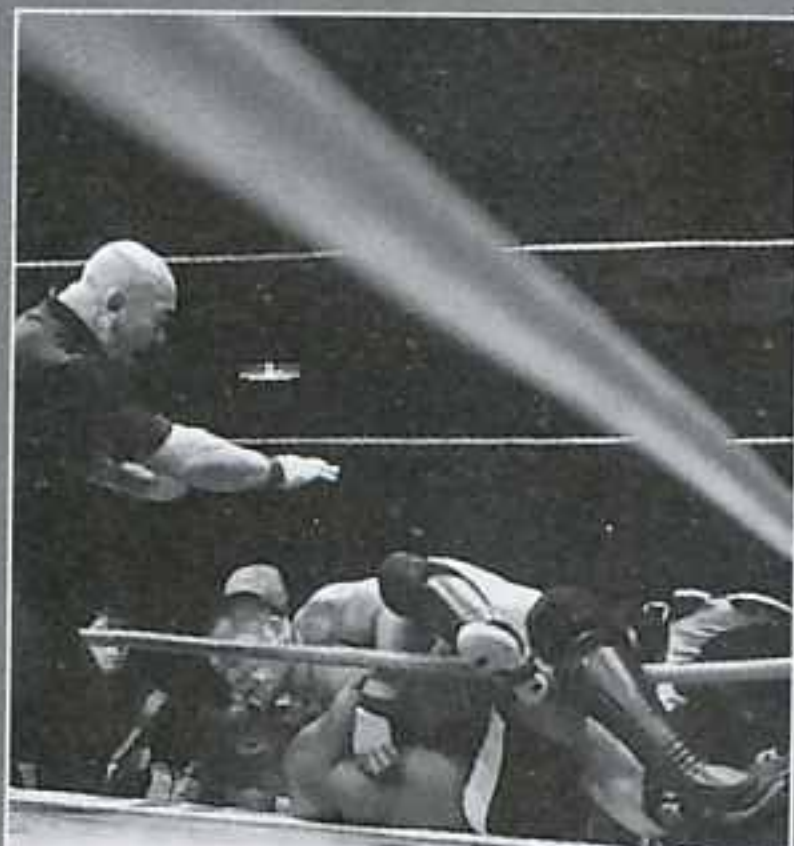
【7月18日（現地時間）／アメリカ・シアトル近郊・ベルビュー・ダブルツリーホテルにて収録】

悪夢再び！ TK全治1ヶ月!!

今年4月、まさかの敗戦を喫したギルバート・アイブルに、いささかオーバーワーク気味のTKがリングス8・19横浜大会でリベンジを狙った。しかし、まさかのアクシデント勃発！　暴風のようなアイブルを捕まえ、投げにいった瞬間、両者はもつれあったまま同体でリング下に転落。が、TKが立ち上がってこない。リング下に落ちた際、本部席の椅子と机に挟まれる格好で両手首と右足首を負傷してしまったのだ（後日のリングスからの発表は右手首靭帯損傷＝全治1ヶ月）。

TKはファイトの続行が不可能となったが、「アクシデントによる試合中止は、そこまでのポイントによる」というルールにのっとり、それまで優勢だったTKの勝ちという裁定がくだされた。TKのケガの説明がすぐになかったために館内からブーイングが起きたが、これはTKには罪はない。

よほどTKはアイブルと相性が悪いのか、アイブルが測定不能なほど強いのか。TKのケガが完治した時点での決着戦がのぞまれる。

そしてTKが絡むUFCヘビー級のタイトル戦線への影響はどうなのか？　ケガの回復と今後が注目される。

シアトルの怪物トレーナー ケビン・ヤマザキとは何者か?

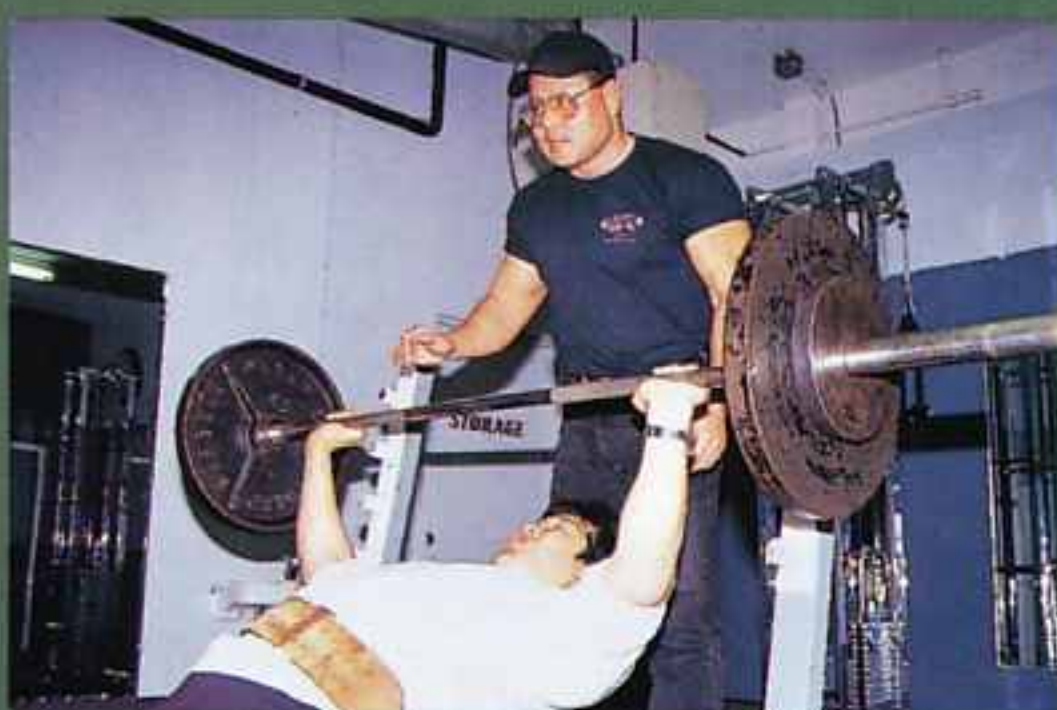
ケビン・〝ノボル〟・ヤマザキ氏。本誌鬼畜編集長と1字違いの名を持つ、シアトル在住の名トレーナー。
この名は、プロレスファンなら、もうすでにご存じだろう。
カレリン戦前の前田日明、M・コールマン戦前の髙田延彦、髙阪剛、モーリス・スミス、K―1ファイターのフランシスコ・フィリョ、グラウベ・フェイトーザ、佐竹雅昭らをサポートしたことはあまりにも有名だ。
そして7月にはリングスの山本宜久、成瀬昌由のシアトル特訓でもフル回転した。
このケビンさん、「スポーツ・スペシフィック・トレーニング」という、世界でも他に類を見ない科学トレの第一人者で、もともとは大リーグやNFLといった怪物的アスリートたちに付いた猛者なのである(詳しくは本誌No.15他で各自調査!)。
しかし、トレーニング方法は科学的でも、ケビンさん自身は測定不能な魅力を秘めた爆発的な人物だ。
今回は、そのケビンさんの爆発的魅力を、そこはかとなくわかっていただけるよう、バ、ババババーッとケビン・エピソード全5選をお届けする。イッツ、オッケー!

ケビン・ヤマザキ EPISODE Ⅰ
幻のホワイト・ケビン(ドクロマーク入り)

▼ノブ兄さんといるときも黒一色のケビンさん

ケビンさんはよくしゃべる。一度話したら、そのダイナミックかつ個性的なケビン・トークには誰もが虜になるはずだ。口癖は「ババーッと」とか「ダ、ダーッ」とかの擬音系と「イッツ、オッケー!」という決めゼリフ。
そして、トークと共に人々の注目を集めるのがそのアクション。一度見たら、そのダイナミックかつ魅惑的なケビン・アクションには誰もが虜になるはずだ。「イッツ、オッケー!」というときに肩をすくめて両手のひらを宙に向けるポーズ(「オー、ノー」ポーズに近い)はまさに絶品である。
そしてトーク、アクションときたら、最後はファッションである。ケビンさんの普段のファッションは黒のキャップに黒のTシャツ、そして黒のジーンズに黒のシューズ。全身黒づくめで統一されている。しかし、自分がトレーニングするときはこれが上から下まですべて白一色になる。しかも、白のパンツにはドクロマークが燦然と輝いているというから実に素敵ではないか。
TK、山本宜久、成瀬昌由はホワイト・ケビンを目撃したことがあるらしいが、本誌は今回のシアトル取材では目撃することはできなかった。残念ですぅ(ケビン調)。

ケビン・ヤマザキ EPISODE Ⅱ
「集中タイムです、カモン!」

ウェイト・トレでも、独特の理論によって選手の能力を最大限に引き出すケビンさんだが、そのかけ声も非常に独特だ。「うまいうまい、カモン!」「行って行って、カモン!」「集中タイムです、カモン!」――そのかけ声にノセられて選手は潜在能力を引き出され、普段出さない力まで出せちゃうというわけだ。
それにしても、「行って行って、カモン!」って「行って行って、来い」ってことか? よく考えたらわけわからないのだが、こんなことをとてつもなく元気よく言われた日には、選手の筋肉だって、いやがおうでも「活性化」するってもんです。
イッツ、オッケー!

▲カレリン戦前の前田日明をサポートするケビンさん

ケビン・ヤマザキ EPISODE Ⅲ
「おい、やめろよ」事件①

アメリカでの話である。屈強そうな外人にイチャモンをつけられ、喧嘩を売られたケビンさん。ケビンさんはまず第一声で「おい、やめろよ!」と忠告した。
それでもしつこくイチャモンをつけてくる相手に、ケビンさんは抱きついてベアハッグの体勢に掴まえ、再び「おい、やめろよ!」と言い放った。なおも暴れる相手に対し、ケビンさんはグイグイッと力を入れ、「おい、まいったか?」と聞いた。すると相手はすでに悶絶状態。この話をしてくれたあと、ケビンさんはこう言いましたね。「あいつきっとアバラ折れてますぅ、イッツ、オッケー!」。怪力ケビンさんの実に心暖まるエピソードである。

ケビン・ヤマザキ EPISODE Ⅳ
「おい、やめろよ」事件②

日本での話です。ケビンさんはお酒を飲みませんが、ある日、栄養のバランスを取るためにメニューの豊富な居酒屋で食事をしていました。すると、トイレでゲロを吐いたばかりの酔っぱらいのあんちゃんが、レジで支払いをしていたケビンさんに肩をぶつけてカラんできました。あんちゃんの目は完全にイッちゃってます。ケビンさんは当然こう言い放ちましたね。「おい、やめろよ!」。
そして続けてこう言いました。「今度やったら押すぞ」。忠告したにも関わらず、あんちゃんは再び肩をぶつけてきました。
するとケビンさんは、「今度やったら押すぞ」の言葉通り、あんちゃんをホントに「押し」ました。あんちゃんは押しただけなのにドアまでスッ飛びました。次に胸ぐらをクイッと掴み、「おい、まいったか?」と言おうとすると、なんと胸ぐらを引き寄せた勢いで、あんちゃんの顔面はテーブルにノメリ込んでしまいました。
そしてケビンさんは、悶絶する相手にこのセリフを吐くのを忘れませんでした。「おい、まいったか?」
このように怪力ケビンさんの武勇伝は、「おい、やめろよ!」に始まり、「おい、まいったか?」で終わります。イッツ、オッケー?

ケビン・ヤマザキ EPISODE Ⅴ
「おい、やめろよ」事件③

ケビンさんが、あるとき駅のホームの階段を昇っていくと、なぜか目の前にチ●ポを見せた男がいた。オカマかゲイか?(一緒か?)。しかし、ケビンさんは、冷静にこう忠告したね。「おい、やめろよ!」。
それでも男はチ●ポを見せびらかせながら、しつこく追ってくる。あまりにもそのしつこさに、ケビンさんはガバッと男のチ●ポを握り、再び「おい、やめろよ!」と言った。それを勘違いして男は色目を使ってモーションをかけてくる。するとケビンさんは男のチ●ポを掴んだ手に、ババババーッと思いきり力を入れた。
「おい、まいったか?」そう言って男の顔を見ると、すでに男は白目をむいて悶絶していたという。チ●ポを握り潰した男。怪力ケビンさんの実に心暖まるエピソードである。

▼読者の間でもケビン熱は高まるばかりである

No.16号では、みんなが前田日明に走るので、私この人を独占します。ズバリ言って!
かわいい顔して瀬戸わんや江戸っ子ケビンさん
大感謝!! ファン一同より

どーですか、お客さん! ある意味で日本マット界の救世主的な存在になったケビンさんの心暖まるエピソード全5選、気に入っていただけましたか? 本誌では、シアトルの怪物・ケビンさんにこれからも注目していきます。行って行って、カモン! 集中タイムです、カモン! イッツ、オッケー!!

※この「ケビン・エピソード」はシチュエーション等に多少フィクションが入っています。イッツ、オッケー?

イッツ、オッケー!
ケビンさんに
集中タイムです、カモン!

「破壊する!!」

Q 12月の小川戦があれば?

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、ダアコ〜ヒッ!
SPECIAL

山本宜久 活性化宣言!!

構成／チョロ
text by Choro

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／モーリー・タカヒーロー
photographs by Takahiro Mori

小川戦を見据えシアトルへと旅立ち、打倒小川に向け猛練習を行っていた山本のもとに、急転直下「山本vs小川」延期という一報が入った。帰国後、落ち込んでいるかと思われた山本だったが、どっこい山本は元気だった。そして、飛び出したヤマヨシリングス活性化宣言! イッツ、オッケー!

ボクはどこか痛かったら、そこからトレーニングですから！

―山本さん、率直に言ってシアトルでは何が一番良かったですか？

山本　やっぱ、ケビン（ヤマザキ）さんとかね（笑）。

―ガハハハハ！　マイブームですか、ケビンさんは？

山本　人間的な生き方ですね。

―まぁ、ケビンさんに影響されてね、帽子も被るようになったみたいだし。

山本　そうですね。ケビン流で（笑）。これ（帽子）、被るとトレーニングのスイッチが入るんですよ（笑）。いや、これホントなんですよ。

―ホントですか？

山本　だから例えばね、重いヘビーなスクワットやる時は赤いタンクトップの上下でやるとかね。背中やる時は青のタンクトップでやったりとか。それで、帽子を被ると。あとは帽子を前に被ったり後ろに被ったりと。コレでスイッチが入るんですよ。マインドコントロールですよ。

―あっ、なるほどね。

山本　ってケビンさんが言ってました。

―ケビンさん直伝（笑）。

山本　でもまぁ、今回は、ボク専用にトレーニングメニューを作ってくれたんですけど、最初は半信半疑だったんですよ。シアトルでケビンさんに会って、お互い意見交換してたんですけど、「前回トレーニング失敗したんですよ」って言ったら、「あれは前田さんのメニューで、山本さんのメニューじゃないですから」って言われて。今回は体重を増やしつつ、スピードを強化していくメニューだったんですよね。

―それはレスラー&格闘家にとって夢のようなメニューですね。

山本　後で聞いた話だと、初めてのことらしくて、今までに前例がないトレーニングらしいんですよ。

―ケビンさんは、いとも簡単にできるようなこと言ってましたけどね。

山本　（ケビンさんのモノマネで）「大丈夫ですヨ～！」って言ってたんですけど、後で成功してから「あ、初めてなんで」って言われて（笑）。「まさかこんなに成功するとは思わなかったよ！」って。

―アバウトだなぁ、ホントに。「イッツ、オッケー！」の世界ですね（笑）。

山本　今回は、アメリカンフットボールのオフェンスってあるじゃないですか、攻撃の。あれのトレーニングメニューなんですよ。筋肉の第一エネルギーでやるトレーニングは、そのオフェンスラインがやるんですけど、それプラス、スピードをつけるトレーニング入れると、アメリカ人は2日で帰っちゃうらしいんですよ。「こんな練習はヤダ！」って。

―だって、ケビンさんビックリしてましたもん。二人で話している時に「もう山本さんは、ある種のキ●ガイだね」って気味悪がってましたよ。「なんであそこまでやらなきゃいけないの？」って。アメリカ人じゃ絶対にやらない。痛かったら痛いで、すぐ止めちゃうらしいですからね。

山本　ボクは痛かったら、そこからトレーニングですから！

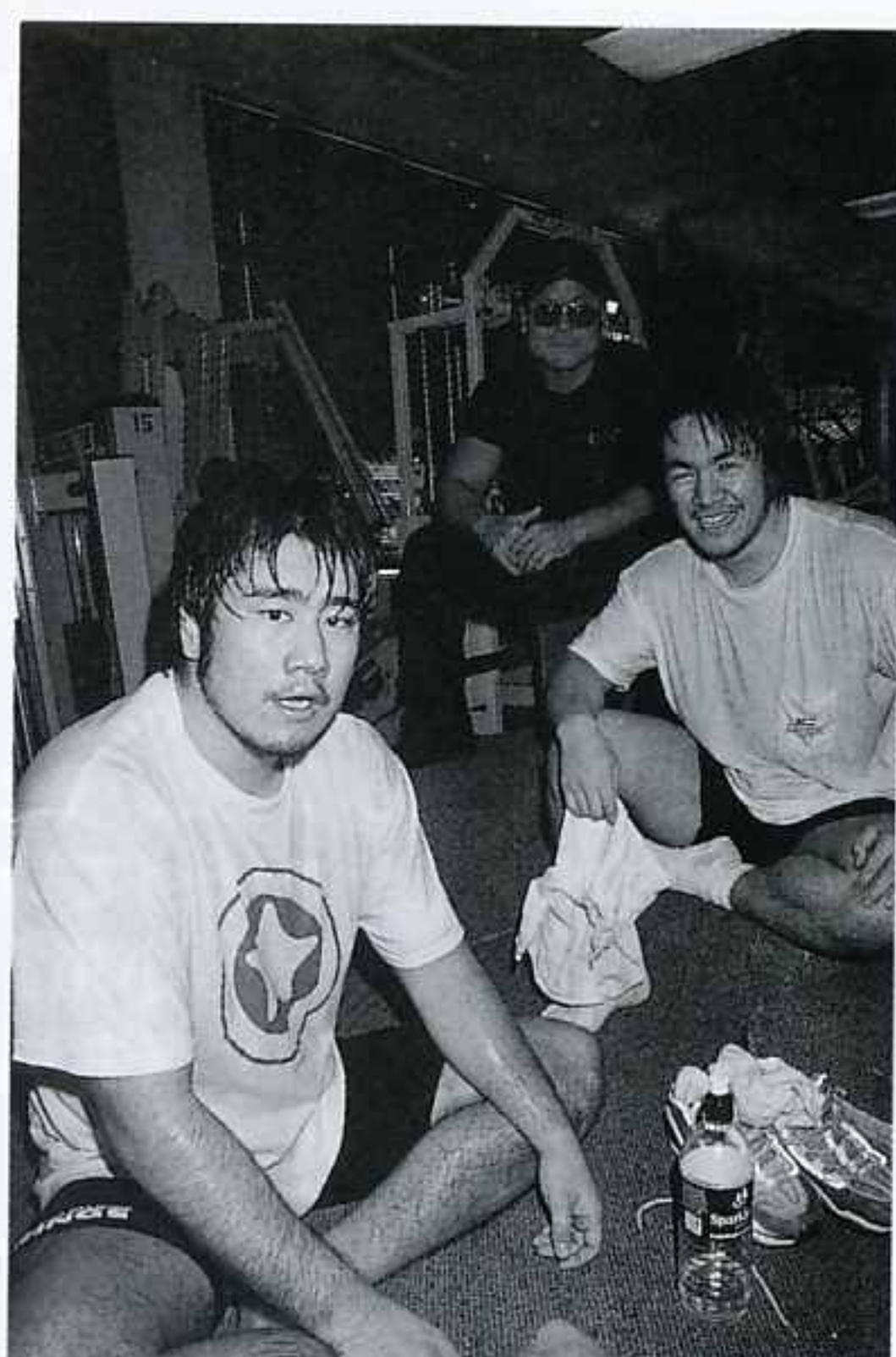
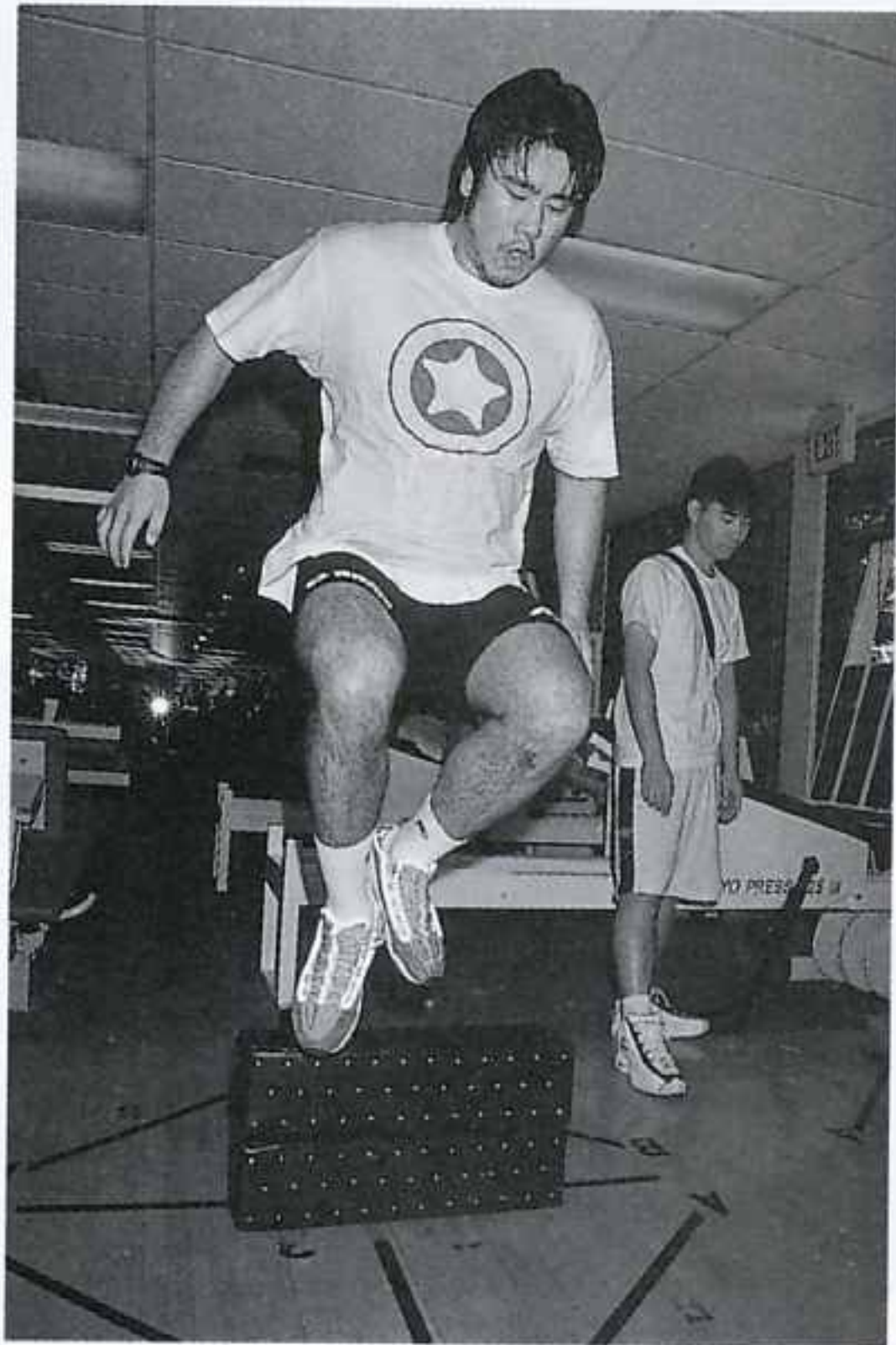
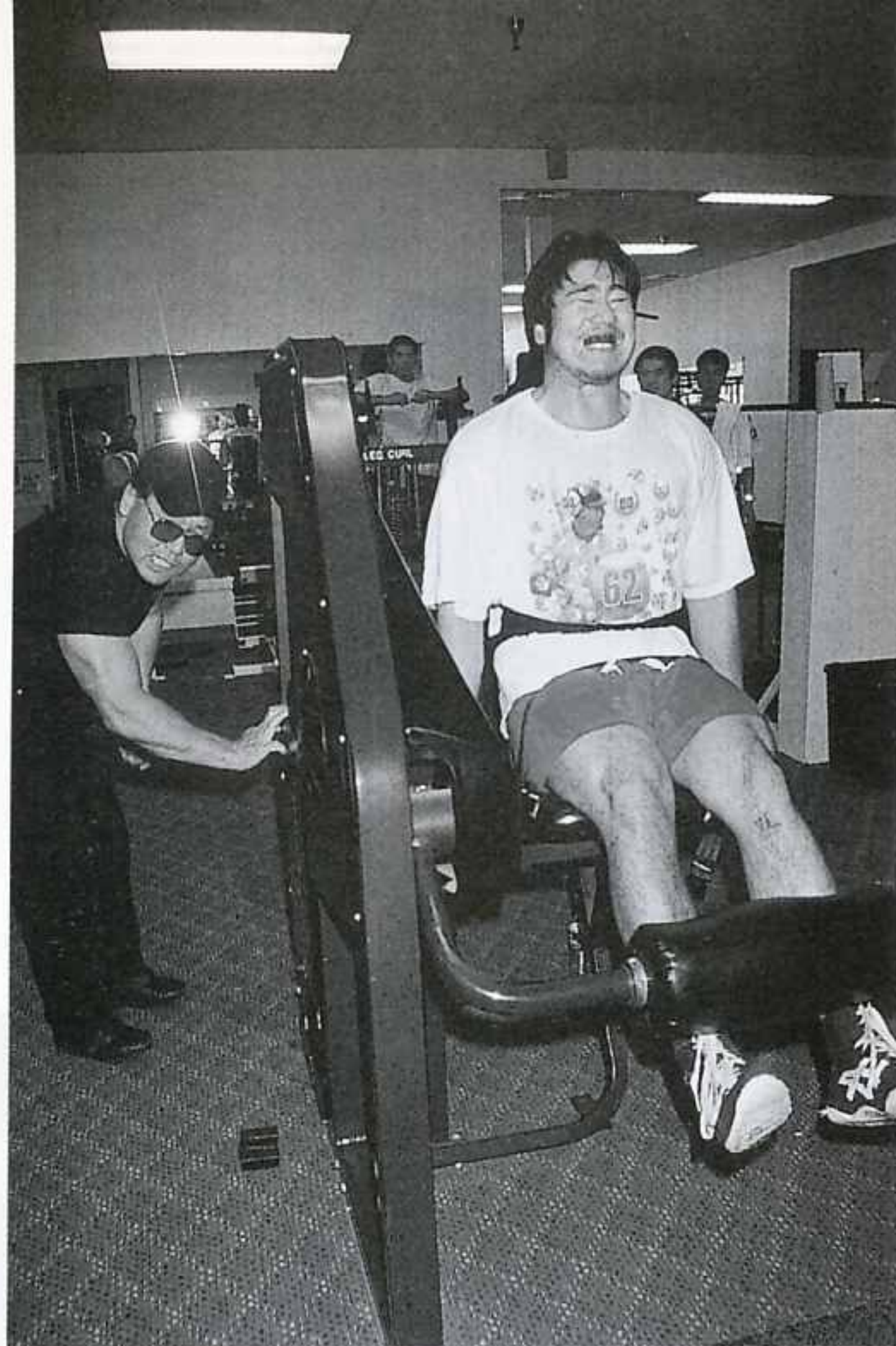
―うわぁ、それは「前田イズム」と解釈していいんでしょうかね（笑）。

山本　どうなんでしょうね。休めばいいんですけどね。腰痛いなぁと言いながらヘビースクワットをやると。

―前田さんもシアトル行った時はそうだったらしいですね。

山本　前田さんも、足の筋がキレてから走りましたからね（笑）。

―やっぱり、そういう部分では非科学的ですよね。だからアメリカの人では考えられないですよね。ホントは、そういうケガで痛いところがあったら、止めたらいいんですけど、日本人はど

爆走！ヤマヨシ!!

スーパー・トレッドミルで爆走するヤマヨシ。体重を上げつつ、なおかつスピードを落とさないというケビンさん流肉体改造法「スポーツ・スペシフィック・トレーニング」の一環である。ヤマヨシはいつ何時どんな練習でもすさまじい叫び声を上げ、片っ端からこなしていった。小川戦が流れてしまったヤマヨシの次の試合は9・15後楽園でのヴァレンタイン・オーフレイム戦に決定！　たまりにたまったヤマヨシの情念がオーフレイムに叩きつけられるか？　これは見逃せない！

うしてもね、いや、日本人っていうか、たぶん前田さんと山本さんだけだと思いますけどね（笑）。

山本　ある意味、そういう自分に浸ってるんでしょうね（笑）。

——ガハハハ！　でも、そういう部分でなんかスイッチが入ることはあり得ますよね。

山本　それが気持ち一つで全然違うんですよ。「今日は調子悪いなぁ」と思いながら、ケビンさんが「カモン、カモン！」って言うじゃないですか。「カモン、カモン！」って言われたら、ボクも「ウンウンやろう」ってなるじゃないですか。やっぱり「気持ち」一つなんですよね。

——その「気持ち」って部分が、さっき言った「前田イズム」っていう言葉に集約されそうですね。

山本　どうなんでしょうね。

——本当にその「気持ち」って部分で言うと、今の格闘技界全体がやっぱり科学的な方向にいってるじゃないですか。ボクはその中で、前田さんとか山本さんとかの「気持ち」を大事にする選手は凄く貴重だと思うんですよ。

山本　ああ、そうですか。

——やっぱり、ある種「ロストワールド」的な部分があるし、だからこそ見たいっていうか、カードにも意味が出てくるっていう部分もあると思いますけどね。そういえば思い出しましたけどシアトルでは、とにかくよく食ってましたね（笑）。

山本　食べるか、ケビンさんとのケビントークか、寝るかどっちかでしたね。2時間置きに食べてるか、ケビンさんに合わせて3時間話してるか、トレーニングしてるかって感じですからね。

——それか寝てるか（笑）。

山本　そう、寝てるか（笑）。だから睡眠時間はそんなに取ってないんですよ。だから毎日、正味6時間ぐらい寝たのかな。

——だって、午前中にまずウェイトやって、科学トレーニングを終えて、それで次にまたウェイトですよね。

山本　そうですね。それで最後にモーリス（スミス）のとこに行ってスパーリングですね。

——それかチューブトレーニング。

山本　そうですね。

——そういったトレーニングを全般的に振り返ってみて、やって良かったと思いますか？

山本　う〜ん。

——なんでそこで考えるんですか（笑）。

山本　成果はありましたよね。

——具体的にどういうところが変わるんですか？

山本　だから、最初は体重を10キロ増やすって予定で行ったんですけど、最初の1週間で全然増えないんですよ。ケビンさんと話しても「もうちょっと待ってくれ！」って言うんですよね。で、1週間経つと、もう全身ガクーンとくるんですよ。今まで味わったことのない筋肉痛で身体が動かない。それで1週目過ぎたぐらいから1日ごとに体重が上がる。250グラムとか500グラムずつ増えてるんですよ。それが楽しみでね。毎日毎日計ってたんですけどね。

——密かな楽しみ（笑）。

山本　面白いですよ。普通考えられないでしょ。ケビンさんのトレーニングって、普通に聞いたらハチャメチャなんですよ。

——科学トレーニングなのに（笑）。でもTKが言ってたけど、やっぱり頭も疲れるらしいじゃないですか。

山本　そうですね。頭も疲れる。

——むやみやたらに筋肉増やしたり、運動量増やしてるだけじゃないんですからね。

山本　違うんですよね。

——（感心して）凄いよなぁ。

山本　だから250グラムずつ増えていってるじゃないですか。それでモーリスとかローマン（ロイドバーグ）とグラウンドのスパーリングやってるときに、「今日はオマエ何キロだ？」って言われて、「いや、今日は101キロだよ」と言って。2日目に、「今日は何キロなんだ？」って言って、「今日は101・5キロだ！」って言って、やるごとにパワーが全然違うんですよ。だから最初は普通にスパーリングやってても、次からはだんだんやるごとに、片手で振り回したり、もう彼は全然子供扱いと一緒になってきて、しまいには「もうお前とはやりたくない！」って（笑）。

Who's Real Hero? リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ！ SPECIAL

「山本さん、あなた人間ですか？」（byケビンさん）

——ガハハハ！　怪物ですね。

山本　「俺はメシ食うから、もうお前とはやりたくないから」って。

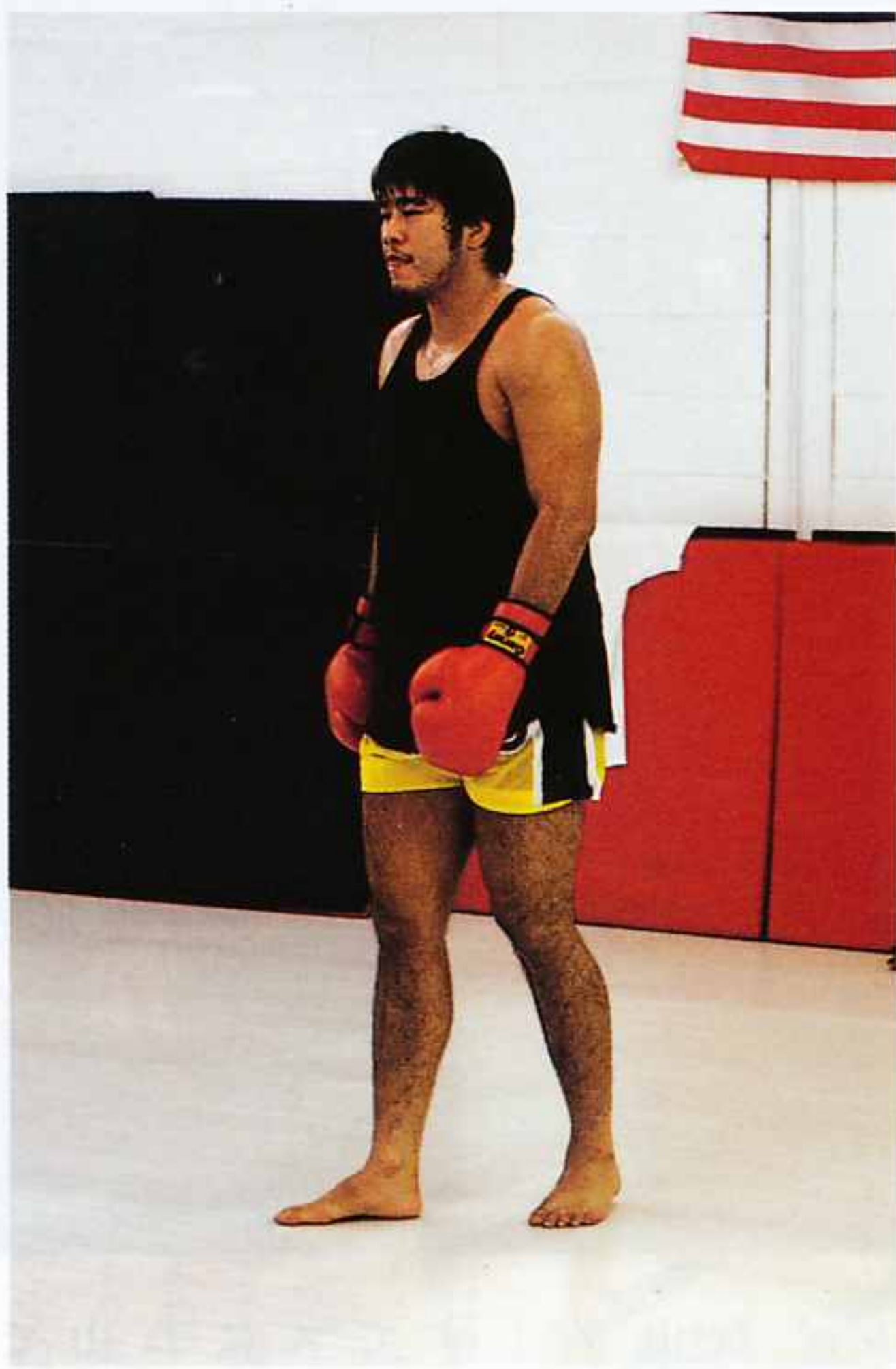
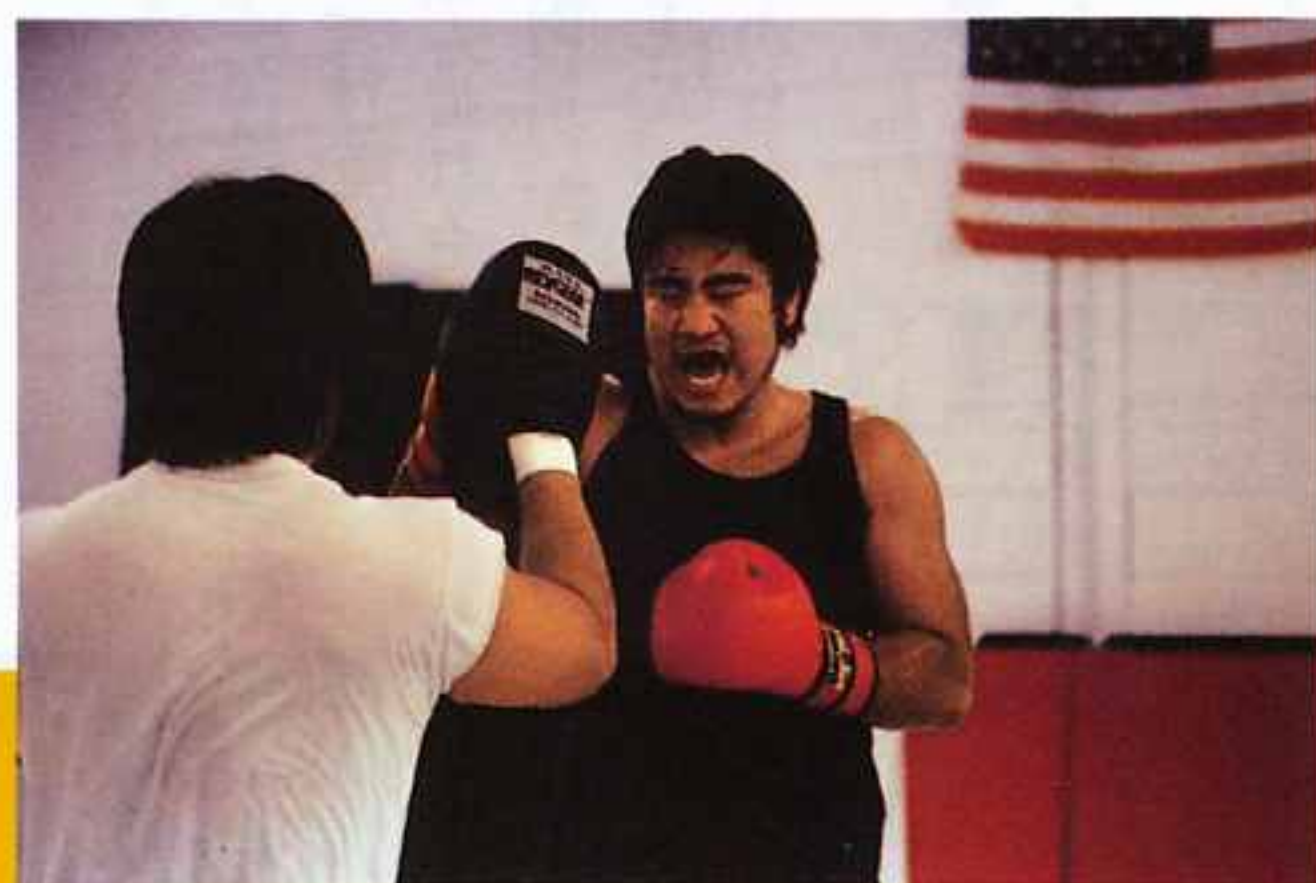
——自分は強くなっていくというのが実感としてあるわけですね。

山本　そうですね。やってくうちにどんどん自分にこう「ハアッ！」っていうのがね。漲ってくるんですよ。

——それはいいですねぇ。それで体重は増えていきつつも、スピードは全然落ちていないと？

山本　これがスピードは落ちるんです。

——えっ！　落ちちゃうんですか？

山本　落ちてるんです。だから最初にスピードトレーニングやってても、すぐに結果はでないんですよ。2周目ぐらいのときに体重は104ぐらいまでいったんですけど、体が重かったんですよ。全然スピード出ないし、スパーリングやってても、まず心肺系の方が、あんまりトレーニング出来てなくて。まだそっちの方はスケジュールの後半に持ってったんで、まず体重なんですよ。体重を

宣言!!

増やしてから、スピードと有酸素系に入る予定だったんですね。だから体重増えたはいいけど、スピードとスタミナですよね。スパーリングやるだけでもキツイんですよ。

——なるほどね。でもやっぱり、それから徐々に変わってくるわけですか?

山本　それはね、苛立ちがあるんですよ。TKとスパーリングしてても、5分3ラウンドやるんですけど、1ラウンド目は元気があるからいい。だけど2ラウンド目やると、もう心肺機能がついていかなくって、「ちょっと待ってくれ!」とか言って3分くらい休憩とって。「じゃ、やろうか」となっても全然スタミナがついてかないんですよね。それでケビンさんと話してて「体重増えたはいいけど、スピードとスタミナつくんですか?」って言ったら、「ボクを信じてクダサ〜イ!」って言うんですけどね。

——「イッツ、オッケー!」って(笑)。

山本　とにかく「ボクを信じてクダサ〜イ!」って言うんですけどね。実際初めての試みなんで、ボクだって不安じゃないですか。

——それでシアトルにいながら、UFCの方にも行きましたよね。セコンドから見たUFCはどうでした?

山本　UFCですか?　なんかアレですね、学芸会のハリボテあるじゃないですか?　ハリボテの裏に回った感じなんですよね。意外と凄くちっぽけなリングなんですよ。そういう感覚なんですよね、空間が。なんか、でっかいビジョンがあるんですけど、それ越しに見ると、モノ凄く華やかなんですよ。演出が上手いなと思いましたね。お金をかけずにテレビ映り、テレビの華やかさを出すって言うところはビックリしましたね。あとはもう、例えばリングスの裏の控室とは感じが違いますよね。なんかこう、試合やる選手がウロウロしてるし、なんかシビアな感じじゃないんですよね。

——みんなリラックスしてますからね。

山本　みんなリラックスしてるし、TKも、ウチのリングスの試合のTKと違うなと思いますよね。

——あぁ、そうですね。

山本　リングスだと結構ナーバスになってるんだけど、あっちのUFCだと、結構アイツ、あんまり研究もしないんですよ。なんか今から道場へスパーリングやりに行くような感じなんですよね。

——「ウッシャーッ!」って感じじゃないですもんね。

山本　ないですよね。「じゃ行くか」って(笑)。あんまり気合い入ってないですもんね。だから、どうなんでしょうね。

——オクタゴンの闘いはリングスタイルと比べてどうでしょうか?

山本　まぁ、UFCっていうのは勝てばいい世界だなと思いましたね。だから勝負論ですよね。それで結果さえでれば、その選手はどんどん上にあがれる。お客さんとかを無視した闘いですよね。だから、ある意味シビアであり、ある意味お客さんはアレで面白いのかなって思いますね。なんかこう開催する土地がすっごい田舎じゃないですか、アイオワって。ビックリしましたよ。

——アイオワに訴えられますよ〜(笑)。でも、飛行機降りたら、畑ですからね。

山本　3時間掛けて行って。それもプロペラ機ですよ。そんで着いたら、牧場の牛のクッサ〜イ臭いがするし、「大草原の小さな家」みたいですね。周りは草だらけで何もないですよ。

——「大草原の小さな金網」って感じでしたよね(笑)。

山本　そうそうそう(笑)。

——TKの闘いぶりはどうでしたか?

山本　TKはノビノビとやってましたね。最初は押されてたんですけど、TKのいいところっていうのは、決定的なダメージをもらわないってことなんですよ。自分が下になったときに絶対に悪いポジションにいないっていうことですね。だから決定的な顔面パンチをもらわないんですよ。そういう防御っていうのはモーリスジムでかなり特訓してるなって感じましたね。それに相手もレスリング出身なんでね。テイクダウンも巧いじゃないですか。そっからの展開っていえば殴るしかないしかないんで、それを最小限しかTKは顔面にもらってないんで。結局、最後は向こうの根性負けですよね。

——TKは押されてるように見えても、相手の攻撃をうまくずらしてますからね。でも無名ながら相手も強かった。ああいう選手を見ると世界は広いなって感じがしますよね。それとも「俺ならもっと行けるぜ!」って感じですか?

モーリスジムではケビンさんの指導のもと、ヤマヨシ肉体改造トレーニングが行われた。シアトルでのヤマヨシは、とにかくよく食べ、よく叫び、よく寝むり、よく練習をした。VIVAヤマヨシ!　ヤマヨシがヤマヨシらしい闘いをする日はもうスグだ!

山本　とにかく「ボクを信じてクダサ

──みんなリラックスしてますからね。

よね。だから、ある意味シビアであり、

もっと行けるぜ！」って感じですか？

小川さんは、スケール大きいこと言ってるわりに意外と小さいんですよ！

山本　どうですかね、やってみないとわからないですよ。ただ、あそこはアイオワのお祭りみたいなもんですよね。まぁ、地元住民が結構盛り上がってて、街中がお祭りみたいなもんですよ。

──格闘技の見方っていう部分では、やっぱり日本のファンの方がしっかり見てますよね。

山本　そうですね。だからこう、なんて言うのかな。向こうは相手を殴ったり蹴ったり、そういうので結構沸くんですよ。やっぱりエグイことに反応しますよね。

──そうですよね。

山本　ヒジとかね。それでグラウンドのちっちゃな攻防とかは、あんまりわかってないみたいですね。そういうとこはやっぱり日本のファンの方が凄く認識的に勉強してるなって思いますね。

──逆にその分、やる選手は大変でしょうけどね。ファンのニーズの部分がね。

山本　それがやっぱり、お客さんとの闘いですよね。

──ところで正直言ってどう思ってるんですか、小川直也戦の延期を聞かされたときの心境っていうのは。何度となく聞かれたと思いますけど。

山本　あんまり……、レッドゾーン超えちゃうんでね。まぁ、どうなんでしょうね。

──まぁ、左拳負傷という理由があって山本さんも「全治2週間だったら唾つけてみようかな、俺」っていろいろ発言してましたけど。

山本　あんまり言うとねェ、またアレなんでね（笑）。

──でもやっぱり正直言って、ぶっちゃけた話しちゃえば、「コンチキショー」って感じが大きいわけでしょ？

山本　「チキショー」って言えば、もうやるって決まってましたんでね。

──やっぱり茶化されたというか、そういう気分はありますか？

山本　そうですね。いや、向こうのUFOの川村社長が「やる」って、ウチの、リングスまで来て言ってましたたんで、ボクもあると思ってましたけどね。それをだから、いろいろ小川さんも発言してたんで、「ああ、じゃあ、やれるのかな」と思ってましたんでね。それで「巌流島」とかね、そういう風に話をすり替えて、もう茶化されるとね。ちょっと違うんじゃないかと思いますよね。

──ああ。

山本　あれだけ言っておいて、怪我して「ベストコンディションで臨みたい」とかね、高校球児じゃあるまいしね。

──言ってましたね（笑）。もし12月にやるとなったら、それこそレッドゾーンを超えた闘いになる可能性もありますよね。

山本　（ヤケ気味に）消えるでしょ。

──消えちゃうの？　何いきなり醒めてるんですか（笑）。

山本　消えるんじゃなくて、12月にやるんだったらキレるってことですよ!!

──こういうゴタゴタがあった中で、小川選手に対する印象っていうのは変わりました？

山本　どうなんでしょうね。

──「巌流島でやってやる」っていう発言とかも含めて、何を考えているかわからないっていうイメージは持ったんじゃないですか？

山本　う〜ん、巌流島で何するんですかね？　まぁ、猪木さん的な考えだと思うんですよね。ただ、ボクとは「水」と「油」かなって思うし……。

──えっ、「水」と「油」っていうのは、具体的に言うとどういうことですか？

山本　考え方。

──考え方。う〜ん、そういう派手な話題づくりの部分というんですか？　外側の部分では勝負したくないということ？

山本　いや、小川さんは、いろいろスケール大きいこと言ってるわりに意外と小さいんですよ。ボクは当たり前のこと言って、スケールはデカいんですよ。

──リングスの選手って、そういう系ですよね。わりと実像よりも全然デカいっていう部分がありますね。

山本　人間、スケールはデカくいかないとね。だからホントにリングスのファンには凄く申し訳ないなと思いますけどね。こればっかりはもう、しょうがないんでね。小川さんが、「ベストじゃな

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ！
SPECIAL

ボクはずっと前田道場で育ってますから、他のところは合わないですね

きゃできない」って言われればもう、しょうがないんでね。

―それで、おととい小川さんにインタビューしたんですよ。これからは、『山本選手とは口でやり合いたい』って言ってましたね。

山本　口でやり合いたい？　なぜ口でやるの？　「お前の脳ミソ、目ん玉えぐってやる」とか、そういうエグイ口の攻撃っていうこと？

―具体的にはどうだかわからないですけど。

山本　口じゃなく、身体でやればいいのに。

―試合をやる気があるのかないのかっていうのは確かにこっちにも伝わりきってこないんですよ。山本さんとしては、やっぱり口でやる云々なんてのは、もっての外なわけですよね。

山本　っていうか、これ以上あんまり言いたくないですよね。正直言って。

―あとはリング上で勝負ってことですかね。

山本　そうですね。リング上がすべてなんで。やればどっちが強いか弱いかがハッキリわかるじゃないですか!!

―そうですね。小川戦が延期になったことで山本さんのトーンが落ちてないかが一番心配だったんですよ。せっかくケビンさんのとこまで行って元気になってきたのに（笑）。

山本　せっかくケビンさんのトレーニングやっててね。「どうして山本さんは試合がなくなったのに、こんな練習してんですかねぇ。普通アメリカの人は帰りますよ」って言ってましたね（笑）。

―言いそうですねぇ（笑）。

山本　「荷物まとめて帰りますよ」とか「あなた人間ですか？」とか言うんですよ（笑）。

―ガハハハハ！　怪物呼ばわり（笑）。

山本　「まだ体重が欲しいんですか？」って（笑）。

―ガハハハハハ！　とりあえず内面的な元気さは消えてないようですね（笑）。当然、延期になったって聞いたときは一瞬ガクッときたと思うんですけど。

山本　そうですね、ケビンさんが、ガクッときてましたね。

―ガハハハハ！　ケビンさんが、ガクーンときてましたか。

山本　そう、「ボク～露出が少ないでしょうね」とか言って（笑）。

―ガハハハハハ！　露出のことかい（笑）。でもね、こっちはそういう言葉が出てくるだけで安心しますよ。山本さんのトーンが落ちてないってことがわかっただけで。

山本　そうですか？　テンションは活性化しますんで!!

―おお、いいですね。でもやっぱり、ボクが思うに、小川戦が消滅するしないというよりも、山本さんがこれから何をやるかの方が一番デカいと思うんですよ。消滅したら消滅したで山本宜久が何をやってくれるかっていう方に注目が集まると思うんですよ。

山本　うんうん。

―なにか、どデカい活性化をやってほしいですね。山本さんは世界に打って出るぞみたいなのはないんですか？

山本　世界ですか？　う～ん。

―もっと世界中に山本宜久の名前を広めたいとか。

山本　野望ですか？

―山本さんの野望を聞かせてほしいですね（笑）。

山本　世界征服がいいですね。

―それぐらいデカい方がいいですよ。いろんなスタイルとかありますけど、やっぱり山本宜久っていう看板を持って、世界中に広めてほしいですよ。

山本　もちろんそれはね、選手ですから。ともかくリングスを活性化しないといけないですよね。

―活性化ってことはやっぱり、多少沈殿気味っていうのがあるんですか？

山本　いや、これからのお楽しみですよ。リング上が暑苦しくなりますよ。

―リング上が暑苦しくなる。

山本　試合やった相手と2人で酸欠じゃないですか？　もう暑苦しくて（笑）。

―暑苦しいですか（笑）。（ギルバート・）アイブル戦とか決まったら楽しみだなぁ本当に。暑苦しいというか、ムラムラめまぐるしいというか。

山本　アイブルいいですね。あの右フックだなんだ食らったら、脳味噌はじけそうですね。シェイクされそうですよ。

―いや、相手もそう思っていると思いますよ。いやなんかある意味、生臭いというかね。

山本　どっちが香り高いかですかね（笑）。彼は見た感じ、身体が油づいてるし、暑苦しいわ。

―泥臭いというかね。そういう闘って、今のマット界にあまりないですよね。その生臭いというか、泥臭いというか、野生味溢れる闘いというか。

山本　まあ格闘技って本来そういうものですよね。

【8・19横浜】この日は欠場ということでWOWOWの解説を務めた山本。早くリングで暴れてくれ！

――やっぱり山本さんの魅力ってそこにあると思うんですよ。そういう闘い方ができる、いまや数少ない選手ですよね。

山本　泥臭い！

――泥臭い、生臭い、暑苦しい（笑）。

山本　三拍子揃ってますよ（笑）。

――活性化！

――何か最後に、小川戦消滅というか、延期のことを含めて読者にメッセージはないでしょうか。

山本　そうですね、とにかく8月は試合ないんで、9月の試合を見てもらうしかないですね。活性化された、新しい山本を。

――そういえば、モーリスジムではそんなにカルチャーショックは受けなかったんですか？

山本　もう時間にアバウトですね（笑）。スパーリングとかするじゃないですか、それで「今日やろうよ」って言うじゃないですか。「いいよ、ちょっと待ってね」って。その「ちょっと待ってね」が2時間なんですよ。次の日行くじゃないですか。「今日のスパーリングは7時半からスタートね」って言うじゃないですか。「ちょっといま車の、故障を直してるから11時からだったらできるよ」って言うんですよ。夜の11時ですよ！

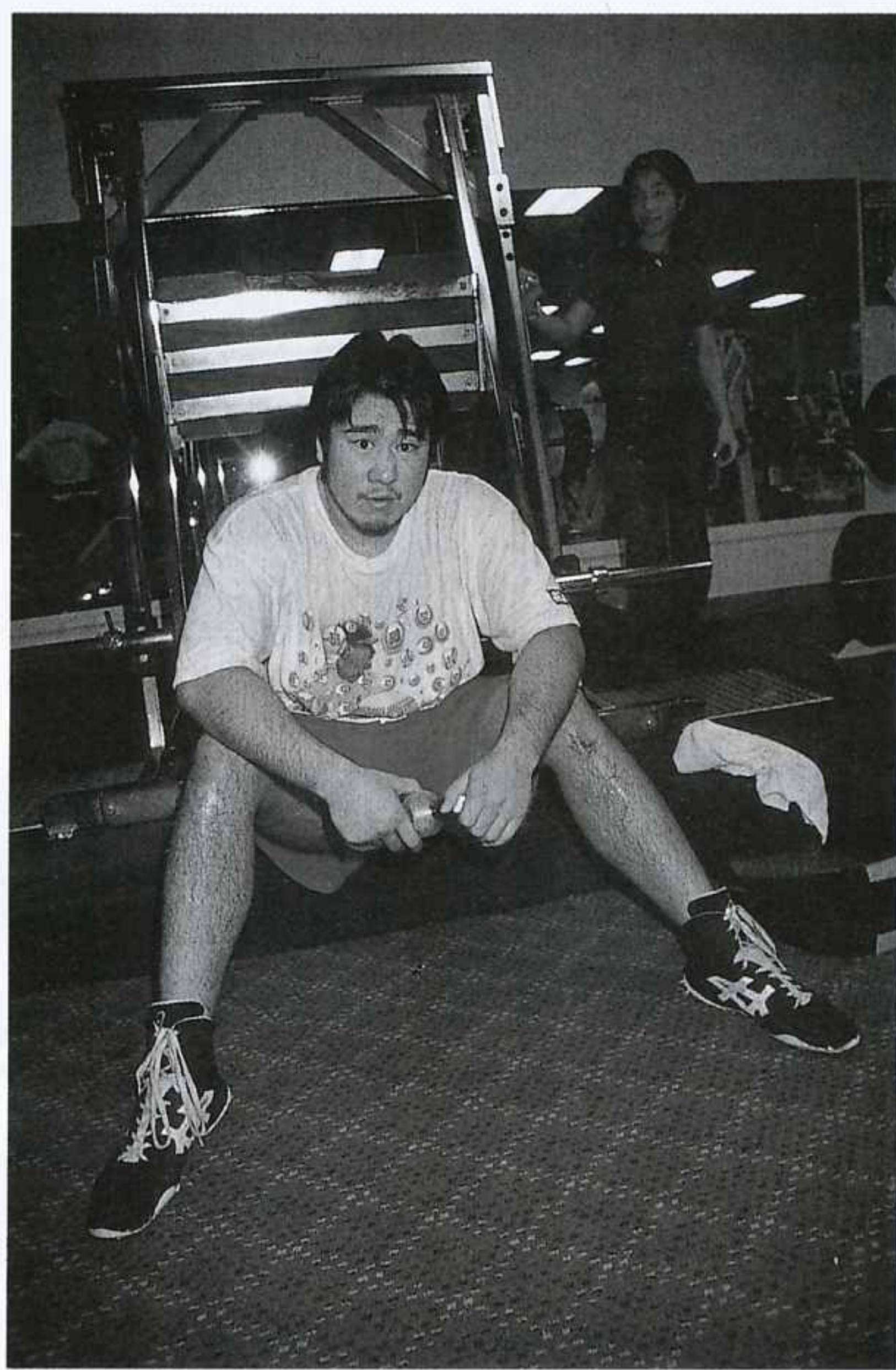
――何もそんな夜中にスパーリングしなくてもしなくてもねぇ（笑）。

山本　思うでしょ？　だから時間が正確じゃないんですよ。もう、ホントにアバウトですよね。

――それとモーリスのところって、プロもアマもあまり関係ないですしね。

山本　関係ないですよ。だからプロの選手だから偉いとか、アマだから偉くないとかそういうのがなくて、ジムが一つの輪になっているんですよね。モーリスもグラウンドとか、弱いものは学びに来るし、逆にそういう壁がないんですよ。

――そういうのは山本さん的にはどうなんですか？

山本　ああ、そういうのは凄くいいなぁと思う。うらやましいとかそういうのはないですけど、ああいうやり方もあるんだなって思いますよね。一つの考え方としていいなあって思いますよ。

――ああいうやり方を日本でやりたいな、とかそういうのはないですか？

山本　ないですね！　ボクはずっと前田道場で育ってますしね。今さらねぇ、合わないですね、ボクには（笑）。モーリスはUFCの闘い方っていう自分なりのモノを持ってて、スパーリングをやっても、例えば「自分がテイクダウン取って、パンチ、ヒジやって、それで判定で勝てればいいじゃないか」って言うんですよ。でもボクはそういうやり方は嫌なんですよ。やっぱり勝つんだったらKOしたいし、一本取りたいしね。選手としてそういう闘い方しても全然楽しくないじゃないかと。でも彼は、『いやコレが負けない闘い方なんだから正しいんだ』って。

――ある種、モーリスの考え方は科学的ですよね。だけど山本さんの考え方は、やっぱり格闘技の根本ですよね。

山本　つまんないですよ。確かに負けない闘い方ですけど、つまんないです。

――今はその負けない闘い方って言うのは、バーリー・トゥードでは多くなってますよね。

山本　う～ん。

――でも、それが主流になったら面白くないなって言うのは山本さんの中でもありますよね。

山本　やっぱりそれはありますね！

――仮に12月に小川戦が実現したら、やっぱり一本取るか取らないかっていう闘いにしたいってことですよね。

山本　破壊する!!

――イッツ・オーケー！（笑）。

【8月12日／横浜・前田道場にて収録】

Who's Real Hero?
リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ！
SPECIAL

長期欠場記念

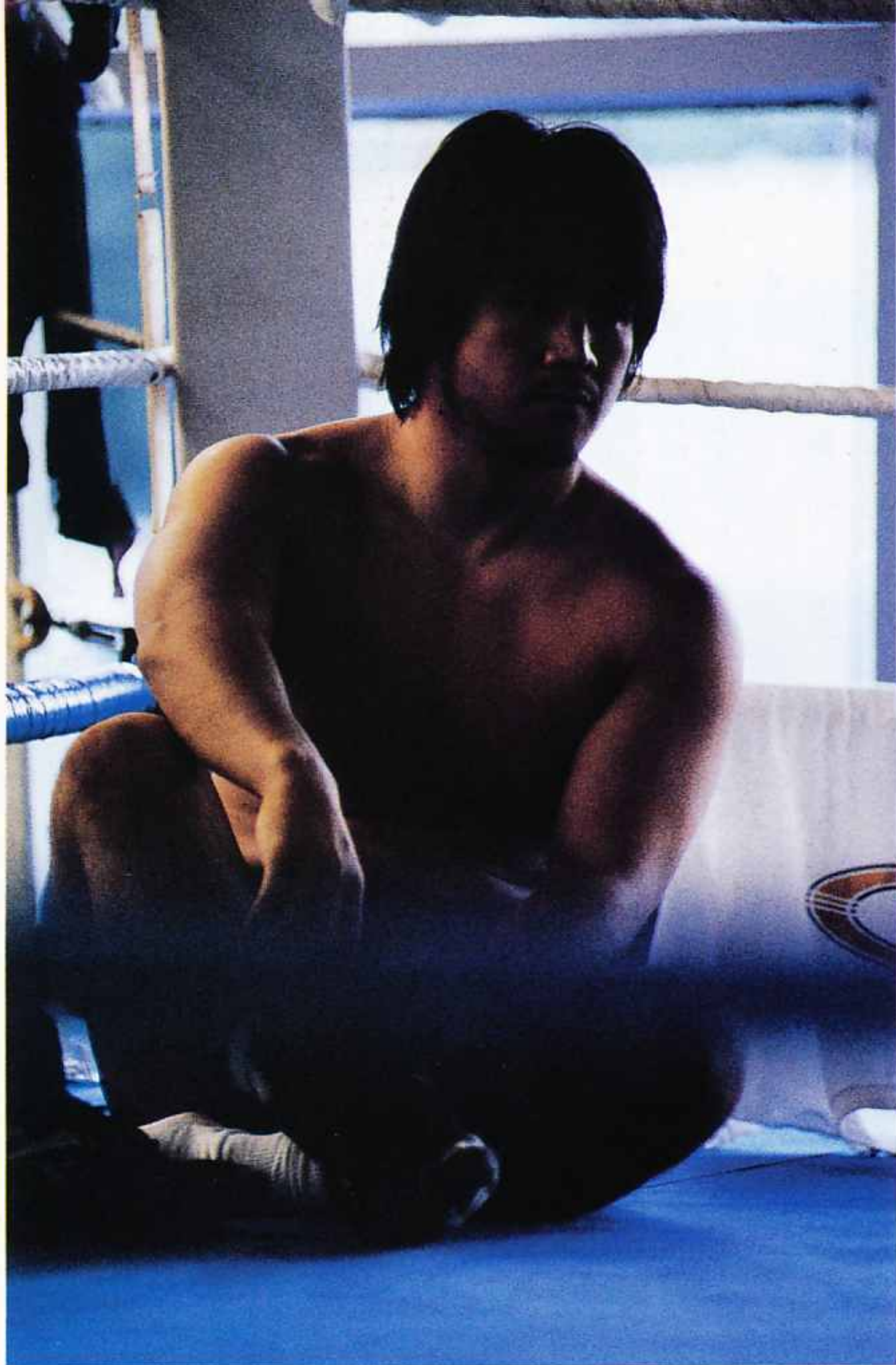
覚悟を決めて、腹を括って身体を直します

成瀬昌由

Masayuki Naruse INTERVIEW

Masayuki Naruse INTERVIEW

中量級トーナメントを呼びかけ、シアトルでは山本宜久の特訓サポートをした成瀬だが、ここにきて衝撃的な発表をした。「覚悟を決めて身体を治す！」――成瀬の今後は、復帰はいったいどうなるのか？　どうするナルセ、どうなるナルセ？

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／トイレの大西さん（仮）
text by Toire no Oni Shian (Kari)
撮影／モーリー・タカヒーロー
photographs by Takahiro Mori

——いや、アメリカぶりです。
成瀬　ご無沙汰してます。
——シアトルはいかがでしたか?
成瀬　山口さんと会ったのは……1ヶ月ぐらい前ですよね。ちょうどそう、まだヒィヒィ言ってた頃ですね（笑）。
——トレーニングが山本（宜久）さん中心のメニューだったんで、成瀬さんにとってはちょっとキツかったんじゃないですか?
成瀬　まあ、俺的には、山本の小川（直也）戦っていうのが、あの当時はあるものだという前提でやってたんで、面白かったですけどね。
——その山本さんを見てて何か印象に残ったことはないですか?
成瀬　印象? いやぁ〜、相変わらずこう、ナイスガイで（笑）。もともと同期だからけっこう同じ部屋にいて、新弟子時代、ずっと同部屋でデビューする前から一緒だったんですけど、久しぶりだったんですよ。あいつと一緒にそういう風におんなじ部屋で……。
——おんなじ時間を過ごすのが……。
成瀬　そう。濃密な時間を（笑）。まぁ、相変わらず勝手な奴って感じですよ。
——えらい濃密そうでしたよね（笑）。
成瀬　ねぇ。もうなんか、夜中起きてもお構いなしに階段はドカドカドカ! トイレの便座はパタン! ジョボジョボジョボ……ポタ! とか。
——ものすごい音だらけ! アメリカに行ってトレーニングするのは気分転換になりましたか?
成瀬　よかったですね。だからできれば、もっとこう……細かいケガとかまだ結構あるんで、セーブした部分もあるんですよ。100パーセントやりたいんだけど、まぁ山本や俺も、選手みんなどっか傷めてて、それをかばいながらやりますから。どっかのエースとは違いますんで（笑）。
——皮肉たっぷりですね（笑）。
成瀬　たかだか全治2週間ぐらいだったら、ウチは大将筆頭にね、ウチの大将はジン帯切れてようが、前十字、後十字切れてようがやりますから。それは別にいい悪いじゃなくて、そういうスピリットですから。
——痛くてもやるのがプロ、ですか。
成瀬　でも、俺、もしかしたら休むかもしれないです! 心と身体を治すために。
——え? どれぐらい?
成瀬　治るまで! ちょっといま、前田さんと話し合ってる最中なんですけど、まあ、「いつからいつ」っていう話は決まってない。アメリカ行ってすごく大事なことに気付いたんです。まあ、気付くのが遅くていろいろな人に怒られたんですけど、いま以上のトレーニング、ハードなことをしなければいけないんですけど、身体がそれにいま耐えられる状況じゃないから。それを騙し騙しやってもジリ貧になってしまうって。いまはホントに昔の経験を糧にして。いまやベテランですから、それだけでいま持ってるようなもんですから。やっぱりそれ以上のものを目指すにはホントにいま以上の努力も必要だけど、それができないっていう、何ともいえない状況になってるんですよ。
——悶々としてるわけですか?
成瀬　いや、悶々としてますよ。だからアメリカ行ってたのは、いい意味で覚悟を……腹を括ることができたと思うんで。まあ俺なりに身体の状況はわかってたんですけども。もっと早めにその治すタイミングもあったんだけど、どうしてもこう、会社の状況とか、あとは俺の納得するしないっていう感情もあったんで。でも今回、アメリカに行ってみて、本当に"ああ、これ以上この先に行こうとするんだったら、やっぱりいまの身体の状態じゃダメだな"っていうのに気付いたんで。いまだったらね、ホントに年内で終わりですよね。いまの状況だったら、俺は。
——一番悪いのはどこなんですか?
成瀬　……脳味噌（笑）。
——誰がそこでギャグを言えっていったんですか（笑）。
成瀬　皺がだいぶ年々……。
——ガハハハ。って笑ってる場合じゃないですよ。
成瀬　いや、まあ脳もよくないだろうけど、そうですね、やっぱり腰とか、エンジンというか中核が悪いんで。とにかく治さないと話にならないっていう状況なんですよ。だから中量級のトーナメントとかいろいろブチ上げたけど、でも、それはいま胸張って言えない状態になってるんですよ。
——実にもったいないですね。
成瀬　でも、腹を括ってるんで! ある意味で覚悟はできてるから! あとは治すだけっていうのがわかってるんで。
——腹を括って身体を治すわけだ。
成瀬　でも、中途半端な覚悟だと治るものも治らない。ある程度は治っても、また中途半端に戻って、また同じことの繰り返しだと思うんですよ。ホントある意味で、世間に忘れられるぐらいの覚悟で治します。
——地下に潜るわけですか!
成瀬　ある意味、そうですね。
——でも、成瀬さんは故障を抱えてることもあるんだろうけど、「いつまでも現役じゃできない」ってよく言ってま

したよね。成瀬さんの若さからすると、「えっ？」っていうようなところあるじゃないですか。

成瀬　そうですよ、俺、26っすよ。

―それだけハードなことやってるってのもあるけど、「まだまだ成瀬、これからやぞ」っていう思いはファンにもあると思うんだよね。

成瀬　そうですね。俺もイヤですね、これで終わるのはね。

―まあ、でも、覚悟を決めて身体を治すことで、取り巻く状況が好転する可能性はありますよね。

成瀬　そうですね。だから俺、いままでのいろんな意味での貯金を全部払ってでもいいから、試合がちゃんとできる、練習がちゃんとできる身体を手に入れて、あとまぁ3年くらいかな……本当にやり残したことをやるためにはね。だから本当にいまある地位も名誉も、そんなにないかもしれないけど、そういうのを全部捨ててでも治さないと、先に進めないっていう。

―あと3年なんて言わずに、あと10年くらいやってくださいよ（笑）。

成瀬　そうですね（笑）。30歳くらいまではやりたいですね。俺、まだ若いから。その分、まだできますからね。言っときますけど、俺はもともとこんなオッサン臭い性格じゃないですよ！

―誰もオッサン臭いなんて言ってませんよ（笑）。

成瀬　ただ単に、ちゃんと結果とか実力が出てないうちから、ああだこうだ言うのは、よくないって言うか好きじゃないから。いまの現状っていうのが自分でちゃんとわかってるからそう言ってるだけなんですよ。

―成瀬さんが提唱した中量級トーナメントの立場はどうなるんですか？

成瀬　いいじゃないですか、やってるじゃないですか、パンクラスの『ネオブラッド（トーナメント）』で（笑）。いいんじゃないですか？　夢がありますよね。この前は豊永（稔）選手が2位でしょ？　もう滑川がめちゃめちゃこうやってますよ（ガッツポーズをする）。

―そうか、豊永選手に勝ってる滑川選手的には希望が持てますね。

成瀬　言ったんですよ、滑川に。「おう、お前、豊永選手が2位だ」「お前、間違いなく決勝戦まで行ける実力あるよ」「お前、出りゃよかったやんけ」って。「そうっすねぇ、ハイぃぃ」って言ってましたけどね（笑）。

―成瀬さんもジックリ身体を治したらいろいろやらなきゃいけないですね。

成瀬　いまから身体を治して、僕がどんどん出て行きますよ！

―バトラーツの日高（郁人）選手は、1回坂田（亘）選手がバトラーツのリングに上がったように、リングス勢が外に出るようになったら、なにかが動くんじゃないかって言ってましたね。

成瀬　「前田さんに言え」って言っといてください（笑）。

―また（笑）。でもこれから、中量級のトーナメント云々ってこと抜きにしても、やっぱ門戸は開かれていかざるを得ないんでしょうかね。

成瀬　もう置いてかれてますよ。ずっと中にいたら。リングスがどうってことじゃなくて、外との交流を拒んでたりすると、それでもいいっていう選手はそれでやっていくかもしれないけど……別に時代に流されてるとかじゃなくて、僕なんかも、いち選手として、身体の動くうちにね。って言ったら、また○×▲チックになるけど……。

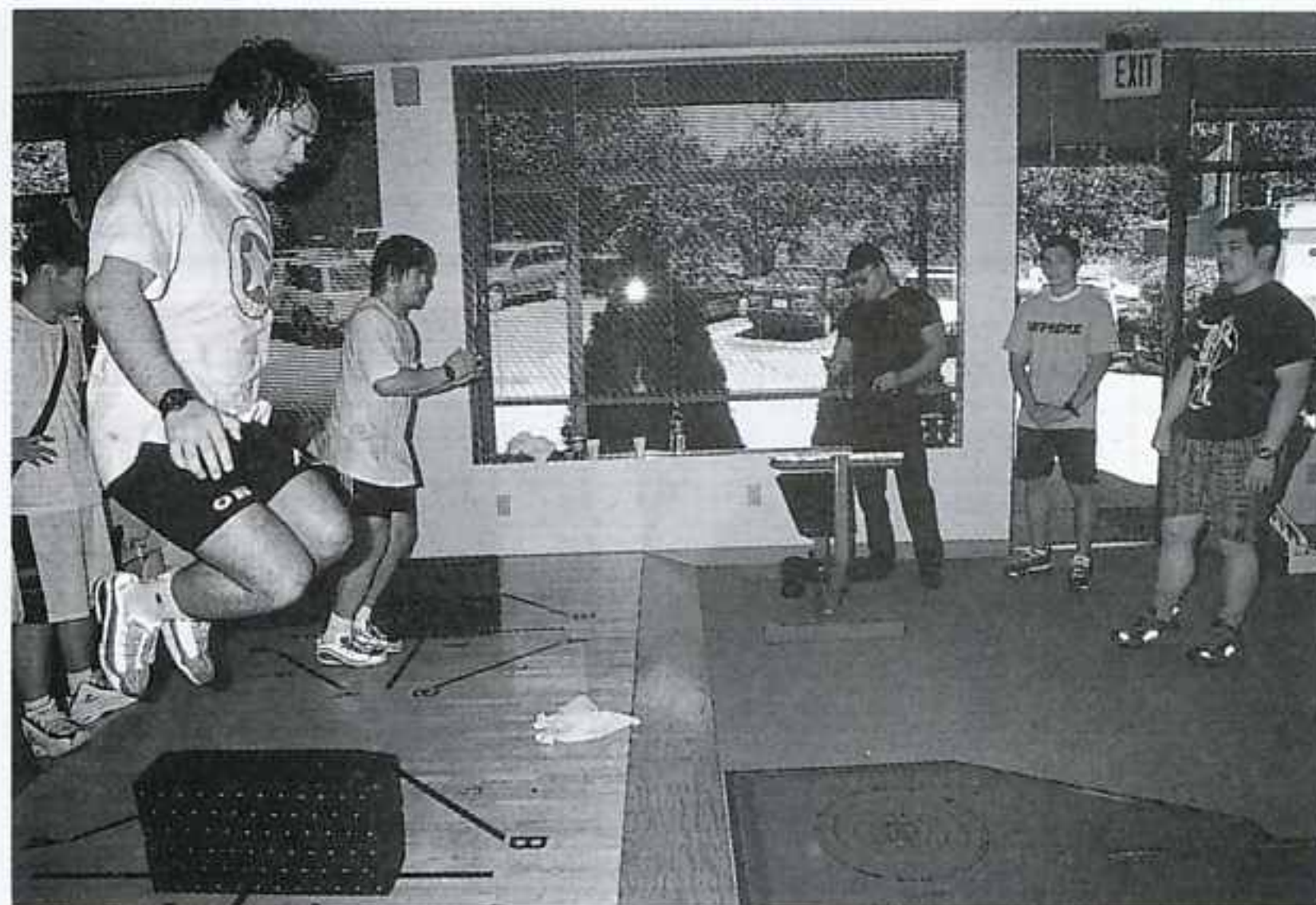
―○×▲チック（笑）。

成瀬　まあ、こんな時代にいるんだから、周りにいろんないい選手いるんだから、やんないと損っていうか、もったいない！

―まあ、成瀬さんの言うように、時間はあるようで限られてますからね。

成瀬　そうですね。そういう意味では、こないだ思ったのが、豊永選手とか小路（晃）選手って、格闘技界の中で強運、星回りがいいと思うんですよ。何でかっていうと、豊永選手はウチでやって、パンクラスに出て、『PRIDE』に出てって。負けたり勝ったりだけど、でもまだ若いでしょ？

―ベリーヤングですよ！

成瀬　ヤングボーイですよね。だからあれくらいの年代で、いま高田道場が興行打ってなくて、試合をやるとした

成瀬は山本宜久と一緒にシアトルへと飛んだ。今回組まれたのは、山本用のトレーニング・メニュー（体重を上げて、なおかつスピードをつける）だったために、成瀬はパートナーに徹していた。前田日明もカレリン戦前に経験したスーパー・トレッドミルを使った科学トレも経験し、ケビン旋風も浴びまくった。復帰後にはなにを見せてくれるのか？

ら、他流、他流じゃないですか。あれ絶対何年かしたら、豊永選手にとってすごい財産になると思うんですよ。たぶん、昔で言えば、ひとつの団体にいると3年かかって学ぶ経験、試合での駆け引きとかを、多分1年ぐらいで学んでると思いますよ。だからある意味、この時代が作り出した、特異っていうか、特殊な状況にいる選手なんだけど、すごい恵まれてると思うんですよ。

——逆に言えば、そういう環境で揉まれないと、これからキツくなってくるってことですかね。

成瀬　いや、別にそうじゃない選手でも、団体の純粋培養で強い人は強いと思うんですよ。そういう人は、現にいますからね。でもやっぱり、あの歳であの経験積んでると、将来恐ろしい。たとえばの話、どんなに弱くてどんなにセンスのないやつでも、他流試合で揉まれてれば、絶対に弱くなるはずがないと思うんですよ。

——純粋培養の選手には純粋培養の強みはあると思いますけどね。

成瀬　だから、純粋培養の、前田道場あがりの僕らが、どうやってもがきながら、この状態から活路を見い出すかっていうのが、また見どころだと思うんですよ。

——いや、すごい見どころですよ。確かにもがいてるように見えますよね、リングスの存在そのものが。総合格闘技界の中で。だけど、溜まったものが爆発したら一番凄いだろうなっていう期待もリングスにはあるんですよね。

成瀬　前田社長に伝えておいてください(笑)。

——全部それか！(笑)。成瀬さんは、頭いいから、これまで客観的に見すぎて一歩引いちゃう部分があったと思うんですよ。

成瀬　六人兄弟の一番下ですから。

——ガハハハ。身体を治したら、我の強い部分をいい意味で出してガンガン行ってほしいですよ。

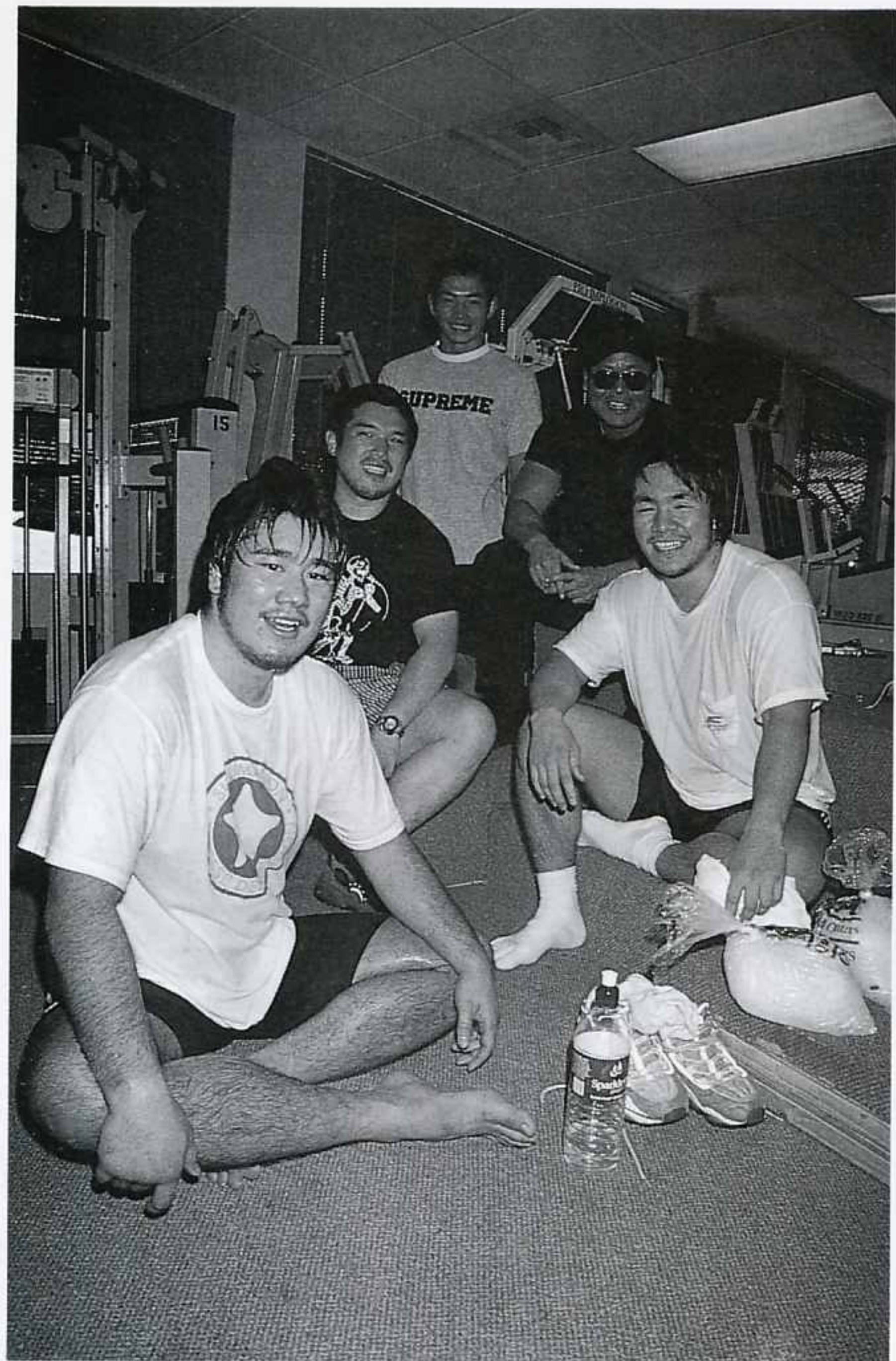
成瀬　そうですね。

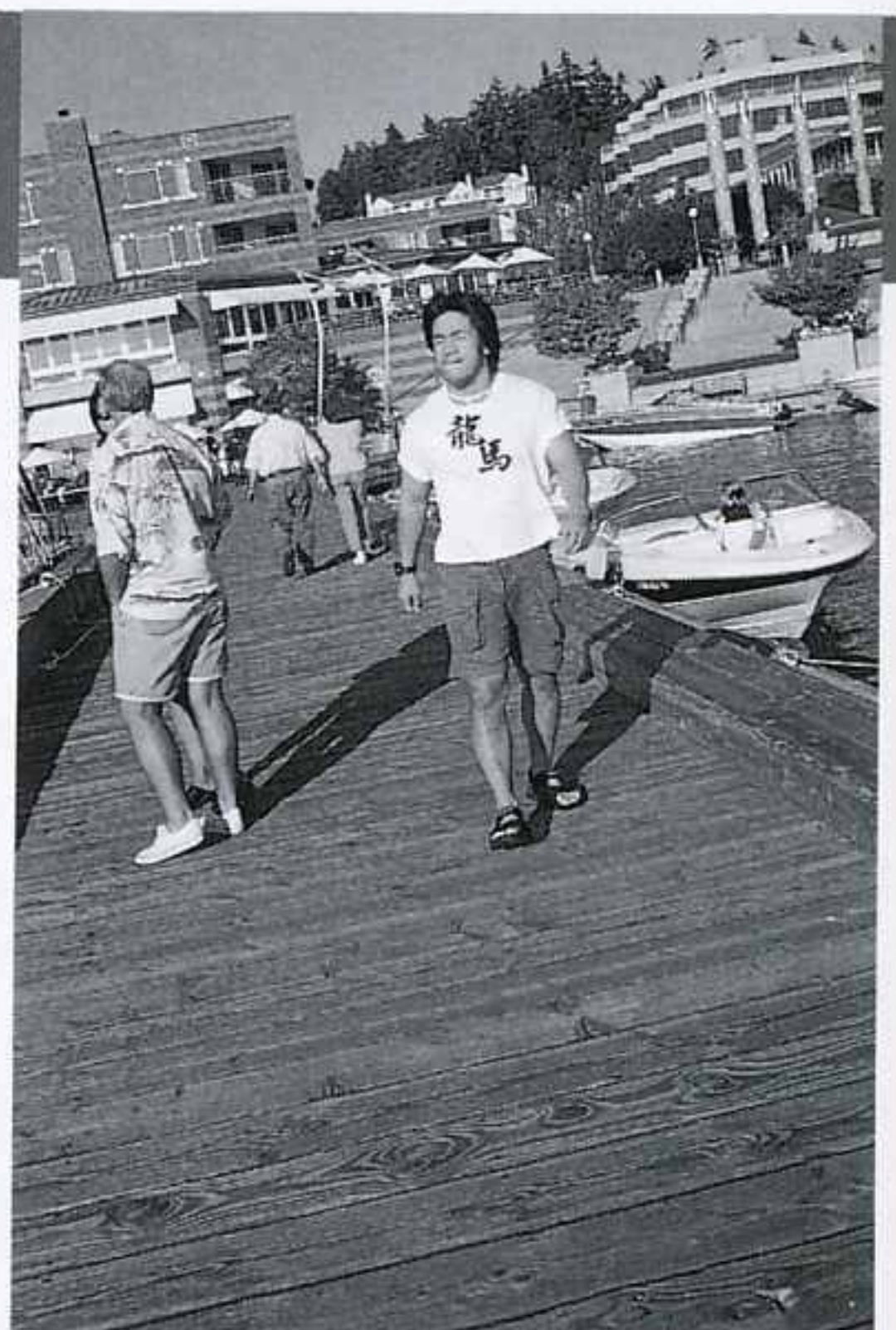
——末っ子として(笑)。

成瀬　あ、今度あれですよ、成瀬兄弟が集まるときが決まったんです。兄が12月ぐらいに結婚式やるから、今度揃うんじゃないですか？　久しぶりに。

——じゃあ、今度写真見せてくださいよ。

成瀬　写真撮って、送りますよ。しばらくは地下に潜るんで。

【8月12日／横浜・前田道場にて収録】

純粋培養の前田道場あがりの僕らが、どうやってこの状態から、もがきながら活路を見出すか。これまた見どころだと思うんで

Who's Real Hero? SPECIAL

※このインタビューの後日、リングス側から成瀬が約6ヶ月の休養に入ることが発表された。そして、8・19横浜。ヨープ・カステルを破り、無差別級王座を防衛した田村潔司は、驚くことに成瀬の持つトーナメント21のベルトに挑戦するという仰天逆指名をしたのだ。「ビックリしちゃいました」というコメントしか残さなかった成瀬が、次に表舞台に立つのはいつだろうか？

覚悟を決めて一旦、リングから降りる、というのも総合格闘技の未来をなんらかの形で語っているのかもしれない。

●さらに後日、成瀬本人から、ファンへのメッセージが届いた——

去年の暮れからズッと腰が悪くて、正直言うと心と身体がバラバラの状態で、ズッとごまかし続けてきたけど、もうそれではゴマカしきれないくらいまできたので、今回の休場となりました。

ファンの皆様には黙っていてすみませんでした。

でも、完全に治るまでリングに戻るつもりはありませんので、しばらくは皆様の前から姿を消します。

特異な人たちは気長に待っていてください。必ず約束します。

それでは、いつ戻るかわかりませんが、また会う日まで。

成瀬昌由

リングス「RISE 5th」8・19横浜文化体育館

幻の『山本vs小川戦』を観客の脳裏から払拭する試合を見せつけ初防衛に成功した田村。次に狙うのは成瀬の持つベルト、ただ一つ！

田村潔司リングス完全制覇宣言!!

「僕が挑戦者になって成瀬選手が持つベルトに挑戦したい！」

リングス無差別級選手権（30分1本勝負）
◯田村潔司（王者）
12分17秒　腕ひしぎ逆十字固め
●ヨープ・カステル（挑戦者）

リーチを賭けられた田村は、カステルを巧みにグラウンドに誘い込み、最後は腕ひしぎで強引に勝利をもぎ取った。試合後、田村は「リングス完全制覇」宣言！

ゴールドバーグ並の超ド級タックルで田村を吹っ飛ばしたカステル。勢いづいたカステルは打撃だけではなく、グラウンドでもポイントを重ね、田村を断崖絶壁まで追い込んだ。

前回も今回も面白くなかった。リングスルールは難しい（金原）

ランキング戦（20分1本勝負）
◯金原弘光
ポイント判定（1.5-1）
●坂田亘

互いに「立ち技でやりたかった」という気持ちとは裏腹にグラウンドでの展開が続いたこの一戦。終始ポジション取りで優位にたっていた金原がポイント差で勝利を収めた。試合後、金原は「面白くなかった。やっぱりボクはオランダ人と殴り合いをしたい」と不満げに言えば、坂田は、「金原さんが入ってから、ボクと滑川が一番一緒に練習してると思うんですけど、練習では30分で2、3回取られたりするんですけど」と、さらっと言ってのけた。この辺は田村イズムか？　さらに、成瀬が提唱した中量級トーナメントが、成瀬のケガにより暗礁に乗り上げたことに対し、「総合格闘技に限らず従来のプロレスの選手でも、同じ意志を持って本気でやろうと言ってくれた人達に失礼ですよ！　それはちょっとオレ的には許せない！　謝罪して欲しいです！」と怒りを露にした。

オランダからのハルマゲドン！リカルド・フィエート見参!!

これが正真正銘のビジュアルファイターだ!!

◯リー・ハスデル
15分1秒　足首固め
●リカルド・フィエート

来日前、専門誌に掲載された写真だけで、ファンのハートを鷲掴みにしてしまった男、リカルド・フィエート。試合では、一撃必殺級の掌底を振り回し、マウントを取ると拳にキスしてから一気にタコ殴りを始めるなど、その振る舞いはシビれるほどカッコ良かった。最後は完全なスタミナ切れで、あっけなくタップしたが、一夜にして人気爆発！　今世紀中に一度は見とけ！　ちなみにフィエートの師匠は新生UWFファンには懐かしのバート・コップスJrである。

ボーダレスな現状にそれぞれのテポドンをブッ放せ!!

撮影／黒田史夫 photographs by Fumio Kuroda

『ヨコハマニ、タムラキヨシヲミニイクカ』当日のパンフレットにはそう書かれてあった。もちろん田村を見に横浜へ足を運んだ観客は大勢いたはずだ。しかし、大会前までの話題は見事なまでに、幻の「山本vs小川戦」一色であった。リングス無差別級王者である田村が「気分が悪いです」と連発するのももっともな話である。『東スポ』（8／5付）紙上で「田村リングス離脱か？」という、マット界を揺るがす報道があったが、例えそれが『東スポ』マジックだとしても、同日同紙の「山本vs小川戦」の扱いに比べると、決して大きなものではなかった。

日増しに蓄積していく不満を抱え込みながら、田村は大会当日を迎えたことだろう。

残り一回のロストポイント即負けという状況に陥りながらも、田村は最後の最後でカステルというオランダの怪物君の剛腕を拉いでみせた。セミまでの重苦しい会場の雰囲気をスパッと断ち切った田村は、「勝ったら言いたいことがあったんですけど」との前振りで、試合に続き場内をどよめかせ、予測不可能な発言を口にした。

「今度の対戦相手は逆指名して…成瀬選手とやりたいと思います。その時はボクが挑戦者となって成瀬が持つベルトに挑戦したい」

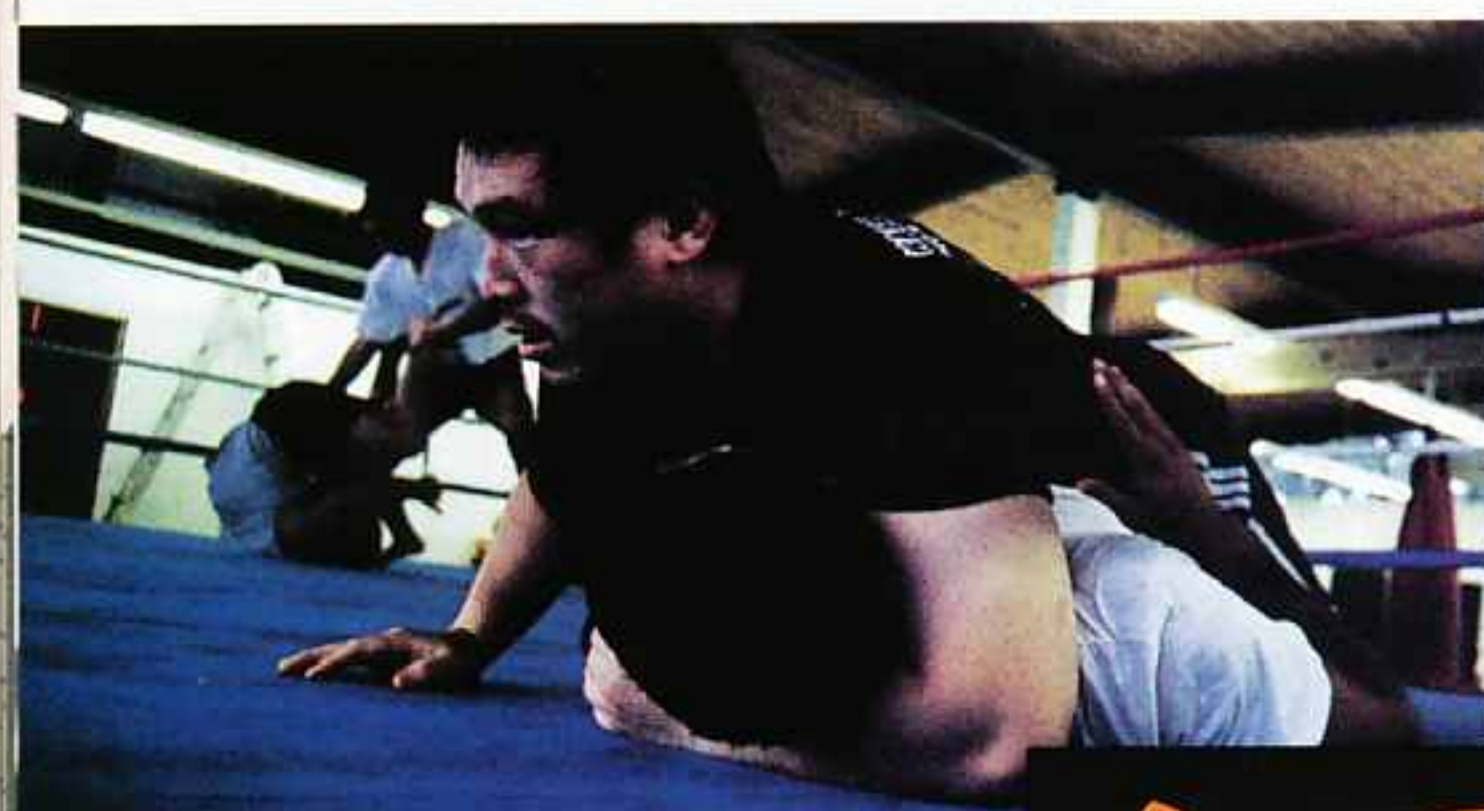
観客はもちろん、前田CEO、成瀬本人さえ予期せぬアピールで「山本vs小川戦」をそれぞれの頭の片隅へと追いやることに成功した田村。

「ボクは今チャンピオンですけど、あんまり騒がれてないじゃないですか」と、いつまで経っても話題の中心は、前田CEOであり、「山本vs小川戦」の動向であるといった、リングスの現状に対する不満を婉曲にさらけ出したのだ。

「タムラナラ、ナニヲヤッテモユルサレル」

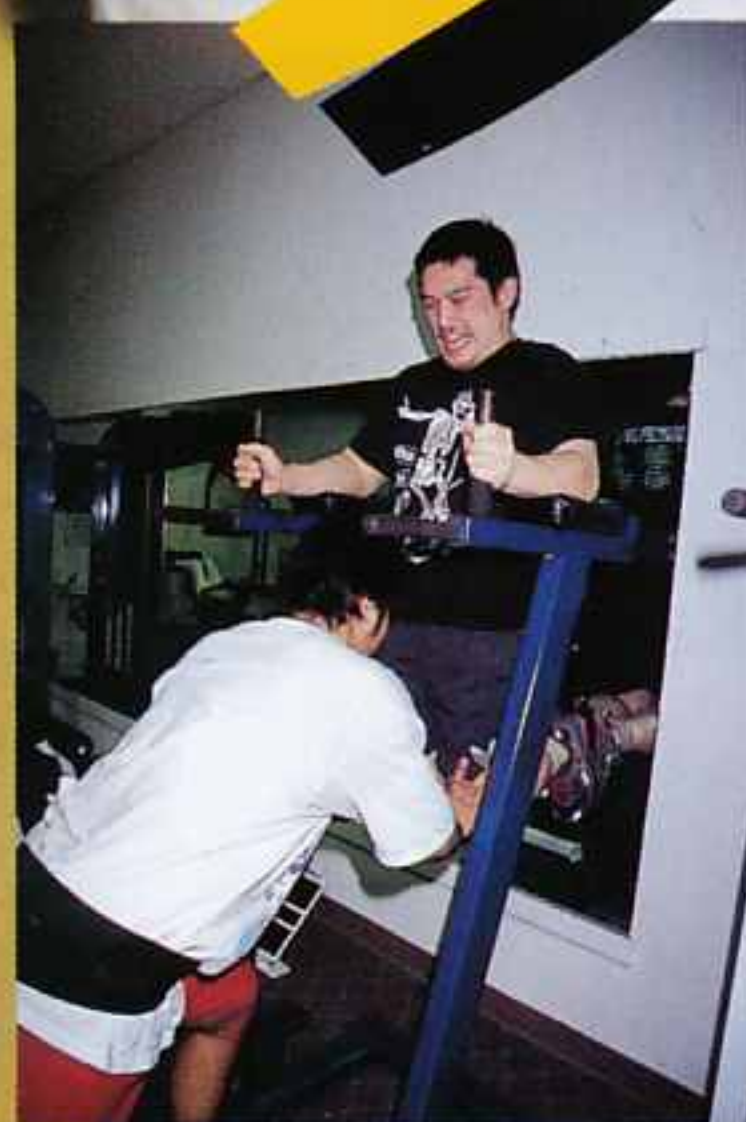
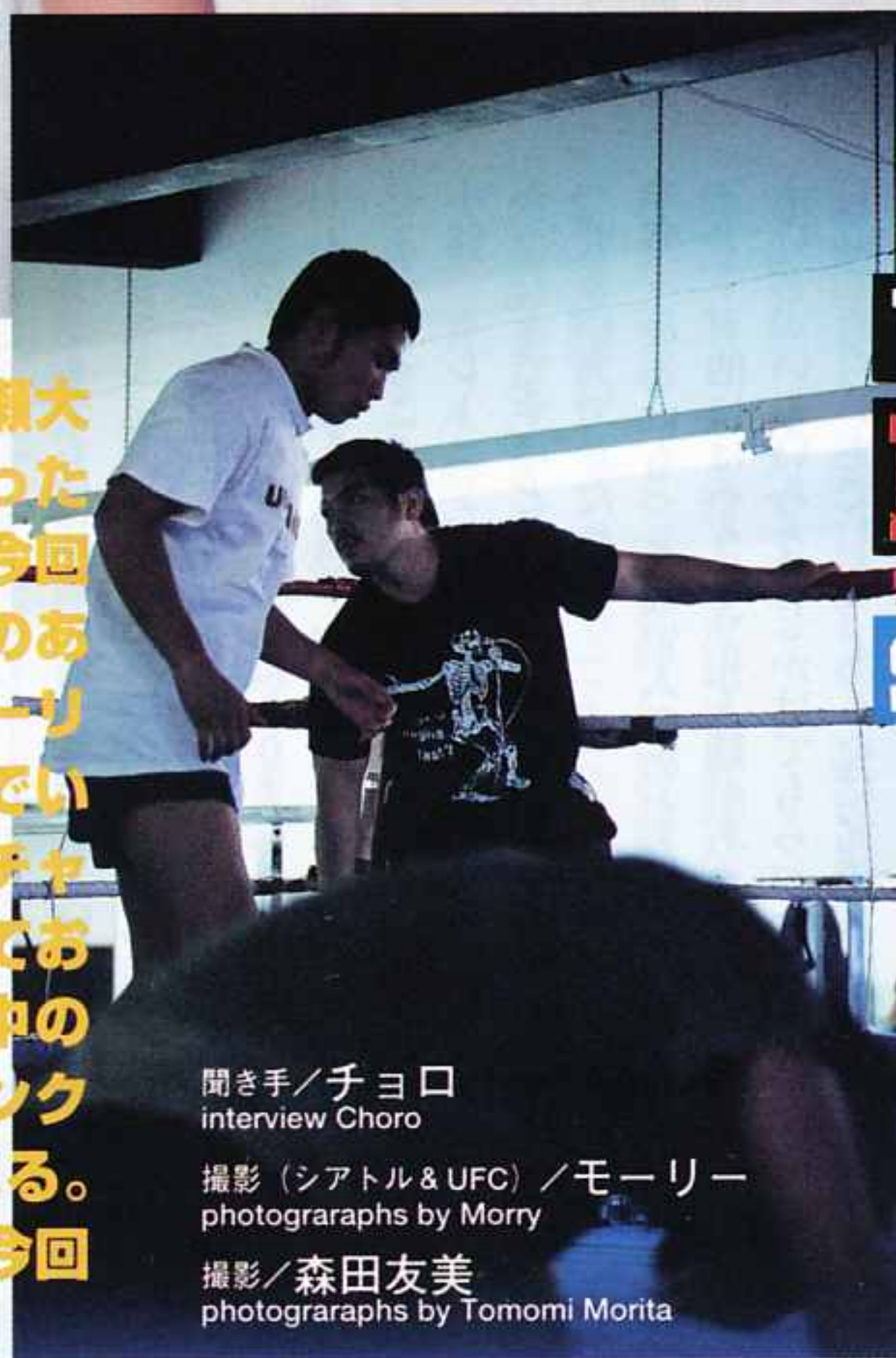
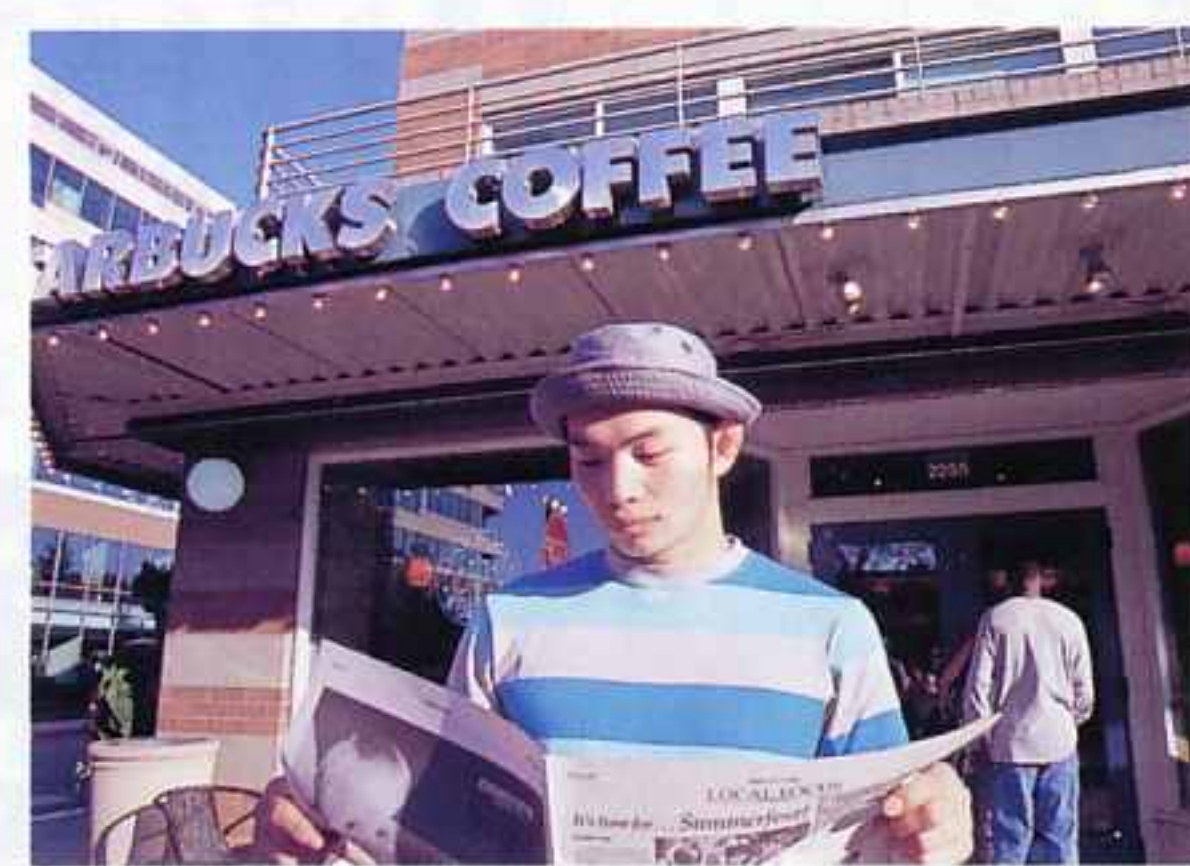
田村が2階級を制覇し、「リングス完全制覇」を達成した時、田村はこの権利を手に入れることとなる。それがイヤなら噛み付けばいい。

今後リングスが、シリーズタイトルのごとく「RISE」していくためには、今回、田村が確信犯的に発射したテポドンを、成瀬をはじめ各選手が、己のミサイルで迎撃できるかどうかにかかっているのだ。リングス世界大戦勃発せよ！

（アフロマン）

シアトル武者修行完了

小路晃　宇野薫

試練の七番勝負スタート!!

Who's Real Hero? SPECIAL
リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ！

7月中旬、『UFC XXI』に出場した高瀬大樹のセコンドとしてアメリカへと旅立った小路晃と宇野薫の慧舟會最強タッグ。今回の渡米を機に、二人はかねてより親交のあったTKこと高阪剛の協力のもと、モーリス・スミスジムでトレーニングに励んでいた。帰国後、宇野は修斗ウェルター級チャンピオンとなってから初の試合を控えており、一方の小路は、レギュラー参戦中の『PRIDE』に続き、初の出陣となるパンクラスでの柳澤龍志戦が待ちかまえている。注目の凱旋帰国試合を控えた二人に、今回の海外武者修行の成果を聞いてみた。

聞き手／チョロ
interview Choro
撮影（シアトル＆UFC）／モーリー
photograraphs by Morry
撮影／森田友美
photograraphs by Tomomi Morita

——小路さん、もうだいぶ経っちゃいましたけど、『PRIDE.6』でのガイ・メッツァー戦、勝ちましておめでとうございます。

小路　ありがとうございます（微笑）。でも判定だったんで…。もうちょっとやりたかったなあっていうのがありますね。

——それはあるでしょうね。それと、桜庭（和志）さんの試合後にフランク（シャムロック）が「桜庭、小路、エンセンと闘いたい」って言ってましたけど、小路さんとしては「はい喜んで！」って感じですよね。

小路　あぁ、ぜひ。モノ凄い尊敬できる選手なんで、肌を合わしてみたいと思います。

——Ａ³ジムのホームページで小路さんは「でもフランクは桜庭さんとあたるんだろうなぁ」って書いてましたけど（笑）。

小路　はぁい（微笑）。フランクは桜庭さんがやっつけてくれると思います。

——毎回恒例のマイクアピールでは宇野さんも巻き込まれちゃいましたね（笑）。

宇野　ハハハハ。巻き込まれちゃいましたね（笑）。でもボク、『PRIDE』のリングは初めて上がったんですよ。

——そうか！　修斗のチャンピオンが『PRIDE』のリングに上がったことになるんですね（笑）。ところで小路さん、今回のマイクアピールは自己採点で何点でしょう？

小路　（小声で）30点ぐらい（照）。

——赤点だ（笑）。マイクは次回頑張ってもらうとして、今回は小路さんと宇野さんの海外修行話を聞かせて欲しいんですけど、そもそも今回の海外修行は、UFCに出場した高瀬（大樹）さんのセコンドに付くっていう話が最初にあったんですよね。

宇野　そうですね。高瀬のセコンドの話から始まって、それで以前、横浜アリーナでＫ−１があった時に、髙阪（剛）さんから話しかけてもらって、「練習一緒にしてもらえませんか？」って言ったら、気軽に「いいよ。おいでよ」って言ってもらってたんですよ。せっかくアメリカに行くんなら髙阪さんと一緒に練習できたら面白いんじゃないかなって思いまして。

小路　ボクも髙阪さんとは『PRIDE』の時とか控室に来てもらったりしてまして、凄くいい人だと思ってたんで、これはいい機会だなと思ってお願いしました。

——向こうでは、髙阪さんと同じリングスの山本（宜久）さん、成瀬（昌由）さんとの顔合わせもあったみたいですね。

宇野　はい。ボク達が向こうに着いた日は、山本さんと成瀬さんのウェート（トレーニング）の見学をしたんですけど、その後にみんなで食事に行ったんですよ。

——山本さんも髙阪さんも食べる量がハンパじゃないらしいですね（笑）。

小路　（突然）ああああぁぁぁ〜（微笑）。

——ヒャハハハ。どうしたんですか（笑）。

小路　特に髙阪さんは凄かったです（笑）。

宇野　ホント凄かったですよ！　なんかお店に髙阪さん専用のおひつがあって、おひつで何杯も食べてましたね。これこそプロレスラーだなって思いましたね。

——さすがＴＫ！　それで今回は主にモーリス（スミス）のジムで練習してたみたいですけど、どうでしたモーリスジムは？

【7・4横浜アリーナ／vsガイ・メッツアー】元キング・オブ・パンクラシストのメッツアー相手に判定ながらも勝利を収めた小路。タップは奪えなかったが、そこはお得意のマイクでカバー。小路はセコンド陣を一人一人紹介するという荒技に出た。元ネタは小路が崇拝する尾崎豊のメンバー紹介のアレンジか？

小路　モーリスのところは、凄く明るくて、みんなノビノビやってますね。

——上下関係も一切無いみたいですね。

小路　ないです。全ッ然ないです（笑）。

宇野　ある意味、ちょっと慧舟會に似てる感じはしましたね。自由に集まって、みんな勝手に練習してるし（笑）。

小路　練習生とかもモーリスに向かって平気で「シャラップ！」とか言ってますから（笑）。日本じゃ考えられないですよね。

——小路さんが、守山代表に「黙れ！」って言うようなもんですからね（笑）。

小路　そ、それはないですからね（苦笑）。

宇野　それに、練習生とかも凄い研究熱心で「それはどうやってやるんだ？」とか、小路さんとかボクに積極的に聞いてきましたよ。スパーリングしても、そんな弱い人はいなかったですね。みんな強かったです。

——世界は広いと実感したワケですね。

宇野　そうですね。ボクは外人選手とは試合でしかあんまりやったことがないんで、いい勉強になりましたし、ホント行っといて良かったなと思いましたね。

小路　そうだね。外人選手って試合でしか知らないところがあるからね。

宇野　やはり日本人とは根本的に持って生まれたものが違う感じがしましたね。力で押さえ込まれちゃったりしましたから。ウェート的に変わらなくても、二階級上とか、そのぐらいの力はありますよ。

小路　「デビューしないんですか？」ってこっちから聞くぐらいの人もいましたね。

——そういう環境の中で、髙阪さんは何ヶ月も生活しているわけですけど、髙阪さんとの練習はどんな感じだったんですか？

宇野　髙阪さんには、「押さえ込まれてからどうすればいいか」っていう技術をいろいろと教えてもらって凄く勉強になりましたね。

——もちろんＴＫシザースも、ＴＫ本人から教わってきたわけですよね。

小路　はい。ＴＫシザースって言っても何種類もあるんですよ。マウントからも何種類、横四方からでも何種類かあって。あとは髙阪さんがアルティメットで実際にやったことと か「あの時はこうやったんだ」とかも教えてもらえたんで凄く勉強になりました。

——山本さんと成瀬さんとは、直接肌を合わせるということはなかったんですか？

小路　トレーニングが別だったんで直接はなかったんですけど。でも山本さんは凄く寛大で大きい人でしたね。

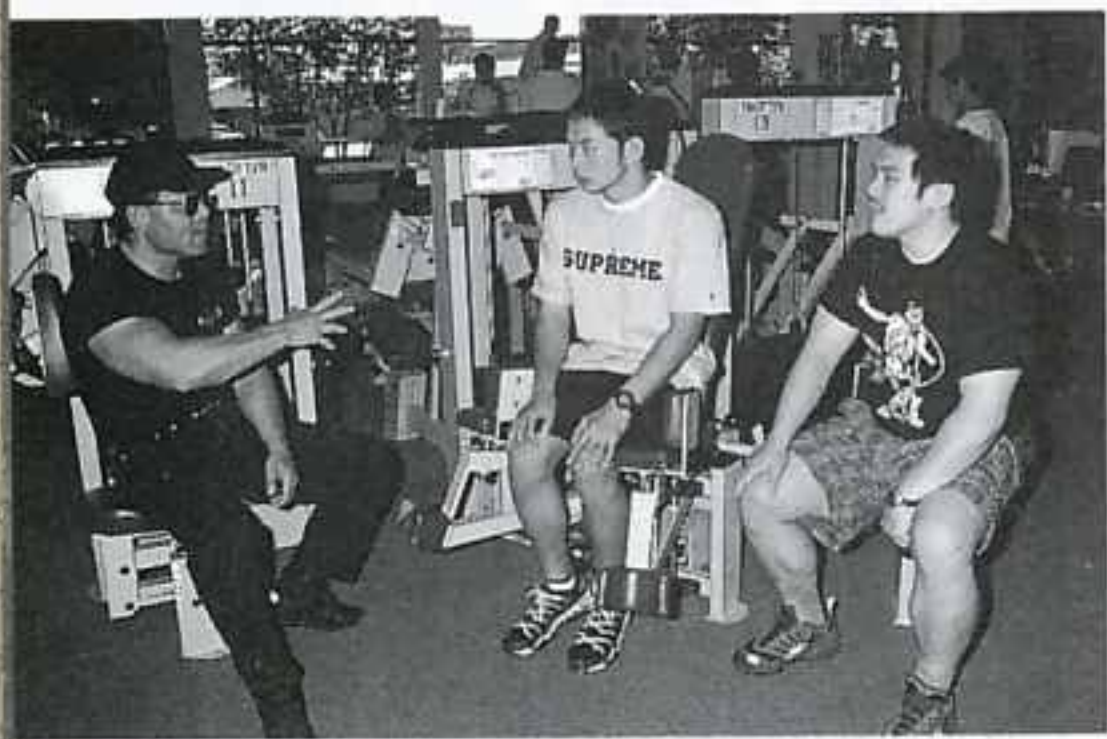
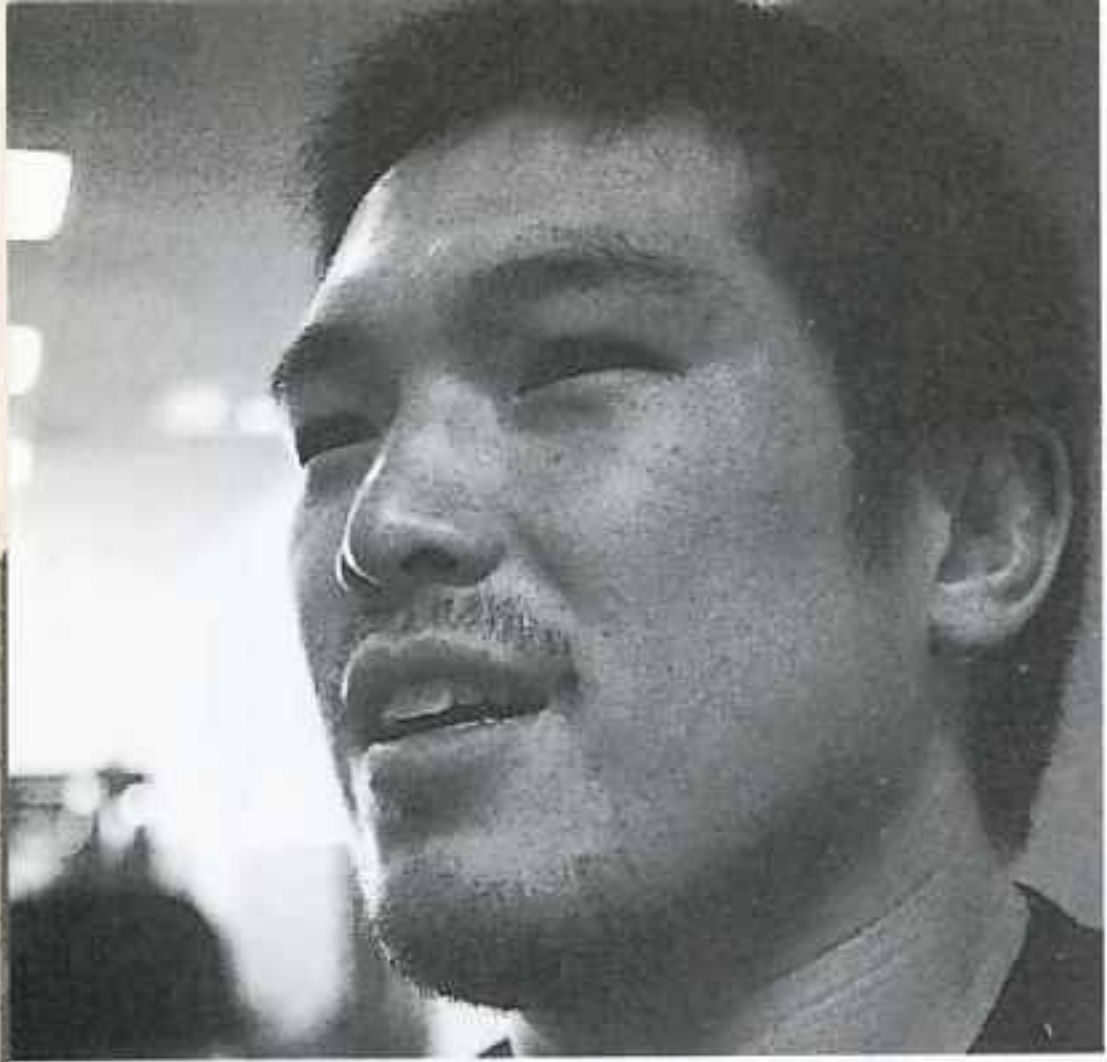
宇野　最初はもっと怖い人なのかなぁって、イメージ的にはそういう先入観があったんですけど、いろいろと話しかけてもらったら優しくて面白い方でした。あんなに冗談言う人だって知らなかったです（笑）。

小路　成瀬さんも紳士的でいい方でした。それと髙阪さんとは、よく食事をする機会があったんですけど、気さくなお兄さんって感じで、一緒にいて凄く面白かったです。

——でもこれで慧舟會は、修斗、パンクラス、『PRIDE』、髙田道場に続き、リングスとも接点ができたわけで、よくよく考えてみれば凄いですよね。こっちはいいけどあっちはダメって所が多いですからね。

小路　そうですよね。ボクは山本さんも成瀬さんもデビューする頃から見てたんで、会った瞬間、「ああああっ！」って（微笑）。

——ヒャハハハハ。それは驚きすぎです

山本（宜）さんが、あんなに冗談言う人だって知らなかったです（笑）（宇野）

（笑）。日本に帰ってからも一緒に練習しようっていう話にはならなかったんですか？

宇野　「ゼヒ来て下さい」って言ってもらって電話番号も交換しましたし、機会があれば一緒に練習させてもらいたいですね。

――前田道場で練習する二人の姿を想像すると興味深いですね（笑）。それで、結果的には延期になっちゃいましたけど、山本さんは向こうでは小川（直也）戦を想定して、モノ凄い練習をしてたんですよね。

小路　凄かったです！　ホンットに山本さんは気合いが入ってましたよ。

――山本さんは「野獣のように叫びながら練習してる」ってことなんですけど、実際間近で練習を見た感想はどうでした？

宇野　ホントにいい意味であれこそが真のプロレスラーだと思いましたね。

小路　特にスクワットが凄くて、重たいヤツを持って「ウワァァー！」って言いながらやってたんですけど、凄い迫力でした。

――やっぱり自分達とはちょっと世界が違うなっていうのは感じたんですか？

宇野　そうですね。カッコイイっていうか、やっぱりオーラみたいなのを感じましたね。髙阪さんもそうですけど、まず体がおっきくて、しかもあの体でスピードもありますからね。髙阪さんは、また桜庭さんとは違う強さを感じましたね。抑え込みの強さは柔道をベースにしたものですし。

――今回は、約2週間の修行でしたけど、ホームシックにはなりませんでした？

宇野　結局、予定より少し早く帰ってきたんですけど、ボクは日本でのセカセカした忙しい生活に慣れちゃってるんで、練習が始まる夕方までの時間の使い方がわからなくて、ちょっと持たなかったです。練習したいんだけど練習場所も少ないんで、時間を持て余しましたね（苦笑）。

――早く日本に帰って、慧舟會の畳の上で練習がしたいとは思わなかったんですか？

宇野　やっぱりホームグラウンドでの練習の方が慣れてるんで、それは少し感じましたね。でも外人相手にいろいろ技術が通用したんで、これまで慧舟會でやってきた練習が正しかったっていう確認みたいなものができたんで良かったと思います。

小路　でもみんな、ボクたちが行った時は「敵が来た！」って感じだったよね（笑）。

――そういうのはやっぱりあるんでしょうね（笑）。隙があったら、ウェルター級チャンピオンから一本取ってやるっていう。

小路　最後の方になってくると打ち解けて、いい練習ができましたけど、最初はなんか感じましたね。「あいつどうだった？」とかコソコソ話してましたからね（笑）。

――小路さんは^{3}Aジムをやってるんで実際には難しいと思うんですけど、髙阪さんのように向こうに移住してみたいっていう気持ちはあるんですか？

小路　あ〜、いいですねぇ。ボクたちが行ったのは、ベルビューっていう田舎町だったんですけど、ボクの地元と似てて、凄く自然が多くてのどかなところだったんで、自分の相性にあってましたね。のんび〜り、ゆっくり時間が流れてて、考え方とか広くなりそうな気がしました。

――今はプロレス界も、武者修行とか海外遠征って以前と比べるとだいぶ少なくなってきてて、逆に格闘家の方が海外での試合とか増えてきてますよね。

小路　そうですね。プロレス界では最近あまりないですよね。ボクらも、もうちょっと長い期間行ってれば武者修行になったんですけど（笑）。でも朝とか自炊してると、プロレスラーも海外でこういうことやってたのかなって思いましたね（微笑）。

――気分はすっかりプロレスラーで（笑）。それから、二人は高瀬さんのセコンドとしてUFCを体感してきたわけですけど、UFCにはどういった印象を持ちました？

小路　高瀬はブーイングが凄かったですね。相手のジャーミー・ホーンが地元だったっていうのもあったんでしょうけど。

――今回は特に地元の選手が多かったみたいなんで、対戦相手にはいつもより余計にブーイングが飛んでたみたいですね。

小路　はい。でもボクもブーイングを浴びてみたいなって思いましたね。アウェーでやってみたいなぁっていうのもあります。

――どうせ浴びるんだったら、思いっきりブーイングを浴びてみたいと（笑）。

小路　大ブーイングがいいです（笑）。

――髙阪さんには、逆に「TKコール」とか起こるらしいじゃないですか？

小路　髙阪さんはホント人気ありましたね。凄い認知されててビックリしました。

――宇野さんはどうでした、UFCは？

宇野　今回のアルティメット大会に関してはタックルとかもほとんどでなかったし、殴るしかないっていう感じがしましたね。

――宇野さんは、オクタゴンで試合がしたいっていう願望はあまりないんですか。

宇野　でもチャンスがあったら出たいですけどね。もし出るんだったら殴るのに固執しないで技術の競い合いをしたいですね。

――宇野さんは9月5日の修斗・後楽園大会で試合（ディン・トーマス戦）が決定しましたけど、今は一日でも早く試合をしたいっていう感じなんですか？

宇野　そうですね。まだ相手が誰だかわかんないんですけど（取材時には対戦相手は未定）、練習もキツくなってきたし、やっと試合があるんだなっていう感じですね。

――一方、小路さんは予定がたてづらいスケジュールですよね（笑）。『PRIDE.7』に続き、柳澤（龍志）戦が決定して。

小路　二ヶ月ちょっとの間にポンポンポンッとバーリ・トゥード3試合ですよね。

――「ポンポンポンッとバーリ・トゥード」ってまた随分と軽い言い方しますね（笑）。

小路　ボクはできる状態の時にやろう思ってるんで。体が動くうちに（微笑）。

――小路さんらしくて頼もしいお言葉ですけど、一週間にバーリ・トゥード2試合ってい

ケビンさんからの指導に熱心に耳を傾ける、小路＆宇野。小路から見たケビンさん評は「ケビンさんは変わった……、面白い方でした。日本には、まずいないタイプでした（微笑）」とのことだった。イッツ、オッケー！

UFCの会場では、アレクサンダー大塚とご対面。へこんだ時は『がんばれ元気』読み返しパワーアップをはかるガンバリズムの宇野と、ここ一番の時には『1・2の三四郎』を読み返すアレクのツーショット。んむはぁ。

今度の連戦はボクにとっての猛虎七番勝負です！（小路）

うのはあまり前例はないですよね？

小路 飛龍何番勝負みたいな感じで（笑）。

——ヒャハハ。そういうことですか（笑）。

小路 はぁい（微笑）。（キリッとした表情で）ボクにとっての猛虎七番勝負です！

宇野 いつか必ず（アブドーラ・ザ）ブッチャーに襲われますよ（笑）。

——ヒャハハハハ。それは気を付けましょう（笑）。それじゃあ、（イゴール）ボブチャンチン戦が初戦だったんですか？

小路 はい、そうです。

——すいません、勉強不足でした（笑）。そうするとメッツアー戦があって、今度の『PRIDE.7』が三戦目。今のところ対戦相手は謎のXということなんですけど。

小路 なんか強敵っぽいですね（笑）。

——でも、小路さん、帰国第一戦になるわけですから、負けられませんよ（笑）。

小路 そうですね。凱旋試合で負けたら一気にこけちゃいますからね（笑）。

——ヒャハハハ。しかも6日後には柳澤戦が控えてますよね。会見で両者が並んだのを見ても体格差はかなりありましたけど（笑）。

小路 デカかったですねぇ（笑）。でも体格差は言い訳にはならないんで、はい（キッパリ）。ボクも死に物狂いで闘いますし、向こうもそうだと思いますから、しっかり作戦を考えて挑みたいと思います。

宇野 慧舟會はパンクラスで結果出てないですから、小路さんには頑張ってもらわないと。

——平松（泰朗）さん、高瀬（大樹）とパンクラスでは負けが続いてますからね。どちらの試合も小路さんはセコンドに付いてましたけど、大将が出て行くからには当然負けらないですよね（笑）。

小路 そうですよね（笑）。なんとか流れを変えるようにしないと。

——慧舟會勢は、口じゃなくて試合で結果を出して、ここまで評価を高めてきたわけですから、今度の小路さんの試合は非常に重要な試合になると思いますよ。

小路 そう言われるとなんかプレッシャーを感じてきました（苦笑）。

宇野 でも小路さんは、慧舟會の天龍（源一郎）選手ですから大丈夫だと思います（笑）。天龍選手は負けないですから。

小路 アハハハハ。宇野クンは誰なの？

宇野 ボクは折原（昌夫）選手です（笑）。

小路 汚ねぇなぁ（微笑）。それは卑怯だなぁ（笑）。

宇野 ボクは折原選手のように、ノーTVでも大谷（晋二郎）選手や金本（浩二）選手とかといい試合をするんです（笑）。

小路 折原さん絡みの試合はいい試合が多かったよね。

宇野 「なんでTVでやらないんだ」って思ってましたね。それに折原選手はいつも天龍選手の側にいたじゃないですか（笑）。

——ヒャハハハ。でも、そういう宇野さんも凱旋帰国試合になるんですよ（笑）。

宇野 ボクも七色スープレックスを出します（笑）。やっぱり凱旋帰国って何かしら変わってないとマズイですから。スパッツとかコスチュームを変えなきゃいけないですね（笑）。

——それは変えなきゃマズイですよ（笑）。

宇野 あと、体を焼かなきゃマズイですかね？ 小麦色の肌にしないと（笑）。

——日焼けサロンにでも通いますか。小路さんも"黒い稲妻"になって（笑）。

小路 アハハハハ！ でもホント、凱旋帰国の一発目は勝たないとダメですよね。

宇野 武藤（敬司）選手もタッグのベルト獲ったりしましたからね。ボクも一発目は勝ちたいですね。修斗さんが強い相手をご用意してくれるらしいんで（笑）。

——たまには実力差のある選手とやって秒殺したいとかは思わないんですか（笑）。

宇野 やっぱり、やるんだったら強い選手の方がやりがいがありますし、チャンピオンとしての試練がないといけないと思うんで。ボクも試練の七番勝負ですから（笑）。

——宇野さんもですか（笑）。

宇野 ボクは橋本（真也）選手のようにV9ぐらいまで達成したいですね。

——ということは、『七番勝負』は全勝で乗り切らないといけないですよ（笑）。

宇野 アハハハ！ そうですね（笑）。でも9月、10月は慧舟會は試合ラッシュなんですよ。半年に一辺ぐらいあるんですけど、毎週誰かしら試合があるんです。

——半期に一度の慧舟會セールですか（笑）。

宇野 そうですそうです（笑）。でもホント、ここで勝ち越さないとダメですよね。小路さんに懸かってますよ（笑）。

小路 （急に振られ驚き）ボ、ボク？（笑）。

宇野 大丈夫ですよ。大将にはパワーボムがありますから（笑）。

——ヒャハハハハ！ 最後は強引に押さえ込んじゃいましょう（笑）。

宇野 それにグーパンチもありますから、ウチの大将は大丈夫です（笑）。ボクはベストバウト目指して頑張ります。

小路 ボクも頑張ります！（キッパリ）。

【8月7日、和術慧舟會東京道場にて収録】

9・5修斗後楽園ホール大会での宇野薫vsディン・トーマスの一戦は、発売日が延びに延びた関係で、試合の結果は既に出てしまっているが、宇野は七色スープレックスからキッチリ一本勝ちを収めてくれることだろう。もちろん小路も、試合でもマイクでもガンガンいってくれるハズだ。ノー問題！ これからも宇野、小路、慧舟會勢の動向から目を離すなベイベェ〜!!（小路調）『総合の未来はこの男達が拓く！』ズバリ言ってそういうことです！

8・22有明では、K－1JAPANと大仁田興行が行われ、有明二大決戦と言われていたが、同じく有明の国際展示場では『宇野商店』がオープンしていた。ちなみに小路は「ボクは大仁田興行が見たいです（微笑）」とのことだった

8・19リングス横浜大会。シアトルで交流を深めた山本、成瀬への挨拶も兼ね、来場した小路、宇野、高瀬のトリオ・ザ慧舟會。果たして慧舟會勢のリングスマット参戦はあるのか？ 二人のアキラ兄さんの会話はあったのか？ 気になる季節だ。

試練の七番勝負

9・12『PRIDE.7』 横浜アリーナ 小路晃vsX

8月31日現在、「小路晃試練の三番勝負」。対戦相手はいまだ決まらず。噂ではブランコ・シカティック、カール・マレンコ等の名前が挙がっていたが、一体相手は誰なんじゃあ!!

9・18パンクラス 東京ベイNKホール 小路晃vs柳澤龍志

『PRIDE.7』でのX戦から、わずか6日後「小路晃試練の四番勝負」はパンクラチオンマッチでの柳澤龍志戦。小路はパンクラスマットでマイクアピールを敢行できるか？

ボクは橋本選手のようにV9ぐらいまで達成したいですね（宇野）

みちのくプロレス&格闘探偵団バトラーツ

うのはあま
小路　飛龍
―ヒャハ
小路　はぁ
で）ボクに
宇野　いつ
チャーに襲
―ヒャハ
（笑）。それ
チン戦が初
小路　はい
―すいま
うするとメ
『PRID
相手は謎の
小路　なん
―でも、
ですから、
小路　そう
にこけちゃ
―ヒャハ
控えてます
ても体格差
小路　デカ

リングの汁 RADICAL

はなくまゆうさく

ケツの青い感想文

まったくもう面白すぎるよプライド6。というか桜庭&小川サイコー。松井も凄かったですね。なんか〝絶倫〟ってゆーか、入場時からビンビンの全身立ちっぱなしって感じ。ハトヤのCMの魚みたく、ビチビチした全身バネで掴めないです。あのスタイルでパンクラスに上がりパンクラチオンルールでやったらおもしろそうです。

小川の試合は、生（PPV）で見ていて実際大コーフンです。試合終了直後の躍動感なんてモハメド・アリみたいだ。あんな〝宝〟をどうして『週刊ゴング』は粗末に扱うんでしょうか？　新日に戻りちゃんと負けてプロレスの格に収まらないかぎり、小川のことは認めないんでしょうか。

ケアーは次こそエンセンとやってくらさい。あとこの怪獣広場に必要なのはエリクソンだ（現状のリングスルールではエリクソンの持ち味でないと思う）。これに小川が加われば最高なんだが、もうこないみたいじゃないですか、残念。

そんで桜庭、もう今年のプロレス大賞のMVPは決定！　でもどうせ技能賞とかでお茶にごされんでしょうが、どう見たって、今プロレスラーの中で桜庭がいちばん活躍&貢献してるじゃないですか。それなのになんだよ大会後の新聞やテレビは！　こんなんじゃ、いくら今後もしフランクに勝って世界最強になっても、なんも変わらんような気がする。ここはもうハッキリと桜庭をトップでエースでメインでやっていかないと何も変わらんのではないでしょうか（といっても本人は今の位置でいいと思っているのかもしれませんが）。

ヒクソンの相手も桜庭に決定だ。小川でももちろんいいが体重差あるし、文句、悪口、言い訳などいっさいせずにここまでひとつずつちゃんと上ってきた桜庭（こんなことしてくれたプロレスラーは世界中で桜庭ただ一人）に敬意を表しましょうよ。ホイスだって桜庭のもんだよ、高田のもんじゃないよ！

と言うと、それでは客入んないからダメだとかあいかわらず言われそうですが、東京だったらヒクソンvs高田、ホイスvs高田、ヒクソンvs桜庭、どれにしたってもうそんなに客入りは変わらないと思いますよ。まあでもヒクソンにその気がなきゃ話になりませんが、ここはひとつ「よし（桜庭と）やろう！」と立ち上がるヒクソンをみたい。そんなシビれる姿見れたらたまんないです。だが、もう40才のヒクソンにそれを要求するのは酷でしょうか。

山籠りもいままでの呑気な山籠りでなく、桜庭戦を控えた山籠りこそ悲壮感あふれドラマチックで絵になると思います。

2000年という新しい時代になる事だし、ここらでプロレスの格などない実力主義でいこうですよ、たとえ数年でもそんな時があっていいじゃないですか。えっ、ダメ？　青くさい？　そうですかゴメン。でも本当に強い人がトップにいるプロレスってステキだと思うけどなあ。

「（桜庭の）挑戦は受けてもいい」と余裕ブッこいた態度の船木、俺は桜庭より強い的発言してる田村、こーゆーのみなさん平気なんですか？　えっ、平気！　当たり前じゃん！　そ、そうなの、しょんぼり。

オマケ追加

とプライド6書いたけど、紙プロ発売延びたのでなんだか古い話になってしまいました。それにしても7月下旬発売の格通！　船木表紙&巻頭で、おもわず本屋で脱力してしまった。逆に同時期発売のゴン格の藁谷記者による桜庭特集はとてもよかったです。

はなくまゆうさく■私の大好きな映画「毒婦お伝と首斬り浅」「牛裂きの刑」などのデータ満載の奇跡の本「東映ピンキーバイオレンス浪漫アルバム」が素晴らしい。「虎の奥義を目指して」もおもしろい。

魁！裏ビデオ御開帳

大庭敏幸（「梵婆家」店長）

第六回　「たまに行くなら梵婆家」

最近、ウチのお客さんで「戦争を知らない子供たち」じゃないけど、「猪木を知らない子供たち」が増えてます。これからは「前田を知らない子供たち」も増えていくんでしょうね。ウチのお店に来て猪木さんをボロクソに言ってるファンもいますからね。

この店をオープンしてから6年になりますけど、開店当初は猪木さんのビデオのリクエストがすごく多かったんですよ。しばらく経つと前田のリクエストが増えて、最近増えてきたのが、佐山タイガーとダイナマイト・キッドのリクエスト。そういう人たちに猪木さんの〝伝説〟と言われているような試合を見せると、「スゲエ！」って喜んでくれますね。それが「猪木の弁護士」を自認するボクのライフワークかなという気がしてきました。

最近は、ありがたいことにいろんなお客さんが来てくれるようになったので、会いたかった人に会える機会が多くて嬉しい限りです。

この前なんかお店にビル・ロビンソンと宮戸優光さんが来たんですよ！　そのとき、猪木vsロビンソンの試合のビデオを流したら大喜びでギネス・ビールを飲みながら食い入るように見てました。そしたら突然、「これはフェイクだ！」って言い出すんですよ。ドキッとしましたけど、よくよく聞いてみたら「このときの技は痛かったけど、わざと痛くないような顔をして、猪木にさとられないようにしてた」っていうことらしいです。見ながら段々ハイテンションになってきて、ジェスチャー付きで解説してくれましたよ。感動したなあ。宮戸さんも横で酒を飲みながら「オレはこういうプロレスラーを作りたいんだ」って熱くなってましたね。今度はルー・テーズさんも連れて来てほしいと思います。

ロビンソンさんが来たちょっと前には、番組の収録で高田文夫師匠と浅草キッドのお2人が使ってくれたんですよ。殿（ビートたけし）と家元（立川談志）にも、いつか来ていただきたいと思ってます。

あとはボクの生き神様・アントニオ猪木さんが来てくれれば、こんな店いつ畳んでもいいんですが……。佐藤久美子って猪木さんを告発したバカ女いたでしょ？　あいつもウチの店に来てくれないですかね？　ウチのお客さんから聞いたんですけど、あの佐藤って女はいまオーストラリアで悠々自適の生活をしてやがるらしいです。（編集部注：その後は、日本に戻り、タクシーの運転手をやっているらしい）別荘まで持ってるらしいですからね。猪木さんじゃないけど、クソ食らえですよ！

かみついたついでに、もう1人。森本レオ！　あの人、'88・8・8横浜の猪木vs藤波を「いい芝居を見せてもらいました」っていろんな番組で言っちゃったんで、当時は新日の会場で過激派ファンから野次の集中砲火を食らったことがあるんですよ。その後、TVの収録でウチの店に来たとき、「あの時は野次られて大変だったんだよ」って言ってるうちに興奮しだして「ツマミねえのかよ！」って怒鳴り始めたんですよ。執念深いですね。八つ当たりしないで欲しいですよ。普段は猫なで声だけど、このときはまさに「レオ」でしたね。

あなたも是非、一度来てみて下さい。思わぬ有名人に会えるかもしれませんよ。

ぼんばいえのてんちょう■新旧プロレス裏ビデオが何でも見れる居酒屋です　特製Tシャツも販売中！　いますぐ行け！　問い合わせはTEL. 03-3323-5629まで

WORLD WRITING FEDERATION

みちのくプロレス&バトラーツ

賢い野蛮人のマネージャー日記

もうひとつの大和魂

ブナニ酒井（E-FORCE JAPAN）

第6回　イタズラ・イズ・マイライフ

この原稿を書いている時点では夏の真っ盛りなんですが、エンセンは夏でも元気です。『PRIDE．7』に出場するか、しないかという打ち合わせの帰り道のこと。深刻な話し合いの後なのに、エンセンはセミが珍しかったらしく、気になってしょうがないようでした。

「車、止めて！　あのミンミン鳴くヤツ、取ってくる！」

と言い残すと、道路の脇の森の中にグアムから来た子と一緒に突っ込んでいきました。約10分後でしょうか、エンセンが森から飛び出てきました。

「あの鳴くヤツを取ろうとして、石投げてたら、水かけてきたヨ!!　何コレ？」

エンセンはセミがオシッコをかける習性も知らなかったようです。

エンセンの拳のケガは良くなってきています。『PRIDE．』でのvsケアー戦に向けて拳のチェックに余念がありません。エンセンはこれもすべてイタズラに結びつけたがります。修斗のリングアナウンサーの北森君は、いつもそんなエンセンの餌食にされています。

「オレの拳、回復したかどうか確かめたいから殴っていい？」

そして、ボコボコとパンチ（軽いヤツですけど）を、ひどいときは蹴りまで入れられています。北森君が嫌がると、

「わかった!!　これを我慢したら、もういじめないから」

と鼻の穴と穴を洗濯バサミで挟んでました。約束の10秒を耐えきった北森君ですが、またすぐに殴られていましたけどね。

エンセンのイタズラ好きは、お父さん譲りなんです。エンセンがお父さんにダマされた話を紹介しましょう。

エンセンがハワイにいた頃の話です。そのとき井上家では修斗君の前の前の代の犬（＝バッキー）を飼っていました。エンセンはいつもお父さんから「バッキーとちゃんと遊んであげなさい」と、言われていました。しかし、その頃のエンセンはいつもバッキーを放ったらかしにしていました。ある日、エンセンが遊びに行って帰って来ると、バッキーはいつものように犬小屋の奥に引きこもっていました。お父さんからいつものように、「バッキーと遊んであげてるのか？」と聞かれたエンセンは、いつものように「昨日、遊んであげたヨ！　いまは小屋で寝てるヨ」と答えました。

「おかしいなあ」お父さんは不思議がっています。「1週間前にバッキーは死んでるのになあ」そうです、お父さんは生きてるように見せかけて、バッキーをつないでおくロープを犬小屋に引き込んで、エンセンが気づくまで待っていたのでした。反省したエンセンは、それ以来犬とホントに仲良しになったみたいです。お父さんは学校の先生なので、そういう教育的指導はお手の物です。

エンセンは教育的指導よりは、自分の気の向くままにイタズラを仕掛けていますけどね。この前も一緒に車に乗ってたら、居眠り運転のフリをして驚かされましたからね。

エンセンと一緒に車に乗る人は気を付けて下さい。ホントに居眠りしてたら起こしてあげてくださいね。

ぶなにさかい■最近のエンセンは「もったいない時間が2つある　寝る時間とシャワーの時間ネ」が口癖です　平均3時間睡眠のエンセンですが、とにかく元気です

エンターテイメント・レスリング・コラム

プロレスを見て女にモテろ!!

四十八手の六　『ビンス交通事故の真相』の巻

文・杉作J太郎

またまたWWFでとんでもない事件がおきてしまいましたなあ～。

性悪オーナーのビンスが交通事故に巻き込まれてしまったのであります。最初聞いたときには、ビンス大丈夫かよと心配もしましたが、30フィートふっとんだって聞くとこのキリのいい数字が実に怪しいよな。

あ～、またやってるな～と誰もが思ったはずであります。

なにを？

皆まで言わせんとけ。

「いや、あれはマジらしいっすよ。セーブルのセクハラ訴訟とオーエンの裁判で気分がムシャクシャしてたビンスがその日に限ってバイクで出社したらしいんです。そしたら道を渡ってたお婆さんを避けようとしてバイクで転倒したそうです。ええ、自損事故です」

とは事情通の白夜書房・坂本クンの話。

ありゃ～。ホントに事故だったのか。これはもっと心配しておけばよかった……てなことを思いながら日本での放送を待ちましたら、これがしっかりビンスは車椅子で現れた。そしてその車椅子のビンスは相変わらず悪態をついて、満場の客席から大ブーイングを浴びてる。う～ん、やっぱり……とも思ったが、事故に遭った映像がない。最近の流れだとGTV（レスラーに張り付いて盗撮を繰り返してる謎のWWF内テレビ局）の取材映像があってもいいのにね。ということはやっぱりマジか……。でも近い将来、絶妙のタイミングであれはウソだったというドンデン返しもおおいにありうる……。

いろんな推理が成立するわけだけど、現時点ではやっぱマット上で本人が事故に遭ったことになってるんだから事故に遭ったということなんだよな。本人が事故に遭ったって言ってるんだから事故に遭ったんだよ！

鶴田浩二さんが亡くなったとき、ホントに鶴田先輩は戦争に行ったのかというテレビ番組をやっていましたが、我らが梅辰アニィは面倒臭そうに言いましたね。

「本人が行ったって言ってるんだからそれでいいじゃねえか！」

確かにビンスの場合も見てるうちにそう思えてくるし、万一、ウソだとしても現時点では事実としてしっかり展開してくれてるんだからそう信じて見るのが礼儀でもあり、受け手のこちらも結局は見てて面白いからトクをする……ま、これは男女の仲にも当てはまることでしてな。私、浮気なんかしてないわよ、と彼女が言うんであれば浮気はしてない。俺、ホントに好きなのはお前だけなんだよと男が言うんであればホントに好きなのはお前だけ。そう受け取るべきなんであります。そこで疑って傷口を広げるっつーのは無粋であります。実際問題、ホントに気持ちが離れてたら面倒なウソつかないもんね。

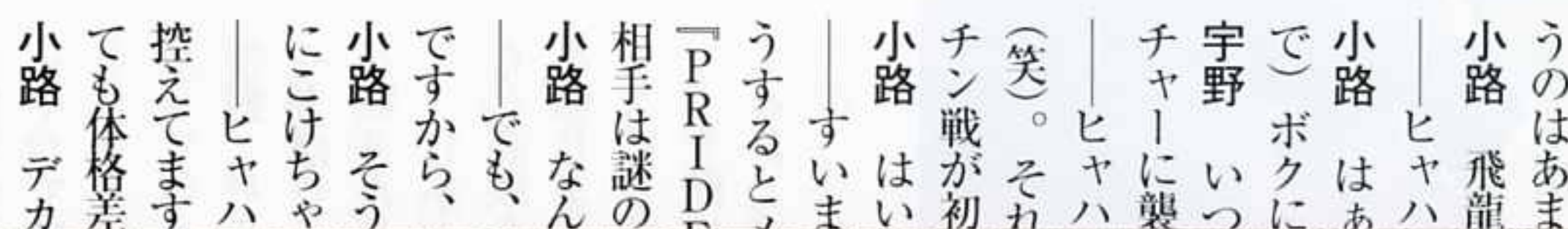
「私、アナタみたいな激しい人……初めて」

そう言ってくれるならそれでいいじゃねえの。おおいにハッスルすべきであります！

すぎさく・じぇいたろう■　トゥナイト2で新日本プロレスG1クライマックス前夜祭の取材に行ったら蝶野さんに締め上げられた。痛くて苦しくて小便チビリそうになりましたが、俺も大人だ。チビリませんでしたよ。

うのはあま
小路　飛龍
――ヒャハ
小路　はぁ
で）ボクに
宇野　いつ
チャーに襲
――ヒャハ
（笑）。それ
チン戦が初
小路　はい
――すいま
うするとん
『PRID
相手は謎の
小路　なん
――でも、
ですから、
小路　そう
にこけちゃ
――ヒャハ
控えてます
ても体格差
小路　デカ

ジョージ高野・復活への道！

わかおはるかのTHE・ジョージ秘宝館

Mulatto Arts H・I・T & F.S.R.

「お久しぶりです、ジョージさん」の巻

紙プロの皆様、お初にお目通りを！漫画家のわかおはるかと申します。「紙プロと週プロ以外一切でないゾ！」と言い切っている、F・S・Rのザ・コブラことジョージ高野がこのページの主役です。

さて、この「THEジョージ秘宝館」はプロレス雑誌には喋らないジョージさんから本当のこと聞き出しましょうという、とてもオソロシイ企画。ジョージさんはトイレにもう30分も入っています。それまで少しジョージさんと知り合った経緯をお話ししましょう。ジョージさんと私わかおは、会社（ムラトー・アーツ・ヒット）の人間を通じて知り合いました。TVアニメの挿入歌等のCDをリリースしているバンド「インブルー・ザ・フッド」のVo.高野十座という奴がいるんですけど、ジョージさんと、この十座の会話をハタで聞いていると、本当の兄弟以上に尊敬と信頼で結ばれている。イトコ同士なんだけれど、実の兄弟より仲がイイ…。そして兄弟のような親子のような会話の中にはプロレス初心者の私でも良く分かる、ウソだろ!! みたいな情報が一杯出てくるワケです。聞いてるうちに、本当のこと言おうよジョージさん、言われっぱなしでいいの？ みたいなことで、プロレスファンの皆様にお伝えしようと、このコラムが出来上がったワケでございます。何しろ、ジョージと十座は子供の頃から一緒におりますもんで、話は朝まで止みません。付き合う私は大変ですが…さてさて、やっとトイレからジョージさんの登場です！

ジョージ　ども。

――いきなり不躾な質問で恐縮ですが、ジョージさんて引退なさったんですか？

ジョージ　してない。

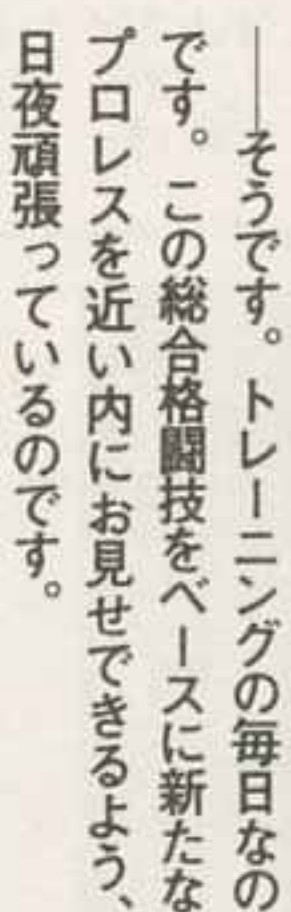
――そうです。現役です。ジョージさんは総合格闘技を一般の生徒に教えつつ、新たなるプロレス道を極めている最中なのです。

〈生徒を指導するG.高野〉

――ところで試合は？

ジョージ　してない。

――そうです。トレーニングの毎日なのです。この総合格闘技をベースに新たなプロレスを近い内にお見せできるよう、日夜頑張っているのです。

〈日夜ガンバルG.高野〉

――ところで九州のコブラジムはいつ頃からスタートなさったんですか？

ジョージ　上田戦の後くらいかな。

――というと、98年以降ということですね。（vs上田勝次・キックボクサー '98・1・18東京プロレス 後楽園ホール大会）

ジョージ　弟子と仲良くなって追い出されたりとか、いろいろあって…。

――えっ!! そこはしゃべっちゃったらマズイんじゃないですか？

ジョージ　肩組んで手つないで、変だなーと思ったんだよ…。

――えー…"ピ――――――"だったワケですね。

ジョージ　なんだ"ピー"って？ 笑わしよんのー。

――…とまあ、色々あって、ジョージさんは北海道を出られたワケなんですけれども…福岡でのコブラジムスタートのあらましというか…なぜ北海道から九州へ道場を移されたのですか？

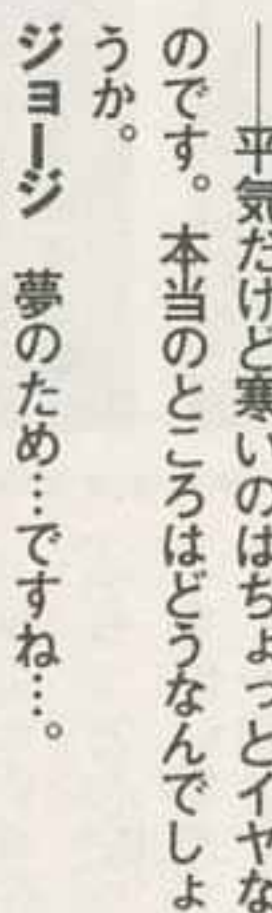
ジョージ　北海道は寒い……。

――なる程、ジョージさんは見てくれどうり、寒いのは苦手…。

ジョージ　別に寒いのは平気だけど…。

〈寒いのが平気なG.高野〉?

――平気だけど寒いのはちょっとイヤなのです。本当のところはどうなんでしょうか。

ジョージ　夢のため…ですね…。

――"夢"と言うと？

ジョージ　夢はでっかいよー。死ぬまでに必ず10億残すから!!

――……はぁ…ところで何故コブラジムなんですか？ ジョージジムでもよろしいかと…。

ジョージ　ジョージジムージジー。

――言いにくいと…。もうひとつお聞きしたいのですが、ジョージさんてお話ししていると、格闘技という言葉がよく出てきますがプロレスではなく、何故格闘技なのでしょう？

ジョージ　プロレスは格闘技、そして、格闘技はプロレス、バーリトゥードもK-1も皆格闘技、ぱちくり回すのはUFC。

――馬場さんは？

ジョージ　猪木さんがプロレスで格闘技です！

――奥が深いというか…。

ジョージ　馬場さんは偉大な人です。

――はぁ…そうですか。猪木さんは格闘技、馬場さんは偉大なレスラーだったと…。

ジョージ　ご冥福をお祈りします。

――総合格闘技がブームのさなか、ジョージさんはどういった団体・組織に注目なさってるんですか？

ジョージ　……。

――元・シューティングの中井選手のパレストラなんかはSWSのときのパライストラとネーミングがよく似ていますが…。

ジョージ　パレス…ト…なんだそれ！

――ですから、中井選手の起こしたシューティングからの新しい流れで…。

ジョージ　パライストラは田中社長の奥さんがマント（コスチュームのことらしい）手縫いで縫ったんだけど、「私が縫います！」って聞かなくて……。

〈話題がコロコロ変わるG.高野〉

――いえあの、パレストラ、元シューティングの…。

ジョージ　シューティング？ あっ、佐山さん今どーしてるの？ 電話してみようかなぁ？ でもあの人、すぐキレるから…瞬間湯沸かし器だから…（思い出したように）怖いゾー！

――とまあ、かなり深く格闘技界のことにも詳しいジョージさんですが…。

ジョージ　当たり前だワイ！

――そろそろ復活の時期が近いのではありませんか？

ジョージ　ハイ、近いうちに復活します。どこか格闘技色の強い団体で試運転しつつ、F・S・Rの大会を開きたいと思っています。

――バトラーツとか？

ジョージ　いえ、バトラーツ道場に電話したんだけど、参戦できるか？ って聞いたら道場にいた練習生にあっさり断られたんで…バトラーツはナシです。

〈新弟子に断わられるG.高野〉

――練習生ですか？ 断ったの。しかも電話ですか？

ジョージ　ハイ、新弟子です。

――バトラーツもヒドイですねー。新弟子に断らせるなんて…。

ジョージ　いや、いいよ別に…。そのうち盛り返すから…。

――なんと深いカッコいいコメント♥ えー、本日はどーもありがとうございました。

ジョージ　ども。

――また、近いうちにお話しを伺いたいと…。

ジョージ　何の？

――……え？ その、ジョージさんのことを……。

ジョージ　ノーコメント。

――今さらノーコメントって…。

ジョージ　石川社長に電話すればよかったかな…。

ジョージ・イズ・バック！　キミも生ジョージに格闘技を教わってみないか？入会、入門は随時募集中！　99年7月26日、コブラジムにて撮影。

【お問い合せ】〒807-1265福岡県北九州市八幡西区大字笹田937 TEL&FAX.093-619-3933

わおかはるか■ムラトー・アーツ・ヒットの命を受け、ジョージ高野のコラムを担当させられた漫画家。ザ・コブラの大ファン。F・S・Rは、ムラトー・アーツ・ヒットに東京での連絡先を置いている。

椎名基樹&せきしろの

ザ・検証

1999年の夏もおしまい 結局、恐怖の大魔とは、猪木ではなく、気狂いのハイジャック犯だったようです と、いうことで、今回の ザ・検証 も、ノストラダムスと同じく、火のないところに煙を立てつつ始まります 今年の夏も結局なんにもなかった、哀れ、童貞中年のフロレス妄想 涙無しでは読めません！

ザ・検証

【今月の検証】

藤波新社長

by 椎名基樹

社長就任以来、藤波の目が死んでいる。死相が出ている。ニッカン・スポーツの米国視察のスナップ写真は、特に印象的だった。マサ&長州と共に、ゴールドバーグを囲んで記念撮影しているのだが、ドラゴン一人だけ目が笑っていなかった。まるで、慣れないパーティー会場に連れて行かれた、近所のオヤジのように、オドオドした表情だった。

ついに社長に就任し、「俺が天下を取った」藤波の目が、なぜ死んでいるのだろう？　突然の社長就任で戸惑っていることもあるが、最大の原因は、今ドラゴンは「社長業」より「社長キャラ」を求められており、その役作りに苦心しているのではないだろうか？　と、俺は思っている。

現在、社長キャラとして、もっとも際立っているのは、なんといってもWCWのリック・フレアーだろう。毎回、リング上で理不尽要求した後、WHOOと叫んで、体中をブルブル震わせ、プロレスウォークを繰り返す姿は鬼気迫るものがある。

つい最近までは、精神科医（しかも狂った）と看護婦に付き添われて暴れていたのだ。米国視察の際、ドラゴンが受けたショックとは、つまり「オレがコレやるの～!?」というショックだったのではないだろうか？

それを裏付けるように、「サムライ！」でマンデーナイトロの中継で解説を務めるタイガー服部は、フレアーのガイキチ・パフォーマンスを見て、「藤波社長にも、是非これくらいやってもらいたい」と、いやにマジに発言していた。タイガーといえば、長州、マサと並ぶ、現在の新日主流派。この3人が「辰っつあん、いや、新社長。絶対イケるって」などと、旅行中、ずっとドラゴンに社長キャラをすすめていたに違いない。そして、藤波はきっとその要求を飲み、もう一度、目の輝きを取り戻して、リングに炎のカムバックを飾るのだ。

「オラッ。何が新社長だ。この会社腐ってるよ。オラッ！」

と、マイクで叫ぶ蝶野。リング上ではT2000のメンバーでジャックされている。そのとき、突然会場に鳴り響く藤波のテーマ。越中、橋本を引き連れ、スーツ姿でリングに駆け寄る藤波新社長。雪崩式リングインに会場はヤンヤの大声援。

やおらマイクを握った藤波新社長は突然、蝶野に向かって言い放つ！

「お前、平田だろ！」

15年ぶりに飛び出した、ドラゴン十八番のマイクパフォーマンスに会場はさらにヒートアップ。しかし、蝶野も負けてはいない。すかさずマイクで応戦だ。

「アイム蝶野！」

「お前、平田だろ！」

「アイム蝶野！」

「アイム蝶野！」

「お前、平田だろ！」

「アイム蝶野！」

いつ果てるかも分からない壮絶な舌戦。業を煮やした蝶野がドラゴンにヤクザキック一閃。もんどり打って場外にフッ飛ぶドラゴン。怒ったドラゴンは、ネクタイを外しつつ、猛然と雪崩式リングイン。蝶野に殴りかかると思いきや、スーツの内ポケットからハサミを取り出し、突然前髪を切り出す。

「やってやるよ。やってやるよ」

と、涙の訴え。これには、さすがの蝶野もキョトンとするばかり。と、ここであまりの進展の無さに、大仁田がマイクを取った。

「オイオイオイッ！　新日本プロレス。新日本プロレス社長さんよ～！　ワシの狙いは長州の首ひとつじゃ～。そして、ワシはハンバーガーが好きなんじゃ～！」

このマイクに応じて、ニヤリと笑うドラゴン。

「わかったよ、大仁田。新日本プロレスは、誰の挑戦でも受ける。長州出てこ～い！」

会場に鳴り響くパワーホール。突然の長州復活に、観客のボルテージは最高潮。しかし、花道を出てきたのは、白いリングシューズに相撲文字で「長州」と書いた佐々木健介。肩透かしを食らった観客は、一斉に紙コップを投げつける。それに怒ったケロちゃんが「週P」の記者を怒鳴りつける。リングインした佐々木、否、二代目長州（以下二代目）はマイクを握り、大仁田に毒づく。

「きさまの墓にクソブッかけてやる！」

怒った大仁田は二代目に突っかける。と、そのとき会場の照明が暗転。真っ暗な会場に響き渡る「NWO」の声。武藤のテーマだ。会場は武藤コール一色。すると、オーロラビジョンに武藤とヒロ&牛&コジMAXの姿が。しかし、よく見ると、武藤の腕には黒ずくめの服装にサングラスをした、美しい女性がしなだれているではないか!?　それはこの日から女性マネージャー「KAORI」に転身した藤波かおり夫人だった。

「これから武藤敬司とKAORIはバク進します！」

そう叫んで、オーロラビジョンは消えた。さすがにうろたえるドラゴン。

「こんな会社やめてやる！」

そう叫ぶと、ドラゴンは裸のまま、会場の外に。その姿を見て、観客は一斉に「お前が社長だろ！」の突っ込み。

そして、そのとき猪木は？　小川は？　犬軍団は……？

などということになったら、毎回毎回会場に足を運ぶのですが、どうでしょう？

P.S. タイガー服部様。ナイトロの解説で話していたビガロ（タイガー曰くバンバン）の頭のイレズミは腕相撲大会のとき、試合直前まで帽子を被り、スタートと同時にパッと帽子を取って、相手を驚かして勝つために入れたという話は本当でしょうか？　気になって眠れません。

うのはあま
小路　飛龍
—ヒャハ
小路　はぁ
で）ボクに
宇野　いつ
チャーに襲
—ヒャハ
（笑）。それ
チン戦が初
小路　はい
—すいま
うすると、
『PRID
相手は謎の
小路　なん
—でも、
ですから、
小路　そう
にこけちゃ
—ヒャハ
控えてます
ても体格差
小路　デカ

ザ・検証

【今月の検証】

平成維新軍復活2

by せき詩郎

6月27日、静岡。

「ドームで嵐みたいな風、俺と健介で吹かしてやるって」と言ったはいいが、結局吹いたのか吹かなかったのかあいまいなままになっていた越中の発言。

しかし、この日の静岡は風が強かった。嵐みたいな風が吹いていた。ドームで吹かせるはずだった風が今頃吹いているようだった。おまけに大雨。まるで台風。こんな天気の日にわざわざ静岡までプロレスを観るためだけに（しかも越中目当てで）来たという行動力に、我ながら驚きつつも、不特定少数へ私の越中フリークぶりをアピールできることに内心喜び（アピールしても仕方ない&誰も褒めてくれないのだが）、そして無理矢理静岡まで車を運転してもらった知人に気を使いながら、会場へとたどり着いた。メインはもちろん越中&健介vs後藤&小原だ。

前号でも書いたように、私は維震軍再結成を信じて疑わない。維震軍解散は偽装であると。特に最近のシリーズは元維震軍メンバーが中心となった流れであるため、その期待は大きく膨らむ一方。また、そんな夢物語ばかり人に語っているので、後に引けなくなったところもある。そんな私が維震軍再結成の可能性大と判断したのがこの静岡大会であった。

先立って行われた武道館での越中vs後藤戦以後、越中の威勢の良い発言が続いた。

「何回でもやってやる！　その代わりアイツらに一回だけチャンスを与えてやる！　一発で潰してやる！」（結局何回やるのかわからないコメント）

「（前哨戦で負けて）オレらの商売は引いたら負けよ。きのう負けたことで、逆に引き締まっていけるよ」

「後藤は挙式したばかりなんだって？　祝儀代わりに顔面をボコボコにしてやるよ」

「あいつらが負けたらもう用なし。引取先もないだろうし、新しい就職先でも考えておけ！」

「次は神宮で花火のようにパーッと防衛だよ」

越中の発言がヒートアップするにつれ、私の頭の中で培われた「維震軍再結成説」は自信から確信へと変わっていった。後藤&小原を挑発し、本隊の人達（健介とか）を安心させといて、試合中、突然越中と後藤&小原が結託し、健介を集中攻撃、ベルトを持って逃げる！　そんな光景が目を閉じると鮮明に浮かんでくる……。

しかし結論から言うと、皆さんご存知の通り、この日再結成は無く、おまけに後藤&小原がベルトを奪取した。思わぬ展開に、私の「維震軍再結成説」は確信から自信へと逆戻りし、再結成への道程を妄想しなおさなければならなくなってしまった。

というわけで、今回はせっかく静岡まで行ったことだし、静岡大会で疑問に思ったこと（とは言っても試合とは関係無いことだが）と、維震軍再結成について懲りずに検証してみよう。

■検証その1

『なぜ健吾のTシャツは簡単に破れたのか？』

静岡大会のテレビ中継は、皆さんご覧になったであろうか。プロレス史上には残らないかもしれないが、大事な記憶を抹殺してまでも一生記憶に残したい、残したくなくても残ってしまうであろうあの場面を！　もちろん後藤&小原がベルト奪取した試合ではない。その後の控え室の部分だ。ここで見ていない人のために大まかではあるが再録してみたい。

控え室へと戻る後藤&小原。が、ビールが用意されていない。

小原「ビールどうした、オラ」

後藤「ビールがねえぞ、バカヤロー」

小原「ビール持って来い、コノヤロー」

社員の人が缶ビールを2個だけ持ってくる。

後藤「なんだ、この2本は」

小原「なんだ、テメエ、これ、2本」

激怒する後藤&小原。

小原「1ダースくらい持ってこいバカヤロー！」

小原がビールを持ってきてくれた人に張り手。そして暴行。これを見るに見かねた健吾が飛びこんでくる。

健吾「なにやってんだ、おまえら」（気の抜けた声で）

揉み合う3人。破れる健吾のTシャツ。健吾退散。

小原「テメエ、とっとと辞めろバカヤロー。このロートルが」

一息つき、ビールを開ける

小原「これがIWGPのベルトだ。約束通り取ったぞコノヤロー」

2人で**「オメデト〜〜〜」**と言いながらビールをかけあう。そこに健介登場。若手に止められながら口喧嘩。それを分け入るように越中登場。しかしこれも若手が静止する。

越中「なんだ、いかせろ。なんだ、いかせろ。いかせろ、テメエ」

小原「負けたやつは帰って寝ろ、このバカヤロー。負け惜しみ言うんじゃねえ、バカヤロー」

その後ろから健吾が入ってこようとするが、控え室の狭い入り口は大男達でいっぱい！　健吾が入ってくる隙間無し。健吾、入ってこれず。健介、越中、健吾退散。また一息ついて

小原「明日から好き勝手やらせてもらうからな。蝶野たちだって好き勝手やってんだ」（←子供）

後藤「タイトルマッチしかでねえからな。出て欲しかったら頭下げてこいって」

小原「選手権試合しかでないぞ」

後藤「明日から休みだ、ボケ」

小原、突然ベルトを持ち、

小原「良く見ろ、俺達がチャンピオンだ。俺達の天下だ〜〜」

後藤にビールをかける小原。突然ビールをかけられて戸惑う後藤。またまた一息ついて**「やった〜〜〜」**と抱き合う二人。

ざっとこんな感じである。（このビデオはきっと裏ビデオになると思うから、見逃した人はリングスの会場付近にいる露天のビデオ売りの人から買ってください。必見）

このドタバタ寸劇中、気になるシーンが一つあった。それは健吾のTシャツが破れるシーンだ。見た人はわかると思うが、これがまたいとも簡単に、かつ見事に破れるのである。Tシャツはあんな簡単に破れるものなのであろうか？　気になった私はその原因を探ることにした（もっと大事なことを後回しにして）。そして3つの仮説を立ててみた。

①　薄く破れやすい素材（安物）のTシャツであった

②　破れやすく細工されていた

③　後藤&小原の力が強かった

まず真っ先に外されるのは②であろう。乱闘の時破れやすいようにと、Tシャツを前日、健吾がTシャツに細工をする。一旦破り、それを再び縫い合わせる。しかも縫い目が目立たないよう丁寧に……。しかしビデオで見る限り細工したらしき跡は見当たらない。健吾が余程念入りに作業したからわからないだけとも考えられるが、率直な話、こんな手間がかかりすぎることをわざわざやらないであろう。プロとしての「魅せる」という部分だけを過剰に意識したならば、破れやすく細工してあるTシャツを着て見事に破かれるのも一つの手段であるかもしれない。が、健吾のレスラースタイルを考えると、そこまでしないということは容易に想像できる。もしも健吾がそこまでするレスラーなら、今の健吾は無い（良い意味でも悪い意味でも）。

ならば①はどうであろう。その時健吾が着ていたTシャツは、見た感じ地肌が透けて見えるような素材ではない。ごく一般的なTシャツであると思われる。しかも「wrestling world 99」とロゴが入っている。多分、今年の1・4東京ドーム大会のTシャツであろう。市販されてはいない、会社から関係者に配られたものだと思われる。そのことから考えても破れやすい安物だとは考えにくい。少なくとも健吾が100円ショップやディスカウントショップで買った自前のTシャツではないのだ。よって①の仮説も間違いであろう。

残るは③の仮説しかない。そう、後藤&小原の力が強かったのだ。だからTシャツはあんな簡単に破れたのだ。素直に考えるとこの説が妥当であろう。ビデオを注意深く見ると、Tシャツ破りの大半は小原がやっているのだが、首元を両手で掴み、一気に縦方向へ引き裂いている。Tシャツの最も厚く強い部分である首元から破いているのだ。やはり力が強いと言うしかない。

結論は出たわけだが、ここで検証を終わらせるわけにはいかない。なぜならこのTシャツ破りという行為には大きな意義があったのだ。小原はTシャツを破ることによって、プロレスラー＝力が強いことを立証し、視聴者のプロレスラー幻想をより膨らませたのである！　いうなれば、あのフリッツ・フォン・エリックのリンゴ握り潰しと同様の価値と影響力をもつ行為だったのである！

リンゴ握り潰しのようにキャッチーでもなくある種の恐怖も凄さも伝わりにくいTシャツ破り。一見嫌がらせやいじめに

イラスト／藤本康生

みちのくプロレス&格闘探偵団バトラーツ

10月17日
みちのくプ
トラーツが
の名も〝兄
大会名だ
体にはじつ
が流れて
ム」という
この両団
本誌N
サスケと
たことが
が、「みち
濁ってろ
「もう、
うかと思
ニって
るんだ。
初めて
スペイ
味であ
りから
と繋が
時はそ
しは
ぐら
った
と
生き
『三
大会
って
て
す
こ
は

しか見えないTシャツ破り。見ている者に猥褻な印象を与えかつ不快感しか与えないTシャツ破り。しかしその行為は地味ながらも〝プロレスラー〟なのである。「国破れて山河あり」ならぬ「Tシャツ破れてレスラーあり」なのだ！

■検証その2
『維震軍の再結成はありえるのか？・2』

静岡大会では儚く散ってしまったが、維震軍再結成の夢はこれで終わるわけではなかった。それどころか、後藤&小原がベルトを取ったことで、俄然真実味を帯びてきたのだ。越中&健介がチャンピオンだと、どうしても健介の存在が再結成の障害となっていた。前号では健介の存在を無理矢理排除して再結成説を唱えていたわけだが、少々強引ではあった。だいたい維震軍が再結成すると言ってること自体強引であるのだから、これ以上強引だと、わたしはただの妄想狂（ばか）になってしまう。しかし、元維震軍のメンバーである後藤&小原の手にベルトが渡ったことで、強引さが見事に薄まるのだ。これでいつ再結成してもベルトは維震軍のものになる。

そんなことを相変わらず仕事もせずに考えていると、思いがけないニュースが飛びこんできた！　7・21の札幌大会で後藤&小原vs越中&健吾という元維震軍メンバー対決が決定したのである。「女だらけの水泳大会」ならぬ「元維震軍メンバーだらけの札幌大会」だ！　女だらけも確かにいいが、元維震軍メンバーだらけの方が性欲に左右されないだけもっといい。

「挑戦者が現れるまで（出場を）ボイコットする」と言って本当にボイコットしていた後藤&小原だが、肝心の挑戦者が現れない。しびれを切らした2人は会見を開き挑戦者を募集。それに越中&健吾が名乗り出た。そして舌戦が始まる。

「どの新聞、雑誌も扱いが小さい。どういうことだ」（後藤&小原）

「木村じゃダメだ。オレはもっと上を狙っているんだ。そんな年寄りの挑戦を受けてられっか」（後藤）

「新日本は腰抜け野郎の集まりだ。橋本はカムバックしたのに何やってるんだ。nWoなんかも早く解散しろっ！」（小原）

「他団体で初防衛する。だれの挑戦でも受けるぞ」（小原）

「関東近郊の山中から〝脱走〟したサルが都内に出没し、マスコミを騒がせているが、アレでいい。ただ、他団体のリングに出没し、暴れまわる。2人のキャラクターなら間違いなくサル以上の騒ぎを巻き起こすだろう」（東スポ『マシン眼』）

「責任を感じている。健介にも申し訳ないって……」（越中）

「木村さんも責任を感じているようだ。こうなった以上、オレと木村さんで、ヤツらを潰してIWGPタッグを奪回し、新日マットから追放してやるって」（越中）

「オレは平成維震軍の後見人みたいな形で、後藤たちの活躍は楽しみにしていた。でもひょんなことから暴行を受けて、飼い犬に手を噛まれた感じ。全力で野犬狩りしますよ」（木村）

「楽しているヤツが勝てるわけない。おてんとうさまはちゃんと見ている」（越中）

「蝶野に言っとけって。もう口の時代じゃないって。試合は後藤と小原の方がましだって。だけどアイツらは頭がカラッポだって」（越中）

「木村さんがここ一番で頑張ってくれれば問題無いです」（越中）

「文句あるなら、オレたちをつぶしてから言え。かったるいから、明日も試合は出ない。どっかでパチンコやって、酒飲んで、馬券買ってから夜の町に繰り出して遊んでるよ」（後藤）

「来たくねぇんだ、コノヤロー！」（小原）

しかしこの舌戦は全てカモフラージュ。再結成という大どんでん返しのフィナーレを迎えるための助走にすぎない。仲の悪いフリをして、本隊（健介とか）や蝶野のチーム（チーム正洋、だかなんかそんな名前）を騙しているだけ。

そして後藤&小原のこの要求。

「札幌のタイトル戦では、公平な立場にいる元・平成維震軍の小林邦昭をレフリーに指名する。それがのめないのなら、札幌のタイトル戦もボイコットだ。本当だぞ」

越中、健吾、後藤、小原、そして邦昭。札幌のリング上に元維震軍メンバーが5人も登場するというのだ！　これはもう、再結成以外考えられない。ここで再結成せずにどこでするというのだ。多分**「彰俊だってね、体重を落とさせてジュニアで暴れたっていいんじゃないかと思ってる」**（越中）の発言通り痩せた彰俊も合流するはず。Iの遺伝子（維震軍の遺伝子）を持つ者達が集結！　さながら第2次UWFの松本大会のように、維震軍戦士がリング上で輪になって万歳三唱し、一致団結をアピールするだろう！　リング下では怒る健介、蝶野、そして藤波社長。だが健介は怒りをあらわにした表情とは裏腹にあっさり若手に静止されてみせ、蝶野は「アイム、チョーノ！」と叫ぶだけで打つ手無し。それを見た藤波は裸のまま外へと飛び出して行く……。私の妄想は加速し、もう止まらない。否、もう妄想では無い！

そして試合当日。飛行機のチケットは予約していた私であったが、札幌には行かなかった。眠くて面倒臭くなったのである。そして、再結成ももちろん無かった……。妄想は妄想だったのである。

もはや再結成は夢のまた夢なのか。ひーちゃん、Sとかいうグループみたく簡単にはいかないのなのであろうか。所詮戯言にすぎないのか。中島みゆきの曲の一節「世の中はいつも変わっているから頑固者だけが悲しい思いをする」に例えるのならば私はその頑固者なのか。アナーキーの曲に例えるのならば「昔は維震軍アナーキー」といったところか……。

と、意気消沈してるフリをしてみたが、全くそんなことは無い。なぜならば、いよいよ維震軍再結成への最後にして最大の起爆剤が投入されるのだ。その名は「ビートルズ」。

ザ・検証でもことあるごとに述べてきたが、越中は大のビートルズファンである。そして維震軍の前身、反選手会結成のきっかけとなったもまたビートルズであった（詳しくはバックナンバー参照）。そのビートルズのジョン・レノンを除くメンバーの3人が故郷リバプールにて31年ぶりにそろって歌声を披露することになったのだ。いわばビートルズ再結成である。このニュースに越中が触発されないわけが無い。蝶野にジョージ・ハリスンのチケットを渡した時「誰ですか？」と相手にされなかった頃の気持ちが蘇るはずだ。しかもビートルズ再結成の日と前後して日本では神宮大会が開催される。もう断言してしまおう！　維震軍は神宮大会にて再結成する。間違い無い！

この号が出る頃には結果は出ていることだろう。もし断言までしたのに再結成していなかったら!?　心配はご無用。その時用の言い訳はすでに考えてある。あまりにも私が再結成のことを書くものだから、きっと越中が裏をかいたのだ、という被害妄想にもほどがある言い訳を（バカ丸だし）。

ザ・検証コラム

9月4日、越中は41回目の誕生日を迎える。きっと直美夫人と一緒に誕生パーティを行うであろう。平成の越中番を自負し、「勝手に名乗るな」と怒られたらすぐさま撤回する覚悟の私にとって、これは黙っていられない。早速パーティーの様子を想像してみた……。

ケーキの上にはロウソクが41本。すでに火は灯され、直美夫人が「ハッピーバースデー」を歌い始めている。

一方、早くロウソクの火を消したくて消したくて、はやる越中。表情からは必要以上の気迫が感じられ、今にもケーキへと突進していきそうなお馴染みの動きを繰り返す。

直美夫人の歌が終わるや否や、越中はダッシュ！　そして助走を付けてからのヒップアタックだ！　ケーキの上を飛行し、その風圧でロウソクの火がほとんど消えるが、まだ全部は消えてない。

これを見た越中、すかさず指を一本立てた腕を上げ、ぐるぐると回し始める。合体攻撃の合図だ！

ケーキを高く持ち上げる直美夫人。越中はトップロープへ。なんとそこからヒップアッタック！　これが見事にきまり、ロウソクの火は全て消える！

火が消えたことを確認し、ガッツポーズの越中。そのままコーナーへと登り、腰に手を当てベルトを巻くポーズでアピール！

ロウソクの火を消せたことにご満悦の越中。パーティー中、越中は直美夫人に熱く語り続ける。

「ロウソクの火もね、所詮あんなもん。俺らと勢いが違うって！　勢いが違うってことですよ。蝶野もね、ガタガタ言ってるけど、口でガタガタ言うだけじゃ、ロウソクの火は消せないって！　あと武藤。膝が痛いだの、下の世代に追いつかれてきただの、弱気なことばっかり言ってるじゃない。あれじゃあチャンピオン失格じゃないの。それなら返上しなさいって！　ごめんなさいって頭下げてくれば、俺らが認定チャンピオンとしてベルトの価値をあげてやるよ。チーム2000だかNWOだか知らないが、ロウソクの火といっしょだよ。後藤だとか小原だとかが一息吹きかければ消えてしまいますよ。俺らは自主興行やって自分達でポスターも貼ってキップも売った。アイツラとは背負ってるものが違うんだって！　とにかく来年の誕生日まで突っ走りますよ！　GIも優勝して、ベルトも取って、その勢いでまた一気にロウソクの火を消すよ。ケーキごとぶっ潰してやるって！　だいたい蝶野もね、ガタガタぬかしてるけど……（以下略）」

その夜、明け方まで越中は吠えまくった……。

うのはあま
小路　飛
―ヒャ
小路　はぁ
で）ボクに
宇野　いつ
チャーに
―ヒャハ
（笑）。それ
チン戦が初
小路　はい
―すいま
うすると
『ＰＲＩＤ
相手は謎の
小路　なん
―でも、
ですから、
小路　そう
にこけちゃ
―ヒャハ
控えてます
ても体格
小路　デカ

『PRIDE.0』初代殿堂入り　武田いづみの

げんこつ山のパルチザン日記

『PRIDE.0』二代目殿堂入り
（真下家の）キッチンナビゲーター
真下純子の

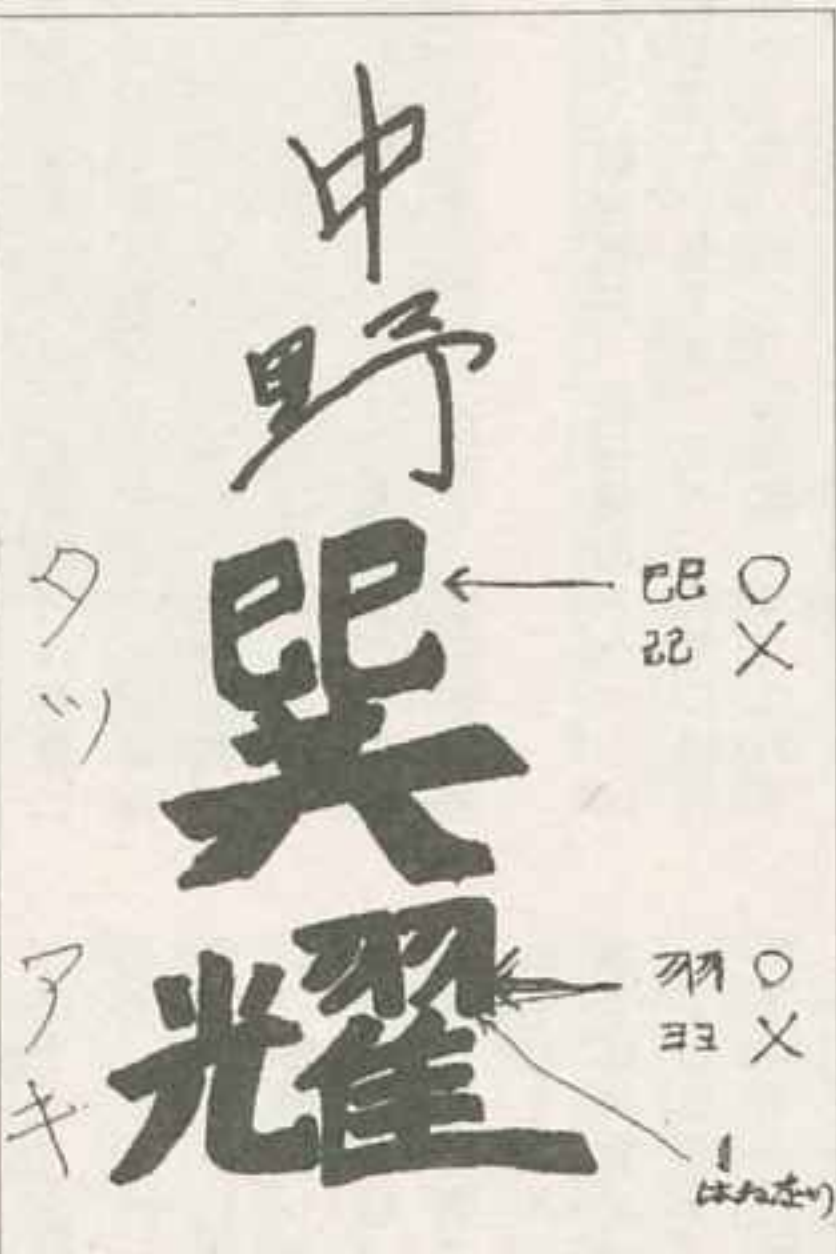
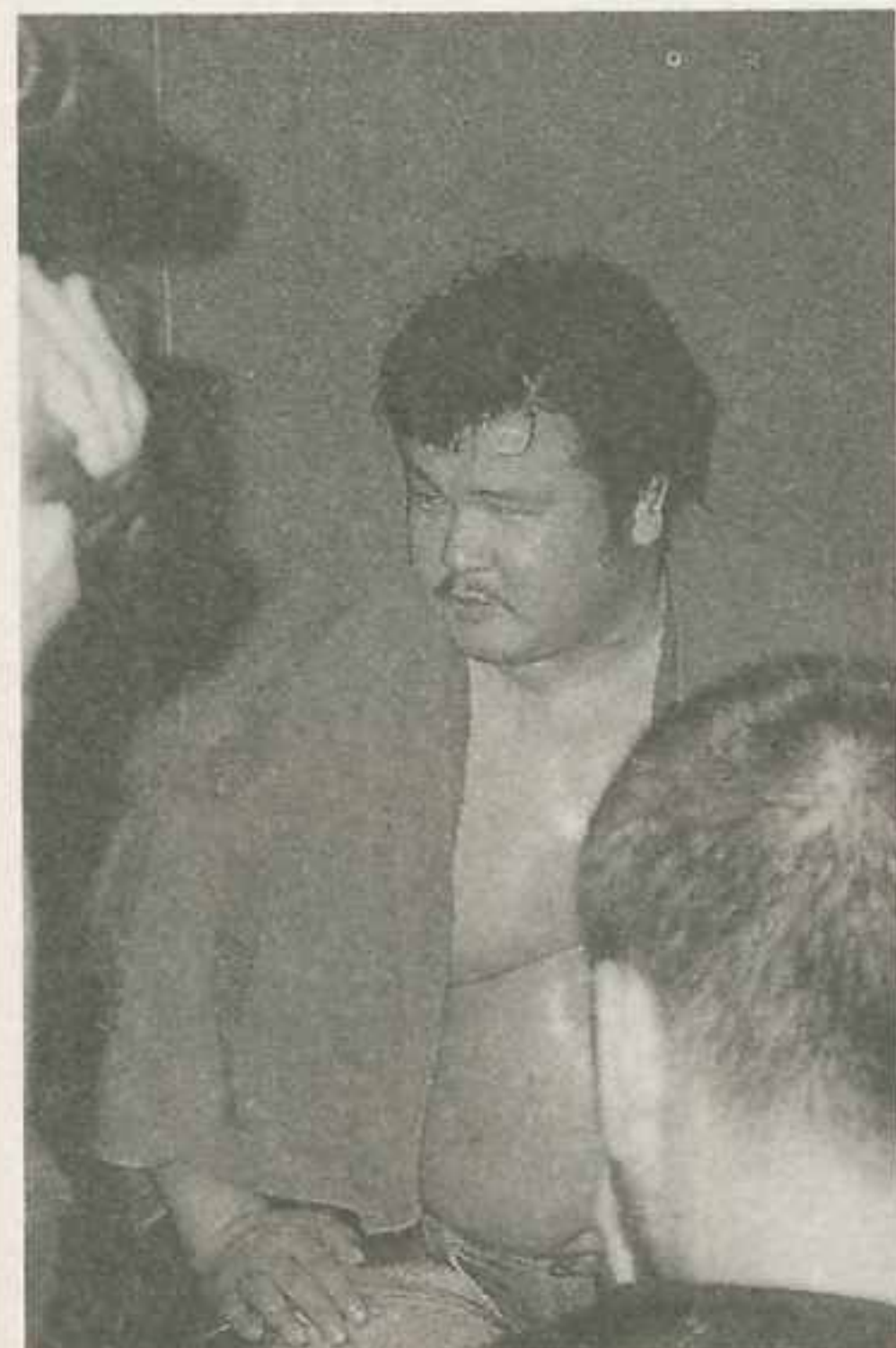
ちょっと、昼ごはん食べにこない？（残り物）

真下純子さん殿堂入りに伴い、必然的に……　ン？　必然的か？　とにかく『ジャイジャイ日記』が消滅してしまいましたぁ。グッスン。でもジャイ子にはこの小さいスペースが残されてる！　やったネ！　ここで日記書いちゃいま～す。みんなもジャイ子の日記読みたいでしょ？
8月11日　『青空プロレス道場』のゲストにアキラ兄さんが登場。ジャイ子は兄さんを駐車場から控室にご案内して、お茶を入れる係。む～、緊張するぅ～。兄さんはジャイ子のピアスだらけの耳を見て「なんや、ソレは！　虫に食われた柿の葉っぱか！」とフレンドリーにお話ししてくれたのに、ムダにビビッてたジャイ子はひたすら謝罪してしまいましたぁ。ドジだね、ジャイジャイ。

7月16日　久しぶりにバイトへ行くと、バイト先の先輩が含み笑いをしながら近付いてきて「あなたについてすごい話きいちゃったよー」と言う。最近なんか悪いことした記憶はないけど、そんなこと言われるとあせる。気になって後で聞いたら「雑誌で何か書いてるんだって？」。それってコレのことか。さらに「どんなこと書いてるの？」と聞かれた。どうしよう。説明できない。「日記です」か？でも、そもそも何であたしの日記が載るんだ？……やべぇ、わかんねぇ。結局たどりついた答えは「いやぁ…別にィ…」だった。

7月17日　先日見た電車の人身事故の様子を10人くらいの人に身振り手振りをまじえて説明してまわった。「“こてっちゃん”（甲子園の味）みたいだった」と言ってすごく嫌がられた。満足。

7月某日　下北沢にライブを見に行った。ライブハウスはせまい。すごいファンでもないくせに、せっかく来たので前の方までムリヤリすすんでずいぶん首を振っていた。そのうち見ている人が突然ステージによじ登りダイブしてくる。はじめは上手くよけていたけど、つかれてきて油断してたらモロに食らった。知らない男のカカトがアゴに…。「ブランチャって、きっととても痛いんだな」という気がした19の夜。

8月5日　最近テストもあるし、かったるいしでプロレスやその他の格闘技の情報をまったく得ていない。このままではよくない。でもプロレスって調子悪いとき見るとキツイ。なんつうか、アクが強すぎて対応する力が自分にないときは「プロレスにあたる」状態ですか。いろんな団体があって、いろんな選手がいて、それをいちいち全部知りたいんだけどそういう好奇心に体がついていかない。そうなると何が困るってここに書くことなくて困る。そういうわけですから私はオールナイトでカラオケをしに行きます。探さないで下さい。

いづみちゃん、中野選手は改名してこうなりました。字が難しいので、間違えられて困ってるらしく、ウチの会社にも本人からこんなファックスが来ました。みんなもちゃんと覚えようね！

●いづみちゃんからの残暑見舞い●
神宮の花火大会は見ましたか？　私は球場で案内係のバイトしてました。
加山雄三ライブが観られて幸せだなぁ。
写真は中野龍雄選手♥　柱のかげから激写♥　家宝です♥
上の写真はお気に入りのサバイバル飛田フィギュア。テレビの横に飾ってます♥

7月某日　ビアガーデンに春一番さんが営業にやってきたので見学に行きました。「闘魂注入をご希望の方はお並び下さい。」と言われたので最後尾に並びました。女子の希望者は私だけでした。覚悟を決めてビンタを待ったらおでこにちゅう、とされました。格好のオチになってしまいましたが大変嬉しかったです。あまりに嬉しかったのでこのいささかハレンチムードを交えたエピソード（©ジャイアント台風）を知人に片っ端から話した私でした。

7月某日　同級生（妊娠中）より電話。先日放送された「知ってるつもり？　梶原一騎」の話題になりました。私もビデオに録ったのを見ましたが、動く真樹先生やスゴイ着物を着た未亡人や早口の佐山さんを見ることが出来て収穫でした。家族愛でまとめたのはちょっと意外でしたけど。そんな話をしていたら、その同級生、「佐山がパリで恋人を食べたのはタイガーになる前？」と聞いてきました。「それは佐川。」と言おうと思いましたが、なかなかしようと思っても出来ない勘違いなのでそっとしておきました。Yちゃん、丈夫な赤ちゃん産んでください。

8月3日　小学校のプールの監視当番をしました。小学生ガン黒。夜、「トゥナイト2」で松澤チョロ氏ご出演の模様を視聴。涼しげに刈られたチョロさんの頭を見て、近所の皮膚病せで毛を刈られた犬を連想しました。チョロさんなにかあったんですか。この歳になると、Jさんがステキに思えてなりません。

8月8日　午前7時起床。名古屋パルコで開催されている長尾迪氏の格闘写真展「ガチンコ・グラフィック・ギャラリ」に宇野薫選手がご来場、Tシャツの販売をなさるということで真下のおばちゃん大はりきり。朝っぱらから厚化粧。10時の開店と同時に行きましたが、すでにかなりの人だかりです。「カオルコ」なんてへんてこな言葉（ウノラーじゃダメですか）があるくらいだから、さぞや女の子てんこ盛りなんだろうと思ったら、大多数が男子。なんだかよくわからないけどホッとしました。混乱を避けるため、10人ずつ会場へ入るというちょっとした規制が。いやぁ、大人気です。目的はやはり名古屋限定Tシャツ。みなさんそれを手にしレジへ。なんと宇野選手が手渡しして下さり、握手もしてくれます。レジにはお母さまのお姿も。すばらしい笑顔のお方でした。憧れます。宇野選手は写真も快く応じて下さりこれまたすばらしい笑顔。リングを降りたら普通でありたい、との言葉通り実に好青年な宇野選手。実は、連れてった娘が「王子に渡す」と小遣いでバンドエイドを買いプレゼントさせていただいたんですが、ちゃんと視線を子供に合わせて優しく受け取って下さいました。お陰でいい絵日記が書けそうです。ありがとうございました。で、写真展なのですが、すごくいい写真がいっぱいだったのですが、板切れに釘でガンガン打ち付けただけ、というぞんざいな展示だったので折角の写真が勿体ないなぁと思い……いや、差し出がましいですね。スイマセン。宇野選手、9月5日頑張って下さい。

ましたじゅんこ：二代目あばれはっちゃくと同年代。主婦。夫と娘（8歳）の三人家族。趣味・パソコンとへそくり。好きな団体・和術慧舟會。娘への教育方針は「睨み倒し」。自宅謹慎のような夏休みを送る娘のために、8月14日はマスカラスを観にCMLLに出掛け、宿題の絵日記に華を添える予定。

みちのくプロレス&格闘探偵団バトラーツ 合同興行開催決定!!

サスケが長年抱いていたOVNI（オブニ）構想がついに陽の目を見ることになる!!

10月17日に横浜文化体育館でみちのくプロレスと格闘探偵団バトラーツが合同興行を行う!! その名も〝兄弟愛～横浜純情編～〟

大会名が現すように、この両団体にはじつの兄弟のよりも濃い血が流れている。それは「猪木イズム」という鎖で繋がれた絆であり、この両団体の宿命なのだ。

本誌NO.12で、ザ・グレート・サスケと石川雄規がそろい踏みしたことがあった。その号でサスケが、「みちのくプロレスは限りなく濁ってる！」と怒りをブチまけて、「もう、みちプロから独立しちゃおうかと思ってるんだけどね。オブニっていう団体を作ろうと思ってるんだよ」と衝撃的な独立構想を初めて明らかにした。オブニとは、スペイン語で「UFO」という意味である。いま思えば、このあたりから今年1月のみちプロ分裂へと繋がる予兆はあったのだが、当時はそんなことをこちらも知るよしはない。「猪木のパロディか？」ぐらいに思っていたファンも多かったのではないだろうか？

ところが、この企画は水面下で生きていたのである！

『元祖・闘魂』がUFO北朝鮮大会というビッグなロマンに向かって飛び始めたのと時を同じくして「闘魂伝承」をライフワークとする2人の社長も動き出した!!

この2人とA・猪木に共通するのは、とにかくバカなことを真剣にやる遊び心の持ち主であるということ。A・猪木は北朝鮮の政府高官に「私のテポドンは女性にしか向いていない」と豪快に言い放ったそうだが、この2人のテポドンも、きっと猪木さんと同じように女性に向けられているはずである。あるいは自分たちは見向きもしない世間という巨大な敵に向けられているはずだ。

「誰もやらないこと、誰もやろうとしないことを夢としてそれに挑戦する！」

という猪木イズムで、ここ数年間のマット界を盛り上げてきたのは、紛れもなくこの2人である。たしかにみちのく、バトラーツともに、数年前に比べれば認知はされはじめているが、この2人の貪欲な野望はまだまだ満たされていない!! 目指す未来が違う、ということである。

思い起こせば、この2人を初めて引き合わせたのがちょうど3年前になる。小社の副業雑誌である『Rintama』で、石川が「地球征服」という野望を掲げれば、サスケは「火星でプロレスする」と夢を語りあったのだ。それが同じOVNI（＝UFO）に乗って、共にロマンを目指すことになったのだから実に感慨深いではないか！

かつて、石川雄規は「猪木信者だけを集めて猪木王国を作りたい」と発言していたが、今回のOVNI旗揚げ興行はまさに「猪木王国プレ旗揚げ興行」となることだろう。

この2人に立ち向かうのは、ファン投票で堂々の第1位に輝いた新崎人生&アレクサンダー大塚のコンビだ！ 夢の顔合わせとなったメインイベントだが、現実的な問題もいくつかある。特にアレクは、最近、海外遠征を途中で打ち切ったバトラーツを思いっきり批判したのだ。一筋縄ではいかない激しく燃えるような試合になりそうだ。試合が荒れる可能性もなきにしもあらずだろう。

それ以外のカードは、現段階で決まっていないが、全体に猪木イズム溢れるイベントになることは間違いない。この2人が投下する爆弾興行が、秋の興行戦争を吹っ飛ばすはずだ！

迷わず行けよ！

行けばわかるさ！

アリガトーッ!!

夢のみちのく&バトラーツ合同興行が実現!!

兄弟愛♥ ～横浜純情編～

闘魂伝承コンビ・サスケ&石川の“チームOVNI”結成！

ザ・グレート・サスケ&石川雄規vs新崎人生&アレクサンダー大塚

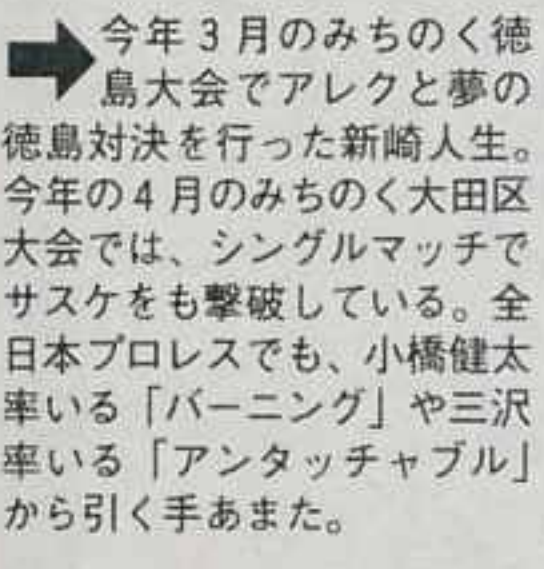
10月17日（日）神奈川・横浜文化体育館　13：30開場　15：00開始

【料金】

特別リングサイド	￥7000	1階指定席	￥5000
2階最前列	￥5000	2階指定席	￥4000
3階自由席	￥3000		

【プレイガイド】

チケットぴあ　TEL.03-5237-9999

ローソンチケット　TEL.03-3573-1015※その他、プロレスショップにて絶賛発売中!!

【お問い合せ】

みちのくプロレス　TEL.0196-26-1333　バトラーツ　TEL.0489-63-0005

本誌特選!! ここに注目せよ!!

←新崎人生とのタッグ“徳島エクスプレス”で社長コンビに挑む！ ヤンジェネ・シリーズ中は「心ここにあらず」の発言で物議を醸したアレクだが、大舞台のメイン、しかも新崎人生とのタッグだけに静かに燃えているはずだ！

→今年3月のみちのく徳島大会でアレクと夢の徳島対決を行った新崎人生。今年の4月のみちのく大田区大会では、シングルマッチでサスケをも撃破している。全日本プロレスでも、小橋健太率いる「バーニング」や三沢率いる「アンタッチャブル」から引く手あまた。

←サスケ社長と石川社長が初めてタッグを結成したのが、じつは『ターザン山本追悼興行』だった。このときはニセ猪木が登場、最後はダーッ!! で締めくくった。

99年10月17日 横浜文化体育館

“闘魂伝承”コンビ

チームOVNI（オブニ） 急速発進!!

必読連載

石川雄規の闘いの美術館

あるいは『「石川雄規自伝風」その壱』

第18回

TVのブラウン管の中で闘い続けるある男の姿が、私の体内奥深くに眠る〝何か〟に火を点けたのだった

終点の駅が近づき、速度を落とした電車がホームに滑り込むと見慣れた風景が眼前に広がった。雑踏のざわめきと駅のアナウンスが入り混じった空間に身をまかせ、改札口を通り抜ける。西口ロータリーの真ん中には、馬に跨がり松明を掲げた北条早雲の像がいつの頃からか建立されている。その昔、5代目が豊臣秀吉に滅ぼされるまでこの土地小田原を治めた北条氏。早雲はその初代の小田原城々主であるという。

新幹線の高架沿の道を暫く歩くと、車がようやく行き交える程の狭い急な坂道にさしかかり、まもなく心臓破りの階段、通称『百段坂』を目前に迎える。この小高い山は八幡山といって、2つの高校と2つの中学、慰霊塔公園、陸上競技場、テニスコート等を備え、すぐ麓に小田原城があることから、この地域は『城山』と呼ばれている。その城山の百段坂を昇った所に、私の母校神奈川県立小田原高等学校がある。懐かしい制服達とすれちがいながら百段の階段を昇りきり、振り返るとそこから小田原の街が一望に見渡せる。右下方に見える天守閣は濃緑の木々に囲まれ、街の界隈から一際高い所で誇らしげな姿を見せている。そして、美しい曲線がどこまでも続く相模湾。好天の日、青い空と青い海の境目辺りには時折大島が姿を見せる。連なる山々と海岸線に挟まれて、私の生まれた町は静かに優しく穏やかに、今も変わらず暮らしていた。

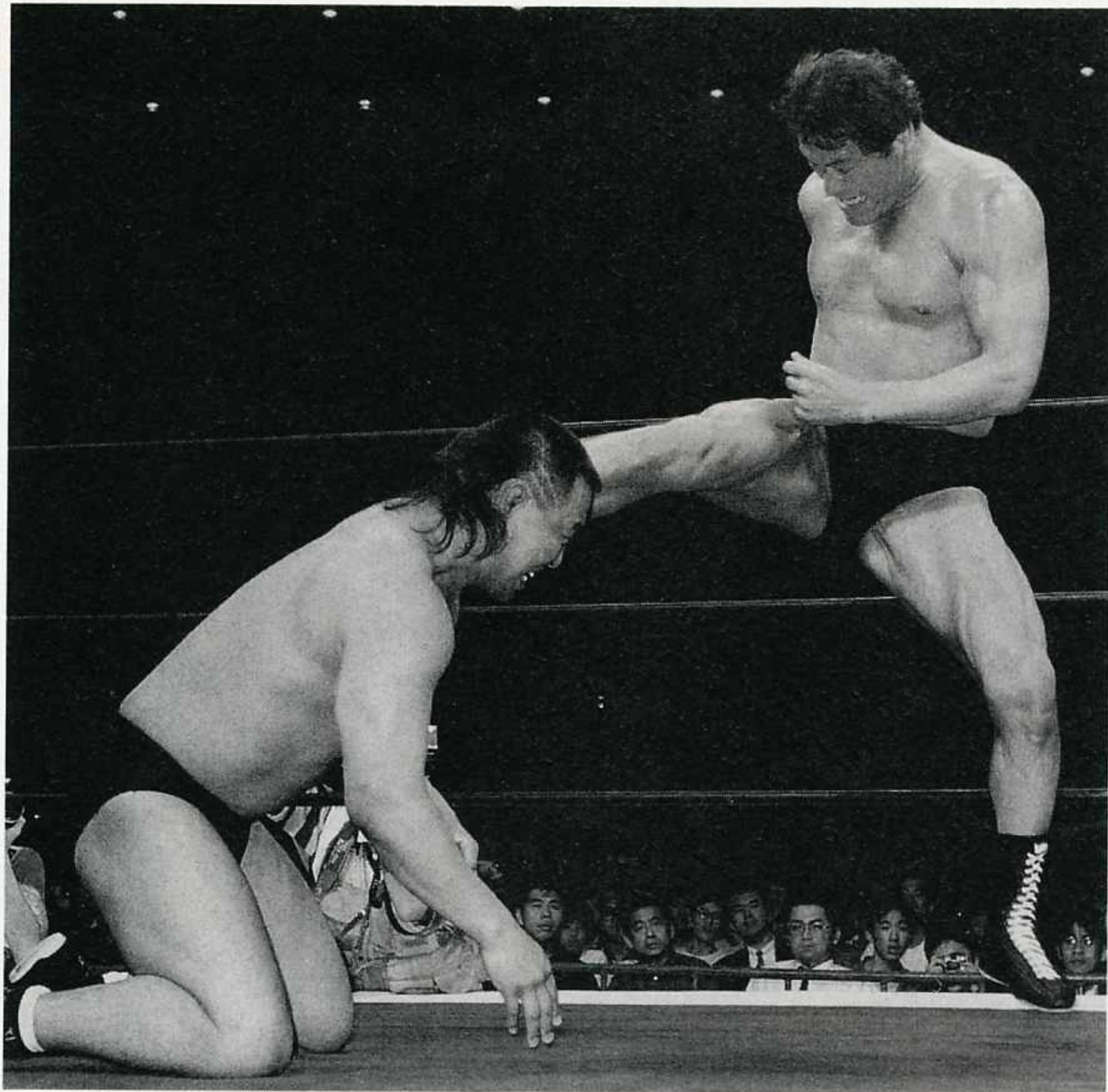
若さ故に、優しすぎるこの町に溺れることを拒み、いつも飛び出すことばかり考えていた。愛するが故にこの町を憎み、そして知らず知らずのうちに、自らを己自身の中に追い込んでいった。あの日小田原を離れ、日本を離れ、いつも浜辺から見ていた遥かな海を越えた世界にひとりで飛び込んでいった。

あれから長い年月が経ち、やはり私はこの町を愛していた。木々の緑も、潮風も、坂の上の風景もあの日のままだった。昔この町で手に入れた小さな夢のかけらを、抱えきれない程の大きな夢にふやして今、帰って来ることができた。『お帰り』と言う故郷に、今なら『ただいま』と素直に言えそうな、そんな気がする。〝故郷は遠くに在りて想ふもの〟ふるさとは思いがけず、ずっと私の側にいた。

1967年（昭和42年）2月8日。小田原に10年ぶりの大雪が降り、城下の町は白銀に覆われた。それはあたかも、天が石川家の長男の誕生を祝っているかのようであった。父・和彦、母・松子。赤ん坊は〝豊彦〟と命名された。体重3、500g。体重は標準を少しだけ越える程度だが、泣き声の力強さは標準を遥かに上回っていたという。初内孫とあって、祖母はことのほか嬉しかったのであろうか、毎日幼い私を背負っては散歩に出掛けた。そのせいかどうかわからないけど、当時から私は見事に日に焼けて、とても色黒の赤ん坊だったそうだ。

3歳の誕生日を迎えると同時に私は弟の誕生を迎え、めでたく〝兄〟となった。翌年、私立新玉幼稚園に入園。とにかく幼稚園では全くしゃべらない子であった。理由はいまだに思い出せない。ある時、迎えに来た母親が『幼稚園、つまんないの？』と聞いた際に、私は『ううん、楽しいよ』とにっこり笑ったらしい。絵を描いたり、折り紙を切り貼りしたり、粘土細工をしたり、ひたすら静かに作業に没頭する子であったのだ。ミッション系の新玉幼稚園には小さな教会があった。遥かに高い天井、ステンドグラスから差し込む光、パイプオルガンの響き。賛美歌に今をもってなお郷愁を感じるのは、幼き日の潜在的記憶によるものであろうか。

5歳の頃、小田原城址公園で開かれたお城祭りの時に、人込みに紛れて迷子になってしまったことがあった。大人の足で約25分、両親は家に着く頃、私がいないことにようやく気付き、びっくりして今来た道を引き返すと、はるか彼方から歩いてくる小さな子供の姿を見つけた。私が生まれて初めて迷子になって、泣かずに一人で家までたどり着いた初めての大冒険であった。当時のことではっきり覚えているのはこの事件くらいだが、アルバムを開けば、たくさんの幼い私がいる。そこには、まぎれもなく過ごした遠い日々が確かに綴られていた。

海に出るには自転車でほんの5分であった。そして、酒匂川の河川敷までは15分。父の自転車の後ろに乗せられ、よく河原に連れて行ってもらった。今では野球グラウンド、サッカーグラウンドに整理されているけれど、当時は草木に覆われ、そこを探検するのが楽しかった。家の前には子供でもギリギリ飛んで渡れる程の小さ

な川が流れており、無花果の木がならんでいた。よくその川に落っこちてズブ濡れになって家に戻ったのを覚えている。庭先には巨大な桜の樹があり、春には満開の花を見せてくれた。いつも木登りをしていた私の〝基地〟だったのだが、夏になると毛虫が大量発生するのが嫌だった。父や弟は平気でつまんでいたが、私は毛虫が大の苦手であった。

夏休みに必ず訪れた母方の実家は小田原市の田島という所にあり、みかん農家を営んでいた。収穫の季節になると親戚が集まり、皆で手伝った。親戚の兄や姉と共にする〝みかんもぎ〟は幼な心に楽しく、遠足に行くような嬉しい時間であった。正月のかるた、凧揚げ。お盆のお墓参り、花火大会。縁側で食べた素麺、塩茹での玉蜀黍、そして真っ赤な西瓜。蚊帳の中で寝る時の不思議な胸の高鳴りや、かくれんぼの時裏庭の小さな祠が少しだけ怖かったこと。すべての記憶は、懐かしい季節の香りと共に時折私の心を訪れる。

幼き日の思い出が一杯詰まった私の〝田舎〟は、今もあの頃と同じみかんの香りに包まれている。当時、幼い私にとって大遠征であった田島は、実は家から車で15分の所だった。あんなに広かった道も実はとても狭かったりするけれど、故郷のぬくもりは今も昔も変わらない。

教育問題が取り沙汰されている今日、思えば私の少年時代は素晴らしい先生達に恵まれていた。昭和48年、小田原市立新玉小学校入学。幼稚園時代からの社交性のなさは相変わらずであったが、優しく導いてくれた先生に救われた。石井先生は今はおばあちゃんになっておられるが、今でも年賀状を書くと必ず返事をくださる。『リーダーの素質はあるが開花していない。なにかきっかけがあればきっと変われる』先生はいつも母親にそう話しておられたそうだ。変わるきっかけがつかめないのは、幼いながらも自分が一番感じており、それ故何かにつけて母親に食ってかかっていたという。いわゆる反抗期のようなものであるが、その葛藤は並大抵のものではなかったようだ。

そんな折、PTAの講演に訪れた絵画塾の先生の話を聴き、母はその先生の所に私を通わせようと思い立った。酒匂に住むその井上先生は現在100歳を迎えようとし、いまだにバリバリに元気なおばあちゃんである。御高名な画家でいらっしゃると同時にすばらしい人格者、教育者でおられる先生は、私にとって尊敬できる人の一人だ。絵画に感情のはけ口を見つけた私は、ひたすらにデッサンに没頭した。そしていつしか人並みな社交性をもつ子供になっていったのであった。

いつの頃からか、父親が教師であるということから一目おかれ、勉強のできる良い子と評判を受けるが当人にとっては迷惑この上ない余計なお世話であった。今から思うに、なんとまぁスケールの小さい世間の人々であったのだろうか。ことあるごとに『先生の息子だから云々』と話題にされたのを覚えている。あれから20年近くたった現在、私に対する井戸端会議の噂が『小田原高校を出てプロレスラーになった人がいるんだってね～（もったいないわねぇ）』だという。小田原高校は西湘地区では有数の進学校であるが、一歩県下、関東に出れば誰も知りはしない。例えばラサールや東大というならまだしも、たかだかそんなレベルが話題になるとは、スケールの小ささは微生物並で当時と何ら変わっておらず、呆れ返って言葉も出ない。

きっとそんな土地柄のせいであろうか、私はそんな〝世間〟に対しての並々ならない怒りを、知らず知らずのうちにその小さな体内に蓄積させていった。肉体的にも精神的にも強くなりたかった。正義が力なんかじゃない。力のない正義なんてただの綺麗事だ。心の中でそう叫んでいた当時、常識やスケールの小さい世間体が蔓延する大人の社会に対して何の抵抗もできない自分が悔しかった。

そんな時、TVのブラウン管の中で闘い続けるある男の姿が、私の体内奥深くに眠る〝何か〟に火を点けたのだった。

〝燃える闘魂〟アントニオ猪木。まさに闘神であった。この世に生まれてまだ10年しか経たない少年の心に、闘魂は飛び火し、そして住み着いた。金曜8時になると私はTVの前に正座し、アントニオ猪木の闘いを食い入るように見つめた。夢を見ることの素晴らしさ。そしてそれを実現することの尊さ。信じることの強さ、美しさ。私は、そういった大切な事柄をプロレスに学んだ。社会的にも肉体的にも未熟であった私に、本当の勇気や、闘うことの大切さを教えてくれたのは、まぎれもなくアントニオ猪木の闘う姿であった。私は幸いなことに一番純粋な年頃にプロレスと出会い、猪木信者として一番多感な時期を迎えることになった。

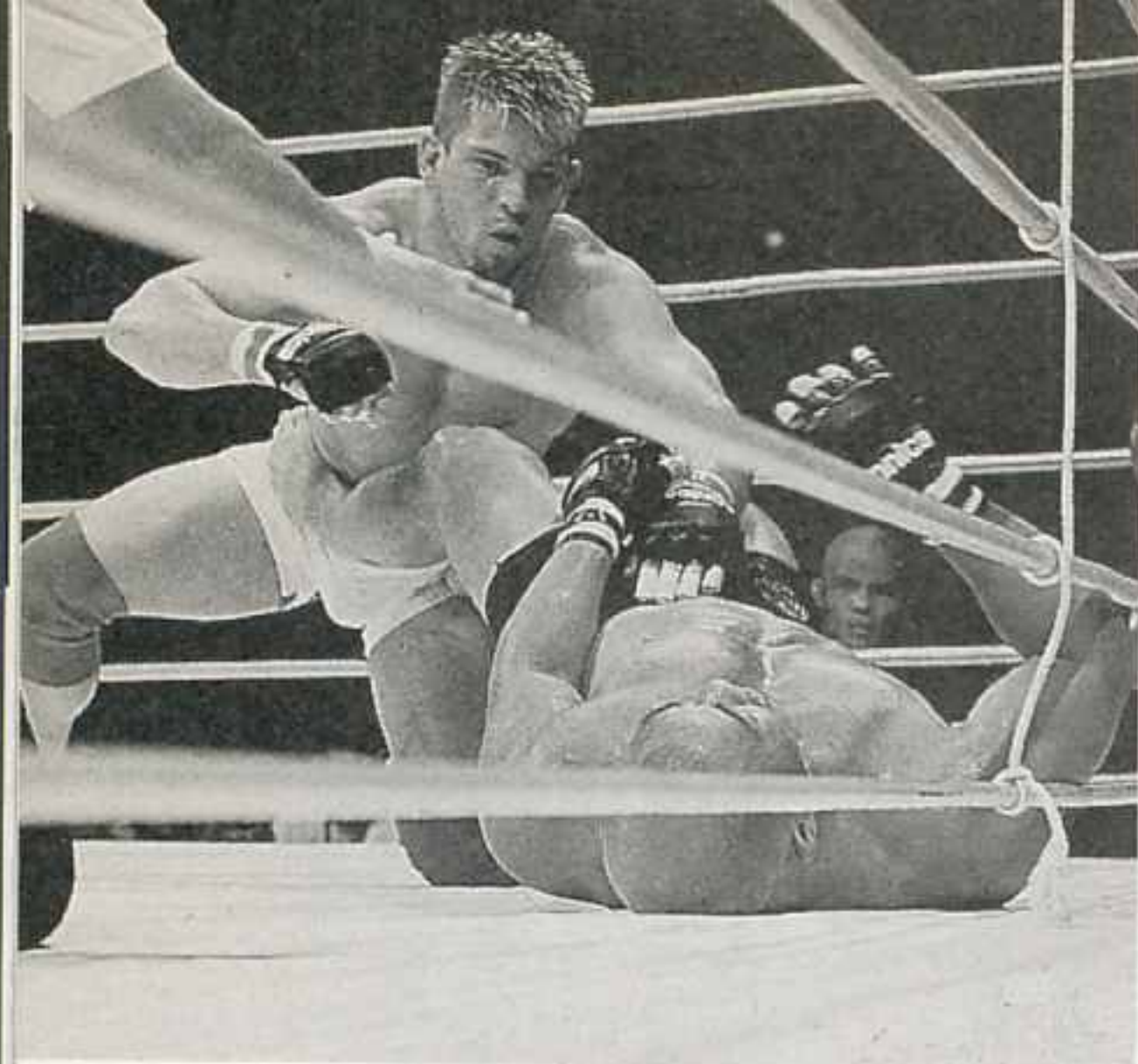
小学校卒業。新玉小学校のシンボルである大きなフェニックスの植え込みの前で撮ったクラス写真の中では平均値の体格の幼い私が立っている。まさか将来このグラウンドでプロレスの試合をすることになるなんて、当時誰も想像しなかったであろう。勿論、当の本人も考えもしなかった。1996年夏。小田原ちょうちん祭りのメインイベントとしてバトラーツプロレスが呼ばれ、会場は新玉小学校のグラウンドであった。そう、私は卒業以来17年ぶりに母校に帰った。小田原出身のプロレスラーとして。フェニックスがまだ当時と同じ場所にあったのが何だかとても嬉しかった。

＜以下次号＞

Who's
リアルなヒーロー、デテコ〜ヒッ!!
Real Hero?

「プロレスとバーリ・トゥードの違い?
簡単なことさ、
すべてはアートなんだ」

Battlarts
カール・マレンコ

KO

カールは終始上に乗り続けて、コツコツとパンチを当て続けた。延長ラウンドではテイクダウンを奪い、スリーパーの形に入ったが、これは決定打とはならず。セコンドには、交通事故で、現在復帰に向けてリハビリ中の元バト常連ガイジンのデュセル・バットが付いて、カールに的確なアドバイスを飛ばしていた。(『PRIDE．6』リングサイド撮影・黒田史夫)

『PRIDE．6』のvsイーゲン井上戦はじつに見事だった。執拗にガード・ポジションにこだわりながら隙をついて関節技を狙いに来るイーゲンに対して、終始上に乗って関節を狙い続けたカール・マレンコ。その頑なな姿勢は、ゴッチ・イズムの片鱗を感じさせた。そんなカールが育ったフロリダ州タンパには、カール・ゴッチがいて、ラリー・マレンコがいて、ジョー&ディーンのマレンコ兄弟がいて、日本からはプロレスラーになることを夢見た石川雄規らがやってきていた。では、一体カールとはどんな人間なのだろうか？ その実態に迫ってみよう。

——まずは『PRIDE．6』の勝利、おめでとうございます。

カール サンキュー!! vsイーゲン戦はすごくタフな試合だったよ。イーゲンは予想以上のパワーファイターで、柔術のテクニックも凄かったし、ちょっとシャレにならないと思った(笑)。できればパンチの練習をもう少ししたかったけど、勝てて良かった。バトラーツの興行が試合の1週間前まであったから練習時間が短かったんだけど……。

——ずっとシリーズ参戦してましたもんね。

カール バーリ・トゥードの技術を身につけるには最短でも2か月の練習が必要だから。

——普段のトレーニングだけではバーリ・トゥードで勝つのは難しいですか？

カール もちろん！ スペシャルなトレーニングが必要さ。

——では普段はどんなトレーニングをしてるんですか？

カール スクワット、プッシュ・アップ、コンディション・トレーニング、ウェイト・トレーニングはちょっとやる。ゴッチサンハ、スキジャナイ(日本語で)。

——えっ、カールさんはゴッチさんが好きじゃないんですか？

カール ノー、ノー！ ゴッチさんはウェイト・トレーニングが好きじゃないんだ。何てこと言うんだ(笑)。

——すいません。バーリ・トゥード用のトレーニングって、どんなことですか？

カール パンチ特訓だね。長時間サンドバッグを叩いたり、サンドバッグを地面に置いてグラウンドの練習をしたりする。マウント・ポジションでのヒジ打ち、ヒザ蹴り、パンチの練習さ。イーゲン戦では上に乗ることができたから、その練習が役に立ったよ。

——なるほど。イーゲンの強さはどういう部分に感じましたか？

カール ガードのテクニックだね。

——柔術スタイルのポジショニング重視の闘い方と、ゴッチ流のサブミッション主体の闘い方ではかみ合わないと思うんですけれど、そこにやりにくさは感じましたか？

カール あのガード・ポジションを崩そうという準備はしてたんだけど、なかなかうまくはいかなかったね。

——カールさんは試合前に、「タップを取りに行く」と語っていましたけど、それも難しかったわけですね。

カール どんな方法でも勝ちに行くことは諦めてなかったよ。相手を極めることが何よりも大事だからね。

——では、あの試合でカールさんは負けてもいいから勝負を仕掛けてタップを取りに行きたかったんですか？ それとも、観客がどんな退屈に感じるような試合になっても勝ちに行こうと思いましたか？

カール もちろん勝ちが最優先だよ。いいかい、闘いというのはチェスなんだよ。

——ゴッチさんも同じことを言ってまし

『PRIDE.6』でエンセンの実兄イーゲン井上に勝った青い目の格闘探偵団員

Carl Malen

旗揚げ以来の常連ガイジンとして、もはや格闘探偵団の一員として欠かせない存在となったカール。少し時間は経ってしまったが、『PRIDE.6』における、vsイーゲン井上戦での勝利はバトラーツ・ファンのみならず、プロレス・ファンにその強さをアピールすることに成功した。ゴッチイズムを全身で受け継いだ生粋のプロレスラーは、このプロレスと格闘技が混沌とした時代に何を考え、何をしようとしているのか？ 青い目をした格闘探偵員に本誌初インタビューを敢行！

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito
通訳／鵜飼久二
interpreter by Hisaji Ukai

バトラーツがまたやった！『PRIDE．4』のアレクに続き、カールがイーゲンを破り、見事にその強さを証明してみせた。気合いの入りまくったカールは、試合後も表情が崩れることはなかった。

撮影協力／YOMIスケートパーク
【住所】東京都足立区千住関屋町19-1 アメージングスクエア内
【TEL.】03-3883-2423
【営業時間】12：00～22：00（土日＆祝日は10：00～）
【入園料】平日1000円、土日＆祝日1300円

た。

カール　リングはチェス盤と一緒さ。イーゲンとボクは普段は違うチェス盤の上で試合をしてるんだけど、あの日は同じチェス板の上で闘わなければいけなかった。イーゲンはガードをしながらこっちのミスを待っていたようだけど、そうはいかないさ。ボクはミスをしなかったんだから！

——でも、カールさんはあの試合に「満足していない」ってコメントしてましたよね？

カール　そうだね。ボクはどんな試合でもサブミッションで勝ちたいんだ。「勝つ」か「負ける」かの決着がいい。判定は嫌いなんだよ。ジャッジを下す人によって見方も違うし、判断も違ってくるから好きじゃない。

——カールさんは試合前に「ボクの最大の武器はファイティング・スピリットだ」と言ってましたけど、試合中は至って冷静でした。

カール　セコンドのトーイ（石川）や（田中）ミノルや（デュセル・）バットが、試合前に「クールダウン！　テイクイットイージー！」と言ってくれたからリラックスできたよ。

（ここで、凱旋帰国を果たしたアレクが空港から会場に到着！　一同、拍手で迎える）

アレク（カールを見るなり）あっ、スーパースターだ。

カール　アハハハ、ダメ、ダメ！

——あっ、お疲れさまです！　さ、スーパースターのインタビューを続けましょう（笑）。カールさんは、カーッと燃えるよりはリラックスした方がいい結果が出るんですか？

カール　クールな方がいいよ。集中力が高まるからね。エキサイトするのは、ゲイリー・グッドリッジみたいなパワーで行くタイプには効果的だろう。でも、すぐスタミナを使ってしまうよ。

——カールさんはあの試合後、リングから出る時に天に向かってキスしてましたね。あれは何の意味があったんですか？

カール　そんなことやってた？　多分、無意識のうちに天国のラリー（・マレンコ）に贈ったんだろう。この試合は、ものすごく特別な闘いだったからね。

——では、カールさんにとってバーリ・トゥードとは、何なんですか？

カール　昔、ストリートでやってたことをきちんとギャラもらってやってる感じだね（笑）。いまは「アート」を極めたい、という感じ。じつはボクは絵もちゃんと書いてるんだけど、格闘技は「アート」だと思ってる。

——へっ？　アートですか？

カール　格闘技は絵と同じさ。絵を描くのにだって、ペン、鉛筆、エアブラシ、筆……いろんな方法があるだろ？　総合格闘技にだって、柔術、サブミッション、柔道、空手……いろんな方法があるのと同じことさ。イッツ・アートだよ。

——ではカールさんの中で、バーリ・トゥードとプロレスはどう違うんですか？

カール　違いがわからないかい？

昨年の両国大会では、ＫＰＧ（キッド・プロレス・軍団）入りしたカール。昔は嫌いだったプロレスの世界に現在のカールは身も心もドップリと浸かっている。

昔はバッド・ガイだったから罰として毎日9000回スクワットをやらされた

——いや、その違いをカールさんはどのように考えてるか聞きたいんです。

カール　バーリ・トゥードでは力を100パーセント使いきってしまう。だけど、プロレスではルールがあるから、力の配分を考えなきゃいけない。でも、大きな意味では同じだよ。簡単なことさ。

——方法は違うけど、基本的には同じものだと考えているんですね。

カール　もちろん、どちらもアートの一部に過ぎないんだよ。ちょっとやり方が違うというだけで、本質的には同じものさ。「アート・イズ・エヴリシング。エヴリシング・イズ・アート」だ。

——へっ？　どういうことですか？

カール　自然は神が作ったアートだとしたら、すなわち人間が発明したものはみなアートさ。

——はあぁぁ。哲学的ですね。

カール　ボクはエアブラシも使うし鉛筆画もやる。ボディボード、スケートボードのペイントなんかも自分で描いてるんだ。（モハメド・）ヨネのスケボーにも描いてあげたんだ。

——へえ、器用なんですね。

カール　趣味は多いよ。ボクは何でもレスリングのトレーニングになると思ってるからね。バスケットボール、スケートボード、アメリカン・フットボール、ボディボード、サーフイン……サーフィンはあんまり上手くないから練習中だけど（笑）。スモウも好きさ。

——相撲もやるんですか？

カール　観るのも好きだし、スモウ・トレーニングも好きだね。

——バトラーツの師匠だった藤原（喜明）組長も相撲は強いですよね。

カール　あぁ、フジワラサンはとても強いね！　フジワラサンにはなかなか勝てなかったけど、1回だけぶん投げることができて嬉しかったよ（笑）。

——何にでもチャレンジするんですね。

カール　いつも生活の中にレスリングがあったからね。身近すぎてレスリングのことをあまり好きじゃない時期もあった。

——なるほど。では、そんなカールさんの生い立ちを聞かせて下さい。

カール　ＯＫ！

——義理のお父さんがラリー・マレンコさんということですが、本当のお父さんは何をしてるんですか？

カール　会ったことないんだ。

——差し支えなければ、何があったのか教えてくれませんか？

カール　母が話してくれたことなんけど……父と母はケンカばかりだったから、母はボクを連れてマイアミを脱出して別の州に逃げたんだ。父はマフィアだったらしい。逃げたのはボクが3つか4つの頃だったと思う。いまも、母は叔母とアトランタに住んでるよ。それで、逃げてから2年位はボクは母と2人で暮らしたんだ。その後、ラリーと暮らすようになったらしい。

——父親としてのラリーさんをどう思ってましたか？

カール　大好きさ！　ボクの運命を開いてくれた恩人だと思う。昔のボクはケンカにあけくれるかなりクレイジーだったからね。若い頃は何も怖くなかった。それで1回捕まっちゃったんだ。

——うわっ、何やっちゃったんですか？

カール　う～ん、あんまり言いたくはないん

【PRIDE.7速報!】カールが再び「PRIDE.」のリングに立つ！　対戦相手はブラジリアン柔術の強豪バンダレイ・シウバになる見込み！　必ず見よう！

だけど……車を盗んだりする窃盗集団みたいなことさ。

——……凄いですね！

カール　ホントにバカ！　かなりクレイジーだったよ。

——そのグループでは、もちろんボスだったんですよね？

カール　どうしてそのこと知ってるんだい？　よくわかったね（笑）。

——プロレスラーになる人は、そういう素質がありますからね。みんなエネルギーがありあまってる人ばっかりですよ。

カール　アハハハ、そうかもね。プロレスラーはデンジャーでクレイジーだから（笑）。ボクはたしかにビッグ・ボスだったよ。ホントにあの頃は何も怖くなかった。そんなボクを父は「生涯やるべきことが見つかるかもしれない」とプロレスの道場に連れていってくれたんだ。

——ラリーさんの試合は見てましたか？

カール　ボクは小さかった頃はいつも観ていた。地方巡業が1週間に5日以上だったからね。母が車を運転して、父をあちこちのアリーナやら体育館に連れていき、ボクもついていったんだ。だから、自然といつも、父の試合を観ていた。もう、小さい頃からレスリングが染み付いた生活だったよ。

——ラリーさんは話を聞くかぎり、非常に厳しい人だったらしいですね。

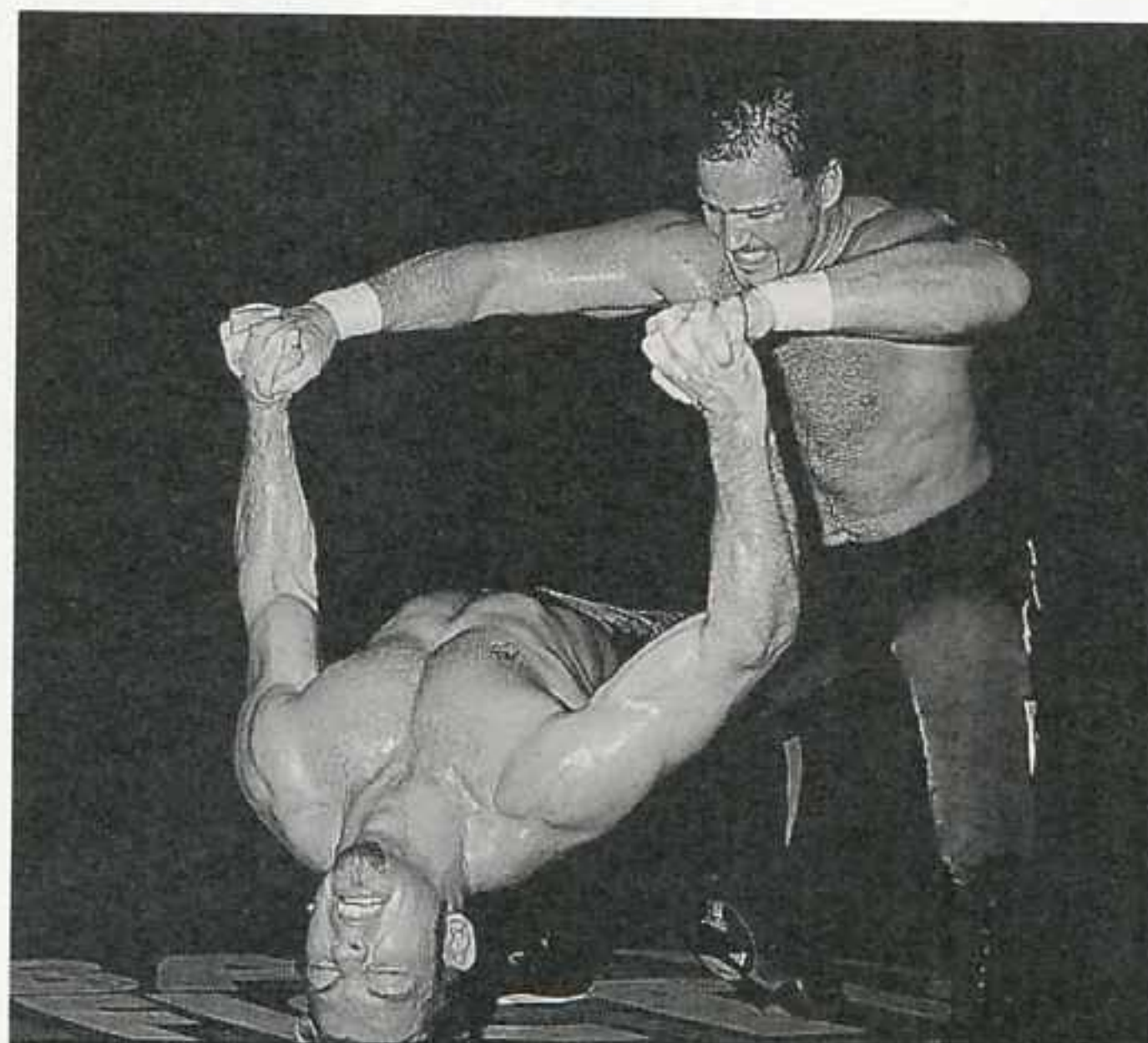
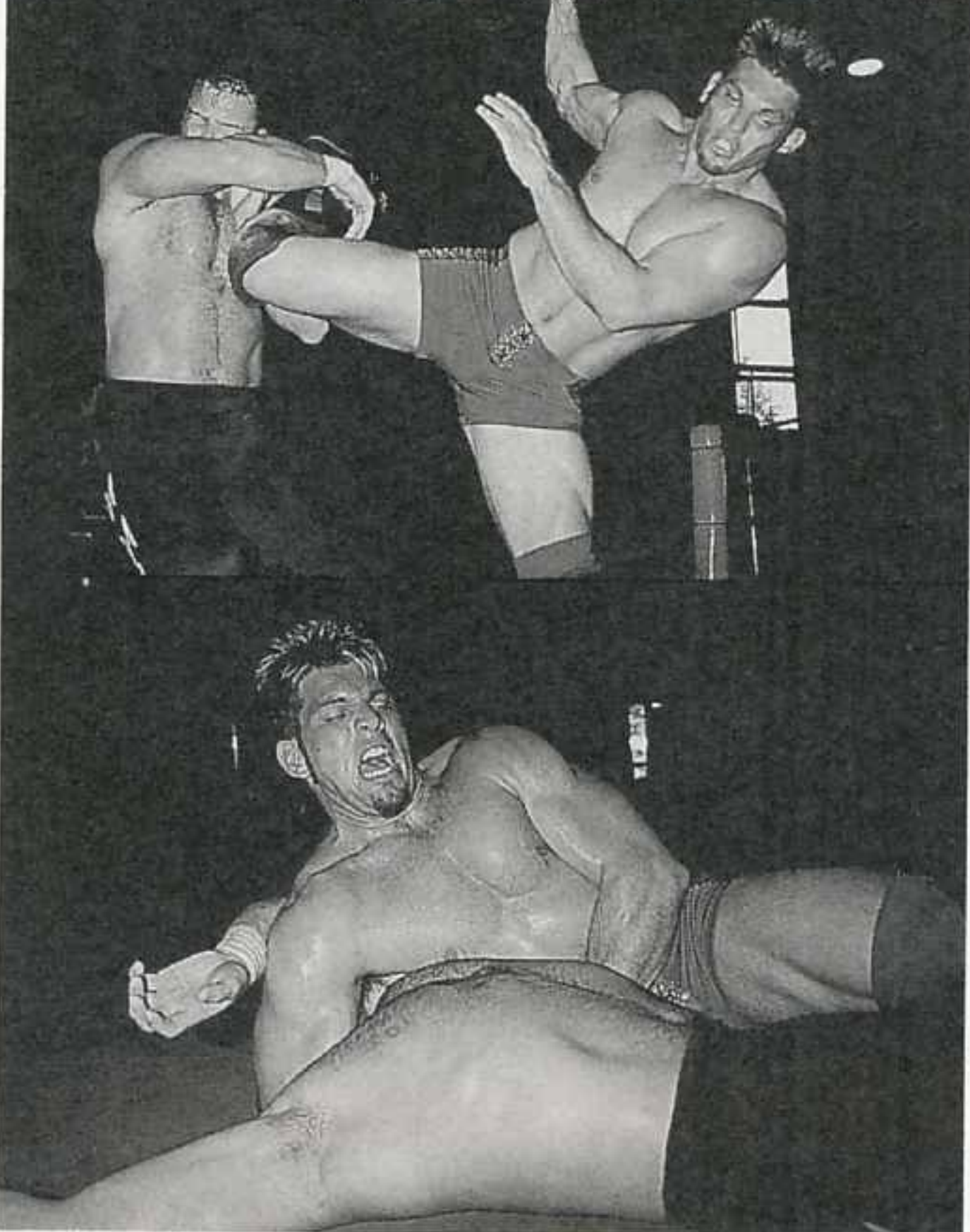
カール　そう。ボクがイタズラすると、罰としてスクワットやプッシュアップをどこでもやらせるんだ。母にだってやらされたよ。たとえそこがショッピングセンターであろうが、『デニーズ』の中で家族の食事中だろうがね。母が「スクワット100回、いますぐここでやりなさい!!」って言んだから（笑）。「え〜、家に帰ってからにしようよ」と口答えをしようものなら回数が100から300、500と増えるんだ（笑）。たまらないよ!!

——アハハハ、『デニーズ』で500回スクワット！

カール　父と母は食事をしながら数えてるんだ（笑）。終わる頃には、ボクの食事はすっかり冷えきってる（笑）。周りの人は気味悪がってるし。ボクの少年時代はそんな感じさ。

——少年時代とはいえ、それはかなり屈辱的な行為ですよね？

カール　そうだね。いつだって恥ずかしくてたまらなかったよ……。そう、あるときボクは学校を1日サボって遊びに行き、さらにトラブルをやらかしちゃったことがあった。それがパパとママにバレて、2週間、放課後に毎日9000回ものスクワットをやらされたことがあるんだ！

——ゲッ、9000回!!　力道山でも3000回しかやらせなかったのに……それってやるのにどれ位時間がかかるんですか？

カール　たっぷり一晩中はかかった（笑）。ラリーには「いつかそのスクワットが役にたつ日が来る」と言われたけど、そんな先のことなんか考えてなかったよ（笑）。おまけに父は手を抜くとカウントしてくれないんだ（笑）。これが一番ひどい罰だね。3000回を越えると、もうどうでもよくなるよ（笑）。

——ジョー（・マレンコ）、ディーン（・マレンコ）は義理の兄にあたるわけですよね。

カール　イエス。でも「兄弟」というよりは「ファミリー」だった。母と父は、法律上の「結婚」はしてないんだ。だから彼らとボクは全くの他人ということになるんだけど、ボクは父を尊敬し、愛してた。

——ラリーさんが亡くなって3年ですね。

カール　亡くなってから1年はショックが抜けなかったよ。ラリーのことを思い出すと、涙が止まらない。

——今年はマレンコ道場も閉鎖しちゃったんですよね。

カール　そうなんだ。残念だよ。

——いつごろ閉鎖したんですか？

カール　今年になってからさ。人もいっぱい来てたんだが近くにいろんな道場が出来ちゃったからね。でも、ディーンは将来、またオープンさせようとしてるんだ。ぜひ、ボクも関わりたいね。

——アメリカでは、いわゆるシュート・ファイティングの道場が増えてるわけですか？

カール　そうさ、カーウソン・グレイシーの道場なんかタンパに4つもあるんだぜ。しかも、この夏にも新しい道場がオープンするらしい。

——完全に商売敵ですね。

カール　そうだね。もし、マレンコ道場が復活したら、カーウソン道場とシュートマッチで勝負してやるよ！

——それは実現したら面白いですよ！　フロリダでの生き残りを懸けた闘いになりそうですね。

カール　そうさ（笑）。

——UFCをはじめとするシュート・ファイティングがアメリカでは盛んになってるみたいですけど、フロリダ辺りのシュート・ファイティングのレベルはどうなんですか？

カール　ヒュ〜（と口笛を吹いて）、かなり高い。バットが経営するタイガーズ・ジムの選手も強いヤツばかりだ。ケビン、トム、リック、この3人はボクくらいのレベルには達してるよ。ぜひ日本にも連れてきたいと思ってる。

——カールさん自身は、そういうシュート・ファイティングにはいつ頃から興味があったんですか？

カール　かなり前だよ。いちばん最初のUFCを見たときから、将来参加してやろうとは狙ってたんだ。

——今回来日の予定があったけどキャンセルになってしまったジャミー・ロペス選手もカールさんの弟子なんですよね。

カール　弟子っていうよりは、相互トレーナ

Carl Malenko

バトラーツには欠かせない格闘探偵員の1人となったカール。超凄テクの多彩な関節技攻撃は、一見の価値ありだ。見れば誰もが虜になることは間違いなしのテクニシャンだ。果たしてヤンジェネでは優勝できるのか!?（写真は8月8日の多古町大会、vsA・アンダーソン戦。撮影：遠藤政文）

ーみたいな感じだね。ボクは彼にちょっとサブミッションを教えてるし、逆にボクはアメリカン・スタイルのプロレスをちょっと教わってるのさ。彼はWCWのオーディションを受けて契約できることになったんだ。
――バトラーツに来るはずだった選手がWCWに行っちゃったんですか!? でも、いまのWWFやWCWは、完全にショーマン・スタイルが主流ですよね。
カール イエス。バトラーツも完全なシュート・スタイルじゃない。少しアメリカン・スタイルも入ってるからね。WWFやWCWと同じだよ。でもデェェ〜、ブァァァ〜(とホーガンばりの筋肉ポーズ)っていうのは、ゲロだよ。
――アハハハ、ゲロって(笑)。
カール まあ、どっちかっていったらシュート・スタイルの方が好きだね。
――アメリカでプロレスっていうとショーマン・スタイルのイメージしかないと思うんですけど、それについてはどう思いますか?
カール アメリカのメジャー団体はショーというイメージしかないよね。でも、アメリカには小さな団体がいっぱいあるんだ。もし、将来ボクがプロレス団体を興すとしたら、シュート・スタイルもショーマン・スタイルも兼ね備えたものになるだろう。
――シュート・ファイティングの世界からショーマン・スタイルの世界に移ったウェイン・シャムロックのような選手はどう思いますか?
カール WWFの方がギャラもいいから、彼にとっては良かったんだろう。ボクだって呼んでくれるなら同じように出てみたいよ! WWFから電話がこないだけさ(笑)。
――売り込んでみたらどうですか?

マレンコ道場が復活したらグレイシー道場とシュートファイトしてやる!!

Carl Malenko

スケボーとインライン・スケートが得意だというカール。こういう写真にバッチリのプロレスラーもなかなかいなかったが、カールならバッチリとハマる!

カール 将来はね。でもそのためにはとりあえずアメリカン・スタイルのトレーニングをしなきゃ。少年時代はプロレスをあまりに近くで見すぎてしまって、イヤになるほどレスリングのトレーニングをしたからプロレスが嫌いだっていう感情もあったんだけどね。
――そうなると、「プロレス入り」の一番のきっかけとなったのは、やはり石川さんとの出会いだったのでしょうか?
(自分の話題が気になるのか、近寄ってくる石川社長)
石川 カール! これあげるよ(と、オムツを差し出す)。
カール (中を開けると、なんとウンコが入っていた)ウワァァオ!! ナニコレ!? シット?
石川 プレゼントですよ(ニヤリとして、立ち去る)。
――こんなにイカレてる社長ですけど、カールさんの恩人である、と。
カール そう。トーイがそのチャンスをくれたんだ。トーイのいいところは、バカがやれるということだよ!
――バカは大事ですか(笑)。
カール そう、ボクはバカが好きなんだ(笑)。それにトーイはフレンドリーな心の持ち主だ。
――例えばものすごい契約金で新日本プロレスからオファーがあったらどうします?
カール グッド!(笑)。だけど、行く前にちゃんとバトラーツに相談するさ。それで石川さんがいいと言わなければ行かないよ。ボクは石川さんをリスペクトしてるからね。それに、金で移籍するのはあまり褒められたことじゃないね。何より、ボクとバトラーツの関係は特別なんだよ。いままでも、そして現在も、ボクの歴史はバトラーツで作られてきているから。将来、バトラーツはきっと大きくなる。まだスタートしたばっかりなんだよ。その作られている歴史の中にボクはいるんだ。こんなに素晴らしいことはないよ。

――特別な信頼関係なんですね。最後に、この本が出る頃にはヤンジェネも結果が出てしまってるんですが、今回のヤンジェネの予想をしてもらいたいんですけれども。
カール もちろんボクが優勝してるさ(笑)。
――ヨネさんが「優勝できなかったらアフロにする!」と宣言しましたが。
カール アハハ、ヨネはクレイジー!(笑)。
――カールさんも何か公約してみませんか?
カール そうだな、必ずベストを尽くすと約束するよ……もし、負けたら坊主にでもなろうか? ヨネがアフロなら、ボクは剃るよ!
――衝撃発言が飛び出しました!
カール 冗談だよ(笑)。
【99年7月20日、東京・TOKYO FMホールにて収録】

かーる・まれんこ■'70年1月25日、アメリカ・フロリダ州出身。往年の名レスラーのラリー・マレンコが義理の父。以前までは「カール・グレコ」と名乗っていたが、今年6月の「ミスター空中追悼興行」でマレンコ姓を襲名した。藤原組のフロリダ興行でデビューして以来、藤原組&バトラーツの超常連として活躍中! 先日の『PRIDE.6』でイーゲン井上から判定勝利をもぎ取り、その名を轟かせた。女性ファンの人気も高いが、本人はいたって気さくないいヤツである。好きな音楽はラップ、趣味は壁に絵を描くストリート・グラフィティーというB-BOYな一面も持つ。

バトラーツからのお中元だ

本誌編集部が制作したバトラーツ「'99ヤンジェネ」のパンフレットにカールのサインを付けて3名にプレゼント! 応募方法はP183を見てね♥

BATTLARTS
YOUNG GENERATION BATTLE

UWF 11年目の真実

★KICK, SUBMISSION & SUPLEX★
U.W.F.
PROFESSIONAL WRESTLING

忘れちゃいけない Uに上がったファイター

内藤恒仁

【海を渡ったプロレスラー】

聞き手＆撮影／チョロ
interview & photographs by Choro

この夏、逆輸入レスラーとしてパンクラスに登場し脚光を浴びたのは須藤元気。遡ること11年前、元気君と同じ様に一人の逆輸入レスラーが人気絶頂の新生ＵＷＦマットに上がった。彼の名は内藤恒仁。デビュー戦で中野龍雄に挑んだ内藤は強烈なシャチホコ固めで完敗を喫すると、その後もマレンコ道場と日本を行き来する生活を続けた。レスラーになるべく海を渡りフロリダを訪れた男のこだわりのレスリング人生を聞きなさい！

――この間の『ミスター空中追悼興行』（6・9後楽園ホール）で内藤さんのファイトを見た人から、「内藤が良かった」って声をよく耳にするんですよ。

内藤　嬉しいですよね（照笑）。何にも反応がなかったらどうしようかと思ってたんですよ。

――対戦相手のふがいなさにちょっとキレてたみたいですけど（笑）。

内藤　（キャノンボール）ＫＡＺＵ選手は病み上がりだったんですけど、ホント不甲斐なかったです。例え第二試合、三試合でも、あのファイトはねえべなと思いましたね（笑）。

――ヒャハハハ。やっぱり『ミスター空中追悼興行』っていうと、俺が出なくちゃはじまらねえべなってところはあるんですか？

内藤　それはありますね。僕にとって空中さんは親父って感じでしたから。空中さんの知り合いの店にいくと「俺の息子みたいなもんだよ」って言ってくれてましたからね。

――内藤さんは、親父が空中さんで、おじいさんがゴッチさんって感じなんですかね。

内藤　そうですね（笑）。僕はゴッチさんとは実力は全然違いますけど、頑固なところだけは似てますから（笑）。

――ヒャハハハ。唐突ですけど、プロレスラーになろうと思ったのはいつ頃なんですか？

内藤　僕は野球選手になりたかったんです（笑）。メジャーリーグに行きたいなと思ってて。

――メジャーリーグ志望ですか（笑）。今だったらわかりますけど、当時はまだ珍しかったんじゃないですか？

TSUNEHITO NAITO

内藤　そうですね（笑）。その頃は日本人でメジャーリーガーなんて考えもつかないですよね。僕は漠然とアメリカは自由でいいだろうなって思ってて憧れてたんです（笑）。それで高校卒業して、太洋ホエールズと日本ハムの入団テストを受けたんですけど、見事に落ちちゃいましたね（笑）。

——またシブイところ受けましたね（笑）。

内藤　はい（笑）。でも無理だとわかったんで専門学校に入ったんです。それで通学途中になにげに外を見ると『ワールド・トレーニングセンター』の看板があったんですよ。その頃、僕は筋力トレーニングをやってたんで、やるんだったらボディービルがいいなと思って。

——ボディービルを始めたのは単に体を鍛えるためだったんですか？

内藤　一応、プロレスも頭の片隅にあったんですけど、体を鍛えるのが好きだったんで、ボディービルを始めたんです。そこのジムで僕は、新日本で高田（延彦）さんの付き人とかスパーリングパートナーをやってた人と出会ったんですよ。

——えっ！　高田さんの付き人をやってた人ですか？

内藤　高田さんの1年後輩なんですよ。新日本をやめたあとだったんですけど、「プロレス業界はこういうもんだ」とか聞かされて、「そんな恐ろしい世界なんだ」って思いましたよ（笑）。その人は、山本よしひささんっていって、リングスの山本選手と名前が一緒なんですよ。字は忘れちゃいましたけど（笑）。

——高田さんのスパーリングパートナーが山本よしひささんだったんですか（笑）。

内藤　そうです（笑）。今で言うシューティングとか大東流合気柔術とか、ムエタイは強いとか言ってた人なんです。その頃から、バーリ・トゥードとかのことを言ってたんですよ。14、5年前からブラジルにバーリ・トゥードっていう格闘技があるんだって言ってて。

——それじゃあ佐山（聡）さんより早いですね。

内藤　全然早いですよ。「ブラジルにパンクラチオンに似た競技があるんだ」とか言ってましたからね。それでその頃、山本さんに紹介されて会ったのがポイズン澤田さんなんです（笑）。澤田さんも新日本にいたんだけど、体重が増えなかったんでクビになっちゃったんですよ。

【6・9故ミスター空中追悼興行／後楽園】試合後に行われた全選手記念撮影でも満面の笑みを浮かべる内藤。試合では、対戦相手（ホーデス・ミン＝ポイズン澤田＆橋部昌浩）そしてパートナー（キャノンボールKAZU）の不甲斐なさにキレまくり（それでも笑顔）で観客にアピール。バトラーツにもぜヒ上がってもらいたいところだ。

TSUNEHITO NAITO

——内藤さんは新日出身者二人と練習してたわけですか。それは恵まれてますね（笑）。

内藤　そうですね（笑）。僕と山本さんと澤田さんと三人でよく一緒に練習してました。

——その頃になると、漠然とプロレスラーになりたいなとか思ってたんですか？

内藤　やってみたいなと思ってましたね。でも僕は新日本はいろいろ話を聞いてたんで無理だって思ってたんですよ。身長も足りなかったし、どうしようもないんだなと。全日本なんかは特にそうですよね。でも、ちょうどその頃『週プロ』でマレンコ道場の特集をしてたんですよ。「アメリカにこういう道場がある」って。それで（ターザン）山本編集長に、「道場の住所を教えて下さい」って頼みに行ったんです（笑）。

——ターザンはマレンコ道場の住所なんて知らなかったんじゃないですか？

内藤　いや、山本さんは、空中（正三）さんの電話番号を僕に教えてくれたんですよ。僕は電話番号を頼りに旅立ちました（笑）。

——しかしモノ凄い行動力ですね（笑）。

内藤　今じゃ考えられないですけど、行けばなんとかなるだろうと思って（笑）。それでタンパに着いて、空港から電話をかけて、空中さんに迎えに来てもらったんです。

——空中さんも、いきなり見知らぬ日本人が訪ねて来たわけですから驚いたでしょうね。

内藤　「何しに来たんや」って言われましたね（笑）。それからラリー（マレンコ）さんを紹介してもらって、居候させてもらってたんですよ。

——向こうに行く前に、山本さん、澤田さんからレスリングは教わってたんですか？

内藤　教わってましたけど、ラリーが教えてるのは完全なアメリカンスタイルなんですよ。

——そうなんですか！　マレンコ道場はシュートスタイルを教えてくれるとこだと思ってました（笑）。その後、練習を積んだ内藤さんはフロリダの独立団体を転々としながら試合にも出てたんですよね？

内藤　そうですね。今じゃ考えられないですけど、TVマッチとかも結構出ましたしね。あとは酒場プロレス中心で（笑）。その頃ですかね、UWFにも出たバート・ベイルに会って一緒に練習してたんですよ。

——ベイルは藤原組にも出てましたよね。

内藤　「こいつ偽物のマーシャル・アーツだよな」って思ってたんですけど（笑）。ベイルも日本でやってるUWFスタイルに興味があったみたいで、それで空中さんからいろいろと話を聞いてましたね。あと当時は、（ノーマン・）スマイリーもいましたよ。

——黒い藤原ですね（笑）。空中さんルートでUWFや藤原組に来日してる外国人選手とは、一通り顔を合わせてるわけですね。

内藤　だいたいは知ってますよね。カール（・マレンコ）とかもハイスクールの頃から知ってましたし。相当な遊び人でしたけど（笑）。

——ヒャハハハ。なんかそうだったみたいですね（笑）。でも当時は、アメプロもシュートスタイルも、「やってくれ」と言われたら、別にこだわりなく試合をしてたんですか？

内藤　僕は、あんまりドッタンバッタンのアメリカンプロレスは好きじゃなかったんですよ。

——ドッタンバッタンですか（笑）。やるんだったらシュートスタイルがベストだったと？

内藤　もともと僕は、昭和新日本が好きだったんですよ。アメリカンプロレスじゃなくて、シューティングでもなく、それでいて全日本じゃないっていう。新日本時代の前田（日明）さんとか平田（淳嗣）さんがやってたような試合が好きだったんです。第一試合が高田（延彦）vs保永（昇男）戦とか。そんな派手じゃないけど、重みがあって、バシバシくるのが好きだったんですよ。けっして、シュートという関節技の応酬ではないですよね。だけどああいうのがいいなぁと思ってたんですよ。

——いわゆる前座と言われる試合ですよね。今は、昔ながらのファンからすると前座が無くなったと言われてるんですけど。

いつ何時どこで会ってもグッドシェイプ&スマイルを保っている内藤。日本マットデビュー戦で中野の強烈過ぎるシャチホコ固めを喰らって敗れた内藤は、今ではすっかりと自分のモノにして毎回毎回、対戦相手をシャチホコ地獄へと陥れている。現在は、DDT、KINGDOM、つぼプロ、EWF、九州求道軍、UNW等に参戦中。

内藤　今はないッスよね。第一試合からジャーマンはないッスよね。僕もあまりドッタンバッタンじゃなくて一発一発でいくような、昭和新日本みたいな試合が理想ですね。

――その様な考えだった内藤さんは、その後、絶頂期のUWFマットに逆輸入レスラーとして登場するわけですよね。マレンコ道場からの刺客として（笑）。

内藤　ハッハッハッ！　そうですね（笑）。空中さんから「お前、今度9月の博多大会に出ろ！」って急に言われたんですよ。

――マレンコ道場でいろんな外国人とスパーリングをしてたみたいなんで、いけるんじゃないかって自信はあったんじゃないですか？

内藤　空自信はありましたね（笑）。一応練習には付いていけたんですよ。ゴッチさんと練習もやってて。吊り輪とか、ロープ登りとかも、体重が軽かったんで何でもできたんですよ。

――ゴッチさんのところでも練習してるし、Uスタイルも何とかなるだろうと（笑）。

内藤　何とかなるだろうと思ってました（笑）。それで、試合の一週間前に日本に帰ってきたんですよ。着いた次の日から空中さんに「道場に来い！」って言われたんですよ。これは言い訳になるんですけど、メチャクチャ時差ボケで眠たくて眠たくてしょうがなかったんですよ（苦笑）。空中さんは、「時差ボケなんて一汗流せば直っちゃうから」って（笑）。

――汗かけば時差ボケも吹っ飛びますか（笑）。

内藤　僕もフラフラしながら汗流してたんですけど、そこに、前田さん、高田さん、山崎（一夫）さんが来たんですよ。僕は初めてで緊張しちゃって「お、お願いします」って言って。

――UWFのビッグ3のお出ましですね（笑）。

内藤　そしたら「じゃあお前、スパーリングやれ！」って前田さんに言われて。空中さんも「コイツ時差ボケでフラフラしてるから」って言ってくれたんですけど、「そんなのは言い訳だ！」って。前田さんはおっかなかったです（苦笑）。

――それは怖かったでしょうね（笑）。対戦相手の中野さんも来てたんですか？

内藤　中野さんもいましたね。僕は最初、安生さんとスパーリングしたんですけど、組んだ瞬間、「うわぁ〜」って思ったんです。上に乗っかられて、ヒジでグーッてやられたらタップですよ。これはとんでもないところに来ちゃったなと（苦笑）。当日は、もうどうにでもなれって感じでしたね。

――その時の中野戦のビデオを久しぶりに見たんですよ。昔見た記憶だと、内藤さんが一方的にやられてるって印象があったんですけど、内藤さんも結構手数は出してるんですよね（笑）。

内藤　ウッハッハッハッ！　そうですよね。前蹴りを出して、張り手をバーンとやったはずなんですよ（笑）。

――入場の時も「内藤コール」とか起こってたし、みんな温かかったですね。

内藤　温かかったですね。あの時、「帰れコール」が起きたらどうしようかなと思って。帰るチケット代もなかったですから（笑）。

――ヒャハハハ！　でも内藤さんは、ゴング前に中野さんと胸突き合わせてたじゃないですか。なかなか強心臓だなって思ったんですけど（笑）。

内藤　ビビリましたねぇ（苦笑）。やっぱり何やっても効かなかったですけど、それにしても、あの逆エビはヤバイですよねぇ（苦笑）。

――完全無欠のシャチホコ固めですね（笑）。

内藤　あの頃は結構体が柔らかかったんで助かりましたけど、今だったら間違いなく病院送りです（笑）。

――ヒャハハハ。でも、敗れたとはいえ、その日のベストバウトって言われてましたし、観客の反応も良かったんで、このままUWFに残るもんだと思ってたんですけどね。

内藤　僕は基本的にクビらしいんですよ（笑）。

――クビ？　首を怪我したんじゃなくて？

内藤　神（信二）社長に言わせるとクビみたいですよ。もうちょっと体がデカかったら見る目も違ったと思うんですけどね。

――中野さんも「内藤はマレンコ道場で再修行をするって言ってるけど、そんなに悔しかったら、なんでこっちでやろうと思わないのか」って、当時の『週プロ』で言ってましたけどね。

内藤　この前会った時も言ってましたね。「あのままUWFにいれば、お前はいいとこまでいってたのに」って。でもクビですから（笑）。

――クビを宣告されたら、それこそマレンコ道場に戻るしかないですよね（笑）。

内藤　「また一からやるしかねぇか」って（笑）。

――その頃から、徐々に日本人選手もマレンコ道場に来るようになったんですよね。

内藤　そうですね。僕がUWFに上がる前に島田（裕二）が来たんです。僕と澤田さんがマレンコ道場にいた時に「今、日本人が空港にいるから」ってジェニーさん（空中夫人）から言われたんですよ。それで迎えに行っていたのが、島田裕二（笑）。僕の記事が『週プロ』に載って、それを見て来たみたいですね。裕ちゃんで思い出しましたけど、『PRIDE.6』にカールのセコンドでバットが付いてましたよね。

――あ〜、デュセル・バットですね。

内藤　彼もね、プロレスやってる時は、体が固かったんで僕は簡単に極めてたんですよ。でも、1年後にやったら全然かなわないんですよ。カール（・マレンコ）もそうですけど、アメリカ人と日本人とじゃ体が違いますからね。体の基礎が違いますし、教えればすぐに飲み込みますし。僕らが知らない間にみんな強くなって嫌になっちゃいますよ（苦笑）。

――生まれ持ったパワーに多少なりともテクニックを覚えたら日本人じゃなかなか太刀打ちできないでしょうね。

内藤　みんなそうですよ。ジェリー・フリンとかジョニー・バレットとか、藤原組に来てた選手はみんな強くなっていきましたよ。バレットもアマレスやってたんで動きは良かったですけど、僕も極めてたくらいだったんです。でも、知らない間に強くなってて（笑）。

――内藤さんは、フロリダと日本を行ったり来たりするという生活が続いてたんですか？

内藤　そうですね。期間はだいたい、一ヶ月とか三ヶ月単位なんですけど。日本で金を貯めて行って、金が無くなって帰ってくるっていう繰り返しでしたね。向こうでは、よくジェリーとか藤原組の常連外人の練習台になってましたね（笑）。

――藤原組の話はなかったんですか？

内藤　僕は藤原組にいたんですよ。石川（雄規）さんと一緒に練習やってたんですけど……、なんか●●選手の逆鱗に触れたらしいんですよ。だから、いづらくなっちゃって（笑）。

――何をしでかしたんですか？

内藤　ちょっと話を聞く態度が悪かったみたいですね（苦笑）。僕は一応練習生扱いでちょっとだけいたんですよ（笑）。あのまま団体に残ってればいいとこまでいったんじゃないかっていう思いは今でもありますよね。

――もったいなかったですねぇ。中野戦の後は、日本マットではPWCとかに参戦してましたけど、割と最近ですよね、内藤さんが頻繁に試合に出るようになったのは。

内藤　今じゃ、結構いろんなとこ出てるんで、あんまりこだわりないような感じですけど。

UWFスタイルも何とかなるだろうと思ってました（笑）

やっぱりシュートじゃなくて、だけどアメプロじゃなくて、昔の新日本の試合をやりたいっていうのは今でも思ってますね。まあ僕は、前座から段々盛り上げていってメインで爆発させるっていうのが理想形だと思うんですけど、今は、みんな第一試合からメインを食ってやるっていう選手ばっかりじゃないですか。第一試合からジャーマンとかケブラータ。ちょっと待ってくれよ、自分はいいけど興行全体はどうなるんだって思いますよね。

――そういう興行全体のことを考えているレスラーも少なくなってるんでしょうね。それと内藤さんは、U－DREAMとかKINGDOMでオープンフィンガー着用の試合もしてますけど、バーリ・トゥードとかは興味はあるんですか？

内藤　ないとは思いますけど（笑）。ないですねぇ（笑）。みんなバーリ・トゥードとか盛んになると、飛びついて習いに行きますよね。僕は最初、グレイシー柔術が出てきた時も、「なんだ、そんなもんか」って思ってましたし。柔術の本とか買って勉強する人も多いですけど、僕はそういう気持ちにはならなかったですよね。

――内藤さんは、マレンコ道場やゴッチさんから教えてもらったテクニックに絶対の自信を持ってるということなんですか？

内藤　そうですね。ベストだと思いますね。ゴッチさんも「グランドになったら肘を巧く使ってやれ」っていう、そういう教えなんですよね。グラウンドで殴るっていう概念がないんですよ。

――見た目も美しくないっていうのもあるんでしょうね？

内藤　そうですね。僕にはあんまり理解できないです。「何もそんな殴らなくてもいいじゃないか」っていうね（笑）。殴るなら一般市民を殴ればいいんですよ。僕はサラリーマンは嫌いですから（キッパリ）。

――「プロレスなんて八百長だろ」とか言って絡んでくるようなサラリーマンですか？

内藤　そういう奴こそオクタゴンの中に入れて殴るべきです！　やっぱり世間からバカにはされたくないですよね。

――素晴らしいです（笑）。内藤さんが憧れるレスラーっていうと誰になるんですか？

内藤　僕はインディー界の、藤原（喜明）さんとか、木戸（修）さんの役割がいいですね（笑）。たまに長州襲撃事件でブレイクして。

（取材時に持参した選手名鑑を眺めながら）でも今は、ホントたくさん選手がいますよね。こんなに増えちゃっていいんですかねぇ。

――こいつとは同じプロレスラーと名乗って欲しくないっていうのはあるんですか？

内藤　名乗って欲しくないっていうか、「何でプロレスやってるの？」って感じですよね。有名になりたかったら芸能事務所に入って芸能活動した方がいいって。何もプロレスで有名になることねぇじゃねぇかって思いますね（笑）。

――確かにそれは言えますよね。

内藤　でも今はいいッスよね。ケブラーダとかムーンサルトができればレスラーですから。逆にいえば羨ましいとこもあって、僕らの時代にこんなに団体があったら楽勝ですよ。空中殺法やりたかったらこの団体、血を流したかったらこの団体とか。

――ヒャハハハ。わざわざ金を貯めてフロリダに行く必要はないですからね。

内藤　今は海外修行なんて死語ですよね。武者修行も芳賀元太君で終わりです（笑）。

今はいいッスよね。ムーンサルトとかケブラーダができればレスラーですから

――ヒャハハハ。内藤さんは、もう一度、U系団体と言われる、パンクラスやリングスで試合をしたいとは思いませんか？

内藤　いや～（笑）、僕はどうしてもレスリングでいくタイプなんで、キックと掌底でドンドン攻められると、もう何にもできないですから。僕を倒すのは簡単ですよ（笑）。

――自ら、内藤恒仁攻略法ですか（笑）。

内藤　でも、それじゃあやってて全然楽しくないですよ。強い弱いは誰でも決められますよね。ただ、やってる本人が充実してやれば観客も「よくやった」ってなるんです。今の格闘家は、「強さ」ばっかりですから。将棋でも最初から王手してどうすんだってことですよ。最初から、王手、秒殺で終わり。それじゃあ、それ以外何にも残らないですよね。

――桜庭（和志）選手とかはバーリ・トゥードでも、強さだけじゃなくて、巧さとか面白さも見せてくれますけどね。

内藤　そうですね。ああいう人がドンドン出てこないとダメですよね。でも今のプロレス界は、ホントの意味でのスーパースターが作れないシステムになっちゃってますよね。昔は誰かがスターで、それを周りが持ち上げるっていったら変ですけど、ウマく成り立ってたじゃないですか。

――クリーンアップ狙いの選手が多すぎるんですよね。その割には大砲がいないんですけど。

内藤　みんながみんな、俺が四番バッターじゃダメなんです。僕は縁の下の力持ちでいいですから（笑）。あとはアメリカに住めれば、僕はもう何にも言うことはないです（笑）。

【7月26日、下北沢モスバーガーにて収録】

内藤恒仁【ないとうつねひと】
昭和40年12月5日、千葉県香取郡出身。プロレスラーに憧れ海を渡りマレンコ道場へ入門。新生UWFマットでの中野龍雄戦でデビューすると、その後はマレンコ道場＆ゴッチ道場と日本を行き来しながら様々な団体に参戦する。リングを下りるとセブンイレブンの店長として活躍中で『紙プロ』はちっちゃい頃からの愛読者。ニックネームは現代版カール・ゴッチ。好きなタレントは岡本真夜。180センチ95キロ。

中野巽耀が語る　あの日の内藤恒仁戦

――今日（8／10キングダム）、内藤選手の方から「中野選手ともう一度闘いたい」っていうマイクアピールがあったわけですけど？

中野　そうなの？　全然知らない。俺は別になんとも思ってないからね。

――そこをなんとか、ちょっとだけ聞かせて下さい（笑）。新生UWF時代の内藤戦から、もう10年以上も経ちますけど、当時、中野さんはデビューして結構経ってたわけですし、当然負ける気はしなかったわけですよね？

中野　全然ないよ。まあ当時、内藤は「逆輸入レスラー」って言われて騒がれたから、「コノヤロー！」って思って潰してやったし。だからもう、それで終わってると思ってるよ。

――でも、あの試合で中野さんに“博多男”っていう称号が付いた記念すべき試合だったわけじゃないですか？

中野　でも、アイツをボロクソにして有名にしたのも俺だからね（苦笑）。

――でも、もう一度、中野vs内藤戦を見たいと思っているファンのニーズはあると思うんですよ。それも一つの「U－DREAM」じゃないですか？

中野　俺は過去は振り返らないし、思い入れはないです。俺とアイツはやってきたことが違うから。俺の方が厳しいことやってきたと思ってるしね。

――内藤戦について中野さんがあまり興味を持っていないのはよくわかりました（笑）。

中野　ハッキリ言って内藤は眼中にないッス（キッパリ）。まあでも、これから一試合でも多く試合したいですね。まだ名前を改名したっていうのが浸透してない部分があるんで。いろんなとこで字も間違えられてるし、もう何回言っても分かってくれないんスッよ（苦笑）。だから少しでも多く試合に出てアピールしないと。俺は練習もミッチリやってるし、燃えるものは沸々と沸き上がってるんで、ドンドン試合持ってこいって言いたいッスね！　一試合でも多くやらないと、ファンにもマスコミにも悪いし、自分にも示しがつかないからね。まだまだやりますよ！

――は、はい。どうもありがとうございます。

【8・10キングダム／北沢タウンホールにて収録】

【8・10キングダム】
ニセ健介こと藤沢一生と対戦した内藤だったが、藤沢の負傷によりレフェリーストップに。試合後、内藤は「中野さん、僕と闘って下さい！」とアピール。

10・2有明・掣圏道首都圏進出記念!!

佐山聡とは何か!? プチ編

7月の旗揚げシリーズを無事に終え、「強い選手を育ててオーちゃんに挑戦させま〜す」「アレキサンダー・カレリンをプロレスラーにしま〜す」といった物騒で恐ろしい発言を繰り返す佐山聡会長。この掣圏道のプロ部門が10・2遂に首都圏に上陸する。よろしくお願いしま〜す。押忍!(敬礼)

撮影／遠藤政文(7・30掣圏道)
photographs by Masafumi Endo

押忍!!

押忍!(敬礼)。すでに『紙プロ』読者ならご存じだろうが、掣圏道の武道部門(アマチュア)の挨拶は、手のひらを内側に向けた敬礼をして「押忍!」だ。厳密にいうと、この挨拶はプロ部門には適用されませ〜ん。押忍!(敬礼)

CONTENTS

掣圏道の基本は「市街地型実戦格闘技(あるいは武道)」。VTで使われるマウントパンチは、市街地での多人数を相手にしたときの喧嘩では、後ろから蹴られたり凶器で殴られたりするので有効ではない。その点、「ニープレス」は相手を押さえつけたまま周囲を見渡せるしグラウンドでのパンチも出しやすくなる。これが掣圏道の技術的キーポイントだ!

「訂正」する男・

いま時代は撃圏道である。

そんな気がする。

と言うのは、とてつもなく簡単だが、なにせ撃圏道なるものがどんなものかわからない。ただ、何かがうねりを起こしつつある予感は渦巻いているので、〝とにかく行かねば〟と芳賀玄太調に思いながら、撃圏道旗揚げシリーズ最終戦、札幌大会を見に行ってきた。

時は7月30日である。

館内の客席は、バラエティに富んでいた。子ども、家族連れ、オミズの姉ちゃん、怖い人、おじいちゃん、おばあちゃん。

プロレスor格闘技マニアの姿はごくごく少数だ。

それでも客席は8分の入り。箱の大きさ、撃圏道の現時点での知名度を考えれば、健闘どころか大成功である。さすが、撃圏道の運営部隊は「興行のプロ」と佐山聡が言っていただけのことはある。

オープニングでは、『アイ・オブ・ザ・タイガー』が流れたと思ったら、いきなり佐山聡撃圏道協会会長が、市街地での喧嘩を想定して考案された、スーツ型道衣を着用して入場してきた。

柔道着などは、昔の着物を着ていた時代の「市街地」を想定したものだが、現代では着物を着ている人など、ごく稀だ。

現代でトラブルに巻き込まれるときはスーツ姿が多い。その際に有効な武道、あるいは格闘技。それが撃圏道である。だから、武道部門（アマチュア）は、普段からスーツ型道衣を着て稽古に励む。

そのスーツ型道衣を着用した佐山聡が、挨拶をするためにリングに立った。

手のひらを内側に向けて敬礼し、

「押忍！」

いまや佐山聡といえば、敬礼に「押忍！」である。

この人が関わると、なんでも普及するのが早い。

スーツ型道衣を着てリングに立っている佐山聡——その姿を見ていると、佐山聡の脳味噌の一端に触れた気がした。

それだけでボクは、たとえお金を払って見に行ってたとしても満足していただろう。

そういえば、佐山聡は撃圏道のプランが明るみに出たときに、こんなことを言っていた。

「本当にどんな局面にも対応できる強い人を見てみたいで〜す」

佐山聡は、15年前、シューティングを立ち上げた。

シューティングは年月をかけてスポーツ格闘技として、レベルの高いものに仕上がっていった。途中で修斗に名を変え、日本のどこの格闘技団体よりも早く、ポジショニングという概念を取り込み、マウント・ポジションに付随する技術を導入した。

いわゆるバーリ・トゥード、ブラジリアン柔術などを研究していくうちに、最終的なポジションのマウントにいくまでの過程の技術と見られていた「ニープレス（ニー・オン・ザ・ベリー）」。それが市街地型実戦格闘技においては、一番有効であるということを発見した。

マウントを取って下になった相手を殴っていても、後ろから蹴られたり、凶器でド

撃圏道には、プロが3部門あることをキミは知っているか？

■SAボクシング

立ち技に加え、タックル、グラウンドでのパンチが認められたもの。関節技、締め技はない。スタンディング及びグラウンドでも膠着状態になった場合は即、ブレイクになるのが特徴。たとえばマウントを取って、下の選手がディフェンスで抱きついてきた場合も、打撃が有効に打てない体勢ということでブレイクとなる。そこで浮上するのが「ニープレス」というわけだ。

スルタンマゴメドフ・カフカズvsモナスティロルフ・アレクサンドルのスーパーヘビー級トーナメント準決勝（7・30札幌）。ド迫力の打撃戦が繰り広げられた。勝ったカフカズは10・2の決勝で、トカレフ・ワジムと激突する

■SAプロレス

ガチガチに格闘技色が濃いというわけではなく、飛び技もバンバン飛び出す。もちろん、打撃、関節の攻防もある。7・30の札幌大会では、SAプロレスがセミとメインを締めた。撃圏道のプロモーシ

た。掣圏道のプロモーション的役割を果たしているSAプロレスは、今後、SAボクシング&アブソリュートとセパレーツして興行を行っていく模様だ。

佐山聡

10・2有明のリングに現れる 佐山聡の〝脳ミソ〟を見よ!!

突かれたら終わり。

ニープレスなら周囲も見渡せるし、相手を押さえつけながら殴るにも効果的だ。

それが多人数相手の喧嘩の想定である。

マウント・ポジションは「スポーツ格闘技」を制するに有効。

ニー・プレスは、喧嘩を制するに有効。

修斗という「スポーツ格闘技」を考案した佐山聡の脳味噌は、「スポーツ」という狭い範疇を軽く飛び超えている。

ボクの敬愛するフリー解剖学者&虫博士の養老猛司さんのある本を読み返していたら、偶然、次の文章にブチ当たった。

「科学の結論は、常に暫定的なものだと私は考えている。暫定的であるからこそ、たえず経験によって、つまり実験や観察によって吟味し直され、それゆえに、まどろこしいが、進歩するのである。断定すれば、すっきりはするが、それでおしまいである。話はそれっきり進まない。断定したのだから、当然である。しかし、科学は本質的には正当化を求めない。むしろつねに訂正を求める。だからこそ、いつまで経ってもやっている、あるいはやっていけるのである。」

この文章が目に飛び込んできたとき、ボクはバ、ババ、バーッと気がついた。

いろいろ難しい単語が並んでいるから読むのをやめたそこのキミ！　ただちにもう一度読み直しなさい。

どう？　見えてくるでしょう？

そう。佐山聡は「科学者」なのだ。

試しに養老さんの文章の「科学」と書かれている部分を「格闘技」に、「私」と書いてあるところを「佐山聡」に置き換えてみればわかる。

「格闘技の結論は、常に暫定的なものだと佐山聡は考えている。暫定的であるからこそ、たえず経験によって、つまり実験や観察によって吟味し直され、それゆえに、まだるこしいが、進歩するのである。断定すれば、すっきりはするが、それでおしまいである。話はそれっきり進まない。断定したのだから、当然である。しかし、格闘技は本質的には正当化を求めない。むしろつねに訂正を求める。だからこそ、いつまで経ってもやっている、あるいはやっていけるのである。」

9月からのSAプロレスのシリーズは、掣圏道協会会長の佐山聡が初代タイガーマスクとして完全復活するシリーズとなる。スタミナ切れが非常に心配されま〜す。

タイガーマスクは暫定的だった。佐山聡がつくった修斗も暫定的なものだった。あるいは佐山聡が身を置いたUFOも暫定的なものだった。

佐山聡のつじつまの合わない行動は、「科学」を追求する男としては当然だったのだ。

佐山聡のなかの「格闘技」は本質的には正当化を求めていない。

むしろ、つねに訂正を求める。

そして進歩する。

だからこそ、いつまでたってもやっている、あるいはやっていけるのである。

佐山聡はつねに訂正を求める。

そういえば、北海道にある『虎の穴』で、プロの格闘家、プロレスラーを養成しているらしい。

オープニングの挨拶で、スーツ型道衣を着用した佐山聡は、メインイベントに虎のマスクを着けて登場した。

なんのことはない、7月30日札幌に、ボクは新しい格闘技を見に行ったのではなく、佐山聡を見に行っていたのである。

佐山聡というメビウスの輪。

おそらく、この人は死ぬまでボクらを楽しませてくれるだろう。よろしくお願いしま〜す。

押忍！（敬礼）。

文／山口日昇

7・30札幌でのタイガーマスクvs日高郁人戦。SAプロレスは、この2人の活躍が目立つ。他にもTAKAみちのく、田中稔、アジアン・クーガーらが出場したプロレスの試合には館内も湧き返った。プロレスは、「市街地型実戦格闘技」のファンタジックなシュミレーションかもしれない。

■ロシアン・アブソリュート

ロシア版のアルティメット。SAで行われる場合も、グローブは付けずに素手に素足。7・30では、SAボクシングとSAプロレスの間に挟まれて披露されたが、SAボクシングの破壊力とSAプロレスの完成度に比べれば、明らかに内容は低調だった。この日は、ロシア勢同士、キック系同士の対戦だったからかもしれないが、10・2の有明の巻き返しが期待される。

RUSSIAN ABSOLUTE

アブソリュートは、無制限1本勝負で行われる。7・30の札幌大会では、シバンコフ・デニスがシドロフ・オレグを破った。10・2の有明大会でも披露されるが、ロシア勢同士のアブソリュートは今後、課題を残すだろう。

瞬間理解不可能!!
何だッ!
このツーショットは!?

新格闘技イベント

『カキダミシ』7・11in沖縄 完全リポート!!

文/中村カタブツ君
text by Katabutsukun Nakamura

『UFC』と『K―1』と『掣圏道』が突如沖縄に集結!!

プロデュースは真樹道場。『紙プロ』読者なら既に御存知の『無比人』の作者・真樹日佐夫先生なのだ!!

一体何が起きるんだ?

新格闘技イベント『カキダミシ』って何なんだーッ!?

この疑問を解くには沖縄に行くしかないのだが、誰が出すんだ取材費! そんな時に雑誌『SRS・DX』から取材依頼が幸運にも舞い込んだのだ!! ありがとうサダハルンバ谷川編集長。ビバ! 『SRS・DX』!!

ということでこのページは『SRS・DX』全面協力のもとにお届けする『カキダミシ』完全詳報リポートなのである!

改めていうのもなんだが、真樹日佐夫先生はとてつもなく凄い人である。

真樹道場の師範として空手の指導を毎日3時間以上はこなしつつ、キックの興行をも成功させ、作家活動では本誌『無比人』をはじめ、『週刊実話』など数多くの連載を持っているだけでも凄いことなのに、自分の作品を次々と映画化し、出演までも行っているという超人だ!

最近では『週刊実話』で原作を担当していた劇画『シルバー』を羽賀研二&桜庭あつ子の共演で映画化させている。そう。羽賀&桜庭といえば梅宮アンナをはさんだ三角関係でワイドショーを騒がせていることは皆さんご存じの通り。底なしの才能と実行力で世間を手玉に取っているわけなのだ。

その真樹先生が7月11日、沖縄で新格闘技イベント『カキダミシ』という興行を行った。『カキダミシ』とはかつての沖縄で腕自慢の空手家たちが行った野試合のことで、まさに闘いの原点。その名を冠した興行であるだけにキックの試合とノールールの試合、それにプロレスの試合まであるという、真樹先生の実兄である故・梶原一騎先生原作の『四角いジャングル』ばりの夢の格闘技イベントだ。

しかもメンツがまた豪華! 前UFCヘビー級王者のバス・ルッテン、K―1初代チャンピオンのブランコ・シカティック、掣圏道宗主の佐山聡といった格闘技界のビッグネームが次々とリングに上がるというのだ。ちょっと信じられない不思議な組み合わせ。

ところで単純な疑問としてルッテンは誰と試合するのか? UFCとの契約はクリアしているのか? 大会前日に北海道で掣圏道の旗揚げ興行を行い、当日の夜には東京で格闘ディナーショー(後ページで詳報)を行う佐山聡は本当に沖縄に来るのであろうか? などなど疑問点は数多かったのだ。というか、謎だらけ。

大会前日に前ノリした僕はルッテンやシカティックらが来ていることを確認してホッとする。あとは佐山だけだが、この人が一番の問題。口約束は興行の常識。だが、佐山との約束はあてにならないのも興行の常識(嘘)。まっ、気にしてもしゃあないな、と真樹先生のお出迎えのために那覇空港へと駆けつけた。空港のロビーに現れた先生はダークスーツを粋に着こなし、胸ポケットには赤いシルクのポケットチーフ、シャツは黒のシースルーとダンディズム溢れるイデタチ。先生の隣りには士道館の師範であり、極真時代には故・大山総裁の懐刀と言われた添野義三師範。添野師範といえば武輝道場の岡村隆志の師匠であり、北尾光

UFC&K-1&掣圏道が一挙襲来!!

覇や二代目タイガーマスク三沢光晴現全日本プロレス社長に空手を教えた先生なのだ。プロレスラーの強さの部分をきっちりサポートしている人といえるだろう。そして添野師範の横には直弟子でMAキックのヘビー級チャンピオン村上竜司さん。喧嘩屋としても知られる竜司さんはヤクザとの死闘は数知れず。やんちゃ真っ盛りの頃の喧嘩ではショベルカーを使って相手を埋めてしまったという逸話を持つ一度キレると怖い人。そして、その試合スタイルは特攻! 本誌・吉田豪が先日インタビューしたところ、竜司さんの試合には元安藤組の組長・安藤昇氏（現・作家）が常に観戦に訪れるという話。コワモテの男も応援に駆けつける男惚れのする男というわけだ。

男魂汁が先走る濃い男たちが観光客でごった返すぬるんだ雰囲気を一瞬にして凍り付かせつつ、南国の島・沖縄の地を踏んだわけだ。これでこそ武道家の登場というものです。押忍!

那覇空港に降り立った男たち（右から村上竜司さん、真樹日佐夫先生、添野義三先生）。南国のリゾート地を奥深いダークな色に染め上げる、凄みムンムンの登場シーン

宿泊先のホテルでは、到着した真樹先生に自分から握手を求めにいくルッテンなど、想像すらしたこともないゴージャスな光景が次々と展開されて興行当日の朝となったわけである。

会場は那覇空港からほど近い沖縄県武道館。横浜文体ぐらいの広さで客の入りはフルハウス。約半数が米兵なのは基地内にも真樹道場があり、そこからも何人かが試合に出場するため、その応援に来てるのだ。これだけ米兵が多いとなんだか、GHQ主催の興行のような気がしてきたりする。いまだ戦後終わらず。思わず、ギブ・ミー・チョコレート気分のオレ。

第一試合はタイガーマスク対田中稔。果たしてタイガーはバックレもせず、沖縄にやってきました。奇跡だ! タイガーマスク人気は沖縄でも健在。タイガーがコールされるとわき上がる大歓声。佐山タイガーを知らないはずのちびっ子たちまでわけもわからず走りだしてタイガーをバンバン叩きだす。ちびっ子にとっては着ぐるみと一緒、たぶん。

試合は膠着状態のない、関節の取り合いを展開しつつ、佐山がニープレスを披露したりとUFOムーヴに掣圏道が加味された非常に贅沢なもの。結果は佐山が膝十字を極めて勝利を得た。

試合後、掣圏道やディナーショーのこととかを聞こうとしたのだが、佐山は控室を通り過ぎて会場の外に出てしまう。

そこにはエンジンをかけっぱなしの車が控えており、佐山はマスク&コスチューム着用のまま、車に乗り込み、銀行強盗チックに会場をあとにしてしまった。沖縄滞在時間たぶん2時間。北海道から沖縄とたった2日間で日本の端から端まで移動し、そして律儀に東京に戻っていく佐山。その後ろ姿に押忍（敬礼!）

第一試合以後のキックやノールール系の試合では、アメリカ人空手家vs日本人キックボクサーという、「逆だろ!」とツッコミたくなるような不思議な日米決戦や米兵同士がボコボコに殴り合う腕試し的試合などが続出して盛り上がりは上々。

そして、ルッテンはといえば、聞いたこともない無名の選手のノールール系試合でレフェリーを務めたりしている。贅沢とはいかに豪華に無駄使いができるかだと思うのだが、このルッテンのレフェリーは究極の贅沢。

またシカティックは30キロも体重が軽いベンケイ佐藤という日本人キックボクサーと対戦。わずか10秒ほどでKOしてしまう。キックの試合で秒殺なんてなかなか見れるもんじゃない。

さらには女子キック界世界一の美形、バンビ・バートンチェロと柴田早千予との試合も贅沢だ。この両者は昨年4月に対戦しており、結果は引き分け。だが、試合後にバンビ陣営は判定がおかしいとブリブリ文句を言った経緯がある遺恨マッチなのだ。実際、大会前日にバンビのトレーナーは「あの時の判定はやっぱりおかしい。審判は柴田が所属するジムの会長の兄だったんだ」とま～だ激怒しており、柴田陣営は柴田陣営で「契約体重をオーバーしたまま試合したくせに何を言っているんだ」と怒りを隠さない。取材陣が極端に少ない沖縄で女子同士の本気の潰しあいが勃発したりしてるのだ。ああ～、もったいない。

試合は互いに引かない殴り合いとなるが、柴田のローキックが効果的に決まって柴田の判定勝利となった。ムキになった時の女子は男以上にエゲツないから見ていて楽しい。堪能!

そしてメインの村上竜司vsチャンプア・ゲッソンリットがまた素晴らしい。昨年10月、両国国技館で対戦し、チャンプアに負けている竜司さんが雪辱を期して挑む大一番だ。一進一退の攻防ではあったが、試合終了間際、竜司さんが投げを放って減点を取られてしまう。だが、ここで怒鳴りながらリング上に駆け上がる男が登場!

〝極真の鉄砲玉〟〝瞬間湯沸かし器（梶原先生命名）〟〝城西の虎〟と言われた添野先生がブチ切れたのだ。怖ぁ～、だけどカッコイイ。

添野先生の抗議とは、それまでチャンプアが何回も竜司さんの金的を蹴っていたのに、審判はそれを取らず、竜司さんの投げだけを即座に反則・減点にしたからだ。猪木vsウィリー戦ではリング上に駆け上がってウィリーのグローブを取ったこともある添野先生。昭和の緊迫した興行の雰囲気にゾクゾクさせられたわけです。

遺恨試合や荒れた試合、シカティックの秒殺にルッテンのレフェリングと滅多に見れないものを一挙に見れただけでなく、約束を守る佐山という奇跡のような光景が次々と出現した『カキダミシ』。本物の贅沢というものを堪能させていただきました。こんな贅沢をしていたら10年続く興行が2、3年で終わってしまうかもしれない。だが、だからこそメチャクチャ面白いし、今後も見続けたいと思うわけです。

真樹先生、一生ついていきます! 押忍!!

闘いすんでリゾートモード

試合後は沖縄のクラブ『CIELO』で打ち上げ。ルッテンは一人で飲んで踊って騒いで休む間もなし。もっとも試合してないんで当たり前。チャンプアにしろ、バンビちゃんにしろ、沖縄の夜を堪能していた模様。翌日、真樹先生はビーチでおくつろぎ。豪快!

ナ（大川裕貴）共演の仰天ディナーショーの全ぼう!!

ディナーショー in 赤坂プリンスホテル

による最強タッグ

掣圏道宗主・佐山聡が熱唱!? 小川直也の打撃の師匠・藤原敏男がスパーリング!? 歌うリングアナ大川裕貴のワンマンショー!? なにこれ!? 好奇心のツボを見事に突いた、このデタラメなディナーショーが7月11日、場所は超一流どころ赤坂プリンスホテルで行われたのだ!! もちろん本誌は潜入取材を敢行! 神秘と謎だらけの格闘イリュージョンの完全詳報と、その核心に迫った。そして浮き彫りになったのはアントニオ猪木の世紀末の大仕掛けだったのだ!!

押忍（敬礼）！ いやはや、スゴイもの見てしまいましたよ。真樹先生の「カキダミシ」？ いやいや、それもスゴかったみたいですが、なにしろ見てないもんでね。

スゴイものとは……ドロドロドロドロ（ドラムロール）ジャカジャン！

佐山聡！ アンド藤原敏男！ そして歌うリングアナ大川裕貴による夢のディナーショー！ 正式タイトル『99サマー・ファイティングディナーショー』です！ ドドン（大太鼓）。

ふー、ちとリキんでタイトルを読み上げてみましたわ。このイベントは「カキダミシ」と同じ、7月11日に東京でひっそりと行われていたのですが、いや、それはもうタダならぬイベントだったんです！

佐山聡と藤原敏男の〝ディナーショー〟とは、いったい何なんでしょう？

企画だけでも巨大な謎かけです。

僕がこの不可解なディナーショーの存在を知ったのは『紙プロ』編集部の電話でした。「佐山聡と藤原敏男のディナーショー、行ってみたくありませんか？」「は？…あ、行きます、行きます」

反射的にそう答えてはみたものの、なんじゃそら？ と思いましたよ。だってディナーショーつったって何すんのよ。歌うたうの、佐山が？ 踊ったり、ものまねしたりすんの？

それはそれで面白すぎますが、さすがにそれはないんじゃないかと。

なんでも紙プロ19号の情報欄に詳しい情報が載ってるっていうもんで、めくってみましたよ。すると……、BeABOVE!!（意味レス）！ スゴそうじゃないですか！

★藤原敏男と佐山聡のエキシビジョン

★佐山聡がここで語る……UFOでのこと

【日時】7月11日（日）【会場】赤坂プリンスホテル【お料理】フレンチフルコース【料金】1名 ￥23000

赤プリ！ しかも『プライド』のSRS席より高い入場料！ まさにタダならぬイベント！

でもスゴイのはそれだけじゃありません。

この充実したコンテンツはどーですか！

藤原敏男（通称トシちゃん）といえば、佐山のもう一人の師匠！ あの佐山vsマーク・コステロ戦の際、佐山にキックを教えた、あの藤原ですよ。この戦いを経験したことで、佐山はUWF、シューティング、UFO、そして掣圏道と、格闘技界のダーウィン（？）の道を歩むことになったわけです。ある意味、この2人が、現在のプロレスと格闘技のクロスオーバー現象の基を作ったわけですよ。

また、掣圏道の市街地での強さを追求するというコンセプトは、トシちゃんの新宿・六本木等での武勇伝がモデルになっているという話です。（紙プロ19号・佐山インタビュー参照）そんな師弟コンビが、折しも掣圏道旗上げ戦の翌日に、エキシビジョンとはいえ合いまみえる！ これはもう歴史的瞬間であり、ロマンでしょ、どー考えても。

さらに！ 「佐山UFO離脱」の真相まで聞けそうな勢いときました！

猪木は佐山UFO脱退の理由を「ズバリ言って、彼のミネラル不足が原因というかね」と簡潔かつ難解な言葉で説明してくれましたが、さすがにちょっとわかりかねる部分があったというか…。しかも、佐山自身がその理由に関して、口を閉ざし気味だったので、UFOシンパ的にはもう絶好のアスクヒム・チャンス！

もう一人の、〝歌うリングアナ〟大川氏に関しては、よくわかんないけど、行けばわかるさ！ ということで。

というわけで、行ってきました、取材ということでタダで。イエーイ！ フレンチフルコース！ エスカルゴにニープレス！（意味レス） あ、でもアレですよ。自慢じゃないですけど、ディナーショーも赤プリもフレンチフルコースも生まれて初めての経験です。なに着ていきゃいんだよ、スーツなんて喪服しか持ってねーぞ俺…。とかなり悩みまして、結局5万円もするアニエスbのジャケットなんぞ買っちまいましたよ。正規の入場料より金かかっちまったじゃねぇか（怒）！

さて当日。ズバリ言って、ちと緊張気味に赤プリに入っていくと、ありましたよ看板が。「'99・7・11（日）歌手と格闘家による最強タッグ！99サマー・ファイティング・ディナーショー」。いいですねー、いかにもなプロレス的コピーが、高級ホテルのロビーにでかでかと踊っている様は。すっかり緊張がほぐれました。

ディナーショーの会場となるクリスタルパレス新館2階には続々と人が集結してます。スキンヘッドorパンチパーマで異常に首が太い人々を始め、初老の夫婦やお子様、はてはガングロギャルズまで。いわゆるプロレスファンと呼ばれる人種とは違う、なんというか系統の読めない顔触れが、2万3千円も払ってまで集う今夜のディナーショーとはいかなるものなのか、期待は高まりまくります。

さらに、会場入口に飾られた花輪の贈呈主名にサプライズ！「千昌夫」「五木ひろし」「吉幾三」！ 超ビッグネームばかりじゃないですか！ 僕はまったく知りませんでしたが、〝歌うリングアナ〟大川氏に、どうやら知られざる大物の予感。

さて、期待に胸ふくらまし、席につきます。ディナーショーといえば、お食事しながら歌を聴くってイメージなんですが、今回はまず最初に食事タイムがあり、後半がショーという構成でした。

なにしろフルコースです。うすっぺらいサーモンをパイで包んだものや、ムースにキャビアが載ったものといった、名前のわからない料理がじゃんじゃん出てきます。ま、披露宴での食事を連想してもらえばOKです。結局、期待したエスカ

文／谷田俊太郎
text by Shuntaro Tanita

い！本誌しかまずやらない!!
ーショー完全リポート!!!

佐山聡&トシちゃん（藤原敏男）&歌うリングアナ（大川

`99 SUMMERファイティングディナー

歌手と格闘家によ

'99 SUMMER FIGHTING DINNER SHOW
'99 サマー・ファイティング・ディナーショー
1999・7・11(日) 歌手と格闘家による最強タッグ
テーブルNo. 7 番
●お問い合わせ先
(有)ビッグシティプロモーションTEL.03-5603-0767

ルゴは出てきませんでしたが。

そんな料理をカチャカチャ食っていると、約1時間経過。ここで場内はいきなり暗転。ジャーン！　とロックなサウンドが響き渡り、リングを模したステージには真っ赤なスポットが当たります。いよいよ始まるようです！

すると客席を駆け抜け、白装束の男がステージイン！　純白の上下のスーツに、やはり純白のシューズ！　ジャケットの下には何もつけず、鍛え抜かれたボディを惜しげもなくさらしたこの男性こそが、"歌うリングアナ"大川裕貴さんのようです。首にはマフラーだかスカーフを垂らし、スポーツ刈りにサングラス。風貌だけでもシビれるような彼が、ビンビンにロック魂を爆発させて、いきなり熱唱開始！

曲は入口でもらったCDの曲「FIGHT!」。しかし、シビれるべきは、その風貌だけじゃありませんでした。彼が間奏中に見せるパフォーマンス、これがもう絶品！

ロックにおけるシャドウ・ギタープレイはもうおなじみですが、彼が見せたのはシャドウ・キックボクシング！　あの、見えないギターを狂ったようにかき鳴らすパフォーマンスをバージョンアップさせたと思われる、キックボクシング的ムーヴ。バックバンドが奏でるビートに合わせて、華麗なフットワークから、ジャブ！　ローキック！　膝蹴り！　肘打ち！　ミドル！　ハイ！…と細かな動きから大技まで、実に見事に炸裂させます。させまくります！

まさに「ファイティング・ディナーショー」に相応しい抜群のステージ！　ズバリ、シビレまくり。この時点で頭はもうクラクラです。

1曲目が終了し、大川氏がマイクを握りますが、そのMCがまたたまりません。「センキュー（キャアー！と歓声）どうもありがとう。今日はバッチンバッチンいきますんで、最後までヨロシク！」

バッチンバッチン！　その言葉に偽りはなく、明らかに彼のカリスマと思われる永ちゃんのナンバーから、「キミはファンキーモンキーベイビー」まで、バックに美人ダンサーズを従え、彼のゴキゲンなワンマンショーはバッチンバッチン、何曲も続いていきます。

それはいいのですが、佐山達が登場する雰囲気は素振りもありません。いつ？　まさかこのまま大川氏の歌だけで終わるんじゃ……？

そんな不安がムクムクと頭をもたげてきた頃合に、タイミングよく演奏終了。司会のアナウンサーが登場しました。ホッ。

「いやあ～、それにしても本当にスゴいステージでしたねえ。ビッグなステージをお楽しみいただいております。真夏の夜に相応しい、ビッグなライブです。改めてご紹介しましょう！　今年、演歌の世界からロックの世界に転身いたしまして、そしてKUというキックボクシング団体のリングアナウンサーも務めております。日本が、いや世界が最後に誇るビッグエンターテイメント、大川裕貴です！」

なんと！　演歌からロックへ転身というフレーズもスゴいが、"歌うリングアナ"大川氏が、世界が、最後に、誇るほどのビッグエンターテイメント（?）な人だったとは！

そういや、花輪もビッグネームからばかりだったし、知らなかった僕が無知すぎたということか、反省。さらに衝撃の事実は続く。

「さて、今日は私を除けば、超一流のスタッフが勢揃いしたわけです。舞台監督は、日本ではこういったビッグコンサートを開かせたら、3本の指に入る舞台監督さん！　照明は、あの矢沢永吉さんのステージを必ずといっていいほど、手掛けている照明の方！　そして、ダンサーズのみなさんは、この日のために500人（!）の中から厳しい審査を通り抜けたダンサーのみなさんなんです！」

どうすか！　このビッグステージっぷり。いよいよタダならぬ予感は最大に膨れ上がってきます。しかしながら佐山の出番は……？

アナウンサーによる大川氏のプロフィール紹介がまだまだ続き、彼が藤原道場で空手のトレーニングを続けていることも判明、という前振りがあってから、遂に藤原敏男登場のアナウンス。よかった！

スポットを浴びながら客席から登場したトシちゃんは、ステージ前でこけ、軽いツカミを披露。そして、待望の佐山登場か？

「もう一方、この方に関しては、経歴なんてみなさんの方がもうご承知でしょう！　初代タイガーマスク、佐山聡さんです！」

「お前は虎になれ」のテーマ曲が鳴り響き、佐山がステージに。上下ジャージにマスク着用の、ディナーショーにまったくそぐわないリラックス・モードです。ステージに上がった2人は経歴を軽く紹介され、遂にメインイベント突入の雰囲気です！

「掣圏道」旗揚げ翌日に見るに相応しい、歴史的エキシビジョンマッチ！　そして、佐山UFO離脱の真相が語られるまで、あとわずか！

アナ「タイガーマスクがデビューした頃、仮面の素顔に僕らは期待を抱いていたんですよ」

佐山「こういう顔してます～」

アナ「ところで、タイガーマスクの頃は体重、どれくらいだったんですか？」

佐山「92キロくらいですね。今？　120…（場内爆笑）、もあるわけないですよぉ」

まずは軽く定番の体重ネタから話は開始。しばらく、このネタで場内の笑いを誘い、話はやがて掣圏道の話題へ。いよいよです！

アナ「佐山さんは、掣圏道という格闘技団体の会長になったということで、佐山さんが考える格闘技なら、ハードなんでしょうねえ」

佐山「はい、すごくハードですよぉ」

アナ「ルールはどんなルールなんですか？」

佐山「ルールはね、よく藤原さんがやってるような、街でケンカするみたいなものです～」

ここでトシちゃん、笑いながら佐山に蹴り。ここから、掣圏道のさらなる解説、そしてエキシビジョンに突入するかと思いきや……

佐山「僕の先生なんで無礼なこと言いますけど、藤原さんは僕に電話かけてきて、こんなこと言うんですよ～。『佐山～、今日おれニュースに出てない～？　気がついたらホテルの前で上半身3箇所に刺された傷があるんだけどさ』もうこういうの、しょっちゅうですよ（笑）」

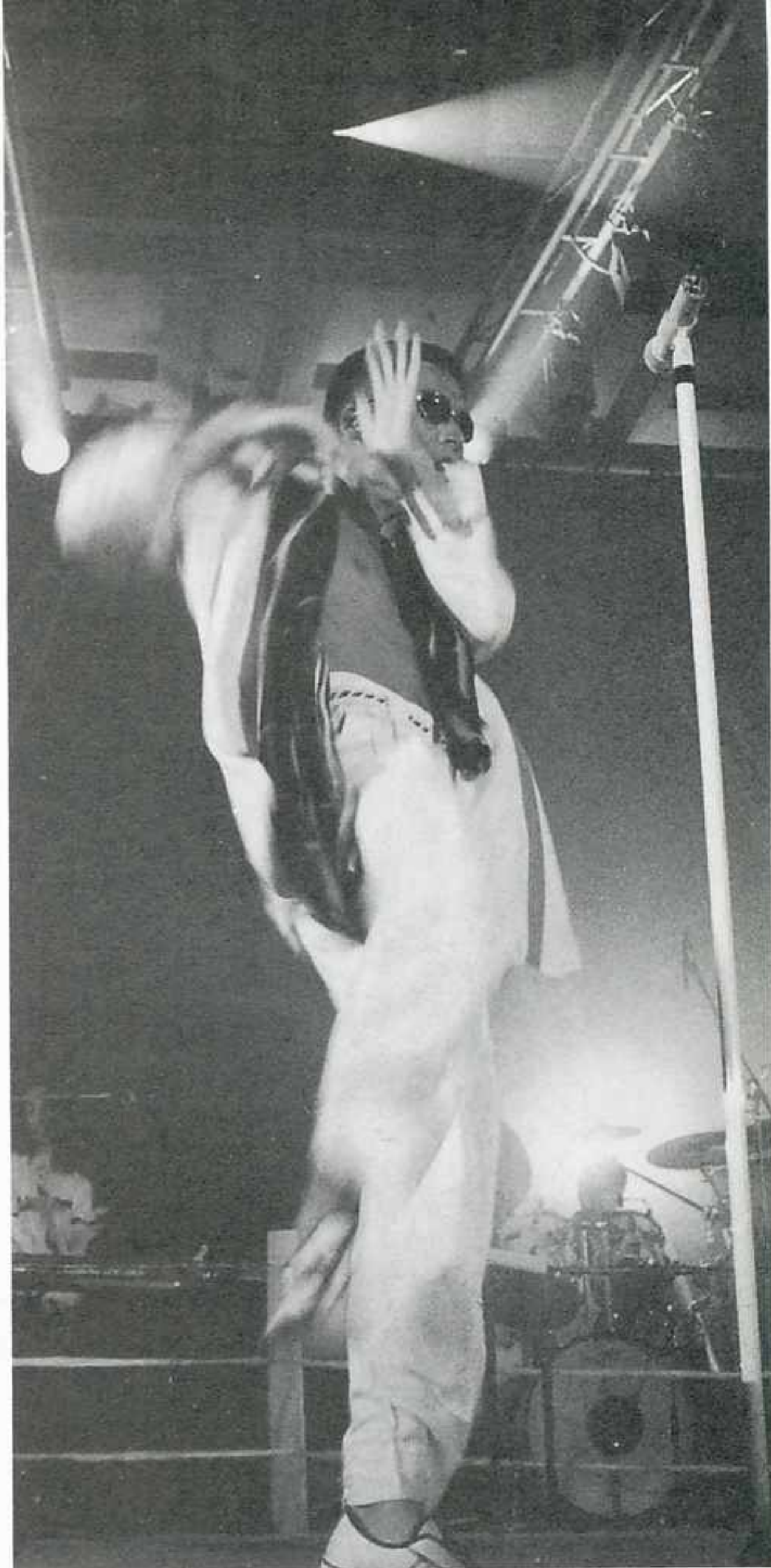
藤原「佐山ちゃんは空想力が逞しいんだよ」

佐山「全部本当のことですよ～。僕、本に書こうと思ってるんですから。大変ですよ、本が出たら、家庭は崩壊するわ、ジムは潰れるわで（笑）」

藤原「おいおい台本通りやってくれよ～」

アナ「台本はないんですけどね（笑）」

佐山「まだいろんな話ありますよ～、ロシアの話とか（笑）」

本誌しかできない！　本
佐山聡のディナー　シ

アナ「それは興味ありますね」
佐山「今日は奥さんが来てるんで（笑）」

話はすっかりトシちゃんの武勇伝暴露の部へ。次々とネタを披露する佐山ですが、ありゃ、掣圏道の話、もう終わり？ そして、つっこまれまくるトシちゃんが、気になる発言を。

藤原「今日は大川のためにみんな集まってるんだろ。俺の話は関係ないって（笑）」

この言葉がきっかけとなったのか、トークは急速に終息の方向へ。あれ？ 主役は大川さんだったの…？ UFOの話は…？

佐山「掣圏道は、30日に決勝戦、10月には有明でやりま～す。全員がもう藤原敏男みたいな人間ですから。リングサイドで酒は飲んでるはで、もう大変（笑）」

アナウンサーにふられ、佐山が掣圏道のPRをしたところで、どうやらトークタイム第1部は終了、と思いきや……。

アナ「お二人にはエンディングにもう一度、ステージに出てきていただきますので、よろしくお願いします」

なに～、エンディング？ もう終わりなんかい～!? とまどう僕を尻目に、ディナーショーは次の部・ムエタイのエキシビジョンに突入することが告げられます。

ってことは、ここで目玉たるコンテンツ、藤原vs佐山の師弟対決か！と思いきや……、カード変更になった旨が告げられる。

なんという"思いきや"の波状攻撃！

今度はリングアナに扮した大川氏が登場し、歌うような美声で選手の名前をコール。KUライト級チャンピオン小林聡選手と、え～とアラビアン・ゲッソンリバー選手だっけ？ ともかくタイの選手です。そして最後に

「レフリー、佐山聡ゥウゥ」

と呼んだのですが、なんとこれも予定変更。急遽、トシちゃんに代わります。

スゴすぎる。このアドリブ的なカード変更の見事さは、昭和新日も真っ青です。

結局、佐山は解説を務めることになり、試合中は「レフリー最高～！」、試合終了後は「すばらしい、最高で～す」と万事この調子。う～む、すばらしい力の抜け具合。

試合終了後の乱闘なんてオマケもありつつ、ムエタイの部は終了し、ステージには今度はアロハを着た大川氏が再登場。ワンマンショー第2部の始まりです。

そして、"昭和63年から演歌の世界に身を投じ、今年ロックの世界に転身した、世界が誇るグレートアーチスト"大川氏のライブを最後のプログラムとして、「99サマーファイティング・ディナーショー」は終了。

佐山の出番は、最後の曲の際、ステージの隅で手拍子しているだけでした。

呆然自失のまま、赤プリを出ると雨が降っていました。わざわざ買った5万円のジャケットはずぶ濡れ。僕は考えました。

「なんだったんだろう……？」

昨日、掣圏道の旗揚げ戦を終えた佐山は、今朝札幌を発ち、沖縄の「カキダミシ」に出場し、着替える間もなく、大嫌いな飛行機に飛び乗って、このディナーショーに駆け付けたそうです。そこまでする必要があったから、そうしたんでしょう。もちろんトシちゃんの顔をたてるためではあったとは思うんですが、それだけとも思いにくい。ではなぜ……？

すべては謎でした。

まるで蜃気楼でした。

しかし、それから数週間経った今、僕はこの謎だらけのディナーショーに隠された、真の意味に気がついてしまったのです！

みなさんは、週刊プレイボーイ8月3日号に掲載された「アントニオ猪木、新日復帰後の大野望」という記事は読みましたか？

この記事の中には驚くべきスクープが掲載されていました。曰く「85年の長州軍全日移籍の仕掛け人は、猪木だった！」というものです。アントンハイセルの負債で社内で追われる立場となった猪木は、前田にはUWF、長州にはジャパンプロを作らせることで、新日内部を混乱させ、自分への批判の矛先をかわそうとした、という仰天情報です！

そして、もうひとつ。これは週刊新潮に載っていた小粒情報ですが、銀座博品館劇場で行われた、弘田三枝子の「闘魂」というタイトルのライブを、猪木がプロデュースしていたというニュース。猪木は「ミコちゃんのステージには、僕のファイティングと同じ闘魂が感じられる」というコメントを残しています。

さらには、朝日新聞等でも報道された、北朝鮮で再び平和の祭典を行うというビッグニュース！

新団体、歌手のプロデュース、北朝鮮……。

同時多発的に報道された、猪木関係の新事実。一見何の関連性もないように見えますが、この複雑なパズルを組み合わせると、あるひとつの仰天事実に辿り着くのです。それは…

掣圏道も、実は猪木が仕掛人だった！

UFOと新日の関係は、現在微妙です。佐山に掣圏道を作らせたのは、駆け引きの材料として、新日内部を混乱させるのが目的だった！ そう考えられるのです。

また、掣圏道の主役はロシア人。佐山は、カレリンもボブチャンチンも安く呼べるかも～、なんて言ってますが、いったいいつの間にロシアとそんな強力なパイプが出来たのでしょう。奇妙な話です。しかし、そこに猪木が絡んでいたと考えれば、謎は一発で解けます。そもそも日本マット界にロシア人を引き込んだのは、猪木なのですから。

今、猪木の野望は、すべて北朝鮮に向けられていると考えられています。北朝鮮で興行を行うには、新日の協力は不可欠。また外人選手の参加も不可欠です。しかし、WCWの選手を参加させたところで、猪木が唱える「プロレスとは闘い」というポリシーを実現させることは難しい。ま、参加させること自体が難しいとも言えますが。となると、ロシアの格闘家はうってつけの存在です。

そのどちらをも可能にするのが、まさに掣圏道なのです！ そんな掣圏道と猪木が無関係と考える方が不自然でしょう。

そして平和の祭典といえば、歌も欠かせない要素。もうおわかりでしょう、そう「サマーファイティング・ディナーショー」をプロデュースしていたのも、実は猪木だった！

この、謎だらけで不可解極まりない、タダならぬイベントも、猪木が影で仕掛けていたと考えれば、すべてが説明ついてしまいます。

佐山がなぜUFOに関して沈黙したのかも、佐山を主役と思わせながら実は歌手の売り出しが主眼だったことも、昭和新日を彷彿させるフリージャズ的な段取りも、大嫌いな飛行機に乗ってまで佐山が駆けつけた理由も。

来年2月、北朝鮮のリングに、掣圏道の選手や弘田三枝子、そして"世界が最後に誇るグレート・アーチスト"大川裕貴が上がった時、全ての謎は解明され、このディナーショーの真の意味が白日の元に晒されるでしょう！

ああ、恐るべき、そして素晴しき師弟コンビ！ じゃあ、最後にいきますかーーッ！

い～ち、に～、さ～ん、押忍！（敬礼）

永ちゃんをバッチンバッチンに意識した、このイデタチ、このムーブ。キックを通して培った男のハートをステージ上に叩きつける大川裕貴。ヨロシク～！

藤原敏男【ふじわらとしお】昭和23年、岩手県生まれ。昭和53年、日本人として初めてムエタイのチャンピオンとなった伝説的な名キックボクサー。新日時代の佐山聡にとっても憧れの人であり、密かにキックを習いにいったこともあるほどの格闘技界屈指の名選手。最近ではUFOの小川直也、村上一成にもキックを伝授している。現在は新格闘術・藤原道場の代表。

大川裕貴　昭和35年10月1日、茨城県生まれ。学生時代から歌手を目指す一方、キックボクシングの世界にも身を投じる闘うシンガー。歌手デビューは63年の「女の船着場」。この後、2枚のシングルを発表し、連続ヒット。3W（シングル）連続ヒット賞を受賞する。今年に入って演歌からロックへと転向。闘う男たちの応援歌を歌い上げる。キックボクシング団体K－Uのリングアナウンサーも担当。最新シングル『この街を…』。

猪木がプロデュースしたあの弘田三枝子

どうなる!? 交渉戦

これがアントニオ猪木の〈大野望〉だ!

この記事中（写真・右）、新日内部に精通しているw氏はこれまで語られることがなかった話としてこんな仰天情報を披露している。「85年に長州は維新軍を率いて全日本に移籍したのですが、この移籍の張本人というか、仕掛人は実はアントニオ猪木なんです！　（中略）アントンハイセルの負債の責任をとる形で猪木は新日の社長を辞任。すべての権力を奪われる寸前だったのですが、そこから猪木は謀略に走るのです。まず、猪木は長州を呼び"新しい本当の新日本プロレスを作ろうと思ってるんだよ。オレもすぐに行く。新日本の本道は俺とお前なんだぞ"とそそのかしたんですよ。そういう経緯によって作られたのがジャパンプロレスです。（後略）」（99・8・3号『週刊プレイボーイ』より抜粋）と。凄ぇな、これってUWFとまったく一緒じゃん。ことの真偽はともかくとして底知れない猪木さんの魔性を象徴するバツグンのエピソードだろう。猪木ならなにをしてもいいんです！　左は99・7・15号『週刊新潮』の記事。弘田三枝子が4日間に渡って行ったライブ『闘魂』を猪木さんがプロデュースしたことを報じている。

ビューティ・ペアありがとう
ビューティ・ペアさようなら
2·27 FAREWELL BEAUTY PAIR

昭和54年2月27日にビューティ・ペアのふたりが引退を賭けて闘った武道館大会。当日のふたりの様子がLPとして発売された！　内容は左のとおりで、歌は1曲のみ。凄い!!　計量後のシーンではふたりが対面、緊張の一瞬と思われたが、「マキちゃん、緊張してる？」「負けたら明日から失業者になっちゃうもんね（笑）」など、会話は意外と呑気。

『2·27 Farewell Beauty Pair』

SIDE-A
- ●ホテル・ルームにて（ジャッキー、マキ）
- ●ウォーミング・アップ（ジャッキー）
- ●計量シーン（ジャッキー、マキ）
- ●計量後（ジャッキー＆マキ）
- ●目黒付近にて（ジャッキー）
- ●病院〜ホテル（マキ）
- ●新宿にて食事（ジャッキー）
- ●ホテルにて食事（マキ）
- ●ホテルにて食事（ジャッキー、マキ）

SIDE-B
- ●武道館へ向かう車中（ジャッキー、マキ）
- ●武道館控室（ジャッキー、マキ）
- ●リング上
- ●『かけめぐる青春』
- ●試合中継
- ●20カウント

早すぎるジャッキーさんの死が与えた衝撃はプロレスファンに留まらず、スポーツ紙、ワイドショー等でも大々的に報道された。

構成／ジャイ子
texy by Jay-Jay

Forever Beauty Pair!!

さよなら ジャッキー佐藤
フォーエバー ビューティ・ペア

1999年8月9日、ジャッキー佐藤が逝ってしまった。享年41歳。

「え、まだ若いのに？　ショック!!　追悼記事書かせてください！」と勢いよく言ってはみたものの、考えてみたらジャッキーさんのことって「♪ビューティ、ビューティ〜」って歌（正確には『かけめぐる青春』）ぐらいしか浮かばない。あ、フリもできる！　凄い！　当時幼稚園児だぞ!!　そういえば、誰でも歌えるレスラーの曲って他にないなあ。これに気づいて俄然興味が出てきた。そして関係者の話を聞いたり、資料を読んだところ、やっぱりビューティは凄かった！

「華々しい芸能活動」ってイメージはあったけど、実績が凄い！　例えば、日本レコード大賞企画賞受賞、全日本有線大賞新人賞受賞、FNS音楽祭新人賞&特別賞受賞、東映映画『真っ赤な青春』主演など。レコード大賞を始め、数々の音楽賞の舞台に上がったのは、その年の代表になるような曲を出したってこと。有線大賞は純粋にリクエスト回数で決まるんだから、ビューティの曲が愛されてた証拠です。映画だってチンケなVシネマじゃありません！　当然、当時の彼女たちは現役プロレスラー。歌と闘い、両方に実績を残した大スターだったの。こんなプロレスラー、ほかにいた？　言ってみれば力道山先生や、猪木さん、馬場さんにもできなかったこと。どうです、みなさん！

時代のせいかもしれないし、芸能活動が中心だったからかもしれないけれど、これだけ多くの人に「届く」存在だったプロレスラー、ビューティ・ペア、そしてジャッキー佐藤はリスペクトするべきです!!

ビューティが活躍したのは20年以上も前なので、いま見たら試合も歌も拙いけど、ビューティにはいまの女子レスラーにはない近寄り難さがありました。ここで気づいたことがひとつ。スターは身近な存在じゃいけないんです!!　1年中休みなしで芸能活動もプロレスもして、全てに結果出せるような人、身近にいないでしょ。そうじゃなかったらこんなに多くの人にインパクトを与えることはできなかったはず。

今後、女子プロレス界にジャッキーさん以上のスターが現れることを願いつつ、ジャッキーさんの偉業を讃え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

ビューティのふたりが並んだ最後の場になってしまった全女・平成10年11月29日・横浜アリーナ大会。殿堂入り表彰されたふたりは先輩のマッハ文朱とリングに上がり、若いファンからも大歓声を受けた。ジャッキーは元気そうにコメントしていたが、既にこのときには病魔におかされていた。

当時のビューティはプロレスファン以外にも大人気。『明星』の付録、『YOUNGSONG』、昭和52年9月号では巻頭を飾ったほか、こんなページにも登場。当時のお茶の間の人気者、デンセンマンと並んで紹介されていることからも、世間への浸透ぶりがうかがえる。これ見て振り付け覚えた人も多いはず。

ビックリしたね、前兆がなかったから。最後に会ったのは30周年記念の横浜アリーナ。僕がリングサイドにいたとき挨拶に来てね、「会長、身体に気をつけてね」って握手して途中で帰っちゃった。ちょっと痩せたなって思ったけどね、病気だとは全然思ってなかったよね。引退してからはほとんど連絡もなかったし。アリーナでは虫が知らせたのかね？

現役時代のジャッキーのことは1から10まで全部知ってるっつうかね。一番思い出に残るのは、あの子が入門してきたときの姿ね。おかっぱ頭で、非常にきれいな顔してるんだよね。ちょっと男っぽいけど感じのいい子で、あんだけ光る子いなかったね。入って来たときからそういう要素を持ってる子だからね、あれよ、あれよという間に大台に上がったわけですよね。

ピンクレディーと一緒に賞にノミネートされたこともあった。ピンクレディーを差し置いてビューティが穫るはずないんだけど（笑）。

リングの上で歌わすっていうのは、フジテレビのプロデューサーが歌畑でね、僕らもレスラー＝タレントと思ってましたし、歌を歌うことによって一般大衆にこっちを見てもらいたいっていうのがありましたから。ただ、本人たちが歌ったり、きれいな格好するのは恥ずかしいって感じだったよね。

衝突はほとんどなかったですよ。いまのウチの子もみんなそうですけど、会社に関しては絶対服従なわけですよね。なにしろ「自分を売ってもらわなければいけない」っていう認識を持ってますからね、商品ですから。拒否反応すると売ってもらえなくなりますからね。実際は望んでることなんですよ。

マッハ（文朱）、ビューティ、クラッシュ（ギャルズ）作って十何年経つけど、自分の生きてる間にもう一度必ず第二のビューティ、クラッシュを作るって思ってますよ。いまの選手の中にもそういう素材はいると思ってますから。

当時のフジテレビのプロデューサーに「1年間だけ、1日も休まずに芸能活動をやりなさい、そしたらお前さんはたいへんなスターになる」って言われたんですよね。マッハが引退しまして、ここでポツッと切れるんじゃなくて、やはり歌が必要だということで。ジャッキーは迷わず決めて、マキ上田が、ちょうど背格好が合うってことでね。『ビューティ・ペア』ってつけられたけど、あんまり、ねぇ（笑）。いきなり「この名前だから」ってプロデューサーに言われて。僕自身が抵抗あったんだけどね。「美しくないんじゃないの？」って（笑）。いま振り返ると、美しかったなって思うけどね。

試合では、マキと引退賭けた試合がやっぱり一番思い出すね。僕は怖くてまったく試合見れなかった。うしろで歓声だけ聞いてたね。負けたら引退ですからね、「どっちも負けないで欲しい」って思ってました。僕がその試合やらせるって決めたんだけどね（笑）。みんなに「バカじゃねぇか」って怒られたけど。僕が決めたことにビューティも乗ってくれましたからね。試合が終わったあとはお客は泣くわ、大変でね、その場にいられなかった。僕のせいなんだけど（笑）。僕はジャッキーが勝ってホッとした。ジャッキーのほうが人気あったから（笑）。でも、ペアを離したらいけないんですよ。大変な抗議が来ますからね（笑）。

ジャッキーには、本当に安らかに眠ってほしいですね。（談）

松永高司 会長
ジャッキー佐藤育ての親

Good-Bye Jacky Sato

葬儀会場にて。ケンカマッチの末、結果的にはジャッキー最後の対戦相手となった神取忍を始め、風間ルミ、ダイナマイト・関西、堀田祐美子、ジャガー横田、ダンプ松本など、現役、ＯＧレスラーが多数参列。著名人からの献花もズラリと並んだ。小社の名前を挟んでるのは長与千種とサザンオールスターズの原由子。他に羽田孜、宮尾すすむらの名前があり、故人の交友範囲の幅広さが感じられる。戒名は光照院妙尚日励大姉生。

病気だなんて知らなかった。僕は勘違いをしまして、氏家から連絡きたときジャッキー・チェンが死んだのかと思いました。「ウチにいたジャッキーだ」と言われてビックリしたんですよ。

入ったのは同期なんですよ。一週間ぐらいジャッキーのほうが早いのかな？ デビューしたのも向こうが早くて、僕は1年半ぐらいかかりまして。僕は恥ずかしくて自分から話しかけれないし、ジャッキーも無口なほうだったんであんまり喋れなかったですけど、たまに芸能の仕事について行って芸能人見たりして喜んでた（笑）。

ジャッキーには安らかに眠ってほしいです。（談）

リトル・フランキー 選手
唯一の現役同期生

殿堂入り表彰の企画を立てたときに一番難しい人がジャッキー佐藤だろうという考えが出てたんですよ。ただ、30周年だから、なんとしても口説き落としたいと。あれだけ時代を作った人なのにね、最後は地方会場での寂しい引退になっちゃったんですよ。やっぱりあれだけの選手を送るには、ちょっと会社の誠意も足りないんじゃないかと思ってたんで。

プロレスに対しては、ジャパン女子での終わりかたも含めてなのか、とにかく表舞台に出る気はないという意識が非常に強いかたただったんで、今回ばっかりはなんとかしてと思って連絡したら、なんと一発ＯＫだったんですよ。僕ら、逆にビックリしちゃって。ビューティ・ペアが揃う、マッハさんも来て頂けると。

前の月に手術をしてらっしゃって、病名もわかってたっていうのを考えるとね、ジャッキーさんが最後にそういう気持ちになって頂けたのかなって思うんですよね。ジャッキーさんにも非常に喜んで頂いて、わだかまりっていうのがあったとしても、会長と握手して帰っていったらしいから。悲しいお別れだけどそういうのがあったのが何よりの救いでした。

入門当時から知ってますけど、もの静かでね、真面目な人で、当時のプロレスに入ってくるような人とイメージがかなり違う人だったんです。当時は跳ねっ返りの世間からはみ出たような人がみんなこの世界に「コノヤロー」って言って入ってくるような世界だったんで。20年以上前ですからね。マッハ（文朱）も「あんな人がこの世界に入って来るの、珍しいよね」って言ってたの覚えてますね。黙々と練習も雑用もやるような人でね、ビューティ・ペアで華やかにやってるより、入ってきたときの印象のほうが強いですね。

追悼のセレモニーはウチがやらなきゃいけないって声が上がってね、大田区体育館、ビューティが防衛戦やったりした思い出深い会場でもあるんでね、プロレスラー・ジャッキー佐藤を最後は盛大に送り出して、ジャッキー佐藤という名前を永遠に残したいという気持ちで動いてます。全女最大の功労者ですから。（談）

今井良明 リングアナ
ジャッキーを入門時から支えた

最強最後のレスラー降臨!!

本格格闘プロレス小説

無比人

虚構と現実が交錯する

壮大な格闘ロマン

Mubito

Illustration/中川雅博

プロレス専門誌発行人である千堂が、天性の格闘センスを見抜きプロレス界になかば強引に引きずり込んだ男、万無比人。セメントマッチを含め連戦連勝を続けた無比人は、異種格闘技戦路線でもある程度の成果を残していった。そんな無比人が新たに狙いを定めたのがヒクソン・グレイシーである。それを後押しする千堂は、UFOのアントニオ猪木に無比人とカレリンとの合同練習の場を手配してもらうよう嘆願。千堂の狙いはカレリンと手合わせしたことをリークし、ヒクソン戦実現の布石とすることであった。

(38)

アントニオ猪木、と貼り紙されたドアを開けると、横長のスペースの奥寄りに見られるテーブルを囲む形に配された五つばかりのパイプ椅子の一つに、Yシャツにネクタイ姿の猪木がこちら向きに掛けているのがみえた。

ほかに人の姿はない。

千堂は、一歩を踏み入れたところで会釈し、すぐ後ろに身を置く無比人へ顎を振じ向け目顔で促した。彼が入来し肩を並べるのを待って、ドアを閉めた。

「やあ、よくきたね」

と温顔のうちに猪木。横手の壁に寄せられた別のテーブルの上にモニターが置いてあり、それを見ていたようだ。画面には、試合開始を待つばかりの会場内の模様が映し出されていた。

六月二十九日。大阪府立体育会館では〝UFO第4弾『大阪決戦』〟と銘打ち、午後六時より全八試合行われる手筈であった。

「すみません。こんな遽しいときにお手間を取らせることになってしまい――」

「いいの、いいの。さあ、どうぞ」

猪木は座したまま上機嫌の体で言い、向かいに二つ並ぶ椅子を指し示した。

午過ぎ、千堂が昼食を外で摂って社へ戻ったところへ無比人から電話がかかり、

――UFOの大阪大会だけど、おたくじゃ取材しないの？

――勿論する。記者もカメラも昼前に発たせたが、それがなにか。

――部長。いや、『四角いジャングル』社にいるときは社長か、社長は行くの？ 行かないの？

――うん。どうしようか考えてたところだが、きみが行きたいというんであれば一緒しても構わんよ、なんとか日帰りできようし。

――そう願うかな。いやね、このところの小川直也、進境著しいじゃない。で、ここらでひとつ敵情偵察ってのも悪かないかと。

以上の如きやりとりがあって、そして東京駅で落ち合い大阪入りしたのだったが、ふんぎりがつきかねていたのは同道する予定でいた真澄が風邪をこじらせたからだ。

しかしながら考えてみれば無比人が小川を改めてマークしてかかっている、というのは好もしい限りで、敵情偵察に反対する理由はなかった。

会場へ着き、猪木もきているとなればひとこと挨拶すべきではと後れ馳せながら思い至って、千堂が関係者を当たると控室にいる、すぐ顔を出すようにとの本人からのメッセージがもたらされたのである。

「この万の件では色々とお骨折りいただいたばかりか、ご心配までおかけしまして」

対座したところで威儀を正し、叩頭しながら目の端で無比人を窺うと、これまたいつになく殊勝げに深々と頭を垂れていた。

「そうか、あれからもう五十日にもなるか……。どう？ すっかりよくなったかね」

猪木の視線が無比人の右腕へと流れた。値踏みするかのような目色だった。

無比人は頷いてみせただけであり、なり代わって千堂が、

「お陰さまで一ヵ月でギプスが取れ、その後のリハビリも順調にいきまして、月が変われば試合が組めようかというまでに――。けれども当初は、尺骨と撓骨のどちらも骨折といいますでしょう、一体どうなることやらと」

「しかしまあ、なんだね。考えようによっては、それだけの負傷と引き換えに、あのアレクサンドル・カレリンをして称揚せしめたという勲章を手にすることができたわけで、これぞまさしく怪我の功名といえるんじゃなかろうか」

顎を撫ぜ撫ぜ猪木は言った。

五月の連休最終日に成田に帰り着いたその足で、千堂は無比人を伴い猪木のところへロシアでのことどもの報告に赴いたのだが、ギプスで右腕の付け根から手首までを分厚く固定された上に三角巾で重たげに吊り、痛みのせいか顔色も悪く冴えないことといったらなかった。

高く投げるグレコ独特のスープレックスによって宙に舞った無比人は、そのまま頭から山頂の残りの雪の中へ突き刺さるかと思われたが、途中で不自然に動きが止まった。

横合いからシベリア杉のひともとが枝を伸ばしてきており、それに片手だけで取り

巨匠入魂 第17回

真樹日佐夫

本格格闘プロレス小説

無比人

付いたのだと、空の碧さに目を射られながらも千堂は悟り知った。どういう反射神経をしているのかと舌を巻くうちにも、両手で枝にぶら下がり直すや、ひと振りの後に無比人はカレリンをめがけて身を躍らせたのだ。

宙空へ投げ上げられたそのコースを逆にたどって降下してきつつ、無比人の一方の膝頭が鋭く折り曲げられるのを見て、ニードロップだ！　驚嘆するとともに、期待に胸を膨らます千堂であったが、仰臥したままのカレリンが上目を使う一方で両腕を胸の前で交差させたのを知り、肝を潰した。

トレーニングウェアの上からも圧倒的量感が容易に窺える二本の腕は、胸ばかりか顔や腹部をも防御してのけるだろう。それは素人目にも瞭かで、このまま無比人がニードロップを敢行すれば十字受けでカットされ、直後には動きを封じられグラウンドに持っていかれるに違いない……。

案の定、膝から落ちてきたのをたやすく掴まえて転がすと、仰向きにしておいてこれとクロスする格好でカレリンは横ざまに体を浴びせた。次いで、右、左腕の順に無比人の肩に巻き付き、十本の指が項の辺りで噛み合わされた。袈裟固めだ。

カレリンのこの技には前田も散々苦しめられた、と二月の試合を思い返して千堂は、自身も押さえ込まれたかのような圧迫感を禁じ得なかった。こうして見れば二人の体格差は歴然としており、大人と子供以上の開きが感じられた。

このままギブアップを余儀なくされれば、人間離れのした反射神経の片鱗を覗かせたというだけで、グレコ王者にはやはり手も足も出ずに貫禄負けとの評価は如何ともしがたいが……。祈る思いでいるうち、ふと無比人と目が合った。おぼえず千堂は眉を寄せた。

カレリンの巨軀の下敷きとなり、後頭部と一方の腕を固められた無比人の顔が偶たまチームの者たちが坐る方を向いていて、それで彼の視野の内に千堂も捉えられたということなのだろうが、なんと笑みが結ぼれているではないか。無比人が悪戯っぽく笑っている！

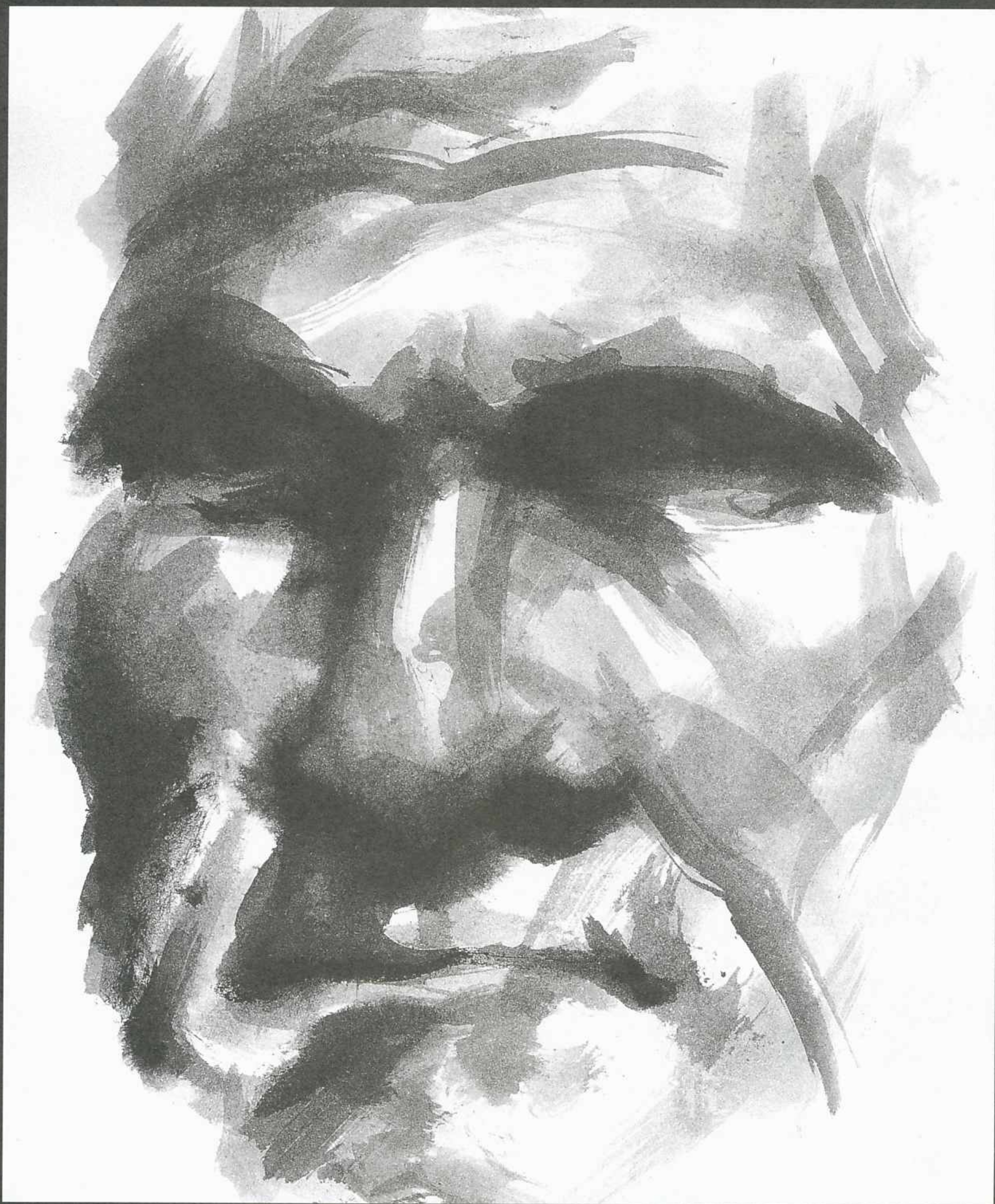
不敗の王者の物悲しくなるような袈裟固めの責め苦に気が変になったかと、不安が胸をよぎるのをよそに無比人は、自由が利く方の腕をこれ見よがしに千堂へと突き出した。そして握り拳にしていたその手を開く。と、そこには鮮やかな緑の色彩が。

小さくて針の形をしたそれを杉の葉だ、と見極めた瞬間、呑み込むように千堂は悟っていた。枝に両手でぶら下がり直したのは、離れ際に葉を毟り取らんがためだったのだ、と。同時にまた、その葉を無比人がどう用いようとしているかも。膚が粟立つのを感じた。

カレリンは袈裟固めで日本からの参加者に、いっとき忍従を強いるとでも言わんばかりにどっしり構えて揺るぎなかったが、いきなり杉の葉を顔に擦りつけられて少なからず慌てたようだ。きつく目を閉じ、指が解けた。グレコの世界王者を相手に、かくもふざけた作戦を投げられたあの瞬時のうちに案じ、冷徹かつ狡猾に運んでみせるとは……。

油紙を使ってのブッチャーのそれを引き合いに出すまでもなく、目潰し攻撃はプロレスにあっては反則技ながら一般化している。こうした展開のなかでそれが飛び出したからといって、取り立てて非難されることもあるまいと、驚きの一方で千堂は自分に言い聞かせていた。

袈裟固めからの脱出に成功か、と思われたのも束の間、無比人が腕の間から頭を引き抜くと同時に彼の右腕一本をすかさずカレリンは両手で掻い込み直し、そのまま体を反転。腕拉ぎ逆十字の態勢に入ったのだった。

右腕を完璧に極められた無比人を目の当たりにして、やはり世界王者の懐は深い、ここまで撹乱したのだしと千堂は諦めに押し流されかけたが、するうちまたぞろ胸を締め付けられるような期待感をおぼえた。彼はタップしない、即ちギブアップしないという予感、否、確信であったといえようか。

タップせず腕を折られるに任せた、それだけでも日本の格闘技マスコミには充分アピールしようが、恢復までに一体どれ程かかるか。折角知名度を上げても、ヒクソン・トーナメントに出場できぬでは虻蜂取らずでは、と心が乱れて見過ごしにするか、起って行き止めに入るか決めかねていると、突如、無比人がカレリンの方へ腰を捻りざまに自由な左手で顔面へのパンチを放った。

右を逆十字に極められながら左でスイング気味のパンチを振るなど無謀に過ぎる、と息を呑むうちにも立て続けに二発、三発。そして、ベキッ！　鈍い響きが千堂の耳朶を打った。骨折を承知で敢えて顔面パンチに勝負を賭けた、としか受け取りようがなかった。

不意にカレリンが腕十字を解いて起った。これ以上続けるのは得策でないと判断したか。顔面パンチはそれほど有効とも思えなかったが、立ち上がったところで見ると鼻下にうっすら血が滲んでいた。

無比人も負けじとばかり、おっつかっつに身を跳ね起こした。その左手をカレリンは手を伸べて取ると、高々と差し上げた。右手は肩が脱けたようにだらんとしており、ダメージの大きさを思わせた。

千堂は、安堵の吐息をつきつつ仰ぎ見たが、ふと我に返ってトレーナーのポケットに忍ばせていた小型カメラを掴み出した。身を低くしたまま二人の正面へ回ると、待っていたようにカレリンが無比人の手をさらに上げ、微笑してみせた。夢中で何度もシャッターを切った。列中に拍手が広がった——。

「それでは、会場の方で観戦させていただきますので」

千堂が腕時計を見、無比人へも顎をしゃくって腰を上げようとすると、

「あ、ちょっと」

猪木は半身を伸ばし加減に押しとどめた。そして、こう語を継いだ。

「折角きてくれたんだし、どうだね、万くん。よかったらひとつ小川の試合の前にリングへ上がり、彼に花束をやってくれないか。インディーズより飛び出したニューヒーロー来阪、受けると思うが」

本格格闘プロレス小説 無比人 (39)

巨匠入魂 第17回 真樹日佐夫

〝アルティメット界のタイソン〟の異名を取るグッドリッジの顔が、苦痛を堪えかねたように歪んだ。そして性急にタップ。

七月四日、〝プライド6〟の第六試合として行われた小川直也vsゲーリー・グッドリッジ戦は、十分二ラウンド制の2R0分36秒、小川がV1アームロックを極めてUFO大阪大会でのゲイリー・スティール戦に引き続き勝利した。

一万三千からの観客を呑み込んだ横浜アリーナSRS席にて、千堂は真澄と肩を並べていたが、おぼえず眉間に皺を刻んだのは、お馴染みの飛行機ポーズで勝者小川がリングを回りだしてほどなく。

グッドリッジ側のコーナーへの通路を、無比人が単身足早に近づいてくるのを認めた。この日、千堂は無比人を誘わなかったし、また彼が別行動でやはり横浜へ足を運ぶなどということも聞いていなかった。

誰からも見咎められぬまま、無比人はコーナー下へと到ると、そこで立ち止まり、いっときリング上の小川の動きを目で追った。

小川は、飛行機ポーズでのファンサービスを終わりにすると、関係者に運ばせたNWAのベルトを巻いた。そして密林の王者ターザンよろしく、両手を一杯に広げ天にも届けと雄叫びを上げた。そこへコーナーの階段を上がってきた無比人が、ロープを跨いでリングイン。猪木の言う勲章の御利益でもあろうか、途端に満場が沸いた。

無比人を見て勝利を祝福してくれるもの、と小川は受け取ったか、笑顔のうちに自らも歩を寄せ右手を伸べた。その手がパシッ！　払いのけられるに及んで総てを千堂は了解した。真澄も、無比人には階段の途中で気づいていた様子で、

「ねえ、なにをはじめる気かしら」

怖いわ、と半身を預けてきた。

UFO大阪大会でスティールをSOSこと回転卍固めで小川が斬って取った直後、試合前に彼に花束の贈呈をした無比人が再度起って行こうとしている、と気配で察した瞬間、千堂の脳裡を電撃的によぎるものがあった。

——きみ！　まさか、またリングへ上がって小川選手を挑発する気では。名古屋での〝プライド5〟のリングで彼がコールマンを降した高田に対戦を迫った、あれと同じく。

肩へ手をやって押しとどめ、問うと無比人は見事にあっけらかんとして、

——さすがに部長にして社長だけあるね。ピンポーンだよ。

——敵情偵察に非ず、最初から小川襲撃が目的で私を誘った。そうしたら皮肉にも猪木さんが花束贈呈の役を。

——ピンポーン。お見通しなら、その手をどけてくれないかな。

——いかん。小川が名古屋で高田にしたことに対しファンがそれほど拒絶的ではなかった、そのことに意を強くしてというのはわからんではないが、ほかでもないUFOは猪木さんのリングだ。ここで万無比人が小川を挑発、なんてことになれば、きみにプレゼンターの役を振った猪木さんに道化を強いることに。

——わかったよ。部長じゃなくて、社長。

意外にも素直に無比人は肩の力を抜いたのだったが、わかったというのはUFO以外のリングでなら小川に番外戦を仕掛けてもよい、そのように理解したということか。いま、横浜アリーナのリング上に相対峙する両者を注視し、千堂はそう断じていた。

握手を求めた手を払いのけられ、当惑の表情を見せる小川を上目ごしに無比人は捉え、

「そのベルトを賭けていまここで俺と戦え」

無感動に言った。ムヒトコールが弾けた。

一週間後、那覇、沖縄県武道館の〈新格闘イベント・THE KAKIDAMISHI〉会場に千堂、真澄、無比人、氷見子と四人の姿が見られた。

〈以下次号〉

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン

Champion

チャンピオン東京店の名物男 wDc

チャンピオン東京店で、店長以上のキャリアを誇るハイパー・アルバイトが、この男。コードネームはwDcである。本業は歯医者さんなのだが、中村カタブツ君(36歳)をも凌駕しそうな勢いの超絶ハードコア・キャラクター(猪木信者)。出勤日は「気が向いたとき」ということなので、見かけたら気軽に声をかけてみよう。

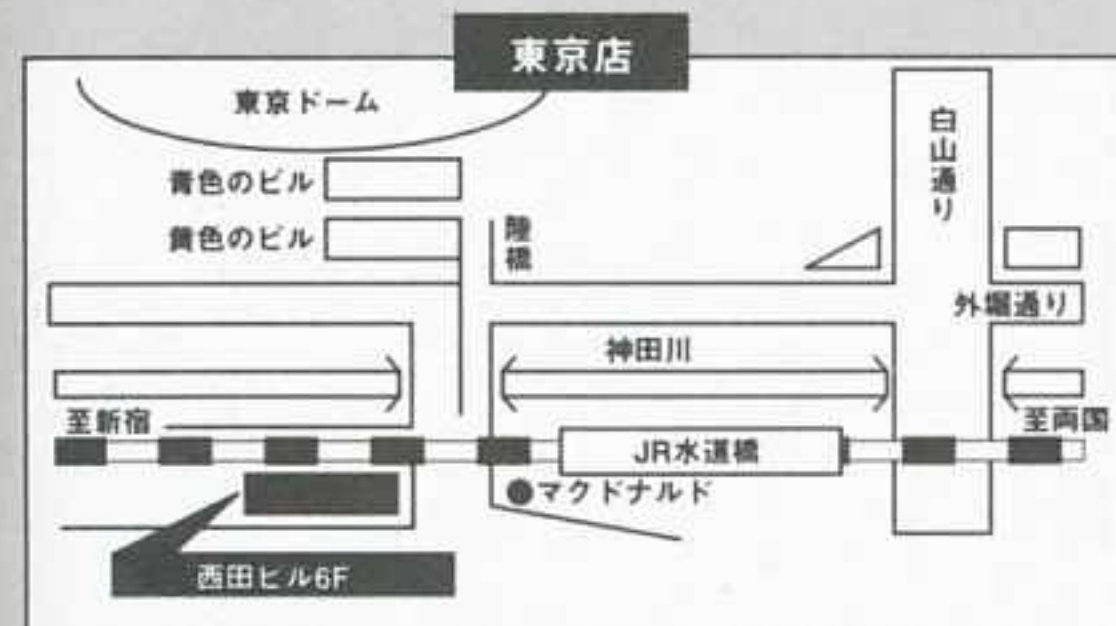
いつ、何時、誰の注文でも受ける!

地方からも利用可能なチャンピオン独自の便利なビデオ・レンタルシステム!! お好きなように借りてくれ!

その1　店頭にてレンタル、店頭へのご返却
その2　店頭にてレンタル、宅配便でのご返送
その3　TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル

※東日本地区にお住まいの方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店をご利用ください。
※通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまでご郵送してください。
※通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話、2ハガキ、3FAXにてご注文ください。商品は、代金引換になりますので、代金十送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。
※在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

東京店

東京ドーム
青色のビル
黄色のビル
隆橋
白山通り
外堀通り
神田川
至新宿
JR水道橋
至両国
マクドナルド
西田ビル6F

Champion東京店
〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237　FAX.03-3221-6267
営業時間　11:00〜22:20(年中無休)

大阪店

ホテル南海
南海難波駅
パチンコサンサン
パチンコプラザ
マクドナルド
大阪府立体育館
阪神高速道路
大阪球場跡地
桧ビル4F

Champion大阪店
〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186　FAX.06-6645-5187
営業時間　11:00〜22:00(年中無休)

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号&バックナンバー、単行本、Tシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!! もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Tシャツも、ここなら買える! プロレスファンよ、いますぐ来い!

Championホームページアドレス：
http://www.champion-j.com

プロレスショップのファッション革命

『チャンピオン』で激ヤバ・プロレスグッズをゲットせよ!

驚愕!! 日本初のイヴニング・ドレスマッチの衣裳を『Champion』で探せ!!

マニアックなインディーTシャツで個性的なファッションにも挑戦!

『Champion』はキング・オブ・プロレスショップだけあって、何でもある。「これは貴重すぎて、対戦相手も破れないはず!」とwDcがチョイスしたのは、三宅綾直筆サイン入りTシャツ(¥2000)だ! マニアはヨダレものの超レアな逸品であろう。他にも、ほとんどの団体のTシャツが揃ってしまうのは『チャンピオン』ならではである。

アメプロTシャツで、気分はストーン・コールド!!

アメプロTシャツは独自のルートで入手したレアものばかり! 9月末までアメプロTシャツフェアを実施するぞ。WWFなら¥4200、WCWなら¥4000と割引価格で絶賛販売中! イヴニング・ドレスマッチの総本山・WWFものでは「セイブル」などまである。とにかくストーン・コールドやザ・ロック、ゴールドバーグなどスーパースターが勢揃い!

イヴニングドレスはどれにしようかしら?

今回はなぜか女装で登場したwDc。まずは曙のお母さんのような出で立ちのスカートをはいて、戦闘準備はOK! あとは上に着るTシャツだけという状態で『チャンピオン』にプロレスTシャツを漁りにやってきた。果たして、wDcの難解なファッション・センスにぴったりとハマるTシャツを見つけることが出来るのだろうか?

猪木さんの魂のこもった"道"Tシャツを着こなそう!!

猪木引退試合でのマイク、「迷わず行けよ、行けばわかるさ」の詩をいつも背負いたいキミにはこの「道Tシャツ」(¥3000)がオススメだ! 「猪木ボードの前で、猪木に恋い焦がれる女の子」というギミックには欠かせない逸品。ちなみにこの店には猪木の過去の名勝負のビデオもズラリと揃っている。『チャンピオン』に迷わず来いよ、来ればわかるさ! アリガトーッ!!

パンクラスのチャンピオン別注Tシャツはマスト・アイテム!

スタイリッシュな着こなしを目指すキミはパンクラスTなんていかが? イブニングドレス・マッチで着てしまうにはもったいない。しかも腕にタグが付いてる『チャンピオン』別注バージョンだから、友達にも自慢できる! ちなみに女の子っぽさを出そうとして、wDcが手に抱えているのはINSPIREの最新作「猪木&ドン・フライの引退試合フィギュアセット」(¥26250)。

チャンピオンのオリジナルTシャツで他人とは差をつけよう

店内に設置してあるFMWプリクラ(1回¥300)の前で女子高生の得意技「エッグ・ポーズ」でキメるwDc。こんなオヤジは見たことない! まさにTシャツ胸部の文字どおり「まだ見ぬ強豪」である。これは『チャンピオン』のオリジナル・ブランド『格闘ASTRAL』のTシャツ(すべて¥2000)なのだ。石川雄規愛用の"情念"Tシャツもここで売ってるぞ。

東京・水道橋にあるプロレスファンの聖地・後楽園ホール。そこから歩いて30秒という、有無をいわせぬ超至近距離にキング・オブ・プロレスショップ『チャンピオン』は存在する。圧倒的な広さと在庫量で他店を追随を許さない大型店である。

今回オススメしたいのは6、7、8、9月というクソ暑い季節の売れ筋商品・プロレスTシャツである。「ビデオ・レンタルショップ」として有名な『チャンピオン』だが、もちろんTシャツだって大充実。なかなか手に入らなかったアメプロTシャツも独自のルートで大量入荷している。さまざまなTシャツがキミを待っているゾ! おまけに通販もあるので、地方に住んでるキミも入手可能だ! 店員さんも優しい人たちばかりなので、気軽に何でも聞いてみよう。

今回、登場したwDcは、つい最近のWWFで行われた男同士のイヴニングドレス・マッチ(ドレスを剥がされた方が負けという、じつに単純明快な試合)に触発されたらしく、挑戦者もいないのに1人で女装アイテムを漁りにやってきたファンキー野郎である。

しかも、いきなり店長に殴りかかると一方的に服を脱がしにかかる! あまりに非道、あまりに下劣なその手口に、普段は優しいトラキチ店長も怒りが大爆発! 今年のG1覇者ばりのアルゼンチン・バックブリーカーでwDcを完全KO! 見事に『チャンピオン』の平和は守られたのだ。

いかに『チャンピオン』の品揃えが凄いか、そして店の充実ぶりがこの広告でどこまでおわかりいただけたか不安ではあるが、それは『紙プロ』も自信を持ってオススメする! (左の地図を見ながら) 迷わず行けよ!!

ひどいよ(泣)

"男魂"Tシャツ(¥2000)を来て、『チャンピオン』のトラキチ店長を脱がしにかかるが、5秒で返り討ちに…。

悪夢か幻か!?　釜山港よりグレート・チョロ復活!!

ハガキ劇場

地獄の底から…

邪神襲来

邪道で何が悪い！　姑息で何が悪い！　劇場の勝ちなんじゃあ!!

この夏プロレスファンの合い言葉は「ハガキ劇場とハガキ道場どっちが勝った？」これに尽きたわけだが、そんな醜い抗争も遂にフィニッシュ！ この闘い、序盤戦は『道場』のトップランカー、キャプテン名倉&その手下を筆頭に大量の組織票が入り『ハガキ道場』が一歩リード。更に「ハガキ劇場は読みづらい」「チョロはオナニストだから嫌い」などの投稿が相次ぎ『道場』逃げ切り態勢に。その後も順調に票を伸ばし『道場』の勝利は不動のものとなった。勝利を諦めた俺（チョロ）は途方に暮れ釜山港へと身を投じた（ドボン）。が、しかし、締切間近に『劇場』常連投稿者、さらに、ぴのこの元相方まっきとその仲間達から胸一杯の組織票が入り、最終的には『ハガキ劇場』奇跡の逆転勝利という結果に終わったのだ。急いで釜山に向った俺は、真鍋アナ立ち会いのもとグレート・チョロを呼び出す事に成功！ グレート・チョロ復活!!　ヒィッヒィッヒィッ！

（平成11年8月15日受付終了）

チョロ	423枚
ノブ	355枚
抗議	86枚「どっちもつまらんから山口日昇にやらせろ!」等

誠軍団結成

誠軍団1号・北野誠

（埼玉県／中川雅博）5点

グレート・チョロのハガキ劇場

『ハガキ道場』よ、さようなら。『ハガキ劇場』のチョロ邪（トゥナイト２では松澤チョロ記者）！ いまだにデブリンは「インチキ組織票に負けた」とか、女々しい事をほざいているようだが、そんなことをグダグダ言ってるようでは、しょせんアマチュア邪。プロの世界は結果がすべて。一枚でも多くハガキが来た方が勝ちなんじゃあ!! ハガキ道場支持派のみなさん、目を覚まして下さい！ ノブはくたばりました。オス（敬礼）デブ（合掌）。

『中川画伯や、青木さんとか、真下さん、アジャさん、葉菜子ちゃん、それにまっきとか……みんなのおかげで勝てたんじゃあ!!』

（宇野&小路リミックス）

俺と一緒に闘ってくれたメンバーを紹介するぜよ！

まずは俺の元相方、まっきじゃあ！

■1枚目 Ⓟのコーナーも今回で終了してしまうかもしれないから、いっぱい出しておくよ。

★このハガキを皮切りに、トータルで45枚もの投稿を送ってきてくれた、まっき。一枚たりとも手抜きハガキはありませんでした。ありがとよ。

■4枚目 すごいよ。Ⓟの会長。薄々気付いてたけど、確かな想いになりまひた。高田インタビューの中で私の心と脳みそにビリビリと入り込んできた言葉が！ 線引いた。今でもハバ!!深さの話を読んだ時のすごーい！ という印象は私の中に刻まれてんの。今回も仕事前にうわ〜!! と刺激され何だか意欲が湧いてくる位でした。Ⓟは生で会長の言葉を浴びてうらやましい。何気なく凄く格好いい事、山程言ってんだろーな。私は単純な作りで人の影響どんどん受けるから、すぐ崇拝するんだよ。人が成長してくのに必要な事って素直さと刺激を与えてくれる尊敬する人物でしょ!?（ちなみにⓅは出会った日から私にとってこの存在。これ真実）。Ⓟはどちらにも恵まれている幸せな人です。有難いことだよ。

★まっきは会長（山口日昇）に相当影響を受けてるみたいだね。確かに会長は、キャバクラに行って「インディアン嘘つかない」とか何気なく凄く格好いいこと連発してるみたいです。

■17枚目 宇野薫すごいね。練習たくさんしているみたいだし。強いのに妙に小ザッパリしてたり、性格（人格）も真っ直ぐなのだろーなと感じさせたり。Ⓟはフリーマーケットで何か購入した？ この頃、世田谷公園ではあまりやってないんだ。たのしかったよねえ、すごく。あんな些細なイベントだけどさ。一緒に行ったの、楽しかったんだ……。

★まっき、俺も楽しかったよ。「なんだ、まだ俺のこと好きなんじゃん」と思って、まっき宅にノコノコと訪ねてみたところ、門前払いをくらいました。俺とまっきの関係は、デブリンがほざいているようなバーチャル恋愛茶番劇なんかじゃないんじゃあ!!

■22枚目 たくさんハガキ書いてるけど何でこんなムキになりつつあるのでしょうね…。でも、こんな事でしか私の手助けは……届けられないんだもんね。今、私がⓅに出来る1番正しい事のように感じています。でも、どーせなら勝ちたいんだけど。

■39枚目 反則だ!! と思われてしまうのか何だか気掛かりです。けど、ちゃんと考えて書いてるつもりだし…。作るのはⓅだし…。頼まれてこんな事やってるわけじゃないし…。むしろ頼まれないからムキョーと意欲も育っていくし…。いーよね？

（東京都／まっき）計45枚で・45点

★ノー問題。「インチキ組織票」なんて言ってるデブ君、オタク問題ありますよ！ 俺は一度もハガキ書いてくれなんて頼んじゃいないんだから。そんな偏屈な考えを持つ前に、キミもいい恋愛の一つでもしてみたらどうだい？ そーいうことです！

■こんにちは。ご無沙汰しております。まっきの友達のようこです。覚えてますでしょうか。まっきに頼まれたので私も協力しますね。プロレスのことは全然わからないのですが「内容は何でもいい」と言われたので、すみませんが関係ないこと書きますね。

（東京都／ようこ）5点

★という具合に、まっきの友達からもたくさんのハガキを頂きました。ようこちゃん、なっちゃん、はなちゃん、のりこちゃん等々、ホントにありがとう。それにしてもおそるべしまっきパワー。末期状態。

■ハナコはチョロ様に質問があります。どんな夢に向かって生きていますか？（以下略）いつの日かハナコが母となる日が来たらパワーオブドリームに通わせて身体も心もしっかりヤマケン先生に鍛えてもらって他人の痛みを理解できる子に育てるコト。これは葉菜子の夢。だってヤマケンってかっこいいし、しっかりしてるし、ハナコは心から尊敬しているんだもん。きっとここの気持ちチョロさまなら分かってくれると思う。そしてノブさんは分かってくれないと思う…。だから私はチョロさんについて行く!! チョロさん、葉菜子の夢が叶うように祈ってね。

（東京都／金崎葉菜子）手紙5枚で20点

★葉菜子ちゃんの気持ちはよ〜くわかった！ ノブにはわかんないと思うけど。葉菜子ちゃんは人を見る目があるね。今度一緒にパワーオブドリームに行ってヤマケン先生と3人で夢について語り合おう。

■それにしても危ぶまれるのがハガキ劇場の存続。どーなったんだろう、チョロ君は。ハガキ道場に歯向かって返り討ちになってでもいたら……まあ人気無かったって事だね。浮かばれねーな。おお神よ…。浮かばれぬのなら沈んでしまうか、いっその事（もう負けてると決めつけてる私）それでも私はチョロのSOMEDAYを信じたい。そしてより邪悪な姿となって南港から復活してね（withヘドロ）。

（福岡県／アジャライオン）25点

★より姑息になって釜山港から復活したグレート・チョロ邪。いつも、ちっぽけな俺のために叱咤激励のハガキを送ってくれるアジャさん。今回は、劇場のピンチってことで25枚も投稿をしてきてくれたんだ邪!! それにしても劇場派の女子は、ホタルイカさん、アジャさんをはじめベッピン揃いなんじゃあ!!

前号の感想

■面白かったのはハガキ劇場。オフィシャルランキングにいきなり和田さんがランクインしている所がアイブル的で面白かった。

（神奈川県／成瀬昌由（&和田段平）会社員）5点

★格闘家らしく応募券をテーピングで貼り付けて送ってきてくれたチョロ派の成瀬選手。プレゼント希望は「矢吹ジョーフィギュア（政治的な力は有効か？）」ということですが、もしかして和田段平さんにプレゼントするつもりなんでしょうか。腰椎間板ヘルニア（全治6ヶ月）の為、しばらくの間欠場となってしまった成瀬選手にプレゼント決定！ 早くよくなってくれ。俺はいつだって政治的な力に屈服するぜ！ 他の選手からのハガキも待ってます。

■面白かったのは前田日明インタビュー。あいかわらずヒリヒリ熱いインタビューですな。タオルで前を隠さずにフリチンで堂々と銭湯に入れる男（しかも半ダチ）前田CEO、俺もあと10歳若ければ営業としてリングス入社試験をうけるのに……。

（愛知県／タコ改め、たっつあん／31歳）4点

★フリチンで堂々と銭湯に入れる日明兄さんとは違い、ノブはボクらとは絶対に銭湯に入りません。よほどブツが貧弱なのか？ ま、しゃーないなと。

■面白かったのは宇野薫インタビュー。カオルコは宇野くんに決まってるじゃん。カオカオ。

（東京都／塚越まゆみ／？歳）3点

★ちっちゃな娘から熟女までカオルコは幅広く増殖中の様子。たったいま結成した「チョロッ娘クラブ」では会員を募集してるんじゃあ!! 会員特典としてなんと『トゥナイト２』に出演できるんじゃあ!! 希望者は希望の会員ナンバー（欠番アリ）を書いて『ハガキ劇場』まで応募してくれ！ 先着10名様に生ビール1杯サービスするんじゃあ!! カオカオ。

おまけの一言

■船木は『ケンゴは6年待って下さい』と言ってたが6年もかかる驚異の新人って一体……。

（東京都／小林晃／28歳）4点

★「あの〜僕のハガキは載るんでしょうか？」と何度か電話を掛けてきた小林さん。道場宛に何枚か投稿していたのだが「『劇場』だったら載せますよ〜」とサスケ社長のように調子良く答えると「じゃあ『ハガキ劇場派』になります」との返答を頂いた。さすがは渡り鳥・小林晃さん。対応力があります。

俺の心の恋人ホタルイカじゃあ！

お花がとっても良く似合うラブリーノブ兄さん。口元がやたらとセクシーでチュ。

オーちゃんとおーちゃんのダブルミーニングでバケラッタ。『紙プロ』ではビッグネームの奥さんがペンネームになり、ました。

いつ何時、脱力しながらも、その強さには脱帽されっ放しだった鶴田教授に3千点。

サクドッグって見たいなぁ。やっぱりバックを取られても平気なんでしょうね。犬だけに。

あきら

バーリトゥードは

どうだい?!

ウッシャウッシャと大好物を喰らう晃兄さん。イカすぜベイベェ〜！

代表にこの絵を見せたら「ムフッ」と笑ってくれたのら（愛知県／ホタルイカ）各5点・計30点

そしてキング・オブ・イラストレーター 中川雅博画伯じゃあ！

越中ニューT！　胸元には平成の平成維震軍番せき詩郎先生が！（埼玉県／中川雅博）各5点・計25点

「熱く生きていれば、それを笑う人もいるかもしれません」（小橋健太自伝より）。いや素敵です。

初めて柔術の道衣を着たという佐竹。抜群に似合っている（SRSDX調）

「すわ」突然の事件に驚いて出す声。それっ。【三省堂国語辞典】より。

手垢の付いた真鍋アナではなく田端アナへマシン銑をブッ放す辺りが（サスケ・ザ）グレート！

その投稿にハズレなし 青木雄大じゃあ！

「中川画伯はホント上手いなあ。山藤章二、針すなおクラスだよ。心から敬意」（右下に続く）

ハイレベルな投稿を連発の"ハガキ劇場の救世主"青木雄大。青木さんいわく（左に続く）

ケビンさんとの特訓で、掌底も1分間に160発までパワーアップ。無酸素運動万歳。

断言します！　神宮でニタがムタに負けたら、コーナー名を「ハマキ激情」にかえます。

乱痴気騒ぎのWWF会場でも平気で爆睡するターザン流オシャレ雑誌。こりゃ売れない！

そのキャラクターを買われ、WWFマット登場も秒読み状態のＪＪ。

「奇想天外の斬れ味」とのことだが、青木さんも負けてませんよ。

引き続き投稿を待ってるん邪（青森県／青木雄大）各5点・計50点

「中川画伯の絵を160キロの豪速球に例えるなら、塩本名人の絵は『最後の魔球』ナックルボール」（左に続く）

「バッターが打つどころか、キャッチャーが捕る事さえ難しい」（更に左へ続く）

イラスト界のオピニオンリーダー 英加直純さんじゃあ！

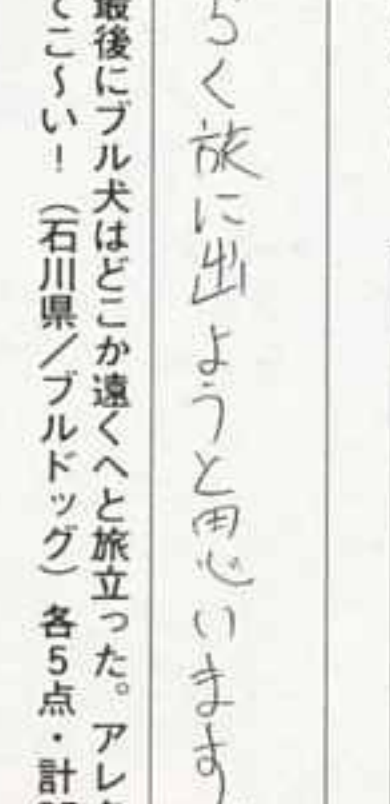
西のイラスト界の巨匠・英加直純画伯の作品二連発！まず一枚目は藤波社長モノ。それにつけても社長に就任してからというもの頻繁に新日Tシャツを着まくるドラゴン社長だが、どうにもこうにもシックリこない。プロレス用語どころかプロレスTも通用しないのか？　ここは社長権限でグッズをセーラーズで統一してしまうというのも一つの手だろう。フガフガ。もう一枚は、破壊王。体調十分となれば自然と口の方もなめらかになるのが破壊王の破壊王たる所以。先日テレ東の深夜番組に出演した際には「ゲイだ」「レズだ」と下ネタ全開のガチンコ話で己の存在を必要以上にアピール。迷わずイケよ、イケば果てるさ。男の悲しき性。（大阪府／英加直純）各5点・計10点

犬小屋から愛を込めて ブルドッグじゃあ！

アントニオ文朱とは違う角度でブッ飛びイラストを連発のブルドッグ。でもこれじゃウリ坊だよ。

リングス中量級トーナメントもしくはSAボクシング出場に向け、花くバードキックを猛練習中の花くま先生。

このハガキを最後にブル犬はどこか遠くへと旅立った。アレクのようにスグ帰ってこ～い！（石川県／ブルドッグ）各5点・計25点

このまま「花の応援団」に登場しても違和感のない、どおくまん調Ｔ・Ｋ。次のＵＦＣはぜひ学ランで入場してくれ。

格闘界一のファッションセンスを持つ男（by小路）宇野君もブルドッグにかかれば、アンモナイト頭に大変身。カオカオ

最後に、もはや名人芸 塩本祐介ベイベェ～!!

「紙プロ」ＴＶの最新番組表です。今のところ代々木ケーブルテレビでしか観れません。（熊本県／塩本祐介）各5点・計20点

いやがらせ部隊創師サクちゃんと大佐・小ちゃん。今月も一仕事待ってます。イッちゃって下さい。

上田さん、早く全快してシュガーベイブを復活させましょう。1、2、3、ハロハロ～！

投稿写真デラックス

『NO18』のハガキ劇場にて〝凄テク〟桜庭和志夫人・末和さんから、「金原魚Tシャツがどーしても欲しい」との応募があったため、迷わずプレゼントしたことを報告したが、なんと桜庭選手本人から「金原魚Tシャツを着た末和夫人、愛娘の大世クン（9ヶ月）、桜庭和志パパ（紙プロTシャツ着用）」のスリーショット写真が送られてきた。ありがとうサク一家！　しかしながら、ミドル級世界NO1の男にふさわしい素敵な奥さんです。というわけで今年のプロレス大賞のベストタッグチームは、たった今この二人に決定しました（満場一致）。50点差し上げます。

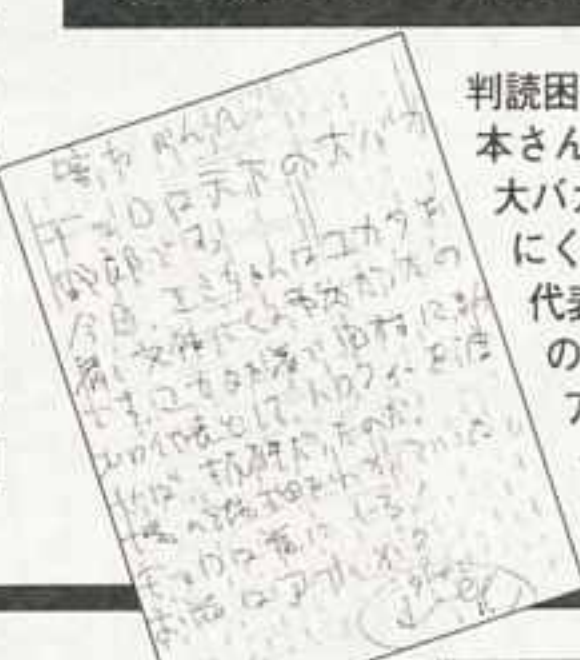
和志パパ＆末和ママ＆大世クンとサクファミリー勢揃い。でも、桜庭パパの顔が切れちゃってます、残念。金原魚Tシャツは、桜庭末和さんだけではなく、金原選手本人、山本宜久選手、高山善廣選手など注文殺到中。大和魂Tに追いつけ追い越せ。

（越谷市／モハメド・ヨネ）20点★『紙プロ』編集部に送られてきた数少ない選手直々の暑中見舞いの中から、ベスト・オブ暑中見舞いに輝いたモハメド・ヨネ選手の一枚。越谷のガンマンここにあり！

話題の美少女 ミス・マスカラスと一緒に!

（川越市／恒遠聖文／26歳）5点
★8月13日、CMLL後楽園ホールマスカラスと写真を撮ろうと思い、張り切っていたがとうとう最後までそのチャンスは訪れず落ち込んでいたところ、二人のミス・マスカラスが！

8・19RINGS、メインの勝者、田村選手にトロフィーを授与するボク（写真上）。「紙のプロレス編集部、松澤チョロ様…」とアナウンスされると「紙プロ〜ッ！」と大歓声。「ありがとうお客さん」というわけで会社に戻ると、机の上に吉田豪宛の一枚のFAXが！

判読困難な殴り書きFAXの送り主は葛飾区のターザン山本さん（53歳）。内容は『豪ちゃんへ！　チョロは天下の大バカ野郎です。今日、エミちゃんはユカタを着て文体にくる予定だったのです。ユカタを着て田村に紙プロ代表として、トロフィーを渡せば抜群だったのだ。場の論理をわかっていないチョロは首にしろ！　お前はアホか？』とのこと。んなこと言ってないで『激本』代表で日明兄さんにトロフィーでも渡せばええやん！（謝罪文持参）。寝言は寝て言うんじゃあ！

アントニオ文朱の俳句劇場

そのイラストのブッ壊れ具合と、投稿枚数では他の追随を一切許さないシュート野郎、アントニオ文朱（『SRS・DX』でもその投稿っぷりは変わらず）。今回はなんと俳句で勝負。誰か助けてくれ〜。　一句三点・八句二十四点

プロレスは　見るに限ると　ジュース飲み

Tシャツで　ヨツユをしのぐ　ビンボー人

コスチューム　じぶんでつくり　ヨソ行きに

『紙プロ』の　表紙を外し　捨ててやる

嫁いない　一人もいない　さびしいな

八百長　インチキ　それが世間です

おすぎです　『紙プロ』見なきゃ　オオバカよ

サクラバと　ゲームをしたい　夜もある

ハガキ道場

グレート・ニタの ハガキ劇場に負けたけん、ハガキ道場はできん！

ぴのこの元彼女〝まっき〟＆その友達連合のインチキ組織票によって1／2ページに幽閉されてしまったハガキ道場。ぴのこには「デブリン、ちっとだけページをあげるん邪」とかお寒いことを言われる始末。まあ、いいや。仕事多くて手えまわらなかったし。反劇場派はいますぐ紙コップを投げろ!!　そして、ケロちゃんを怒らせろ!!　構成＝坂井ノブ

それにしても、いままで『ハガキ道場』に投稿してくれた読者のみなさんには申し訳ないことをしました。が、それもこれも、「別れた」とか言いながらハガキを40枚以上（しかも、もったいないからと封書にハガキをごっそりと詰め込んで切手代を節約。浮いた金で買ったタバコまで入れて）送ってきた〝まっき〟と、それを受け取ってまんざらでもない顔の〝ぴのこ〟が仕組んだ、誌面を使ったバーチャル恋愛茶番劇にすぎないのである。結局、誰も得しない（これで小銭を稼いでいるのはまっきとぴのこぐらいのもの）読者ページが政権を握ってしまった。読者の皆様、ご愁傷様。

というわけで、今回はいままでイラストを送ってくれた常連さんの最後の花道にと思い、イラストを載せます。

【ハガキ道場から業務連絡その1】
前号で募集した〝ハガキ道場ガールズ〟ですが、まんまと応募してきたのが『ハガキ道場』のSEXシンボル・神子佳世ちゃんただひとりだったので、佳世ちゃんには無審査でセクシャルバイオレットNO．1の称号を差し上げます。いちおう写真も載せときます。（10点）前号では佳世ちゃんの漢字を間違っていたらしく、「責任とってよ」と怒られてしまいました。わかりました。オレも男だ！　覚悟を決めて、今度ご両親にご挨拶に伺います。ふつつか者ですが、よろしく。

【ハガキ道場から業務連絡その2】
ボランティア・スタッフ募集は締切ました。こっちには野郎からの応募が相次いだのですが、その中でも実家が弓道具屋さんの堀江かるがも君がやってくれることになりました。あしからず。

高田延彦がついに宣言!!
エーエム・ピーエムが、できたけん、他のコンビニには、行かん！

（福岡県　中島由香里・♀）5点
CMでも絶好調の高田ノブ兄さんが、地方でこんなことしてました。地方のCMや広告に出るときのノブ兄さんは、普段よりも破壊力5割増だ。サイキョッ!!

（大阪府　清原弘行・15歳・♂）5点
キミは将来大物になる！　間違いなし！　これからも頑張れ！

（愛知県　手下2号ジミー・ザ・グレートちんぽ）5点
この他、モーリス・スミス、ギルバート・バレンティーニ、グッドリッジなどなど意味ありげな人選でいっぱいイラストをくれました。

（神奈川県　吉岡隆二　・21歳・♂）5点
くだらねえ!!　マイティ、義啓さん、フランク、京子、貴子、きびだんご、新日でデビューした亘など、マット界は井上の時代になりつつある、と言っても過言ではないかもしれないが、過言かもしれない。

（愛知県　キャプテン名倉ちんぽ・30歳・♂）5点
何十枚もハガキを送ってくれたトップランカーのキャプテン。ホントにごめんな……。というわけで、点数はハガキ劇場にスライドします。

（福島県　たく）5点
ボクもノブ兄さん同様、ハガキ劇場内の新コーナーで頑張ります。

（熊本県　塩本祐介　33歳・♂）5点
師匠はこれからもよろしく。

（埼玉県　アントニオ文朱・20歳・♂）5点
キミはこの勢いで『あぶ木』にも投稿してください。いっぱいハガキありがとう

大航海！あの頃！ボクは若かった!!
プロレスラー＆格闘家のちっと、いい話

第1回ゲスト 和術慧舟會 廣野剛康さんの告白

大学生時代の話なんですけど、長期のバイトを探してたんですよ。それで「医療機関の受付・男性募集」っていうのを見つけて、時給も良かったんで面接受けに行ったんです。面接の時「血は大丈夫ですか？」って聞かれて、「だ、大丈夫です」って答えたら、「まあ手術でも見てよ」とか言われて手術室に連れて行かれたんです。恐る恐る手術室に入ったら、ベットに男の人が仰向けになってチンチン出してるんですよ！　そこで初めて、ここは包茎手術をするとこなんだなって気付きました（笑）。

さすがに「これはヤッバイ」って思ったんですけど、その前に違うバイト二個ぐらい辞めちゃってたんで、そろそろ何かやらないとまずいなと思ってたところだったし。まあ家から近いし時給も良かったんで決めたんですよ。

初日の午前中は「どうしよう」って感じだったんだけど、午後になったら「もういいや」って開き直りましたね（笑）。慣れちゃえばある程度は平気なんだけど、やっぱり……毎日毎日吐きそうでした（苦笑）。だって僕、チンカスとかも取ってたんですよ。とにかくスッゴイ臭いんですよ!!　毎日「うわ〜、くっさぁ〜」とか思いながら黙々と取ってました（泣）。

僕は、取りあえず患者を呼び出してアイマスクをさせるんですよ。それでズボン降ろして寝てもらって、チンチンをつまんでイソジンみたいので拭いて消毒をするっていう仕事でした（泣）。風俗嬢みたいに一本いくらの世界で（笑）。いろんな人生模様が見えましたね（苦笑）。

あと手術中に勃っちゃう人がいるんですよ。僕はその当時、小路さんみたく色白でポッチャリしてて（微笑）、その上マスクをしてたんで、女の子と勘違いして勃っちゃう人もいましたけど（笑）。人がいなくて看護婦さんがアシスタントやってる時なんてみんな勃ってましたね（笑）。それで包茎手術って、皮を切ると血が凄い出るんですよ。特に勃起してると大量に出るんです。だから「勃起しちゃダメ！」って言うんですけど「ダメだダメだ」って言われると余計勃っちゃうみたいで（苦笑）。切ったあとは、チンチンを押さえながら先生が縫いやすいように、ゆっくり回す役もやってました（笑）。

あとチンチンに真珠入れるとか言うじゃないですか。今はシリコンボールを入れるんですよ。それを勧めて、お客さんが「やります」って言うとキャッシュバックでお金がもらえたんですよ（笑）。それを聞いてからはやりがいを感じましたね。チンチンにブツブツとかある人に、ホントは平気なのに、「性病の一種ですから焼いちゃいましょう！」とか言ったり（笑）。

それとチンチンを太くするコラーゲンっていうのがあって、「あなたの亀頭はずっと皮に隠れてて刺激に弱くなってるし、カリも細くなってるんで、コラーゲンを打って立派なカリにしましょう！」とか言って勧めてましたね（笑）。

あといいネタとしては、手術で切ったチンチンの皮って、普通にその辺のゴミ捨て場に出してたんですよ。それで朝になると、カラスがそのチンチンの皮を嬉しそうについばんでるんですよ。チンチンの皮とはいえ一応肉ですからね。

結局、僕はその仕事を2年間やってたんで結構な本数見てますよ。自慢にはならないけど（笑）。週4回はやってたんで一日3本と計算しても、2、3百は確実に見てるんで、「格闘界一オチンチンを見た男」だと思います（笑）。

> **廣野剛康**「ひろの・たけやす」
> 1971年7月18日生まれ。155cm、55kg。和術慧舟會のアイドル＆クールな合コン番長。通称・格闘界のミート君（by小路晃）。9月5日の修斗後楽園大会では五木田勝（木口ワークアウトスタジオ）と対戦した廣野。結果はどうなった？　各自調査！

ピンポンパンポンじゃあ!!　『道場』ランカーの皆様ご心配なく。得点は『ハガキ劇場』で吸収してやるぜよ！

☆ハガキ劇場☆ オフィシャルランキング

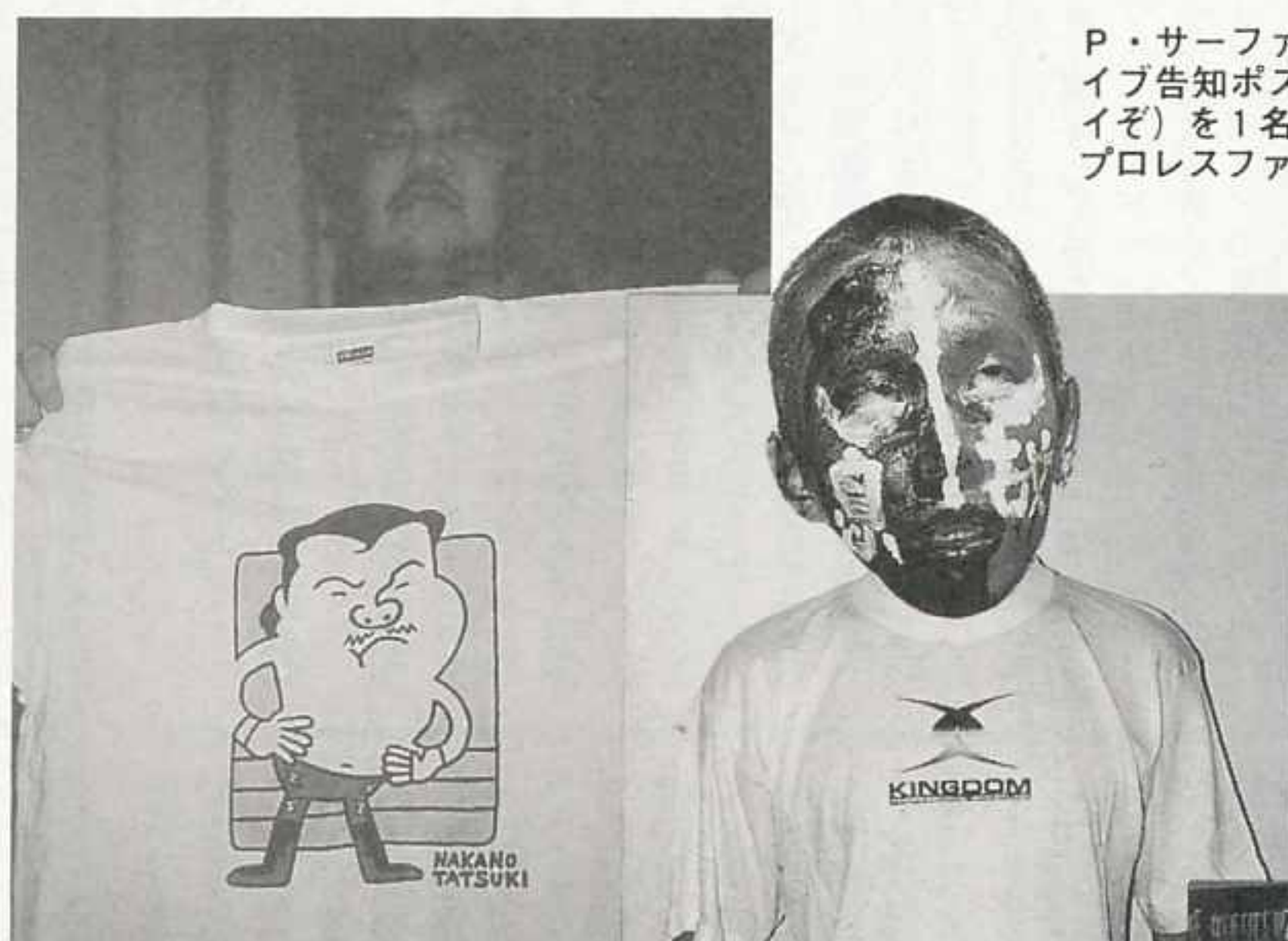
順位	名前	点数
1位	中川雅博	239点
2位	ブルドッグ	139点
3位	塩本祐介	133点
4位	キャプテン名倉	107点
5位	まっき	85点
6位	ホタルイカ	75点
7位	またあうヒマで	71点
8位	青木雄大	70点
9位	アントニオ文朱	61点
10位	アジャライオン	54点

「ハガキ劇場」では、皆様のご意見、ご感想、イラスト、投稿写真DX、俳句劇場等々、夢いっぱい、胸いっぱい、お腹いっぱいのハガキを待ってるんじゃあ！　宛先は……
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス「ハガキ劇場」係まで。合言葉は、「思い出とケンカしたって勝てないじゃん」邪!!

ハガキ劇場　完全勝利記念

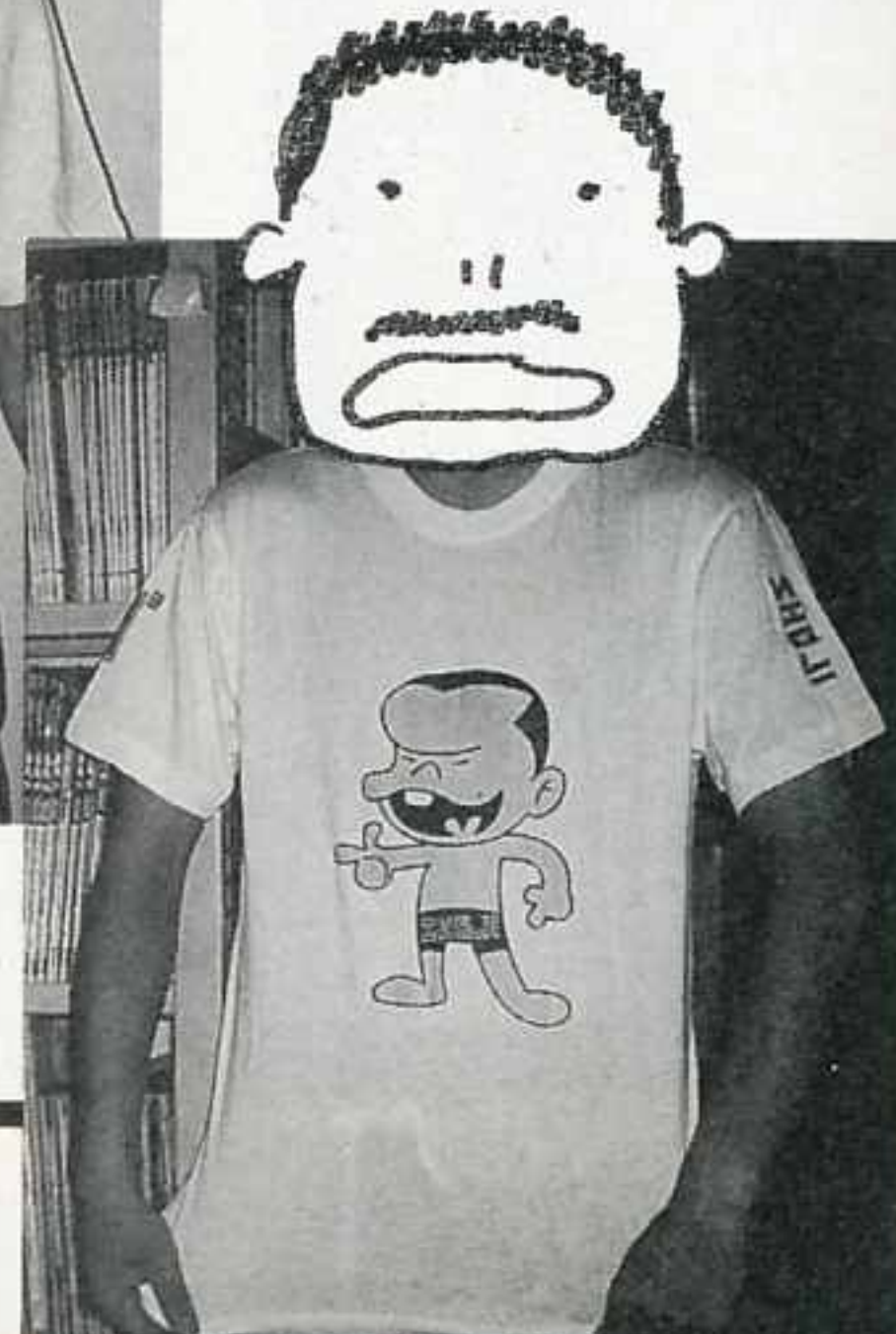
姑息だろうが何だろうが、俺には一切関係ない。いらないヤツは骨でもしゃぶれ！　というわけで『ハガキ劇場』の勝利記念として読者の皆様にイカしたプレゼントを差し上げます。今回も小路＆中野Ｔシャツを提供してくれた中川雅博画伯には深々と頭を下げ、掌を内側に向けて30点差し上げたいと思います。オス（敬礼）、メス（聖水）、チツ（痙攣）。

チョロプレ!!

Ｐ・サーファーズ他のライブ告知ポスター（デカイぞ）を１名様に！　プロレスファンでもOK!

中川画伯の新作、中野Ｔシャツを１名様に（サイズM）。博多で着れば一躍人気者になれるハズ。

電流爆破ＶＴを画策中？　入江秀忠選手から「ＫＩＮＧＤＯＭ」Ｔシャツを１名様に（サイズM）。

画伯の新作、赤塚不二夫風「小路晃」Ｔシャツを１名様に。晃兄さんイラストの（本間徹哉／16歳）５点

シロウト勝ち抜き筆自慢！

PRIDE.0 ゼロ

前号の三作品は各選手の実力が今一つ爆発しきれなかったか、三者ドローという投票が目立った。そんな中で勝ち抜きを決めたのが“各自調査”村田卓実君。他に「女性読者が参戦してこそ『PRIDE.0』」といった健康的な男性プロレスファンからのご意見も多数寄せられた。気持ちは非常に良くわかるんだが、女性読者からの投稿が少ないというのが現状。どーするニッポン。ということで今回は『PRIDE.0』初の試みとして、というか苦肉の策でBOYS4連発で急速発進いたします。女性読者の皆さん、現状打破のオピニオンリーダーとして、ゼヒ『PRIDE.0』に参戦してきて下さい。必要以上に待ってます。

前々号の最終結果！

ライセンスナンバー11 『難しい時期』 真下純子さん 106票

ライセンスナンバー17 『語ろう！ 辻義就』 木村繁さん 97票

ライセンスナンバー14 『ノールール全面支持』 田上大統領が三本じめさん 86票

前号の結果発表！	感想
ライセンスナンバー15 村田卓実さん 『感想』 112票	●「ムラタ君は『かませ犬』なんかじゃなかったです。あなたはひまわりです」（愛知県／真下純子／29歳）●「ホットかつクールで好きです。本当にいい文章ですね」（千葉県／神子佳世／16歳）●「ダントツ！　恥をかいたり、悪あがきしたりしながら男前な大人になれよ!!　私は君が好きだ!!　ガンバレ少年!!」（東京都／林薫子／31歳）●「行間を読ませるテクニックはスゴイ!!　コノ読ませ上手！」（愛知県／今村龍彦／31歳）●「『何か』を持っているだけでなくギャグじゃない村田君はサイコーだ！　特に一見なんでもない友達同士の会話に始まる『嫌な言葉』はＰＲＩＤＥ０史上最も短い文章ながら、村田君の真面目さがストレートに伝わってくる傑作である。ラスト４行の感性は本当にえらい」（埼玉県／小鮒芳行／25歳）●「『紙プロ』の中では霊長類ナンバーワンの書き手でしょう。ウシッ！」（大阪府／藤本直治／16歳）●「良い意味で毒のないリングの汁という感じ」（北海道／大森伸也／25歳）●「Ｐ131の宇野君の隣でベルトを巻いているのは村田君？」（秋田県／山中敦／24歳）
ライセンスナンバー18 森下潤一さん 『僕と馬場さん』 105票	●「森下潤一さん、というより森下さんの姉ちゃん!!　なんだかうるさいマニアばっかりの中で一番ファンをしている姉ちゃんに一票!!」（岩手県／小笠原幸二／27歳）●「森下さんの推測、見事です。これで一本勝ち」（神奈川県／加納輝宜）●「森下潤一さん、ずいぶん色白ですね。顔が平坦で生気が無いんですけど大丈夫なんでしょうか？　オレはさだまさしが好きだ」（東京都／中川欣也／29歳）●「初心者でもわかりやすい文章だから」（埼玉県／丸山里美／20歳）●「この人は本当に馬場さんが好きというのが伝わった」（大阪府／村田忠陽／19歳）●「昔のたけしのＡ・Ｎ・Ｎチックなネタ、大好き！」（愛知県／島田健二／32歳）●「文章はあまり書きなれてない感じですが、逆にそれが純粋な馬場さんへの想いを感じました。合掌」（東京都／金子阿佐美）●「気持ちは良く分かるっス」（岡山県／国岡みゆき／25歳）●「素敵なお姉さんですね。姉弟仲良く！」（埼玉県／中川雅博／21歳）●「ほのぼの路線かつシュールなところにロープエスケープ」（高知県／小野友理／19歳）
ライセンスナンバー17 木村繁さん 『格闘ペットントン ～あるいは「謎のアストロノーツ」』 96票	●「マニアックだぞ、コッ!?」（東京都／増沢洋明／28歳）●「ダサカッコイイ、コブラに乾杯！　その昔、会場でコブラに向かって『高野ですよねぇ？』と放言した勇気あるオレの友人を思い出した」（大阪府／宮脇博司／30歳）●「同世代、ペットントンでジ～ンとした」（千葉県／田中聡）●「コブラネタいいですね。昭和新日のマイナーネタまた書いてください」（鹿児島県／鮎川祐二／31歳）●「お兄ちゃん元コブラ、弟ゼブラ拳磁にも乾杯！」（大阪府／村上宜之／24歳）●「かとうれいこもコブラが好きだった（と、思う）」（東京都／中林照雄／27歳）●「『思い出とは美化され～おぼろげな残像だけが記憶に留まる』のフレーズにゃシビレました」（福岡県／西尾徳博／34歳）●「スカルドロン・サンダーが活字化されただけで大満足！」（名古屋市／湯浅龍彦／28歳）●「吉田豪直系のタチの悪さがステキ♥」（埼玉県／福原統／20歳）

1戦勝ち抜き

ライセンスナンバー15

『無我』

村田卓実（18歳）

今現在プロレスに興味がなくなっている。本当に、Ｋ－１がテレビでやっていたら見る、『格通』は立ち読み程の興味ぐらいしか格闘技への興味しかない。

なぜなのか。

由利さんが逝ったからか。

高田が負けたからか。

とにかくない。

こんな時こそ、１・４（小川vs橋本戦）のビデオなのだが消してしまってもうない。

あとマーク・ケアーがオタービオにアームロックを決め泣きさけびながらタップしているのを一瞬テレビで見た。

だからその二つをミックスしたような事件を見たい。あとその場の立会人として真樹先生がいれば最高、と思ったら多分『プライド２』がそんな感じだったようなことを思い出したのでとりあえず見ます（あとアイブルとシュルトも映像があったら見たい）。

皆さん、今のプロレスはどうですか？

ライセンスナンバー14

『恐怖！ ロープエスケープ！』

マウンテンバイク田上（5歳）

いきなりだが、俺が史上一番凄いと思うU系及び格闘技の試合は、第一次ＵＷＦで行われた「佐山vs藤原」である。ガンガン頭を蹴り続ける佐山。いくら蹴られても蹴られても、あの独特の笑みを浮かべて立ち上がってくる藤原。イヤイヤいま見ても恐ろしい試合である。この試合はフリーエスケープ、フリーダウン。ギブアップかＫＯのみで決着。おまけに時間無制限一本勝負、急所攻撃以外なんでもアリという、実に分かりやす過ぎる「なんでもあり」である。膠着状態が延々と続き引き分けたり、あっという間にタップして両者が握手して終わってしまう「だらだらバーリ・トゥード」、「爽やかバーリ・トゥード」が氾濫する昨今、今一度見直されるべきバーリ・トゥードの原点ではないだろうか。

まず最近、何かと批判の対象になることの多いロープエスケープ（以下ＲＥ）。「ロープエスケープが一試合に何度もあるのはおかしい」なんて声が、選手、ファン双方から、『紙プロ』を読んでいてもよく聞こえてくるが、ＲＥは実は、結構危険なんだよなー。だって極めても極めても終わらないんだから。「佐山vs藤原」が、残酷かつ面白凄すぎる試合になったのは、ＲＥのお陰といってもいいであろう。ＲＥ一発で終わる試合の方がよっぽど安全だ。楽だ。てな訳で、実はロープエスケープは、結構恐いモノなんだよ！　と思う。

まあつまり、試合が終わってからノンキに、「バーリ・トゥードはどうだい？」なんてマイクを持っちゃう人がいるバーリ・トゥードに比べれば、昔のＵＷＦの方が、よっぽどなんでもありだったと思う今日この頃。とにかくもっと殺気溢れる試合を見せてほしいものだ。マイクはもういいから。あっ、でも小川は別だけど。小川はマイクを持ってこそ小川、挑発乱入を繰り返してこそ小川、なのである。わかってやれよＧＫ。

（完）

Fly me to the moon...

ライセンスナンバー18

『木戸修真理教』

森下潤一（26歳）

僕の携帯の着メロは「王者の魂」です。鳴る度に大好きだった馬場さんを思い出してしまい、涙声で電話に出ることもしばしばです。

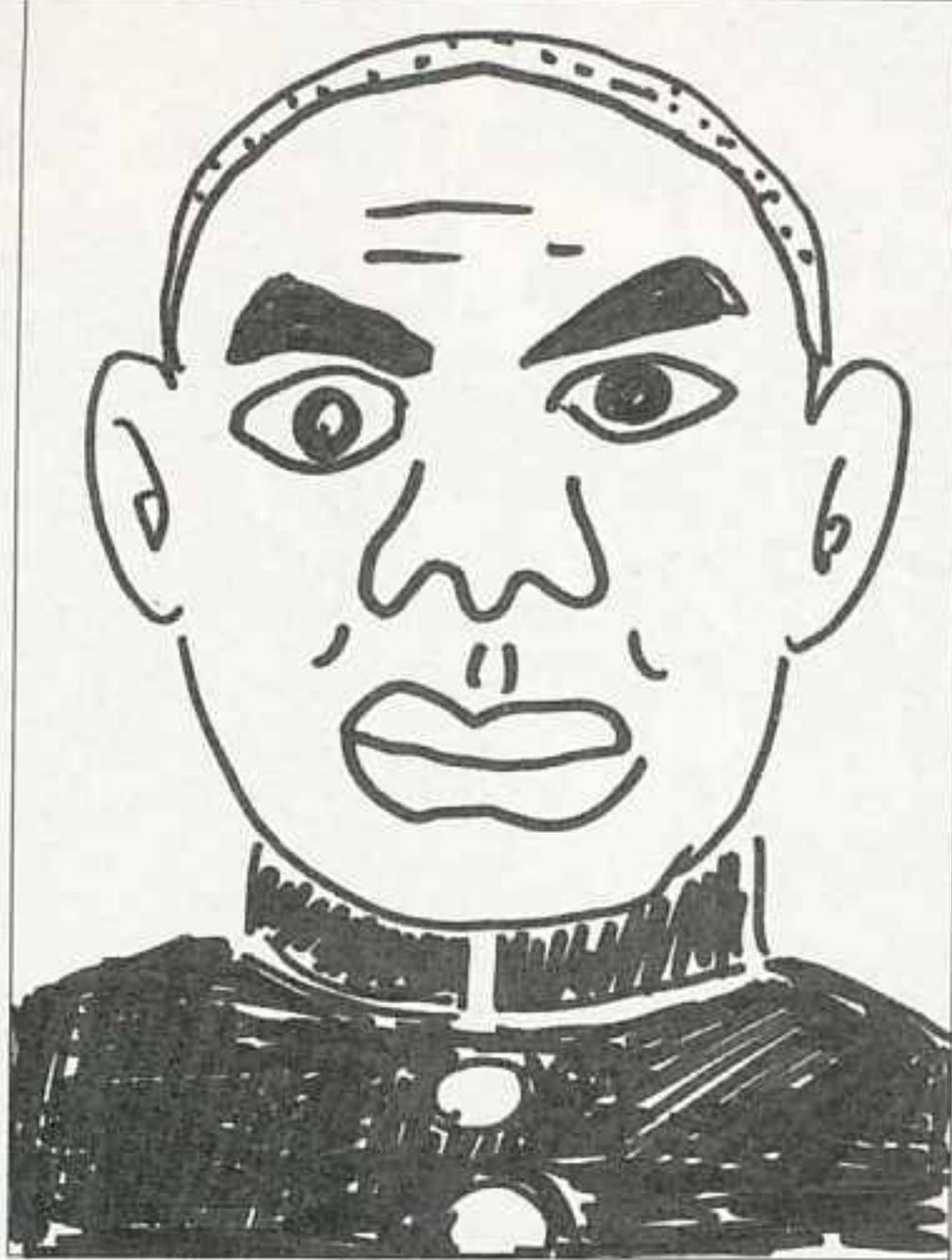
姉の着メロは「パラダイス銀河」です。鳴る度に周囲の失笑を買っています。しかし姉は「光ゲンジへの愛はチャンピオンベルトより重い」と言い、けして着メロを変えようとはしません。

僕や姉に限らず、携帯を持っている人ならば着メロに自分のお気に入りの曲を入れるのは当然です。が、いくらフェイバリットとはいえ、それを着メロにしたら、みんなビックリするじゃないか！ とツッコミたくなるような曲を携帯に入れている友人がいます。

谷君です。なんと彼は「♪ショーコーショーコー」の繰り返しでおなじみ、あのお方のマーチを着メロにしているのです。

え？ 谷君とやらはオウムなのかって？ エエそうです。しかし彼は、オウムの信者であると同時に木戸修さんの信者でもあるのです。

谷君の木戸さんへの情熱は凄まじいものがあり、会場観戦、テレビ観戦を問わず、木戸さんの試合前にはかならず、「木戸ォ！ 頼むぞォ！ ゴッチの息子よォ！」のフレーズを叫びます。

木戸さんが相手に握手を求められ、警戒して、ちゅうちょする場面になると「木戸ォ！ お前の腕は相手をワキ固めで締め上げる為だけにあるんだ！ 拒め！ 拒め！ 拒め！」と吠え、木戸蹴り、後転してのリストロック等の定番技が飛び出す度に「う～む！ いぶし銀！」と大げさに唸り、必殺のワキ固めが決まると、もう言葉はなく、「幸せなら手を叩こう」の歌詞よろしく、バチバチと拍手をしまくります。

そんな谷君とのプロレス談義はとても楽しく、時が経つのも忘れてしまいます。

あ、断っておきますが、僕はオウムではありません。

実は前に一度だけ、谷君に信者の集いに誘われたのですが、「僕にとっての神様は馬場さんだから」と断ると、「お前は神と立ち会うことが出来てよかったな」と納得し、以来一切、僕を勧誘しなくなったのです。

というわけで、僕と彼との関係は同じプロレスという文化を共有する、良き仲間にしか過ぎません。

とはいえ、最近、再びオウムの活動がテレビなどで話題になり、僕も全く関心が無いわけでなく、谷君に「あの問題はどうなってるの？」といろいろ、質問することもあります。

彼はさすがに教団の人間だけあって、マスコミも知らないような情報をこっそりと教えてくれます。

紙面の都合であまり書けないのですが、一つだけ、特ダネを教えてあげます。

巷で噂されている「尊師の奪還計画」ですがあれは全くのデマだそうです。

「バカバカしい。第一、そんなコトしなくったって尊師の釈放なんて時間の問題じゃないか」と谷君が言ってましたから。

警察のみなさんもこれで一つ、不安が解消できましたね。

さて、最後に、谷君の嫌いなレスラーのことも書かせていただきます。それはアルシオンの府川唯未さんです。

谷君は彼女の試合を見る度、「何故コイツは未熟な関節技をやたらと連発するんだ！ ゴッチ道場で修行してこい！」と語気荒げに吠えています。

完璧な関節技しか認めない彼は、もしかして木戸さんとはまた違う意味での「関節技の鬼」なのかもしれません。が、しかし！

「でも府川さんが『ヤッてもいいわよ』って言ったらヤルでしょ」と僕が訊くと、谷君は、それはそれは満面の笑みで「うん！ モッチロ～ン！」と答えます。

府川さん同様、谷君もまだまだ修行が必要だなあと思う今日この頃です。

P・S谷君というのは、あくまでも仮名ですよ。仮名静香。

ライセンスナンバー19

『夜のプロレスラー』

出渕レイザーラモン誠（24歳）

私は大阪ミナミのスナック街で、花屋のアルバイトをしている。スナックや高級クラブに、お祝いの花などを届けるのが主な仕事内容だ。配達にいった店には時々、有名人からのお花も来ている。大物歌手やプロ野球選手、力士が多く、「おっ、こいつ硬派かと思ってたのに遊び人かッ!!」などと心の中で驚いたりして、結構楽しい仕事だ。

もちろん、私はプロレスラーから届いていないか、いつも目を光らせているのだが、これが本当に、滅多にお目にかかれない。

さらにミナミの街をキレイなネエちゃんと歩く力士や芸能人は、たくさん見てきたが、そんなプロレスラーは、さらに滅多にお目にかかれない。

「さみしい」というか、負けた気がする。何かに。

『プロレススーパースター列伝』で育ち、『紙プロRADICAL』を愛読している人達は、

力道山や豊登、芳ノ里などのダラ幹（©アントン）が、夜の街で遊びまわった話。

イイ女をはべらせたり、といったスケベな話。

さらにはヤクザがらみの話。

これらこそが、プロレスラーの偉大さだと信じて譲らない世代だ。

私もそんな世代の人間なので、そういったエピソードにリング上と同じくらいコーフンする。

でも、99年のミナミの街にプロレスラーはいない。おそらくキタにも祇園にもいないだろう。

中洲、ススキノ、ニューヨーク……。

どこにも、いない……ような気がする。

今のプロレスラーは、田舎の高校生のように試合や練習が終われば、ソッコー帰宅か？ ちょっとメシ食って終わりか？ 遊ばないのか？

ちなみに、パンクラスの渡部謙吾は、とあるファッション雑誌の「クラブに来てるオシャレな人を紹介します」コーナーにデカく載っていた。悪い意味でパンクラスの選手だなぁと思った。そういう色の団体だ。ケッ。

しかし、そんな世代を引きつけてやまない人がいた!!

清原和博。

プロレスラーではない。巨人軍の選手だ。

彼はスゴイ。

私は、高級クラブの女の子の誕生日に、これでもかとデカイ花を届けた彼を何度か見たし、女のウワサも絶えないし、フェラーリに乗って自慢するし、最近は暴力団との黒い関係も表沙汰になった。

野球の成績はともかく、その素行はまさにダラ幹!! 下品、豪快、この上なし!!

清原をここまでホメたのは、99年8月現在私だけだろう。彼は自分のこと〝ワイ〟って言うしな。

とにかくッ、プロレスラーには他のプロスポーツ選手に負けて欲しくはないのだ。どの分野でも。

力で勝って、面白さで勝って、酒で勝って、女で勝つ!!

それこそが日プロイズムだったに違いない。

ダラ幹（ちなみにダラけた幹部のこと）でもいいじゃないか!!

イチローよりも清原でいこうぜ、プロレスラーよ!!

と、書いたところで、以前、越中がネェちゃんを連れて、ミナミを徘徊していたことや、とある高級クラブのママの誕生日に、極真の緑健児とともに、新日の西村修から、花が届けられていたのを思い出した。

サムライやショーグンこそ女好きなりッ!!

前号に引き続き、ドキッ！ 男だらけの『PRIDE.0』はどうだったでしょうか？ というわけで、今号参戦の4選手の中から一番良かったと思う作品と簡単な理由を書いて投票してください（応募方法はP183参照）。一番得票数をカキ集めた選手は有無を言わさず次号も参戦してもらいます。『PRIDE.0』では、神をも恐れぬノーフィアーな『紙プロ』読者のみなさんからの投稿をのんびりとお待ちしています。内容は、熱いモノ、ぬるいモノ、さぶいモノなんでも結構！ なお掲載者全員に『紙プロ』特製グッズをお送りします。
参戦希望選手は、400字詰原稿用紙に一言～5枚程度、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真（イラスト、顔面魚拓でも可）を同封の上、

〒151ー0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3ー11ー3ー702
（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部
「みんなも寝汗スゴイでしょ？」係まで。

ただし、ページの都合上、文章を一部変更、割愛することもありますので各自注意！
●締切は10／10です（松澤チョロ記者）

書け書け書け
だっふんだ！

メールでも原稿を受け付けています。メールアドレスはE−Mail kamipro@mail4.alpha−net.ne.jpまで。

おいっ!! 腹から血が出てきたぞ!!『紙プロ』読んでたらオレが死んだら、『紙プロ』の責任だからな!! 慰謝料払え!! 慰謝料!!

モデル／あまりの痛みに悶えるターザン山本さん

紙のプロレス 本誌バックナンバーのお知らせ

本誌編集部は『紙プロ』本誌を読んで、笑い死に、怒り死に、犬死に、心臓発作、涙が止まらない、取材拒否、勃起、バッド・トリップ、その他様々な症状があなたの身体に起こっても一切責任を負いませんので、あしからず。

BACK NUMBER LIST

第5号
特集「たたかいグランプリ」
特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣！ 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド

第8号
特集「さらば新日本プロレス」
ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

第11号
特集「狂気とは何か?」
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記

第12号
■特集「色気とは何か?」
村松友視が前田日明を語る！／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場！／色気王A・猪木も登場

第13号
■特集「道場破りとは何か?」
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場

第14号
■特集「神秘とは何か?」
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る！／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

第15号
■特集「インディペンデントの逆襲」
インディーレスラー10人斬り＋大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

第16号
■特集「新日本凸凹大学校」
『紙プロ』的昭和新日総力検証 マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談

第17号
■特集「実況パワフル北朝鮮」
猪木×永島のナマハゲ対談(© 大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」

第18号
■特集「高田延彦さんへ愛をこめて」
引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場！／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!

第19号
■特集「さようなら紙のプロレス」
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

第20号
■特集「劇的格闘技」
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場

第21号
■特集「幻的格闘技」
古武道を通じてプロレスを考えよう！ 前田日明も登場！ スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場

第22号
■特集「この人が喝っ!!」
巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号

■猪木とは何か?
スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃！ どうってことねえよ!／村松友視、立川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場！ 新間のPKO発言を誌上再録

■パンクラス公式読本 〜矛〜
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

■パンクラス公式読本 〜盾〜
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

■極真とは何か?
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

■紙の前田日明
〜インタビューという名のエネルギー史〜
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

申込み方法

●現在は1号〜4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!!●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号〜22号は780円となります。●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。●送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊〜4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。●10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

【郵便振替】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス

※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。

紙上初!?

敗者「紙プロ」追放試合!

ルーザーリーブRADICALマッチ!

格闘探偵団 **バトラーツ**
千葉県多古町民体育館

みちのくプロレス
福島県福島市国体記念体育館

トイレの大西さん(仮)

VS

ジャイ子

どっちが面白いか決めればええやん!!

[格闘探偵団バトラーツ]
撮影/遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

[みちのくプロレス]
撮影/黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

女性記者(見習い) 2人よる8・8同日興行リポート合戦ボッ発!!

図体ばかりデカイくせにいつまで経っても企画の一つも出てこないジャイ子。度重なる話し合いの結果「いい加減やめさせよう」との判決が下された。その旨を伝えると「む〜、私やめないもん。『紙プロ』に未練があるんですぅ」と半泣き(演歌調)で訴えてきた。そんなジャイ子に「ラストチャンスは与えてやるから!」と説得し、この日は終了。それから数日後、『紙プロ』志望の女子の面接が行われた。彼女の名は、トイレの大西さん(仮)。「趣味は選手に体当たりして匂いを嗅ぐこと」という、ジャイ子とは正反対のベクトルを持つ変わり者であった。ほんなら変人同士の直接対決で、どっちが面白いか決めればええやん! ということで、急遽「敗者『紙プロ』追放マッチ!」が決定! 試合日時は8月8日! この日は、日本全国でなんと14団体ものプロレス興行が行われたのだ。その中から二人には『紙プロ』でもお薦め団体、みちプロ「ふく面ワールドリーグ戦福島大会」&バトラーツ「ヤング・ジェネレーションバトル多古町大会」、各団体のリポートを作成してもらい、『紙プロ』にふさわしい女性編集者はどちらかを読者に判断してもらおうという企画である! 読者のみんな、心して読め! そして投票するのだ!!

バトバト1日担当記者●ジャイ子

★課題❶…『ヤング・ジェネレーション・バトル』を説明せよ!!

ゴルジェネとは何だぁ？

「なぜ若手は参加してないのに『ヤング・ジェネレーション』なのか、それなら石川社長がヤングなのか？」

そんな疑問をお持ちのみなさん、こんにちは、ジャイ子です。今年もバトラーツ恒例のリーグ戦『ヤング・ジェネレーション・バトル』が始まりました。

ところでヤンジェネとはなにか、みんな知ってる？　ジャイ子は知ってるよ!!　言ってみれば、バトラーツが年に一度、最強の男を決める闘いの場。うわ～、カッコいいですねぇ。バトの原点であるバチバチのシングルマッチを惜しみなく提供してくれちゃってます。

そして冒頭の疑問ですが、ジャイ子わかんないので島田レフェリーに聞いてみました。

「『ヤング・ジェネレーション』っていうのは、馬場・猪木の世代に対抗するジェネレーションだから『ヤング・ジェネレーション』なんだよ。馬場さんも猪木さんも引退したけどね、そのあとに藤波さん、長州さんがいた。そこに続く世代ってことで『ヤング・ジェネレーション』なんだよ！　ゴールデンタイムの世代に追い付き追い越せって意味で、若手っていうんじゃないんだよ。ゴールデンタイムに出たときに名前を変えるね。『ゴールデンタイム・ジェネレーション』にね」（島田レフェリー・談）。

非常に説得力のある答え（or力技）を頂戴しました。

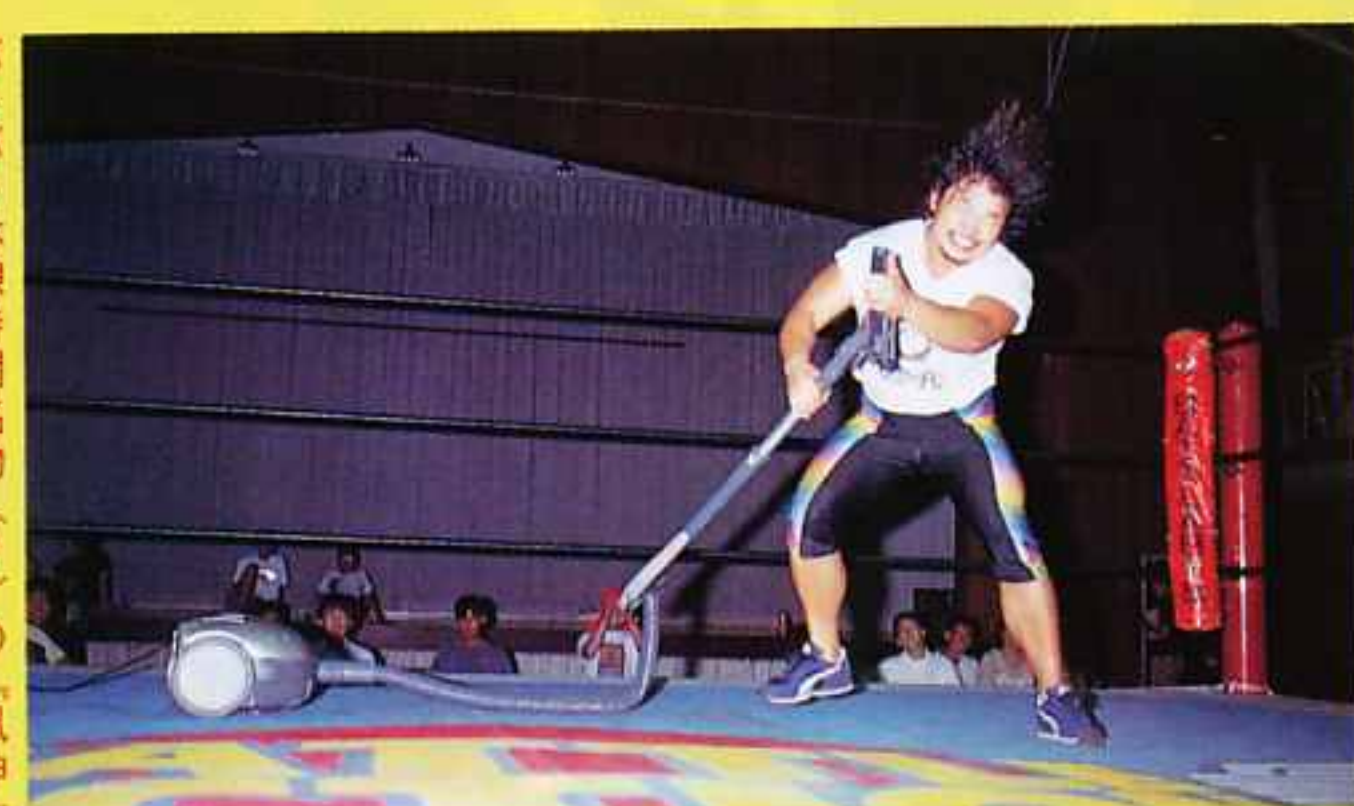
『ヤンジェネ』は95年、バトが生まれる前に始まりました。そもそも、バトラーツは藤原組を卒業した選手が作った団体で、その藤原組が始めた若手のリーグ戦が『ヤンジェネ』。第1回大会が大好評だったため、バトが誕生してからも恒例行事になってるというわけです。

今年は誰が優勝するのか？（発売時には結果出てるんだけどね）『ゴールデンタイム・ジェネレーション・バトル』（そしたら『ゴルジェネ』になるの？　ゴルチェっぽくてオシャレ）になる日のために、バトはド田舎の暑い会場で、熱いファイトを絶賛繰り広げ中です。

98年大会優勝の石川社長、4回目にして初優勝。準優勝のビクターに肩車されて巨大化&御満悦の様子。

97年はアレクが優勝。『紙プロ』からのプレゼンテーターは元・本誌邪道姫&現・アレク妻、のものも姉さん。ジャイ子、のも姉さん大好き♥　このあとアレクは『PRIDE．4』、新日、海外と大躍進。

体育館のすぐ裏は山。選手のみなさんは試合前、日なたぼっこ、ランニングに励んでました。小野選手は飽きた様子。

チーム・タコの垂れ幕がポツリと張られてたこの会場。実は大ちゃん自分で張ってました。それってファンのすることじゃ……。

バトバト休憩時間名物（？）の『風神』の、あまりの吸引力の強さに狼狽する小坪選手。

「多古町」っていったいどこ？　バトのおかげで名前は知ってたけど、見当もつかない。千葉県出身のジャイ母でさえも「聞いたこともない」って。交通手段を調べたところ「最寄駅の成田から車で30分」ということが判明。それは最寄か？　でも、多古町っていうのはバトにとって大事な場所なの。「多古町伝説」って言葉もあるぐらいだし。

バトが多古町で初めて試合をしたのは旗揚げ直後の96年6月。「会場使用料が異常に安い」というだけの理由で興行を行なったというウワサの、田舎のちっちゃい体育館でのメインは石川雄規&アレクサンダー大塚組vs池田大輔&小野武志組。当時「若手」だったアレクと小野はメイン初登場。やけにノリのいいお客さんの歓声も手伝ってか、周囲の心配をよそに、「若手」のふたりはもちろん、全員がバチバチのファイトを披露。バトの歴史に残るベストバウトになりました（見てないけど）。そして池田&小野の「チーム・タコ」が生まれたんです。

とても伝説が生まれるとは思えないようなとこにある多古町民体育館（もちろん冷房設備ナシ）。「客は無事たどり着けるのか？」と、マジで心配になりましたが、ちゃんと来るもんだね。凄いぞ、お客さん！

残念ながら石川雄規、モハメド・ヨネ（このふたりは元気に営業活動）、マッハ純二（どっかケガした）の3選手が欠場。しかし、試合はそんなことを忘れさせてくれる、文字どおり（擬音どおり？）のバチバチファイト。とにかく凄かったのがメインの池田vs小野。「チーム発祥の地・多古町でのチーム・タコ対決、しかもヤンジェネ公式戦」っていうだけでも、なんだかドキドキするんだから、カードに意味を持たせることの大切さを痛感。

試合開始直後、石川社長がいないのをいいことに？　猪木vsアリばりにマットに寝転がり挑発する小野に対し、池田は同じように寝転がって応戦、ニコニコムードで始

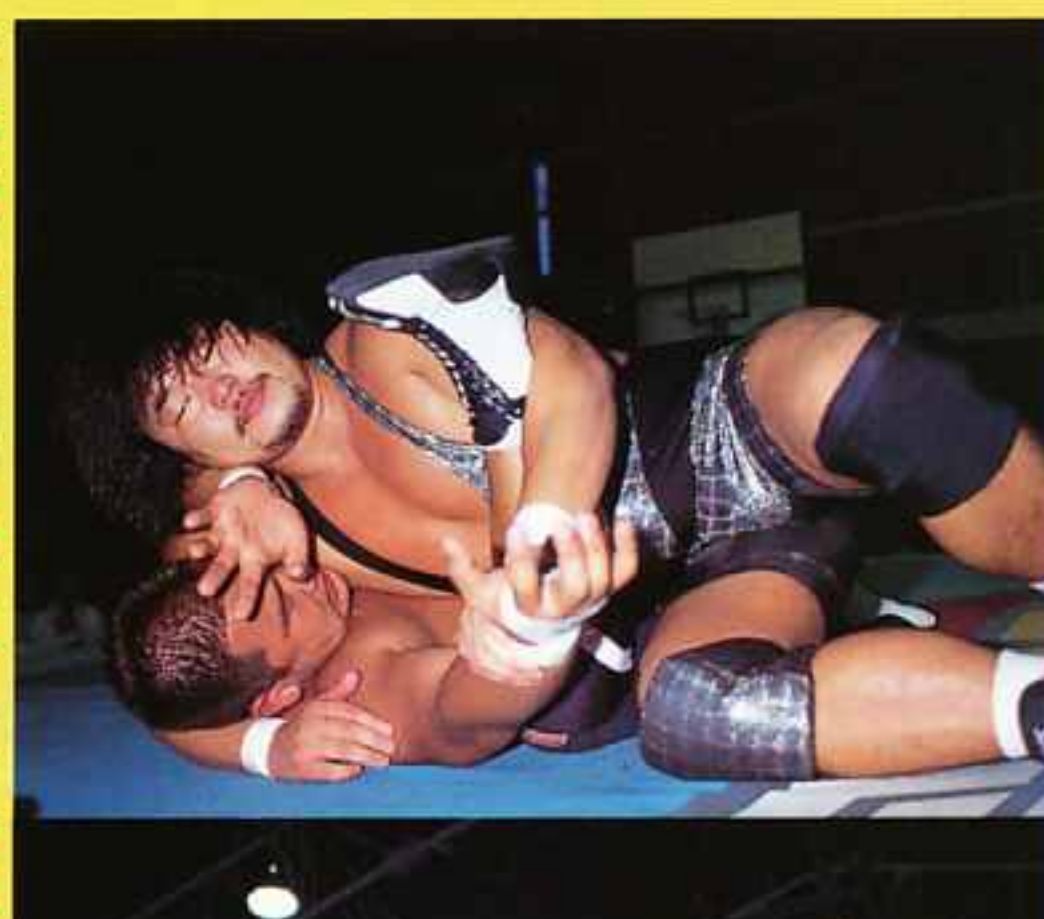
ザ・タコ絡み!!

ハイキック、場外乱闘と、攻められ続ける大ちゃんでしたが、最後にスリーパーで執念の勝利。

8月8日（タコの日）、多古町のチーム・タコ対決でのタコ絡み。四拍子揃ったタコづくしに、お客さん、骨抜き。本誌・元ダミー編集長、原タコヤキ君もビックリ!?

★課題 ②……自分なりの観戦記を書いてみやがれ!!

8・8 多古町民体育館大会観戦記

第一試合の小坪vs土方。このふたり、なんか似てるような気がするんだけど、どう？ 試合は小坪の貫禄勝ち。張り手バシバシやってました。

第二試合の臼田vs日高。臼田の一本足頭突きが炸裂する瞬間。酒飲みと一本足頭突きは切っても切り離せない関係だね、グフフ。

第三試合のカールvsランディ。会場人気バツグンだったカール、『PRIDE』効果か？ 日本デビュー間もないランディは首極められてんのにカールを持ち上げてた。ヨッ！ 力持ち！

セミのアレクvs田中はヤンジェネ公式戦。ダイビング・セントーンはこの日も失敗したものの、新技「アレハンドロックIII」で勝利。

まったと思いきや、一変して小野が攻めまくり。爪先でガンガン頭蹴るわ、顔面蹴るわ、場外に投げ飛ばすわ、しまいにはエプロンにいる池田にアッパーを喰らわせ、場外へブッ飛ばす始末。だてに「ケンカ番長」じゃないね。しかし何度ダウンしても立ち上がる池田も怖い。しかも反撃して勝ってるし。ビックリするじゃん。そして試合後（10分ぐらいしか経ってないのに）、バトだけあってか、当然のように撤収しながら「試合、面白かったよ（ニコニコ）」だって。あんなにやられてたのに、なに言ってんの？

田舎町のオンボロ体育館の伝説はウソじゃなかった！ こんな試合見せられたら暑くても遠くても来るよ、みんな。多古町の町長さんにも「銅像建てろ」とまでは言わないので、一度見に来てもらいたいもんです。いや、コレホント。

★課題③…本誌独占コメントを取ってこい!!

池田大輔 教えて大ちゃん♥

次の課題は他の記者が聞いてない、独自のコメントを取ってくること。ジャイ子はスクープとっちゃうもんね。ジャイ子が選んだのは、この日のベストバウト、チーム・タコ対決の勝者であり、今回のヤンジェネ公式戦後、ほとんどノーコメントを通し、この日も他の記者の前ではひとことしか発言しなかった池田大輔選手。ジャイ子、突撃ぃ〜!! ジャイジャイ。

——池田さぁ〜ん、さっきの試合、スッゴい面白かったんですけど、池田さんはどうでした？

池田 面白かったよ。

——え〜っ？ 池田さん、ずっと攻撃されてたじゃないですかぁ。そういう中で面白がる余裕ってあるんですか？

池田 好きなことやってて、好きなもの同志がやってるから面白いんだよ。楽しいの。アメフトとかもそうでしょ。怪我したって楽しいからやるんだよ。当たり前のこと聞くな！

——違いますよぉ！

池田 なんだよ！

——そういうのは試合終わって初めて「面白かった」と思うんですよ！

池田 やってるときも面白いんだよ！ オマエが勝手に「大変そうだな」と思ってんだよ！

——違いますね！ 私だってバスケやってたもん（ムキになって逆ギレ）！ やってるときはわかんなくなって、面白いとは思わないんですよ！

池田 頭飛んでるんだもん。苦しいとか思わないよ。

——嘘だぁ。痛みはあるもん！

池田 痛みはあとからなんだよ！

——ボーッとなっていながらも楽しいんですか？

池田 それは好きな相手とやってるから。嫌いな相手とやっても面白くない。

——私生活で嫌いな相手？ それとも手が合わない相手？

池田 私生活で嫌いな相手。

——エッ、そうなんですか？

池田 オレは、人の好き嫌いはハッキリ出るよぉ（微笑）。

——嫌いな相手と試合が組まれるとやりたくない？

池田 うん、手が合わない人もね。

——え〜っ？ ジャイ子だったら、嫌いな人と当たったら、「ヤッター!!」と思ってスッゴいイヤ〜な攻撃とか大喜びでしちゃいますよぉ（ニヤニヤ）。

池田 逆に「触るのもヤダ」って思うっていうのもあるでしょ。

——あ、そうかぁ（簡単に納得）。

池田 プロレスの試合としてノリノリにならないと思うし。好きなヤツだから思いっきり殴って蹴ってってできる。

——小野選手は好きな選手でもあり、手が合う相手でもあると。リーグ戦で一番当たるのが楽しみな選手って誰ですか？

池田 ヨネだよ。なんか、うまく引き出してんねぇ。オレ、ジャイ子パワーに負けてんの？

——え？ グフフ♥

池田 決勝でもヨネと当たって、オレが優勝する！

——は〜い、頑張ってくださ〜い。

★課題⑤……スペースやるから勝手にしやがれ!!

アレクサンダー大塚 インタビュー？

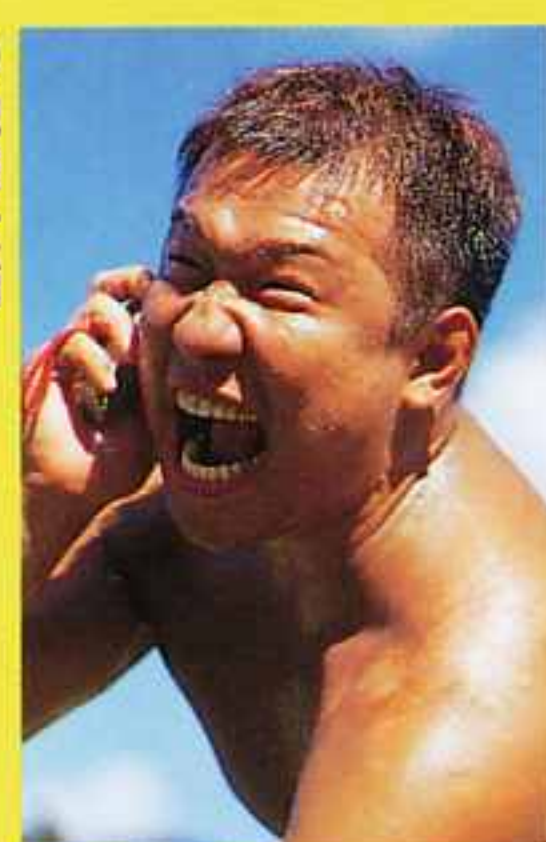
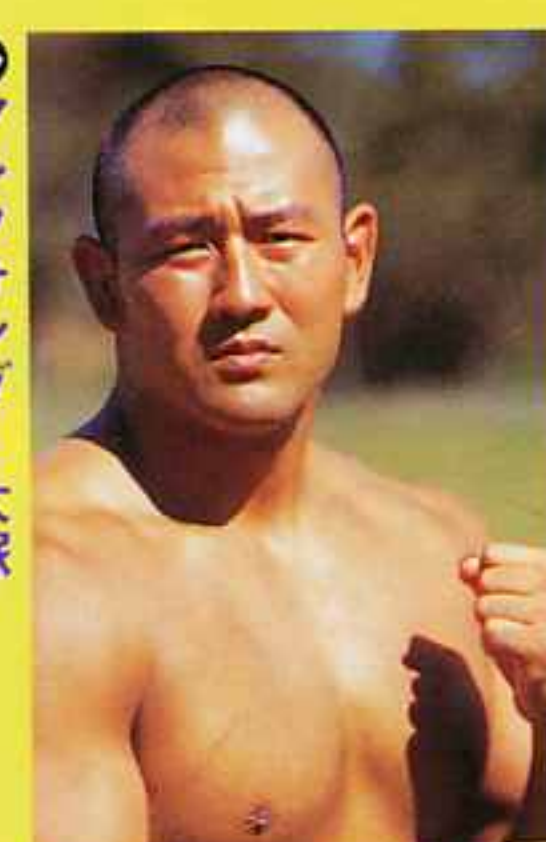
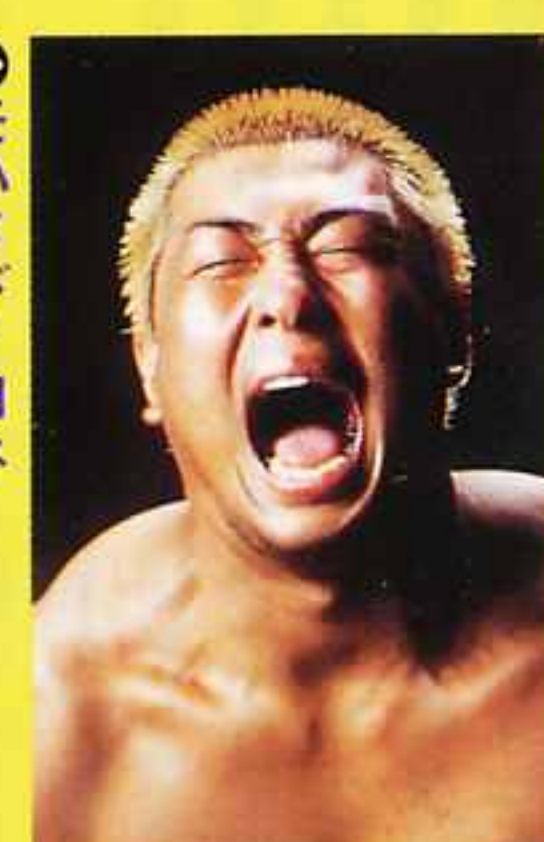
最近、ジャイ子の耳にいろんな人から「アレクはジャイ子のこと嫌ってるよ」という情報が入ってきてました。ガセ情報と願いつつも、この日一番怖かったことは、アレクさんと話をすること。「絶対ジャイ子のダメっぷりを指摘される、もしくは喋ってもらえない」という確固たる自信があったからね（どんな自信だ？）。でも勝負がかかってるんだから逃げるわけにはいかない！ ジャイ子、話してもらえるのかなぁ？

●

ションボリモードの前フリだけ残してみましたが、なんとこのインタビューをした直後、『PRIDE7』にてアレクvs高田戦が正式決定し

★課題④……大会参加選手を紹介してみろ!!

ヤンジェネ参加選手

➡石川雄規
「越谷のバカ社長」と言えばこの人。数々の名言を残しているが、中でも藤原紀香と佐藤ルミナの仲が写真誌に報じられた直後の「ルミナが紀香なら、俺はジャイ子だ！」という発言は狂いっぷりが尋常じゃないことの証明にもなるだろう。

➡池田大輔
ヤンジェネ第1回、第2回で連続優勝をはたしたバトバトファンクラブ会報編集長。チーム・タコのTシャツのデザインもこなすファッションリーダー。この写真撮影でも唯一小道具を使ったこだわり派。

➡アレクサンダー大塚
2ヶ月にわたる海外遠征から不本意ながらも帰りたてホヤホヤ。現在、会社への不満を吠えつつも、リーグ戦では8月14日現在んむはぁ〜、もとい、無敗。このまま飄々と決勝へ駒を進めるのか？

➡モハメド・ヨネ
最近のキーワードは「バカーッ!!」。リーグ戦初戦では社長・石川雄規をKOで下し、口だけではないことを証明した。「優勝しなかったらアフロになる」という発言からも、ヤンジェネ制覇への熱意はハンパじゃないことが伺える。

★課題⑥……使える写真を撮ってこい!!

ベストショット3

目指せ！ HIROMIX

ジャイ子もチョロメ〜ンを見習って姑息な手を使います！ ジャイ子に1票入れてくれた人にプレゼントをしちゃいま〜す。ジャイ子に1票入れてくれた人以外は当たりませ〜ん。ジャイ子に1票入れてくれた人だけが当たるんだよ、わかったぁ？

たため、本誌山口日昇編集長（特技・天龍のモノマネ）が緊急インタビューを敢行。内容がかなりカブってる（山口は「オマエのインタビューなんかとカブるか！　このキ●ガイ！」って言ってるけどね）ため、やむなくジャイ子のインタビューは抹殺。む～、ジャイ子どこまでついてないのぉ？

　インタビューは抹殺されちゃったけど、とっておきの恥ずかしいネタができてしまいましたぁ。実はジャイ子、インタビュー中に号泣するという、ミジンコ以下のことをしてしまったんです。あ～あ。書いてるいまも顔から火が出てきたよ。ア～チ～チッ、ア～チ～!!（ジャイ子、郷ひろみ調にしてみましたぁ）。

　なぜ泣いたか？　冒頭で書いたように、ジャイ子、アレクさんとお話しする前から、かなりビビってました。ビビるあまり、挨拶さえもキチンとできず、すれ違うたびに「ヘラヘラしてる場合じゃないでしょ」「コッ～！」「前号のインタビューは全然ダメ」「やれんのか、コラ！」「んむはぁ～」とのお声を（一部捏造アリ）かけていただき、さらにブルーになってたわけです。「やっぱ、ほかの人にインタビューしよっかなぁ？」と思いつつも、実は負けず嫌いなジャイ子はアレクさんにお話しを聞かせてもらうことにしました。

　この時点でかなりテンパってたんで、会話はボロボロ、ツッコミを入れなかったジャイ子に対してアレクさんは「そこでツッコまないっていうことは、話を聞いてないのと一緒」とズバリ一言。言葉に詰まり、さらにダークさ全開になってしまったジャイ子にアレクさんはこんなふうに言ってくれました。そのへんの会話だけ再現します。

●

ジャイ　いま、アレクさんは外に目が向いてますけど、本心ではバトラーツに大きくなって欲しいっていうのはあると思うんですよ。

アレク　う～ん、ないねぇ、自分がよければいい。

ジャイ　え、バトラーツはどうでもいいんですか？

アレク　それはあとからついてくるものだから。いまのアレクサンダー大塚がよければバトラーツがよくなるってなればいい。アレクサンダー大塚がいるバトラーツと思われれば。ジャイ子のいる『紙のプロレス』と思えるようなね、それと一緒。

ジャイ　（感激して半ベソ）はい、頑張ります。

アレク　『紙プロ』にジャイ子がいるんじゃなくて、ジャイ子がいる『紙プロ』っていうふうに、そういう強い意志を持って頑張らないとね、何事も……。

ジャイ　（感極まって号泣）む～。（動揺してテープを止める）。

アレク　だめだよ、テープ止めちゃ。誰だってそうだよ。自分が一番と思わないと生きていく意味がないし。ボクがプロレス辞めて、別の生きかたしたとしても、一緒。とにかく基本は自分が一番。

ジャイ　（泣きながら）頑張ります。ありがとうございました。

●

　アレクさんはジャイ子のダメなところを的確に指摘してくれました。ジャイ子は嬉しくて（ちょっと怖かったけど）泣いてしまいました。む～、やっぱり恥ずかしい！　でも、最後かもしれないので、ここでお礼を言わせていただきます。アレクさん、ジャイ子ホントに嬉しかったんです。ありがとうございました。

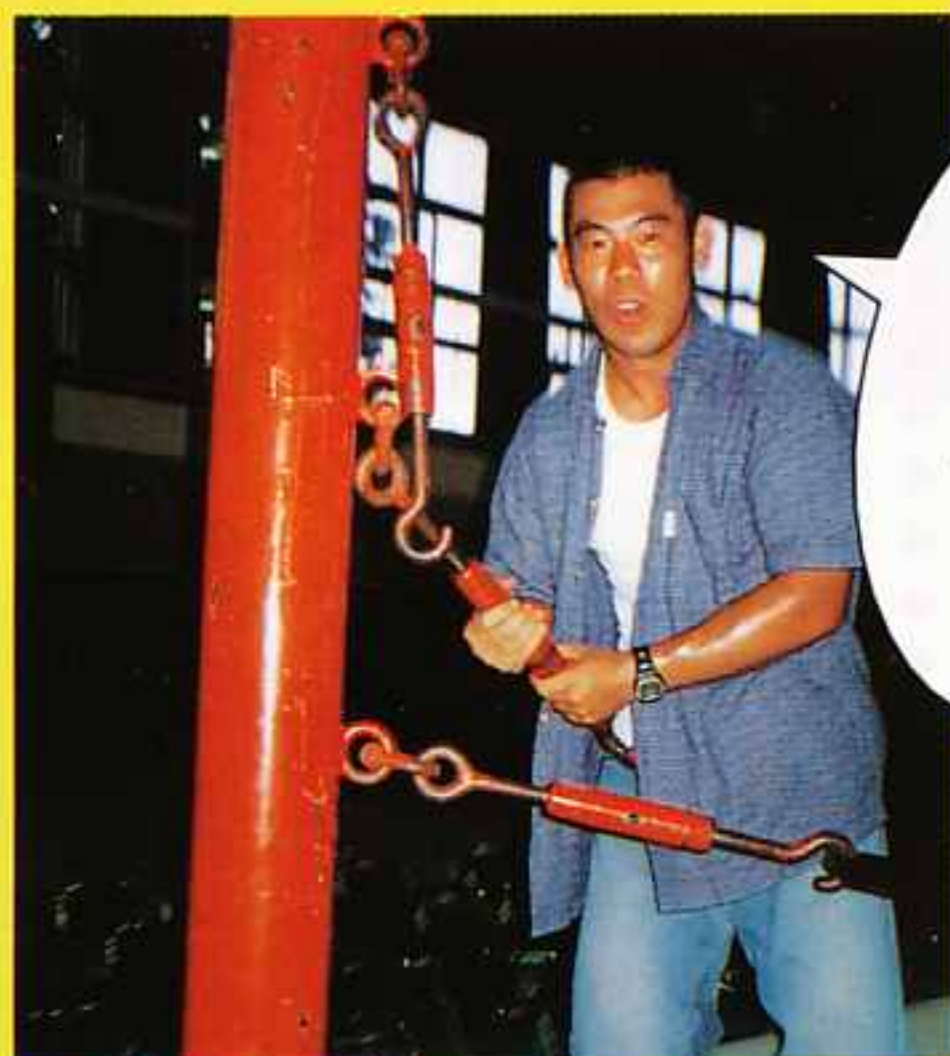
●

　と、しおらしく終わらせたいんだけど、会社に帰って「アレクに励まされた」と感激してたジャイ子を不審に思った人物がアレクさん本人に確認したところ「励ましたつもりはない」とのこと。アレェ～、ジャイ子勘違いしてたのぉ？　む～、ションボリ。『紙プロ』編集部、全員大爆笑。誰かフォローしろよ!!　もうやだ！　こんな会社、辞めてやる！

♥アレクインタビュー（ジャイ子のパクリ）を読みたいかたは29ページをどうぞ。

♥本日のベストカップル賞♥

バトバト新作Tシャツプレゼント

↑パンチ田原率いるリングスタッフの名物男・山口君とラブラブ2ショット。イェ～イ！　そして、ジャイ子が着てる「ILOVE M.Y（アイラブ・モハメド・ヨネ）」Tシャツを1名様、山口君が持ってるバトTシャツを2名様にプレゼント。しかし、なんでこんなに右寄りなんだ？　（撮影・島田レフェリー）あ、これって自分で撮らなきゃいけないんだった。うっかりしてたよ。

ジャイ子に一票!!
これホント

→全試合終了後、6月9日のミスター空中興行で衝撃のマット界復帰を果たした芳賀元太を発見！　メインの途中で会場入りしたらしい。「偶然通りかかったんで、寄ったんです～」（元太・談）。当然のように撤収作業をこなしていた。なぜ多古町に偶然？

つぼプロモーションチケットプレゼント

→ニヒルな男を気取ったんでしょうか？　よくわかんないけど本人はとても満足気でした。小坪選手からもプレゼント！　9月19日（日）13：00～　つぼプロモーションのアクロス福岡大会『真実一路　博多純情編』のチケットを5組10名様に。バトからは石川雄規、田中稔選手が参戦で～す。なお、つぼプロでは、団体（ひとりだけど）のロゴマークを募集中。アナタのデザインがTシャツや、その他のグッズになっちゃいます（「予算があったらね」小坪・談）。応募は『紙プロ』まで。チケットの締切のみ9月13日必着になりま～す。

→**田中稔**
今年は新日本のジュニアリーグで大活躍、全国各地でギャルファンさらに急増中とのウワサ。B'zを愛するがゆえに、武輝道場の望月選手とのタッグチームをB'sと名付けたこともある。さしずめB'zマスターって感じ？

→**小野武志**
眉ピアスがステキなトンパチ・マシンガンズ・キャプテン（耳のピアスホールは炎症中）。多古町にチーム・タコの銅像を建てるという大きな野望を持ちつつ、夜な夜なナイトクラビングにいそしむケンカ番長。

→**カール・マレンコ**
今年の6月9日より改名。7月4日、横浜アリーナで行なわれた「PRIDE．6」ではイーゲン井上と対戦して勝利を収め、評価される一方、「アイツ何年たっても日本語覚えないんだよ～（某バト関係者・談）」との嘆きも。

→**臼田勝美**
犬猿の仲と思われた大日本プロレスの山川と「酔いどれピストルズ」を結成。酒を飲みながら観戦してると思えば試合直後のトンパチマシンガンズにいきなり冷水を浴びせるなど、酔っ払いならではの暴挙に出たことも。

みちのく1日担当記者●**トイレの大西さん**(仮)

記念すべき第1回ふく面ワールドリーグ表彰式。佐山聡や春一番も登場し豪華。デルフィンの姿が懐かしい。

★課題1……『ふく面ワールドリーグ』を説明せよ!!

ふく面ワールドリーグ伝説への道

マスクマンは、マスクが命。その命とプライドを懸けた戦いこそ『ふく面ワールドリーグ』である。

第1回ふく面ワールドリーグ最下位決定戦。敗者は覆面を剥がされるルールとなっており、当時若干18歳であった愚乱・浪花とアメリカ代表のゴルゴダ・クロスで行われた。

試合中浪花は、マスクを破られイス攻撃で流血。お互いマスクが懸かった試合とあって、肉体的にも精神的にも限界まで戦ったのであった。勝った浪花は『マスクに懸ける紙一重の差だと思いました』という言葉を残した。それから4年、1999年。第2回ふく面ワールドリーグが開催された。

今回もみちのくプロレスらしい、世界各国オモロマスクマン大集合! 東北をあげての大イベント。そして、優勝しないと真樹先生からマスク剥奪命令を下されたタイガーマスク。『5代目タイガーマスク』宣言をしたザ・グレートサスケ。屈辱をはらせるのか浪花。始まる前から大波乱であった。まさに、本末転倒、神のみぞ知る! である。

しかし、一体何処からこんな変テコ怪しいマスクマン達を探してくるのかは東北の社長の脳みそとともに、理解不可能なのだ。

当時、サスケに勝利するも最下位決定戦をしいられた浪花。試合途中でマスクを破られたが大苦戦の上、覆面を守った。

ドス・カラスに踏みつけられたサスケ(真下)は、この試合で、本当に脳みそ破壊への道をたどった。広島で、ジム経営中の半蔵(左)のみちプロマット復活は、秋頃か?

バカッ飛び! ダッコCHAN。

まさに、マッハのスピードで、飛ぶ! 飛ぶ! 飛ぶ! 大連発のダッコ。その足バネは、見たことも無い伸縮力……。

こんなマイクではなく決勝で勝負しましょう。
俺は、赤パンなんだよぉ~。

あの日、目頭の熱さあまり曇りガラスに、『カニ』と指でなぞった最下位決定戦、覆面剥ぎマッチ。本日、浪花・タイガーを呼びつけそして『口で勝負するのもプロレスのうちだからな』と言い放った東北の社長。振り返れば4年前、『2000年まで後わずかだから、みんなー黙って俺についてこぉーい!』とファンに宣告した第1回ふく面ワールドリーグであった。

さすが! 『土地余ってるのねー』と思われる桃園と畑の中に、大混雑の会場が。やっぱり、みちプロ老若男女問わずの人気。しかし、みんなお揃いの『SCS』なる胸プリントT-シャツ。こ・これは? と思い四方旋回、メインアリーナだ。『青少年のための科学の祭典(略してSCS)』なるほど。

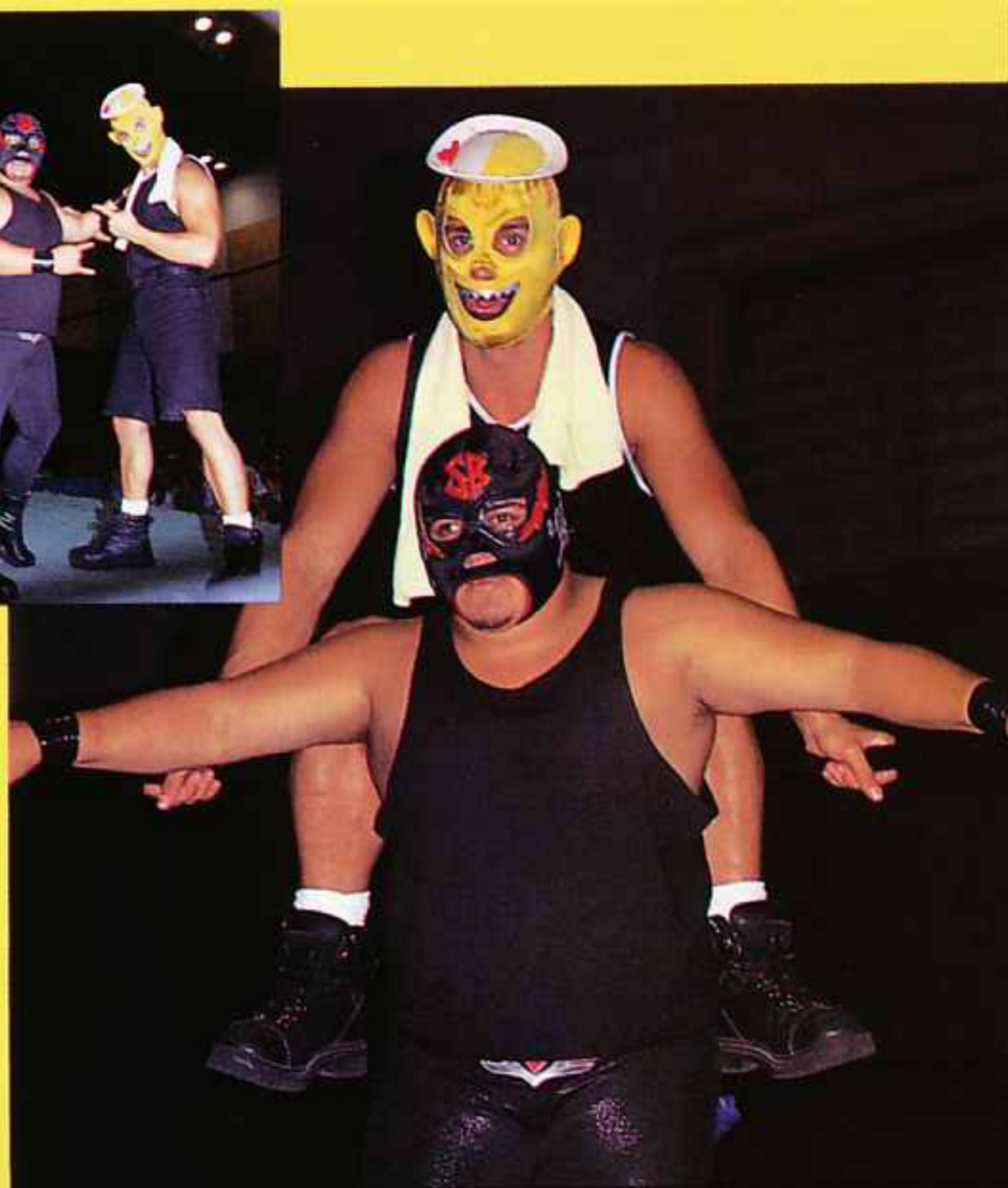
サブ・アリーナには、ガリガリ君むしゃ食いのサスケマスクキッズが大暴れ。盆踊り気分満載の中でオモロ覆面戦士達を汗ダラダラで待ちわびている。

これなのだ。何処のTSUTAYAに行ってもサスケ一家フェスティバル。みちのく観戦ファミリーもサスケ一家の世紀末状態。

目指せ! チビッコヒーロー、その名もワタル君(5歳)は、サスケスペシャル連呼。

① なんだかとっても寂しげリングイン。

口で勝負するのもプロレスのウチなんだよ!

とっても仲良しスーパーボーイ&カレーマン。リング上だけではなく、普段も仲良し2人組。

TAKA&浜田&人生のノー覆面3人は、みちのくでは、要必要。特に、グラン浜田の元気ブリには、世の中の父ちゃん達は見習うべし。

★課題②……自分なりの観戦記を書いてみやがれ!!

8・8 福島市国体記念体育館大会観戦記

② ジュース片手にオーバーマスクを小脇に抱え、全試合を片隅で哀愁漂わせながら観戦。そんな姿のホワイトベアーを見ても、その勢いは失われないのだ。

着々と進んでいるのですよ。みちのく50ヶ年計画は。

WWF入りのサインをしてくれる腕白小僧TAKA(いくらワル出しても憎めない奴)も、打てば響くの大熱戦。クレイジーMAXが闘龍門自主興行の為、不参加で残念無念ではあるが、クレイジーSEXことみちのく3兄弟の成長ブリもサスケの手の内ではなかろうかと、恐ろしきかなアダルトサスケ劇場を深読みしてしまう程なのだ。

『幻想とは違う現実のヒーロー』

人間らしきギャップの差が、格別に吟味できるみちのくプロレス。いわゆる観客もみちのくプロレスという、1つの国の住人になってしまっている。それが『みちのくマジック』であり、一度味わうと、二度、三度と舌包みをうちたくなり、みちのくプロジャンキーになってしまう。

『君達が1人でもいる限り、みちのくプロレスは永遠に不滅です!』

そうなのだよ。私達がいる限り、みちのくプロレスは不滅なのだ。

もっと集まれ、世紀末みちのくジャンキー諸君!

小銭を貯めたらベコ買う前に、みちのくプロレス見にこいよ。そして、みんなで火星へ連れて行ってもらおうではないか。

『心はみちのくにあり』を合言葉に『いい夢見ようぜ!』みちのく一家で。

確実に存在するサスケー家増殖の予感。チビッコ達よ! その心意気で、盛岡に銅像を建てるんだ!

紙プロ的月刊? 速報

覆面トロフィー(2千万円)どこに飾るの?
8・22■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ(最終戦)

第2回ふく面ワールドリーグ
優勝者は四代目タイガーマスクだ!

サスケもドス・ガラスも破った。そしてマッキーからマスクも守った。
これでTUTAYAのギャラは君のモノだ!!

★課題③……本誌独占コメントを取ってこい!!

ザ・グレートサスケ

メイン終わりで、直撃を試みるべく猛烈ダッシュ。そこは、ドーナツ状の人の群。『ここで、断念するわけには、いかない！』と人だかりを跳ね退け、驚異の汗を吹き出すサスケ社長を掴まえることに成功！

――初めまして。やっとたどりつけました。よろしくお願いします。

サスケ どもども。何でも答えるよぉ～（サスケスマイルでニンマリ）。

――優勝したら5代目タイガーになるというのは、本当なんですか？

サスケ なりますよぉ！ もちろんですよぉ!! 今日もオーバーマスク被ったでしょ～。今んとこ半々だけど優勝したらタイガーになるよ。これは間違いない！

――サスケは、どうするんですか！

サスケ そりゃ～もう、タイガーにやってもらいましょう。

――それでOKなんですか？

サスケ ノー問題、ノー問題！ OKでしょダイジョーブ。お客さんにも気づかない人いるかもしんないからいいでしょ（笑）。それでハッピーエンドよ！ すべて。

――2000年へ向けてみちのくプロレス的には問題無いと。

サスケ 2000年問題もうちの場合は、タイガーとサスケの入れ替わりで問題無いよ。

――じゃあ、1999年には何が起こるんですか。私だけに特別に教えて下さい！

サスケ（唐突に）火星に行きます！ これを言ったのはあなたが初めてですからねぇ～！

――ど、独占スクープですね。ありがとう社長。それにしても今度は、か、火星ですか！

サスケ 私がサスケロケットを用意します。乗りますかーッ！

――乗るに決まってるじゃないですか！ もちろんですよ!!

サスケ よ～し、わかった！ ホントに打ち上げちゃうよ。ただし、誰でも乗れるわけじゃないよ。みちプロを50回以上観ないと乗れないからね。特典、特典、大特典ですよ！

そして、今回の対決事情を報告すると、『おもしろいねぇ～』と、次の予定（ファンとお食事会）の時間が押し迫っている中、ノリノリ気分も絶好調で、私への演技指導（厳しめ）と悪の呪文が始まったのであった。

『サスケファンと言っているけどタイガーファンでは無いでしょうねぇ～』

『某団体のファンでは無いでしょうねぇ～』

『嘘つきはいかんですよぉ～』

『嘘を言ったら叩き切るぞぉ～』

全くもって東北の社長は、脱帽の上、崇拝のモノマネ大好き！ 謎のマスクマンである。

夢見る30歳おめでとう

猪木さんと勝新が混ざったなぁ～

マジ顔で、演技指導するサスケ社長に一喜一憂するも、やっぱり、おいしいところは、持っていかれっぱなし。あまりの役者魂に、エキス吸い取られ腰砕けました。

★課題④……大会参加選手を紹介してみろ!!

覆面ワールドリーグ参加選手コレクション

日本代表

➡**ザ・グレート・サスケ**

優勝して、5代目タイガーマスクになる&オジサン宣言をした。アフター5は、Tシャツをズボンに入れる、パリッと紳士であるがゆえに、腹の奥底詮索不可能。【忠告】ニューコスチュームに汗吸収機能をつけてください。

日本代表

➡**愚乱・浪速**

心機一転、心も体もリニューアル？ イメージチェンジの基本でしょ。パーマ&ブロンドに！ マイクアピールの声の高さは、要チェック。今回は、優勝でしょ。と思いきや、骨折全治6ヶ月ついてないよぉ～。【忠告】入院中の近況報告は、マメにお忘れナク。

メキシコ代表

★第1回ふく面ワールドリーグ優勝者

➡**ドス・カラス**

奇妙なかけ声がお気に入りのご様子で、サインに『アミーゴ書いてよ。』と頼むと親切に長ったらしいスペイン語を書いてくれるやさしさと強さを兼ね備えている。

★課題⑤……スペースやるから勝手にしやがれ!!

大阪南港よりキモ現る！

どう考えても、絶対不利だ。ジャイ子は、紙プロ読者にはお馴染みだし、バト戦士達ともお知り合いのハズ。と思った私は、みちのく仲間&最高のジャイ子嫌い&抱かれたい男NO・1は、吉田豪！ と言い張る最大の助っ人を登場させることに勝手に決め、『運転手必要ですよねぇ～』（みちのくへは、車旅であった）と免許取り立て、2日目の実の妹『大西キモ』（山口日昇会長命名&大絶賛！）を大阪から呼びつけることに成功。俺達、みちのく7年愛兄弟（みちのくプロレスも、かれこれ7年目）。これでなんとか、勝ち逃げ狙いキメ込めるデショ。しかし、このブサイクキモは鼻歌混じりで調子コキ、ドラテク自慢を披露するも1回殺す気か！ と激怒させる運動神経のナサに呆れることもしばしアリ。

巨人だのデカ女だのと呼ばれているジャイ子を初めて間近で見た印象は、あれ？ 小動物的愛らしさ。という感じ。だがしかし、キモが『大っ嫌い！』と言ってる以上、キモの心の叫びは、兄弟の叫び。そして、みちのくプロレス&頭やられてるサスケ社長への『愛のプ

★課題⑥……使える写真を撮ってこい!!

ベストショット3部作

スライディング&タックルを武器に、石川さん（いつも、みちのく戦士達を果てしなく追っかけまくるカメラマンさん）に負けては、イカン！ と前へ、前へ出て戦ってみた内の3点（おまけアリ）。

マスク頭上のカレーライスに、福神漬がナイ！ これは、何処かで、お忘れかも。と、『なんでないの?』と身ぶり手振りで聞いてみても、ウエストポーチに、ブラ～ンとぶら下がったご自慢のサングラスと『カレーマンキーホルダー』を見せ大ハシャギのカレーマン。

トイレの大西さんの **賞品が当たる！**
詳しくは、スタッフまで（TSUTAYA風）。

みちのくグッズあげちゃいます。（女子プロ戦士のポラもどうぞ）

参戦・女子プロ選手に聞く
『ふく面ワールドリーグ優勝大予想！』

浪花くん優勝してね!!

チャパリータASARI
クレイジーＳＥＸ（バックプリントには、首投げの文字）Ｔシャツ着用で、かなりお悩みの末、浪花君とのお答え。

神楽 大好きカレーマン

矢樹広弓
地元とあって矢樹ちゃん人気は大爆発。『カレーマンさん頑張ってぇ～』という黄色い声援アリ。

なんと！ キモは、陶芸家であった！

'98 2 6

サスケがいっぱい（キモ先生作品）
自称『覆面芸術家』のキモは、今回、自作の『せとものサスケ人形（274体アリ）』をドーン！　と8月8日にかけて、88名様にプレゼントします！（分かり辛いですが、よく見てネ！）

ダッコCHANもお気に入り！3点セット
①サスケ社長サイン入りうちわ。②ダッコCHANサイン入りパンフ。③実は、TAKAのFUCK YOU！WWFサイン入り。（モデルは、ダッコCHAN、プライベートマスク着用）

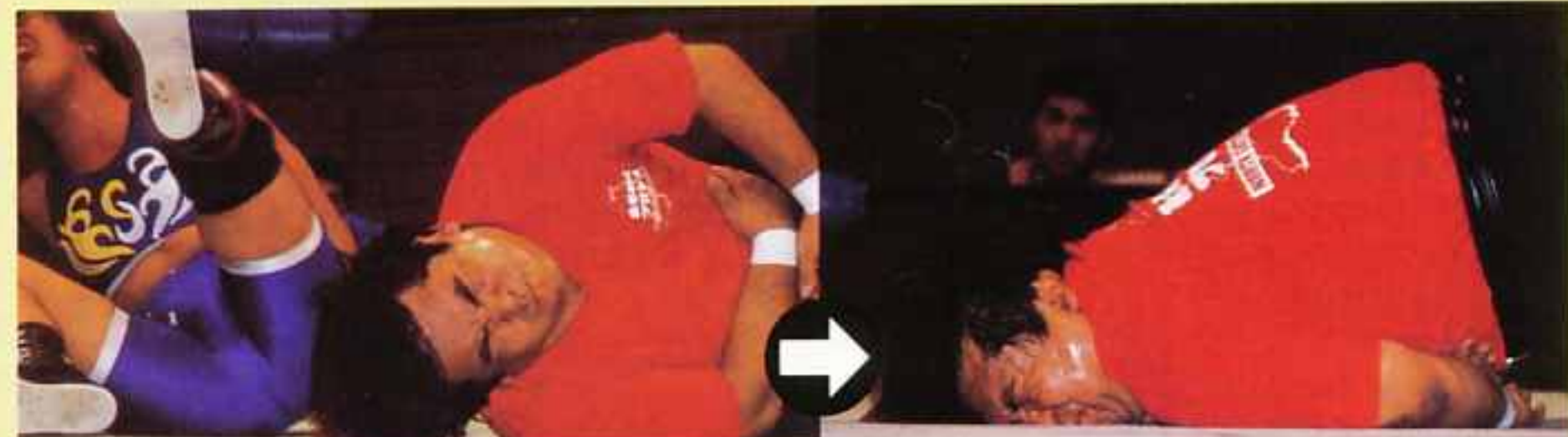
求ム！
当方、みちのく担当。一票入れてくれるきとくな方。特典アリ□。

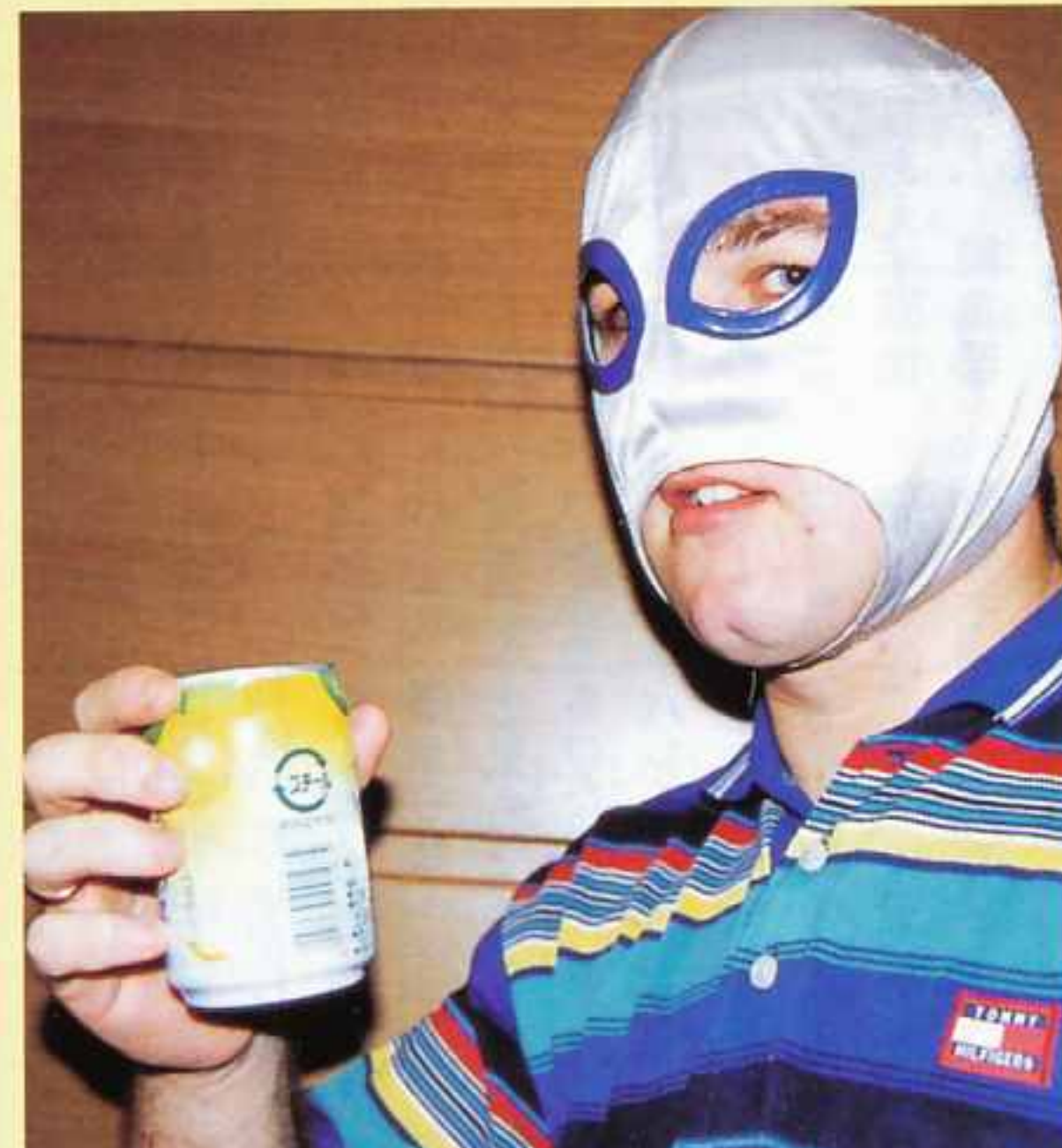
これが、大西キモ（22）だ！

スーパー＆カレー（チョーク決められ気味）に挟まれこの顔を見せるこの女が、『ジャイ子に、キモだめし挑まなアカン』と画策中。

こちらが、本物のキモさん（31）

サスケ社長バリに心の覆面戦士気取るのも飽きてきたし、チーム・ジャイ子の襲撃も恐いので勝って逃げます。だからお頼み申す！　みちのくチームに、1票入れてね。

ライド』で負けるわけには、行かないのです。だからって、ジャイ子ファンの皆様。私は、ジャイ子を追放しようなどという気は無いです（おそらく）。毎日

セクハラ疑惑発覚！（私への）

『テッド痩せたねー』の声援も虚しく女子プロ選手４人がかりて、奇襲を受けたテッドさん。この衝撃フェイスにカメラを持つ手が、震えました。

試合後のひとときをお気に入りの柑橘系ジュースをグビ飲みして、過ごすクマタン（クマタンマスク不着用）。

棄権

イギリス代表
ダートバイク・キッド
マスクマンじゃ無いのにマスクマンになって登場したまでは良かったが、1戦目でへなちょこブリを発揮し過ぎ。【忠告】大ハッスルするも暴走前には体のメンテナンスを。

メキシコ代表
ブラック・ウォーリアー
リーグ戦を1試合も消化しないで、帰っていくなんて、噂だけの実力派？【忠告】入場コスチュームがSHIーMAとチョイ似なのでクレイジー!MAX入り志願で再登場を狙うべし。

日本代表
タイガーマスク
重い屋号を背負いながらも、ふく面ワールドリーグのタイガーこそ実写版なのである。プライド高きタイガー は頭が堅いのかと思ってしまうが、ラフスタイルを見る限りオチャメ度100％。【忠告】タイガーキラーの皆さんへ。優勝記念には是非赤色グッズをプレゼントするのが、おすすめよ。

アメリカ代表
スーパーボーイ
その名の通り、スーパー重量＆スーパーウルトラ飛び技センス。マスク越しに覗くつぶらな瞳に、いくらドクロ着用でも恐さなんて感じられません。【忠告】毎回、来日が遅れています。早く、飛行機に乗って下さい。

インド代表
カレーマン
素材レーヨン100％の黄布に身をまとい踊るマハラジャソングで登場！　オーバーマスクならぬオーバーカレーハット調が大注目。白米・黄カレールーの先端分け具合は、申し分ナシである。【忠告】香水もスパイシーな匂いの方が良かったんじゃないのー。

南アフリカ代表
ダッコCHAN
マスクごしから覗く素顔は、なんてこったい！　ホント、タイガーウッズ似のオコチャマ顔。と言うふれこみだったのに最下位決定戦でクマに敗れマスクを剥がされると、あまり似てないこと判明。【忠告】もう、ちょっとご飯をたらふく食べて体を大きくしてみては？

ロシア代表
ホワイト・ベアー
百貨店、屋上のクマタン乗り物風なファーのオーバーマスクは、かなり暑いのか？　それともお気に召してないのか？　という位、着用時間が、短い。今回会場発見率NO．1。早【忠告】オーバーマスクが黒ずんでいます。早くお洗濯を。

★課題⑦……そういえば、アンタ誰？

自己PR

TAKAと一緒にFUCK YOU!

【本名】大西奈穂【職業】珍獣研究家【生年月日】昭和49年1月22日【出身地】大阪府【血液型】A型【身長】163cm【体重】48kg【得意技】体当たり【特技】人間ソムリエ【趣味】人間ウオッチング【好きな食べ物】バナナ・ネギ【好きな芸術家】故・岡本太郎【好きな漫画家】漫☆画太郎先生【好きなプロレスラー＆格闘家】ザ・グレート・サスケ＆桜井マッハ速人【プロレスファン歴】小学生の時＆大学生〜現在進行中【座右の銘】心意気【テーマ曲】正直者は馬鹿を見る（OUTO）【ホーリーネームの由来】トイレの大西さん（仮）とは単にトイレの花子さんの髪型に似てるということと、みちのくテイストということで付けられた。

ジャイ子、負けたらアフロにしますぅ〜

【本名】ジャイ子【生年月日】昭和51年3月12日【出身地】東京都【血液型】AB型【身長】180cm【体重】65kg【デビュー戦】エキサイティング・ガールズ（新日ファンクラブ）会報【プロレス歴】全女2年連続不合格（書類選考にて）【スポーツ歴】塩もみ【得意技】逆ギレ【趣味】会社脱走【好きな有名人】可愛かずみ【好きなレスラー】JBエンジェルス【好きな食べ物】こんがりショコラ【ニックネーム】ジャイジャイ【ライバル】テッド・タナベ（でもジャイ子に1票入れてね♥）【テーマ曲】「ハイオク満タンCASTROL'99」密売ＫＧＹダビッドソン【抱負】性格改善【座右の銘】大は小を兼ねる

島田レフェリーに「ジャイ子」と名づけられ、『紙プロ』のお手伝いを始めて早1年。呑気にお使いと物販と飲み会ばっかりやってたジャイ子に最大の危機が訪れてしまいましたぁ。なんとライバル出現！　そのライバル、む〜、名前なんだっけ？　あ、大西さんっていうの？　その大西さんに負けたら追放されちゃうんだって。しかもガチンコだって。ジャイ子、ポンチ！　あ〜、気が動転して間違えちゃったぁ。ジャイ子、ピンチ（汗）！

これを聞かされたのは試合の4日前。「突然そんなこと言われても〜」とメソメソしてる間に時間は経ち、前夜、山口日昇からの励ましの電話にビビり（案の定罠だった）、焦ったあまり、約束の2時間前に成田に到着。ジャイ子、図体だけはでっかいのにこんな小心者だとは思わなかったよ。非常事態になるまで、平気で会社で寝過ごしたり、公園で泣いたり、胸の谷間をチョロメ〜ンに見せつけたり、勝負パンツを会社に履いてきたりしてた自分を猛反省しつつ、締切ギリギリの今日も会社脱走して深夜まで遊んできちゃいましたぁ。あ〜、楽しかった。あれ、ジャイ子やっぱり危機感ナシ？

なんかさ、あとで聞いたら大西さんは、チョロメ〜ンと妹も取材に連れてったんだって。チョロメ〜ンは自称・みなし子だからともかく、普通、家族連れて仕事行くか？　だったらジャイ子も弟連れてくって。あ、ダメだ。5月に借りた金、まだ返してないから逃げまわってるんだった。広告担当の恵美ちゃんも「大西さんに勝って欲しいんです〜」って言ってたみたいだし（ジャイ子の前では「ジャイ子さん、絶対勝ってください」って言ってたけどね。ケッ、この二枚舌！）。みんな大西さんの味方？　ジャイ子なんて島田レフェリーに取材拒否されてるから（理由を知りたい人は、ジャイ子に1票入れてね）、バトラーツの会場行くのメチャメチャ怖かったんだよ！　会場行ったら行ったジャイ子の味方・石川社長は欠場だしさ。もしかして社長も大西さん派？

でもね、今回は負けられないの。だって負けたら悔しいじゃん。む〜、まだまだ『紙プロ』にいたい〜っ（ウソ）！　取って付けたようだが、今回取材に協力してくれたバトのみなさんにも申し訳ない（これホント）。だからジャイ子に1票入れてね。組織票大歓迎！

思い起こせば5カ月前『オイラ、紙プロで働きてぇ〜』と鼻息荒く履歴書を郵送。その後マーッタク連絡ナシなので、「誰に体当たりしよっかナー」だの桜井マッハ速人の珍獣ブリを研究したりしてすっかりお忘れモード全開で、3ヶ月もたとうかというある日のこと。松澤チョロ記者（主食・プチトマト）から『紙のプロレスですがー』の電話。『ナニィ〜』とばかりに、とりあえず面接受けてぇなぁ〜と、初！　編集部へ。そりゃもちろん気合いもたっぷり。中に入るとそこには、思い描いていたウルトラ兄弟大集合ではナク面接エリアにワタシ1人ポッチ。呆然としていると、「お前は、ここに座るんだよ！」とばかりに、おデブちゃん（坂井ノブ氏）が、中指1本でトン・トン・トンと机を叩いた。『ナニナニナニオッ〜！』お前の言語って中指かよ。と思った瞬間、『あっこれは、もしかして？　最近紙プロつまんねぇー批判を吐いたからって、嫌がらせ〜？』と、世界最高速でやる気もうせアホ顔全開になったのであった。がしかし、さすが、我らが半パンおしゃれファッションリーダー！　コト吉田豪氏。目の座り具合も絶好調のオモロトークが聞けたのでまぁいいか。と清々しい気分で帰ったのであった。

その1週間後、何故かまたもやダブルクロスと書かれたドアの前へ。気候も暑すぎでやる気も失せ気味の汗でビッチョリンコ状態。今度はアロハ会長コト山口日昇編集長が、座っておられた。『なんだか、やる気がでてきたゾ』と思いきや、あまりにも奇病を持っていそうな恐ろしきかなオモロビト（おそらく、生で見ないとわからない）に、太刀打ちできるわけなどあるはずも無く、ガックシ。でも面白かったしまぁいいか。白昼夢見ないように家に帰ったら、オモロビト列伝と題した漫画でも書くか。と思い、これで私の全3時間に及ぶダブルクロス人生は、終わりを迎えるハズであった。と思い込んでいたのだが、なんだかこんな対決をしかけられるハメになったのであった。そしてジャイ子との戦いだけではないことに気づいたのだが、時すでに遅し。自分の脳みその溶け具合を思い知ることとなった。（まぁ私の頭脳コンピューターが爆破しアホになったということだな）

世界各国10億人の紙プロ入社希望の人々は、気長に待つのがいいのかもよ。

紙プロ編集部屋 どすこい判定

今回の『ジャイ子vsトイレの大西さん（仮）女のリポート対決』はアナタの投票が命です。というわけで、読者の判定の前に『紙プロ』編集部&SRS DX代表による第一次審査を敢行。その結果、6名がトイレの大西さん（仮）、約1名が高田延彦の勝利という判定が下されました。この結果を参考にするもしないもアナタの自由！

	［アロハ編集長］山口日昇	［半パンリーダー］吉田豪	坂井ヘドロ	松澤チョロ記者	中村カタブツ君（36歳）	ジャイ子の初期天敵［風雲広告娘］佐藤恵美	『SRS・DX』代表 井上きびだんご
★課題❶ 〜を説明せよ!!	読んでない！	◎ジャイ子★ジャイ子は文章的に、こなれてはいるんだけど、そのこなれかたがいちいち不快。何かが足りないというか。自律神経？　7点 ◎トイレの大西さん（仮）★荒削りだけど、オレのアドバイスを聞いたから合格。5点	◎ジャイ子★「ジャイ子、のも姉さん大好き！」っていうアピールが単純に「だから何？」でしかありません。誰に向けて原稿を書いてるの？　2点 ◎トイレの大西さん（仮）★最初の3行ですべてわかりました。すばらしい！　10点	◎ジャイ子★ジャイ子ジャイ子って連発しすぎ。でも心から尊敬する島田レフェリーのコメントがあるので5点 ◎トイレの大西さん（仮）★「マスクマンはマスクが命」という出だしが良かった。7点	◎ジャイ子★歴史から説明しているから説明部分に関してはＯＫ。あと島田さんのコメントを取っているところもいい。8点 ◎トイレの大西さん（仮）★ちょっと読みにくいが、自分なりの色は出ている。7点	◎ジャイ子★島田さんの説明すごくはわかりやすい。ヤングじゃないヤンジェネは少年じゃない少年隊としか思えなかったので。6点 ◎トイレの大西さん（仮）★サスケ社長の脳みその様な何がおこるかわからなさに期待大。6点	◎ジャイ子★島田さんからコメントを取っているのは高ポイントです。8点 ◎トイレの大西さん（仮）★写真選びはいいと思いますが、取材しなくても書ける内容なので6点です。
★課題❷ 自分なりの観戦記	読んでません！	◎ジャイ子★ジャイ子は顔見知りも多い有利な条件の上で闘っているんだから、もっと面白くしなきゃいけないはず。今後に全く期待ができない。6点 ◎トイレの大西さん（仮）★荒削りだけど、今後が非常に期待できる。5点	◎ジャイ子★もっと試合を書いた方がいいんじゃない？　別にいいですけど。3点 ◎トイレの大西さん（仮）★わけわからないようでいて、かなり高尚なことを書いてあるみたいですね。2点	◎ジャイ子★これから多古町での興行はジャイ子にまかせたよ。ジャイジャイ。7点 ◎トイレの大西さん（仮）★ボクもチビッコヒーロー・ワタル君を目の前で見ているから。7点	◎ジャイ子★多古町伝説の核となる観客の熱さが書かれていない。オレの忠告で「タコ絡み」に「ザ」が付いたので1点 ◎トイレの大西さん（仮）★何を言っているかさっぱりわからなかったが、写真が良かったので5点	◎ジャイ子★さすがに「多古町なら行こう！」とまで言わなくても、「行きたい」と思わせるものがバトの多古町にはあるんだなという感じ。7点 ◎トイレの大西さん（仮）★私には理解出来ないっていうか伝わってこない。5点	◎ジャイ子★多古町が千葉にあるんだとわかって良かったです。ただ写真キャプションにタコヤキ君を入れているのはいただけません。5点 ◎トイレの大西さん（仮）★何が言いたいのか、どんな試合が行われたのかがわかりません。4点
★課題❸ 独占コメントを取ってこい!!	読んでたまるか！	◎ジャイ子★大ちゃんの「オレは、人の好き嫌いはハッキリ出るよぉ」という発言はジャイ子に対してのコメントのように感じられる。5点 ◎トイレの大西さん（仮）★サスケ取材に外れなし。サスケ好きというセンスも抜群。7点	◎ジャイ子★全試合終了後、大ちゃんの前で泣いたそうじゃねえか。しかも、ドラ焼きまでもらったらしいじゃねえか。7点 ◎トイレの大西さん（仮）★サスケロケットというスクープをゲットしたのは、凄い。7点	◎ジャイ子★大ちゃん、ジャイ子につきあってくれてありがとうございました。5点 ◎トイレの大西さん（仮）★サスケロケットにはゼヒ乗りたいんで。火星に行きたい！8点	◎ジャイ子★大ちゃんの優しさしか見えてこない。0点 ◎トイレの大西さん（仮）★初取材なのに、サスケに抱きついたり、小道具を使ったりしているところが高ポイント。10点	◎ジャイ子★アホの子を仕方ないから相手してやるという態度の池田大ちゃんがおもろかった。8点 ◎トイレの大西さん（仮）★サスケ社長はイカレ発言連発でいい味出してたし、それを乗らせる大西さんもよい。8点	◎ジャイ子★Ｓｈｏｗでもこんなこと聞かねえよ！　お前ごときが大ちゃんとこんな口をきくのは100年早いんだよ！4点 ◎トイレの大西さん（仮）★非常に初々しいです。レスラーに対する愛情を感じるというか。ンムフフフ。7点
★課題❹ 選手プロフィール	読むもんか！	◎ジャイ子★ジャイ子は取材及び物販等でバトラーツの選手と接する機会も多いので、ここは勝って当然。7点 ◎トイレの大西さん（仮）★未知の選手が多いという不利な条件を考えれば、及第点。6点	◎ジャイ子★ボクが作ったパンフレット丸写し？　みたいな箇所もあり、独創性とネタの少なさにガッカリ。4点 ◎トイレの大西さん（仮）★イラストも描けるところをさりげなくアピールするなんて、勝負のツボを知っています。9点	◎ジャイ子★写真がいい。まあジャイ子が撮ったワケじゃないけどね。7点 ◎トイレの大西さん（仮）★弱々しいイラストが良かったと思います。7点	◎ジャイ子★思った以上によくできている（オレは短い文章がヘタだから）。8点 ◎トイレの大西さん（仮）★イラストも含め見せるということを考えている。9点	◎ジャイ子★選手のアクの強い個性が手に取るようにわかる。だてに、嫌われながらも、なついてないなって感じ。7点 ◎トイレの大西さん（仮）★謎の選手が多いだけに、忠告のおかげで、ずっこけた想像がふくらむ。7点	◎ジャイ子★知られていないことが多少載ってるんでいいんじゃない。6点 ◎トイレの大西さん（仮）★写真がない選手をイラストにするという根性がいい。ただカレーマンとかのプロフィールはもう少し詳しく知りたかったです。4点
★課題❺ フリースペース	読んだ気もする？	◎ジャイ子★アレクには申し訳ない気持ちでいっぱい。インタビューの当日、ジャイ子は会場で2回、代々木で1回。都合3回泣いています。0点 ◎トイレの大西さん（仮）★ボクのことをホメているので文句なし！　10点	◎ジャイ子★大女が目の前で泣いているという最悪のシチュエーションでしゃべり続けたアレクさんに完敗&乾杯です。7点 ◎トイレの大西さん（仮）★勝つ気あるのかないのかわかんない妹アピール。モテない男子には有効か？　5点	◎ジャイ子★現場の写真がないというのが痛い。「こんな会社、辞めてやる！」って誰も止めないよ。6点 ◎トイレの大西さん（仮）★山口日昇のメル友、キモ（魚武好き）は凄くいいキャラしてます。8点	◎ジャイ子★ジャイ子という生き物に対しては10点あげられるが、アレクさんがあまりにも可哀想。取材対象者に迷惑をかけるな。0点 ◎トイレの大西さん（仮）★最後の6行ぐらいの文章が大西さんらしくていい。10点	◎ジャイ子★ジャイジャイまともに口きけるじゃん。アレクの器量もあったんだろうけど。8点 ◎トイレの大西さん（仮）★あんまし大西キモさん知らないから。兄弟愛がなんだかわからないけど、興味ない。6点	◎ジャイ子★アレクの人柄がちょっとだけ、かいま見れるところはいいのですが、ジャイ子は、あくまでも主役はレスラーということを自覚してほしい。5点 ◎トイレの大西さん（仮）★本物キモに似ているのがポイント高いです。4点
★課題❻ ベストショット	ゼヒ読みたい！	◎ジャイ子★ジャイ子はイヤな露出ばかりしているが、これがキャラになっているのもつらい。昔から写真が致命的に下手だし。3点 ◎トイレの大西さん（仮）★大西さんは写真を撮り慣れているので合格。8点	◎ジャイ子★ボクはこういう姑息なプレゼントをするのは大嫌いです。1点 ◎トイレの大西さん（仮）★テッドの写真がすばらしいです。初めての取材で、リングサイドのここまで寄って緊迫の写真を押さえられるのだから凄いです。10点	◎ジャイ子★オレとジャイ子とじゃ姑息の質が違うんだよ！「チョロメ〜ンチョロメ〜ン」って言うな。逮捕するぞ！　3点 ◎トイレの大西さん（仮）★これはテッドさんの写真だけで合格です。8点	◎ジャイ子★ジャイ子お得意の、自分、自分が出すぎ。もうお手上げです。トイレの大西さん（仮）と闘っている土俵が違う。8点 ◎トイレの大西さん（仮）★ページの見せ方をちゃんと考えている。10点	◎ジャイ子★ベストショットがてめーの写真っていうのはジャイ子らしい。でも、それは自分の手帳に入れといて欲しい。3点 ◎トイレの大西さん（仮）★写真撮るのうまい！　マスクマンのキャラが私にでもわかる。9点	◎ジャイ子★吹き出し部分でのアピールが気分が悪いです。ボクが嫌っている部分が露骨に現れています。1点 ◎トイレの大西さん（仮）★グッズ好きのボクとしては、カレーマンキーホルダーを押さえているということで10点
★課題❼ 自己PR	読めなかった！	◎ジャイ子★皆さん、ジャイ子は年齢詐称しています。結局はモテたいんだろうけど、この件を突っ込んだら「死にたい……」とボヤきだしたりで、問題ありますよ！　0点 ◎トイレの大西さん（仮）★ボクをほめているからノー問題！　10点	◎ジャイ子★ああ、写真が気持ち悪い！　以上！　2点 ◎トイレの大西さん（仮）★ちなみに原稿は読んでませんが、ボクは日常会話は中指でしています。っていうか、WWFの選手と一緒に写真撮ってるのが羨ましいから高得点！　8点	◎ジャイ子★「チョロメ〜ン、見てぇ胸の谷間が出来ちゃったぁ」と気色悪いモノを見せられて以来インポ気味です。1点 ◎トイレの大西さん（仮）★この娘は、危ない薬をやってるか、宇宙人かのどちらかです。オヤジ毛もはえてるし。7点	◎ジャイ子★原稿は別として自己ＰＲとしてはよくできている。写真からなにから100点満点。ジャイ子の本質がよく見える。10点 ◎トイレの大西さん（仮）★淡々としているところはよいが単純に読みづらい。3点	◎ジャイ子★最近、ジャイジャイのこと好きだから笑える（今まで、ケ…だったけど）。8点 ◎トイレの大西さん（仮）★スタッフの力の抜けぐあいは、「そうそう」って感じ。大西さんも力が腹の底から抜けきってそう。7点	◎ジャイ子★追い込まれているところが出ていていいです。7点 ◎トイレの大西さん（仮）★「私は誰？ここはどこ？」といったやる気のなさがいいです。ただ「ＳＲＳ・ＤＸ」にも履歴書を出した事実が書かれていないです。7点
WINNER	（フィに思い切り力を入れて）フィフティー、フィティーで高田延彦の勝ち！	トイレの大西さん（仮）★61点 ジャイ子★31点	トイレの大西さん（仮）★51点 ジャイ子★26点	トイレの大西さん（仮）★54点 ジャイ子★35点	トイレの大西さん（仮）★44点 ジャイ子★35点	トイレの大西さん（仮）★48点 ジャイ子★47点	トイレの大西さん（仮）★42点 ジャイ子★36点
総評	チーム OVNI万歳！	大西さんは、キャリアがない代わりに巨大な可能性を感じる。ジャイ子は巨大なくせして可能性は一切感じられないが、いじりがいだけはあるキャラなので次号のジャイジャイ日記はボクが書こうと思う。	パワー、スピード、破壊力！どれを取っても、ジャイ子よりは一緒に仕事しやすそうなので、ドラフト会議の時のパンチョ伊藤の気持ちで勝者を宣言したいと思います。第一回選択希望選手、トイレの大西さん！	ジャイ子は大西さんをジーッと見て「あれぇ、大西さんもオッパイちっちゃいんだね。グフフフ」と喜んでました。それが凄く怖かったもので…。	ジャイ子という生き物としては100点満点なんだけど。ジャイ子によるジャイ子のためのページなんて読んでて気分が悪い。当たり前だけどトイレの大西さん（仮）の勝ち。	あれーッ？　ジャイジャイの勝ちだと思ってたけど計算したらトイレの大西さん（仮）の勝ちでした。おかすぅい〜。	ダブルクロスに近しいボクから言わせてもらえば、今の『紙プロ』に一番求められているのは常識人だと思います。『紙プロ』ファンとして考えると大西さんがいいと思います。

応募方法

「『紙プロ』の女性編集者は読者が決める！」な次号にて大々的に結果発表！生き残るのはどっちだ？

『紙プロ』編集部に女は二人もいらない。どっちが使えるか決めたらいいんや！　ということで読者からの非情な判定を受け付けます。判定は、課題1「ヤンジェネ&ふく面ワールドリーグを説明せよ!!」課題2「自分なりの観戦記」課題3「独占コメントを取ってこい!!」課題4「参加選手を紹介しろ!!」課題5「フリースペース」課題6「使える写真を撮ってこい!!」課題7「自己PR」。以上の7項目について、ジャイ子、トイレの大西さん（仮）のリポートを各項目10点・計70点満点で採点して下さい（マイナス10点、竹下景子に三千点等は無効）。点数を付けるのが面倒だという方は、どちらかの名前を記入し応募して下さい。あくまでもこの企画はリアルファイトです。その辺は誤解なきよう各自注意！

人生の岐路に立たされた、うら若き二人の乙女（？）。あなたの一票がジャイ子とトイレの大西さん（仮）の人生を左右するのです。どっちが勝つかはフィフティー・フィフティー！（高田調）。一度限りの二人の人生、あんたに預けた！（P183の読者プレゼントの応募要項を参照して下さい。ハガキ、封書、電報等による投稿もドシドシ受け付けます）締切は9月30日（当日消印有効）です。どすこい！

山川

いま、少ないながらも観客を酔わせる
「人間の極限に挑む」大日本プロレスのデスマッチに注目せよ！

「プロレスってどれだけインパクトを残してプロレス界を去るか、その勝負だと思うんですよ」

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai

撮影／森田友美
photographs by Tomomi Morita

前号の情報ページでも触れたが、最近、大日本のデスマッチ路線がとにかく熱い！ レスラーのテンションも高ければ、それを見守る観客も熱い！ 本間朋晃、シャドウWX、そして今回登場する山川竜司の3人が"デスマッチ"を新しいステージにまで高めてしまった。まったりとした旧来のデスマッチとの違いは、凄惨さを上回る動き、スピード、そして熱さを発散させている点だ。しかし、山川&本間&WXが度を超えて身体を張りまくっているにもかかわらず、なぜか大日本の後楽園ホール大会には驚くほどに観客が入らない。もちろん大日本には問題点もあるのだろうが、これはもったいなさ過ぎる！ 専門誌の山川竜司のインタビューではカタさが目立って魅力が伝わってこないと思った本誌は、コアなBJW（＝大日本）ファンと共に山川を絶賛しつつ、大日本の問題点をざっくばらんに語り合ってみた。しかも酒を飲みながら。すると山川は酔いどれ節をゴキゲンで炸裂しまくってくれた！ さあ、「山川竜司を囲む会」にキミもいまから参加しろ！ ビール片手に読むべし、読むべし！

山川　今日は酒もあるし、何でも聞いてください。何でも答えますよぉぉ！

——じつはボクが大日本を取り上げたいなと思ったのは、5月30日・新川崎のデスマッチを見てからなんですよ。

三浦　ああ、あの試合は良かった！ イナズマ　あの日の帰り道は、山川さんのケガと試合のインパクトで言葉少なくなっちゃいましたよね。

※5月30日、新川崎大会とは？
シャドウWX vs 山川竜司の大日本認定デスマッチヘビー級選手権の試合中に、WXが投げた蛍光灯の破片が山川の背中に突き刺さり、指が第二関節まで入るほど深くえぐれてしまった。しかし、不死身の山川は驚異の粘りで逆転勝ちを収めた。

山川　そうなの？　オレ、救急車が来るまで自分のケガに気づかなかったんですよ。あんな大ケガだったなんてねえ、ワハハハハ!!

三浦　大日本プロレスって、凄くハイテンションで危険な試合をやってるし、アッと驚くこともやってますよね。

——いま、中心になってデスマッチをやってるのは、山川選手、本間（朋晃）選手、WX選手ですよね。その中でも、特に山川選手が光ってるなと思うんですけど。

山川　それまでは「試合がよければお客も自然と入るんだ」っていう考えでしたけど、いまは逆に「試合が全然ダメでもインパクトさえ残せればいい」っていう、まるっきり逆の考え方になっちゃいましたね（笑）。だから「いつも自分が目立ちたい」「とにかく自分が主役でいたい」ということを考えるようになりましたよ。

三浦　最近は、山川さんが登場すると会場の雰囲気は明らかに変わりますね。入場時のイリュージョンが最高ですから。山川さんはあれから変わりましたよね。

※イリュージョンとは？
昨年11月頃から山川が始めた画期的な入場方法。テーマ曲が鳴って、入場するまでどこから出てくるか誰も知らない、知られちゃいけない、そんなスタイル。そして、出てきて一発目にトンチの利いたマイクアピールをかます。

——なんでまたイリュージョンをやろうと思ったんですか？

登坂　1年ぐらい前までは、マスコミ向けに記者会見やっても、記者に引かれてたんですよ。それが悔しかったのはありますよね。

山川　昨年11月の後楽園大会で、第1試合で葛西（純）に勝った直後にボクが「辞める」って言いだしたんです。

©H・SANO

（左上／6月21日札幌テイセン）山川の入場時には、「nWo」よろしく「hWo」の声とともにロゴマークが浮かび上がった。北海道に熱狂的ファンを持つ大日本ならではの演出。そして、「私、五寸釘を盗んでまいりました！」と絶叫！（左上／7月25日後楽園ホール）大日本のビデオを見て触発されてやってきたストーカーガイジンのマイク・サンブラスとともにマフィアなのかマジシャンなのかよくわからない出で立ちで現れた山川。（右／5月30日新川崎）凶器の火炎放射器になかなか火がつかず、手こずった。客から突っ込まれると、「バカッ、火がつかねえんだよ！」ついたらついたで、ゴキゲンで大見得を切りまくる！　かなり、かっこいいじゃねえか！

竜司を囲む会

元不死身のデスマッチ王、本誌初登場!!

あのときはMr.ポーゴさんと中牧（昭二）さんが抜けた直後だったから、シャレにならなかった（笑）。その後、休憩時間にいきなり客席から登場したんです。

登坂　いきなりだから、菊池孝さんまで慌ててたもんな（笑）。それを見て「やったぁ」と思いましたね（笑）。

Liar　イリュージョンをやるときって、だいたい2階席とか高いところから出てきますよね。

登坂　「バカは高いところが好き」ということですね（笑）。

三浦　あのコスチュームは誰をモチーフにしてるんですか？

山川　あれはね、小林旭（笑）。

登坂　「自分だけ勘違いしてるヤツ」っていうコンセプトです（笑）。

三浦　以前はバーボンを持って出て来てましたよね？

山川　あの頃は沢田研二の『勝手にしやがれ』をイメージしてました。

登坂　最初はボクがイリュージョンを勧めたんですよ。そしたら渋々だけど、本人もやる気になって。でも、始めた頃はスポットライトが当たる前に出て来ちゃったりして、大喧嘩しましたね。

山川　「面倒くせえ！」って思ってました、その頃は。

登坂　せっかく自腹切って、スポットライトとか使ってるのに（笑）。

――えっ、演出費は山川さんが自腹切ってるんですか？

山川　そうです!!　イリュージョンでかかる経費は全部自腹ですよ、自腹！

一同　えーっ!?

登坂　そこまでしてやってんだから、しっかり考えてくれよ！　後楽園ホールで試合したときに天井から爆竹を吊って爆発させたんですけど、その写真が『週プロ』にも『ゴング』にも載ってないんですよ。「5万も払って…」と思ったね（笑）。

山川　私は、その返済に2か月かかりました（笑）。このときは爆竹とスポットライトを使うのも、社長には内緒にしてたし、「もうやっちゃえ！」って感じですね。ひどいときは勝手にデスマッチやってました（笑）。

登坂　たまに「こういうものが欲しいんですけど」って社長に相談すると「そんなのやるな！」って、もう試合の根底を覆すようなこと言われることがありますからね（笑）。

イナズマ　ホームドラマの親子みたいですね。（笑）

山川　『寺内貫太郎一家』みたいなもん（笑）。ケンカはするけど、基本的には裏切るつもりはないですよ。文句があるときはちゃんと社長の目の前で言わなきゃダメなんです。

三浦　大日本にゴタゴタが多いのは、その辺が原因なんですかね？

登坂　結局、社長がこうだって言っても本人達が不満なんですよね。でも、文句は言えないから、しまいにはポーンと飛び出してしまう。藤田（穣）の件にしても、そうなんです。

※藤田の件とは？
今年2月の後楽園大会で藤田vs日高（郁人）の試合直後に3ヶ月前に離脱したばかりのMr.ポーゴが乱入。小鹿社長が張り飛ばして撃退したものの、試合をブチ壊された藤田が号泣&激怒。その後、無断欠場してしまう。

登坂　出ていく選手は社長のスタイルがNOなんですよ。

――社長のスタイルとは？

登坂　ようするに、社長の思い通りに動いてくれということなんでしょうね。社長の好意なんでしょうけど、それが結果的に選手の我を取っちゃうわけですよ。

――ファン的には大日本から選手が抜けるとどうなんです？

イナズマ　田尻（義博・現ＥＣＷ）が辞めたときはちょっと後味悪かったですよね。ああいう辞め方はどうかなぁと思って。大日本に対して夢がなくなってしまいますよね。

登坂　ボクは社長の前でもよく「社長の悪口言ってます」と言ってます（笑）。「社長の悪口言ってチケット売れるんだったらいいですか？」「いいよ」って（笑）。それで会社が潤いますから。

――他団体ですけど、いまバトラーツでもアレクサンダー大塚選手が会社批判してますよね。

登坂　島田（裕二）さんも大変でしょうね。でも、現場でバリバリ働いてる人は自己犠牲がないとダメですよ。

――大日本を見てて感じるのは、自己犠牲の精神が特に凄いですよね。

山川　でもね、一寸先は闇ですよ。いまリングを運ぶトラックはオレが運転してんですけどね（笑）。なぁに、人がいねえからしょうがねえよ。昔は何の気なしにやってたんだけどね。

登坂　よく社長に「バトラーツってどんな団体？」って聞かれるんですけど、「山川みたいなヤツがいっぱいいる団

酔いどれデスマッチ王
山川竜司を囲んだ熱烈なる大日本マニア3人

三浦店長
1962年10月29日生まれ。元・大日本の合宿所の近所のレンタルビデオ店店長。大日本プロレスの合宿所の近所にあったレンタルビデオ店につい最近まで勤めていた。イリュージョンの研究のため、仮面ライダー　のビデオをムチャ借りする山川にアドバイスを送ったこともある。プロレス歴25年の超ベテラン。

イナズマ★K
1968年4月1日生まれ。音楽フリーライター兼レコードSHOP　ZEST　勤務。本誌の座談会ではおなじみ。大日本、ＤＤＴ、大仁田厚興行などは、ほぼ毎回観戦。W★INGフリークだが、チャヒンガー＆ウインガーよりも松崎駿馬のことが気になってしょうがない大日本フリークでもある。

『Liar』
1969年2月5日生まれ。某・サブカル系書店チェーン新規企画担当者。このハンドルネームで、あらゆるプロレス・格闘技系のインターネット界を徘徊する、生粋の前田日明ファン（決して大仁田ファンではない）。だが、以前から大日本の首都圏の興行には必ず顔を出している。

圧倒的に強い悪の組織に立ち向かう!!
そんな感じを自分の試合でも出したい!!

体です」って答えてます。

——みちのく、バトラーツ、大日本はメジャー以外の団体の中では求心力が違いますよね。まあ、集客力は別として（笑）。みちのく、バトラーツ共に社長も若くて、頭がイカレてるという共通項はありますけど……。

山川　なぁに、社長のイカレっぷりだったらウチも負けてないですよぉ!!

——アハハハ、山川さんから見てバトラーツってどういう団体ですか?

山川　革命ですね!!

——か、革命?

山川　（店員に向かって）スイマセ〜ン、生ビール！　インディーでもああいうスタイルをやるし、バックランドを呼んでリバイバルもやってしまいますからね。見習うところはありますよね。でも、団体としてウチが下だとは思ってないですよ！　後楽園ホールの入りに関しては負けてますけどね（笑）。まあ、ウチは地方発進の団体ですから。都市型、地方型の違いはあるんじゃないですか?

——でも多分、後楽園ホールに来るようなファンが不満に思うのは、本間、山川、WX以外の大日本じゃないかなと思うんですけど。

三浦　ボクが見てて歯がゆいなと思うのは『神風』選手なんかガタイもいいし、飛べるのに、どうも欲を感じさせないですよね。小鹿社長も「試合しなくてもいいんじゃない?」と思うんですけどね。

©H・SANO

6月に行われた山川vs本間の大日本デスマッチ選手権は、血みどろになりながらお互い動きまわる凄惨かつスポーティーな試合となった。なかでも、蛍光灯を敷き詰めたボードの上に思いっきり落としたツームストン・パイルドライバーは、史上最エグの危険技である。しかし、「私は不死身でございます」と豪語するだけあって、山川はこの後から逆転勝利を収めた。

イナズマ　マイクで「なんだ、テメ、コノヤロ」って言ってるぶんには面白いんですけどね（笑）。（松崎）駿馬にも活躍してほしいなあ。

Liar　インターネットでもフリー選手はバッシングされてますよね。（ここで、Liar氏が持参したインターネット掲示板のプリントアウトをみんなで回し読み）

登坂　「大日本でW☆INGと似た部分は、本間＆山川＆WXが引き継いでるけど、小鹿社長とフリー軍団とメキシカンとブッチャーと女子はダメ」だって（笑）。あっ、伊東がいいって書いてあるよ。

山川　ダメだよ、全然！

登坂　「プロレスラー」っていう基準で言ったらダメかもしれないけど、7月にデビューしたばっかりの新人だぞ!!

山川　じゃあ、オレと伊東を比べたらどっちがいいんだよ!?

登坂　なんで新人と比較すんだよ!!

山川　あ〜、ムカつく！　体が小さいなりヤツの努力をしてないから……。

登坂　やってます！

山川　やってません！

登坂　やってます！

山川　やってないね！　バカ野郎！

登坂　こいつ、バカなんですよ。アレクさんがマルコ・ファスに勝ったときもこれぐらい大ゲンカしましたから！

山川　なんで負けんだ！　マルコ！（笑）。だいたいテメエはなぁ、（この後5分間、登坂氏と怒鳴りあい）。

——まあ、ようするにケンドー・ナガサキさんが修斗の大会でKOされた後、ブラジルでナガサキさんと一緒にルタ・リーブリの練習したんですよね?　そのとき肌身を通じてマルコの強さを山川さんは知ってたのに、と。

山川　ああ、オレなんか子供扱

本間朋晃

21世紀のトンパチ革命児、ついに登場！
「デスマッチでノリノリですよ!!」

前号で告知したとおり、デスマッチを革命した男・本間朋晃のインタビューをお届けします！　いまや大日本の中核をなす存在となった本間だが、あまり取材慣れしていないらしく、後日談を聞いたら「ムチャクチャ緊張しました」とのこと。しかし、リングに上がると豹変するのがこの男・本間である。貪欲にいろんなものを吸収しようとして、次々と突拍子もないことを考え続けたらいつのまにかデスマッチの革命児となってしまったのだ！　このままだと、近い将来、間違いなく日本のプロレス界を変えるであろうフューチャースターの声を聞け!!

撮影／愛甲タケシ

山川が徹底的な演出で試合の前後を変えてしまったように、本間はそのアイデアの豊富さと若さでデスマッチの試合内容を変えてしまった。大日本ではすっかりおなじみとなった蛍光灯でのブン殴り合いも、元々は本間が始めたものなのだ。本人は「オレ、頭悪いから」と笑って言うが、突飛なことを考えさせたら、この男の右に出る者はいない！

本間がデスマッチに目覚めたのはIWAで行われた中牧昭二vsターザン後藤の画鋲デスマッチを見て以来だという。

「画鋲踏んだことありますか?　ものすごく痛いじゃないですか。それが頭に刺さってるんだから、あれにはものすごく衝撃を受けましたね」

このときの衝撃がなければ本間は大日本ではなく、リングスに入っていたかもしれないのである。

「プロレスは芸術だと思うんですよ」

そう語る本間は、田村vsヴォルグ・ハンの試合にも激しい衝撃を受けたという。

「あんなにいろんな腕の取り方があるなんて、感動しましたね」

結局、最後まで悩んで決めたのは大日本プロレスだった。そして、入ってから3年も経っていない現在ではすっかり大日本の屋台骨を支える選手となってしまった。「プロレスは10年やって初めて一人前」という言葉があるが、そんなに悠長に構えている暇など本間にはないのである。

「自分のプロレス人生は太く、短く生きたいですね。『人間の極限まで挑む』ようなデスマッチをやっていきたい」

必要以上に、過剰なまでに、極限まで身体をすり減らしながら（たとえば2階席か

「囲む会」に登坂レフェリーも参加してもらった。山川とは相当ケンカ慣れしているようで、ボケの山川、ツッコミの登坂というコントのようなケンカを披露してくれた。

いされましたよ、チクショウ!!（店員に向かって）スイマセ〜ン、生ビール!!　オレは大塚さんにも言ったね。「ショックだよ」って（笑）。でも、こないだ会ったときには「アンタ、救世主だよ」って言いましたよ。そしたら「救世主の割には待遇が悪い」ってボヤいてました（笑）。でも、ナガサキさんがKOされたときは、オレの〝プロレス妄想〟が崩れましたね。

登坂　〝プロレス幻想〟だろ（笑）。

山川　ああ、やべえやべえ（笑）。自分の中でナガサキさんを美化し過ぎてましたね。最強だと妄想してたから大ショックですよ。ナガサキさんがリングに入ったら足袋脱げって言われるし、いちいちショックでしたね。オレも昔はU系が好きだったんですよ。

Liar　そういえばデビュー当時はレガーズをつけてましたもんね。

山川　そう、高田さんが好きだったんですよ。でも、それでショックを受けて、完全に考え方が変わったのは松永さんが大日本に来てからですね。松永さんは勝敗では負けても試合に勝ちますからね。

Liar　あれは希有なキャラクターですよね。マイクを使わないのに観客を熱狂させてしまう。

山川　昔は「激しい練習して、先輩に付いてまわって、こんなに苦労してるんだ」って思いがあって、そこに自分の美学があったんですよ（笑）。でも、松永さんはそういうものを全部すっ飛ばした次元で、「観客のニーズに合わせたものをやるんだ」っていう考えですから。とにかく、お客を集める！　そしていまだにその神話が崩れない！

イナズマ　松永さんは凄いですよね。

山川　プロレスってどれだけのインパクトを残して、プロレス界を去るか、その勝負だと思うんですよ。だから、ひとこと言うかアクションがあるだけでメシが食えるんですよ。昔から社長が「アメリカじゃパンチ一つだけでメシ食ってる奴がいるんだ」と言うんですけど、松永さんがまさにそうですね。

登坂　「自分のやってることが正しいんだ」と信念を持って突き進んでいく姿に、ファンは感銘を受けたりするわけじゃないですか？

イナズマ　オレはW☆INGが好きだったのってそういうところですよ。ドンドンボロボロになって、傷だらけで、むき出しになっていくんだけど、いいんだよな。

山川　そういえば最近、オレは『ベルセルク』っていうマンガにハマってるんですよ。悪が圧倒的に強くて、主人公が完膚無きまでに叩きのめされるんですよ。圧倒的に悪の組織が大きくて、やたら強えんだ！　それでも向かっていくんですよ。自分の試合でも、そういう感じを出したいなと思いますね。

――滅びの美学みたいな感じですか。

三浦　松永さんはデスマッチのアイデアを出してのし上がって行った人ですよね。山川さんは「こういうのをやりたい！」っていうのはないんですか？

山川　オレは砂利の採掘場で、ボカーン、ボカーンって爆発している中を歩きたいだけです。

三浦　『仮面ライダー』ですか（笑）。

山川　ホントに変身しちゃうとかね（笑）。どうだい？

――アハハハ、じゃあ大日本という団体の野望として、「世間に俺たちの試合を見せつけてやろう」とか、「ゴールデンタイムのTV中継を勝ち取ろう」という希望はありますか？

山川　う〜ん、何やっても裏をかきたくなっちゃうんですよね（笑）。メジャーがあるからウチが光るんですよ。『ゴレンジャー』でも、赤レンジャーよりも青レンジャーとか黄レンジャーね。「何じゃいなぁ？」とか言いながら、カレーを食ってクイズを解いてるのがいいですね（笑）。

やまかわ・りゅうじ■本名山川征二昭和45年4月2日、北海道川上郡出身。田舎チンピラとして悶々とした青春時代を過ごしながら、札幌でスポーツジムのインストラクターを務める。U系や武藤敬司のファンでありながら、なぜかNOWに入門。平成6年10月25日、神奈川県南足柄市体育センターのvsポイズン澤田戦でデビュー。崩壊後は東プロで3試合だけして、大日本に旗揚げから参加。松永光弘のパートナーとしてデスマッチの場数を踏んで度胸を身につける。現在は物販もリング経営もこなす大日本の大黒柱。バトラーツの臼田勝美とは酒好きコンビ「酔いどれピストルズ」を結成。実際、酒には強く、素人時代にあの酒豪・高田延彦と飲み、酔った勢いで高田を舐めまわすという暴挙も働いたことがあるという。

ら一階の有刺鉄線ボードに投げ捨ててパワーボムを食らったり、五寸釘ボードに落とされたり）異端とも言えるプロレスを世に問い続ける大日本の超絶デスマッチ。

「ランナーズ・ハイじゃないけど、お客さんがいるから出来るんですよ。もうデスマッチ・ハイになっちゃってますから。試合中はナチュラルにイッちゃってるんです（笑）」

デスマッチ・ジャンキーと化した本間の闘いは、バトラーツのバチバチ・ファイトとも似ているように思う。どちらも非常に刹那的なのだ。

「バチバチも『人間の限界に挑む』って感じで面白いですね。バトラーツさんにも出稽古に行ったことがあるんですけど、勉強になりましたね。石川さんも言ってましたけど、やっぱりプロレスは芸術ですよ」

くれぐれも大事故にならないように気を付けてもらいたいが……。

「でも、プロレスってわからないですよね。ボクらは死なないで、いきなりオーエン・ハートのような選手が亡くなっちゃうんですから。でも、ボクらのデスマッチは、やりたいからやってるんですよ。もうノリノリですよ（笑）」

この男、図太い！　殺してもタダでは死にそうにない。いったい、そこまでしてデスマッチを通じて何を見せたいのだろうか？

「〝デス〟っていっても殺しあいじゃないですから。ボクはとにかくデスマッチで受けの凄さを見せたいんです。いろいろバッシングされてますけど、デスマッチの見方を変えたいんです。だからボクは試合でTシャツを着るのは嫌なんですよ。試合の前半にストロングスタイルもあり、最後の方は武器でダメージを与えて、しとめたい。ボクらのデスマッチは自然なんですよ。」

デスマッチを自然に！

ベテラン選手にありがちな凶器・オン・パレードな残酷ショーではなく、最終的に肉体で勝負するための道具に過ぎないということなのだ。

「たしかに昔の選手も凄いと思います。ボクらに同じことは出来ませんから。でも、逆にボクは試してみたいことがいっぱいあるんですよ。先輩だからって負けないですよ！」

それが本間の追求する〝プロレスの芸術性〟ということである。では、今後はどのような道に進んでいくのだろうか？

「いまはリングス志向みたいなものは、ほとんどないですね。でも欲張りなんですよ。ありとあらゆるすべてやってみたいんです。失敗しても、次に失敗しなければいいやって感じで。すべてがプラス思考なんです。プラス思考じゃないと楽しくないですから。試合で負けても、次勝とうって感じです」

では、この男の目はどういった団体に向いているのだろう？

「新日本とか全日本の選手みたいになりたいというのはまったくないですね。強いていえばWCW志向ですか（笑）。でも、ウチも華やかさではアメプロに負けませんよ。いまは『この先、どうしよう』って考えるのが楽しいですね」

やはりプロレスの進化系はアメリカン・プロレスにあるのだろうか？　本間がつい最近までしていたレガースを外して、ホーガンばりの長めな編み上げリングシューズに変えたのもそんな理由からだろう。いったい本間は何をしようというのか!?　ますます目が離せない。このように、のめり込んだらとことん突き進む変幻自在の革命児――それが本間朋晃であり、大日本の熱烈なファンが本間に大きな声援を送っている理由である。

ほんま・ともあき■昭和51年5月18日、山形県東根市出身。アニマル浜口ジムで汗を流し、一度はみちのくプロレスに入門するがプロの厳しさを味わい挫折。再度、浜口ジムでリングス滑川、バトラーツ岡本魂、元大日本の越後雪之丞らと共にトレーニングを積み、リングスか大日本かと迷った末に大日本に入門。同期の藤田穣（現在、みちのくに留学中）とともにバトラーツに参戦して脚光を浴びる。そして、デスマッチ路線に本格的に参入して以来、斬新な発想の技で芸術的なデスマッチ・ファイターとしてグングン頭角を顕し始める。98年10月31日（vsシャドウWX）、99年6月21日（vs山川竜司）と二度の大日本デスマッチ王座に挑戦。現在はWXと共に大日本認定タッグ・チャンピオンに君臨している。182cm、96kg。

文／中村カタブツ君
text by Katabutsukun Nakamura

紙のプロレス RADICAL

怪物通信

K−通 MAGAZI

今回はいま『UFC』で最も注目されている若くて強くてイキがいい、飛びきりの男ティト・オーティズを紹介。ガイ・メッツアーに勝っただけでなく"ゲイ"メッツアー呼ばわりするタチの悪さはバッド・ボーイのニックネーム通り。そして現在、桜庭和志と最も闘ってほしい男として抜群の注目度を誇るフランク・シャムロックと今月24日『UFC22』での対戦も決定。非常に注目株の超新星（orブラックホール）なのである。

TITO ORTIZ ティト・オーティズ

1975年1月23日カリフォルニア、ハンティントンビーチ生まれ。身長190cm、98kg。高校時代からレスリングを始め、州チャンピオンに二度輝く。カレッジ時代にタンク・アボットと知り合い、ノールールの世界に足を踏み入れる。97年『ＵＦＣ13』のライト級トーナメントで準優勝。9月24日の『ＵＦＣ22』ではフランク・シャムロックとミドル級選手権試合を行う。学生時代にアルバイトしていたポルノショップがスポンサー。スパッツの「ＸＸＸ」は日本語的にはポルノの意。さすが、バッドボーイ！

金網の不良番長

現在、『ＵＦＣ』では異常に面白い抗争が勃発中。ティト・オーティズとライオンズ・デンとの約2年に渡る根の深い感情のもつれが一気に表面化しているのだ。

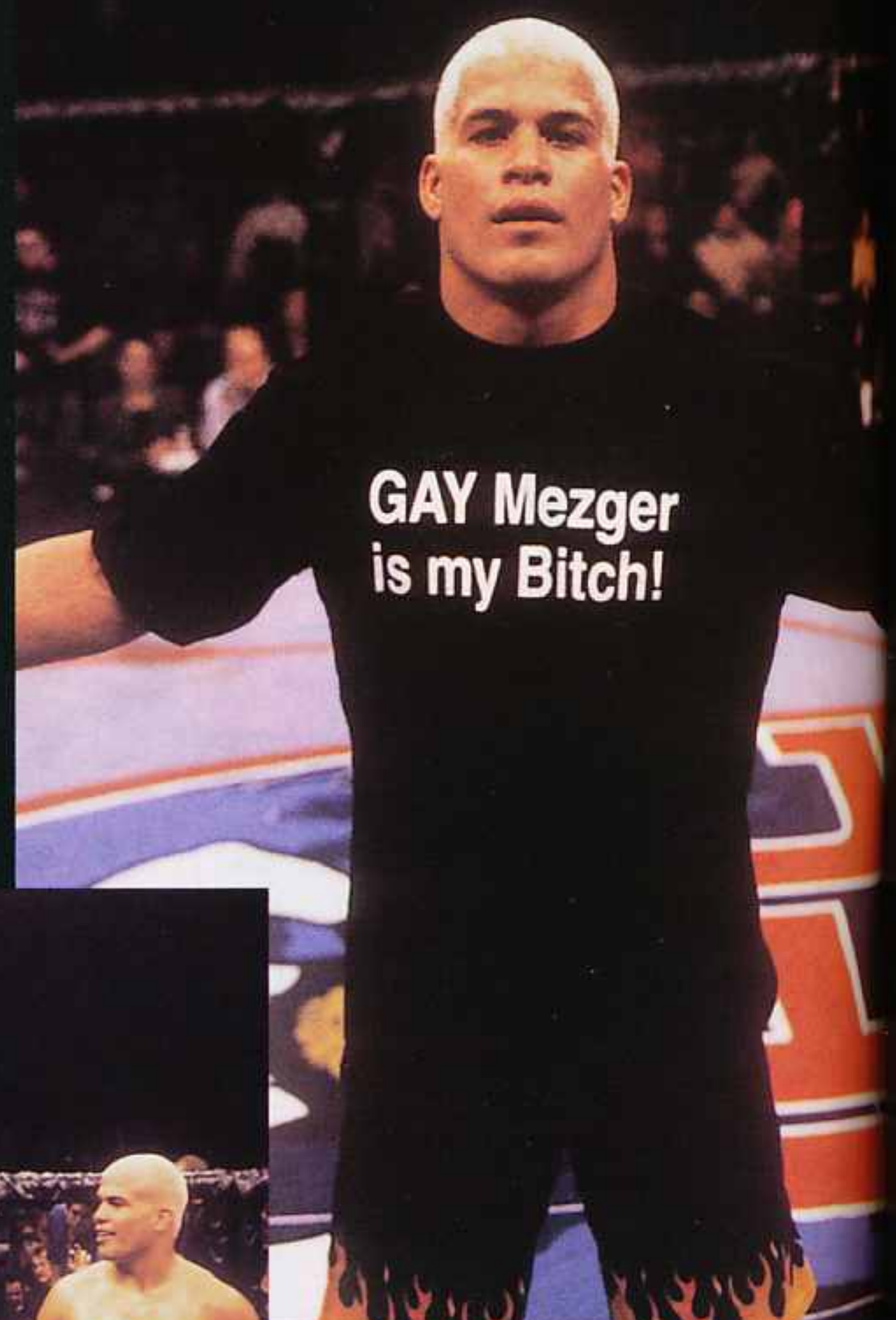
ライオンズ・デンは既に皆さん御存知の通り、元パンクラス＆現ＷＷＦのケン・シャムロックが率いる格闘技道場。ガイ・メッツアーやジェリー・ボーランダー、ピート・ウィリアムスなど一流どころの選手が所属する名門中の名門だ。そして、ティトは現在そのメッツアーとボーランダーを『ＵＦＣ』のオクタゴンの中でブッ倒して、ライオンテーマー（ライオン使い）と呼ばれている24歳の新鋭なのだ。

１９９７年5月30日『ＵＦＣ13』のライト級トーナメントの決勝戦でティトはメッツアーと初対戦している。これが最初のライオンズ・デン勢との闘いとなるティトは、当時喧嘩屋タンク・アボット率いるチーム・タンク所属だったのだが、このタンクがケンとえらく仲が悪いわけだ。ことあるごとにタンクにブチ切れたケンは、テレビのインタビューで「タンクだけはブッ倒す」と発言している。つい最近、ＵＦＣでの闘いを再開すると宣言したケンだが、いまだに「タンクだけは倒したい」と怒りを露にしてるのだから相当な嫌がらせをタンクはしているに違いない。

そんな状況の中でティトVSメッツアー戦が行われたのだが、ここでさらに問題が勃発。それが前号でも少し触れたメッツアーの"疑惑のタップ"というわけだ。

これは、ティトの攻撃を亀状態で受け続けたメッツアーの手がタップするがごとくにパタパタと動いたもので、この直後にレフェリーが二人を分けたためティトは自分が勝ったと思ったのだ。だが、レフェリーはメッツアーの傷をチェックしただけで試合再

開。直後にティトはメッツアーのギロチンチョーク（フロントネックロック）でタップさせられてしまう。
　ティトはあくまで「メッツアーはあの時タップした」と主張するが、メッツアーは「あれはバランスを取ろうとして手をついただけ」だと反論。これはビデオを見直してみても、どちらが正しいのかまったくわからない。タップしたと言えばいえなくもないし、バランスを取っていると言えばそうも見える。
　ともかく本来、タンク対ケンという抗争の図式だったものが、この時からティト対メッツアーという本人同士の抗争にと発展してしまったと、そういうわけだ。
　ここからティトはメッツアーを倒すために練習に励むわけだが、なかなか雪辱の機会はやってこない。また、チーム・タンクを抜けてジョン・ローバーのもとで練習するようになったりといろいろ環境も変わる。その一方、メッツアーはキング・オブ・パンクラシストに輝いたり、エンセン井上をビッグマウスとののしってケンカを売ったりと、実績にしても話題にしても差をつけられていく。
　だが、あの試合から約1年半後の今年1月8日、『UFC18』においてついにティトはチャンスを掴む。相手はメッツアーと同門のボーランダー。彼を倒せば念願の再戦が近づくのは当然。しかもボーランダーは柔術の強豪ファービオ・グージュを倒し、バルセロナ五輪ゴールドメダリストのレスラー、ケビン・ジャクソンから腕十字で一本取ってUFC内でも注目され始めている、倒すと非常にオイシイ選手。だが、強豪であるのは間違いないところ。
　果たして、ティトは見事にボーランダーをオイシくいただいてしまったのだ。常に上に乗り続けて文句なしの判定勝ち。しかも試合直後に「I JUST F●●ED YOUR ASS!!（お前のケツにブチ込んでやったぜ!!）」とプリントされたTシャツを着込む念の入れよう。
　だが、こんな失礼なTシャツを着ていながらボーランダーとは抱き合ってみたり、にこやかに談笑したりと一見ナイスな態度のティト。だいたいボーランダーが目尻を切って出血した時も飛びきりゴキゲンな笑顔でニコッと笑ったりして愛らしい。自分が勝ちに近付いてることを素直に喜んでるわけだ。甘いマスクに加えて、この笑顔。年上の女性ならキュンとなるような可愛さだ。スター性抜群！
　そして二ヶ月後の3月5日『UFC19』において、ついに念願のメッツアー戦が決まったのだ。メッツアーは試合前から「前回はあんな弱い相手にみっともないところを見せてしまったが今回はすっきり勝つ」と発言して期待感は高まる一方。ティトはこの発言を聞いて「飛びきり楽しいことをしてあげよう」と決意して再び特製Tシャツの製作に取り掛かったりするわけだ。
　それが有名な「GAY Mezger is my Bitch!!（〝ゲイ〟メッツアーはオレのメスだぜ!!）」。さすがは元不良。ストレートにタチが悪い。
　こんな下品なTシャツをメッツアーをタコ殴りにしてTKOさせた直後に着用したのだから悪質にもほどがある。
　セコンドについていたケン・シャムロックは当然激怒し、金網から乗り出して怒鳴りつけるが、まったく動じないティトは間近まで近寄っていって友達と立ち話をするかのような落ちついた笑顔でシャムロックに喧嘩を売ったりしてるのだ。そういう図太い神経がまたカッコイイ。
　あくまで噂なのだが、完全にブチ切れたケンは控え室に戻ってからも「いまからティトを殺しにいく」と言ってきかなかったらしい。
　ティト対ライオンズ・デンの対立が明確に浮き彫りになった中、9月24日『UFC22』でフランク・シャムロックvsティト・オーティズが行われることが決定。フランクはあくまで、そういうモメごととは関係なくティトのケツを蹴りとばしてやると言ってるが、周りはそうは見ない。盛り上がり必至の好カードだ。ちなみに下馬評ではティト有利の様子。
　改めて考えると、ティトは『UFC』でのスターの座をほぼ手にしかけていると言えるだろう。若くて強くてグッドルッキングの上、ライオンズ・デンとの抗争を煽るだけ煽ってオイシイところは自分がいただくプロ根性も素晴らしい。もしここでフランクに勝ったりしたら若きカリスマになること間違いなし。また人気面でも申し分はない。7月16日に行われた『UFC21』にゲストとして招かれたティトは大歓声で観客に迎えられているのだ。
　今号の特集は英雄であるが、アメリカではすでに若きカリスマが生まれようとしている。
　絶対要注目！　なのである。

アマレス出身者特有の素早いタックルと強烈なパンチを武器に闘うティト。スタンドのパンチもまた威力抜群！

上の写真が問題の“ゲイ”メッツアーTシャツ。ケンじゃなくても当然怒るわな、これは。左の写真はブチ切れたケンを笑顔で軽くいなすティト。観客は総立ちとなり、関係者は事態収拾に躍起となる

【ティト・オーティズの主な戦績】

▼97年5月30日『UFC13』ライト級トーナメント
○対ウェス・ウルブリトン（補欠戦）
●対ガイ・メッツアー
▼99年1月8日『UFC18』
○対ジェリー・ボーランダー
▼99年3月5日『UFC19』
○対ガイ・メッツアー

UWFでトップに立った2人が言った!!

「マクマホンJr.は天才やね」(前田日明)

「トップ中のトップであるWWFにあがってみたい。アンダーテイカーの敵になる」(高田延彦)

このU系の超大物2人から同時期にWWFを認める発言が飛び出した。U系団体がアルティメット大会(現・UFC)の出現によって磁場が狂ってしまったように、海の向こうのマット界で大変なことが起こっている。ブレーキの壊れた暴走エンターテイメントと化したWWFは、アメリカ中で大ブレイクしているのだ。

これにはいくつかの要因があるが、完全なるエンターテイメントとして、アメリカ国民に受け入れられたからであろう。アメリカの世論調査でも8割以上の人が「プロレスを筋書きのあるドラマ」と捕らえているそうだ。

いったい、何がそんなに凄いのか?

マット界の総合誌『紙プロ』は、この世界最大のプロレス団体・WWFの凄みに迫ります!

講座

紙プロ流

WWF
World Wrestling Federation

構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai
扉イラスト／小澤孝
cover illustration by Ko Ozawa

まずはWWF（ワールド・レスリング・フェデレーション、以下WWF）がいかに凄いか、を語ってみたい。というわけでプロレス業界とは一線を置いた位置で眺めている方にお願いした。Vladさんという『ハッカージャパン』（白夜書房）等で執筆中のライターである。今回は、得意分野のインターネットを駆使して、WWFの年商など、とてつもない数字を導き出してもらった。いかにこの怪物団体が凄いか、この原稿で思い知ってほしい！

●

最初に断っておかねばなるまい。筆者はもともとスポーツ観戦が大嫌いだった。今でも基本的には変わらない。他人のパチンコ台を眺めていてもちっとも面白くないのと同様、始まりと終わりとの間にあるのは、血と汗と根性と蓋然性の連鎖が織りなす「物語もどき」としか思えなかった。はっきりいって、まったく興味がもてないのである。ところが、だ。

ケーブルテレビに加入して間もない頃、何気なく回したチャンネルに映っていたのはWWFだった。「何だプロレスか」……なんの感興も覚えず、ただ画面をぼおっと見ていた。不思議なことに、その時テレビに映し出された試合会場は、満席のざわめきにもかかわらず、停電している。事故かな……気になって目を凝らしていると、なんとリングに穴があいて、中から煙が出てくるではないか。な、何だ……？するとその穴の中から、得体の知れないレスラーが怨念に満ちた表情で、まるで悪魔の復活のようないで立ちでゆっくり姿を現したのだ。それを見つめる、リング上の対戦相手の恐怖に震えた顔。その真剣で、馬鹿馬鹿しくて、ゴージャスな構図。

それ以来、筆者はWWFにとりつかれてしまったのである。

WWFは面白い。面白すぎる！ こんな見せ物見たことない！ WWFと出会えたことを筆者は心底、幸福に感じている。皆さんも是非見てください。以上！

……というのが、おそらく一番適切なWWFの紹介文なのだろう。これは断じてプロレスなんかじゃない。スポーツ番組じゃない。日本の腐ったテレビ番組なんかより数百倍面白いゾ……というのは、最近とみに増えている日本のWWFファンから口々に漏れる言葉だ。

WWFでは奇跡が続出する。20年前に火災で焼け死んだはずの男がレスラーとして復活するのだ。一匹狼の下品な田舎者チャンピオンが、なんとWWFのCEO（代表取締役）に就任してしまうのだ。だいたいどこの社長……全米優良企業500社にノミネートされている企業のオーナーが、リング上でチャンピオンに脅され失禁したり、6メートルもダイブして机にたたきつけられたり、衆人環視のもと、熊のぬいぐるみを見て狂ったように泣きじゃくるだろうか。

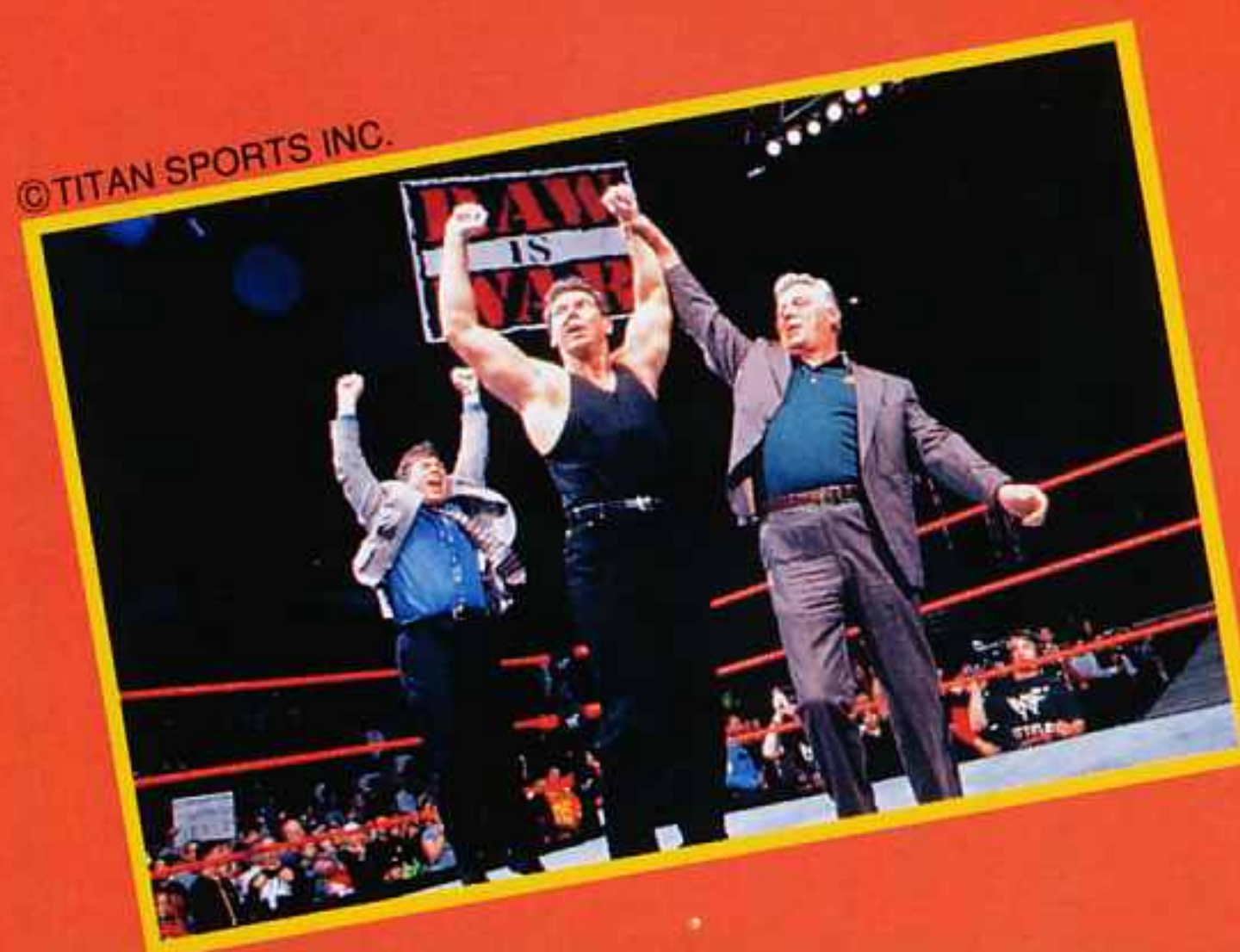
WWFは一流のアスリートであり、同時に一流の俳優たちのプロレス試合、という素材のおりなす、掛け値なしに贅沢な、最上のエンターテインメントの一つだ。

WWFでは試合中でも選手控え室にカメラが入る。そこで選手やオーナーの陰謀に満ちた日常会話（？）やウラ取引などが公開されているのだ。

実際、放送時間の半分以上がこの「裏舞台」放映に費やされる。そこがWWFの面白いところのひとつだ。

WWFを「ヤラセ」とか批評するのはまったくの筋違いである。アメリカの観客も、みんな「わかっている」。わかったうえで、みんな「イエー!!」と喜んでハマりまくっているのだ。

筆者も、ストーンコールドが登場すると思わず右腕を振りかざしてしまう。さて、今回はこのWWFが「どれほど贅沢なショーなのか」を見てみよう。

このWWFは初代ビンス・マクマホン氏が'63年に創立し、'82年以降はTitan Sports（以下、タイタン）というアメリカの同族会社が運営している。タイタンの現社長は創立者マクマホン氏の孫であり、WWFという「はちゃめちゃ凄いドラマ」の「主人公」である、お馴染みビンス・マクマホン・ジュニア、その人だ。

アメリカの『Forbes』誌ウェブサイト（http://www.forbes.com/tool/toolbox/private500/asp/tearsheet.asp?year=1998&index=475）によれば、'98年度全米優良企業500社のうち、475位にランキングされているこのタイタン社の、同年における総収入は5億ドル（約500億円）、従業員数はおよそ300人となっている。

タイタンのメインビジネスであるWWFは、TV番組だけでもケーブルテレビなどにより120カ国、5億人以上に放映されている。アメリカのケーブルTV（USA Network）プログラムでは、12のPPV（有料視聴テレビ番組）プログラムと200を越える試合の生放送で、WWFはトップの座を占めている。いまやプロレスは、ケーブルテレビのメインディッシュなのだ。

またWWFはインターネットにも進出している。WWF.COM（http://www.wwf.com）はいままでに延べ8500万回のヒット数を誇り、毎月220万人が「初めて」そのサイトを訪れている。スポーツのウェブページでは全世界5位、また世界中のすべてのウェブサイトでは、上位30位という化け物サイトだ。

アメリカのもう一つの主力団体であり、有名なハルク・ホーガンらが在籍するWCWの去年度の総収入が2億ドル強であることを考えると、ケーブルテレビやPPVを席巻するプロレス番組のなかでも、WWF人気が如何に飛び抜けてすごいものかがわかる。

広告主リストも豪華絢爛たるものだ。アメリカの超一流企業がこれでもかとWWFを応援しているのだ。「青白く繊細な感受性の持ち主」とはまったく正反対の、選りすぐりのタフガイやオタクや金髪ネーチャンが群がるWWFには、AT&T、CBSエンターテインメント、コカコーラやシアーズ、20世紀フォックスから、なんと米軍やUS沿岸警備隊まで、合計87社が広告主に名を連ねている。日本のゲームメーカー（Capcom、ナムコ、任天堂、セガその他）やホンダ、ビクターも肩をならべている。

WWFは毎週行われる試合（RAWなど）の他に、年間で約12回のPPV試合を開催している。'99年度ではロイヤル・ランブル、レッスルマニア、リングの王者、サマースラム、サバイバーシリーズ、そして毎回異なった趣向を凝らしたPPV（2、4、5、7、9、10、12月に開催）などである。そのどれもが、思わず「ごちそうさま！」と言いたくなるほどの、見応えたっぷりなものだ。

PPVの場合、RAWでの「ストーリー展開」にあわせてメインイベントが決まる。例えば2月に開催された「バレンタインデーの惨劇」というタイトルがついたPPVは、憎みあう宿命の2人……田舎者で野卑なチャンピオン・ストーンコールドと、WWFの社長マクマホン氏が死闘を繰りひろげた。繰り返すがマクマホン氏は「社長」だ。レスラーではない。フィットネス好きのビジネス親父なのだ。でも、やっちゃうのだ。

ちなみに1興行の観客数の平均は1万人を優に越える。チケットは19ドル45セント。安い。うらやましい。生で見たい！

またタイタンは、WWFに関する出版（'96年12月から発行されている月刊誌『WWF RAWマガジン』は毎月400万部売れている）、ビデオ、CD、各選手や試合をモチーフとした玩具やTシャツなどのライセンス商品を、全世界規模で販売している（タイタンは最近、ラスベガスでホテルとカジノの経営をも開始した）。レスラーが着ているのと同じTシャツが手に入るのだ！……つまり、WWFはTシャツのファッションショー的要素もあったりする。

WWFのトップスターと言えば、まず筆頭にあげられるのは6フィート・2インチ、252ポンドのS・ウィリアムズ氏である。34歳にして年収5百万ドル（約5億円）を稼ぐこの人物は、WWFでは「田舎者で野卑なチャンピオン」ストーンコールド・スティーブ・オースティンとして大活躍している。彼のキャラクターはWWFのショーには欠かせない存在であり、最も人気の高い選手であることは、去年だけで彼のキャラクターが使用されているTシャツが1200万枚も売れたということにも端的に表れている。平均的なレスラー150人の基本サラリーは8万ドルから20万ドルの間であることを考慮すれば、ストーンコールド・スティーブ・オースティンはまがうことなきスーパースターなのだ。

RAWでは「マネキン人形の頭を振りかざす狂ったレスラー」であるアル・スノーは「WWFはちょうど、ハリウッドのスタジオが最盛期であった'30年～'40年代と同じようなものだ」と語る。

スノーの言うとおり、やがてプロレス業界はハリウッドと同じ進化をたどるのだろう。

映画が単なるスタジオの世界での俳優たちの演技から、科学技術や広告戦略の巨大な複合プロジェクトへと進化したのと同様、全世界に配信されるケーブルテレビやPPVというメディアはプロレスを、リング上での選手の試合という形ではもはや収まりきれない、一大エンターテインメントへと進化させる可能性がある。またWWFは新しいメディアの持つ力に変幻自在に応じる、しなやかな弾力を持っているように思える。

筆者のような「邪道なスポーツ感性」の持ち主には、楽しみな時代かもしれない……いや、これは一度見たら、誰でもハマりますよ！

とにかく、WWFを見よう!!（Mad）

WWFは、従来の「プロレス」の固定概念をことごとくブチ壊してくれる。さすが、「レスラーは確かに殴り合うが、それはもちろん演出の一種」と公式コメントした唯一の団体だけあって、やることなすことがいちいちド派手でわかりやすい。たしかに冬木が「エンターテイメント・レスリングは（観客は）何も考えなくていい」と言っていた意味がよくわかる。次から次へと襲いかかってくる「ものすごいスケールで常軌を逸したプロレス」の衝撃場面をいろんな人に見てもらった。果たしてこの人たちがどういう反応をして、どういう感想を抱くのか？　ただ単にそれが知りたくて、こういう企画をやってみました。ええ、もちろんボクも何も考えてません。

©TITAN SPORTS INC.

SAMPLE·5

StoneCold Steve Austin vs Vince McMahon

新CEO～株券争奪マッチ～WWF王座返り咲き

“悪のオーナー”ビンスvs“新CEO”ストーンコールドの因縁！

総評

ストーンコールドがWWFの新CEOとなって、会社をメチャクチャにする映像だけで子供たちのハートは鷲掴みになった！「子供みたい」という子供たちの新CEO評。重役会議でビールのガブ飲み大会を開催するのだが、それよりも「テメエはツラが気に入らねえ」と理由だけで重役がクビになる理不尽さがツボに入ったようだ。ビンスへの「アス・ホール！（クソ野郎）」コールも、1万人単位で下品な単語を大合唱している様にカルチャーショックを受けた模様。ハシゴマッチ～vsアンダーテイカー戦でベルト奪回という流れには子供たちも思いきり感情移入して、最後にベルトを奪回すると「やった～！」と大喜びだった。

最近の子供たちはK-1は知っていてもプロレスをほとんど知らない状態で育っているらしく、ほぼ全員が「プロレスを見たことない」そうだ。無理もない。両メジャー&女子プロの地上波中継は深夜でしか見れないのだから、子供に浸透するはずもない。そんな状態でWWFが男の子に抜群にウケまくった、という事実は、未来のプロレスを考える上で重要な指針となり得るだろう。この中で子供たちが一番インパクトを感じたキャラクターはストーンコールドだった。単純に、会社をムチャクチャにしたり、道徳上好ましくないことを平気でやってるストーンコールドがいいのだという。「悪いことするヤツの方が楽しい」「人殺しみたいなキャラクターの方がいい」「正統派は普通のプロレスしかしないから、つまんない」といった感想が多かった。ビンス親子の陰謀でCEOの座から転落して、その後アンダーテイカーからベルトを奪回するシーンでは「ハゲチャ（＝ストーンコールド）、すげえ！」と単純に大喜びなのだ。ボクの拙い編集で、ここまで子供たちがじっくりと見入っているのだから、WWFはそれだけ“引きつける映像”なのである。「お笑い番組とかバラエティみたいだね」というプロレスを初めてまともに見る子供たちが、WWFの本質的な部分を突いていた。

ここでビールがなくなり、買い出しに行った。しばらくして戻ると、WWFがいつのまにか修斗の後楽園大会のビデオに変わっていた。いきなり、五味vs桑原を見る会に企画変更。「これは今年のベストバウトだよ！」と店長もオススメの一戦である。「五味クンはアメリカン・プロレスですよ。彼はナチュラル・ヒールです」というだけあって、たしかにいい顔をしている。試合中にダウンを喫しても、「全然平気」というのをアピールするために、レフェリーの落としたボールペンを拾い上げるなどしている。結局、その後オースチンvsマクマホンを流したが、結局、その間もほとんど雑談に終始。嗚呼……。

根がプロレスファンの2人だけに、プロレスには理解も憧れも持っている。そんな2人だから修斗や格闘技の中に、アメプロ的要素を持ち込むこともやぶさかではない、むしろやってみたいといった感じだった。さらに、「もし、プロレス団体から声がかかったら？」という質問をぶつけてみたら、「こんな身長170センチのオレでいいんだったらやりますよ。修斗の選手もみんな食えないから他の仕事をやりながら、修斗をやってますからね。職業プロレスラーとしてやってみたい。修斗はライフワークですね」と村浜選手。佐藤選手の夢はデカい。「オレは修斗でヘビー級のチャンピオンになった後、全日本に入りたいんですよ。渕（正信）さんみたいになりたいですね」ととてつもない野望を持っている。試合以外の部分でリンクのしようがあると思うのだが……「これはレビューであり、ミュージカルなんだから。それにみんなエンターティナーなんだよ。日本人でここまでしゃべれるプロレスラーいないじゃん。高級ショーガールと立ちんぼの違いだね。あとは、坂本プロデューサーをビンス・マクマホンにするとかね（笑）」とは『ファイター』店長の感想だ。ちなみに、SBを離脱した村浜武洋だが、「あいつも充電期間を経て、いろいろ考えてるみたいですよ。いまはここまでしか言えませんけど」とのこと。

「これを見た限りは、花くま先生が『ストーンコールドになりたい』とまで言った理由がわかんないな」と、いまひとつ腑に落ちない様子の吉田豪。たしかにボクの編集も満足いくものではなかったと思うが……ジャイ子は遂に横になって画面を眺め始める。とにかく、ストーリーの起伏に関係なく、ひたすらボンヤリと画面を眺めていた。次第に2人で文句をたれ始め、「杉作さんに見せてもらったビデオの方が面白い」だの、「DDTとどっちが面白いの？」だの、オースチンを見て「これって高木三四郎でしょ？」だの……うるさいから最後のストーン・コールドの王座奪回を見るまでもなく、ビデオをチェンジ！

これ以外にもいろいろ見せてみたのだが、なかなか吉田豪のおメガネにかなうレスラーはいなかった。結局、その後もダラダラとビデオを眺めていたら「こいつはいい」と認めるヤツが1人だけいた。あの毒舌・吉田豪に「コイツは好き」と言わしめたのは、“リーサル・ウェポン”ことスティーブ・ブラックマン!!　「ああいうトンファーを振り回したりする、余計な動きをするヤツは好きだね」とのこと。ジャイ子は同じデカ女ということでチャイナをいちばん気にしていた。ただ、全体的にはあくびまじりでぼんやり眺めているだけといった様子。思い入れが持てない原因をいろいろ探っていくと、「見慣れないガイジンがいくら女装して試合をしようが、いくら重役室でビールを飲もうが、驚かないよ。日本でもDDTやFMWとか、こういうエンターテイメント路線をやりそうな人がやってるからなあ。たとえば、バリバリのストロング・スタイルの選手とかU系のS選手とかキングダムのI選手が女装して試合したら、ホントに驚くけど（笑）。いきなり連続ドラマの途中だけ見せられてもなあ。まあ……眠いね」とは吉田豪の結論。ジャイ子は「続けて見たら、面白いだろうなっていうのはわかった」らしい。結局、この2人プロレス観を変えるまでのインパクトは残せなかった。残念!!

この衝撃をはじめて受けた人はどうなるのか？

アメプロ実験室

イラスト／中川雅博画伯

SAMPLE・1
Val Venis vs Prince Albert
AV男優（左）が、ピアス・ハゲを手錠で固めて入れ墨を彫る！

SAMPLE・2
The Big Show vs Hardcore Holly
会場外で大巨人が車を突き落とす！ 1m下の対戦相手に落とす！

SAMPLE・3
The Undertaker vs HHH&Chyna
(The Rockの乱入あり)
アンダーテイカーの試合中、天井から鼻息も荒い牛が降りてくる！

SAMPLE・4
D-GENERATION-X vs WCW
ライバル団体・WCWとその親会社CNNをバズーカで砲撃!!

〈子供vsWWF〉

プロレスをほとんど見たことがない12～13歳の男の子&女の子
K-1は見てるけど、プロレスはほとんど見たことがないという中学1年生の男女4人に集まってもらったぜ！ かなり楽しんでくれたぞ！
（左から）大仁田純クン、清水拓哉クン、持田真吾クン、峰間照美チャン

余計なプロレス知識や固定観念のない子供を相手にこそ、WWFは有効なはず。しかも、子供の喜びそうな単純な下ネタも多いし、試合自体もわかりやすい。というわけで、この一戦を最初に見せたところ、つかみはOK！ いきなり手錠をかけるシーンでウケる、さらにケツを出して、入れ墨を入れるシーンでまたウケる。入れ墨を彫り終わると、勝手にテーマ曲が流れて帰っていくシーンも、ウケが良かった。しかし、女の子はこれを見ても反応がない。「何やってるのかもわからないし、興味もない」とのこと。何をどうすれば、女の子の興味を引くのだろうか？「V6が出てないと見ない」だって。

まずは「現代に蘇ったアンドレ・ザ・ジャイアント」ビッグ・ショーが身長230センチ、体重220キロであることを教えてあげると「すげぇ！」と素直に感動していた。しかも、その肉体を見て、「これはタダのデブじゃない」「あれは筋肉だ」と、議論まで始めている。最近の子供は賢いね。車を突き落とすシーンでも「ウォォォ」と一斉に驚きの声があがる。「力持ちだぁ!! すげぇ!!」と素直に驚きを隠さない。ホーリーの頑丈さにも感嘆していた。「プロレスじゃないみたい！ おもしろいよ」と異様に燃え上がる男の子たちに対して、女の子は「気持ち悪い」と感じるらしい。肉体の怪奇性の部分を嫌ってしまうようだ。

ロックには決めゼリフがある。「●●●をキサマのケツの穴に突き刺してやる！ ロック様の妙技を味わいやがれ！」というもの。これが子供たちのツボにヒット。ビジュアル的なウケは良くなかったが、マイクアピールする姿は抜群に「面白い」というリアクションが返ってきた。天井から牛が降りてくるシーンは、新鮮な驚きがあったようだ。「プロレスの試合中に、なぜこんなことが起こったの？」という純粋なリアクションが返ってきた。しかし、アンダーテイカーは子供ウケしそうだが、今回はリアクションはいまひとつで、「まあまあかっこいい」という程度にとどまった。確かに最近はかなり人間っぽいしな。

子供に見せた映像の中でいちばんウケたのがこの映像。WCW砲撃シーン。DX軍が、バズーカ砲のついたジープに乗って出てくるだけで、「すげえ！」「何すんの？」とこれから起こるであろう破壊行為に期待が高まる。そして、CNNビルが爆破される（もちろん合成画面）と、この日で一番大きい歓声が上がった。「DX軍お得意の「SU*KIT!」ポーズは、まだ意味がわからないらしく、しかもこの映像だけは字幕もついていなかったので子供たちに伝染するには至らず。ちなみに、ホントに爆破したと思うか、聞いてみたところ、男の子3人のうち2人は「ホントに爆破している」と答えたのも興味深い。

〈総合格闘家vsWWF〉

現役バリバリの強豪総合格闘家2人と格闘技ショップ店長！
絶賛活躍中の佐藤耕平選手（JJA）＆あの村浜の兄・村浜天晴選手（WILD PHENIX）と『新宿ファイター』の福井店長が見てくれたぞ！ この2人は要注目だ!!

この取材は『新宿ファイター』店内で行ったのだが、映像を見る前に買っておいたビール24缶を3人で飲み干してしまった。ゴキゲンモードで、さらに4リットルのビールとおつまみを追加。すでに見る前からストーンコールド状態に突入している。まずはヴィーナスがAV男優ギミックだと聞くと「マグナムTOKYOみたいですね」と分析を加える村浜選手。いまでも週刊誌で情報収集は欠かせないという。入れ墨シーンを見て、佐藤選手は「もう、プロレスじゃないじゃん」とバカウケ！ 昔、ゲームセンターにあったWWFゲームにハマった世代だけに、ここ最近の暴走エンターテイメントに面食らっていた。

「中学のときに、近所の熱帯魚屋さんに田上明さんが来てたんですよ。『キミは身体もデカいから、プロレスラーになれ』と言われて、それでプロレスラーになろうと思ったんです」という佐藤選手はアルティメット・ウォリアーが大好きだったという生粋のプロレスファン。村浜選手は、現在の修斗の中ではかなり異質なことに挑戦している。試合の前後に酔拳のパフォーマンスをしたり、コスチュームを『スポーン』風にして、シッポを付けてみたり。「憧れるなあ。あと身長が10センチあれば、こういう世界に行ってみたかった」という村浜選手も昔からのプロレスファン。そんな話をしていたら映像を見忘れてしまった。

「ロックはかっこいいなあ」と声を揃える2人。出来れば試合前の『Fighting TV SAMURAI!』のインタビューもロック風にやってみたいという。ただ「それをやっちゃうと負けたときカッコ悪いからなあ。でも、強ければ何をやっても許される世界ですから。『村浜だから、ああいうことやっても許されるんだよ』と言われたい」と村浜選手の談。試合後に天井から降りてくる牛を見て、「オレたちもシンボルマーク欲しいなあ」と声を揃える。「最近は『村浜＝お酒』っていうイメージを付けたいんですよ。実際、試合後はラムとか飲んでますから（笑）」。しばらくすると飽き始めたのか、佐藤選手は携帯電話で誰かと話し始めた。

ライバル団体を砲撃するという、ある意味、格闘技における道場破りのようなこの行為を見て、「そんなのやっていいんですか？」と目を丸くする村浜選手。「アメリカだったら何でもアリでしょ。ペプシとコーラの宣伝合戦みたいなもんでさ。だから、修斗もこういうのやればいいんですよ。たとえば●●●を攻撃するとか」と店長。ここから次々と爆弾トークが繰り広げられた。いまの修斗では、プロレス色を出さないような、ある意味でのイメージ戦略があるが「オレたちはオフィシャル・ジムじゃないから、まだ気楽ですよ。別にいまの修斗にも窮屈さは感じないですけどね」と村浜選手。是非、ド派手なことを期待したい。

〈『紙プロ』vsWWF〉

アメプロをほとんど見たこともない本誌編集部員たち（入稿中でヘロヘロ）
吉田豪＆ジャイ子は、週刊誌の誌面では見ていても、最近のアメプロ映像は見ていない。疲れもピークのAM3：00からたっぷりと濃密なアメプロの世界を味わってもらった。ジャイ子は途中でダウン!!

「オレはアメプロ好きだよ。ケロちゃんの解説が楽しみで何度かテレビ埼玉のWCW見てたし」という吉田豪。「WWFってJBエンジェルスが出たところでしょ？」というジャイ子。嫌がる2人を無理矢理、TVの前に座らせた。全身ピアスだらけのアルバートを見て、ジャイ子は「小野武志みたい」と一言。吉田豪はヴィーナスを見て「いい身体してるな、注●？」と、いきなり毒舌攻撃。アルバートに無理矢理手錠をかけた瞬間、吉田豪は「わかった！ WWFっていうのはマサ斉藤だな」と、猪木vsマサ斉藤の手錠マッチを引き合いに出す。入れ墨を彫るシーンを見ても、「そんなの大矢の植毛みたいなもんだろ」と一蹴。

どこでもフォールを取っていい、反則フリーの「ハードコア・マッチ」で行われたこの一戦。場外乱闘が会場外乱闘にまで発展すると「これぐらい鶴見青果市場でもやってるよ」とジャイ子。ホーリーをダウンさせ、その1m上から車を突き落としてビック・ショー勝利！ 車をも動かすビッグ・ショー（ex.ザ・ジャイアント）の怪力に、「すごーい！」と素直に驚くジャイ子。だが、ルールを把握していないジャイ子は「車を壊したら勝ち？」と素っ頓狂な発言。ところが吉田豪は「これで大騒ぎしてるの？ 車だったらみちプロでTAKAも壊してるじゃん」とあくまでも驚かず、クールな姿勢を崩さない。

アンダーテイカーvsHHHの試合中、天井からロックのシンボルマークである“牛”が降りてくる。まあ、張りぼてなのだが。すると、ここぞとばかりに「何だよ、金かかってねえじゃん！ ちゃっちぃ!! ダマされたよ！ 牛のギミックだったら天山の方が凄いよ。角を付けたりして、ロックには牛度が足りない！」とボロクソ。その牛のシンボルにアンダーテイカーのマネージャーがくくりつけられるが、オーエン・ハートの事故後だけに宙づりはなし。「『今度は落ちるけど大丈夫』とか、それぐらいやれよ！」とこれもボロクソ。「ザ・ロックは前から気になっていた」らしいが「映像を見たらイマイチ」とのこと。

アメプロに疎い吉田豪も、さすがにこのシーンだけは覚えていたというほどインパクトのあるシーン。HHH、チャイナ、Xパック（ex.1-2-3kid）がWCWをバズーカで攻撃しに行くというアメリカならではのパフォーマンスなのだが「早朝バズーカみたいなもんだろ？ 元気が出るTVじゃん」と毒舌三昧。さらに合成映像によるCNN爆破シーンを見て、ジャイ子は「フフフ」と鼻で笑う。「こんなもんは、旧『紙プロ』16号でやった早朝人間バズーカの方が面白いよ。人間バズーカは身長2mで飛ぶんだぞ！ アメプロのバズーカは飛ばしてないじゃん。合成だし。八百長だよ！」吉田豪の毒舌が冴えまくった。

【取材協力】新宿ファイター 東京都新宿区3-3-9伍名館ビルB1F TEL:03-3354-1903

佐藤耕平■77年9月21日生。191センチ100キロ。村上一成率いる順道会館（JJA）の若手のホープ。恵まれた体格の持ち主で将来、絶対大物になる男。修斗で大好評活躍中！
村浜天晴■72年9月2日生。170センチ74.5キロ。リング上で酒を片手に酔拳パフォーマンスもやるファンキーなファイター。元・SBの村浜武洋の兄。修斗で絶賛活躍中！ 注目!!

私、~~ドリフターズ~~WWFの味方です!!

文・坂井ノブ
スーパーバイザー・吉田豪

伝え聞くところによると、世間では衛星放送やケーブルTVを通じてWWFにハマる人が急増したり、ベースボール・マガジン社の『アメリカーナ』がバカ売れしたりしているらしい。どうやらプロレス業界プラスそれ以外の層も巻き込みながら、新しいムーブメントが起こりつつあるようだ。

もちろん、あちらの国では、真偽のほどはさておき、街の3分の1はストーンコールドTシャツを着ていると言われるほどWWFが大ブレイクしているのだ! そこで18歳以上を対象にした世論調査をしたところ10人中8人はプロレスを「筋書きのあるドラマ」だと思っているという結果が出たそうだ。すでにWWFも「プロレスラーは殴り合うが、それは演出のひとつ」というコメントを出しているほど。そうやって割り切りつつも、アメリカでは前のページで書いたように大変な事態が起こっているのである。

というわけで、ボクはアメプロ不毛だった我が社に、WWFのビデオを毎週持ち込んだ。しかし、ボクの意気込みは思いっきり空回り。誰に見せても、何を見せても、返ってくる反応はいまひとつ。わずかに下品好きなチョロが思い出したように「サック・イット!!」と叫ぶぐらいのものである。

今回、取材として本誌スーパーバイザー・吉田豪に、WWFの映像を見せてみたが、「そんなに凄い?」とあえなく撃沈。そんなとき、ボクが何の考えもなくボソッと言った一言が、日本のプロレスとアメリカのプロレスの違いを導す突破口となった。その一言とは……

「WWFってドリフみたいですよね」

すると、小4の頃に練馬区ヒゲダンス・コンテストで第2位に輝いたこともある吉田豪の目がギラリと光った。「WWF=ドリフ」説から、思いもよらぬ様々な論理を導き出したのだ! さすがは、スーパーバイザー、目のつけどころが違い過ぎる! 吉田豪の提唱する「WWF=ドリフ」説はこうだ。

「いまWWFが評価されてるのは日本のプロレス界が下火だからでしょ。WWFがドリフのような練り込まれたストーリー仕立てのコントだとしたら、昔の新日本は『ひょうきん族』みたいなアドリブ性の高いことをやってたんだよ。でも、**【猪木さん=ビートたけし】**が抜けたことによって、『ひょうきん族』がパワーダウンして、『カトちゃん&ケンちゃん』に取って変わられた。いま日本のプロレス界でも、それとまったく同じことが起こってるんだよ」

なるほど! そうすると絶対的なリーダー**【ビンス=いかりや長介】**がいて、それと仲が悪いスター**【ストーンコールド=志村けん】**もいる。しかも、そのスターは反社会的な行為**【ビールをガブ飲み=スイカの一気食い】**を堂々とやってのける痛快な野郎だ。子供好きのする下品なギャグ**【サック・イット!!=ウンコ・チンチン】**もあれば、男がバカな格好**【イブニングドレス・マッチ=ちょっとだけヨ】**することもある。しつこいぐらいに乱入を繰り返して試合(コント)をブチ壊すヤツ**【スティーブ・ブラックマン=すわしんじ】**もいる。次々とドリフとWWFと日本プロレス界の接点が浮き彫りになってくる。

「でも、時期がくると『ドリフ』を見てるヤツはヤバいってことになったように、『ひょうきん族』の時代が来ると思うんだよね。結局、『ドリフ』が過去最高視聴率を取ったのは停電になったときでしょ(笑)。練り込まれたものが崩れた瞬間が、みんな見たいんだよ。その点、『ひょうきん族』は凄いよ! 上下関係とかイジメとか人間関係が全部見えるから(笑)。鶴ちゃんの『おでん食い』なんか……」

といった具合で、いかに『ひょうきん族』が面白かったかという話に移っていったのだが、どっちが上かという結論は出そうにない。さながら、馬場と猪木の関係のようだ。

何はともあれ、WWFがドリフなら、日本には、そういうものが根付く土壌があるということである。ゴールデン・タイムだって狙えるぞ! ドリフも10年以上続いて長寿番組になったのだから。

そういう意味では、このままWWFが日本を席巻する可能性も大いにあるのである。

© TITAN SPORTS INC.

BAS RUTTEN

ex UFC heavy weight Champion

バス・ルッテン

先日UFCヘビー級王者のタイトルを
返上したばかりのバス・ルッテンが来日した
バスといえば元キング・オブ・パンクラシスト
桜庭和志の『PRIDE』での闘いを通して、
パンクラスがさまざまに分析されている昨今、
バスの意見は貴重であろう
また、バス自身もケビン・ランデルマンとの舌戦を
UFCで展開していたりと話題はつきない
日本の状況を踏まえつつノールール系の試合を語る時、
これほど相応しい男はいないだろう
沖縄での新格闘技イベント『カキダミシ』に参加するため、
来沖したバス・ルッテンにノールール系の試合で
現在起きているさまざまな問題をぶつけてみた

ULTIMATE FIGHTING CHANPIONSHIP

聞き手／中村カタブツ君
interview by Katabutukun Nakamura

撮影&通訳／黒田史夫
photographs & interpretation by Fumio Kuroda

待ち合わせのホテルのバーに行ってみるとビールを四、五杯飲んでゴキゲン・モードのバス。すでにほろ酔い機嫌で出来上がってる彼が桜庭VSブラガ戦やUFCでの抗争劇、フランク・シャムロックへの怒りなどを気持ちよくブチまけてくれた。迫力あるぜ、この酔っぱらいは！

——今、日本では『PRIDE.』とかバーリ・トゥードの大会や試合が盛んになってきてるんですけど桜庭和志選手については知ってますか？

バス　（ビールをグイっと一気に飲んで）もちろんさ！　世界の中でも何人もいないグレートファイターの一人だよ。ビクトー（・ベウフォート）との試合を見たけど、サクラバの後ろ蹴りでビクトーが倒れて起きてこなかっただろ。あそこでレフェリーは止めてビクトーを失格にすべきだったよ。サクラバはジャンプしてドカンってやって、ビクトーはヒューってなってるんだから完全にビクトーの負けさ（笑）。

——ドカンってやってヒューですか（笑）。

バス　ビクトーはノーハート！　闘いっていうのはハートの強さを競い合うことを言うんだよ。勝ち負けにこだわることじゃないぜ。サクラバと闘うかどうかに関してはビジネスになるけど、サクラバがUFCに来て闘うってことになれば闘いたいね（笑）。

——その桜庭さんなんですけど、彼がエベンゼール・ブラガには勝ったことで船木選手の評価が下がってしまったような感じが一部ではあるんです。だから「船木と引き分けたブラガに桜庭は勝った。だから桜庭は船木より強いんじゃないか」という比較論なんですが。

バス　オレはパンクラス時代にケン・シャムロックに負けてるよ。そのシャムロックはスズキ（鈴木みのる）に負けたけど、オレはスズキに勝っている。だろ？　その日、その時、その情況の結果だったってことさ。闘いっていうのはいつも同じ情況で行うわけじゃないんだよ。だから、フナキがブラガと引き分け、サクラバがブラガに勝ったとしてもそれでサクラバがフナキより強いってことになるわけないじゃないか。そんな見方に意味ないぜ。だろ？　サクラバはベリーグッドファイターだし、T・K（高阪剛）もそうだ。そしてフナキもさ。ファイターの中には偽物のどうしようもないのもいるけど、彼ら3人はベストでリアルなファイターさ。それよりキミもなんか飲めよ（笑）。

——ビールをいただきます（笑）。で、勝ち負けに意味はないというバスさんの意見はわかります。ただ、比較する気持ちも仕方ないと思うんです、残念ながら。だから、バスさんには、そう見られてしまうことについて船木選手になにか良いアドバイスがあったらお聞きしたいんですが。

バス　オレと同じようにしてみるのもいいんじゃないかな。オレがパンクラスを離れた一つの理由は身体を治すことだったんだ。とにかく試合で身体中がボロボロになっていたんだ。それを治すのがパンクラスから離れた理由の一つだったんだよ。フナキもこれまでの試合で身体中にケガが蓄積されてるんだよ。しっかり休みを取って身体を治して、それから闘ったらいいと思う。オレはいまでもフナキが世界の中でもベストなファイターだと本気で思ってるからね。身体さえ治せばまだまだイイ試合はできるさ。

取材後のクラブで飲んで踊って騒いでナンパするバス。ここでもバスはサイン攻めにあったりと、その名は浸透していた

——そうですね。今後もイイ試合を見せてほしいです。ところで、かつてヒクソン選手が強いといわれてましたが、最近はあまりそういうイメージがなくなっています。現時点でのヒクソン・グレイシーに対する気持ちを聞かせてください。

バス　（ビール一気飲み＆お代わり）もう興味ないなぁ～。まず最初に言っておきたいのは世界で一番強いなんてことはありえないってことだよ。もちろんヒクソンは最強だよ、柔術の世界ではね。「最強だった」と言った方がいいかな？　それも15年前とかかなり昔の話だぜ。もし（マーク・）ケアーとヒクソンが闘ったら絶対に勝てないさ。ヒクソンはバーリトゥードのファイターじゃないだろ？　いったい誰と闘ったんだ？　だけどケアーは本当に強いファイターさ。ヒクソンは絶対にケアーからテークダウンすら取れない。もしケアーがヒクソンと闘うなら、オレがケアーに…そうだな、2ヵ月間打撃を教えるね。そしたら、ヒクソンはボコボコさ（笑）。以前「誰が本当のチャンピオンか、ヒクソンか、あなたか？」というインタビューを受けたことがあるけど、そんなものはオレとかヒクソンでもないよ。世の中には強いヤツがいくらでもいるんだよ。誰が一番強いかなんてわからないだけどね、もしオレがヒクソンとやったら、たぶん勝つのはオレだぜ（ニヤリ）。なぜならヒクソンはそんなに強くないからだ。これはもうみんなわかってることじゃないか？　ヒクソンは自分のプロモーションの仕方だけはうまいよ。まわりの人間に「ヒクソンが一番強い」とプロモーションさせるやり方はうまいね。例えば、UFCのチャンピオンであるオレがキミのことを。キミはなんて名前だ？

——カタブツです。ブチでいいです（笑）。

バス　ブチか？　「ブチの方がオレより強い」って言ったらみんな信じるだろ？　そういうことだよ（笑）。ガハハハハ！

——ワハハハハ！　僕がバス・ルッテンより10倍強いと（笑）。ヒクソンが最初に注目されたのもホイスが「ヒクソンは私より10倍強い」って言ってからですよね。

バス　（ビールを一気飲みし）そう言うことだよ（笑）。彼が強いのは柔術さ。バーリトゥードではまったく話は別もんでUFCのライト級の選手でもヒクソンには勝てるよ。誰が世界で一番強いかなんて考えること自体おかしいんだよ。大事なのはスピリットさ。俺はケビン（・ランデルマン）との試合中、鼻をケガしてレフェリーやドクターに止められそうになったんだ。ファ～ック！　まだ闘えるんだぜ、オレは！　だから、オレは闘い続けたよ。大事なのは、この闘うハートさ！　それでオレはファイターだったんだと自分で感じられたんだ。ファイターのスピリットを持ち、リアル・マンだと感じられたんだ。大事なのはこれだよ。

——スピリットを試すっていう部分でバスさんは闘っているんですか。

バス　男としてのテストさ！

——カッコイイですね!!（笑）

バス　常にオレはこのテストにチャレンジしていきたいよ。それが好きなんだ。ただ、サクラバとは闘いたくはないね、彼はナイスガイだから。だけど、このままサクラバが勝ち続けていくとオレとサクラバのどっちの方が強いんだって話が出てくるだろうな。もし試合が組まれたならば、それはチャレンジしたいね。（一気飲み＆お代わり）

——それは楽しみですよ（笑）。エンセン井上選手もスピリットを見せることを重要だと考えている選手ですけど、彼についてはどう考えてますか。

バス　エンセンもイイ奴で強いよ。T・Kも強くてナイスさ。だけど、フランク（・シャムロック）

「ブチ（カタブツ）の方がオレより強い」ってオレが言ったらみんな信じるだろ？ヒクソンはそれと同じさ

フランク（・シャムロック）は変わちまった。ヤツとはもう友達じゃない!!

は勝ち続けているうちに変わった！

——え！　フランクさんがですか？

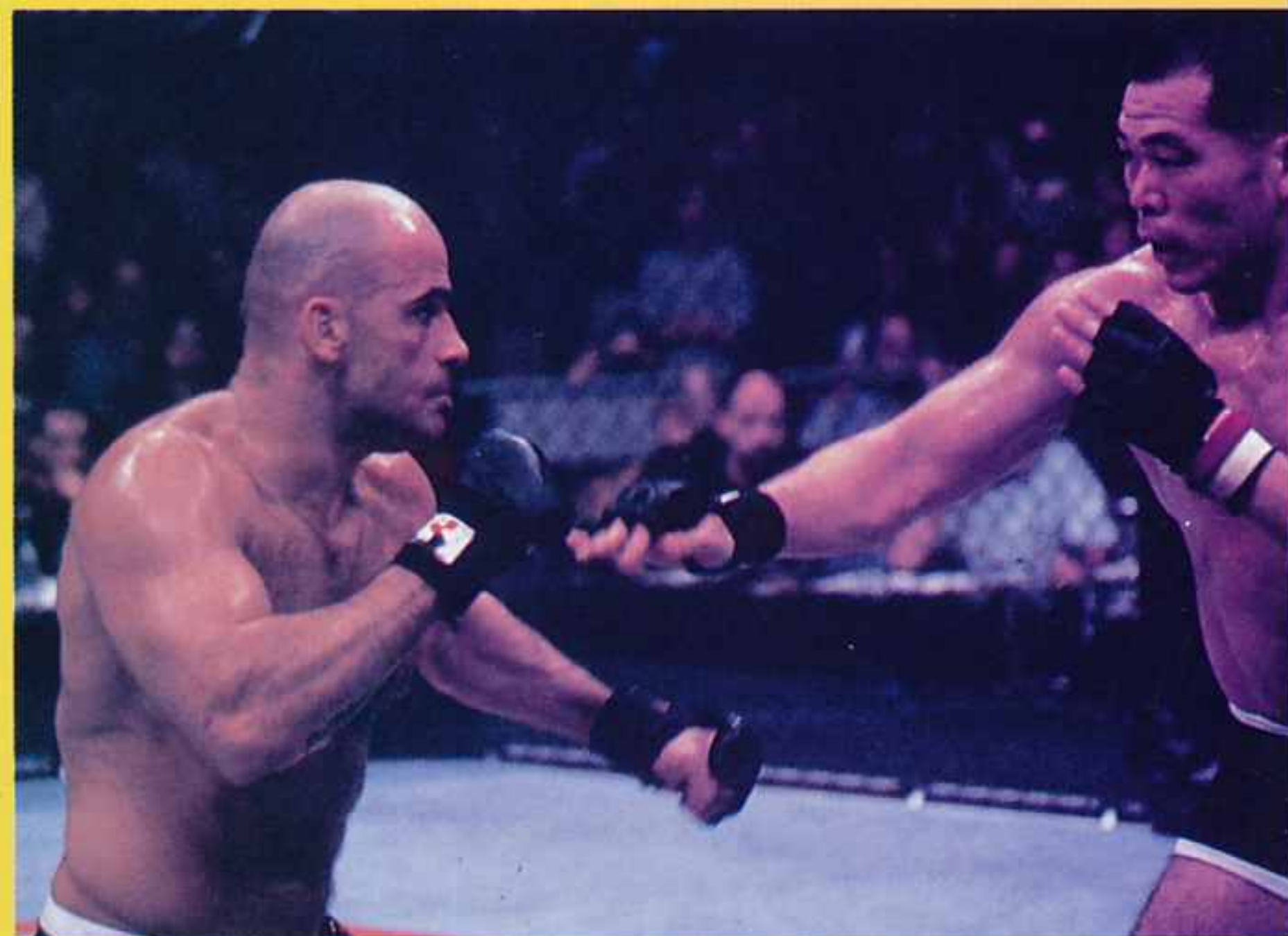
バス　そうさ！　他の人間の悪口を言うヤツになったよ！　ルールミーティングの時にも「おまえの骨を折ってやる」とか「ケツを蹴り飛ばしてやる」とか言うんだぜ。これはスポーツだぜ。なんでそんなことを言う必要があるんだよ。世界中の人間がフランクは変わったって言ってるよ。ヤツとはもう友達じゃない。なんか勘違いしてるぜ！

——勘違いしてますか（笑）。そういえばバスさんはUFCでヘビー級からミドル級に階級を落としましたけど、もしかしてフランクさんをブチのめしたいからですか（笑）。

バス　ヤツとはもちろん闘いたいね！　だけど、階級を落としたのは理由があるのさ。いままでヘビー級とミドル級のベルトを2本取った人間はいないだろ。もし、オレがそれを取ったら最初の男になれるからさ（笑）。もう一つはヘビーウエイトで闘った時のオレのウエイトは203ポンドだったんだ。ヘビー級の下のリミットは200ポンド。たったの3ポンド（約1・5キロ）しか違わないんだ。だから、オレがヘビー級で闘う時は常にデカイ相手とばかり闘うことになったのさ。本来ならミドル級で闘う方が自然なんだよ。

——じゃあ、その友達じゃないフランク選手とはどんな闘いになりますか。

バス　フランクはティト（・オーティス）とタイトルマッチをやるんで実際のところどうなるかわからないけど、もし闘うことになったら、それはスポーツじゃない！　フランクはオレのことをこう言ってるんだぜ。「ティトをブッ潰したあとはバスのケツを蹴るだけさ」って！　フランクは本当に死にたいらしい。格闘技っていうのはもっとナイスに闘うものさ。それをオレのケツを蹴るだぜ。キレるぜ！

——なんか凄い試合になりそうですね。楽しみですけど（笑）。ところで、バスさんは先日の『UFC19』の試合後にケビン・ランデルマンから判定がおかしいとか言われてましたよね。

バス　ヤツがいろいろ言ってることは知ってるよ。もう一回やりたいって言うならいつでもやってあげるぜ。だけど、オレとケビンの試合でヤツは一体何をした？　確かにヤツはオレの上になってたけど、ただ乗っているだけで何もしなかった。もしヤツが何かアクションを起こしたらオレはヤツの腕を極めることもできるし、パンチを入れることだってできる。だが、ヤツは動かない。ノ～！　どんなに上手くても機会がなければ何もできないよ。チェスなんかでも互いのコマを動かすから試合が成立するんだろ。ヤツはオレのパンチを恐れて、必死にテークダウンをしようとした。でも、グラウンドになったら今度はオレのサブミッションを恐れて何もしてこない。これがファイターか？　闘う必要なんかないだろ！　ゴー・ホーム！　ケビンがあの判定でまだ文句をつけるようならいつでも闘うよ。それともう一つ、みんなが勘違いしてることがあるんだよ。よくセミナーで教える時、みんなオレのグラップリングがヘタだと思ってるんだ。でも、思い出してほしいよ。パンクラスでの勝利のうち80％は寝技なんだよ。

——打撃が得意な選手っていうイメージは確かにありますね（笑）。

バス　オレはもの凄く優秀なグラップラーだと自分のことを思ってるんだけどなぁ～（笑）。

——わかりました。それは強調しておきます（笑）。で、最近、ティト・オーティスもガイ・メッツァーのことを“ゲイ”メッツァーと言ったり、UFCは少しそういう傾向がありますよね。

バス　それは完全にWWFのスタイルさ。スポーツじゃない。例えばチェスの試合で、そんな風に対戦相手のことをけなしたりしないだろ。格闘技の世界でも一緒さ。そんな言葉を吐く人間は格闘技をけなす者だよ。格闘技は口じゃなくて倒せばいいんだよ。そして、オレに対してそんな口を叩いた人間にはただ「OK！」って言うだけさ。リングに立った時にはスポーツじゃない。叩きのめすだけだぜ！　何度も言うけど闘いというのは勝ち負けじゃない。どちらが強いハートを持ってるかを見せることなんだ。どんなにケガしても闘い続けることだよ。強いハートを見せることが格闘技のすべてだよ。

——負けたくなくて防御ばかりして試合後に「オレはタップしなかった」とか言われても「だからなんなんだ？」って気はしますね。

バス　ハートが見たいだろ。だから、タカダの試合をオレは評価してるよ。彼の試合について、いろんな人間が好き勝手なことを言ってるけど、世界で一番強いと言われていた頃のヒクソンと実際に闘ったのは彼だけだろ。そしてマークとも闘ったろ。オレも含めてみんなヒクソンに勝てるって言うけど、実際にはやっていないんだ。だけど、ミスター・タカダはやった。だろ？

——そうですよね。その時、その時で「世界で一番強いんじゃないか」って言われる男とやってるわけですよね。

バス　凄いことさ。彼は自分のスピリットを見せたわけだから勝ち負けは全然関係ないんだ。格闘家の心を見せたよ。格闘技とはそういうことだぜ。カンパ～イ！

——乾～杯（笑）。そうですよね。ケアー相手に自分からいきましたしね。ところで、『UFC20』でモーリス・スミスと試合するマルコ・ファス選手（試合前での取材で、結果はマルコの1R5分TKO負け）は元気ですか？

バス　マルコは引っ越してしまっていまは一緒に練習してないけど彼とは変わらずに友達さ。マルコに言えることはドージョーでやってるのと同じ闘い方をすれば誰にも負けないってことさ。だが、彼にも家族がいるから危険を犯すようなことをしない。いつも危なげのないような闘い方をするんで勝てないんだよなぁ～。もしドージョーでモーリスと闘うんなら3分もあればマルコが勝つはずさ。ガーっとやってガンガンっさ（笑）。ベリーストロングだ。だけど（アレクサンダー・）オオツカとの試合はブルシットだ！

——え！　アレクさんがブルシットなんですか？

バス　ノー！　オオツカはベリーグッドだ。マルコのあの時の闘い方がブルシットだったのさ。も～う見てはいられなかったよ。あの時のマルコは肝臓を悪くしていて試合後に入院したくらいだったんだ。

——その後、マルコ選手は大塚選手と再戦したいというようなことは言ってましたか。

バス　マルコはいつも闘いたいって言ってるよ。本当に闘いたいって言ってるよ。だけど、オオツカが闘いたくないって言ってるんだ。

——大塚選手はマルコ選手にはもう勝ってるからいいと。闘うならヒクソンだと言ってるんですよ。

バス　それはわかるよ。当然さ。

——突然、話は変わりますが、WWFは好きですか。

バス　2人好きな人間がいる。ゴールドバーグとストーン・コールドだ。彼らのキャラクターは面白いし、人間性がよく出てる。凄くいいアクターだ。

——アクター（笑）。

バス　だけど、あとの人間はヘタだよ。だから、テレビを見ててもすぐに消しちゃうけど、この二人が出てきた時には本当に好きだから見るよ（笑）。

——もしも、年を取って闘えなくなったらケン・

シャムロック選手のようにＷＷＦに入る可能性はありますか。

バス　（ビールを飲んで）プハァ〜！　ＷＷＦからのオファーはもうあるよ。だけど、ＷＷＦに行ったら年間220試合もやらなければいけないだろ。1年中、家を空けることになるんだよ。それは一番大事な家族を失うことになる。オレは一度結婚に失敗してるんだ。前の妻との間に生まれた娘の成長をオレは見ることができなかった。そんな思いはもうしたくはないんだぁ〜。わかるかぁ？

──わかります。僕も離婚してますから（笑）。

バス　ブチもそうか？　カンパ〜イ（笑）。

──乾〜杯（笑）。

バス　だけど、ＷＷＦの試合をオレの生まれ故郷のオランダでやるのは危険だぜ。「あれはフェイクだ!!」って言って観客がリング上に殺到するぜ（笑）。ブラジルも一緒さ。彼らはアメリカや日本のようにＷＷＦを理解できないんだよ。

──血が濃いんですかね？（笑）

バス　日本なら「バス・ルッテンだ」ってことでサインをもらいにくるけど、オランダでは「バス・ルッテンだ」って喧嘩を売ってくるんだぜ（笑）。いまだにそうなんだから、イヤんなるぜ。オレは弁護士じゃないんだから、喧嘩を売られたら買うのは当然だろ（笑）。

──当然です（笑）。そういえば5、6年前にスウェーデンで喧嘩して留置場にブチ込まれたそうですね（笑）。

バス　ガハハハハ！　アレはナイトクラブの用心棒たちのタチが悪かったのさ。最悪のバウンサーたちさ。みんな元犯罪者なんだよ。

──どんな状況だったんですか？

バス　オレが飲みながら踊っていたら、ヤツらがやってきて突然こう言ってきたのさ。「ヘイ、バ〜ス、どうしたんだい！　もっとリラックスしろよ！」。ゴキゲンにやってたオレには意味がわからなかったよ。それからヤツらはオレの胸に指さして何かを言い始めたんだ。この指を指すってのは絶対にオレにやってはいけないんだ。指さすだけならなんとか我慢できるけど、指で胸をつくのは本当に危険だぜ。それをヤツらはしたのさ。「触るな！」ってオレが言った途端、そいつはいきなり指を目につっこんできた。

──いきなりですね（笑）。

バス　ファ〜ック！　キレたね。（拳を振り回して）ブ〜ンさ（笑）。一発でノックアウト！　次のヤツもブ〜ン、ノックアウト（笑）。二人ともＫＯさ（ウィンク）。あとから3人来て、そいつらも殴り倒して結局3人を病院送りにしてやったよ。だけど、ポリスはオレが悪者だと思ったんだ。彼らが来た時は全員ノビてたから勘違いするのはわかるけど、いきなり留置場だぜ！　何でオレがスウェーデンに来て捕まるんだよ。仕掛けてきたのはヤツらだぜ。1対5で何でオレが捕まるんだよ。おかしいだろ！

──おかしいです（笑）。

バス　だから裁判所で……なんでオレが裁判所なんだよ！

──おかしいです（笑）。

バス　あとでわかったんだけど、オレが強いファイターだってことが写真付きで新聞に出たらしいんだ。そしたらタフなヤツらが「本当に強いかどうか試してみよう」ってなってたらしいんだ。まぁだけど、オレが全員ブッ倒したんだけどね（笑）。ガハハハハ！

──凄いですね（笑）。ところで何日間留置場にいたんですか。

バス　2日間だよ。でも、最初、弁護士に聞いたら「バス、キミは最低3ヶ月。もしかしたら9ヶ月。刑務所に入れられるぞ」って言われたからビックリしたよ。ヤツらはオレが最初に手を出したって言ったらしいんだ。でも、友だちのオマー・ブイシュが、パンクラスにも上がったことのある彼がその筋の人間に知り合いが多くて、バウンサー達に威しをかけてくれたんだ。それで正しい証言がなされて釈放されたんだ。

──もうストリートファイトはしてないんですか。

バス　ノー！　オランダにいた頃は喧嘩してもポリスがきて「家に帰れ！」で済んだのさ。だけど、アメリカではすぐに裁判だろ。裁判になればグリーンカードを剥奪されてオランダに強制送還になってしまうんだよ。それにロスではだいたいのクラブのバウンサーとは知り合いさ。だから、酔っぱらいが絡んできてもバウンサーを呼べば放り出してくれる。もし、喧嘩になるとしても目撃者がいて、どっちが先に手を出したかわかる状況じゃなきゃやらないよ。誰もいないトイレとかじゃ喧嘩はしないよ。それでもやらなきゃならない時はチョークで締め落とす。ケガをさせないように気を遣うよ（笑）。

BAS RUTTEN

1965年2月24日オランダ・ティルブルグ生まれ。186センチ、92キロ。オランダ時代はキックボクサーとして活躍し、93年パンクラスで総合格闘技の試合をスタートさせる。95年には第3代キング・オブ・パンクラシストに輝き、2回防衛を果たしたのちに王座を返上。米国を基点に活動を開始し、今年の3月、対高阪剛戦でＵＦＣデビュー。6月の『ＵＦＣ19』ではケビン・ランデルマンを破ってＵＦＣヘビー級王者となるが、判定に不服のランデルマンはバスをののしりまくり、会場は一時騒然となる。、その後、ミドル級への転向を宣言したルッテンはヘビー級のタイトルを返上。だが、ランデルマンがガタガタ言うなら、いつでもやってやると熱い。ちなみに写真は酔っぱらってバーのピアノを弾き語るバス。ナイス・ガイだぜ！

──気をつけてくださいね（笑）。では最後に日本のファンに一言お願いします。

バス　日本のファンは世界一のファンだ。それは一生の契約としてここでサインしてもいいぐらい本心だよ（笑）。っていうのは日本に来る前にオレはキックの世界で14回勝ち続けて最後の一回で負けただけなのに「ヤツは弱いぜ！」「負け犬だ！」ってこうだ！　オレは二度と闘うのは辞めようって誓った。その時に妻は「日本で試合をしなさい」って言うんだよ。これは日本に来る1年前のことだったんだよ。彼女にはなにか霊感みたいなものがあるかもしれないけど、その時は全然気にもしなかった。だけど、その1年後にフナキやスズキが来て日本で試合をしないかって言われて日本に来たら成功をつかんだよ（笑）。この時に気付いたのはオランダやアメリカのファンと日本のファンの違いさ。オランダやアメリカでは勝った人間しか尊敬しない。日本のファンっていうのは試合で強いハートを見せたら、それを評価してくれる。勝ち負けに関係なく拍手を送ってくれる。そういった意味で日本のファンっていうのは世界で一番だと思ってるよ（笑）。ところでお前は一時間も話をしてるのに全然飲んでないじゃねぇか。飲め！　カンパ〜イ（笑）。

──あ!?　乾〜杯！

（ここでルッテン宛のファックスが届けられる）

バス　見ろよ。オレとサクラバの試合を組みたいってオファーが来たよ。どこの組織かは言えないけどね（笑）。

──その試合はぜひ見たいですよ！

バス　そうだろ！　ヤツは本当にイイ人間だし、大好きだ。だけど、こうなったらどちらが強いか知りたいよ、オレだって。その結果オレが勝ってもサクラバが勝っても試合後はビールを飲んで乾杯したいね（笑）。本当にサクラバはグッドファイターさ。俺、結構酔っぱらってるよ。サクラバはイイ奴だよ〜、ナイスガ〜イだ。だけど、闘うとなれば闘うんだよ。ゲームだからねぇ。イッツ・オンリーゲーム（笑）。誰が一番強いかなんか面白くねぇよ。誰が一番ハンサムかっていうならそれはオレだよ（笑）ガハハハハ！

──そういえばＵＦＣではモースト・ハンサム・ガイって呼ばれてるんですよね（笑）。

バス　わかってるじゃねぇか（笑）。なんかオレなんにも見えねぇよ、もう。このインタビューはトップページにしろよ。ガハハハハ！

──ベストを尽くします（笑）。

バス　そうだろ。俺はベスト・ルッキング！　だろ？　トップに載せなかったらぶっ飛ばす！　俺はファイターだ！　俺は男だ！　俺がボスだ！　ピアノも弾ける！　遊びにいこう。腹減ったァ〜！

──わかりました。喜んでお供します（笑）。

【99年7月11日沖縄パシフィックホテルにて】

ジャイ子、最後かもしれないので
好きなようにさせてもらいます!!
……………祝キティちゃん生誕25周年!!

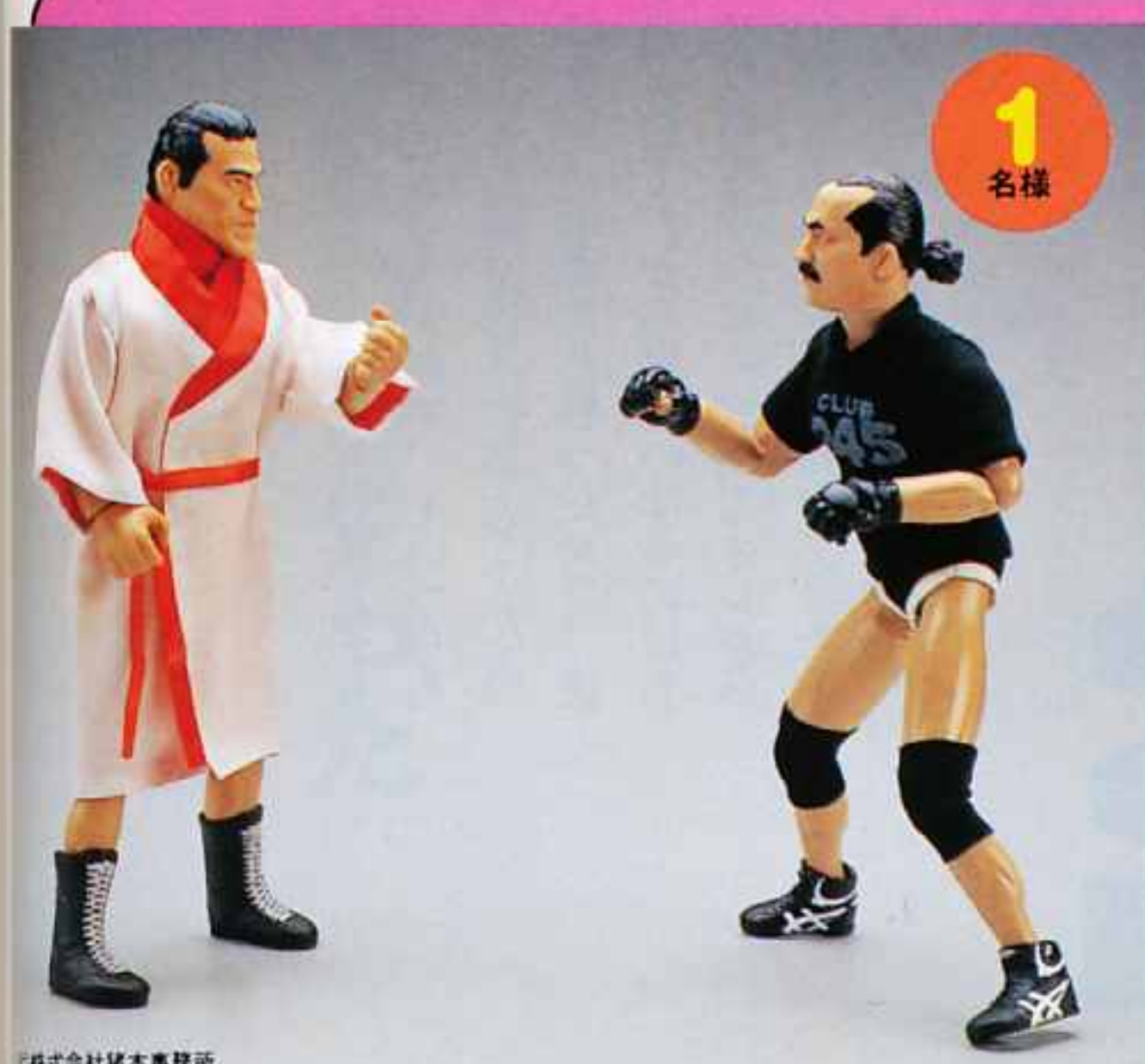
HELLO♥JAYJAY

大プレゼントコーナー

みなさ〜ん、お久しぶり。久しぶりなのでジャイ子ちょっぴり恥ずかしい♥ だから大好きなキティちゃんになってみましたぁ。かわいいでしょ? そうそう、2ヶ月お待たせしちゃったぶんプレゼントもドドーンと集めましたよ。その成果を4ページの豪華版でお見せしちゃうので、どうぞ堪能してくださ〜い。(ジャイ子)

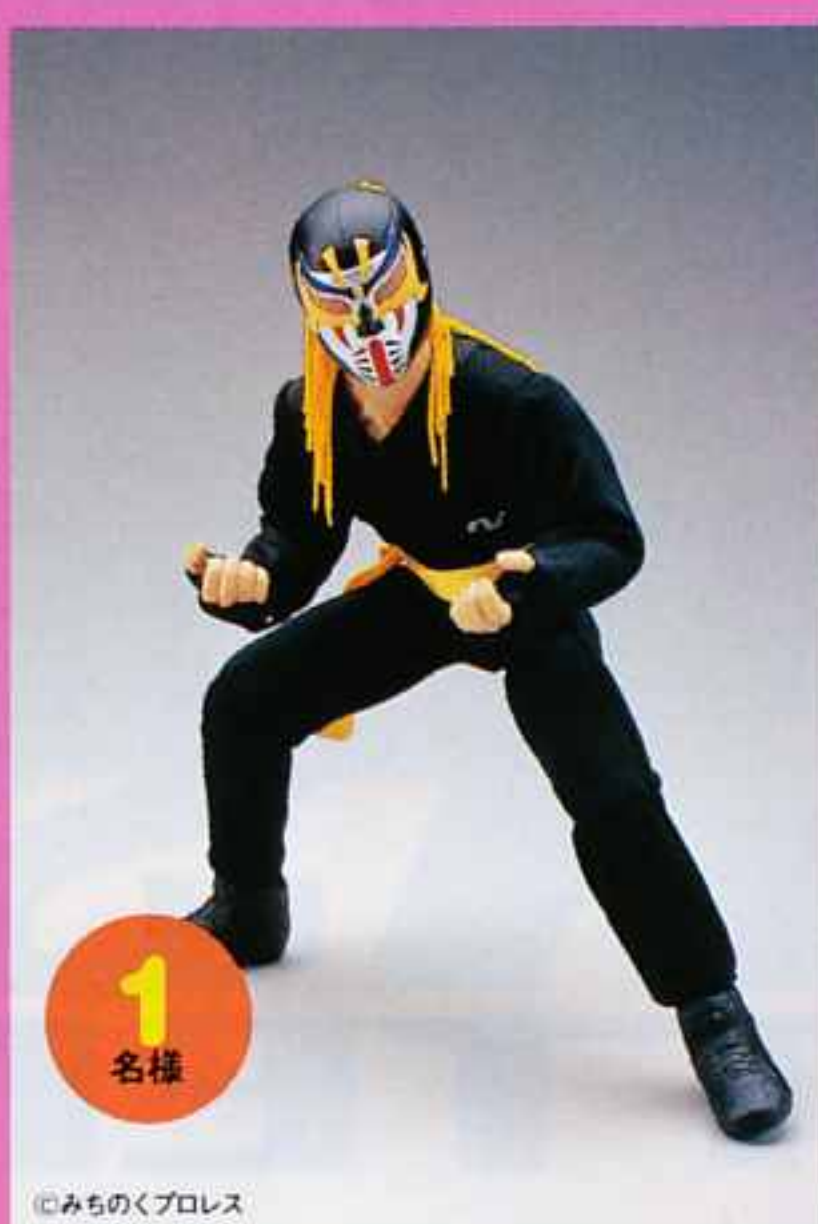
秋のフィギュア祭り

1名様

©株式会社猪木事務所

1998・4・4「引退試合」アントニオ猪木vsドン・フライフィギュア

「アントニオ猪木名勝負コレクション」の第1弾はドン・フライとのセット。ガウンの背中には、もちろん「闘魂」の文字、タオルだってついてま〜す。定価25000円。
【インスパイア提供】

1名様

©みちのくプロレス

サスケ・ザ・グレートフィギュア

サスケ社長のフィギュアが大好評(なんと、宇野薫選手からの応募も!)なインスパイアのプロレスフィギュアシリーズ第2弾! 100体限定で絶賛発売中! 定価12000円。
【インスパイア提供】

1名様

©フロンティア・マーシャルアーツ・レスリング株式会社

ハヤブサフィギュア

「さよならハヤブサ記念」として発売されたフィギュア。他にコスチュームが茶色バージョンもあります。定価12000円。インスパイアの商品は通販も受付中。ハヤブサフィギュアを通販で購入の人はハヤブサマスコット人形がもらえちゃうぞ。問合せ インスパイア☎03-5670-9283
【インスパイア提供】

1名様

アントニオ猪木フィギュア

高級感あふれるブロンズ色のアントンフィギュア。「ダァーッ!」のポーズも心なしか上品ですね。シリアルナンバー入りで4800円で絶賛発売中。問い合わせ ユニ・ファイブお客様相談センター☎0471-43-3621
【ユニ・ファイブ提供】

秋のおみやげ祭り

アレクサンダー大塚さんからのおみやげ

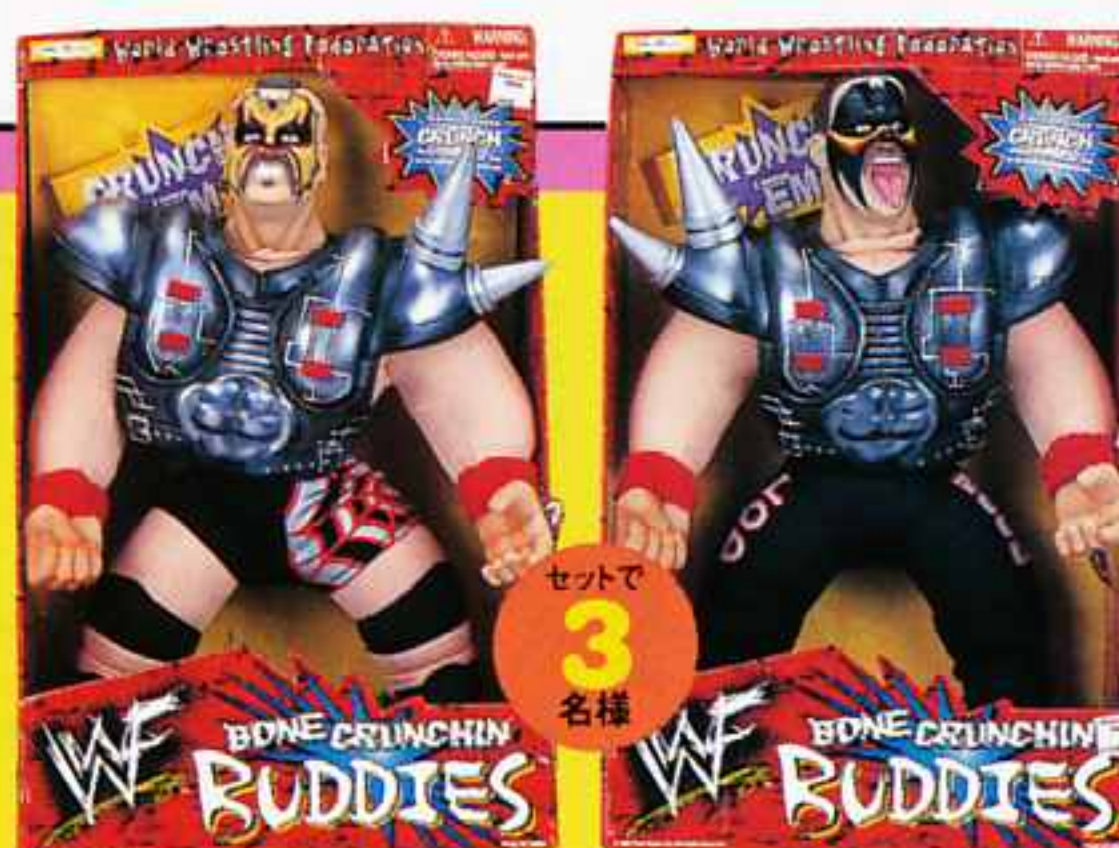
各1名様

アレクサンダー大塚単身赴任グッズ

アレクが武者修行中に実際に使っていた鍋、タッパー(スプーン、フォーク、ナイフ付き)、電熱器をメキシコの香りとともにプレゼント。んむはぁ〜。鍋とタッパーはサイン入りで〜す。
【アレクサンダー大塚選手提供】

各3名様

アレクTシャツ

これは、みやげじゃありませ〜ん。ダイエットブッチャーの新作(というほど新しくはないが)。赤い顔したこの人は誰なんでしょう? バックプリントもイカしてま〜す。
【ダイエットブッチャースリムスキン提供】

セットで3名様

ロード・ウォリアーズフィギュア

デカい! 目測1メートルぐらい(ちょっと大げさ)のフィギュアです。腕は布製なので、工夫次第で抱き枕にもなるかも。
【山口日昇提供】

3名様

UFC Tシャツ

TKも出場したUFC大会Tシャツは、日本じゃなかなか手に入りません。このチャンスにゲットだ!
【山口日昇提供】

山口NOBBYさんのシアトルみやげ

1名様

TKサイン入りUFCバックステージパス

先日のUFC大会のパスにTKがサインしてくれましたぁ。激レアどころの騒ぎじゃない! 家宝にしろ!
【カメラマン・モーリーの鞄より強奪】

セットで1名様

ダイエットドリンク&チリソース

なぜこのセットかはわかりませんが、読者のみなさんに差し上げたいそうです。どうぞ。
【山口日昇提供】

各1名様

アメプロ本いろいろ

これまた日本では入手困難と思われるアメリカのプロレス本をドドーンとプレゼント。どれがいくかはお楽しみ。
【山口日昇提供】

秋のUFO祭り

5名様

オーちゃんステッカー

前号で一番人気だったオーちゃんTシャツと同じデザインのステッカー。こちらもバカ売れ商品です。ジャイ子はチャリに貼ってま〜す。1000円。

【UFO提供】

3名様

Mr.ウォーリーTシャツ

ウォーリーのステキな笑顔が光る一品、グッズ売り上げマット界1位(?)を誇るUFOの超人気アイテムで〜す。3500円。

【UFO提供】

3名様

UFO　Tシャツ

デジタルウォーリー(なんだ、ソレ?)が背中に輝いてま〜す。オシャレさんは後ろ姿にも気を使わないとね。3500円。UFOグッズはチャンピオン、ワールドスポーツプラザで絶賛発売中で〜す。

【UFO提供】

秋のPRIDE祭り

3名様

『PRIDE.6』パンフ

表紙もグッドなプライドパンフは、山口日昇も原稿書いてます。ちなみにギャラはキャバクラ招待でした(マジで)。

【ドリームステージエンターテイメント提供】

3名様

ゲーリー・グッドリッジTシャツ

映画「キラー・コンドーム」のポスターでお馴染み、本人もジャッキー&ザ・セドリックスというバンドで活躍中のロッキン・ジェリー・ビーン氏が手がけたTシャツ。大人気商品です。

【ドリームステージエンターテイメント提供】

3名様

桜庭応援ハチマキ

桜庭カラーのオレンジがイカスね!　これを巻いて「PRIDE.7」に行きましょう!

【ドリームステージエンターテイメント提供】

3名様

マーク・ケアーTシャツ

これを着てれば彼女(or彼氏)と「ケアー座ってあるのかなぁ?」なんてロマンチックな話が盛り上がっちゃうかも?　PRIDE　Tシャツ(各3500円)はワールドスポーツプラザで絶賛発売中です。

【ドリームステージエンターテイメント提供】

【通販受付中!!】
問合せはドリームステージ☎03-3552-6300

秋のエンセン祭り

各1名様

PUREBREDキャップ、大和魂キャップ

ちょっぴりシックな秋の装いにピッタリなキャップですね。オトナなあなたに。各3500円

【イーフォース・ジャパン提供】

3名様

修斗クンピンズ

みんなのアイドル、修斗クンがこんな小っちゃいピンズになっちゃいましたぁ。小っちゃいのに迫力満点ですね。500円

【イーフォース・ジャパン提供】

各1名様

イーフォース新作Tシャツ

上から野蛮人Tシャツ、イーゲンTシャツ、イーゲン"男になりたい"Tシャツ、桑原卓也Tシャツ。野蛮人Tシャツ、カーロス・ニュートンTシャツは3500円、他は各4000円で発売中! どれにする?

【イーフォース・ジャパン提供】

各1名様

USA修斗Tシャツ、ブルース・リーIUMA Tシャツ、ジークンドーTシャツ

大宮ジム所属選手以外のグッズも新たに販売開始。こちらは各4000円。イーフォース・ジャパン提供のグッズは通販も受付中で〜す。問合せは☎0473-78-6400イーフォース・ジャパンまで。

【イーフォース・ジャパン提供】

秋のTシャツ祭り

バンバンビガロ新作Tシャツ

ビガロの新作はBABAとマスカラスだ！　2種類とも白、黒、赤、紺、チャコールグレー、ベージュが揃ってます。今回は写真のブツをプレゼント。女子用のSサイズで～す。通販の問合せは☎03-3480-1145、ホームページアドレスはhttp://www.bambam88.comで～す。

【バンバンビガロ提供】

HAOMING新作Tシャツ

寝技Tシャツはよく見ると途中からHなイラストに……。ムフフ。ラメラメマスクマンTシャツは、ちょっぴりギャルチック？　流血Tシャツは、血の部分が発泡プリントになってま～す。各3400円でチャンピオン東京店、渋谷クアトロのブレーンバスターで発売中。

【HAOMING提供】

ヤマケンTシャツ、POWER OF DREAM Tシャツ

パワー・オブ・ドリームでは内弟子を絶賛募集中。資格は中卒以上、健康体であることです。お問合せはパワーオブドリーム☎03-5734-5354まで。ホームページもありま～す。アドレスはhttp://www.powerofdream.com/で～す。

【山本喧一選手提供】

インチキ 大和魂Tシャツ

タノムサク選手のタイみやげで～す。レモンイエローと白の2色、好きなほうを書いてね。

【タノムサク鳥羽選手提供】

大女魂Tシャツ

「おおおんな」ではなく、大日本女子の「だいじょ」と読みます。ジャイ子、間違えて着てしまいましたぁ。ほかに白地に赤字、黒字もありま～す。

【大日本プロレス提供】

ダイナマイトキッドTシャツ、マスクド・スーパースターTシャツ

毎回好評なノーザンライトから新作登場！　現在山下義也Tシャツ制作予定中との情報もあるので義也ファンは首を長くして待て！　こちらは各3800円で発売中。通販の受付はホームページhttp://www.ask.ne.jp/~nort/nwa.htm　または☎0422-20-9567ノーザンライトまで。

【ノーザンライト提供】

パンクラス&スタークラブTシャツ

こちらのTシャツは、美濃輪選手も大ファンのパンクバンド、スタークラブとのダブルネーム。パンクスもパンクラス（ファン）も着るっきゃないね。こちらは定価3500円で通販も受付中。問い合せは☎03-3372-5195クラブ・ザ・スターまで。

【クラブ・ザ・スター提供】

リングパレスTシャツ

モデル・リングパレス日野店長

札幌のプロレスショップと言えばリングパレス。そのリングパレスオリジナルTシャツ&FUCKIN"リングパレスTシャツです。もちろんリングパレスでも販売中。問合せリングパレス☎011-261-5580

【リングパレス提供】

秋の覆面一家祭り

TSUTAYAキャンペーングッズ

TSUTAYAのキャンペーングッズをどっさりもらっちゃいましたぁ。左からポップ、フラッグ、バッジ、顔ポスター、家族ポスター、のぼりで～す。希望商品を書いてね。

【TSUTAYA提供】

【TSUTAYAホームページ】　http://www.tsutaya.co.jp

応募要項

みなさぁ～ん、今回はボリューム満点だったでしょ。よぉ～く考えて、欲しい商品をひとつだけ選んだら、ハガキに右の要領で記入の上、送ってくださ～い。あと、読者プレゼントで「こんなのが欲しい!」っていうのがあったら(「現金」とか、つまんないことはくれぐれも書かないように)ハガキに書いて下さい。検討はします。締切は9月30日(当日消印有効)で～す。

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名　❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼『PRIDE.0』(P50～)の勝者は誰?
❽トイレの大西(仮)VSジャイ子の(P153～)の勝者は?(例 60-65でジャイ子の勝ち)
❾❽の対戦の感想

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「普段からモノマネしろ」係 まで

秋のビデオ祭り

2名様

アントニオ猪木30周年メモリアル
闘魂・猪木vs 国際軍団
(復刻版)
猪木vs国際軍団・大将のラッシャー木村戦が2戦と猪木vs木村&アニマル浜口&寺西勇の変則マッチが収録されてま～す。
【東芝EMI提供】

2名様

アントニオ猪木30周年メモリアル
猪木vsストロング小林&クリス・マルコフ(復刻版)
NWF世界ヘビー級選手権試合を2試合収録。昭和49年のvsS・小林戦、昭和53年のクリス・マルコフ戦は日本プロレスワールド大リーグ戦決勝以来の因縁の対決だ!
【東芝EMI提供】

2名様

CHONO in BLACK ～黒の伝説～
90年から99年までの蝶野正洋を一挙に見れちゃうステキなビデオ。貴重なバックステージの場面も収録の蝶野づくしで～す。
【東芝EMI提供】

2名様

アントニオ猪木30周年メモリアル
異種格闘技三強撃破
(復刻版)
柔道のルスカ、ボクシングのミルデンバーガー、空手のクロケイド、との異種格闘技戦3戦を収録。昭和51年～54年の試合です。
【東芝EMI提供】

2名様

アントニオ猪木30周年メモリアル
第1回ワールド大リーグ三つ巴決勝戦(復刻版)
"青銅の爪"キラー・カール・クラップ、"世界の荒鷲"坂口征二、"燃える闘魂"アントニオ猪木が世界一の座を賭けて三つ巴で激突! 昭和49年の試合です。25年前か。なんかスゴいなぁ。
【東芝EMI提供】

セットで3名様

Best of The Super Jr PART1&2
毎年恒例の『Best of The Super Jr.』の名勝負を早くもビデオ化。ジュニアの熱い戦いを堪能せよ!
【VALiS提供】

2名様

ワールド・プロレスリング ザ・ゴールデンアワー
『ワールド・プロレスリング』から昭和57年の2大会を完全収録。タイガーマスクvsD・キッド、藤原喜明vsカール・ゴッチ、アントニオ猪木vsA・ブッチャーなど、豪華カードが目白押し!
【東芝EMI提供】

3名様

ダイヤモンド・ダラス・ペイジ FEEL THE BANG!
大好評のWCWオフィシャルビデオ。今回はダイヤモンド・ダラス・ペイジ特集。ちなみにこの人は、もとリング屋さんだそうです。パンチ、チャンス!?
【VALiS提供】

秋のプロレスグッズ祭り

1名様

DDTシルバーリング
巨乳マネージャー、ナオミ・スーザンも愛用のDDT特製リング。こちらは定価8800円のところ、DDTの会場では7040円で買えちゃいます。普段はTOKYO BAYららぽーと本館2 F「フレンチ」にて発売中。問合せは☎047-434-0202フレンチまで。
【DDT提供】

各1名様

キャプチャー携帯ストラップ
キャプチャーが携帯ストラップ界(?)に殴り込み! ラブリーなピンクとグリーンの2種類、完全限定品なので迷わずゲット! キャプチャーではジム生も絶賛募集中。問合せは☎044-9559-3333キャプチャーまで。
【キャプチャー提供】

1名様

ダイエットブッチャー・スプーン
こんなラブリーなグッズが登場。鞄にブラ下げておけば、お箸を落としたときも安心。まさに一石二鳥グッズで～す。
【ダイエットブッチャースリムスキン提供】

2名様

白鳥智香子パンフレット
令嬢グッズの新作。オールカラ16ページ。白鳥智香子ヒストリー、占いコーナーなどステキなページ満載。最後のページのチュー顔でドキドキしてくださ～い。通販も受付中、お問合せは白鳥智香子オフィス☎03-3207-0166まで。
【白鳥智香子オフィス提供】

1名様

リングスCD
前田日明プロデュース! の、リングス公認入場テーマ曲集です。『CAPTURED』はもちろん、カレリンのテーマまで入ってる豪華版。
【リングス提供】

10名様

掣圏道パンフレット
会場に行った人しか貰えない7月30日の札幌大会のパンフで押忍(敬礼)!
【掣圏道提供】

5組10名様

新日本プロレス 武道館大会チケット
9・23日本武道館の『第一回G1タッグ・トーナメント決勝戦』のチケットです。これ書いてる時点ではカードは未定ですが、豪華カードになること間違いナシ! 問合せは新日本プロモーション☎03-3408-3111、ホームページアドレスはhttp://www.shinnichi-pro.co.jp
【新日本プロモーション提供】

100名様

ワールドジム東京　1日トレーニング利用券
暑さでダレダレの諸君、たまには運動しましょう。「ジム行ってもなにしていいかわかんな～い」って人も、ここにはステキなトレーナーさんがマンツーマンで、手取り足取り教えてくれる「パーソナルトレーナーシステム」があるからダイジョウV! あと、内緒だけどこのジムはプロレスラーもいっぱい来てるんだよ。憧れのあの選手とお近づきになれるチャンスかも。グフフ。
【ワールドジム東京提供】

ジャイジャイショッピング

ANDRE THE GIANT
Height:7ft,4in
Weight:497pound
Hometown:Grenoble,France
Bestmove:The bodyslam
Titlesheld:None

みなさ～ん、ジャイ子、ステキなTシャツを裏ルートで仕入れてきましたぁ。人間山脈Tシャツで～す。カッコいいでしょ? ウエスト部分にはアンドレのプロフィールが入ってます。オシャレでしょ? これを半袖2000円、長袖2500円とお手頃価格で大放出! 欲しいでしょ? サイズはS・M・Lで～す。買うでしょ? お買い上げのかたには、オマケもつけちゃうかも!

【販売方法】
Tシャツ料金+送料500円(何枚でも)と、アナタの住所、氏名、年令、電話番号、希望 商品とサイズを書いたメモを一緒に現金書留で送ってね。待ってま～す。

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
「ジャイジャイショッピング」係

紙のプロレス RADICAL
No.20
1999年9月25日発行
STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
坂井ノブ
松澤チョロ
トイレの大西サン
八木賢太郎（全国ツアーのため非番）

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
堀江かるがも
恒遠バカツネ
中村愚乱
青柳スコラ氏
阿部哲也
金田謙太郎
村田英之

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツ
村松さん（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上早乙女の事務所）

アシスタント
セッキー＆グッチー（TwoThree）

出前
出前持ち入江（TwoThree）

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
戸成ぶつぞう
大森大祐
黒田史夫
愛甲タケシ
森田友美

試合写真
平工幸雄
長尾迪
H.SANO
スペル・テポドン2号

お勘定
林ヘックション一枝

面倒臭いから今回は肩書きナシ!!
中村カタブツ君（36歳）

フィニッシュ
ツー・スリー／早乙女の事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

レーズン
ジャイ子

発売元
株式会社ワニマガジン社
〒160-0014　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）

発行元
株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）

オイ、ホントかよ!?
No.21は10月中旬～下旬発売予定!! あとは各自調査!!
※地域によっては3～4日発売日が異なります

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK 115 1999 No.20
宇多田ヒカルとプロレスのどっちを取るんだ!

平成11年9月25日発行 編集発行人/山口日昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体838円+税

雑誌 69862-15
©DOUBLECROSS 1999 Printed in Japan
印刷:図書印刷株式会社
ISBN4-89829-569-X
C9476 ¥838E
9784898295694
1929476008381

TELEPHONE NUMBER LIST

全日本プロレス	03-3403-7344
新日本プロレス	03-3405-3111
FMW	03-5496-0671
リングス	03-3461-0257
WAR	03-5477-0461
みちのくプロレス	019-626-1333
SPWF	03-3814-6371
パンクラス	03-5792-0815
IWAジャパン	03-3552-3366
大日本プロレス	045-937-0811
バトラーツ	0489-63-0005
DDT	03-3356-8493
キャプチャー	044-959-3333
つぼプロモーション	03-3498-4710
華☆激	092-522-1901
喧嘩プロレス二瓶組	044-244-8942
掣圏道	03-5456-7333
ダイプロデュース（大仁田興行）	03-5496-4900
UFC広報事務局（UFCJ）	03-3583-6157
ドリームステージエンターテインメント（PRIDE）	03-3552-6300
K-1事務局	03-3796-2977
全日本女子プロレス	03-3493-6541
JWP	03-3839-4161
LLPW	03-3495-7926
GAEA JAPAN	03-3795-2555
Jd'	03-5561-0522
アルシオン	03-5666-8690
ネオ・レディース	03-3227-8144

こいつらヤバすぎるっ!!

オランダジン・パワーズ

Ricardo Fyeet

リカルド・フィエート■'76年9月24日・スリナム出身 185cm 90kg
8・19リングス横浜大会で初上陸した“黒い野獣”リカルド・フィエート。フィニッシュはあっさりだったが、そのショッキングなビジュアルと、見た目以上に獰猛な野蛮系の闘いっぷりで観客の心を鷲掴みにしてしまった。トゲ付きリストバンドがこんなに似合う男を見たこともないし、こんな奇抜な髪形を出来る男は他にいないだろう。しかも、目は完全に“イっちゃって”いる。この格闘王国オランダの最終兵器の素顔に迫る緊迫のインタビューとド迫力の撮りおろし写真はたっぷりと次号で掲載するので、心して待て!

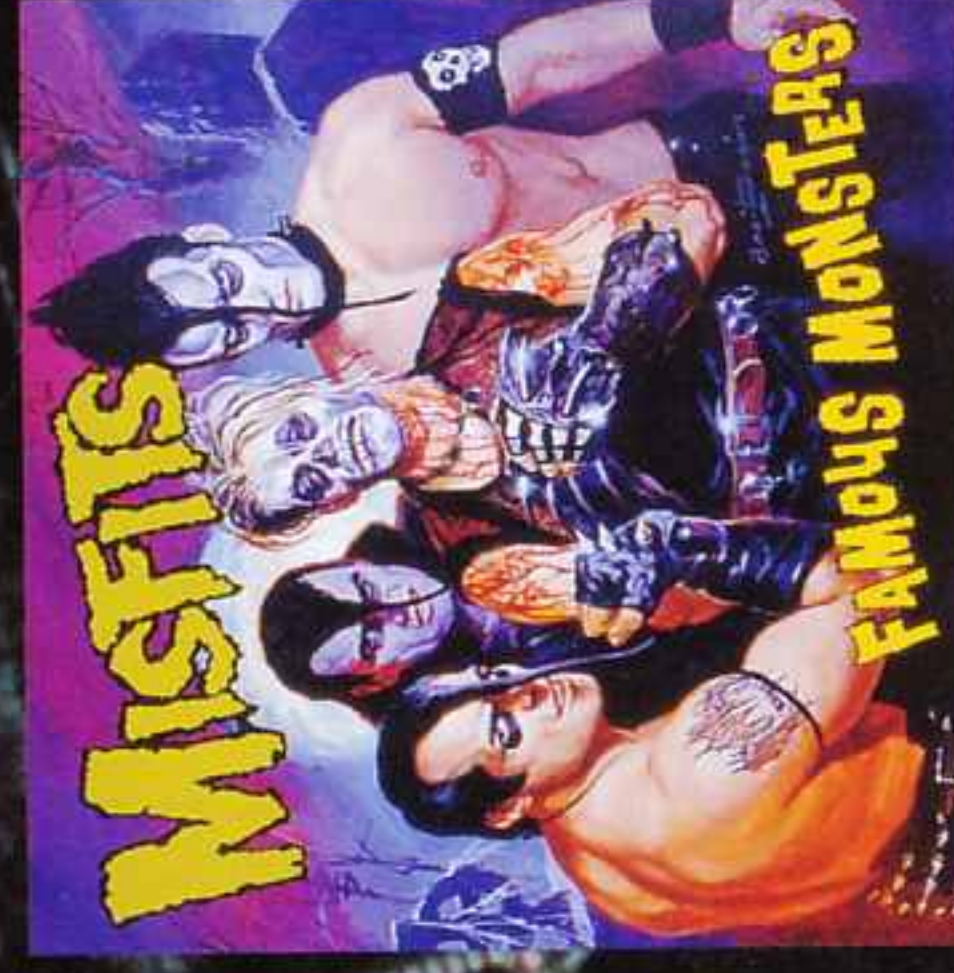
Gilbert Yvel

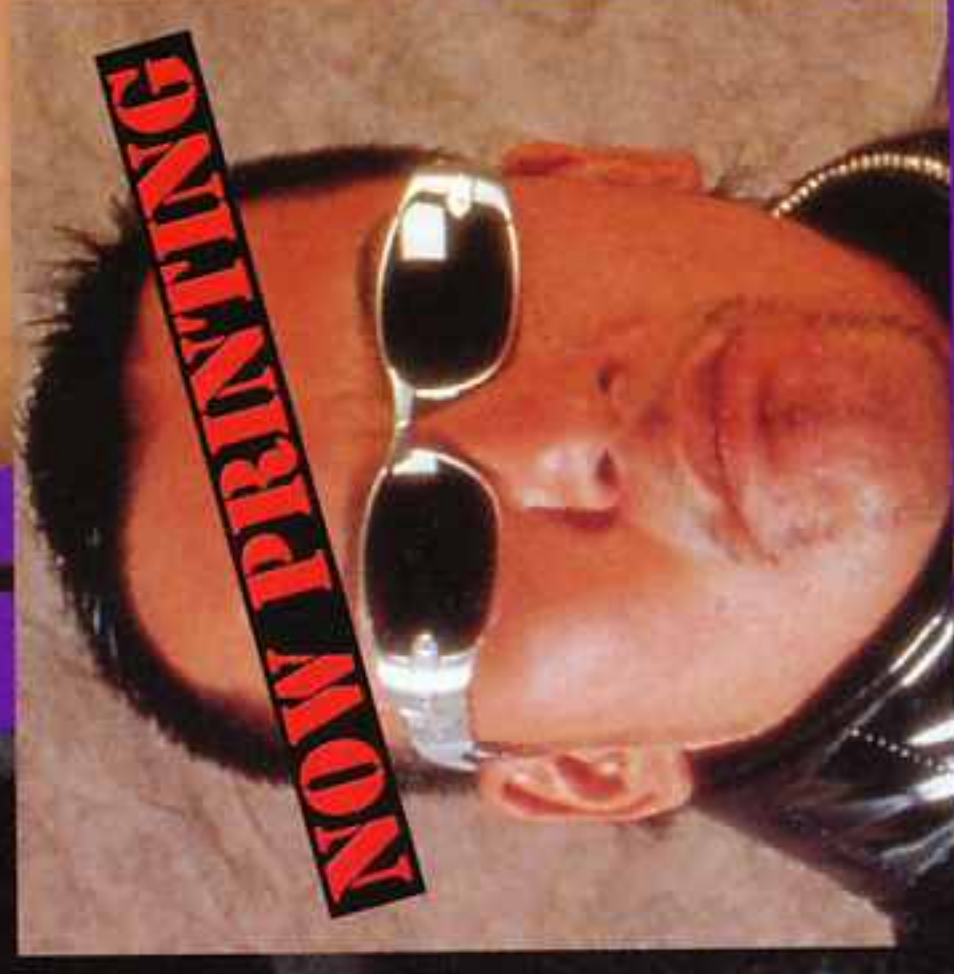
ギルバート・アイブル■'76年6月30日・オランダ出身 187cm 94kg
リングス参戦6戦目にして高阪TK剛を破る大金星を挙げたオランダの“暗黒の暴風雨”。6月にはパンクラスの最強外国人セーム・シュルトをパンチの連打でKOしたり、先日のリングス横浜大会ではTKもろとも場外に転落するなど、何をしでかすかわからない危険さがアイブルにはある。この快楽王国オランダ産トンパチのインタビューを次号で掲載します! 危険な舌(ピアス付き)から飛び出す衝撃発言に震えて眠れ!!

リングス・オランダの黒い猛威が次号で本誌を襲撃!! 予告編ポートレート

AKIRA VS MISFITS

ムーヴィースターとモンスターが一夜限りのドリーム・タッグを結成!!

8月7日、チャーリー・マンソンなるビジュアル系ルチャドールの元ネタとしても一部で知られるマリリン・マンソンをメインアクトとするBEAUTIFUL MONSTERS TOURが、富士急ハイランドで開催された。そこに東芝EMIから自身の選曲によるHARD&HEAVYなオムニバス盤をリリースすることとなった蝶野が「アイム・チョーノ!」とばかりに登場し、ロイヤルハントに続いてメガデスとの共演を果たしたことについては、すでに『週プロ』や『週ゴン』でも報じられた通りである。プロレスとヘヴィメタルという停滞しつつあるジャンルを底上げしようと努力を続ける両者の共演はある意味、必然でもあったのだろう。そしてこの日のバックステージで、白塗りホラーパンク集団のミスフィッツと白塗りムービースターのAKIRAがこうして出会ったのも、やはり必然だったとしか思えないのだ!ジェリー・オンリー(ミスフィッツ)がやたら強そうなのも御愛嬌。ビジュアル的には完璧というしかないタッグチームが、こうして誕生したわけである。こんなボクの妄想を現実化させてくれた『ミスMAP天国』のジャッジとしてもお馴染み東芝EMIの木目さん、ロードランナー・ジャパンの杉本さん、そして『BURST』でも御世話になった菊池茂夫さんに感謝!　当日、福島古本ツアーのため現場に立ち会えなかったことを心から後悔する次第なのである。押忍!(吉田豪)

MISFITS/FAMOUS MONSTERS
(ROADRUNNNER JAPAN)
NOW ON SALE

NOW PRINTING

V.A./THIS IS CHONO METAL
(TOSHIBA EMI)
10/27 ON SALE

WORLD WIDE VISUAL FIGHTER TAG CHAMPION

PHOTO:Shigeo"JONES"Kikuchi

AKIRA

AL CALENDAR

育館(18:30)
0)
ーストラリア記念館(18:30)

浜松(13:00)
ァロス福岡(13:00)
(15:00)
館(15:00)
ャ名古屋(17:00)

18:30)
(18:30)

体育館(00:00)
体育センター(18:30)

ホール(19:00)
ポーツセンター(18:30)
館(18:30)
袋コミュニティ・カレッジ(18:30)
ミュニティ・カレッジ　03-3988-9281

ーホール(15:00)
5:00)
育館サブアリーナ(15:00)
総合体育館(15:00)★
館1号館西(15:00)
戦　東京・ニューシティーコート国立ホール(11:30)

ぬまづ(19:30)

休暇センター(18:30)★
8:30)
野店南側駐車場(18:30)

館(18:00)★

ル(12:00)
チッタ川崎(18:30)
体育センター(14:00)
ラブチッタ川崎(13:00)♥

育館サブアリーナ(18:30)

スポーツセンター・サブアリーナ(18:30)

体育館(18:30)
(18:30)
悼興行■東京・大田区体育館(18:00)

中西百重&高橋奈苗[挑戦者]

ー(18:30)♠

10 October

1 FRI.
JWP■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)

2 SAT.
UFCジャパン■千葉・東京ベイNKホール(17:00)★
[出場選手]安生洋二、山宮恵一郎、高瀬大樹、矢野倍達
アルシオン■岐阜・岐阜産業館(18:30)
掣圏道■東京・有明コロシアム(18:30)★

3 SUN.
アルシオン■大阪・IMPホール(15:00)
大日本■神奈川・新川崎小倉陸橋下広場(14:00)◎
K-1■大阪ドーム(13:00)

5 TUE.
JWP■群馬・高崎市中央体育館(18:30)

6 WED.
修斗■東京・北沢タウンホール(18:30)
【問合せ】イーフォース・ジャパン047-378-6400

8 FRI.
バトラーツ■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)

9 SAT.
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP■山形・尾花沢市体育館(18:30)

10 SUN.
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)

11 MON.
JWP■秋田・秋田県立体育館(13:00)

16 SAT.
全日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)

17 SUN.
JWP■東京・後楽園ホール(12:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく&バトラーツ合同興行■神奈川・横浜文化体育館(15:00)★
石川雄規&ザ・グレート・サスケ vs 新崎人生&アレクサンダー大塚他
新日本■兵庫・神戸ワールド記念ホール(16:00)

19 TUE.
アルシオン■東京・後楽園ホール(19:00)
JWP■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)

25 MON.
パンクラス■東京・後楽園ホール(19:00)

26 TUE.
FMW■大阪・なみはやドーム(18:30)

28 THU.
リングス■東京・国立代々木第2体育館(19:00)

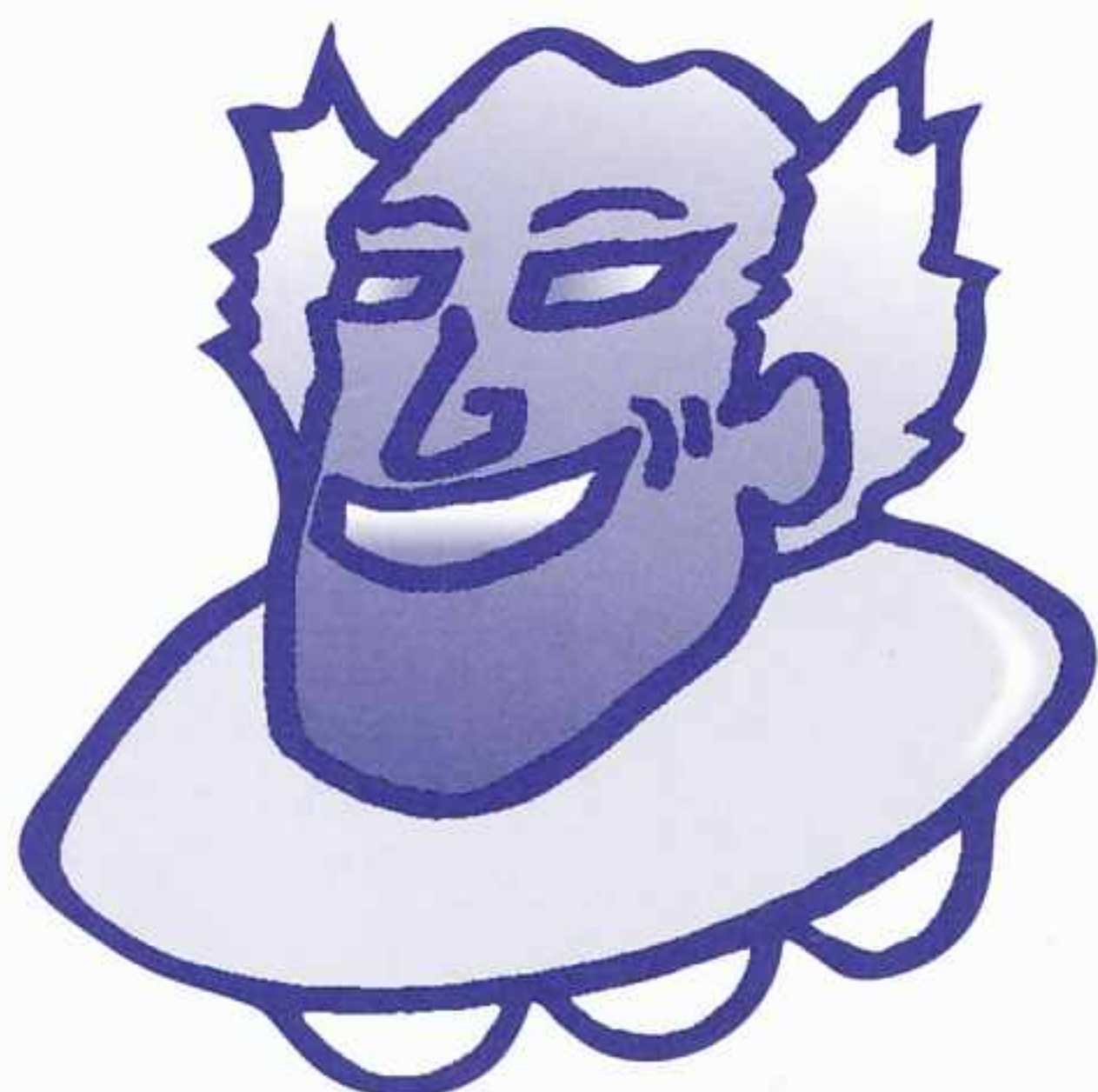
29 FRI.
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
修斗■大阪・なみはやドームサブアリーナ(18:00)♂🌀
【問合せ】修斗大阪事務所06-6233-8890
▲佐藤ルミナ復帰戦他

30 SAT.
JWP■静岡・清水市営体育館(18:30)

『紙プロ』編集部
おススメ興行

★山口日昇
◎坂井ノブ
♠松澤チョロ
♂中村カタブツ君(36歳)
🌀トイレの大西さん
♥ジャイ子

RADICAL CA

9 September

●はイベント情報です。

7 TUE.

WAR■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本女子■神奈川・小田原アリーナ(サブ)(18:30)
大日本■愛媛・今治市公会堂(18:30)
●青空プロレス道場　東京・池袋コミュニティ・カレッジ(18:30)
ゲスト・井上京子&井上貴子【問合せ】池袋コミュニティ・カレッジ　03-3988-9281

8 WED.

SPWF■茨城・神栖町民体育館(18:00)
バトラーツ■神奈川・大磯プリンスホテル別館滄浪閣(18:30)

10 FRI.

全日本女子■埼玉・川口市健康ランド武蔵野駐車場(18:30)
JWP■福島市団体記念体育館サブアリーナ(18:30)
新日本■埼玉・大宮市体育館(18:30)

11 SAT.

アルシオン■長崎・nccスタジオ(18:30)
JWP■福島・サンシャイン浪江(18:30)
Jd'■京都・福知山三段池公園総合体育館(18:30)
みちのく■岩手・大迫町カントリープラザ(18:30)
華☆激■福岡・北九州市小倉井筒屋新館9階パステルホール(18:00)

12 SUN.

アルシオン■福岡・アクロス福岡(13:00)
Jd'■京都・KBSホール(16:00)
新日本■静岡・浜松市体育館(15:00)
『PRIDE.7』■神奈川・横浜アリーナ(17:00)★
高田延彦 vs アレクサンダー大塚　エンセン井上 vs トゥーリー・クリハーバイ
ブランコ・シカティック vs モーリス・スミス　松井大二郎v s ボブ・シュライバー他
みちのく■青森・弘前市土手町カルチャーロード特設リング(13:00)

13 MON.

アルシオン■宮崎・都城市体育館(18:30)
新日本■新潟市体育館(18:30)

14 TUE.

アルシオン■福岡・小倉北体育館(18:30)
新日本■新潟・リージョンプラザ上越(18:30)
みちのく■山形・酒田市営体育館(18:30)

15 WED.

アルシオン■山口・海峡メッセ下関(14:00)
ネオ・レディース■愛知・名古屋市国際会議場(16:00)
全日本女子■東京・後楽園ホール(12:00)
新日本■神奈川・川崎市体育館(15:00)
JWP■ 茨城・日立市池の川中央体育館(18:30)
GAEA JAPAN■神奈川・横浜文化体育館(15:00)
▲長与千種 vs ライオネス飛鳥他
リングス■東京・後楽園ホール(19:00)★
▲山本宜久 vs V・オーフレイム他
みちのく■宮城・名取市民体育館(15:00)

16 THU.

新日本■宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)
みちのく■岩手・雫石町営体育館(18:30)
FMW■福井・福井市体育館(18:30)

17 FRI.

みちのく■山形・新庄市体育館(18:30)
FMW■埼玉・熊谷市民体育館(18:30)

18 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
パンクラス■千葉・東京ベイNKホール(18:00)★
新日本■愛知・愛知県体育館(18:30)
みちのく■青森・十和田市民体育館(18:30)
FMW■ツインメッセ静岡(18:00)
大仁田興行■三重・四日市オーストラリア記念館(18:30)

19 SUN.

アルシオン■静岡・アクトシティ浜松(13:00)
つぼプロモーション■福岡・アクロス福岡(13:00)
新日本■大阪・なみはやドーム(15:00)
みちのく■福島・楢葉町民体育館(15:00)
大仁田興行■愛知・ポートメッセ名古屋(17:00)

20 MON.

新日本■長野・上田市体育館(18:30)
FMW■新潟・長岡市厚生会館(18:30)

21 TUE.

掣圏道■福島・福島国体記念体育館(00:00)
みちのく■秋田・比内町勤労者体育センター(18:30)

22 WED.

GAEA JAPAN■東京・後楽園ホール(19:00)
新日本■群馬・群馬県総合スポーツセンター(18:30)
みちのく■宮城・松山町民体育館(18:30)
●青空プロレス道場　東京・池袋コミュニティ・カレッジ(18:30)
ゲスト・大物【問合せ】池袋コミュニティ・カレッジ　03-3988-9281

23 THU.

アルシオン■兵庫・神戸サンボーホール(15:00)
新日本■東京・日本武道館(15:00)
バトラーツ■青森・青森県民体育館サブアリーナ(15:00)
みちのく■福島・二本松市城山総合体育館(15:00)★
FMW■石川・石川県産業展示館1号館西(15:00)
T.A.M.A■格闘技サミット交流戦　東京・ニューシティーコート国立ホール(11:3
【問合せ】042-572-6795
キャプチャー■静岡・キラメッセぬまづ(19:30)

24 FRI.

掣圏道■山形・山形厚生年金休暇センター(18:30)★
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本女子■三重・ジャスコ菰野店南側駐車場(18:30)

25 SAT.

バトラーツ■宮城・若柳町公民館(18:00)★

26 SUN.

アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)
ネオレディース■神奈川・クラブチッタ川崎(18:30)
バトラーツ■宮城・白石勤労者体育センター(14:00)
二瓶組・旗揚げ戦■神奈川・クラブチッタ川崎(13:00)♥

27 MON.

バトラーツ■秋田・秋田市立体育館サブアリーナ(18:30)

28 TUE.

バトラーツ■山形・山形市総合スポーツセンター・サブアリーナ(18:30)

29 WED.

アルシオン■千葉・千葉公園体育館(18:30)
JWP■岐阜・恵那市民体育館(18:30)
全日本女子・ジャッキー佐藤追悼興行■東京・大田区体育館(18:00)
▲WWWA世界タッグ選手権試合
[王者]下田美馬&三田英津子 vs 中西百重&高橋奈苗[挑戦者]

30 THU.

DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)♠